

東京—福岡—京城—大連—天津の二四三
一軒及びこの京城より分れ奉天—新京の
二三〇六軒、福岡—那覇—臺北の一六一
〇軒、東京—富山—大阪の七二三軒、東
京—新潟の三八〇軒、東京—札幌の九四
〇軒、大阪—高知の三〇五軒、大阪—松
江の三九〇軒、及び臺灣島内線なる臺北
—臺中—臺南—屏東—臺東—花蓮港—宜
蘭—臺北の七六五軒の九線、日本航空輸
送研究所の經營に係るものは大阪—抄山
—別府の四二〇軒、大阪—南紀白濱の一
二〇軒の二線、東京航空株式會社のもの
は東京—下田の一五〇軒、日本海航空會
社のものは城崎—大阪の二四〇軒。以上
を現狀とす。飛行場として東京・名古屋
・大阪・廣島・福岡第一・同第二・岡山・
大邱・京城・新義州・大連・新潟・富山・
松江・那覇・那覇—臺北—宜蘭の十八飛
行場あり、併し之等は未だ國際飛行場と
しての設備は完全ならず。昭和十年度の
旅客数は一、八七七人、貨物量は七五、
六四三担、飛行距離は二、〇三七、五〇
六軒なり。我國は地形的に變化多きまた
氣候的にも變化多きを以て航空の發達に
は恵まれず、併し大陸進出に伴ひ將來は
一層新業の發達を見るべし。(長)

つゝ、遠く三千年の永き傳統の下に歴史
的に作り出したるものにして、現在既に
世界列強と同一水準にまで達せり。かく
の如くに、我が産業も國土の自然の上に
立てるものなれば、國土の自然の特徵が
我が産業發達を特色付けるは自然と云
ふことを得。而してかくの如き自然の特
色を以て我が國土の地理的條件と稱すな
らば、我が産業の發達を特色付ける主
要な地理的條件としては凡そ次の諸項を
あぐることを得べし。(1)我が國土はア
シヤ大陸の東端に位し、三千四百萬の人口
を有する滿洲國に接し、四億の消費者を
有する支那に對し、獨特に社會主義機構
をもつソビエト聯邦に隣り、又太平洋
をへだて、遙かにアメリカ合衆國に相對
すること。(2)東北より西南にかけて延長
四七〇〇軒、緯度に於て二十九度以上に
わたり、熱帯より亞寒帯に至るまでの氣
候を有し、また國土が概れアツタのモン
グール即ち季節風帯のうちであり、植物
がよく繁茂し、且つ頗る多様な多様なこ
と。(3)國土の面積が頗る狭小なる上、國
土全面積の約四分の三は山地にて、兩
その山地が嶺谷、谷深、從つて廣大な
平原は全く存在せざること。(4)狭小な
國土には僅ゆる北勢山系と南勢山系とに
屬する諸山脈が連なり、刻々幾多の火
山帯も走り、全面的に山岳分布し、地殼
の變動が激しく、從つて地質構造・地形
は極めて複雑なること。(5)我が國土は大

陸四邊環海の島國にて、大陸より孤立し、
而も近海には水深二百米以内の淺海(陸
棚)が廣く分布し、あまつさへ寒暖の兩
海流あり、魚族の種類と數量とは極めて
豊富なること。以上の特色を持つ我國土
の自然の上に、これを直接的に利用する
農・林・牧・水産・工業等の諸産業が發
達し、更に其上に工・商業が發
達す。換言すれば、我が國土に廣く分布
する山脈・山地は約四億圓の木材・林野
産物の採出に資し、又七億圓以上の礦
産物の採掘に關與し、更に我が國土の平
野は各地方獨特の氣候とともに約三四億
圓の農産物を生産し、その上に約七億圓
の畜産業と約三億圓の畜産を可能なら
しめ、また豊かな魚族を持つ海岸は約五
億五千萬圓の漁獲物・水産製造物の生産
を擧ぐ。故に我が國土の自然はこれ等の
原料素材を國民に與へ、各地方に於ける
人々の生活發展の形態を規定する社會的
分業の自然的基礎となせるものと云ふべ
し。更に之等國内産の原料素材と輸入原
料との上に各種の工業が發達し、約百三
十億圓の生産をあげ、我が國土第一の産
業となり、生産額より見れば我が國はも
はや工業國と稱して羨望をなす。而して
これ等諸産業の生産物の配給によつてま
た商業が發達す。(農業)我が國は建國
以來農業を主たる産業とし、今日も全人
口の四八%は農業に従事し、職業別人口
構成より見れば、我が國は今なほ純然た

る農業國なり。然るに我が國耕地面積は
頗る少く、内地約六萬方軒、朝鮮約四萬
五千方軒、臺灣八千三百方軒、樺太三百
二十方軒、合計約十一萬三千方軒に過ぎ
ず、耕地面積の各々の面積に對する割合
は内地一五・六%、朝鮮二〇・二%、臺
灣二三・一%、樺太〇・九%に過ぎず、
全國平均は一七・四%に當る。これを歐
米の主要工業國、例へばイギリスの二四
%、ドイツの四一%、フランスの三九%
イタリヤの四一%、米國の一八%に比較
すれば、我が國の耕地面積甚だ少し。而
も農家戸数は甚だ多く、内地約五百六十
萬、朝鮮約三百萬、臺灣約四十三萬、樺
太約一萬一千、合計九百十萬戸、農家一
戸當りの耕地面積は一・二ヘクタールに
當る。殊に内地の如きは農家一戸當り耕
地面積は一・〇七ヘクタールに過ぎず。
從つて耕地一方軒人口の如き一、一五四
人にて世界首位に當り、僅にこれに匹
敵するはイギリスの一、一〇四人のみ。
かくの如くに、我が國土の耕地面積の少
きは全く國土の山多き地理的條件に因る
ものにして、今日既に可耕地は殆ど開拓
し盡され、謂ゆる階段耕作は我が國土の
土地利用形態の特色をなす。内地に於け
る耕地面積の分布を見るに、耕地面積の
多きは北海道のほか新潟・茨城・千葉・
福島・鹿兒島等の諸縣とし、地面積に對
する耕地面積の多きは埼玉縣を第一とし
て關東の諸縣、東海地方・九州北部の

諸縣なり、また人口に對して耕地面積の
大なるは北海道・東北・北陸地方の諸縣
にして、その少きは近畿・關東・東海・
四國等の諸府縣なり。耕地面積が少きた
め、我が國農業經營の規模は頗る小にし
て、謂ゆる小農法を採用し、勞力を極めて
集約的に用ひ、從つて單位面積當りの收
穫高は頗る大なり。この點世界の最高水
準に位す。資性勤勉にして技術の優秀な
多數の農民は耕地を極度に利用せんがた
めに二毛作を廣く行ひ、又收穫高の最大
にして、且つ最も有利な米作に最も力を
注ぐため、耕地の五三%は田(約四割は
裏作可能)、畑は残り四七%に過ぎず、兩
して畑に對して田の多きは日本海方面及
び近畿中國の諸縣にして、北海道・關東・
九州等の府縣には畑が割合に多し。我が
國土は氣候が複雑なれば、農産の種類は
頗る多きも、これを大別すれば食用農産
物・工業用農産物となすことを得べし。
食用農産物中最も主要なるは國民の常食
たる米にして、その生産額は内地約六千
萬石、臺灣八百萬石、朝鮮一千八百萬石、
價格は二十億圓以上に達し、我が國生
産物の首位に位す。我が國土はアツタ
の概れモンスーン地帯に屬し、氣候的條
件は一般に米作に適し、遠く神代より米
作が行はれ、今日北海道本島以南は全
國到る所に米作が行はる。明治初年以來
我が米作は人口の増加に比例して増加し
來れるも、今日にては殆ど飽和點に達せ

るのみ、如し。内地府縣中米産の多きは
新潟縣を第一とし、福岡・兵庫・山形・
秋田・愛知・福島・宮城・熊本・千葉等
の諸縣にも多し。又米産の過剩地方は朝
鮮・臺灣を別とすれば、新潟・富山・山
形・秋田・宮城・佐賀・茨城・栃木・熊本等
の諸縣にして、米産過少地方は東京・大
阪・京都・兵庫・神奈川・愛知等の諸縣
及び北海道を主とす。然れども、我が國
は世界第三の米産國にして、國土全體と
しては米産は自給自足が可能なるを以て
我國民經濟最大の強味と云ふべし。我が
國土は概して多雨にて米作には不利なき
れども、氣温は適當にて、全國廣く米作
行はれる。米作は灌溉に稍不便な地に行
はれ、米作の裏作としても行はる。氣温
の關係上、我が米作は専ら冬蒔麥又は秋
蒔麥を栽培し、夏蒔又は春蒔麥は樺太・
北海道等の一部に栽培されるに過ぎず。
麥類の生産は概して西南部に多く、東北
に向ふに従つて少くなる。大事は關東を
主とし、その一種の稗麥は四國・九州を
主産地とし、この兩者を合する時我が國
は世界一流の大麥産國に位す。小麥は
關東・九州を主産地とし、最近産額が著
しく増加せり。燕麥は北海道・東北・九
州南部の牧畜地帯に多し。粟は朝鮮と鹿
兒島・熊本・岩手の諸縣に、稗は臺灣・
朝鮮及び岩手・青森の諸縣に、黍は北海
道に、蕎麥は朝鮮・北海道及び鹿兒島・
茨城の諸縣に、玉蜀黍は朝鮮・北海道に

多し。甘藷は關東以南に産し、殊に九
州・臺灣に夥しく、馬鈴薯は關東以北に多
く、殊に北海道に夥し。豆類中大豆は朝
鮮・北海道・東北地方に、小豆は朝鮮・
臺灣・北海道に、落花生は臺灣・關東地
方に、粟・粟豆は北海道に、粟豆は大
阪・香川・福島・兵庫・千葉の諸縣に多
し。蔬菜中大根は北海道及び愛知・静岡・
新潟・東京等の諸府縣を主産地とし、里
芋は千葉・栃木・鹿兒島・愛知等の諸縣、
葱は千葉・埼玉及び北海道、葱頭は大阪
府・北海道・埼玉及び北海道、漬菜は東京・
茨城・埼玉・宮城の諸府縣、西瓜は愛知・
奈良・千葉・熊本の諸縣、胡瓜は山口・東
京・神奈川の諸府縣、越瓜は東京・廣島
の諸府縣、茄子は東京・大阪・兵庫・愛
知の諸府縣を主産地となす。次に諸種の
工業用農産物のうち、甘蔗は臺灣・九州南
部の氣温の高き地方に、甜菜は北海道・
樺太等の冷涼の地方に栽培される。茶は温
暖な地を好む故、臺灣の北部と静岡縣に
多く、葉煙草は風土を適ひ關東の秦野・
太田・茂木、四國の池田、九州の國分・
加治木等の附近を主産地とし、蘭・七島
蘭は岡山・廣島・大分・静岡の諸縣及び
臺灣に産す。薄荷は北海道および岡山縣
に、楡は福岡・香川等の諸縣に、樟腦は
臺灣・九州に、除虫菊は北海道および廣
島・愛媛・和歌山等の府縣に、蘇瓜は静
岡縣に、葉薑は徳島縣に、枇杷は兵庫・
長野・愛媛・高知の諸縣に、蒟蒻芋は廣

島・群馬・福島の諸縣に、楮は高知・山
口の諸縣に、三椏は高知・愛媛の諸縣に
多し。胡麻は茨城・埼玉の諸縣に多く、菜
種は九州・東海地方に主に栽培され、米
との二毛作が廣く行はれる。麻類中、大
麻は栃木・廣島の兩縣及び朝鮮、亞麻は
北海道、黄麻は臺灣、苧麻は臺灣及び樺
太・大分の兩縣を主産地とす。棉花は内
地には極めて乏しく實棉の生産僅か十六
萬貫、朝鮮には實棉約二千四百萬貫を出
す。果實の年産は一位圓を超え、柑橘類
は和歌山・廣島・愛媛等の諸縣及び北海
道に、苹果は青森・長野の兩縣および北海
道に、バナナ・パイナップルは臺灣に、
櫻桃は山形縣に、桃は神奈川・岡山の兩
縣、日本梨は静岡・新潟・岡山等の諸縣
に、西洋梨は北海道及び山形縣に、梅は
福島・長野・廣島等の諸縣に、葡萄は大
阪・山梨・岡山等の諸府縣に、枇杷は長
崎・千葉・愛媛・鹿兒島等の諸縣に、梅
は和歌山・静岡・千葉等の諸縣に多し。
〔養蠶・製絲業〕我が國の養蠶業は支那
より傳來せしものと云はれ、既に神代よ
り行はれ、農家の重要な副業たりしが、
その大發展は安政五年徳川幕府の開港に
より生絲が我が輸出品の大宗となるに及
んで以來のことと屬す。我が國土が桑の
栽培に適し、且つ國民は生來養蠶技術に
巧なりしこと、我が農業經營が小規模
に、しかも人口過剰、何等か有利な副業
を求むる必要ありしこと等が因となり、

今日の隆昌を来せしものにて、最近の内
地の年産は八千三百萬貫、即ち約三十萬
噸、これに朝鮮の二萬二千噸を加へて三
十二萬噸に達し、計数不詳の支那を除け
ば世界最大の養蠶國の地位を占む。内地
のみにて桑園面積約五千六百方軒、養蠶
戸數百八十六萬戸に達し農家戸數の三三
%の多きに及び、その生産額は四億圓
内外、農産額の約一割五分を占め、養
蠶は未作に次いで重要な農産部門を成
す。我が養蠶業の中心は中部地方にして
東北は關東地方を経て東北地方の南部ま
で、西は近畿地方を経て中国・四國・九
州の諸地方に至り、朝鮮の新羅も將來有
望視さる。更に繭を原料とする製糸業を
見るに、最近の我が製糸生産は生絲内地
四萬四千噸内外、朝鮮約千二百噸、合計約
四萬五千噸、府物の一萬五千噸を合
して、製絲業生産額は數量にて約六萬萬、
價額に於て五億三千萬圓以上に達す。
我が國生絲の生産額は世界生絲生産額の
約四分の三を占め、毎年四億圓乃至五億
圓を輸出して完全に世界市場を支配し、
あまつさへその原料は全く自給自足の土
に立ち、この點他の重要輸出工業に見ら
れざる特色を示す。製絲場數は約四萬六
千、職工數は男二萬七千、女三十三萬、
計約三十六萬、府縣中にては長野縣が最
も生産額が多く、全國の約四分の一を出
し、愛知・群馬・埼玉・山梨・岐阜等の
府縣はこれに次ぐ。〔牧畜業〕我が國の

牧畜業は列國に比すれば甚だ不發と云ふ
べく、これは我が國土の氣候が亞熱帶性
にて、高温多雨なるため植物の生育には
頗る良好なるも、牧草に富む草原が少な
く、しかも地勢上山岳が多く、廣大なる
平原なく、耕作が勢力を集約的に用ゐる
家畜を余り利用せず、山地の傾斜が家畜
を農業に利用することを妨げ、我が國土
が四面環海にして魚族が頗る豊富、自由
にこれを捕へて蛋白質食料とすることが
でき、また宗教上の理由より肉食が禁止
されし等の諸種の事情のためと解せられ
る。馬は古來最も重要な家畜にして、
昭和四年までは内地家畜中飼養頭數が第
一に位せし、翌年牛に凌駕され、しか
も大正十三年以降漸減の傾向を示す。最
近の内地飼養頭數は百四十五萬、ほかに
朝鮮に五萬三千、臺灣に五百、樺太には一
萬三千頭飼養さる。人口稀薄なる東北・
北海道の原野、九州地方の火山の裾野や
大山地帯等は主要牧場地帯をなす。牛
の飼育は明治維新以後、肉食の風習の普
及と共に次第に盛となり昭和五年以降は
馬を凌駕し、今日では内地牧牛數は百七
十七萬、中國山脈より流雲山脈にかけて
高原や九州地方の火山の裾野や熔岩灘地
に多し。外に朝鮮に百六十八萬、臺灣に
四十萬頭の牛が飼養さる。豚は全く明治
維新以後に飼養されたものにて、近年
著しく増加し、内地に百十萬頭飼養さ
れ九州南部・關東地方が主要な養豚地帯

をなす。ほかに朝鮮に百六十萬、臺灣に
百九十萬、樺太に約一萬頭の豚が飼養さ
る。牧羊は甚だ不振にて、内地では北海
道、東北地方に六萬一千頭、朝鮮に約九千
四百頭飼養さるのみ。山羊は内地二十
九萬、朝鮮に約三萬四千、臺灣に約七萬
八千頭飼養され、羊よりも盛に多し。斯の
如くに、我が國土の家畜飼養頭數は甚だ
少く、人口當り頭數は歐米諸國の十分の
一以下、南米・濠洲の百分の一以下に過
ぎざる有様なり。従つて獸肉の生産も甚
だ少く、我が國民一人平均一箇年の獸肉
消費量は一・五磅、英米の二乃至三分
の一に過ぎず、牛乳生産も一箇年二百
七十萬箱で國民一人平均一箇年の消費量
は約三立にして米國の約四百六十立に比
し甚しき差を示す。皮の産も甚だ少く、
殊に最も重要な牛皮の如き、年産約三十
五萬枚にて需要の二割を充つに過ぎず、
更に馬皮十二萬枚、編羊皮千四百枚、山
羊皮三千三百枚、豚皮約百萬枚の生産を
示し、別に朝鮮に約三十五萬枚の牛皮を
出す。養蠶は農家の副業または専業とし
て廣く行はれ、養蠶頭數は内地五千八十
萬、朝鮮七百二十萬、臺灣六百五十萬羽
にて、世界屈指の地位を占む。産卵數は
一箇年に三十六億に達す。鶏は内地五十
五萬、臺灣に百七十七萬、朝鮮三萬八千
を示す。〔水産業〕我が國土を構成する
日本列島は一千六百餘の島より成り、朝
鮮半島も三方海にかこまれ、海岸線は頗

る長く、而も近海のおキイワタ海・日本
海・東支那海等は殆ど二百米以内の淺海
をなし、あまつさへ寒暖二海流が交流す
るを以て魚族が頗る多く、日本近海の漁
場面積は實に二百萬方軒に達す。かくて
我が國民は神代より盛んに漁撈を行ひ、
我が國土の經濟發達上、水産業は狩獵・牧
畜よりも重要な役割を果せりと稱せら
る。漁撈は最初沿岸にとどまりしも、明
治維新以後は漁船・漁具の發達と共に支
那沿岸・露領アウラ沿岸にまで出漁し、
大正年代に至りては北はベーリング海、
南は南洋の海に出漁し、更に昭和に至り
ては大西洋・南極洋までも出漁し、全世
界の海洋は殆ど我が漁業家の活舞臺とな
れり。而して現今本邦の漁業には沿岸漁
業・内地沖合遠洋漁業・汽船トローレ漁
業・工船製漁業・汽船捕鯨業・外地出漁
業等あり。現在の内地漁業者は約五十
萬人、漁業者數の多き點は世界にその比
を見ず。内地漁船數は動力あるもの六萬
二千、動力なきもの三十萬四千、合計三
十六萬六千隻。なほ近來動力附大型漁船
が増加しつゝあり。最近の漁獲高は内地
三百七十萬噸、その他二百十萬噸、合計
約五百九十萬噸に達し世界の推定漁獲高
一千七百萬噸の約三分の一に當る。又、
一七七〇萬噸の約三分の一に當る。又、
の漁獲高は金額にて五億五千萬圓、内
地のみにて四億八千萬圓に達す。内地沿
岸漁獲物は魚類の一億三千萬圓、貝類一
千五百萬圓、藻類一千萬圓、その他二千五

百萬圓、合計一億八千萬圓、魚類にては
鱈・鯛・鰯・鮭・鰒・鰯等を主とし
魚類以外にては鰯・烏賊等を主とす。之を
地方別にすれば、北海道の三千六百萬圓
を第一とし、長崎・山口・静岡・三重・
岩手・福島・千葉・愛媛・兵庫の諸縣が
これに次ぐ。ほか沿岸漁獲物としては朝
鮮六千六百萬圓、臺灣四百四十萬圓、樺
太八百萬圓あり。内地の水産養蠶は二千
五百萬圓、養蠶・蠶・鮭・真珠・牡蠣等
を主とす。東京府を第一とし、静岡・三
重・愛知・千葉・廣島等の諸縣がこれに
次ぐ。水産製造物は内地は約一億八千萬
圓、朝鮮六千五百萬圓、臺灣二百三十萬
圓、樺太一千四百萬圓、滿洲・竹輪類・
神油肥料・乾海苔・養蠶蠶・鮭・素
乾・魚油・鰯等を主とす。内地では北海
道の五千萬圓を第一とし、東京・静岡・
千葉・宮城・青森・岩手・長崎等がこれ
に次ぐ。内地沖合遠洋漁業は七千四百萬
圓にて、北海道・山口・長崎・千葉・静
岡等を主とす。外に露領樺州漁業生産
高が二千九百萬圓、汽船トローレ漁業が
七百萬圓、汽船捕鯨業が二百五十萬圓等
あり、これ等を合する時、本邦漁獲高は
上述の如く世界第一に位す。従つて我國
は夙に魚食の習慣があり、世界第一の魚
肉消費國となる。なほ鹽の生産は内地六
十萬噸、朝鮮三十二萬噸、臺灣十二萬噸、
關東州五十萬噸を示す。内地の製鹽地帯
は瀬戸内海沿岸に集中し、香川・兵庫・

山口等の府縣に多し。内地製鹽額は明治
末期以來殆んど變化なく、今日では僅
かに食用を充つに足らず、工業鹽の如
きは全く植民地及び支那・滿洲國・アフリ
カ等よりの輸入に仰ぐ。〔林業〕我が國
土は概ね高温多雨にて森林の生育には好
適、立木面積は内地二十萬方軒、朝鮮十
六萬方軒、臺灣一萬九千方軒、樺太一萬
六千方軒、合計約四十四萬方軒に達し、國土
全面積の二分の一は森林に被る。しか
も氣候復雜なるため、樹種は頗る多く、
千種以上に達し、熱帯林・暖帯林・温帯
林・寒帯林の各種森林をもつ。内地の林
産額は用材一位一千万圓、薪炭材五千二
百萬圓、竹材二百五十萬圓、その他林野
産物一位三千万圓、合計約三億圓に達し、
ほかに朝鮮・樺太・臺灣に約九千萬圓の
林産あり、總てを合する時、我が林産は
四億圓に近し。内地にては北海道材を首
位とし、青森材・秋田材・天龍川材・木
曾村・吉野材・宮崎材、外地にては樺太
材・北鮮材・鶴嶺江材・臺灣材等よく知
らる。併し我が國土は用材を自給するこ
と能はず、最近にては一ヶ年に約六百萬
石、六千萬圓の用材を米國・フィリッ
ピン・蘭印東印度・英領カメルーン等より輸
入す。而して我が國森林が交通不便の山
地であり、運搬費が高價なること及び温
帯林・暖帯林は多く間難され農耕地化し
つつあることは用材輸入の主因をなす。
〔鑛業〕我が國土は山岳重疊し、地質稀

乏が復雜なるため埋藏有用鑛物の種類甚
だ多く、これを列國と比較するに、經濟
的價値ある鑛物資源の數は日本・イギリ
スの二十二に對し、米國二十一、イタリ
ヤ・ドイツ十三、フランスは七に過ぎず。
然れども巨大な鑛物資源は地質構造上見
られざることも本邦鑛物資源の特色の一
とす。最近の鑛産額は内地約五億九千萬
圓、これに朝鮮の八千八百萬圓、臺灣の
三千三百萬圓、樺太の一千一百萬圓を合
すれば、本邦全體にて七億一千万圓以上
に達す。石炭は本邦鑛産額の半を占めそ
の大宗をなす。本邦の石炭の埋藏量は列
強に比較すれば甚だ少きも内地約百六十
七億噸、朝鮮に約十一億噸、臺灣に四億
噸、樺太に少くとも十五億噸埋藏され、
全體にて二百億噸あり、米・英・獨・露・
佛に次ぎ第六位を占む。九州の筑豊・三
池・唐津の諸炭田、北海道の石狩炭田、
山口縣の宇部炭田、福島・茨城兩縣に跨
る常磐炭田、朝鮮の平壤炭田等が本邦の
主要炭田にて、最近の石炭産額は内地四
千二百萬噸、臺灣百五十萬噸、朝鮮約百
三十萬噸、樺太約九十萬噸に達す。内地
産炭の約七割は九州の諸炭田より出で、
北海道炭が二割を占め、其他の本州の炭
田は僅かに一割を出すに過ぎず。我が産
炭は少なからざるも、コークス用炭・無煙
炭に乏しく、之等は輸入に待ち、最近に
ては若干の輸出を差引き、一ヶ年約三百
萬噸、三千七百萬圓の純輸入を行ふ。我

が國の油田は第三紀層の分布上大體日本
海岸に分布し、秋田油田・越後油田が最
も著れ、北海道の石狩油田、臺灣の新竹
州の油田も有望視さる。最近の年産は約
三十二萬噸、國內需要の八%を充つに過
ぎず、需要の殆ど全部は輸入に仰ぐ。銅
は足尾・別子・日立・小坂・尾去澤・八
盛・荒川等の諸鑛山に一箇年約七萬七千
噸の銅を出す。なほ佐賀關・直島・日立
は他より鑛石を輸入して製錬す。かつて
我が國は米國に次ぎ世界第二の産銅國た
りしも、今日では世界の六位に當り、銅
の大輸入國となる。金の産額は昭和六年
末の金輸出再禁止以來、價格暴落、政府の
産金奨励等によつて激増を續け、最近に
ては内地二十三噸、朝鮮二十六噸、臺灣
一・三噸、合計五十三噸に達し、世界第五
の産金國となり、第一位の南阿爾邦の約
十二分の一に當る。北海道の洞ノ舞、靜
岡縣の土肥・持越、新潟縣の相川、大分
縣の銅生、鹿児島縣の串木野、朝鮮の雲
山・大檢洞・金堤・栗津・成興、臺灣の金
瓜石等を主要金山とす。銀は金精煉の副
産物として産出し、年産約三百噸。墨西
哥・米・加に次ぎ第四位なるも墨西哥
の約八分の一にすぎず。鉛は岐阜縣の神
岡、宮城縣の細倉を主とし、年産約九千
噸。亞鉛は神岡・細倉等に産するほか、
輸入鑛石を用ひて精煉し、年産約四萬噸
を示す。銅は兵庫縣の明延、大分縣の上
田尾平・藏内尾平、宮崎縣の見立、鹿児

ニッポ——ニッポ

鳥嶺の錫山等に産し、年産約二千馬。アルミニウムは國産又は輸入原礦を用ゐて長野縣大町、富山縣東岩瀨・高岡、愛媛縣新居濱及び臺灣高雄等に工場が設けられ、年産二萬馬に達す。マグネシウムは滿洲國産のマグネサイト、製鐵副産の苦汁を原料として山口縣宇部、新潟縣直江津、朝鮮南浦などに産す。ニッケルは群馬縣鬼石、千葉縣鴨川に、白金は北海道に、水銀は北海道並に奈良縣に、アンチモニーは愛媛縣及び兵庫縣に、クロムは北海道に、黒鉛は朝鮮に夫々産す。滿鐵は高知縣の穴内、滋賀縣の彌榮、京都府の川上・道谷等に産し、年産約七萬二千馬、硫化鐵は岡山縣備前、岩手縣松尾・田老などに産し、年産百三十萬馬、硫黃は岩手縣松尾北海道樺野、群馬縣小市、福島縣沼津等に産し、年産十六萬馬、燐石は神戶縣の北大東島・ラサ島、南洋群島アンカール・パラオ等に約二十二萬馬を出す。鐵は福岡縣八幡、岩手縣釜石・朝鮮釜山等に鐵礦二百萬馬、鋼材四百五十萬馬を出し、平時に於ては自給率は鐵礦六五%、鋼材一〇%なるが、鐵礦石は殆ど輸入に仰ぎ、國內にては釜石、北海道倶知安等、内地に六十萬馬、利原・乾原・仙川・股票等の朝鮮に六十萬馬、合計約百二十萬馬を産するに過ぎず。〔工業〕我が國民は古來手工業に長じ、美術工藝には特殊な技能を有せしが、建國以來久しき間農業者の域を脱せ

ず、僅かに優美な工製品の製造を以て工業の特色となせり。然るに明治維新後歐米先進國の工業が我が國に移植され、政府の周到なる保護奨励と民間富業者の不屈の努力とは勢力の豊富、動力の潤澤に促され、歐米先進國を凌駕する大工業を發達せしむ。我が國工業の特色の一として原料の海外依存を免ぐることを得。棉花工業・羊毛工業・人絹工業・ゴム工業等を始め、本邦の重要工業の原料にして海外よりの輸入に仰ぐもの甚だ多く、全く國産原料に立つ工業は製糖工業・製糖工業等あるに過ぎず。我が國工業の經營規模は一般に小にして、現在内地の工業者は五百五十萬人、職工五人以上の工場は約八萬、同労働者は二百二十萬人にして一工場平均二十七人の労働者を有するに過ぎず。最近の工業生産高は内地・植

民地を合する時は總計百三十萬圓内外に達す。内地に於ける職工五人以上の工場生産額を部門別に見れば別表の如し。これによつて本邦工業は紡織工業を中心とする輕工業であることが知らるるが、最近には金屬工業・機械器具工業等の重工業が次第に重要を加へつゝあることが知らる。本邦工業には明治維新以前より行はれし在來工業と維新以後に發達せし近代工業とがあり、前者は概ね分れ特定の地方に集中し、後者は概ね多し。本邦に於ける工業、殊に近代工業の集中せる地域、即ち工業地帯としては阪神地方が第一に位置するが、京濱地方・名古屋地方・北九州地方も重要にして、これを本邦の四大工業地帯と稱す。但し最近には、經營合理化のため、在來工業に於て近代化される同百分比 來工業に於て近代化される同百分比 來工業に於て近代化される同百分比

歌山・三重・岡山・静岡・東京等の府縣に多く、綿織物は綿絲よりも分布が廣くも、特に大阪・愛知・兵庫・静岡の府縣が著る。絹織物は京都・福井・石川・新潟等の府縣、人絹織物は福井・石川・群馬等の府縣、毛織物は愛知・兵庫・東京・大阪等の府縣、麻織物は滋賀・富山等の府縣、メリヤスは東京・大阪府等に多く産す。人造絹絲・ステープルファイバ工業は琵琶湖畔その他水利と交通の便利なる地點に大工場が建設され、現在では世界第一の生産を示す。肥料は新潟・神奈川・福岡・愛媛の府縣、工業藥品は大阪・東京府、紙・パルプは東京・静岡、大阪の府縣及び北海道・樺太等、ゴム製品は兵庫・東京・大阪の府縣、硝子は大阪・福岡・兵庫の府縣、陶磁器は愛知・岐阜の府縣、清酒は兵庫・京都・福岡・山口の府縣、麥粉は東京・兵庫・大阪・神奈川・福岡の府縣、醤油は千葉・兵庫・神奈川の府縣、製粉は神奈川・兵庫・愛知の府縣が著る。又最近躍進を続ける金屬工業・機械器具工業等の重工業は上記四工業地帯を中心として行はる。〔國內商業〕商業は上記各種生産物の配給に關與するものにして、今日國內に於ては廣く商取引が行はるゝ、特に商業の中心として著るは東京・大阪の兩市とす。大阪は江戸時代以來の古き商業中心地にして、江戸時代には全國産米の公定相場

四三三

がこゝにて決定されしが、明治維新以後東京が首都となり、各種の商業機關が東京に設けられてより、大阪の獨占的地位は失はれたり。今日大阪の商圏は西日本にして、近畿・中國・四國・九州及び北陸地方との取引が多く、更にその勢力は北海道・臺灣・朝鮮にも及びんとす。これに對し東京は東日本を商圏となし、關東・奥羽との取引が多く、更にその勢力は北海道にも及ぶ。中部地方はこの兩商圏の接觸地にて、大體西半は大阪、東半は東京の商圏に屬せしむ。近時ここに名古屋が商業都市として勃興し、本邦第三の商業中心地となりつゝあり。そのほか全國約三十の手形交換所が設けらるる都市は地方商業の中心地と見られ、之等商業に従事する者は有業人口の約一割七分にて、内地のみにて約四百九十萬人に達す。〔外國貿易〕國內の餘剩物資を外國に賣り、不足物資を外國より買ふことによつて外國貿易は成立す。我が國が列國に伍して世界貿易の舞臺に進出せしは安政六年以降にして、今日まで八十年に過ぎざるも、その開貿易の躍進は著るしく、明治元年の我が貿易は僅かに二千六百萬圓に過ぎざりしが、日清戰役後二億圓、日露戰役後八億圓となり、世界大戰役の大正九年には四十億圓を超え、大正十四年には四十九億圓となる。昭和十二年には輸出三十一億七千五百萬圓、輸入三十七億八千三百萬圓、計六十九億五千

八百萬圓、外に朝鮮の輸出が一億一千三百萬圓、輸入が一億二千八百萬圓、合計二億四千四百萬圓、臺灣の輸出が二千九百九十萬圓、輸入が四千四百二十萬圓、合計七千四百七十萬圓あり、これ等を合して帝國の貿易總額は七十二億七千四百萬圓以上に達す。本邦貿易の特色は明治初年以來三、四の例外を除き、原則として入超を繼續せし事なり。原料資源に乏しく、而も人口過剰の帝國としてはやむを得ざることなれども、極めて不健全なる状態と云はざるべからず。最近の本邦貿易品の内容をみるに、數年前に比較すれば輸出は完成品が増加して半製品が減少し、輸入は完成品が減少して原料品・半製品が増加せり。これは帝國が工業化せし證左にして、喜ぶべき現象と云ふべし。試みに、昭和十一年の内地貿易を見れば、輸出の五九%は完成品にて、原料品及び原料用製品が三二%なるに對し、輸入の八〇%は原料品及び原料用製品にて、完成品は一%に過ぎず。内地輸出品の大宗は綿織物にて、全額にして約五億七千萬圓、これに次ぐものは生絲・人絹織物・機械及び同部分品・罐詰食品・絹織物・メリヤス製品・綿織物・鐵製品・陶磁器・毛織物等にして、何れも年額五千萬圓を超ゆ。また内地輸入品の大宗は棉花にして、八億五千萬圓を超え、羊毛・蠶・原油及び重油・機械類・パルプ・生ゴム・豆類・木材・鑽石・石炭等これに次ぎ何れも年

額五千萬圓を越す。朝鮮の主要輸出品は綿織物・人絹織物・木材・機械・水産物、主要輸入品は大豆・礦油・石炭・肥料等、臺灣の主要輸出品は茶・砂糖・橡膠・鳳梨罐詰、主要輸入品は豆粕・大豆・麻袋・穀・硫安等なり。なほ朝鮮は内地に對して米・肥料・大豆・生絲・金屬・水産物等五億七千萬圓を移出し、内地より機械・織・綿織物・棉花・人絹織物・肥料等七億三千五百萬圓を移入す。臺灣は内地に對し、砂糖・米・バナナ・鑽石・鳳梨罐詰等四億一千萬圓を移出し、内地より肥料・綿及び絹織物・織・木材の二億七千八百萬圓を移入す。以上數字はすべて昭和十二年。外國貿易は開港を通じてのみ行はる。樺太を含む内地には四十五の開港あれども其中重要なるは神戶・横濱・大阪・名古屋・若松・門司・四日市の六港とす。朝鮮にては釜山・仁川、臺灣にては基隆・高雄を主要開港とす。我が貿易相手國は輸出にてはアメリカ合衆國・滿洲國・英領印度支那・イギリス・オーストラリア等を主とし、輸入にてはアメリカ合衆國・英領印度・オーストラリア・滿洲國・ドイツ・蘭領印度支那等を主とす。之を大陸別に見ればアジア・北アメリカ・ヨーロッパ・アフリカ・大洋洲・南アメリカの順序とす。之を要するに四面環海にて良港に富み、地理的位置に恵まれる帝國は海上に進出し貿易に發展すべき運命を有す。今や帝國が

世界稀な稠密な人口を養ひ得るは原料を輸入し、これに加工して製品を輸出する外國貿易に依存する所極めて大なるものありと云ふことを得べし。〔附録〕日本古へ大八洲國の名あり。群島國の義なり。或は豐原國瑞穂國・華原國・華原千五百秋之瑞穂國などとも稱す。孰れも美稱なり。日本紀には「日本」の二字をヤマトと訓す。神武天皇大和に皇基を奠め給ひてより、皇化次第に四方に及びて、遂に其の名が全國の總名となれるなり。ヤマト古くは「倭」と書く。倭人とは古代支那人の見て、東方民族の一となせし所のものにして、漢書地理志に「樂浪海中倭人あり、百餘國に分るとあり。もと朝鮮半島より我が九州地方に涉りて、其の存在の認められたるものなりしが、支那人は後に専ら「倭」を以て我が國の稱となし、我が國亦當初は之に倣ひしなり。而して日本紀が「日本」の二字を以てヤマトの語に當つる事は、もと支那人の見て倭人國となせし所のものが、主として九州地方の事にして、のちに我が國家に併合せられたるものなれば、其の「倭國」の名を以て我が國家をあらはさん事の、妥當ならざるを覺りてこれを正せるに外ならず。舊唐書日本傳に「日本國は倭國の別稱なり。其の國日邊に在るを以ての故に、日本を以て名となす。或は曰ふ。倭國自ら其の名の雅ならざるを惡み、改めて日本と爲す。或は

ニッポ——ニッポ

四三三

云ふ、日本はもと小國、倭國の地を併す。とあり。其倭國の地を併すといふ事は、雄略天皇の使を以て遣はし給へる際、雄略天皇の使を以て遣はし給へる際、西は東夷六十六國を服す」とあるに相當するものにして、倭人國は本來我がヤマト國家より見て「東夷」の國なれば、固より其の名を以て我が國名となすべきにあらず。こゝに於て是が改定を支那に通告せしものと見ゆ。「倭」の文字必ずしも雅ならざるにあらず。此の點に於ては唐書の後稍夏書を習ひて倭の名を惡み、更めて日本と號す」とあるも、其の誤謬を覺知するに至りしなり。而して其の之を日本といふことは、推古天皇の御代に附に遣はし給へる國書に「日出處の天子、書を日没處の天皇に致す」とあると同義にして、日の出づる所即ち日の本なり。併しながら之を實地に就いて觀察するに、我が國を以て日出處即ち日の本となす事は、之を西方なる國に對する場合に於てのみ云ひ得る所に於て、我が國自體にありては、太陽は更に遠く東方より出づるものなれば、自身其の國を日出處或は日の本などと言ふべきにはあらず。我が申世に「奥州日の本」の語あり、北海道にては嘗て東方に住する蝦夷を「日の本」と稱せり。孰れも其の西に住する者より見たる稱呼なり。然らば我が國を以て日の本なりとなす事は、必ずや我が國より更に西方に

住するものならざるべからず。こゝに於て之を韓土の史籍に徴するに、日本紀の引用するところ、神功皇后より雄略天皇までの記事ある百濟記には、我が國の事を貴國又は大倭と云ひ、又雄略天皇より武烈天皇までの記事ある百濟新撰には、我が國に對して倭または大倭の稱を用ひて、共に之を日本と云はざる。雄略天皇より武烈天皇までの記事ある百濟本紀に於て、始めて日本天皇、日本府、日本使人、日本などの語を盛んに用ひられ、尙更に降りて齊明、天智兩天皇の條に引ける高麗沙門道順の著には、日本世記なる書名もあるなり。此の外、日本紀には、神功皇后四十八年の百濟王の言に「日本貴國、應神天皇二十八年條の高麗王の表文に「日本國」とあるを以て、韓土に關する記事に限りて「日本」の文字甚だ多く繰り返されたり。是等の文獻によりて考ふるに、韓土に於ては當朝支那に徵ひて倭國の稱を用ひ、其の東方にある事より何時しか「日の本」の稱を案出し、欽明天皇御代の頃には既に韓土に於て普通に行はれたりしものと解せらる。かくて我が國に於ても何時の頃よりか其の意味より、時に「日出處」の稱を用ひ、遂には「日の本のヤマト」なる語を生じ、而して其の「日本」の二字を以て、直ちにヤマトに當つるに至りしものなるべし。此の事は、なほ「春日のカタスガ」、「飛ぶ鳥のアスカ」の語により

て、「春日」の二字をカスガと讀み、「飛ぶ鳥」の二字をアスカと讀むと同一の例として解すべきなり。かくて孝德天皇の大化改新の詔には、始めて「明神御宇日本天皇」と號はされて、ヤマトに當つるに「日本」の二字を以てし給ひ、かくて文武天皇の御代に至り、其の國號の改定を公式に唐に通告せしものなるべし。これを文武天皇の御代のこととなす所以は、大寶二年五月入唐の遣唐使粟田真人が、彼地に於て唐人との間に交際せし問答の辭に、我が「日本國」と云ひ、彼は「大倭國」と云へりとの間に於て知りたるなり。而もなほ其の後に至りても、文字の使用一定せざりしもの、如く、和銅四年の古事記には相變らず「倭」の字を用ひ、養老四年の日本紀に至りて、始めて「日本」の文字を用ふるることとなるを見る。(註)

「日本民族の成立」ヤマトなる國號がもつて、倭内の一地方より起りて、次第に遠方に普及せると同様、我が日本民族も亦次第に成立發展して、ついに今日の盛をなすに至れるなり。これを古傳説に徴するに、天孫降臨以前すでに此の國土には所謂國津神の系統に屬する多くの民衆あり。而も彼等は未だ統一したる國家を有せず、各部落互ひに對立して闘争をなすの狀態にありき。日本紀に、天津神の天孫を此の國に降し給はんとするに當りて、此の國には「磐火、光、神、龜、鹿、野、

化融合し、眞に異民族としての存在を失つて、地理的關係上東北地方の蝦夷族のみが、最後までも異民族として取り遺さるゝ事となれり。かくて其の同化の史實は比較的近代までも繼續して、是が國末はほぼ之を明かにするを得べく、而して其の經過は、移して以て他の異民族同化の次第を推測せしむるの料となすべきなり。今之を石器時代の遺物遺蹟に徴するに、當朝蝦夷族は廣く全國に蔓延し、考古學者の所謂縄文土器を使用して、狩獵漁業の生活を繼續せしものなりしが、大國主神の名を以て代表せらるる所謂出雲民族が、恐らく朝鮮半島の方面より渡來して、先住の蝦夷族に對して優勢の地位を占め、先づ中・近畿・四國地方より、九州北部地方に蔓延し、漸次先住の蝦夷族を併合同化せしもの、如し。而して其の史實は、コシ人の名を以て出雲傳説に少からず織り込まれる。素戔鳴尊の高志の八岐大蛇の退治、大國主神の越の八國の平定、同じ神の高志の沼河姫の結婚など孰れも之を示す。コシ人とは日本海方面の蝦夷族を呼びし名稱にて今も千島アイヌをクシといふは其の遺稱なり。ついで神武天皇の大和野を平定し、こゝに皇基を奠め給ふや、是より皇威次第に遠方に及び、崇神天皇の四道將軍派遣、景行天皇の御代に於ける日本武尊の熊襲・蝦夷征伐の壯事を經て、先住の異民族も次第に皇化に浴するに至れり。かくて西部

に於ては、奈良朝の頃僅かに九州の南端なる薩摩地方にのみ、半人種の遺存するありしが、それも養老年間の大反亂を最後として、史上再び其の活躍の跡を示さず、漸次日本民族化して、もはや異民族としての存在を失ひ、たゞ殘るゝ所は東北地方の蝦夷族のみとなれるなり。蝦夷之をエミシ或はエビスと云ひ、後に流れてエゾと呼ぶ。本名はカイにして、蓋しコシの轉訛なるべく、「蝦夷」の二字はもと其の音譯なりしが、後にエミシ又はエビスとして遺れるものは、主として此の蝦夷族のみとなりしかば、其の語は直ちに此の族を呼ぶの名稱となりて、本來の「コシ」或は「カイ」の名は忘れられ、皇化の及ぶ事の最も遅かりし千島アイヌにクシの名が遺り、樺太アイヌにカイの名が遺る事となれるなり。そも、我が國家の對夷政策は、努めて之を懐柔し、之を日本化せしめんとするにありき。されば彼の征夷の軍の如きは、たま／＼平和手段の破綻より生じたる變遷現象たるに過ぎず。平素の行事としては、終始懷柔政策により、其の歸服せしむるは優待條件を以て之を内地諸國に移住せしめ、或は現地に内地人を移植して之を指導せしめ、特に有功者に位階を授けてこれを優遇し、中には郡領に任ぜられたるものすら少なからざりき。かくて其の政策は着々奏功して、奈良朝の末期に於ては、皇化は今の宮城縣北部地方にまでも普及せし

が、たま／＼其の郡領の一角が他の郡領より常に蝦夷として選ぜらるゝに憤慨し、遂に暴動を起し蝦夷の大亂を惹起するに至れり。此の亂は其の原因が蝦夷族全體に對する侮辱なりしが爲に、從來歸服せしものも多く之に當同して、其の勢弱、官軍容易に之を平るゝ能はず、爾來繼續二十餘年、征夷大將軍坂上田村麻呂によりて、始めて鎮定の功を奏するを得たり。こゝに於て今の岩手縣の大部、北上川流域地方は、殆どすべて我が治下に屬するに至りしが、其後中央政府に於ける貴族の横暴甚しく、地方の政治之に従つて紊亂せしかば、夷族次第に勢力を挽回して、さきに平定せる地方も多くは夷酋安倍氏の勢力下に没落し、遂に衣川を以て那夷の境界となすの狀態となれり。かくて前九年の役の結果、當の安倍氏は滅亡せしめ、之に代りて夷酋清原氏奥羽兩州に勢力を獲得し、後三年役に清原氏滅びて後、同じ夷酋藤原氏更に之に代りたれば、結局源賴朝の興羽平定に至るまでは、此等の地方を夷人の手より回復するを得ざりしなり。しかも頼朝の新政府に於てすら、なほ「出羽、陸奥の兩國は夷の國なるによりて」との理由の下に、特別行政が認められたりし程にて、蝦夷族は其の後も少なからず奥羽地方に遺留し、江戸時代までもなほエゾと呼ばれ、アイヌと指斥せらるゝ村落が、北部地方には所々に殘存するの狀態にありき。而

して其の中の少数は北海道の同族を尋ねて、彼の地に移住せしものなきにあらずりしも、其の多數は現地に跡を止まりたるまゝに、悉く日本民族に同化融合し居れるなり。又一方に於て嘗て内地諸國に移住せし同族は、是も何時しか日本化して賤を日本民族中に没せしが、而も彼等は祖先以來の習俗を容易に脱し難くして農民となるを喜ばず、爲に一時は内地の厄介者たるの觀なきにあらずしが、たま／＼其の剛毅勇健なる性格は、平安朝中世以後の社會混亂の時代に於て、適所にその適材を用ふるの機會を得て、兵士或は警吏として採用せられ、殊に有力者の護衛として、其の侍となるもの甚だ多く、遂に中世武士の起原をなすに至れり。中世に於て武士を呼ぶに専らエビスの稱を用ひたるは蓋し是が爲にして、はては夷族出身ならぬ武士までも、一概にエビスの名を以て呼ばるゝ事となる。かくて我が七百年の武家政治の起原は、實に日本化したる是等のエビス即ち武士を背景として、腐敗墮落の極に達したりし公家政治に取つて代りたるものなりき。又我が日本民族は是等の先住土着民衆を懐柔して、之を同化融合せしめたるのみならず、支那、朝鮮よりの歸化人をも包摂して、悉く之を日本民族化すること成功せり。古代に於ける歸化人は其の數甚だ多く、今より千百年前なる弘仁六年の新撰姓氏錄によると、當時左右兩京

及び畿内五國に本籍を有する名家千八百十二氏のうち、歸化人の數實に三百七十二氏、即ち全數の約三分の一に近く、其中漢人の族百七十九氏、即ち七分の一弱、其の中秦人に屬するもの三十三氏、即ち全數の約三十六分の一に達し、又百濟人は百十九氏、即ち總數の十分の一強に及びたり。而も此の統計に漏れたる所謂名家以外の民衆に至りては、其の數の割合更に多かりしものと解せられ、中には一郡一縣悉く歸化人より成れるものすら少なからざりき。然るに是等歸化人も何時しか悉く日本化しりて、後には風俗、思想、其他に於て、歸化人の後裔として區別すべき何物をも存せざる事となれるなり。歸化人の中にも最も多き漢族には秦人・漢人の二大流あり、應神天皇の御代に秦の始皇帝の裔と稱する弓月君が、百二十餘の民を率ゐて歸化す。之を秦人の祖となす。又後漢の靈帝の裔と稱する阿知使主・都賀使主の父子、十七縣の民を率ゐて歸化す。之を漢人の祖となすといふ。而も事實は更にそれよりも遙に古き古代に於て支那民族の大舉移民の行はれしものなることは考古學上の研究より證明せらる。所謂銅鐸なる一種の銅器を遺せし民族これなり。銅鐸は支那古代文化の系統を承けたる扁圓形の銅器にて蓋し青銅鑄造技術を有する支那民族が大舉我國に渡來して自己民族の表章として製造、所有せしものならん。彼等は畿内

地方を中心としてその附近に繁延せしものにて其數の甚だ多かりし事は土中に埋藏保存せらるる銅鐸の發見の極めて夥しきことによりて推測せらる。昭和以來の銅鐸の發見數は毎年平均二箇以上にて明治以來約七十年間の發見數は百箇以上に及ぶ。この事實より觀れば、その過去に於て、發見せられし數の如何に多し、また未發見のものも土中に埋藏せらるる數の更に如何に多かるべきかは言を俟たず。かくの如く多數の貴重品を製作所有し居りし當時の民衆の數の、また如何に多かりしかば、殆ど想像以上なりしものゝ如し。然るに、かく多くの貴重なるべき物品の土中に埋藏せられ居るに拘らず、千數百年前の日本民族は、既に之に關して全然その知識を失ひ居りしものなり。またその銅鐸に表はれたる文化相は、殆ど後の日本民族の文化との間に何等の關係を有せざるものゝ如く、この事實よりこれを觀れば、彼等は嘗て優等なる地位を獲得せしものなるに拘らず、何らかの事情の下に、悉く我が日本民族の發展以前に於て、既に消滅したるものならん。今これを我が古傳説に徴するに、太古、新羅の王子天日神我が國に渡來して、葦原志許乎命、即ち我が國神の代表たる大國主神と國を争ひ、屢々戰を交へしこと、「播磨風土記」に見ゆ。この時、日神の兵八千軍ありたりと見えて、甚だ多數の民衆を有せしものなることを傳ふ。蓋し太古

朝鮮半島より大舉して渡來せし或る民衆が、我が國神との間に民族的闘争を交へしことを語れるものと解せらる。新羅は即ち古の秦韓にして、秦人の移住地なりと稱せらる。而してその秦韓人が我が國に渡來して、故國の文化の或るものを傳へ、一時畿内及びその附近に盛んに發展して、周秦時代の鑄造術によりて、この銅鐸を製作せしものならん。而も彼等は我が天孫民族發展以前に於て、所謂國津神なる銅生式民族のために民族的闘争に敗れ、遂にその文化を失ひ、その民族は離散して、彼らの寶器たる銅鐸を土中に埋めたるまゝに、全く忘れらるゝに至りしものと思はるゝなり。こゝに於てこれを我が秦人の歴史に就いて考ふるに、彼等の渡來は應神天皇の御代の事の如く語られ居るに拘らず、しかもその後天皇の御曾孫と申す雄略天皇の御代の頃には、彼等は全く民族的獨立を失ひて各地に分散し、臣、連等の有力者のために驅使せられしことあり。即ち彼等はその族を擧げ、奴隸の境遇に墮落せしものなりしなり。蓋し彼等の渡來は悉く我が有歴史以前の時代でありて、嘗て有力なりし彼の銅鐸民族に擬すべく、大國主神と國を争ひしと傳へらるる新羅王子天日神傳説は、また此の民族に就いて語れるものと解すべし。而も彼等は民族的闘争に敗れたる結果として、遂にかくの如き悲惨なる境遇に墮落するに至りしものと解せら

る。然るに雄略天皇は、これをその奴隸の境遇より解放し、其の秦民たるの緣故を以て、弓月君の後裔なる秦酒君の統率の下に置かしめられしが爲に、遂に應神天皇朝渡來の訛傳を生ぜしものならん。當時解放されたる秦人の數九十二部一萬八千六百七十人ありきといふ。是より秦人は再び有力なる部族となり、飲明天皇の御代の調査七千五百三十三戸あり。之を秦良朝初期に於ける我が全國の戸數約二十萬六百戸なるものに比するに、約二十八分の一に相當す。而もそれら多數の秦人も、何時しか悉く我が日本民族に同化融合して、遂にそこに何等の區別をも認め得ざるに至れるなり。斯くの如く我が日本民族は、多數の先住民族及び歸化民族を收容して、世界の他の文明諸民族が然ると同様、多數の人類民族の複合より成れるものなるも、其の複合たるや單なる寄合世帯の類にはあらず。一本北海道等に、南部津輕等に代々住する蝦夷は、本邦の人とおなじ。尤も南部津輕の女と兼組せり。伊勢參宮三度を通れば、惣變をやめて能く削りて、日本人と同じくなるなりし、とあるもの之を示す。而して是は歸化人に就きては亦同様にして、彼等は單なる血の混濁の外に、精神的にも天照大神の御氏子として、何時しか完全に日本民族となり舉れるなり。今や北海道及び樺太に僅に残れるアイヌ其の他の異民族も、我が國家の指導と教育により

りて、悉く日本化しつゝあり。近き我が國家の下に參加せる臺灣人・朝鮮人等の如きも、過去の異民族が經過したると同様の經過を取りて、早晚日本民族に同化融合すべき運命にあるを疑はず。(日本歴史概観)我國の歴史を通過すれば、時に消長隆替の事實ありと雖も、要するに我が日本民族の成立史、及び其の發達史と稱して然るべきほどにまでも、民族的要素の極めて濃厚なるものなりとす。神代に關する傳説にしても、結局は我が皇室及び國民の由來を説明せんとするものにして、所謂天津神、國津神の區別も、畢竟は高天原よりこの國に降臨せりと傳へらるる所の天孫民族と、その以前よりこの國土に住せし先住民族、即ち土著民衆との、起原と交渉とを説明せんとするものなるに他ならず。傳へいふ、天祖天照大神、天孫瓊瓊杵尊をこの國に降し給ふにあたりて、詔し給はく、豊原の瑞穂國は我が子孫の王たるべき地なり。爾、皇孫就いて治らせよ。皇神の降えまさん事、天壤と共に窮りなかるべし」と。又曰く、豊原の瑞穂の國を安國と平けく治らしめせ」と。かくて代々の天皇は此の使命のもとに、順次先住の異民族を教化して其の國家を併合し、その民衆を懐柔統撫すると共に、又一方には海外よりの歸化人も歓迎優待して、悉くこれを同化融合せしめ、漸次我が日本國家の發展と、日本民族の大をなすに

至りしこと、既に觀察せるところなりとす。而して其の國津神と呼ばれる先住の神々の中に就いて、大國主神は既に他の多くの靈振神たちを従へて、その名の如く大國の主にてまじき。されば天津神は先づ使者をこの大國主神の許につかはして、旨を諭してその國を天孫に奉らしめ給ひ、これに對してその體格の宮殿を、天皇の宮殿と同様に造らしめ給へりとあり。即ち天皇に對し奉ると同様の待遇を以て、これを優待せしめ給ひしことを語れるなり。ついで神武天皇の大和平野を平定し給ふや、道途にして命を奉せず、能くまで皇軍に抵抗し奉りし者に對しては、已むを得ず皇軍の威力を以てこれを壓迫し、其の巨魁を誅戮し給ひしも、深く命を奉じて歸順せし者に對しては、これを國造、或は縣主等に任じて優遇を與へ給ふ。要するに我が國家の成立進展は、この國を安國と平らげく治しめすべき大方針の下に行はれしものにして、これに由りて從來統一なく各自相闘ぎて悲惨なる境遇に置かれし種多の未開の民衆は、齊しく皇化に浴してその福利を増進し得たりしなり。かくてこの大方針は、これより後も終始一貫して、皇威は次第に近きより遠きに及び、近く明治四十三年の韓國併合に至るまで、常に同一精神の下に繼續して行はれたり。此の韓國の併合にありては、韓國皇帝はその土地人民の統治を我が天皇に委譲し給ひ、我が

天皇はこれを受納し給ふと共に、もとの韓國皇帝に對しては、皇族としての尊貴を以てこれを優遇し給ひしものにして、その經過は大體として大國主神に關する神話の語るところと同様なりき。さらにこれを言語の上より觀察するに、古へ國造・縣主など地方の豪族を普通キミと稱す。キミとは一國の君主の意にして、も各自その地方の君主として、それぞれ土地人民を領せしものなりしことを語れるなり。然るにそのキミの小國家が順次大和朝廷の大國家に併せらるゝに及びて、もとの領主は在來のキミの稱號をそのまゝに、天皇に對し奉りてヤマト、即ち、臣下の地位に立つことになりしなり。之をクニノミヤツコ(國造)と稱す。ミヤツコは「御奴」の義なり。また多くの部下、即ちトモを有して天皇の御奴たるもの、之をトモノミヤツコ(伴造)と稱す。かくて天皇は、その多くのミヤツコ等の上に立ちて、これを統治し給ふが故に、これらに對して天皇を大君と申し、またスベラギとも申す。スベラギとは統ぶる君の義なり。かくて我が國家は其のスベラギの統治の下に、漸次發展を繼續して、以て今日の大をなすに至れるなり。今其の國家發展の次第を考ふるに、ほゞ其の史の尋ねべきは崇神天皇の御代を以て初めとなす。天皇は御稱號を御崇神天皇と申し奉り、始めて國家を統治し給ふ天皇として、特に之を尊崇し奉れ

るなり。蓋し曩に神武天皇大和平野を平らげ給ひて、こゝに我が皇室を築め給ひしより以來、代々大和を中心として正を委ひたりしが我が國家が、此の御代に至りて急激に發展し、こゝに一大時期を劃せしものゝ如く解せらる。天皇の四道に將軍を派遣し給ふや、詔したまはく、民を導くの本は教化にあり。今既に神祇を禮して災害皆つきぬ。然れども遠人等なほ任弱を受けず。これ未だ王化に習はず。其れ神祇を選んで四方に遣はし、朕が靈を知らしめよ」と。要は未だ國家の惠み知らざる遠方の強暴なる民衆を教化して、幸福なる國家の民となさんとすにあり。此の時將軍統撫の及ぶる範圍は西は今の兵庫縣・岡山縣の邊にまで及びしに過ぎず。其の以西は支那人の謂ゆる倭人、即ち我が史に謂ゆる熊襲族の勢力範圍に屬せしものゝ如し。鳥取・島根・廣島等諸縣に於ける古墳文化が、九州地方のそれと相類似する所頗る多きは蓋し之を示す。又東にありては北陸方面に向へる大彦命と、東海方面に向へる武彦河別命との父子、會津に相遇ひしが故に、其の地を會津といふとの傳説古く存す。然れども關東地方と奥羽地方との境界なる白河、菊多の二つの關を置きしは、承和二年よりも四百餘歳の昔なりきと當時の太政官符にあれば、時代はほゞ允恭天皇の御代の頃に當り、此の頃の右の二關を監いて華夷の境を分らしものゝ如し。唐書日

本傳に、日本は東北大山を限り、其の外は即ち毛人とあるもの蓋し此の形勢を示す。蝦夷は毛愛蝦夷の殊に濃厚なる人種なれば、唐人は古く之を毛人と稱す。然らば會津の名の起原を云ふもの、畢竟地名による後の附會説なるべし。降つて景行天皇の御代に至り、皇子日本武尊の西に熊襲、東に蝦夷を平げ給へるあり。ここに我が國家は東西に一大發展をなす。ついで尊の御子仲哀天皇の御代に九州北部の熊襲を討ち、天皇之を親征して軍中に崩じ給ひ、神功皇后其の遺業を繼承して先づ九州北部地方を平定し更に海を渡りて新羅を従へ給ふ。是より先、朝鮮半島の南部には馬韓、弁辰、辰韓の三韓あり。馬韓は西にありて五十四國、弁辰、辰韓各十二國其の東にありて雄居す。後に新羅國版圖に起り、百濟國馬韓に起り、各々近傍の諸國を合せて其の大をなし、取り遣されたる諸小國は之を任那と稱して、風に我が國に屬す。ここに至りて新羅國更に我が國に服従し、次で百濟國また來歸して、朝鮮の南部悉く我が版圖に歸するに至りしなり。百濟は風に支那と交通して其の文物を傳へ、此の點に於ては我が國よりも一日の長あり。是より其の文物は百濟を経て我が國に傳はり、我が文化進展の上に貢獻する所多かりき。また應神天皇の御代には前記の如く漢人阿知使主等の大率移民あり。彼等また祖國の文學技藝を傳へて我が文物の進歩を促す

所多く、更に天皇は直接英韓と交通を開きて、彼の進歩せる鐵道の技術を輸入し給へり。吳とは古への三國鼎立時代に當り孫氏の吳國のありし地方にして、今の中支方面に當る。ついで雄略天皇復た使を吳に遣はし給ふ。當時の吳は劉氏の宋國にして、此の時、使者の齎せる國書の文に、我が祖宗以來の國威進展の狀を述べて、東毛人を征する五十五國、西東夷を服する六十六國、渡りて海北を平ぐる九十五國、王道融泰、土を廓き驚を恐くす」とあり。以て我が皇威進展の事情を察すべし。ここに毛人が東方の蝦夷なること上記の如く、また西の索夷とは支那人の謂ゆる倭人、即ち熊襲華人の族にして、考古學上の調査の結果によれば、當時既に九州地方の大部に互りて、皇化の普及せし事情を見るを得べし。また海北と朝鮮半島の事にて、當時我が國に屬せしもの、百濟、新羅、任那、加羅、秦韓、高麗六國の名が數へられ、半島の南半ば悉く我が統治下に屬せし事を知るを得るなり。かくて飲明天皇の御代に百濟が國に弘まり、中に聖德太子は大區蘇我馬子と共に是が興隆につとめ給ひ、法隆寺・元興寺以下寺院の建立相つぎ、是に伴つて我が美術工藝の發達顯著しきものあり。太子は又直接支那より佛經を求め給はんが爲に、使を隋國に遣はし給ひ、又多數の留學生を送りて、彼の制度

文物を學ばしめ給へり。後年大化改新の成れる、此の際の留學生に倭つ所領る多かりき。そも我が古代の政治は、萬世一系の天皇上にまじりて國家を統率し給ひ、大臣・大連の諸家これを輔弼して政治の衝に當りしものなりき。然るにその勢力代を經るとともに次第に増大して、各地に莫大なる所領を有し、互に勢力を争ひし結果、大臣蘇我馬子は遂に大連物部守屋を亡ぼすに至り、是より蘇我氏ひとり國家の權力を壟斷して、專横の極達に皇座を震如するの舉動すら多かりき。かくて皇極天皇の御代に至り、中大兄皇子大いにこれを憤り給ひ、中臣鎌足等とともに相謀りて、大臣蘇我蝦夷及びその子入鹿を誅戮し、遂に大化改新を成就するに至る。大化の改新は當時の唐國の制度に則ししもの、曩に聖德太子の植込み付け給ひし種子は、こゝに其の實を結びて、我が國の政治上劃期的の一大變革を成就せしものなり。從來の我が國家の組織は、すべて世襲の氏族によりて成り立ち、地方には國造・縣主などの豪族ありて土地人民を分領し、之を統治してほぼ封建政治の如き觀を呈し、中央の貴族またその間に多くの所領を有し、天皇及び皇族方の屯倉、及び部曲、田莊等、また少からず介在して、所管甚だ複雑せしものなりき。然るに此のたが其の中の最有力者たる蘇我大臣家盛くも滅亡せしかば、之を機として一切の土地人民の私

有を撤廢し、悉く之を國家の公地公民となして、其の公民には各自一定の田地を班給し、人生るれば之を與へ、死すれば即ち之を收め、以て富の分配を公平ならしめたり。之を班田收授法と云ひ、其の班給せられたる田地を口分田といふ。また地方の政治は全國を幾多の國に分ち、其の國を更に幾つかの郡に分ち、郡司にほもとの國造など地方の豪族を任じて之を世襲せしめ、また國には中央政府より國司を派遣し、一定の期間を定めてこれを統治せしめたり。蓋し唐の郡縣の政治に倣へるもの。かくて口分田の班給に與かりし公民、即ち百姓は、それ自身悉く農民にして、即ち天皇の大御田を耕すところのオホエマカウ(大御田)なり。ここに於て百姓の語は直ちに農民の語と同義となる。次に農民以外の職業に従事するものはこれを雜戶と稱し、田地の班給に與からず、公民よりも一段の下級に置かれ、更にその下に賤民あり。賤民とは公民即ち良民に對する名稱にして、本來雜戶の類ながら、罪儀に關係して身に穢れありと認められたる賤戶と、家人・奴婢と呼ばれたる主人持とを總稱す。而して更にその以外に、國家より存在を認められざりし浮浪民も少からず存在したりしことば、また已むを得ざりしところなり。此の大化の改新の施行は、當時豪族專横の下に行き詰れる民衆に對して、實に理想的の施政なりしと、人には賢愚強

弱動情の差ありて、同一の耕地を有するもの必ずしも常に同一の收穫を得る能はず、公民に對する富の公平なる分配も久しからずして其の實を失ひ、貧富の懸隔は愈々甚しくなりて、既に天武・持統兩天皇の御代の頃には、徳政を施行して公私の負債を解消するの已むなきの狀態にまで立ち至れり。この點に於て大化の改新は、確かに失敗なりきと謂はざるを得ず。また改新の主唱者とも謂ふべき中臣鎌足は、大功によりて新に有力なる藤原氏の家を起し、子孫繁榮して遂に天下の權力を其の一族に收むるに至る。かくて既に奈良朝聖武天皇の御代の頃には、政府は殆ど悉く藤原一家の獨占するの狀態となり、その女は舊慣を破りて、臣下にして皇后となるの先例をまで始め、殊に奈良朝末に至りては、藤原百川が鎌原を振ひて光仁・桓武の兩天皇擁立の功を負ひてより、藤原氏の勢力益々盛んにして、遂に藤原一族專横の時代を現出するに至る。かくて一旦大化の改新により、天下の土地人民悉く公有たるべく規定せられし大原則も、年とともに次第に崩壞して、公地は多く莊園の名の下に、權門勢家の私有に歸し、地方官はこれらの權門に迎合して、専ら私利私慾を能事となし、悉く民衆の福利を顧ることなく、一般社會は非常なる混亂の狀態に陥りき。ここに於て天下の公民は殆ど國家の保護を受くることを得ざる代りに、却つてそ

の公民たるの故を以て、常に國司の重課に苦しまざるを得ざる狀態にありき。ここに於て彼等は進んで自ら公民たるの資格を捨てんことを求め、出家入道の方法によりて國家の戸籍より削除せられ、浮浪民の群に投ずるもの甚だ多かりき。延喜の頃に於ける三善清行の意見對事の記するところによれば、當時天下の人民三分の二は禿首の徒なりきといふ。禿首とは即ち僧侶のことなり。彼等は課役を避けたるものにして、家に妻子を蓄へ、日に酒肉を嗜ひ、形は沙門に似て、心は屠兒の如しといはれしところの、破戒無慙の在家法師の徒なりき。かくの如き形勢なりしかば、天下至るところに盜賊蜂起し、良民は其の生に安んずるを得ざるに至りしも、國家は之に對して何等の保護を與ふること能はず。従つて有力者は必要上多數の護衛壯士を擁して自衛の道を講じ、微力のものばこれに隨從してその保護を受くるといふが如き、ここに一種の主從關係を生じて、謂ゆる武士興起の時代を現出せり。これ等の護衛壯士は即ち所謂「侍」なるものにして、本來はその主に侍して座右の用務を辨するもの名稱なりしも、斯くの如き混亂の時代にありては、その侍が専ら武藝を練磨して、その主を護衛し、その主のために戦ふ。即ち一種の私兵にして、武士の名を以て呼ばるゝこととなる。而して當時そ

の侍として最も過任なりしものは、嘗て奥羽の夷地より移されて、内地諸國に散在せる蝦夷、即ち倭因の徒なりき。彼等は本來武勇、忠誠の特性を有し、古くは佐伯部として禁國守護の近衛兵に任ぜられたりしほどにて、兵士としては最も過材なるものなりしなり。ここに於てか平安朝末期の混亂時代には、政府は往々彼等を役して盜賊を追捕せしめ、禁國の任に當らしめしこと、上文に述べたるが如く、今や彼等は有力者の侍として、その主に對して忠誠を勵み、所謂武士道は、ここに對して其の發達を遂ぐ。これ等の武士の頭領には、源平二氏最も有力にして、中にも平將門の如き、坂東諸國を占領して獨立を圖るの狀態にまで進出せり。この將門の叛は、幸にして同じく武士の棟梁たる源經基・藤原秀郷等の力によりて、間もなく平定するを得しが、武士の跋扈と、地方の混亂とは、これより以後益々甚しく、また瀬戸内海より九州の沿海地方には、所謂海賊なるもの跋扈を極めたり。海賊は即ち海上の武士にして、武士は即ち陸上の盜賊たり。當時の語に「力に優れしものを評して、いみじき盜賊」なりといひ、或は「名譽の強盜」等の語が繰返されたるを見ても、以てその世襲の一族を知るに足らん。此の際にありて藤原氏以下の權門勢家の徒は、引續き莫大なる莊園の所得に富貴を誇り、悉く地方の混亂、庶民の困弊を意とせ

ず、また源平等武士の棟梁は、これに何附迎合して、自から進んでその爪牙に任じ、主人の威光を笠に被て、各自自己の勢力の擴張に努む。當時の語に、「一人の勢に入りて萬人の頭を論ゆ」とあり。しかしながら、これ等權門勢家はただ過去の傳統によりて、僅かに顯榮を維持するに過ぎず。その實力は武士の手に掌握せらるるに至れり。藤原氏は曩に良將が清和幼帝を擁立して、藤原氏の權をひろき、基經が先孝・字多の兩天皇を擁立して、獨自に任ぜられてより以來、藤原の人々常にこの要職を繼ぎ、果てはその一門間の權力の争奪より兄弟叔姪相闘ぐの醜を演ずるに至り、中にも道長最も勢力を得て攝關家の基礎を固めしが、道長の後五代、忠通・頼長の兄弟、權を争ひて、遂に保元・平治の二度の亂を誘致し、結局藤原氏の無力に、暴露せられ、武士は遺憾なくその實力を發揮して、武士の棟梁平清盛、藤原に代りて一世の權力を掌握するに至る。しかしながら平氏はその權力を得ると共に、榮華に耽りて公家柔弱の風に染み、清盛自身太政大臣に任ぜられ、その一門また多く公卿の顯榮に上り、果ては平氏に非らざるものは人にあらずとまで謂はるほどの横暴を極めしがために、遂には剛健なる武士の特質を失ひ、反對者たる源氏のために滅ぼさる。ここに於て源頼朝は、征夷大將軍の名を以て鎌倉に幕府を開き、平氏に代り

て天下の實権を掌握し、武家政治七百年の基を開くに至り。幕府は即ち軍政府なり。將軍時に際して帷帳のうちに政府を設け、武人自ら政治の衝に當るの謂なり。従つて戦亂鎮定すれば當然廢止さるべき性質のものなるも、平安朝多年の混亂は餘りにも甚だしく、天下の萬民瘡痍の苦しみに陥りたる後を承けて、之を拾收すべく遂に永続的のものとなりしなり。されば鎌倉幕府の武家政治は、混亂を極めし平安朝末期の世態に對して起死回生の注射を施せしものといふべく、武家政治の倒壞の爲に一身一家を擧げて犧牲に供せし程の官方柱石の區たる北畠親房すら、之を創めし源頼朝、之を完成せし北條泰時に對して、極度の讃嘆の辭を禁ずる能はざりしなり。この間に於いて京都に於ける公家の政府は、依然としてその舊態を保存し、原則としては幕府はただ武士に對してのみ、その統御に任ずる次第なりしが、守護地頭の設定によりて、鎌倉武士は固く全國に配布せられ、實力のあるところ權力自らこれに歸して、公家の政府はただ虚名を擁するのみとなり、戰時にのみ存する營の軍政府たる武家政治は、爾後約七百年間繼續して、遂に明治維新に至る。勿論公家政府に於てはこれを快とせず、承久年間後鳥羽上皇、一旦これを覆さんと試み給へるも御失敗にたり、建武年間後醍醐天皇は一時王政復古の大業を成就し給ひし

も、是れ亦間もなく足利尊氏の叛によりて、南北兩朝並立の變遷時代を現出し、戦亂相續ぐこと五十餘年、結局南朝の後鳥羽天皇位を去りて、ここに兩朝は合一し、武家政治は依然として繼續せり。しかしながら足利氏の幕府は南北朝争亂の後を受けて、その基礎固からず、よく配下の諸大名を統御するの實力なく、遂に權臣の勢力争ひの結果、所謂應仁の大亂となり、天下の大勢兩分して争亂相續ぐこと十一年、その結果として從來地方に領地を有し、自身は幕府の膝下に定住せし諸大名も、各自その領地に就きて、互に勢力の擴張に努め、強食弱肉、遂に謂ゆる戰國時代を現出せり。戰國時代とはその名稱の示す如く、實に全國を通じて戰國状態に置かれたりしもの。少數の成功者の餘に多數の犧牲者を生じ、實力あるものは門地に拘らず榮達す。近日は士民待の階級を見ざるの時なり、非人三黨の輩と雖も、守護司の望をなすべく、左右する能はざるものなり」との、大業院尋常の述懐は遺憾なくその實情を語りしものなり。かくして戦亂相續ぐこと約八十年、鎌倉時代以来の舊家は多くこの間に滅亡し、畏れ多くも上は皇座を始め奉り、公家の人々いづれも疲弊の極に陥り、一般民衆亦甚だしく瘡痍の苦杯を嘗めさせらるゝに至りし。然るに承久年間後鳥羽上皇は尾張に逃るゝに及びて、次第にその地歩を固め、遂に近畿地方を平定

して、當に天下統一の偉業を成就せんとするの勢を示せしが、天正十年遠臣明智光秀のために就せられ、豊臣秀吉の後を受けて、遂にこれを完成し、徳川幕府を建てて朝鮮にまで及ぶに至る。秀吉はもと武人の出身ながら、自ら幕府を開くに至らず、義に平家が成せしと同じく自身太政大臣となり、はては關白ともなりて、公家政治を以て天下に臨む。而もその基礎未だ固からざるうちに病歿し、徳川家康これに代りて幕府を江戸に設け、再び武家政治の舊に復す。爾來約二百七十年、江戸幕府は巧みに諸大名を統御して、すべて現状維持の政策を嚴守し、以てよくその太平を繼續するを得たるなり。しかしながらその現状を維持せんために、上は諸大名より、下は一般民衆に至るまで、非常なる彈壓を加へてこれを去勢し、これが據頭を擁護せざるを得ざりき。殊に武器を奪はれし一般民衆にありては、僅に約四十萬の武力を獨占する武士の下に壓迫せられ、ただ安穩に生き得るのみに満足して、殆んどその人格を無視せらるゝが如き状態に置かるゝに至りき。殊にこれに現状維持政策の一の表はれとして、鎖國政策が勵行せられ、ただオランダ人及び支那人のみが僅に長崎の一港を限りて、出入貿易を許さるゝに過ぎざりしを以て、交通機關の發達、武器の改善、その他あらゆる點に於て、西洋文明の進歩に伴ふことを得ざりき。然

るに歐米諸國に於ける文物の發達は、到底我が國のみ永く極東に孤立することを許さず。嘉永五年米艦の浦賀來航によりて、ここに形勢一變の端を開き、遂に和親條約の締結、國防設備の缺陥により、傳統的の現状維持政策も次第に崩壊して、國論沸騰、勤王の志士起りて倒幕の大業を唱ふるに至り、遂に明治維新の大業を成立す。徳川幕府の政治は謂ゆる封建制度に類し、地方は諸大名の分領に委して、各自その土地人民を私有し、幕府は上においてこれを統率す。幕府の直轄領、即ち天領、及び幕府直參の武士、即ち旗本の采邑は、大名領地の間に介在して、地方行政の區劃甚だしく錯綜せるものなりき。當時我國の米の產出高、即ち謂ゆる石高は、勿論時代によりて相違ありしも大體全國約二千八百萬石、そのうち約二千萬石の地は諸大名これを所領し、約四百萬石は天領、残りの約四百萬石は旗本の采邑として、これを配給せしものなりき。然るに明治維新の政府は、先づ天領及び旗本の采邑を收公してこれを府縣に分割し、また諸大名にも版籍を奉還せしめて、これを國家の有となし、府縣には政府任命の府知事、縣令を派遣してこれを統治せしめ、また藩には舊大名を知事に任命して、國家の統治官として引き續き舊領土及び領民を統治せしむ。然るに實施の經驗上、不便甚だ多かりしため、明治四年に至り、全國一律に藩を廢して

縣となし、舊大名と領地・領民との關係は、ここに全くその終りを告げ、かくて爾後數回の分合廢置を経て、三府四十三縣分治の現状をなすに至る。蓋し明治の維新は武家に對する民衆の勝利にして、從來全く人格を無視せらるゝの狀態に置かれし一般の百姓町人は、齊しく帝國國民として在來の武士など同一の權利義務を有することとなり、従來武家のみが有せし國防の義務をも、徴兵令の實施によりて國民一般の負擔とするに至りし。また明治四年には、過去に於て久しく人外に置かれし穢多非人の稱をも廢して、之を平民と同じくし、從來は殆んど爲政者の任意に課税課求が行はれ、甚しく不安定なりし人民の財産權にも、國家は十分の保護を加へて、法律による場合以外何人とも指をこれに加ふることを得ざる程の保障を與へらる。ここに於て國民は謂ゆる働き甲斐ある世界を得て、その努力は十分に酬いられ、爲に産業大いに發達し、國富み兵強きの實、現出す。かくて明治二十二年には欽定憲法發布せられ、翌二十三年帝國議會開會せられて、國民一般に其の參政權が認めらるゝ事となる。ついで日清・日露の二大戦役を経て、我が國威は若しく海外に宣揚せられ、臺灣・樺太の割讓を受け、更に朝鮮・滿洲に於ても特殊の權益を有することとなる。更に明治四十三年に至りて、韓國皇帝の委讓によりてその國を併

合し、大正三年以来の世界大戦にも参加して、南洋諸島の統治を委任せられ、ついで滿洲國の獨立を助けて、これが完成に努め、ここに日滿支三國相提携して永く東洋平和の維持に貢献する所あらんとせしむ。前述なる支那政府は我が國の誠意を諒解する能はず、多年に渉る排日、侮日、抗日の彼の政策は、遂に廣瀨海峽の事件となりて勃發し、我も亦已むを得ず之に應じて、遂に現下進行中の日支事變の發生を見るに至りし。【日本列島】 アシヤ大陸の東端にある列島。オホシツク海・日本海・東支那海の隔海により生ず。北は千島列島より北海道本島・本州島・四國島・九州島・南西諸島を経て南は臺灣島に連なる。その形状も花形列島に似たるを以て西洋人はこれを花形列島と美稱す。日本。【日本海】 アシヤ大陸の東、朝鮮半島と日本列島との間に介在する面積一〇四萬平方哩の海洋なり。海底の形態は近年の我國海洋調査船の研究によりて明白となりし。それによれば從來の地圖とはやや異なり、三〇〇〇米以上の深部が緯度四〇度以北に東西に長く分布し、この中は三五〇〇米内外にて極めて平坦、最深箇所は奥尻島の西南にありて三七一二米に及ぶ。利尻島の西方沖より北は急に淺く平均一五〇〇米以下、北に行くに従ひ益々淺し。南日本海はその形甚だ複雑にして三〇〇〇米に近き海谷や淺き地、また

は孤立せる島や、水面に達せざる海峽多きも、海底は深度二〇〇〇—二五〇〇米のやや平坦なる部分頗し。大和地は我が東艦大和が天正十三年に發見せしものにて、最淺所は四三三米、日本海中央に大なる淺瀬を作る。日本海と太平洋やオホシツク海とを連絡する海峽の狀態は下表の通りにて、中にも對馬海峽が最大と

名	幅(軒)	平均深度(米)	斷面積(平方軒)
間宮海峽	七・四一	八・四	〇・〇六二
宗谷海峽	四二・二一	四三・六	一・八四一
津輕海峽	一九・四五	一一・三・六	二・二一〇
對馬海峽	一四〇・八〇	八一・三	一一・四五〇
東水道	七三・二〇	六七・九	四・九七〇
西水道	六七・六〇	九五・八	六・四八〇

する水が、津輕・宗谷の兩海峽より流出すと考へらる。間宮海峽はあまり關係なし。海流を生ずる原動力は東南部と西北部との氣温の差に基づく中層の水溫の差による密度差にて、日本海の水は、輕くてゴテンツアルの大いなる東南部の水と、重くてゴテンツアルの小なる西北部の水との間に起る密度流にて、表面にだけ風が修飾的の役目を演ずるに留まる。對馬海峽より流入する高層なる對馬海流は、海峽を通過する所に二分し、一部は本州沿岸を東北に流れ、他は日本海の中を大きく蛇行しつゝ、東に流れ秋田沖にて合し、大部分は津輕海峽より流出し、残りは北海道沿岸に沿つて北上し、大部分は宗谷海峽より流出し、残部は樺太西岸沿ひに北上す。また沿海州側を南下するリマン寒流はウラヤオストツクの東方洋上に消失し、これとは別に同地附近より北朝鮮南流と呼ばれる寒流が朝鮮東岸に沿つて南下し蔚山附近に達し、對馬海流の下に滲透す。以上の海流は海峽部以外にては流速一二哩程度なり。なほ沿海州側にてはウラヤオストツク附近まで冬季は結氷するため、同港の交通及び軍事的價値を減殺す。

ニッホー——ニッホ

【日本アルプス】南日本を構成する日本...

山の北に位する剣ヶ岳と最もアル...

し、木曾川・梓川・高瀬川・黒部川・常...

湖の南方に起り、甲・信・駿の國境に...

四三三

【ニッポンパン】日本橋 大阪の橋...

も、中部を南流する根成川の流域に...

九月山中に發する源川は中部を流...

同上新川部の中部。神田川の支流...

【ニッポ】朝鮮京畿道抱川郡の東北隅...

【二道面】朝鮮京畿道抱川郡の南部...

【二道面】朝鮮京畿道抱川郡の南部...

【二道面】朝鮮京畿道抱川郡の南部...

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

【ニッホー】ニッホー

ニノヘーニノミ

年設置あり。

ニノヘーニノミ

ニノヘーニノミ 岩手縣奥州の郡。
縣の北西部に位し、北は青森縣三戸郡、
西は秋田縣鹿角郡、南は岩手郡、東は九
戸郡に隣接す。面積一二二五・〇七平方
尺。東境は北上山地に属し、北より折爪
岳(八五二米)、小倉岳、傾城嶽、就志嶽
(七七〇米)ありて西方に傾斜し、西境は
奥羽山脈にして、北より中嶽(一〇二四
米)、皮投嶽(一一二二米)、楸角山(一四
九五米)あり。南境には七時雨山(一〇
六〇米)、北部には稍庭嶽(一〇七八米)あ
り。馬淵川は東部山麓を北流し、西南境
に發源し七時雨山及び稍庭嶽の中間を東
北流し来る安比川を合せ、北流を續く。
郡の西部には小盆地あり、米代川の一支
流は盆地四周の水を聚めて西流す。本
郡は一般に山地多くして平地少し。山林
には木炭の産多し、岩手木炭の名あり。
耕地には冷害に耐ふる種及び大豆、粟、
蕎麥等を産す。また馬、豚等の飼養行は
るゝ所あり。道路には馬淵川の谷に沿ひ
て東部を南北に通ずるもの、及びこれよ
り分岐して安比川の谷に沿ひ西南方に向
ふものあり。前者に並行して省線東北本
線通じ、北より金田一・北洞岡・一戸・
小島谷・小雲・奥中山等の驛あり。西部
には省線花輪線通じ、兄如・田山・笠尾
新町・赤坂田等の驛あり。東嶽に見ゆる
比内郡又は比内郡の地を近世に至りて二
比内郡と稱せしものとす。或は舊郡より

り出づともいふも詳ならず。もと青森縣
に屬せしが、明治九年五月陸前氣仙郡と
ともに岩手縣に入り今日に至る。郡は福
岡・一戸の二町及び十三箇村を含む。
ニノミヤ 二宮
【二宮町】 千葉縣下總品千葉郡の西部。
津田沼町の北隣にて、西は東葛飾郡の一
部と隣す。全町低き臺地をなし、西部に
は森林、東部には草原あり。臺地間に耕
地ありて農業行はれ、米・麥を産し、養
鶏も行はる。佐倉街道は津田沼町より東
りて町内を東北に走り、津田沼町へバス
の便ありて同町の省線總武本線津田沼驛
と連絡す。この地は和名抄、千葉郡山家
郡の内なり。明治五年十月陸軍練兵場を
設け、翌年四月明治天皇行幸遊ばせ
れ、習志野原の御名を賜ふ。いま東京靈
兵分隊習志野分隊、演習旅団、陸軍騎兵
學校等あり。明治天皇は明治二年東京御
再幸の際、同六年大和田原行幸の際、同
八年習志野下志津原行幸の際、同九年習
志野行幸の際、同十二年千葉縣下志津
原等數度行幸あり、いま明治天皇習志野
行幸所として指定史蹟たり。(二宮神社)
大字三山に鎮座。神社、祭神、須佐之男
命・稻田比賣命外二神。式内社。往古は
近在二十三村の總領守にして社靈隆盛な
りしが、貞享年中災上し、社主・神寶・書
記等悉く失ふ。例祭、十月十六日。
【二宮町】 神奈川縣相模國中部の南部。
相模灣に臨み、西は足柄上郡及び足柄下

郡の一部と隣す。全町丘陵地にて、南部
の海岸附近のみ稍平地をなす。農業行は
れて麥・甘藷・馬鈴薯・蕎麥・粟・大豆
等を産し養蠶も行はる。海岸は平坦なる
砂浜にして海水浴場として知らる。東海
道は海岸附近を西走し、主なる養蠶はこ
れに沿ひて發達し、省線東海道本線また
これに沿ひ、二宮驛(明治三十五年設置)
を設く。二宮驛より湘南軌道自動車線は
北走して養野町の地。もと吾妻村といひ、
餘部郡養野の地。此地は和名抄、
昭和十年二宮町と改む。大字山西は往時
梅澤の里と呼ばれ、梅樹多く道樂准后の
題園園記に「旅衣春待心替らばきくも
なつかし梅澤の里」とあり。(川勾神社)
大字山西に鎮座。神社、祭神、大日本靈
命。式内社。相模國十三座の一にしてま
た二ノ宮たり。朱印領五十石。例祭、九
月二十八日。
【二宮村】 鳥取縣石見郡那賀郡の北部。
郡野津町の南及び東を圍みその南に隣り
西北は日本海に面す。東部及び南部は二
五〇―二六〇米の丘陵にして西北部に沿
岸平野開け海岸に平直なる砂浜をなす。
米・麥・芋等の農産を出し、副業には養
蠶盛んなり。また瓦製造職人としての出
産多し。海岸に山陰街道走りてバスの便
よく、また省線山陰線通過して西北境附
近に郡野津驛あり。この地は和名抄、郡
賀郡那賀の内。大字神主に縣社多神社
あり、里磐石見の二宮と稱す。(多神社)

【二宮村】 香川縣讃岐國小豆郡の
南部。小豆島の南方へ突出する半島の頭
部を占め、東は内ノ海灣に、西は池田灣
に面す。地形概ね山地をなし東北部最も
高くして、約五〇〇米の高度を有す。東
部の一部と隣す。全町丘陵地にて、南部
の海岸附近のみ稍平地をなす。農業行は
れて麥・甘藷・馬鈴薯・蕎麥・粟・大豆
等を産し養蠶も行はる。海岸は平坦なる
砂浜にして海水浴場として知らる。東海
道は海岸附近を西走し、主なる養蠶はこ
れに沿ひて發達し、省線東海道本線また
これに沿ひ、二宮驛(明治三十五年設置)
を設く。二宮驛より湘南軌道自動車線は
北走して養野町の地。もと吾妻村といひ、
餘部郡養野の地。此地は和名抄、
昭和十年二宮町と改む。大字山西は往時
梅澤の里と呼ばれ、梅樹多く道樂准后の
題園園記に「旅衣春待心替らばきくも
なつかし梅澤の里」とあり。(川勾神社)
大字山西に鎮座。神社、祭神、大日本靈
命。式内社。相模國十三座の一にしてま
た二ノ宮たり。朱印領五十石。例祭、九
月二十八日。
【二宮村】 鳥取縣石見郡那賀郡の北部。
郡野津町の南及び東を圍みその南に隣り
西北は日本海に面す。東部及び南部は二
五〇―二六〇米の丘陵にして西北部に沿
岸平野開け海岸に平直なる砂浜をなす。
米・麥・芋等の農産を出し、副業には養
蠶盛んなり。また瓦製造職人としての出
産多し。海岸に山陰街道走りてバスの便
よく、また省線山陰線通過して西北境附
近に郡野津驛あり。この地は和名抄、郡
賀郡那賀の内。大字神主に縣社多神社
あり、里磐石見の二宮と稱す。(多神社)

四六四

郡の略々中央。南原邑の東約六軒。東部
は八〇五米を最高とする山地にて西に急
傾し、南境に長白山(四五六米)、中西部
に最高三三三米の丘陵峰あり、以て中央
に盆地を形成す。西北境を津江江の一支
なる藤川流れ、この流域と前記盆地とに
田畑拓く。産物には米・麥・棉・繭等あ
り。南原・雲峰間二等道路は中部を東西
に貫き、途中、雲笠里より南方求道へ至る
道路あり、藤川に沿うれば長水・茂菜へ
至る道路走り、何れもバスを通す。
ニハシジョー 二班城面 江原
朝鮮慶尙南道晋州郡の東端。晋州邑と馬
山府との中間にあり。南北約一〇軒、東
西約五軒。南部に海岸山脈走りて寶来山
(四四一米)あり、山脈北に延びて五峰山
を起すも、中部の南江支流沿岸に平地あ
りて田畑拓く。産物には米・大豆・大豆・
棉花・牛等を主とし、また成安嶺山の嶺
區の一部に當り金・銀・銅を出す。地督
府鐵道慶全南部線は北部を貫きて坪村驛
(大正十四年設置)あり、南部には班城・
雲田間の道路走りバスを通す。坪村驛の
東北約三軒の山中に聖殿寺あり。
ニヒヤクサンコーチ 二〇三高地
仁徳
ニフ 二生村 香川縣讃岐國小豆郡の
南部。小豆島の南方へ突出する半島の頭
部を占め、東は内ノ海灣に、西は池田灣
に面す。地形概ね山地をなし東北部最も
高くして、約五〇〇米の高度を有す。東

部、西岸共に平地乏しく平坦なれど西岸
に長者ヶ鼻の突出あり海上には辨天島浮
ぶ。粟落は多く西岸にあり。米・麥等の
農産及び水産・林産あり。北部には縣道
走る。此地は近世池田庄に屬す。(誓願
寺) 大字二面にあり。眞言宗御室派。妙
見山。行基菩薩の草創にして、寛文年間
惠基上人の傳へに傳へ、小豆島八十八ヶ所第
三十一番の札所なり。(誓願寺の蘇鐵)
指定天然記念物。誓願寺門内石櫃中に巨
大なる蘇鐵の雌株あり。根元は盛土をな
し、全周囲六米、土際より五本の太き枝
に分れ、主幹は高さ約二米に及び梢々北
に傾く。
ニフ 二部村 鳥取縣伯耆郡日野郡の
中部。西は西伯郡に隣し、南は雲取町、
東は日野村と隣接す。面積四五・五六
平方軒。日野川の左岸に近く、一支流村
内を北流す。地勢概ね五〇―七〇米
の南北に走る山地に占められ人口稀薄な
り。粟落の大部は中央の河川及び縣道附
近に集る。一般に養蠶行はれ繭の産額最
大にて米・木材之に次ぐ。他に醬油・酒
類・木炭・牛・馬等を産す。又南部山中
の福岡部落に製鐵場あり。附近はクロロ
ム鐵の産地なり。縣道にバス通じ省線伯
耆郡日野驛に到る。この地は和名抄、日
野郡野上郡に屬せるもの如し。大正十
二年二部村及び野上村を廢し、その區域
を以て二部村を置く。(福吉神社) 大字

福吉に鎮座。神社、祭神、天照大神・磐
田別命。古來天大明神八幡宮と稱し、郷
中の大社にして、一郷の崇敬社たり。例
祭、九月九日。
ニフ 壬生
【壬生】 安房國(千葉縣)の古地名。和名
抄に長狭郡壬生郷あり、爾布と調す。そ
の地今の安房郡八東村の地か。
【壬生】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名
抄に池田郡壬生郷あり、その地今の掛妻
郡宮地村の邊に當るか。
【壬生】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名
抄に上座郡壬生郷あり、爾布と調す。今
の朝倉郡内ならんも詳ならず。
ニフ 丹生
【丹生川】 黑瀬川とも云ふ。奈良縣吉野
郡にある川。吉野川の一支出。黑瀬川の東
境山地に發源し諸溪流を合し、賀名生村
にて流路を北に轉じ五條町の南部にて吉
野川に合す。古來歌枕として知らる。萬
葉・二・丹生の川瀬は流らすてゆくゆくと
こひたむ吾弟いで通ひこれ
【丹生村】 香川縣讃岐國大川郡の北岸。
三本松町の西方約一・五軒に位し、北部は
海に面し、西北方約三軒には津田町あり。
西部及び南部は低き丘陵地をなし、西境
に三九四米の山地あり。北部にも小丘陵
橋跨して北流し海に近く迫り平野は中部
より東部に開く。村内諸處に湖沼あり。
北方海上に女島・丸島・初島等の小島
浮ぶ。農業・漁業を主産業とし米・麥・

瓦礫等發見せらる。他の一は前者の西北
約一二米にあり、略々圓形をなし、火口
北面し底部に遺付蓋六個あり、その間の
通火溝は葉脈状を呈す。唐草瓦を發見せ
るも二箇ともに鎌倉時代を降らざる頃の
ものなり。〔大水上神社〕 大字羽方に鎮
座。神社、祭神、大山祇命。式内小社に
列し、當國二十四座の一。後鳥羽天皇の
元暦年中、源平二氏當國屋島に戦ふや、共
に當社に願文を捧げて戦捷を祈れり。
以て當時の盛を知るべし。往時は二ノ宮
と稱せり、村名これに起る。例祭、十月
四日・五日。
ニノミヤホンゴ 二宮本郷村
仁徳
千葉縣上總國長生郡の西北部。
茂原町の西北隣。全村丘陵地にて森林あ
り。中部には丘陵間に細長き平地ありて
水田・畑地をなし、米・麥を産し、養
蠶・養鶏も行はる。縣道茂原町に通じ、
省線房総東線茂原驛(社線南總鐵道の分
岐點)に出づるに便なり。この地は和名
抄、長柄郡管見郷の内なるべく、近世は
二宮庄と稱せし地なり。村内に數十の岩
穴あり、これ上古、土人の穴居の跡なる
べし。
ニノモリ 二ノ森 石鏡山脈の一峰。
主峰石鏡山の西段に連る山なり。愛媛縣
上浮穴郡西河村と周桑郡千足山村の境上
に位す。標高一九三〇米。西段は堂ヶ森
(一六九〇米)に連る。
ニハク 二白面 朝鮮全羅北道南原

ニノミヤ 二宮
【二宮町】 千葉縣下總品千葉郡の西部。
津田沼町の北隣にて、西は東葛飾郡の一
部と隣す。全町低き臺地をなし、西部に
は森林、東部には草原あり。臺地間に耕
地ありて農業行はれ、米・麥を産し、養
鶏も行はる。佐倉街道は津田沼町より東
りて町内を東北に走り、津田沼町へバス
の便ありて同町の省線總武本線津田沼驛
と連絡す。この地は和名抄、千葉郡山家
郡の内なり。明治五年十月陸軍練兵場を
設け、翌年四月明治天皇行幸遊ばせ
れ、習志野原の御名を賜ふ。いま東京靈
兵分隊習志野分隊、演習旅団、陸軍騎兵
學校等あり。明治天皇は明治二年東京御
再幸の際、同六年大和田原行幸の際、同
八年習志野下志津原行幸の際、同九年習
志野行幸の際、同十二年千葉縣下志津
原等數度行幸あり、いま明治天皇習志野
行幸所として指定史蹟たり。(二宮神社)
大字三山に鎮座。神社、祭神、須佐之男
命・稻田比賣命外二神。式内社。往古は
近在二十三村の總領守にして社靈隆盛な
りしが、貞享年中災上し、社主・神寶・書
記等悉く失ふ。例祭、十月十六日。
【二宮町】 神奈川縣相模國中部の南部。
相模灣に臨み、西は足柄上郡及び足柄下

郡の一部と隣す。全町丘陵地にて、南部
の海岸附近のみ稍平地をなす。農業行は
れて麥・甘藷・馬鈴薯・蕎麥・粟・大豆
等を産し養蠶も行はる。海岸は平坦なる
砂浜にして海水浴場として知らる。東海
道は海岸附近を西走し、主なる養蠶はこ
れに沿ひて發達し、省線東海道本線また
これに沿ひ、二宮驛(明治三十五年設置)
を設く。二宮驛より湘南軌道自動車線は
北走して養野町の地。もと吾妻村といひ、
餘部郡養野の地。此地は和名抄、
昭和十年二宮町と改む。大字山西は往時
梅澤の里と呼ばれ、梅樹多く道樂准后の
題園園記に「旅衣春待心替らばきくも
なつかし梅澤の里」とあり。(川勾神社)
大字山西に鎮座。神社、祭神、大日本靈
命。式内社。相模國十三座の一にしてま
た二ノ宮たり。朱印領五十石。例祭、九
月二十八日。
【二宮村】 鳥取縣石見郡那賀郡の北部。
郡野津町の南及び東を圍みその南に隣り
西北は日本海に面す。東部及び南部は二
五〇―二六〇米の丘陵にして西北部に沿
岸平野開け海岸に平直なる砂浜をなす。
米・麥・芋等の農産を出し、副業には養
蠶盛んなり。また瓦製造職人としての出
産多し。海岸に山陰街道走りてバスの便
よく、また省線山陰線通過して西北境附
近に郡野津驛あり。この地は和名抄、郡
賀郡那賀の内。大字神主に縣社多神社
あり、里磐石見の二宮と稱す。(多神社)

【二宮村】 香川縣讃岐國小豆郡の
南部。小豆島の南方へ突出する半島の頭
部を占め、東は内ノ海灣に、西は池田灣
に面す。地形概ね山地をなし東北部最も
高くして、約五〇〇米の高度を有す。東
部の一部と隣す。全町丘陵地にて、南部
の海岸附近のみ稍平地をなす。農業行は
れて麥・甘藷・馬鈴薯・蕎麥・粟・大豆
等を産し養蠶も行はる。海岸は平坦なる
砂浜にして海水浴場として知らる。東海
道は海岸附近を西走し、主なる養蠶はこ
れに沿ひて發達し、省線東海道本線また
これに沿ひ、二宮驛(明治三十五年設置)
を設く。二宮驛より湘南軌道自動車線は
北走して養野町の地。もと吾妻村といひ、
餘部郡養野の地。此地は和名抄、
昭和十年二宮町と改む。大字山西は往時
梅澤の里と呼ばれ、梅樹多く道樂准后の
題園園記に「旅衣春待心替らばきくも
なつかし梅澤の里」とあり。(川勾神社)
大字山西に鎮座。神社、祭神、大日本靈
命。式内社。相模國十三座の一にしてま
た二ノ宮たり。朱印領五十石。例祭、九
月二十八日。
【二宮村】 鳥取縣石見郡那賀郡の北部。
郡野津町の南及び東を圍みその南に隣り
西北は日本海に面す。東部及び南部は二
五〇―二六〇米の丘陵にして西北部に沿
岸平野開け海岸に平直なる砂浜をなす。
米・麥・芋等の農産を出し、副業には養
蠶盛んなり。また瓦製造職人としての出
産多し。海岸に山陰街道走りてバスの便
よく、また省線山陰線通過して西北境附
近に郡野津驛あり。この地は和名抄、郡
賀郡那賀の内。大字神主に縣社多神社
あり、里磐石見の二宮と稱す。(多神社)

四六三

ニフカ—ニホク

満・鳥卵・葉標草・魚類などの産物あり
また特産にはナット御製工あり。阿波街
道中央を東西に走り途中一遺分れて西北

西町にバスの便あり。又省線高徳線中央
を通過して丹生(昭和三年設置)あり。
この地は和名抄、大内郡入野郷の内。源

平盛(元暦二年二月、義経、其の日
は阿波國板東西打過て、阿波と讃岐の境
なる中山の山口の南に陣を取り、翌日は

引田浦入野、高松郷を打過、尾島の城に
押寄せりとある入野は此地なり。〔石清
水神社〕大字大谷に鎮座。郷社。祭神、

ニホリ—ニホン

兩部に千米に近き連綿南北に併走し北部
にて少しく傾斜し稍廣き谷を開く。その
低地に耕地拓かれ農業を営む。米・麥を

部の低地にある鏡川村落より北に縣道出
で今治市に至り、バスを通ず。村内に相
愛護あり、高さ三二米、幅三米。
【ニフカワ 壬生川】 省線高徳線本

線の一驛(大正十二年設置)。愛媛縣周桑
郡多賀村にあり。
【ニフノ 仁豊野】 兵車縣飯路市の町。
播但線の仁豊野驛(明治二十九年設置)を

置く。
【ニベソツ】 山 北海道十勝支庁上
川郡新得町と河東郡音更村の境上に跨る
山。標高二〇一三米。石狩岳と共に大雪

ニホリ—ニホン

一時に収まる。この山は近年まで登山路
開けざりし爲め登山者無く、大正十五年
七月、数日の暴行に依り、登山に成功せ

したが、今は登山路開け、僅かに二日乃至
三日にて比較的容易に達頂し得らる。
【仁保 仁保】 廣島縣安藝郡にありし村。もと

は仁保島村といふ。明治三十七年大字字
品を廣島市に編入す。大正六年仁保島村
を仁保村と改め、昭和四年廣島市に編入

せらる。
【仁保村】 山口縣周防國吉敷郡の東北端。
山口市の東北約六軒。東は佐波郡に、北

ニホリ—ニホン

なり、中世は仁保氏と云ひ、建久六年の
文書に見えて法勝寺領なり。〔八幡宮〕
大字仁保下郷に鎮座。郷社。祭神、田心姫

命・調津姫命外三神。建久六年秋、相模
國鶴ヶ岡八幡宮より分霊創祀せしもの。
例祭、陰曆八月十六日。
【ニホ 瀬保】 近江國(滋賀縣)の古地名。

和名抄に野洲郡瀬保郷あり、その地は今
の野洲郡兵主村・北里村の邊に當るなる
べし。
【ニホトヤ 二方鳥屋山】 註、
那須火山脈に屬する一峯。高原山の北西

ニホリ 仁堀村

ニホンキ 二本木

ニホンコバ 日本コバ

ニホンマツ 二本松

仁堀村 山縣縣南國吉野郡
の北部。西北は久米郡に接し、同郡の
割町の東南約二軒にあり。全村山地の傾

斜地をなし南北より中央へ緩く下り中央
南端に小河東北流して二軒餘東にて吉井
川に合す。米・麥・蕎麥・木炭の外、薄荷、

生柿の特産あり。縣道中央を貫き、南方
岡山市に至るバスあり。〔布勢神社〕大
字仁堀西に鎮座。郷社。祭神、大穴牟禮

神。式内社。祭神は此地の豪族布勢氏の
祖神なりと云ふ。神階は本國總社神名帳
に從二位と見ゆ。もと祭田は七段七畝を

有すと云ふも、備前國誌には近世まで一
石八斗とあり。例祭、十月十五日。
【ニホン 日本】
【日本】 日本
【日本】 日本

【日本】 日本
【日本】 日本
【日本】 日本

【日本】 日本
【日本】 日本
【日本】 日本

【日本】 日本
【日本】 日本
【日本】 日本

【日本】 日本
【日本】 日本
【日本】 日本

【日本】 日本
【日本】 日本
【日本】 日本

【日本】 日本
【日本】 日本
【日本】 日本

二本木 信濃本縣の一驛
(明治四十四年設置)。新潟縣中頸郡中
郷村にあり。
【ニホンコバ 日本コバ】 鈴鹿山脈の
一峯。滋賀縣彦根市の南方約二〇軒、同

縣愛知郡東小椋村と高野村との境上に位
する山。標高九三三米。山頂は草帯の
高原状をなし、一帯の中に鈴鹿の草嶺、

伊吹・比叡の山々を望見し、絶好なる景
望をなす。特に新緑・紅葉の候は美は
し。山頂より東方へ約二〇〇米下りし箇

所にヒョコノ穴と稱する鍾乳洞あり。北
西斜面より大穴川を發して北流す。山名は

昔二人の木樵この山に登りし時、豁然と
眺望開けしかば「好コバぢや、日本一の
コバぢや」と云へるに由来すと。コバと

は懸崖を意味す。
【ニホンバン 日本橋區】 東京市三

十五區の一。麹町區の東に隣り、北は龍

田川及び神田川を以て神田・淺草二區と

境し、南は京橋區に接し、東は隅田川を隔

て、本所・深川の兩區に對す。江戸城下

の町人町として發達し發達して古來人家

の最も密稠せる所なり。爲に地價頗る高

く、江戸の目買の場所と稱され、土一

升金一升の誇を生みし所なり。斯る状

態は明治・大正・昭和の現代を通じて持

續され、殊に震災後一般經濟界の不況は

本縣(明治二十年設置)は隣村以下に
置く。この地は郡の主邑にして舊郡役所
のありし所。舊奥州街道の宿驛にして陸

羽街道に沿ふ二つの街道町が連絡せし雙

子町なり。丹羽氏十萬石の舊城下にして

繁盛福島に次ぎしが、今は郡山にその繁

榮を奪はる。清和源氏、高山氏の族、二

本松氏は此地より起りしもの。明治天皇、

明治九年奥羽御巡幸の際、同十四年山

形・秋田及び北海道行幸の際この地に御

小休あらせられ、いま明治天皇行幸所二

本松製絲會社址として史蹟に指定さる。

〔二本松城〕二本松町の地。興國四年、

足利尊氏、高山國を此に居らしめ、東北

の官軍に當らしむ。應永二十年、高山滿

泰始めて此に城を築き、子孫二本松氏を稱す。

五世義繼に至り、天正十四年四月、伊達

氏と争ひて敗死す。胤生・上杉兩氏の會

津に對せられし時は、各城代を置かる。

【二本松神社】粟ヶ畑に鎮座。縣社。祭神、伊弉諾美命・事解男命外二神。久安年中、當郡殿地々岡城主安達盛長、熊野大神を勧請せし守護神といひ、また源義家・源朝光といふ。爾來、島山・伊達・蒲生・加藤・松下氏等の崇敬厚く、社殿の造替等間然するところなり。例祭、九月二十五日。

【二万村】 岡山縣備中國吉備郡の西南部。倉敷市の西北約三軒、西南は後日郡船橋村に隣接す。村内は概ね百米乃至二百米の丘陵起伏するも、開折進みて谷底廣く、北部を高梁川の一支小田川東流し沿岸に沖積地あり。米・麥を産し、なほ米の裏作に蕎麥を栽培し、繭・柿を出す。街道は谷底を縫うて通ずるも交通便ならず。この地は和名抄、下道郡通摩郡なり。風土記に據れば、皇極天皇、百濟を救はむとして筑紫に幸し給ひし時、中大兄皇子、兵を此に集め、二萬人を得、大いに喜び二萬の地名を與へ後に改めて通摩郡となす。因より地方に附會せる傳説に過ぎざるも、遍く世に喧傳せる事にして、三善清行の意見封事に此事見ゆ。夫木・七「君がため二萬の里人うちむれて取る若苗や萬世のかす 陸信」

【仁万町】 島根縣石見國通摩郡の北部。日本海に面し、大森町の西北約三軒、面積三・九九方軒。東北境に二百餘米の丘陵性山地連り、西南部にも丘陵起伏し米藪は松ヶ森の突出となり、海岸は

崖をなす。仁万川は中部を西北流し、流域にはやや廣き沖積地あり、また河口附近の海岸は砂灘をなして漁船の好泊地たり。街道は海岸沿ひに通じ仁万川に沿うて大森町方面に至る街道を分ち、バスを通ず。省線山陰本線中部を略南北に走り仁万町(大正六年設置)を置く。米・繭の外に漁獲も多く、特産に素乾あり。此地は舊山陰道に沿はざりしも、大正六年に山陰本線通じ且つ一時終點驛たりしことあり、爲に新に後背地として大森町方面を控ふるに至り商業も漸次發達せり。人口も大正九年一七六七人なりしが、同十年一九八八人、昭和五年二一六八人、同十年二二一五人と増加し、同十年の一方新人口密度は五五人にて本郡第一の密度たり。而して昭和十一年町制を施行し、縣立農學校あり。この地古くは和名抄、通摩郡大森町に屬せる地なり。

【通摩郡】 島根縣(石見國)十三郡の一。縣の中部に位し、北は日本海に臨む。郡内山岳丘陵起伏して平地と稱すべきものなく、河川は静開川の北流して日本海に入るのみ。海岸には平地北流して風曲稍々多き大なる入江はなく良港に乏し。南部に温泉津の鎮地あるに過ぎず。農産・水産・林産あり。郡内に大森町・温泉津町・仁万町の三町、外十六箇村を含む。山陰道は大森町を通過して東部を東北より西南に通じ大森町より其他街道四方に派出し西南温泉津町へ至る

【丹生村】 群馬縣上野郡北甘樂郡の北部。妙義山の東南方に、一ノ宮町の西隣にあり。西境は約七三〇米の山地にて村内に傾斜し、東部はその山裾にて耕地・桑畑あり。米・麥・繭を産す。飯道は一ノ宮町に通じバスの便あり、同町の上信電氣鐵道土州一ノ宮線に出づるに便なり。此地は和名抄、甘樂郡丹生郷の地にて、丹生山は義貞の弟新田四郎義重の居所にして子孫依りて住し、義重七代の商主水正堂

【丹生村】 群馬縣上野郡北甘樂郡の北部。妙義山の東南方に、一ノ宮町の西隣にあり。西境は約七三〇米の山地にて村内に傾斜し、東部はその山裾にて耕地・桑畑あり。米・麥・繭を産す。飯道は一ノ宮町に通じバスの便あり、同町の上信電氣鐵道土州一ノ宮線に出づるに便なり。此地は和名抄、甘樂郡丹生郷の地にて、丹生山は義貞の弟新田四郎義重の居所にして子孫依りて住し、義重七代の商主水正堂

【ニヤウチナ】 社 臺灣臺南州嘉義郡にある舊地。曾文溪支流ニヤウチナ溪右岸にあり、クオウ族のタラン番に屬する高砂族の部落。戸口二八、人口二〇(昭和十一年調査)。

【丹生村】 群馬縣上野郡北甘樂郡の北部。妙義山の東南方に、一ノ宮町の西隣にあり。西境は約七三〇米の山地にて村内に傾斜し、東部はその山裾にて耕地・桑畑あり。米・麥・繭を産す。飯道は一ノ宮町に通じバスの便あり、同町の上信電氣鐵道土州一ノ宮線に出づるに便なり。此地は和名抄、甘樂郡丹生郷の地にて、丹生山は義貞の弟新田四郎義重の居所にして子孫依りて住し、義重七代の商主水正堂

純に至り後附に移住す。萬葉集第十四巻に「眞金吹く丹生の眞朱の色に出で音はなくのみぞ我が戀ふらくは」とあるは此の地の山なり。

【丹生郡】 福井縣(越前國)十一郡の一。縣の西北部に位し、福井市の西約四軒、北は坂井郡、東は吉田・足羽・今立三郡、南は南條郡に隣接し、西は日本海に臨む。面積三六六・三三方軒。西部・中部には山地連り、西部海岸近くの山地は五百乃至六百米余にて一般に東に低く、東境を九頭龍川の一支日野川北流し、沿岸には沖積地ありて、越前平野の西南邊をなす。山地は直ちに海に迫りて海岸は斷崖をなし風曲に乏しく、岩礁多く良港地なし。農産・林業よく發達し織物も近來盛なり。農産物には米・麥・大豆・繭あり。杉・松・樺・竹材の外に、水産に雲丹・和布・蟹を初め鱈・鰯・烏賊等あり。工業に入組・木綿・麻織・生糸・菅笠・瓦・木炭・薪・陶器・酒・紙等あり。街道は東部低地にやゝ發達するも一般に不便にして社線動力電氣鐵道は中部をほぼ東西に通ず。本郡は續紀實錄五年紀に郡名始めて見ゆ。和名抄は爾不と註し賀茂・野田・丹生・岡本・從者・可知・朝津・三太・泉の九郷を管す。もと日野川上流の大郡なりしが、平安時代の初期、東部を割きて今立郡を置く。中世に至り南部を割きて南條郡を建てしもの如く、近世これに復ひて今日に至る。

【丹生河】 萬葉集に見ゆる地名。その地いま奈良縣吉野郡小川村の丹生川上神社の神社の前を流る。吉野川の一支出。萬葉・二「丹生の河瀬に渡らしてゆくゆく」と戀痛し吾等こち通ひこれ 長皇子」

【丹生】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に讀數郡丹生郷あり、爾布と訓す。その地はいまの讀數郡内ならんも、詳かならず。

【丹生乃河】 飛騨國(岐阜縣)の古地名。萬葉集にその名出づ。即ち飛騨・信濃の界なる乘鞍岳の麓の大丹生池より發し、宮川に入る各川。いま小八賀川と稱す。大野郡丹生川村あり。萬葉・七「妻太人の眞木流すと丹生の河言はかよへと船そ通はぬ」

【丹生村】 三重縣伊勢國多氣郡の中央東部。柳田川中流の右岸に沿ひ、松阪市の西南方五軒余。西北は川を隔てて飯南郡に對す。村内約一〇〇—一五〇米程度の丘陵をなし中部より西北部にかけて平地あり。柳田川は西北境に沿ひて東北に流る。米・繭・麥等の農産及び林産・畜産・織産・水産・工業等あり。全戸の生業狀は農業一七六戸・商業五四戸・自由業二四戸・工業二二戸・水産業一戸・交通業四戸・其他二八戸なり。和歌山別街道中央を横斷し之に沿ひて西部に市街地あり。東南部には省線紀勢東線沿み、柳原驛(南約一軒)に近し。和名抄に飯高郡丹

生郷とある地なり。古へ米・砂・水銀を産せしより丹生の郷名生れしものといふ。中世は丹生森といふ。もと和歌山別街道の驛として發達したる地なりしが紀勢東線の開通後は漸く衰ふ。(神宮寺、丹生の大神) 眞言宗山階派。眞言山。寶龜五年(七二五)開創に傳り、弘仁七年(八三六)これを重修し、高野山に傳す。縣下有数の名刹。本尊十一面觀音に空海大師の作といふ。(西森寺) 淨土宗。丹生山。所藏の法然上人繪佛二幅(絹本着色)は室町初期の製作に傳り國寶。

【丹生村】 滋賀縣近江國伊香郡の北部。湖川上流に沿ふ。東北隅の三國ヶ嶽を境に北は越前國南條郡に、東北は美濃國揖斐郡に接す。村内山岳重疊し、湖川は西北隅より略中央を南流す。平地に乏しく主生業は林業にして木炭を主産物とす。次で米作・養蠶行はれ、また牛・馬・養蚕・木産等山村特有の産物あり。省線北陸本線中之郷(越前通)バスの便あり。(洞寺院) 大字宮並にあり。曹洞宗。鹽谷山護國寺と號し福井縣龍澤寺末。寺傳に僧天國聖津祝山に一度を結びしに始る。舊寺領三十石。

【丹生村】 奈良縣大和國吉野郡の西北部。下市町の南に接する山村なり。南境には東西に山地連り、其の西部に標ヶ嶽(七八四米)聳ゆ。西北部にも高嶽(六一八米)一帶の山地あり。山地何れも中央へ傾斜し丹生川迂曲しつゝ西に流る。米・

多を産し又養蠶盛にして繭を出す。下市町市街地へバスの便あり。中世黒澤社と呼びし地にして現在の黒澤村を合してもと南野村と云ひしが明治四十五年分縣獨立して丹生村と名付く。蓋し村名は丹生川上神社下社あるによる。(丹生川上神社) 官幣大社。祭神、高麗神(上社)・四尊女神(中社)・間瀬神(下社)。當社は三社より成り、上社は川上村に中社は小川村に下社は當村に鎮座す。三神共に水に鎮座する神。往昔この神に於て、幣懸絶えし深山なる吉野丹生川上に我が宮柱を建て齋きながら甘雨を降し霖雨を止めむと宣ひければ、即ち社殿を昏み祀りしを創めとす。時に白風四年なりと云ふ。天平寶字七年早稲ありて幣帛・黒馬を獻じて雨を祈り、寶龜六年雲雨ありて幣帛・白馬を奉る。爾來これを例とす。延喜の制に名神大社に列し、元慶元年には正三位に陞せらる。列聖の尊崇篤く、寛平七年には勅して神地を妨げ難し奉る事を嚴禁せしめらる。中世に二十二社の第二十一に列し、略して丹生社とも川上社とも稱す。上社は吉野川の上流に、中社は御手澤川の畔に、當下社は丹生川の瀾る處に鎮座し、清冽と泉の景勝を併有す。例祭、十月八日(上社)・十月六日(中社)・六月一日(下社)。

【丹生乃嶺山】 萬葉集に見ゆる地名。いま奈良縣吉野郡四郷村・小川村邊の山をいふが。萬葉・一三「斧取て丹生の嶺

【丹生村】 和歌山縣伊勢國日高郡の西部。日高川の左岸に沿ひ、御坊町の東方約四軒にて、地形東部に高く西部に低し。東北境には和佐山(四八九米)あり。東南境には眞妻山(五二四米)あり、兩山地西方に高さを減じ、眞妻山の西方(村の西南境)には寺山(三三七米)あり。中央には東境に發する一河川あり村内の水を集めて西流し西北境に沿ひ迂曲しつゝ西南流する日高川に合し沿岸に沃野開く。米・柑橘・繭の農産及び工業・林産・畜産・水産・織産あり。中央には御坊町より東方に走る飯道あり。西部には省線紀勢西線沿りて和佐驛(昭和五年設置)あり。村社丹生神社あり、村名これより起る。

【丹生】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に安藝郡丹生郷あり、爾布と訓す。その地今の安藝郡伊尾木村・東川村・川北村の邊に當る。

北方へ傾斜し、西北部にも約一〇〇米程の丘陵地帯を有する。中央は東北方に開ける低地をなして小河此處を流れる三軒東北方面にて別府灣に注ぐ。耕地よく拓けて米・蕎麥の産多し。低地に街道走り東北約二軒には省線日豊線あり市街ありりてバスを通ず。この地は和名抄、海部郡丹生郷の地にして、中世は丹生庄曰丹生と稱せし地なり。風土記に丹生郷とあるも此地なり。〔丹生神社〕大字原に鎮座。郡社。祭神、水神。社記に建久二年大友能直入部の時海上颶風の虞あり、明神の靈威に依りて其の難を免る。因りて之を祀りて神田若干を寄すとあり。例祭十月二十九日。

【丹生】豊後國(大分縣)の古地名。和名抄に海部郡丹生郷あり、その地は今の北海部郡日杵町・丹生村の邊に當る。延喜兵部省式に豊後國丹生郷馬五疋とあるは本郷の地。即ち郷にして郷を兼ねるものなり。

【丹生川村】^三 岐阜縣 飛騨國大野郡の東北端。高山市の東部に接し、東に乘鞍嶺を越え長野縣南安曇郡に界し、北より西へかけては吉城郡に、東南は益田郡に接す。東部山地に發源せる小八賀・荒城兩川は村内を西へ貫流し宮川に會し、河川の谷を隔つ數條の山脈東西に走り全村概ね高原性なり。西部河岸に耕地開け、農業を主産業とし、林業・養蠶次で盛なり。米・木炭・繭を主産物とし食

用百合の特産あり。其他、東北部には八本原牧場ありて牛馬の産もあり。縣道小八賀川に沿ひて東西に走り高山市へバス通ず。此地は和名抄、大野郡阿拜郷の内にて、いま中部山岳國立公園の内なり。萬葉集第七卷に見ゆる「斐太人の眞木流す」と丹生の河言はかよへど船ぞ通はぬの歌は此地なるべし。〔櫻本神社〕大字櫻本に鎮座。郡社。祭神、伊弉諾大神。式内社本郡三座の一。斐太後風土記に祭神は大山祇神とし、里傳も亦大山祇神とす。例祭、九月十二日。〔千光寺〕大字下保にあり。眞言宗高野派。製炭山。永祿七年災禍に罹りて炎上し、天正十五年命森法印これを再興す。永祿七年迄は山十三坊ありしも今は本寺のみとなる。〔千光寺の五本杉〕指定天然記念物。千光寺境内にあり。登山口より登ること半軒にして道路の曲角の傾斜地に杉の大樹あり。これ即ち五本杉にして、幹の上部は五本に分たれ、分岐直下の幹圍一一米餘なり。

【丹生川村】^三 重慶縣

伊勢國員辨郡の中部。伊勢平野の西北部を占め阿下喜町の南約三軒。西隅は鈴鹿山脈東麓の一部を占めて山地あれど其他は概して地形平坦にして、青川北流に沿ひて東流して町屋川に入り東南部を町屋川僅に掠めて東南方へ向ふ。米・蕎麥を主産物とし絹製品の特産あり。外に工業・畜産・林産・養蠶あり。西部には阿下喜

町より南下する湯見街道走りてバスの便あり。〔鴨神社〕大字丹生川久上に鎮座。郡社。祭神、別當大神・玉依姫外三神。式内社。例祭、十月二十日。

【丹生川町】^三 愛媛縣 縣伊豫國周桑郡の東北部。北は國安村に南は多賀村に界し、東は盛澤に面す。面積三・八七方軒。高嶺半島東岸頭部の崖下に發達せる廣く沖積平野の一部を占め土地平坦にして肥沃なれば耕地よく發達し農業盛なり。米・蕎麥の産多し。特産として魚・漬物・海苔・貝類・鰻魚等にて、最近ではステイプル・フアイバをも産出す。従つて之等の取引盛にして商業活氣を呈す。市街地は南部に發達し多賀村市街地と合す。これを中心とし縣道三方に出で一は南方丹原町に通じバスの便あり、省線兼津本線は西部を設置し、岡村多賀村に壬生川(大正十二年設置)を設く。町の人口、四〇七九人。一方新實に一〇五四人を算し人口稠密なり。古くは和名抄、桑村郡御井郷の地なり。中世は河野黨の壬生川氏の居邑たり。明治三十四年町制を布く。〔保内八幡神社〕大字保内海等に鎮座。郡社。祭神、應神天皇・仲哀天皇外五神。古来よりこの地の氏神にして、もと火内八幡宮と稱す。例祭、十月十日。

【入室】^三 朝鮮慶尙北道 遼寧州西外東面の里名。地督府鐵道東海南部端の入室驛(大正十年設置)あり。

【入善】^三 富山縣越中 國下新川郡の北部。泊町の西約五軒。黒部川扇狀地の略中央北端を占め、北は日本海に面す。土地平坦肥沃水田よく拓け農業盛なり。米の産額多し。黒部川西風の名産地にて夏季その出荷多し。夾いで清酒・蕎麥品其他の工産物を産す。省線北陸本線及び北陸道中央を東西に貫通し前者の入善驛(明治四十三年設置)を置く。三日市・泊・舟見各町へバスの便あり。此地は和名抄、新川郡佐味郷の内にして、東大寺要録に入善庄とあれば、當時は寺領たりしものなるべく、源平盛衰記に宮崎氏の一族に入善小太郎家安とあるは此地の豪士か。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際この地に御小休あらせられ、いま明治天皇入善御小休所として指定史蹟たり。〔入善神社〕大字東寺田に鎮座。郡社。祭神、磐田別命。舊稱、北陸宮鎮守八幡宮。社名は入善小太郎此處に隠居し此の地を入善の郷と唱へしに因る。

【入田】^三 徳島縣阿波國西郡の東部。

石井町の南に接し、徳島市の西南方約五軒に位し、東は名東郡に界す。南境には四〇八米の山地、建治山等ありて南部は其北斜面をなし北流には小丘陵東西に連る。中央には別宮川(吉野川の分流)の支流粘嶺川東流し沿岸平野をなす。土質概ね肥沃にして農作に適し米・蕎麥の外、果樹

【入道】^三 中國山脈の一峯。津山市の北西方、約二七軒、岡山縣倉田郡富村と筑前郡湯原村・中和村に跨る。標高一〇四〇米。南段に雲山(二〇七四米)、北東方に津原山(一一八八米)嶺く。

【入野村】^三 廣島縣安藝國 豊田郡の西部。賀茂郡竹原町の北方六軒余に位し、西北部及び南部は賀茂郡に界す。全村丘陵起伏し東及び南に高し。沼田川支流西部を東北流し北方一軒足らずにして東南流する沼田川に合す。農産最も多く林産・工業・畜産もあり。中央を縣道横断し、西部河谷には省線山陽本線通過して河内(北方半軒)及び白市(南方二軒余)に近し。この地は和名抄、加茂郡入農郷の地なり。入農は刊本伊比乃と訓じ、高山寺本は爾比乃と注す。もと賀茂郡に屬せしが明治に至り郡區制となるに及びて豊田郡に入る。古刹竹林寺あり。藤澤通志に竹林寺は入野村の山上にあり箕山と號す、所傳の藤起によれば此寺、舊號櫻山花王寺とて天平年間(約七〇〇)所たり、後に小野篁、所生の藤を以て改號すといふ。いま小野篁産湯地と云ふものあるも如何にや。

【入野】^三 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に大内郡入野郷あり、爾布乃也と訓す。その地今の太田郡丹生村に當るか。

【如意】^三 愛知縣西春日井郡にありし村。

【入田村】^三 大分縣豊後國直入郡の東南部。玉來町の東に接し、北は竹田町に嶺く。東は大野郡なり。村内概ね四五〇米前後の丘陵山地にして大野川支流新方川中央を東北に貫流し沿岸に僅少な低地を有す。北境には玉來川東北流し約二軒先にて大野川に合す。農業を主とし米・蕎麥を出し山地は木材・薪炭を産す。竹田町より南下する街道は中央河川に沿ひて西南方へ延ぶ。省線豊後本線豊後竹田驛へ北約二軒、玉來驛へ西約一・五軒なり。この地は和名抄、直入郡直入郷の内にして近世は入田郷と稱せり、村名はその遺稱なるべし。國志によれば、津賀本郷城は

入田郷次原にあり、入田丹後守親直の居館なりとあり。近年、大字小高野より三角無式磨製石九個を出土せり。

【新田】^三 上總國千葉縣の古地名。和名抄に神志郡新田郷あり、その地今の君津郡小瀬村の邊か。

【新田】^三 武藏國(東京府)の古地名。和名抄に多摩郡新田郷あり、爾布多と訓す。その地今詳かならざるも杉並區高島寺の邊か。

【新田】^三 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に和氣郡新田郷あり、爾布多と訓す。その地今の和氣郡本莊村・眞山村の邊に當る。

【新田】^三 宮崎縣日向國兒湯郡の東南部。一ツ瀬川河口近くにまたがり、西は妻町に、東北は高鍋町に接し、南は宮崎郡佐土原町に界し、東は宮田村を隔てて日向灘なり。北部は臺地丘陵をなし北境に最も高く約一二—三〇米を有す。南部は一ツ瀬川流域の沖積低地開け、地形平坦にして一ツ瀬川東南流し約五軒先にて海に注ぐ。米・蕎麥・菜種を主産物とし、特産には千切大根・干柿等あり。佐土原町・高鍋町を結ぶ縣道東南部を走り、北部には高鍋町より妻町に出づるものあり。一ツ瀬川には舟運の便あり。この地は和名抄、那珂郡夜間郷の内なるべく、新田の舊名を新稱と稱し、島津七家の一なる新

【入道】^三 秋田縣男鹿半島西北端の岬。數多の露岩・隱岩を圍繞するも岬上は平坦なり。岬上に燈臺あり。燈臺は四白先、毎十秒一閃光、先達距離二〇哩なり。

【入道】^三 紀伊半島の南部、和歌山縣西牟婁郡三川村に峙つ山。標高一〇一〇米、山體第三紀層より成る。北方、東より西に大塔山(一一二二米)、法師山(一一二〇米)、百間山(九九九米)連嶺をなす。東方斜面より日置川發源して南西流し、川を堰て南方に高尾山(九四二米)對峙す。

【如意】^三 愛知縣西春日井郡にありし村。

【如意】^三 愛知縣西春日井郡にありし村。

【如意】^三 愛知縣西春日井郡にありし村。

【如意】^三 愛知縣西春日井郡にありし村。

ニヨイ—ニラヤ

明治三十九年本村に一村を設け、楠村を置く。

【如意ヶ嶽】 ↓大文字山(京都市)

【如意ヶ嶽】 京都市の如意ヶ嶽に沿ひて滋賀縣大津市の三井寺に出づる路。

ニヨセ 如是 大阪府三島郡にありし村。昭和九年三島郡高槻町に編入す。

ニヨド 仁淀川 四國島の西部、愛媛・高知兩縣に跨り、北より南に流れて土佐灣に注ぐ河。石碓山(一九八一米)の南斜面より發源して、西河の絶景地を南に流れ、表野々に於て楠野川を合す。この附近より西流し、石碓山より南流せる長瀬川を合して、御三戸ノ瀨に至り久萬川と合流す。この久萬川・西河川の東西流路は構造谷にして、これ以北の各支流地帯を久萬高原と稱し、各河間の地に八百米内外の平坦面残存す。この地域には森林發達し、ブナ・スギ・ヒノキ等の良材及び薪炭を供給す。御三戸ノ瀨より下流は謂ゆる先行性河川にて、約十軒間、劍山山脈を横斷す。川面に至りて黒川を合して東流し、愛媛・高知兩縣境に至る。これより下流を仁淀川と稱す。川口葉落に至りて池川を合せ、越知町・黒野村を過ぎ、出束地において八川川を合す。池川・八川川の上流は東北東—西南西の構造谷にして、この谷には椿・三椏の栽培盛んなり。川口より河口まで六〇軒の間は舟行の便あり、伊野町に紙の原料を運補す。今は越知郡を経て佐川郡に貨物を運

ぶ。本流は伊野町まで東流し、これより南に流路を變ず。下八川流地・神谷は副業的製紙業盛んなり。伊野町・高岡町には工場組織の製紙行はる。本流は東西に廣がる高岡平野を灌漑し、伊野より下流の河岸には桑畑の分布多し。全長約一三二軒。

ニヨホー 女峯山 日光火山群の一峯。日光市街の西北方にありて日光火山群の東端に噴起せる火山の火口壁にして、東方の赤坂山と共に一連の火山に屬せしが、その火口壁の侵蝕崩壊の逞しき作用のため箇々に分離して幾多の奇峯峻嶺となり、前記ニヨセを代表するものとされり。女峯はまた女峯、女表、或は如峯に作り、海拔二四六三・五米にて日光火山群中男登山に次ぐ高峯なり。中腹より山腹にかけて侵蝕顯著にて壯年期の山貌を呈せるに對し、山麓は頗る整然たる緩傾斜を以て四方に下り、殊に南麓は廣き裾野をなし大谷川河原に及び、東は六方越及び大峯尾に下り、西南は眞名子・男峯等の火峯の噴起せる爲、整然たるべき勾配を獲られ荒涼の上流はそこの總合線を流る。北斜面は崖の發達著しく幾多の小山背に分れて鬼怒川窪谷に下り、樹木鬱蒼と繁茂し南斜面と著しく景観を異にす。山腹、山腹の五葉松の美觀、殊に頂上の社殿の造り東北方一面深溪に臨んで走る長き四軒餘の五葉松の林相美は奇觀なり。山麓は寶石山安山岩及び集塊岩等

ニラガワ 葦川村 群馬縣上野國山田郡の南部。栃木縣足利市の西南方約三・五軒にして、西部は新田郡太田町と隣す。西境には金山(二三三米)あり。他は平地開けて水田・畑地あり。米・麥を産す。縣道は足利市及び太田町に通じ、社線東武鐵道伊勢崎線は村内を西南に走りて葦川驛(昭和七年設置)を置く。この地は和名抄、山田郡葦川郷の内にして、大字矢場は舊例幣使街道に當る、新田山由良氏の家臣に矢場内匠助あり、此地に在名を稱せしものか。

ニラツカ 葦東 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に那波郡葦東郷あり、爾良郡加と調す。その地今の佐波郡名和村に當る。

ニラヤマ 葦山村 群馬縣伊豆國田方郡の北部。熱海火山脈の西麓を占め、三島町の東南方約六軒にあり。伊豆牛島最狭部中央に位し、東に連なり熱海火山脈西へ裾野を引き、西境を狩野川北流し西部に平野開く。農業・養蠶を主産業とし、米・繭の産多し茶・蜜柑等の特産もあり、次いで工業・牧畜盛なり。西部は社線鐵道及伊勢崎線南北に走り、原木(明治三十一年設置)・葦山(明治三十三年設置)・伊豆長岡(明治三十一年設置)三驛を置き三島町・沼津市その他へパスの便あり、外に山麓に沿ふ道路あり。戰國時代以前に於ける葦山の歴史は定かならず、恐らくは駿河の今川氏に關れる伊勢長岡(後に北條早雲)が城館御所の足利茶々丸を攻め滅ぼし、長享二年十月葦山城に據りしを始めてすべきが如し。その

ニラサキ 葦崎町 山梨縣甲斐國北巨摩郡の東南部。釜無川の左岸鹽川との合流點を占め、東北は八ヶ嶽山脈の末嶺をなす丘陵と、七里岩の斷崖を以て界する狭き谷平野なり。所謂富士見狭隘の出口にて、釜無川は之より扇狀地を形成して甲府盆地に流出す。農業・養蠶を主産業とし、米・麥・繭・飼料等の産ある外、製糸業も行はれ、昔使諸郡都府と甲府盆地との連絡點として商業盛なり。省線中央本線貫通し重勝驛(明治三十六年設置)あり。縣道河原に沿ひて通じ、附近諸村へパスの便あり。この地は和名抄、巨摩郡葦原郷の内なるべく、もと河原村と稱せしが、明治二十五年葦崎町と改稱。昭和十年傳ふ。(皇大神社)大字葦山に鎮座。縣社。祭神、大日靈貴命外三神。明應年中より葦山城に在りし北條氏の崇敬社なり。例祭、天正十八年同家没落と共に衰微す。例祭、十月十七日。(天木神社)大字原木に鎮座。縣社。祭神、天津日子根命。延喜の制、國幣の小社に列し、伊豆國神階に「正四位上ありまの明神」とあるものこれなりといふ。もと天木神社とも、鞍掛明神とも稱せり。例祭、十月十八日。(國清寺)大字奈古谷にあり。臨濟宗調覺寺派。天長山。島山國清の開基、上杉民部大輔重頼の造營に係り、無礙妙諱を開山とす。もと伽藍壯麗、七八字を有し、足利義滿の時關東十刹の一に加へられしが、延徳三年兵火の爲に炎上し、いま大雄殿のみ僅かに古を語る。

ニリ 二里村 佐賀縣肥前國西松浦郡の西部。有田川に跨り伊萬里河口を占めて伊萬里町の西に界す。西部は西境に繋ゆる國見山の山麓をなし、東部は東南隅の鹽嶽(四八八米)の山地なり。中央に低地あり有田川北上して海に入り東北部伊萬里海岸に稍廣き平野開く。米の産多し其他、麥・繭あり。有田川左岸に沿ひて縣道、右岸に沿ひて省線伊萬里線通じ伊萬里驛は東北約一軒、夫崎石驛は南約〇・五軒にありてパスを通す。(八幡神社)大字大里に鎮座。縣社。祭神、應神天皇外十六神。例祭、九月十五日。

ニレ 仁禮村 長野縣信濃國上高井郡の南部。須坂町の東南方約二軒。四河山(二三三三米)の西北山麓を占め、米子川・結川の水原をなす。東は山脈を境に群馬縣吾妻郡に、南は小縣郡に界す。東南部には山岳重疊し西北に向ひて傾斜す。米子川・結川共に村内を西北に流れ須坂町の北にて信濃川に合す。粟落は西北部に多く、養蠶・農業に従事す。東南部に米子破黃山あり、西部に温泉湧出す。村内に米子権現瀧(高さ二四二米、幅二米)、米子不動瀧(高さ二八八米、幅二米)あり。須坂町より縣道來りパスの便あり。この地は和名抄、高井郡須坂郷の内なるべく、信濃源氏一家に楡井氏あり、此地に在名を稱せしもの。

ニレ 爾靈山 關東州旗原市の西北にある巖。その標高二〇三米。旗原を環る山々の内、その最高のもので、よつて二〇三高地と呼ばれ、日露戰役後、乃木大將によつて爾靈山と命名せらるるに至る。初めロシアは、この山には防禦工事を施さざりしが、明治三十七年五月以來俄に工事を開始し、特に高崎山を奪はれし以後、懸命に工事を營みこれを半永久的のものとし、山腹に散兵壕を三段に穿ち堅固なる鐵條網を二條張り越し、加農砲三門、その他機關砲三門を備ふる堅固なる防禦陣地を築造せり。一方我軍は、松村中將の率ゐし第一・第七の兩師團や後備第一旅團等によりて之

後長氏の勢益々盛を極めて明應四年、大森氏の小田原城を奪ひて關東に進出せしが、なほ小田原は城代をして守らしめ、已れば葦山に居を占めしは、東海・關東を控制する要衝の地たる故なりき。越えて天正十八年、豊臣秀吉の小田原征伐あるや、北條氏政の弟氏規軍兵を以てよく葦山城を頑守すること三月餘に及び遂に徳川家康の勸告により開城す。即ち今の縣立中學校の裏の小丘に本丸・外廓・内濠等存せるは其の遺跡なり。次いで家康は内藤信成を封じ、慶長五年、その子信正を大坂に移せり。而して源頼朝の姪々小島軍兵の當時、八牧郷の宇野氏これに従ひて功により江川莊一圓を賜はり、子孫よりて姓となせしが、のち北條氏に屬し、その滅亡後更に徳川氏に仕へ寶曆九年葦山代官に任ぜられ、世々相繼ぐ。明治元年、葦山縣置かれ、江川英武が知事となり、同四年足柄縣に次いで靜岡縣に併せらる。大字葦ヶ島は寺家の東方にあり。往昔狩野川この地を挾流して島の如く、草葦殊に多かりしためこの名あり。源頼朝配流以來その名高く今は田圃となりしが、なほその名稱存し、頼朝配流の地には小丘上に記念碑あり。跡に孤松あり、僅かにその位置を示す。また大字原木・四日町の邊を北條と稱す。蓋し茨城郷の北條の謂なり。王朝の末、州豪北條氏の居りし所。其の館址は四日町の西、御所内の地是れか。或は此地を北條越柳

所址とも稱すれば、兩跡同地にや。一説に、北條の東方島津の地を以て北條館址とす。葦山(葦山反射瀧)大字中宇崎瀧にあり。指定史蹟。嘉永六年、伊豆代官江川太郎左衛門英龍、幕府に建議し、葦野郡本郷村(今の葦生澤村)高馬に起工せしが、其地下田港に近きを以て此地に移し安政二年竣成す。然るに暴風の爲に破壊し英龍の子英敏これを再興し、安政五年より慶應元年に至る八年間、大小砲數百門を鑄造せり。爾後慶應に陸軍省の所管に移る。今高さ一六米の煙突及び長さ五・六米、幅五米の爐址存す。之に使用せられたる耐火煉瓦は一、七〇〇度の高熱に堪へ得るものにて、英龍が天城山麓製木その他の土を取り、辛苦の後製造したるもの。(葦山城址)葦山中學校背上の丘陵にて、本丸は南方にありて二の丸・三の丸北に續く。延徳三年北條早雲、足利茶々丸を滅してこれに居り、のち小田原に移るに及んで其の屬城となる。かの天正十八年豊臣秀吉が北條氏を討ちし時北條氏現この城に據り孤軍大敵を拒ぎて風せざりしは史上有名な所とす。關ヶ原役後廢城となる。(江川太郎左衛門)伊豆葦山代官。砲術家。風に蘭學・砲術を修め、海防・兵制改革・鑄砲等に功あり。品川砲臺・葦山反射瀧はその偉績なり。安政二年没。年五十五。贈正四位。その邸址は葦山城址の東にあり。博風造の一大茅屋にて鎌倉時代建築のまゝなり

二年祖母石村・更科村を併合す。葦崎宿は慶長年中に置かれし新驛なりとす。明治十三年、明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際、此地に御小休あらせらる。〔雲岸寺〕曹洞宗。佛寶山。寺傳に僧空海の開創といふ。七里岩の中腹數十丈の高所を穿ちて御堂を造り、佛空海作聖觀音菩薩を安んず。春彼岸の中日には賽者多し。

ヒリ—ヒレ

ヒリ—ヒレ

ヒリ—ヒレ

ヒリ—ヒレ

ヒリ—ヒレ

ニレハ—ニワサ

に對し、明治三十七年九月十九日の第二回總攻撃より攻撃を開始し、十二月五日これを占領するまで毎日肉弾戦の連続にて、占領しては奪回され、之を繰返すこと五回に及び、第三回總攻撃に於ける我が軍の死者は、山本少將以下實に七千五百七十八人、敵は六千七百三十九人にて、かかる悲壯絶望の戦闘が屢々行はれたり。この山の占領は、旅順陥落の主因の一となりしものにして、山上に立てば西側の山々は指呼の内に存し、眞に絶好の陣地なり。我が軍はその占領後、こゝに砲兵觀測所を進めて旅順港内の敵艦隊を砲撃全滅せしめたり。山頂には乃木將軍の筆なる「爾靈山」の碑名ある小銃彈丸型の記念碑が十米餘の高さに立てられ、その臺石には詳細なる碑文あり。附近には他の記念碑や、露軍の火砲等の遺物も現存す。

ニワ 丹羽

【丹羽】 瀨田線の一驛（昭和七年設置）。北海道後志支庁網走郡東通村にあり。北海道的志支庁網走郡東通村にあり。木曾川の左岸に沿ひ、東より北へかけては岐阜縣美濃國に、西北は美濃郡に、西は一宮市に、西南は中島郡に、南は西春日井・東春日井の兩郡に界す。面積一五八・二一方軒。東北に二一三米の丘陵横たはり中に八重池を湛へ、尾張富士屹立す。木曾川北流を西に流れ、犬山町より上流、東部丘陵の迫る所は所謂日本ラインの稱ある溪谷をなす。他は概ね平坦肥沃なる濃尾平野に屬し、桑園・水田開け、農業・養蠶最も盛なり。農産物は米を筆頭に、大根・菜種、其の他の蔬菜或は雜・雜豆等、多方面に亘り、各農村より出づる多額の蠶糸が郡内各町に集まり糸となり海外に輸出さる。海外より原料を仰ぐ織物・毛織物業も盛んにして布袋・岩倉・古知野・犬山各町はいづれも製糸・紡織の工業都市として發展しつゝあり。省線東海道線は一宮市を通過し郡内を通過さるも、社線名古屋鐵道の便よく、一宮より岩倉町及び東春日井郡小牧町を経て大山に至るものと、名古屋より東春日井岩倉・布袋・古知野各町を経て大山町に至るものあり。一は岐阜市へ、一は御嵩・八百津各町方面へ至る。鐵道又は四通八達しバスの便もあり。郡内四町、九箇村を含む。日本後紀弘仁五年記に始めて郡名見ゆ。和名抄は瀧波と註し、吾輩・稻木・上春・丹羽・穂積・大桑・下沼・上沼・前刀・小弓・小野・小日の十二郷を管す。爾後大變化なし。

ニワカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワサカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニレハラ 檜原

富山縣婦負郡朝入村の大字。高山本線の檜原驛（昭和五年設置）を置く。

ニロー 二老面

朝鮮全羅南道務安郡の一洞。柴山江口の右岸なる務安半島の突端部に木浦府の東北に接する陸地部と、高下島・許沙島・謁島・長佐島・建里島その他の島嶼部とより成る。牛島部は百來臺の丘陵起伏するのみにて平地に乏しからず、島嶼部も何れも地勢峻しからず、田畑耕作農業行はる。産物は米・粟・蕎麥・綿等の農産、石首魚・鮫・

ニワツカ 庭塚村

【庭塚村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭塚村

【庭塚村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワセ 庭妹・庭瀬

【庭妹・庭瀬】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワタニ 上神谷村

【上神谷村】 大阪府和泉國泉北郡の東部。堺市の東南方約七軒にあり、西方約三軒には和泉町あり。東南は南河内郡に界す。南方に東西に連る長峰山脈の北麓にして地形緩やかな傾斜地をなし東南部に高し。中央には石津川村内の水を集めて西北に貫流す。農産類首位を占め工業之に次ぎ外に畜産・林産及び水産あり。堺市・濱寺町方面へバスを通ず。此地は和名抄、大島郡上神郷の内なり。上神はのち北上神・中上神・南上神と南上神を合併して本村を置き、北上神は昭和十年外敷鶴村と合併して福泉町を建つ。（櫻井神社）大字片殿に彌座。神社。祭神、豊田別命・足仲彦命。天正十三年豊臣秀吉の紀伊國根來寺を討つに際しその兵隊に罹りたるも、この再興す。社殿中、本殿・拜殿は國寶建造物に指定せらる。例祭、十月五日。（法道寺）古義眞言宗。白鳳十一年、法道僧人の開創に係りも長福寺と號す。世々勸願所に列し、柱骨は七百餘院を擁せし大伽藍たりしも、戦國時代次第に衰微し今二字のみ存す。多寶塔・十六羅漢圖（絹本）は國寶。

ニワツカ 庭塚村

【庭塚村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭塚村

【庭塚村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭塚村

【庭塚村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワセ—ニンプ

【ニワセ—ニンプ】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

四六四

大念佛佐太派の本寺たり。貞和三年實録の開創にして、後村上天皇御持佛の釋迦佛像並に放光殿の鏡を賜ふ。

ニワツカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

ニワツカ 庭坂村

【庭坂村】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡丹羽郷あり、その地今の丹羽郡西成村の邊に當るべし。

四六五

又

又野・奴・沼

【野鳥・奴鳥・沼鳥】 ↓沼鳥村(兵庫縣三原郡)
【野鳥】 萬葉集に見ゆる地名。紀伊國(和歌山縣)日高郡鹽津浦の南方にある野鳥を稱せしものならん。萬葉・一「吾が歌りし野鳥は見せつ底深き阿祖根の浦の珠そひりばぬ」

又力 奴可

【奴可】 備後國(廣島縣)の古地名。日本後紀、延暦二十四年紀に地名見ゆ。和名抄は奴加と訓じ、別部・道部・千重・三上の四部を管す。近世或ひは怒野にも作る。明治に至り漸に復す。明治三十一年十月に三上・惠蘇之郡と合して比婆郡を置き、郡名を失ふ。

又力 額村

【額村】 石川縣加賀國石川郡の中郡。野々市町の南に隣接す。東南半は倉ヶ嶽(五六六米)の山裾を占め、二三百米の傾斜地、西北半は加賀平野に屬し肥沃なる水田拓く。農業を主産業とし米の産多く、水いで蕎麥・蕎麥等を産す。村の西部を南北に貫走する鐵道と社線金澤電軌ありて大額(大正四年設置)・三十額(昭和二年設置)・四十額(大正四年設置)の三額を置く。この地は和名抄、石川郡拜師郷の内。(額東神社) 大字額谷に鎮座。

【額田】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に額田郡額田郷あり、その地今の額田郡内ならんも詳かならず。

又カタ 額田

【額田】 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に周進郡額田郷あり、その地今の君津郡中村・小糸村の邊に當る。
【額田】 加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に江沼郡額田郷あり、奴加多と訓す。その地今の江沼郡庄村・駒橋村の邊に當る。

【額田】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に足羽郡額田郷あり、奴加太と訓す。その地は今の足羽郡内ならんも詳かならず。一に吉田郡に入りしともいふ。

又カノメ 糠野目村

【糠野目村】 山形縣利根國東置賜郡の南部。米澤盆地の中央に位し米澤市の北方九軒。南は南置賜郡、西北は赤湯町に隣接す。松川は東南方より來り、村の中央部を西北に流れ、西北部に於て北部を西流する和田川及び西端を北流する鬼面川と合す。全村平坦なる沃野なり。米・蕎麥を産す。道路は村の中央部を南北に通じ、北方の赤湯町、南方の米澤市へはバス通じ、奥羽本線糠野目驛(明治三十三年設置)を置く。此地は和名抄置賜郡宮城郷の内なるべし。中世は上長井庄に屬す。(糠田記功碑) 大字福澤の喜田院にあり。米澤藩士黒井半四郎が寛政年間松川の水を引き灌漑用の黒井堰を作りし功績を記念せんために、享和三年附近三十三箇村の協力にて建てしものなり。

又カヘ 額部

【額部村】 群馬縣上野國北甘樂郡の中郡。富岡町の南方に間に高瀬村を挟む。西南端附近に前山(一三七〇米)あり。南端にはそれに續く六〇〇米前後の山地連りて村はこれ等の北斜面を占む。山地は森林ありて林産多し。北部の山裾には耕地ありて米を産す。安齋盛んにて藩の産額大なり。鐵道は富岡町及び東隣小幡町に通じ、富岡町に社線上信電氣鐵道(上州宮岡驛(明治三十年設置)を置く。此地は和名抄甘樂郡額部郷の内か。

又キ 沼木

【沼木】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に度會郡沼木郷あり、奴木と訓す。今の宇治山田市に當る。
【努宜】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に栗川郡努宜郷あり、その地今の下都賀郡野木村に當り、野木は努宜の訛れるもの。

又キ 瀨城

【瀨城】 陸奥國(宮城縣)の古地名。和名抄に柴田郡瀨城郷あり、その地今の柴田郡村田町の邊か。
【瀨城】 陸奥國(宮城縣)の古地名。和名抄に長岡郡瀨城郷あり、瀨城は瀨城の誤りて水田をなす。農業行はれて米・蕎麥を産す。瀨四方に通じ北走するものは久慈郡太田町に通ず。省線水郡線は西部を北走し額田驛(明治三十一年設置)あり。北地は和名抄、久慈郡木前郡の内なり。東端に佐竹秀義の所領の邑名に額田とあるは此地なり。村内の額田城址は額田郡少輔義亮の居りし處。(阿彌陀寺) 大字額田南郷にあり。眞宗大谷派。觀覽門下二十四輩の第十四那珂定信の初め當郡大山の地に開創せしに始まる。

【額田郡】 愛知縣十八郡の一。三河國の中郡。矢作川左岸に沿ひ、北は東加茂郡に、東は南設楽郡に、南は本宮丘陵を以て東加茂郡に、西南は橋豆郡に、西は矢作川を境に岩手郡に接す。面積三四八・六九方軒。水竹山脈の餘波を受け郡内概し丘陵起伏し、略中央を東西に矢作川支流の大平川貫流す。西端を矢作川南流し大平川の合流點に岡崎市あり。西部の矢作川流域は肥沃なる平野開け農業盛なり。丘陵地帯には田より畑多く養蠶發達す。米・蕎麥を初め麥・蔬菜・鶏卵等、農産物は多量なるも産額比較的少からず、この地方は皆て内地棉栽培され打綿績績の行はれし所とて、今なほ地方的餘情を以て小規模の綿織物業行はれ足袋成・帆布・厚司等の粗織物を産す。また東北部山地の花崗岩に加工せる三河燈籠・石州石等の特産あり。本郡の主要路は西南部を貫通する東海道と、北より矢作川に沿ひて南

なり。其地は今の遠田郡田尻村・富永村の邊に當る。

又キナ 貫名

【貫名】 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に長下郡貫名郷あり、奴加奈と訓す。今の磐田郡掛旗町の邊に當る。
【又キノサキ 貫前】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に甘樂郡貫前郷あり、奴支乃佐岐と訓す、その地今の北甘樂郡一ノ宮町に當る。

又クシナ 温品村

【温品村】 廣島縣安藝國安藝郡の西北部。西南隅は廣島市東部に接し、北は安佐郡に界し、北に廣く南に狭くほぼ三角形を呈す。西端には南方へ高さを減じて丘陵連り、東は西南方へ低下する山嶺によりて村境を劃す。中央は東北より西南へ連る谷をなし、西南部に低地やや狭がる。農産額最も多く畜産これに次ぎ、外に林産・工業あり、廣島市に近く交通比較的便なり。この地は和名抄、安藝郡安藝郷の内なり。

又クミ 生見

【生見】 鹿兒島縣掛箱郡喜入村の大字。指宿線の生見驛(昭和十年設置)あり。

又クユ 拔湯

【拔湯】 廣島縣甲奴郡にありし村。大正元年に外四箇村と共に廢され、上川村を置く。

又ケト 抜戸岳

【抜戸岳】 ヨケットとも云ふ。日本北アルプスの一峯。槍ヶ岳の西方に當り、笠ヶ岳(前ヶ岳、二八九八米)の北東嶺。岐阜縣古川郡上賣村に屬し、標高二八二三米、山腹は片麻岩より成る。こ

【額田】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に額田郡額田郷あり、その地今の額田郡内ならんも詳かならず。

又カヘ 額部

【額部村】 群馬縣上野國北甘樂郡の中郡。富岡町の南方に間に高瀬村を挟む。西南端附近に前山(一三七〇米)あり。南端にはそれに續く六〇〇米前後の山地連りて村はこれ等の北斜面を占む。山地は森林ありて林産多し。北部の山裾には耕地ありて米を産す。安齋盛んにて藩の産額大なり。鐵道は富岡町及び東隣小幡町に通じ、富岡町に社線上信電氣鐵道(上州宮岡驛(明治三十年設置)を置く。此地は和名抄甘樂郡額部郷の内か。

又キ 沼木

【沼木】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に度會郡沼木郷あり、奴木と訓す。今の宇治山田市に當る。
【努宜】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に栗川郡努宜郷あり、その地今の下都賀郡野木村に當り、野木は努宜の訛れるもの。

又キ 瀨城

【瀨城】 陸奥國(宮城縣)の古地名。和名抄に柴田郡瀨城郷あり、その地今の柴田郡村田町の邊か。
【瀨城】 陸奥國(宮城縣)の古地名。和名抄に長岡郡瀨城郷あり、瀨城は瀨城の誤りて水田をなす。農業行はれて米・蕎麥を産す。瀨四方に通じ北走するものは久慈郡太田町に通ず。省線水郡線は西部を北走し額田驛(明治三十一年設置)あり。北地は和名抄、久慈郡木前郡の内なり。東端に佐竹秀義の所領の邑名に額田とあるは此地なり。村内の額田城址は額田郡少輔義亮の居りし處。(阿彌陀寺) 大字額田南郷にあり。眞宗大谷派。觀覽門下二十四輩の第十四那珂定信の初め當郡大山の地に開創せしに始まる。

【額田】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に額田郡額田郷あり、その地今の額田郡内ならんも詳かならず。

又カヘ 額部

【額部村】 群馬縣上野國北甘樂郡の中郡。富岡町の南方に間に高瀬村を挟む。西南端附近に前山(一三七〇米)あり。南端にはそれに續く六〇〇米前後の山地連りて村はこれ等の北斜面を占む。山地は森林ありて林産多し。北部の山裾には耕地ありて米を産す。安齋盛んにて藩の産額大なり。鐵道は富岡町及び東隣小幡町に通じ、富岡町に社線上信電氣鐵道(上州宮岡驛(明治三十年設置)を置く。此地は和名抄甘樂郡額部郷の内か。

の山より槍・穂高岳(飛騨側)の展望は偉観なり。四・五月頃、笠ヶ岳よりこの山へのスキー登山は興味深く、尾根筋は相當幅廣くして起伏少し。登山は多く槍ヶ岳(三一八〇米)よりその北西方の双六岳(二八六〇米)に続く山稜の中間を南西に派出する支脈を登山するか、或は笠ヶ岳より尾根を傳ひて行ふ。

又サカ 野坂浦 萬葉集に見ゆる地名。熊本縣肥後國豊前郡浦村の海岸を指す。しものならんといふ。萬葉・三・葦北の野坂の浦に船出して水鳥にゆかむ浪立つなゆめ 長田王。

又サチ 納薩 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に日置郡納薩郷あり。刊本は調を聞き、高山寺本は薩を薩に作り、奴佐知と調す。大同類聚方に奴佐知は薩摩の日置郡納薩の安藝麻呂の家方なりとあり、野幸の義なりとす。其地は今評かならざるも伊集院町・上伊集院村・下伊集院村等の地なるべく、上伊集院村の大字に福山あり、福はサチに非らざるかと云ひ、また納薩をイリサと調じ、上伊集院の大字入佐を其の遺蹟なりといふが、容易く定むべからず。

又シマ 沼島村 兵庫縣淡路國三原郡の南部。淡路島の南方の沖合三軒に位する沼島を占む。周圍僅に八軒。全島山地をなす小島なれども附近に巖礁多く、南岸には長さ九一米、幅五四米半の扁平なる岩波(波音は方言にて磯に差出で)

し石を云ふ)が海岸に横ばり、其北の磯に上立神、更に西南の海中に下立神と稱する直立柱の如き奇石屹立し、其他、佛堂・崩岩等散在す。西北に小洞あり。食用農産・蔬菜・花卉・提婆・米・繭・小麥及び果實等の農産物を産し、また錫・醤油等を産出するも、古くより漁民の島に住し、特に西北面の棄落を泊浦といひ、遠く伊勢の海・對馬の海にまで出漁す。交通は海上汽船の便による。書記屋中紀に野島の海人とあるは此島の住民を稱せるもの。萬葉・六・朝なきに掛の音きこゆみけつ國野島の海人の船にあららし 山部赤人 (八幡神社) 大字沼島浦に遺座。郷社。祭神、菅原別命・足仲津彦尊・息長足姫尊。永享八年に當地の人根原俊景の勳請に係るといふ。根原氏原氏時代の崇敬あり。天文二年・天正八年等に再建す。

又ジリ 怒受利山 書紀、用明天皇三年の條に見ゆる朝鮮の古地名。百濟國の東境にあり。その地評かならざるも今の忠清北道と慶尙北道の境なる秋風嶺の邊ならんといふ。

又タニシ 沼田西村 廣島縣安藝國豊田郡の南部。沼田川の南岸に沿ひて、本郷町の南に隣り、忠海町の北方約二軒餘にあり。中部及び南部は丘陵をなし西北部に僅かに低地あり。沼田川は北境に沿ひて東南流す。米・麥作を主とし、粟・稗草の栽培及び養蠶を副業とす。本郷町には山陽道及び省線山陽線通過し。本郷驛(北方約〇、五軒)に近し、沼田東村と共に中世の沼田氏の地なり。(沼田西村又ひめあやめ自生南限地帯)指定天然記念物。赤松の生せる疎林中にあり、エヒメアヤメ自生南限地帯の最東部に位する點は植物分布學上有益なるものなり。

又タヒガシ 沼田東村 廣島縣安藝國豊田郡の東南部。沼田川河口近くの南岸に位し三原市の西に接す。南は幸崎町を距りて瀬戸内海なり。南境には三〇〇米以下の丘陵東西に連りて北方へ緩く斜し西北下にも丘陵崎嶇す。中央は緩く平野をなし北境に沿ひ沼田川東南流し三原市を流れて三原河に注ぐ。耕地よく拓けて米麥の産多し。また工業・林産・畜産あり。東部には三原市より忠海町に至る縣道通じてバスの便あり。西北部には省線山陽本線本郷驛は西北約一・五軒の近くにあり。此地は和名抄沼田郷の地にて中世は沼田氏に屬し、地頭土肥氏の治下たり。何武平氏土肥氏の族、小早川氏發祥の地なり。村内に沼田城あり、一に奴田尻城址といふ。これ沼田川尻の地

にありし故に此の名あり。(沼田神社) 大字本市に鎮座。郷社。祭神、須佐之男神・熊名田比賣神。もと祇園牛頭天王社と號す。清和天皇御宇、天下に疫病流行の時に勅使當社に奉幣ありしに疫病漸ち熄む。朱雀天皇御宇、鶴城主藤原倫美は當社に祈りて疫病を根絶し、その報賽に社殿を造營し社領を寄進す。小早川隆登もまた戦捷祈願の報賽に社領を寄す。のち福島正則に社領没收せらる。なほ了俊道行振の「こゝしき天神」に擬せらるるも確證なし。例祭、陰曆六月七日。(米山寺) 大字新所にあり。曹洞宗。東廬山。仁平三年天台の僧雲願の開創にかゝる。小早川家累代の跡依厚く、隆登を初め十七代に互る墓あり。小早川隆登像一幅(絹本着色)は國寶なり。(西光寺) 大字末光にあり。眞宗本願寺派。富榮山。明應二年、越中守護政二男田坂新五郎發心して、本願寺實如に歸依し、善堂と改名して本寺を創建す。

又ナカワ 奴奈川村 新潟縣越後國東頸城郡の中部。蓋海川上流に沿ひ高田市の東方約二四軒を隔つる山村。全村五百米前後の丘陵に開闢され、東南部を蓋海川東北に流れ村内にY字形の形を

又ナミ 沼波 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に大上郡沼波郷あり、その地今の彦根市の邊に當る。

又ノシ 布師 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に射水郡布師郷あり、奴乃之と調す。今の射水郡伏木町の邊に當る。

又ノセ 布忍村 大阪府河内國中河内郡の西南部。大阪府南部中央より約二軒東南に位し南は南河内郡に界す。全村地形低平にして大和川支流西北に貫流す。農産・畜産あり。工業また多し。南部に長尾街道東西に走りて西方堺市へ通じてバスの便あり。社線大阪線東部を通過

して布引山(大正十一年設置)あり。この地は和名抄、丹比郡田邑郷の内にして、近世は布引山と稱せり、村名蓋し之による。大字高木は中世に高木庄と稱せし地にして、延元年中、官軍に歸し戦功を建てし高木遠盛の本據なるべし。

ヌノビキ

布引

【布引山】 會津布引山とも云ふ。猪苗代湖の南岸に峙つ。福島縣北會津郡津村と安積郡赤津村の境上に在り、南斜面は岩瀬郡に互る。標高一〇八一米。東方は北流する菅川を距てて高井原山(九八一米)峙ち、西方は安積峠最高點(一〇二七米)に續く。山深くして木立茂り、殊に山竹多し。この山は猪苗代湖北岸なる諸村より望めば、東西に長く布を引きたるが如き山容なり。南方の白河布引山と區別して會津布引山とも云ふ。

【布引岳】 日本北アルプス後立山山脈の一峯。鹿島槍岳(二八九〇米)の南後に續く。東側は長野縣北安曇郡平村、西側は富山縣中新川郡立山町有林地に屬す。標高二四五五米。南段は直に祖父岳(二六七〇米)に連り、此間に冷池あり。登山は鹿島槍一組より罷走して行ふ。

【布引村】 三重縣伊賀國阿山郡の東南部。布引山脈の西斜面に在り、上野町の東南約八軒に在り、南は名賀郡に接す。東北には笠取山(八四五米)あり、それより南に鈴鹿山脈の連嶺連り山地西北に傾斜す。西北隅は布引山脈より延びる一支脈

の山脚部を占めて土地高し。村の西北部に東北より流下する服部川ありて、東南境より村を横切りて西北流する支流を入れて西に流る。米産は凡そ村内自給自足の程度にして、林産物及び之に附帯せる労働の収益と養蠶収益とを以て生計を營む。従つて豊かなりず。主産物は木材、薪炭、繭にして特産には庭石あり。西北部に伊賀街道通過して上野町へハスの便あり。此地は和名抄。山田郡川原郷の内にして、村名は布引山下なるによるか。諸曲に見ゆる井田山は此處にあり、大字馬野は一に香野に作り、古へより牧場として知らる。東大寺曆三年文書に「馬野者、寺家根本十三大會、并八幡宮轉讀之料莊」とあり。

【布引山】 鈴鹿山脈の一峯。津市の西方に在り、三重縣一志郡徳村、桐原村、阿山郡布引村、名賀郡上津村との境上に在り。標高約七五〇米。北段は笠取山(八四五米)、南段は青山峠最高點に續く。南北に山脊續き、布を引きたるが如し。【ヌノベ】 布部 北海道石狩國空知郡富良野町の大字。根室本線の布部驛(昭和二年設置)あり。

【ヌノハ】 沼濱 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に鎌倉郡沼濱郷あり、今の三浦郡葉山町の邊に當る。

【ヌハラ】 拔原 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に安那郡拔原郷あり、刊本は拔原に作るも高山寺本に從ひ訂す。其地

今の深安郡安那郡神邊町の邊に當る。

【ヌマ】 怒麻(國) 國史本紀に見ゆる上古の國名。今の伊豫國(愛媛縣)の内なるべけれども明ならず。或は越智郡西部の地を稱せしものか、後考を俟つ。

【ヌマウシ】 沼牛 畿内線の一驛(昭和四年設置)。北海道石狩國南龍郷龍加内村にあり。

【ヌマカイ】 沼貝 北海道空知支庁空知郡にありし村。大正十五年に美唄町と改稱す。

【ヌマカワ】 沼川 北見縣の一驛(大正十一年設置)。北海道北見國宗谷郡磯内町にあり。

【ヌマキ】 沼木村 三重縣伊勢國度會郡の東部。宮川右岸に在り、東南部は宇治山田市西南部に接す。東・南・西の三面に圍まれ、山地は緩く中央に傾斜し、東南部に發する河川迂曲して村内中央を西北に流れ、西北隅を東北流する宮川に合す。西北部に低地開く。農業・林業を主産業とし米・麥・木炭・繭等を出す。西北部には縣道走りて宇治山田市へハスを通ずれど其他は交通不便なり。

【ヌマクナイ】 沼宮内町 岩手縣陸中國岩手郡の北部。北上川の左岸に在り。四角は御堂村に圍繞され、面積一・五四方軒にて本郡最小の町。北上山地に圍まれ東部は丘陵性高地起伏し、一般に土地高く北端にて海拔二六二米、南端にて海拔二四九米を示す。西境を北上川南流し

し感なるべし。(沼澤沼) 只見川の中流南岸にあるカルデラ湖。餘り知られざるも極めて見事なる二重カルデラにて外側のもは徑四軒以上、環壁は南方高く、高森山は一〇〇米に達す。カルデラは木冷潭の浸蝕のため乾燥して草原と水田となりし所あり。此中に沼澤沼を湛へる第二のカルデラあり。第一のカルデラとの間に西の斷崖上に聳ゆる惣山(八二六米)、及び南に前山(八三五米)あり、東にも低き山連る。湖の半は斷崖にて圍まれ殆ど注水不入り、たゞ北方沼澤より小流が只見川に滴下す。高度は四七四四米にして面積三・一八平方軒、深度は九二米、岸より急に深し。水色は藍色にて透明度二一米に達し、本邦有数の青色湖なり。浮遊物少くも底棲動物や多く、魚類は主に鮎・鯉にて放流成績良好なり。東岸の半島上には沼御前神社あり、また附近には温泉多く風光絶佳なり。

【ヌマジリ】 沼尻 沼尻火山(山) 那須火山帯吾妻火山群中、土湯峠以南、福島縣安達・耶麻二郡境上を南走する一群の火山帯の稱。西方南流して猪苗代湖に注ぐ長瀬川を距て磐梯火山と對峙す。北方より南方に鬼面山(一四八二米)、箕ノ輪山(一七一九米)、鐵山(一七一〇米)、安達太良山(一七〇〇米)、和尚山(一六〇二米)の諸峰連嶺をなす。これ等の山々ば頗々と爆發噴煙せる火山の一部の連互せるものにして、火山の完

全なる形状を具ふるもの無く、爆發火口到る處にあり、温泉また數多く散在す。主峯安達太良山(安達太良山)も爆發火口殘壁に一部小突起をなせるものにて、西方に火口湖沼沼を湛ふ。以上の諸山は標高七〇〇米内外に過ぎざれども頂上部は強風の影響に依り植物は皆匍匐し、姫小松などは宛も笹松の如き形をなす。その間ハクサンシヤナガ・アカカサ等生育し、特に樺太・北海道・奥羽地方の高山にのみ生育するイソクサツツはこの火山帯を以てその南限界となす。

【沼尻火山】 吾妻村(福島縣)

【ヌマス】 沼津 靜岡縣の東部。駿河灣の東北岸に在り、古來、東海道的主要街に當り、いま商工都市として發達地をも兼ね。東經一三八度五分、北緯三五度六分。愛鷹山の南麓にて西北に駿東郡片濱村、北は金岡村、東北は大岡村、東は清水村・大平村に、東南は靜岡市に接し、西南一帯は駿河灣に臨む。東西四軒餘、南北五・六軒。面積は一三・六二方軒。人口約五萬。天城山に發して北流し來る狩野川は東境に於て黄瀬川を容れ、市の中部を西南に繞流し海に入る。かくて市の大部は間川の沖積地に屬して低平なり。東部の狩野川曲流部に臨みて香貫山(一九三米)聳え、その山腹は東南境に連なる徳倉山(二五六米)の丘陵につづく。狩野川口、左岸の海岸に臨みては牛臥山

【沼澤沼】 沼澤村 福島縣岩代國大沼郡の西北部。北は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。北境は越後山脈の諸峰連互し、西より鍋倉山(一三三七米)、沼ノ峠山(一〇一四米)、國土山(八五八米)、高崎山(九〇四米)等あり、東南境には高森山(一一〇〇米)聳え、北方斜面に沼澤沼あり。只見川は西南方より來り、北部山地及び沼澤沼の中間を半圓形をなして東に流る。全村概ね山地をなし河川の沿岸は所々峽谷をなせる所あり。米・蕎麥・木炭を産す。道路は只見川に沿ひて村の時中部を西南より東方に通じ、東北方河沼野澤町に至る。人口密度は一方軒につき三三人なり。村内に沼澤城あり、小沼或は大沼城と稱し、横田の城主山内氏の支族沼澤出雲實通が天正年間居り

【ヌマサキ】 沼崎 東北本線の一驛(明治二十四年設置)。青森縣上北郡野館村上野にあり。

【ヌマサト】 沼里村 茨城縣常陸國稻敷郡の中部。江戸時町の西に隣接す。村内には洪積層臺地の連なり、谷の淺峻より谷底はやや廣し。臺地上には未だ雑木林あるも谷底は耕地よく開け、米・麥・蔬菜を産す。縣道は東北郡を僅に掠め、別に江戸時町に至る街道中部を東西に走りハスを通す。

【ヌマサワ】 沼澤村 福島縣岩代國大沼郡の西北部。北は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。北境は越後山脈の諸峰連互し、西より鍋倉山(一三三七米)、沼ノ峠山(一〇一四米)、國土山(八五八米)、高崎山(九〇四米)等あり、東南境には高森山(一一〇〇米)聳え、北方斜面に沼澤沼あり。只見川は西南方より來り、北部山地及び沼澤沼の中間を半圓形をなして東に流る。全村概ね山地をなし河川の沿岸は所々峽谷をなせる所あり。米・蕎麥・木炭を産す。道路は只見川に沿ひて村の時中部を西南より東方に通じ、東北方河沼野澤町に至る。人口密度は一方軒につき三三人なり。村内に沼澤城あり、小沼或は大沼城と稱し、横田の城主山内氏の支族沼澤出雲實通が天正年間居り

【ヌマサキ】 沼崎 東北本線の一驛(明治二十四年設置)。青森縣上北郡野館村上野にあり。

【ヌマサト】 沼里村 茨城縣常陸國稻敷郡の中部。江戸時町の西に隣接す。村内には洪積層臺地の連なり、谷の淺峻より谷底はやや廣し。臺地上には未だ雑木林あるも谷底は耕地よく開け、米・麥・蔬菜を産す。縣道は東北郡を僅に掠め、別に江戸時町に至る街道中部を東西に走りハスを通す。

【ヌマサワ】 沼澤村 福島縣岩代國大沼郡の西北部。北は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。北境は越後山脈の諸峰連互し、西より鍋倉山(一三三七米)、沼ノ峠山(一〇一四米)、國土山(八五八米)、高崎山(九〇四米)等あり、東南境には高森山(一一〇〇米)聳え、北方斜面に沼澤沼あり。只見川は西南方より來り、北部山地及び沼澤沼の中間を半圓形をなして東に流る。全村概ね山地をなし河川の沿岸は所々峽谷をなせる所あり。米・蕎麥・木炭を産す。道路は只見川に沿ひて村の時中部を西南より東方に通じ、東北方河沼野澤町に至る。人口密度は一方軒につき三三人なり。村内に沼澤城あり、小沼或は大沼城と稱し、横田の城主山内氏の支族沼澤出雲實通が天正年間居り

【ヌマサキ】 沼崎 東北本線の一驛(明治二十四年設置)。青森縣上北郡野館村上野にあり。

【ヌマサト】 沼里村 茨城縣常陸國稻敷郡の中部。江戸時町の西に隣接す。村内には洪積層臺地の連なり、谷の淺峻より谷底はやや廣し。臺地上には未だ雑木林あるも谷底は耕地よく開け、米・麥・蔬菜を産す。縣道は東北郡を僅に掠め、別に江戸時町に至る街道中部を東西に走りハスを通す。

【ヌマサワ】 沼澤村 福島縣岩代國大沼郡の西北部。北は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。北境は越後山脈の諸峰連互し、西より鍋倉山(一三三七米)、沼ノ峠山(一〇一四米)、國土山(八五八米)、高崎山(九〇四米)等あり、東南境には高森山(一一〇〇米)聳え、北方斜面に沼澤沼あり。只見川は西南方より來り、北部山地及び沼澤沼の中間を半圓形をなして東に流る。全村概ね山地をなし河川の沿岸は所々峽谷をなせる所あり。米・蕎麥・木炭を産す。道路は只見川に沿ひて村の時中部を西南より東方に通じ、東北方河沼野澤町に至る。人口密度は一方軒につき三三人なり。村内に沼澤城あり、小沼或は大沼城と稱し、横田の城主山内氏の支族沼澤出雲實通が天正年間居り

【ヌマサキ】 沼崎 東北本線の一驛(明治二十四年設置)。青森縣上北郡野館村上野にあり。

【ヌマサト】 沼里村 茨城縣常陸國稻敷郡の中部。江戸時町の西に隣接す。村内には洪積層臺地の連なり、谷の淺峻より谷底はやや廣し。臺地上には未だ雑木林あるも谷底は耕地よく開け、米・麥・蔬菜を産す。縣道は東北郡を僅に掠め、別に江戸時町に至る街道中部を東西に走りハスを通す。

【ヌマサワ】 沼澤村 福島縣岩代國大沼郡の西北部。北は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。北境は越後山脈の諸峰連互し、西より鍋倉山(一三三七米)、沼ノ峠山(一〇一四米)、國土山(八五八米)、高崎山(九〇四米)等あり、東南境には高森山(一一〇〇米)聳え、北方斜面に沼澤沼あり。只見川は西南方より來り、北部山地及び沼澤沼の中間を半圓形をなして東に流る。全村概ね山地をなし河川の沿岸は所々峽谷をなせる所あり。米・蕎麥・木炭を産す。道路は只見川に沿ひて村の時中部を西南より東方に通じ、東北方河沼野澤町に至る。人口密度は一方軒につき三三人なり。村内に沼澤城あり、小沼或は大沼城と稱し、横田の城主山内氏の支族沼澤出雲實通が天正年間居り

【ヌマサキ】 沼崎 東北本線の一驛(明治二十四年設置)。青森縣上北郡野館村上野にあり。

【ヌマサト】 沼里村 茨城縣常陸國稻敷郡の中部。江戸時町の西に隣接す。村内には洪積層臺地の連なり、谷の淺峻より谷底はやや廣し。臺地上には未だ雑木林あるも谷底は耕地よく開け、米・麥・蔬菜を産す。縣道は東北郡を僅に掠め、別に江戸時町に至る街道中部を東西に走りハスを通す。

【ヌマサワ】 沼澤村 福島縣岩代國大沼郡の西北部。北は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。北境は越後山脈の諸峰連互し、西より鍋倉山(一三三七米)、沼ノ峠山(一〇一四米)、國土山(八五八米)、高崎山(九〇四米)等あり、東南境には高森山(一一〇〇米)聳え、北方斜面に沼澤沼あり。只見川は西南方より來り、北部山地及び沼澤沼の中間を半圓形をなして東に流る。全村概ね山地をなし河川の沿岸は所々峽谷をなせる所あり。米・蕎麥・木炭を産す。道路は只見川に沿ひて村の時中部を西南より東方に通じ、東北方河沼野澤町に至る。人口密度は一方軒につき三三人なり。村内に沼澤城あり、小沼或は大沼城と稱し、横田の城主山内氏の支族沼澤出雲實通が天正年間居り

(六二米)の孤立あり。海岸は河口以北を千本濱、以南を我入道・牛臥・島郷海岸と稱し、牛臥山の部分を除きては何れも平潤なる砂濱をなし、風光明媚、海水浴場または保養地として著はれ、特に千本濱の松原は有名なり。狩野川は嘗て雨季には氾濫し沿岸の被害甚だしかりしが、いま改修せられ河口より一軒餘の永代橋まで漲潮時に二百噸級の汽船を通航せしめ得、また河口の千本濱寄りには築港あり。内務省指定港あり。氣候は平均気温一五・三度、最高三三・三度、最低零下五・六度、風は南西風卓越し、雨量は二〇二二を示す、極めて温和にして、東海道に於ても最も健康的なる地域に屬す。市の職業別戸口を見るに農業七%、水産業五%、工業二%、商業三%、交通業九%、公務自由業一%、其他一五%なり。生産總額は昭和十年(以下率之)に於て、一四九萬七千圓にして、その内譯は農産四三萬八千圓(四%)、蠶糸三五〇萬一千圓(三〇%)、畜産二四萬六千圓(二%)、水産一五四萬九千圓(一三%)、工業五七六萬圓(五〇%)、一戸當一二九六圓餘なり。農業は香貝を主要區域とし、耕地面積二一〇ヘクタール、畑一四〇ヘクタール、米を主とし、蕎麥、蔬菜を出だし、果樹栽培(橘)も行はる。蔬菜栽培は特に盛にて、温室園藝によるトマト・メロン等、及び胡瓜・茄子等の早熟蔬菜は遠く京濱・阪神方面へ移出せら

れ、沼津野菜の名高し。蠶絲業甚だ盛にして、製絲場數四、その職工數約千四百、蠶糸産額三萬圓を超え、蠶繭製造戸數九、その生産價格四三萬圓餘あり。畜産業の地方的中心をなすを以て縣立種畜場設けられ、香貝方面の農家にては豚・家兎・鶏の飼育盛に、鶏卵生産額五・三萬圓に達す。水産業者は漁撈七九五人、製造六五六人を數へ、漁獲高は遠洋漁業三三萬四千圓にて鯖を筆頭に鮪・鮪・鰯・鰯木等多く、沿岸漁業は二〇萬圓強にてメダカ・鱒・宗田・鰯・鳥賊等を主とし、此等は永代橋際および我入道の魚市場にて集散する。水産製造は鯉魚その他の節類二三萬八千圓、鹽乾魚五七六千圓、其他、蒲鉾・竹輪等あり、合計一〇一萬四千圓を出す。工業は本市産業の大宗にして、工場數五九、職工數三千三百餘、その大なるものは東京人造絹糸會社・昭榮

Table with 4 columns: 製物品名, 金額, 製物品名, 金額. Items include 梳毛絲, 精麥, 菓子類, 製材, 建築類, 製糸, 印刷製本, 綿製被服, 靴, 織物, 絹製品, 竹製品, 綿製品.

製糸會社・石橋製糸所・沼津毛織會社等の各工場にして、何れも市の北部に集中し、此等の織造工業に次ぎては機械器具製造・製材及び木工・精密その他の食料品工業盛にして、特殊工業として挙げべきものに靴紐・麻紐糸・竹パイプの製造あり。いま昭和十年に於ける年産額十萬圓以上のものを表示するに右の如し。市は伊豆及び駿東地方の關門に位する關係上、商況極めて活潑にて、鮮魚・青果・繭の三大市場あり。その取引額は魚市場約四百萬圓、青果市場約三百萬圓、繭市場五〇萬圓以上にて、特に繭は全國に於ける初取引を以て有名なり。之を貨物の移動につきて見るに沼津驛の發送貨物七萬三千圓(鮮魚・木炭・麥・石炭・甘藷・木材・野菜・繭・乾魚・柑橘等)、到着貨物一二萬五千圓(米・麥・木材・石炭・石油・鐵類・セメント・繭等)にて、沼津港にありては移出五三萬三千圓(米・酒類・漬油・砂糖・絹及び綿織物・機械類・製糖・肥料・小間物類等)、移入一二萬五千圓(鮮魚・石炭・麥・魚類・繭・木炭・牛等)を示し、後者に於ける取引港は多く伊豆沿岸の諸港なり。市の北部を省線東海道本線東西に通じ沼津驛(明治二十二年設置)あり、省線御殿場線は東北より來りて同驛に合す。沼津驛より東京へ一六六分、二時間五分(急行時間)、静岡へ五四分、一時間十五分にて達す。同驛より狩野川口の蛇松驛(明治

三十二年設置)まで二・三軒間には別に貨物線あり、更に沼津驛にては富士箱根・駿豆鐵道および東海の各自動車線に連絡し、伊豆・箱根の温泉郷及び三島・小田原・吉原・大宮等の各地に至るに便にして、また三島町との間には社線駿東鐵道の電車線あり。伊豆半島に至る一重要衝なり。市域は中央を貫流する狩野川によつて兩分せらる。その右岸は元來の沼津にて、南は東海道筋、北は東海道線に至る間を中心區域とし、特に驛前に起りて南に連る大手町は最も繁華なり。鐵道の北方は工場地帯をなす。川の左岸はもと藩原村の地にて香貝と通稱し、その西端の我入道は漁業落をなし、河沿ひの土香貝は近來住宅區域として發展し、沼津プロバートとは黒瀬橋・御成橋・永代橋等を以て相結ぶ。下香貝の海岸には御用邸あり。市の主なる官公署は市役所・警備地方裁判所支部・區裁判所・検事局・利務支所・稅務署・帝室林野局出張所・測候所・農林省水産講習所實習場・縣立種畜場・縣立沼津病院・蠶業取締所支所・財務出張所等にて、學校には縣立中學校・商業學校・農學校・高等女學校及び私立女學校四校・沼津毛織青年學校等、其他商店會議所・駿河銀行・東京電燈會社支店・片倉製糸製糖製造所等あり。(沿革)古昔は潮汐南浦を浸し自ら沼津をなし、草を生ず故に藤原の稱あり、後拓きて田となし、人口漸く繁殖して村落を爲す、

沼津の名これに出づといふ。建久中、源頼朝富士の牧狩の時に留を此地に置、車運牧の御所といふ。文明十一年北條長氏入道早雲、今川氏親の爲に初て城を此地に築く、三枚橋城と稱したる觀瀾城ともいふ。延徳三年長氏、足利政知の子茶々丸を誅し三枚橋城を今川氏に致し伊豆・山城に據る、永祿十一年十二月武田信玄は今川氏親を討て駿河を略す、元龜元年十一月武田氏部將馬場信房に命じて三枚橋城を修理し高坂昌宜をして之を守らしむ。天正十一年三月織田信長、徳川家康と共に武田氏を討ちて亡し、駿甲を擧げて家康に附す、七月、家康沼津城をその區松平康親に賜ふ。天正十八年三月家康駿州の地十四萬五千石にて中村氏少輔一氏を討す、一氏射ら府中城に居て弟一榮を沼津城の留守と爲さしむ、一榮は彦左衛門と稱す。慶長六年家康城を大久保忠佐に賜ふ。忠佐嗣なし、封除かれ城茲に至りて克廢す。慶長十一年徳川氏再び之を治め同十二年紀伊徳川頼宣の領地となる。元和元年また幕府の所轄となり駿府より郡史來りて交番民事を聽く。寛永元年大納言忠貞駿河に封ぜらるるや其の區松原小左衛門を來り居らしめ郡事を掌らしむ、忠貞の宣後復幕府の所轄に歸す。同十八年火災あり煙埃悉く燼す。のち寛永に屬すること始と百五十年。安永六年に至り水野出羽守忠友は幕府の命を奉じ再築し居城とす。明治元年忠貞に

至り上總國菊間に移封せらるるまで代々に居る。明治四年七月廢藩置縣の令出づるや藩を廢して静岡縣を置き、沼津町は駿東郡に屬し、四區三十六町に分つ。明治二十二年六月町制を實施し大正十二年七月沼津町と櫻原村との區域を以て沼津市とし市制を施行し以て今日に至る。其間、再度の觀瀾に遭遇し其の一部は潰滅の患に陥りしも、よく萬難を排して銳意市區改正を斷行し市街の面目を一新せり。昭和九年熱海線全通し全線電化と相俟ちて京濱地方との連絡愈々密接を加へ沼津港の改修亦その緒に著き商工都市たるのみならず觀光都市として益々發展の域にあり。(香貫山)一名鶴足山。標高一九七米。頂よりの展望雄大にて、市の開窓になる登山道路ありて自動車を通じて觀光に便す。頂上に沼津航空燈臺あり、昭和八年の設置、燈質白熱電燈四百光、一二〇萬燭光にして、先達距離晴天の暗夜約五〇軒。(千本松原)千本濱なる沼津公園一帯にあり、松原は遠く四方鈴川方面にまで連なり、南に波靜かなる内浦灣を距て大瀨崎を望み、風光絶佳なり。海水浴場として著はれ、林間學校開かる。狩野川口寄りに水産講習所實習場あり、公園の一隅に歌人若山牧水の歌碑建つ。歌に曰く「幾山河越えさきり行けば寂しさの果てなむ同今も、旗ゆく」園内の首塚は天正八年北條氏政三島に陣し浮島ヶ原の武田勝頼と戦ひし時、三枚

橋城主が武田の爲に奮戦して、得たる首を葬りしもの。(千貫橋)市の東郊にあり。伊豆・駿河の國境の境川に架し、三島町小濱泉の水を清水村新宿・伏見・八幡・長澤・柿田・玉川の六字の水田二百ヘクタール餘に引く大導水路。應仁三年今川氏親の築設に係り、之を築するに千貫文を要せしとも、水代として千貫文を拂ひしにより新く名づくともいふ。いま鐵筋コンクリート製に改造し、橋の名を留む。(沼津御用邸)字橋郷にあり。明治二十六年の御造營にして、中央の御本邸に接し東・西の附屬邸あり。東邸に接して學習院寄宿舎あり、附近は桃海海水浴場にして、その西方には牛臥海水浴場あり。(沼津兵學校址)驛より南約百米、城岡神社境内にあり。徳川家幕臣子弟の歌集のため興せし學校にて、明治元年十一月、江原素六・阿部邦之助等設立し、西岡助を頭取とす。我國に於ける歐風組織的學校の嚆矢にて多数有爲の村を出せり。同四年兵部省の直屬となり、翌五年東京に移る。實に現陸軍大學校の前身たり。(日技神社)三枚橋字平町に鎮座。祭神、大山咋神・大名車運神・大歲神。堀河天皇御宇、後二條關白藤原師道北政所の新願に依り近江國滋賀郡日吉社の勧請せらるると云ふ。古く國守・地頭の崇敬社なり。當社所藏の文書中に、鎌倉時代既に公方の崇敬、降つて天文三年二月今川氏輝の社領寄進、同氏廣・義

元・氏眞および北條氏政等の列物を藏すべしとあり。徳川氏の世・永印五十石の寄進あり。社寶中、源頼朝が富士櫻野の牧狩に用ひし笠殿と云へる瓦甕あり。なほ山王靈驗記一卷は國寶。橋郷親助にして轉達、當代大和繪の趣致を表はす。例祭、十月十九日。(丸子神社・淺間神社)本字淺間町に鎮座。縣社(丸子)・郷社(淺間)・祭神、金山彦命(丸子神社)・木花咲耶麻命(淺間神社)。丸子神社はもと沼津驛を距る西五町の田中にありしを中古に現社地なる淺間神社に奉遷し、舊社地に小祠を營みて神輿御座所とす。延喜式駿河郡二座の一にて諸郡神階に正五位下麻留天神とあり、明治元年東京奠都の際十月七日官幣を奉らる。同六年三月郷社に同十二年縣社に昇格す。淺間神社は延暦年中に坂上田村麿東征の時の鎮座と云ひ、初め當市狩川の右宮町にありしを寛治年中に源義家造營し、建仁三年九月に現社地に遷座す。慶安二年八月に徳川家光永印十石六斗を寄進す。明治四十年、山神社・秋葉神社・下川原神社を合併す。例祭、六月十七日(丸子神社)・九月十五日(淺間神社)。(揚原神社)大字下香貫に鎮座。郷社。祭神、大山祇命・石長姫命・木花開耶麻命。本社は貞觀元年從五位下を、同十二年正五位下を、仁和二年正五位上を授けられ、延喜の制、國幣の大社名神に班し、伊豆國神階に「從一位下」の明神と見えたる揚原神

社に充てられ、もと大宮・松彦明神・三島大明神とも云へり。近世に兩香貫の總領守たり。例祭、一月十七日。(永明寺) 出口町にあり。臨濟宗妙心寺派。精金山。興津清見寺末。創建年代不詳。庭内に樹齡二百五十餘年、姿態優美なること東海隨一と稱せらるる老松あり。(西光寺) 宮町にあり。時宗。傳徳山。弘仁年中、弘法大師の開創にて、のち現宗に轉ず。寺寶に足利將軍書狀・今川義元書その他多數あり。(兼蓮寺) 本町にあり。淨土宗。千本山。天文年中増長園の開創。武田勝頼は三世大譽に歸依し沼津築城の餘材を以て堂宇を修葺す。長間は千本松原の松を樹みし人として著はれ、里人これを徳として此寺を建てしと云ふ。(靈山寺) 下香貫にあり。曹洞宗。兜率山。櫻外水宜和尙を開山とす。境内に小松内府重盛の墓あり。

【沼田村】 北海道石狩國空知支庁沼田郡の北部。石狩川支流沼田川の北岸地方を占め、村内の大部は天鹽山脈に屬す。西は山脈を以て留萌支廳に界し、東及び南は川を以て多度志村・秩父別村に接す。面積三四一・一七平方軒。地勢概ね山地にて北部に坊主山(七七六米)聳ゆ。南方に傾斜しガンニヤシメツ。經新太刀別諸川を發す。兩龍川は西南流して南境にて之等諸川を合し平地を開き耕地多し。經新太刀別川の上流山中に淺野・昭和二炭礦ありて當村の産物中その第一の産額を占め、米・馬鈴薯等の農産あり。省線留萌本線石狩沼田線(明治四十三年設置)を置き沼田本線分岐す。また社線留萌線(昭和五年設置)あり。北龍へはバスを通す。大正三年に北龍村の一部を割きて上北龍村を置き、同七年上北龍村の一部と多度志村の一部を合て新加内村を置く。同十一年上北龍村は沼田村と改稱す。

【沼田町】 群馬縣上野國利根郡の西南部にあり。利根川の東岸にして、赤城山の西北麓にあり。利根川の支流沼田川は北境を西流して利根川に合し、町の西部は狭き平地にして米・麥を産す。栗落は町の東部臺地上に發達し、製絲業盛にて生絲の産額多し。町の西部を北走する縣道は清水峠を経て新潟縣に通ずるものなり。また關島縣會津に通ずる沼田街道はこゝより分岐して東北に走りバスを通す。省線上

【沼田村】 北海道石狩國空知支庁沼田郡の北部。石狩川支流沼田川の北岸地方を占め、村内の大部は天鹽山脈に屬す。西は山脈を以て留萌支廳に界し、東及び南は川を以て多度志村・秩父別村に接す。面積三四一・一七平方軒。地勢概ね山地にて北部に坊主山(七七六米)聳ゆ。南方に傾斜しガンニヤシメツ。經新太刀別諸川を發す。兩龍川は西南流して南境にて之等諸川を合し平地を開き耕地多し。經新太刀別川の上流山中に淺野・昭和二炭礦ありて當村の産物中その第一の産額を占め、米・馬鈴薯等の農産あり。省線留萌本線石狩沼田線(明治四十三年設置)を置き沼田本線分岐す。また社線留萌線(昭和五年設置)あり。北龍へはバスを通す。大正三年に北龍村の一部を割きて上北龍村を置き、同七年上北龍村の一部と多度志村の一部を合て新加内村を置く。同十一年上北龍村は沼田村と改稱す。

ち安備責任の居城となり、次いで清原家衡これに據り後三年の役に、家衡この橋にありて叛す。尋で清原氏は金澤橋に移る。足利氏の末期、小野寺中書、此地に住し、その子輝道、附近の地を攻略して勢力あり。當時實に小野寺氏全盛時代にして謂はゆる由利十二黨・仙北六黨・角館の戸澤氏みな隸屬せし時にして沼館の陸盛時たり。子孫相繼て居住す。慶長五年徳川家康は小野寺氏の封を収めて佐竹義宜に與へ、城つひに廢せらる。いま義光院のある所はその城址と傳ふ。

【沼田村】 北海道石狩國空知支庁沼田郡の北部。石狩川支流沼田川の北岸地方を占め、村内の大部は天鹽山脈に屬す。西は山脈を以て留萌支廳に界し、東及び南は川を以て多度志村・秩父別村に接す。面積三四一・一七平方軒。地勢概ね山地にて北部に坊主山(七七六米)聳ゆ。南方に傾斜しガンニヤシメツ。經新太刀別諸川を發す。兩龍川は西南流して南境にて之等諸川を合し平地を開き耕地多し。經新太刀別川の上流山中に淺野・昭和二炭礦ありて當村の産物中その第一の産額を占め、米・馬鈴薯等の農産あり。省線留萌本線石狩沼田線(明治四十三年設置)を置き沼田本線分岐す。また社線留萌線(昭和五年設置)あり。北龍へはバスを通す。大正三年に北龍村の一部を割きて上北龍村を置き、同七年上北龍村の一部と多度志村の一部を合て新加内村を置く。同十一年上北龍村は沼田村と改稱す。

【沼田村】 北海道石狩國空知支庁沼田郡の北部。石狩川支流沼田川の北岸地方を占め、村内の大部は天鹽山脈に屬す。西は山脈を以て留萌支廳に界し、東及び南は川を以て多度志村・秩父別村に接す。面積三四一・一七平方軒。地勢概ね山地にて北部に坊主山(七七六米)聳ゆ。南方に傾斜しガンニヤシメツ。經新太刀別諸川を發す。兩龍川は西南流して南境にて之等諸川を合し平地を開き耕地多し。經新太刀別川の上流山中に淺野・昭和二炭礦ありて當村の産物中その第一の産額を占め、米・馬鈴薯等の農産あり。省線留萌本線石狩沼田線(明治四十三年設置)を置き沼田本線分岐す。また社線留萌線(昭和五年設置)あり。北龍へはバスを通す。大正三年に北龍村の一部を割きて上北龍村を置き、同七年上北龍村の一部と多度志村の一部を合て新加内村を置く。同十一年上北龍村は沼田村と改稱す。

【沼田村】 北海道石狩國空知支庁沼田郡の北部。石狩川支流沼田川の北岸地方を占め、村内の大部は天鹽山脈に屬す。西は山脈を以て留萌支廳に界し、東及び南は川を以て多度志村・秩父別村に接す。面積三四一・一七平方軒。地勢概ね山地にて北部に坊主山(七七六米)聳ゆ。南方に傾斜しガンニヤシメツ。經新太刀別諸川を發す。兩龍川は西南流して南境にて之等諸川を合し平地を開き耕地多し。經新太刀別川の上流山中に淺野・昭和二炭礦ありて當村の産物中その第一の産額を占め、米・馬鈴薯等の農産あり。省線留萌本線石狩沼田線(明治四十三年設置)を置き沼田本線分岐す。また社線留萌線(昭和五年設置)あり。北龍へはバスを通す。大正三年に北龍村の一部を割きて上北龍村を置き、同七年上北龍村の一部と多度志村の一部を合て新加内村を置く。同十一年上北龍村は沼田村と改稱す。

ネ

ネーエツ 寧越

【寧越郡】朝鮮江原道二十郡の一。江原道の南端に位し、北は旌善・平昌・横城の各郡に、東は三陟郡、西は原州郡に接し、南は慶尙北道・忠清北道と境す。地北西一東南東に長く約八〇軒、幅は平均四分の一に過ぎず。面積一六〇、三方軒。大白山脈の餘脈によりて山地をなし、東境には白雲山(一四二六米)・五石山、北西境には白雲山(一三五〇米)・南境には太華山(一〇二七米)・松鶴山等聳立し、中央部に於て漢江及びその支流平昌江・泗川江等が合流し比較的廣き盆地あり、灌溉の便と相俟つて此處に沃野を展開せしむ。本郡は江原道より忠清北道に通ずる要衝に當り、堤川(ハス)の領あり、其他原州・平昌に至る道路も改修せられて自動車の便よく、漢江には舟運の便あり。農業は畑作を主とし、なほ火田民の残存する者尠からず。寧は大豆・小麥・粟・ライネの各種を通じて栽培せられ約三萬石、その他米・大豆・粟・玉蜀黍等あり、棉・大麻・蠶草・楮・莞草等の特用作物も多く、特に蠶草は地質・風土その栽培に好適し、品質極めて佳良にして、寧越産と稱し牛島第一の譽價あり、産況活況を呈す。

ネーヘン 寧邊

【寧邊郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の東南部に位し、北は熙川・雲山の二郡、西は泰川・博川の二郡に接し、東南一帯は平安南道と界す。面積一七〇九・七方軒。東部及び南部の道界には妙香山脈が西南に向つて走り、主峰なる妙香山(一九〇九米)をはじめ龍門山(一一八〇米)等聳え、その餘脈域内に蜿蜒して東半部は一帯に山地をなし、東北一西南に貫流する清川江沿岸に僅かの低平地を見る。西半部は一部は秋後嶺山脈の餘脈延びて香積山(七八二米)等を起すも、大部分は蛇曲南流する九龍江の流域に屬し、土地一般に低平にして沃野連綿、但し灌溉の利に乏しく、主として畑作農業行はる。農産物は米・大豆・粟その他の雜穀を始め棉・大麻・苧・胡麻・馬鈴薯等あり、牧牛善く行はれ、殊に養蠶業は極めて盛にして、現時の盛況は明治初年の觀察使李載堉の獎勵宜しきを得たる賜とせられ、産額三十餘萬石。従つて本郡

り。各種の礦産に富み稻粟鐵山最も著る。また無煙炭の埋蔵多く、その採炭は朝鮮電力株式會社の發常用として利用せらる。工業には朝鮮紙・繩纜・苧草織・麻布等あり。行政上、八箇面に分たれ、郡廳を寧越面に置く。本郡は高句麗時代に奈生郡と稱し、新羅時代に至り奈城郡と改め、高麗朝には寧越と稱し原州に屬せしめ、李朝に至り忠清道より移轉して現在に及べり。

【寧邊面】朝鮮江原道寧越郡の略中央。大白山脈の西斜面に當り、高距六七百米の山脈數條南北の方向に走り、南部には蓬萊山(八〇〇米)聳ゆ。漢江は東北方より來り山地間を蛇曲して城内を北より南へ流れ、寧越邑の南方にて西北より來る平昌江と合し、東南に去る。沿岸には河成段丘發達して農耕行はる。産物は農産に米・粟・麥その他の雜穀及び蠶草あり、蠶草耕作に従事する者は住民の四割強に達す。北部は寧越田の礦區の一部に當り、無煙炭を産出す。市街は面の南部、漢江・平昌江の合流點近くに位し、江原・忠北・慶北三道の交通の要衝に當り、邑内より平昌・原州・堤川へ何れもハスの便あり、また漢江の水運に乗ずれば約三日にして京城龍山に達す。郡廳・地方法院出張所・地方專賣局出張所・公立農林學校・蠶草耕作組合・金融組合等あり。市場は蠶草・米・明神等の集散多し。邑の西北方、永興里隣洞に李朝端宗

ネーエン 寧邊

【寧邊郡】朝鮮平安南道二府十四郡の一。道の東北隅に偏在する道内第一の大郡にて、面積約二五〇〇方軒。東は咸鏡南道の咸州・定平の二郡、東北は阿長津郡、北は平安北道の江界・熙川二郡、西は同寧道郡及び徳川郡、南は孟山郡及び咸鏡南道水興郡とに界す。東境には牛島北部の香梁を成す臥龍峰山脈及び北大華山脈相連りて小白山(二一八四米)・東白山・小白山より西南には妙香山脈被れて狼狽山(二〇一四米)・舞臺峰・妙香山等を連れ、これ等の支脈域内に蜿蜒起伏して平地に乏し。大同江は郡の東北隅山中に發源し初め南流、次いで西流し、咸鏡江その他の支流を合せて徳川郡に入るも、概して急流にて水運に不適せし。耕地に乏しく、住民の多くは畑作農業に従事し、大豆・粟、その他雜穀・蠶草等の産あり、養蠶・牧牛は稍盛んにて綿・絲・牛皮等を出すほか、金・タンクステン等の礦産あり。西方安州方面より來り寧邊を經て東北に咸鏡南道に出づる二等道路を幹線とし、寧邊より南方孟山に至る街道をわから、ハスを通ずるも、交通未だ不便なり。行政上、九箇面に分たれ、郡廳を寧邊面に置く。人口密度一方軒當り約二二

人にして道内に於て最も稀薄なり。本郡は古へ樂浪郡二十五縣の一にて不内縣と稱し、その後麗麗遷、李朝太宗王の時の永寧縣の一部となり、近世寧邊と改む。昭和十年徳川郡大橋面を本郡に編入す。

【寧邊面】朝鮮平安南道寧邊郡の西南端。北大華山脈に屬する山地にして、北境に神奇峰(一四六五米)・徳仁峰、南境には萬陣徳山(一一六〇米)・大徳山・慶善山(九七三米)・仙舞峰等連り、餘脈は更に風徳山(八一〇米)・新里山等を起し、西部を貫流する大同江沿岸に僅かに低地ありて農耕行はる。産物は粟・大豆・雜穀・生牛・牛皮・絹布・金銀(榮星金礦)等を主とす。大同江に沿ひて咸興に至る街道通じ、途中南折して孟山に至る路線ありいづれハスを通ず。寧邊邑は大同江左岸の段丘上に位し、本道奥地に於ける政治・交通等の中心を成す。郡廳・地方法院出張所等あり。市街の北東約四軒に都坪里の金礦産あり。

ネーカイ 寧海

【寧海郡】朝鮮慶尙北道盈徳郡の北部。盈徳の北約一五軒。東西約一八軒、南北約四軒。東は日本海に臨む。西部は大白山脈に屬する山地にて西境に於て高距七八百米を示し、東に緩斜し、その支脈は東部海岸に延びて二百米の丘陵起伏するを以て、平地に乏し。中部を貫流し流程約二〇軒にて海に注ぐ寧海江あれど、天井川にして灌溉の利少なし。海岸は概れ岩岸にして、北端

に於ける明神の産額多く、實はた優良を以て聞ゆ。昭和十一年末現在の農産戸數九八五〇、製粉六九五〇、計一六八〇〇戸にして、糧食は漸次在來のものより高級・改良糧食に代りつつあり。林野はカラマツ・サウゼンマツ・ソウ等繁茂し用材・薪材を出すこと多く、礦産に金・砂金・無煙炭・亞鉛等あり、龍山面の龍登炭礦は有名なり。工業には絹布(昭和十一年末、二六萬圓)の外、地酒・酒精・生絲・糖子・鐵器・眞鍮器等あり。清川江に沿ひ地質府鐵道清浦線通じ、球場・新興洞・北新嶺・妙香山等の驛あり、球場よりは東洋第一の鍾乳洞なる鍾乳窟を經て龍登に至る龍登線を出す。道路は清浦本線とほぼ並走する江界街道のほか、寧邊を中心として泰川・博川・价川等にいづれハスを通ず。行政上、十四箇面に分ち、郡廳を寧邊面に置く。本郡はもと延州・撫州二縣の地なりしを、李朝世宗十一年に寧邊と稱し、邑を今の寧邊に定め郡制を置き、次で府使に代へ、明治二十九年更に郡守に改め、同時に此處に平安北道觀察府を置きしが、同四十二年義州に移され、爾來、郡のみを以て今日に及ぶ。

【寧邊面】朝鮮平安北道寧邊郡の西南部。面積約四六方軒。東北より西南に走る山脈域内に連貫し、中部西側に藥山(四九〇米)聳え、中部以東は山地を成す。九龍江は北方より來り面の西及び南を曲流し、その左岸に平地開け、農業行はる。産物は米・大豆・粟その他の雜穀を主とし、養蠶も盛にして蠶の取引の盛なること牛島有數なり。工業に絹布・生絲・蠶酒等あり、機織・製絲は特に盛にして、明神は古來有名なり。市街は面のほぼ中央に位し、山を以て圍まれ形貌も鐵窟の如く、鐵窟城と稱せられ、古來要害の地たり。城壁に周圍約一二軒、もと四方に樓門ありしが、今は南門及び北門(一名水口門)のみを有し、朝鮮城市の標式的のものとせらる。西方の安州より入り北方の江界・熙川・雲山地方に通ずる要路に當り、その他泰川・价川・球場等へも何れハスを通ず。邑は高句麗の山上王が郡を義州より遷せしことあり、のち寶藏王の時に唐の高宗は高句麗を滅し其孫太祖帝を此地に封じ、震國王と稱せしめしことあり。その後契丹は此處に東丹國を建て高麗太祖に滅さるるまで寧邊を國都とせり。いま郡廳・地方法院支廳・道立農業學校・道立醫院分院・稅務署・動物検査所・蠶業取締支所・殖産銀行支店・寧邊産業組合等あり。邑内西部の藥山上に藥山東臺の佳景あり、山腹の周圍には天柱寺・樓雲寺等の名刹存す。西部洞には六勝亭あり。

ネアガリ 根上町

【ネアガリ 根上町】石川縣加賀國能美郡の西部。寺井野町の西に、安宅町の東北に接し、西は海に面す。海岸は砂丘連り、東部は加賀平野に屬し肥沃なる耕地

開く。平地には米の産多く砂丘上には桑園多く繭の産あり、また機業盛にて羽二重の産額多し。省線北陸本線は町内を南北に貫通し寺井驛(大正元年設置)あり、之より東方へ社線能美電線を分岐し、その新寺井・國池・加賀福岡・中ノ庄・五門堂の五驛(大正十四年設置)を置く。美川・小松・寺井野町へ縣道ハスの便あり。明治四十年福江・江ノ島・釜屋の三村を合し根上村を置き、昭和九年町制を布く。附近は加賀舞子海水浴場として知らる。

ネイ 婦負郡

【婦負郡】富山縣八郡の一。富山縣の中部にあり、神通川左岸流域一帯の町を占む。北は富山郡に臨み、東は神通川を境に上野川郡及び富山市、南は白木峰・小白木峰を以て岐阜縣飛騨郡、西は東嶺波・射水兩郡と界す。面積四四四・七四方軒。南北に長く南・西兩部に山地あり、東端は富山市西方に延び奥羽丘陵となりて終る。之等山地の水を聚め井田川中央を貫流し、東境を北流する神通川と合し海に注ぐ。平地は東部及び南部に開け肥沃なる水田をなし米を産す。西部丘陵地帯には養蠶・養蠶等の副業盛に、南部山地よりは木材・木炭を出す。また平野の各町村には養蠶の製造盛にて、四方町はその中心地をなす。神通川・井田川は鮎・鱒の名産地として知られ、四方町は富山湖漁業の一中心地にして鮎・鱒・鱒・烏賊等の水産額多し。省線北陸本線は北部を東西に貫通し、東部を省線高山

本線通じ、神通川に沿ひて飛騨に入る。其の他富山市より四方町を経て射水郡新湊町に至る社線中鐵道の便あり。國道は北部を貫通し縣道また發達して交通便なり。郡内四方・八尾兩町外廿九箇村を含む。萬葉集卷十七の詞書に本郡名見えず。和名抄は關比と訓じ高野、高島・岡本の九郷及び餘戸一を管す。近世は地負に作り明治に至り現稱となる。

ネウ 根雨町 鳥取縣伯耆國日野郡の東南部。日野川の上流右岸に沿ひ、東境及び南境は岡山縣の西北部に接し、西北は川を隔てて日野町と界す。面積五二・六九方軒。北・南兩部を東西に連貫せる二條の山脈あり、北境に寶佛山(一〇〇二米)・毛無山(二二八米)・南境に二子山(一〇七五米)等聳え、村内概ね山嶽地帯を成す。中央に稍低き谷間を美作國津山市より來る國道西北に貫通し藤山町にバス連絡す。省線伯耆線西境を走り高梁町より通ずる縣道の國道と合する所に根雨驛(大正十一年設置)あり。米・麥・烟草・繭・木炭・牛・馬・鶏等の産あり。此地は和名抄、日野郡武庫郡の内なり。大正二年根雨村及び眞住村を廢し根雨町を置く。大字令持は一に加持に作り古城址あり、これは太平記に見ゆる金持黨三百餘人、或は金持大和守景藤とある金持氏の居城なるべし。(根雨神社)大字根雨宿に鎮座。郡社。祭神、素戔嗚尊。古社なりと

傳へ、中世戦亂に際し一時衰頹せしが尼子・毛利の兩氏領主となるや社領九十石其他を寄せ、次で天正年中、中村氏領主また先規に準ず。例祭、七月十五日。

ネオ 根尾 岐阜縣美濃國本巢郡の北部。根尾川上流一帯を含む山村にて、北は屏風山脈により嶺前國大野郡と界し、東西兩境にはその分脈南北に連貫して東は郡上・山縣兩郡に、西より西南にかけて掛妻郡に接す。面積二九七・四六方軒の大村なるも、人口密度は一方軒十九人に過ぎず。根尾川は西北隅温見峠(一〇一九米)に發源し東を流るる一支を併せて時中央を南下す。村内山岳重疊して耕地乏しく、林業と和紙製造を主産業とし、河津僅かの低地には桑・麥・米・大豆等の耕作も行はる。根尾谷は明治二十四年の濃尾大地震の震源地にして之により生ぜる大斷層は今天然記念物に指定さる。根尾川。岐阜市より大字黒津までは縣道通じバスの便あり、北部は山道により温見・福帽子等の峠を越え嶺前國に通ず。本村は謂はゆる根尾谷の内にて明治廿七年東根尾・中根尾・西根尾の二村を廢し根尾村を置く。村内に根尾城址二あり、一は大字宇津志にあり、堀口貞満の居りし所なりと。貞満は延元三年の春、根尾嶺山より打出でしこと太平記に見ゆ。一は大字神所にあり、延元年中、土家根尾氏この城に據り吉野朝に盡す。同四年九月

月臨屋義助越前に敗れて美濃に入り此城を保つ。次で同月下旬土岐頼隆に攻められ落城す。義助等潛に逃れて熱田に走り大宮司千秋氏に依れり。(根尾谷海軍艦)指定天然記念物。大字板所小学今村にあり。漢語標とも書く。白波岸標の一種にして、花の枝上に群り咲くを以て、三好學博士によりて群波岸の名を與へらる。幹圍目五九米、高さ二七米、枝葉東西三米、南北三三米あり。(春日神社)大字神所に鎮座。郡社。祭神、武甕槌命・經津主命外二柱。社傳に延喜二年奈良の春日社よりの勧請と傳へ、往古は輪奐の美を極めきといふ。例祭、三月十五日。

【白山神社】大字能郷に鎮座。郡社。祭神、伊弉諾命外二柱。美老二年僧泰澄の創立にして、往古奥の社口、謂はゆる前山白山神社の御旗所にして神體は黄金なりといふ。奥の社は當社を去る五、六里の山嶽にありしが延徳年中火災に遭ひてより舊態に復せず。村民古くより能技を習ひ例祭には社頭にて必ずこれを舞ふの例あり、字名これに依る。例祭、三月十二・十三・十四日。

【根尾川】岐阜縣にある川。本巢郡根尾村の西北境温見峠(一〇一九米)より發し、ほぼ中部を南流し、東北境明神山(一四一四米)に發源する小流東谷を合し、本巢・掛妻兩境を流下し濃尾平野に出で分流し、一は長良川に入り、他は本巢・掛妻・安八三郡界にて揖斐川に合流す。川

【根尾川】岐阜縣にある川。本巢郡根尾村の西北境温見峠(一〇一九米)より發し、ほぼ中部を南流し、東北境明神山(一四一四米)に發源する小流東谷を合し、本巢・掛妻兩境を流下し濃尾平野に出で分流し、一は長良川に入り、他は本巢・掛妻・安八三郡界にて揖斐川に合流す。川

ネカタ 根形村

千葉縣上總國君津郡の北部。昭和町の東隣。北半は低き丘陵地に於て森林あり。南半は小櫃川流域平地の一部をなし、水田多く米を主産し、他に麥・繭・鶏を産す。縣道は昭和町に通じ同町に會津房西線發着驛を置く。此地は和名抄、忍陀郡低富郷の内なるべく同くに五れり。

高梁通上總國歌に「宇麻呂多の國呂にかり居かくだにも國の邊かばながめりせむ」とあるは此處か。(能高神社)大字飯宮に鎮座。郡社。祭神、倉稻魂命・神八井耳命。天保元年の創建と傳へ式内小社なり。天慶二年、勅使下向ありて朝敵平將門降伏の御祈願あり、太刀一口を納めらる。いま社寶としてこれを藏す。例祭、七月二十四日。

ネカワ 根川

愛知縣東加茂郡にありし町。明治三十九年他の一町三箇村と共に廢し郡母町を置く。

ネキ 福疑野

豊後國(大分縣)の古地名。風土記によれば景行天皇筑紫御巡狩の際に勅して兵衆を勞はれしにより此名ありと。日本書紀・景行天皇十二年の條にも直入縣福疑野に三土蜘蛛ありと見ゆ。其地今の直入郡蒼生村の邊に當る。蒼生村。

ネギ 福宜嶺山

↓和佐村(和歌山縣) 根岸 省線會津線の一驛(昭和九年設置)。福島縣大沼郡新島村にあり。【根岸】東京市下谷町内にある地名。上野山の根岸にあるより起れる名といはれ江戸時代に於ては永く閑靜の地として閑ゆ。根岸の三木として二股根・かいばらの根・御行松、根岸の三鳥として鶯・たかもりひばり・鶴など名物として聞え、鶴御成と共に鶯春亭鶯鳴會の名は高かりき。元祿の頃、上野宮公辨親王關東の

ネカワ——ネコマ

雲には當るために上方より數百羽の雛を下し根岸に放たれてより雲の名所となり、初音の里の名さへ起るに至る。鶯會は昔は年々向島詣地に開きしが、弘化四年六月には根岸の梅屋敷に移せり。毎年四月四方より向島を持寄りてその聲を評し優劣を列して一等を「准の一」と稱する聯合會傳統の儀式ありきと。明治の俳句和歌革新運動にて知らるる根岸派は、その主唱者正岡子規が此の地に産居せしに由る稱なり。江戸砂子「根岸の里。雲の名所なり、元祿の頃上野御門主様より、上方の鶯を多く放させ給ふなり」。

ネコ 根子・猫

【根子】岩手縣稗貫郡にありし村。大正十二年花巻川口村に編入し、昭和四年花巻川口村に花巻町に編入さる。【猫坂】猫坂峠ともいふ。甲府市の北約一四軒。山梨縣中井原郡宮本村に屬す。最高點一一三八米。甲府市方面より金峯

ネコ 猫魔ヶ岳

郡須火山帯の一峯。嶺首代謂の北岸。標高(二八一九米)の西方に並び、福島縣郡縣郡標村と槍原村との境に峙つ。標式約單式火山にして秀麗なる富士型をなし、標高一四〇四米

山方面への登山路に當り、峠上より北東方金峯山及び南方アルプスの大觀に接し得。峠の南麓は景勝地としてその名高き身狭峠なり。また金嶺神社は南方約二・七軒に鎮座す。北麓に燕岩と稱する大岩壁あり、石安山山岩の岩脈にして凝灰岩の母岩を貫き、その幅凡そ五〇米、長さ數百米に亘り、頗る壯觀なり。また燕岩の附近に信玄公隱湯として名高き黒平温泉湧出す。

ネコ 根子岳

草津白根火山群に屬する一峯。上田市の北東方約二〇軒。長野縣上高井郡仁禮村と小縣郡長村との境上に在り。四阿山(二二二二米)の西段に並び、標高二一九五米。山頂に小祠あり。山頂は東方白根火山群の峯々、西方は日本北アルプスの長き展開帯をなし、冬季露氷美し。南西斜面は樹木無き草地にて牧場として用ひられ北信牧場と稱す。南西麓は菅平にして、スキー・ゲレンデとしてその名高し。菅平に集ふスキーヤーは積雪へのスキー・ツアーを樂み、菅平より三時間乃至四時間にて頂上に至る。

ネコ 廣島縣

【廣島縣】廣島縣にある水道。賀茂郡仁方町・川尻町と安藝郡上浦町・下浦町島との間にありて兩郡界をなす。最狭部の幅約一一〇米、水深約五〇—一〇〇米にて瀬戸内海にては最深の地域たり。尾道より瀧渡瀬戸を経て吳・廣島に至る小船の通路に當り、通過中は船中にて三味線を弾くを固く思むと傳ふ。

ネコマ 猫魔ヶ岳

郡須火山帯の一峯。嶺首代謂の北岸。標高(二八一九米)の西方に並び、福島縣郡縣郡標村と槍原村との境に峙つ。標式約單式火山にして秀麗なる富士型をなし、標高一四〇四米

ネコマ

を算し、山體輝石安山岩より成る。全山森林よく發達す。飯山(二二六四米)・古城ヶ崎(二二八八米)・雄山(二二七二米)・鹿山等の諸峰相連りて環状をなし一六六口の外輪環状たるを示し、猫寛ヶ岳はその最大のものにて東部に位す。火口は直径凡そ二・五軒、内方は窪みて火口原をなしその一部に火口湖雄山沼を遺ふ。沼は南北に稍長く周囲凡そ三軒、餘水は北方なる輪原湖に注ぐ。

ネコマタ

【猫又山】日本北アルプス立山山脈の北端部、毛勝三山の一峰。西側は富山縣中新川郡白萩村と下新川郡片貝谷村、東側は黒部國有林地域に屬す。標高二三七八米。北麓は釜谷山を経て毛勝山(二四一四米)並び立ちて毛勝三山をなし、南東麓は赤谷山(二二六六米)連る。西斜面より片貝川發し北西流して日本海に注ぐ。山頂よりは日本北アルプスの北半を一時に取め、特に東方黒部溪谷を隔てて後立山連嶺の展望絶佳なり。この附近は日本海に近接するを以て冬季降雪量多く、春夏の候も降雪淡からず、高山の風光に接し得らる。登山は南方側方面、或は北方毛勝岳より尾根絶定に依るか、或は北方片貝川、或は東方黒部川支谷小黒部谷を進行して行ふ。但し登路はいづれも豊はず。登高困難を伴ふ。

五軒、清水岳(二六〇五米)の北西嶺。富山縣下新川郡黒部國有林地域に屬す。南斜面より猫又谷の溪水發し、南西に流れ黒部川に落つ。同じく黒部川支流黒部川は東・北・西麓を潤流し、西流して本流に合す。

ネゴヤ

根子屋 神奈川縣津久井郡にありし村。明治四十二年青山・長竹の二村と共に串川村を建つ。

ネゴヤ

根古谷 ↓川上村(千代郷) 郡の西北部。和泉山脈の南斜面に位し、岩出町の北方約一軒。北は大坂府泉南郡に接す。北部は和泉山脈に屬する山地にして東北部の根来山四段を伸べり。南半は和泉山脈の一部に屬し低平にして湖沼・細流少からず。耕地よく拓かる。米・麥・柑橘等の農産、及び畜産・林産・工業あり。南部には東西に走る縣道あり。また風吹峠を越えて大坂より根来街道來り村を南に貫き岩出町に出でてバスを通ず。此地は和泉抄、那賀郡山崎町の内なり。(大傳法院根来寺)大字西坂本にあり。新義眞言宗智山・豊山兩派所屬。根来山大傳法院と號し、本宗智・豐兩派の大本山たり。大治五年覺變(興教大師)高野山に一字を創せしに始る。翌天承元年鳥羽上皇の宣を奉じ更に七間四面の堂宇を建立し、金色丈六の大日如來を奉安して大傳法院と號す。其後、上皇臨幸あり、七箇の莊園を賜ふ。長承三年に至

ネゴロ

り覺變、上皇の詔を奉じて常院及び金剛寺の座主を兼ねしが、大傳法院の勢力漸く盛大に赴くや、金剛寺宗徒との間に溝壑を生じ、保元元年兩者の軋軋愈激烈を加へ、覺變顯授の責を引きて座主の職を眞誓に譲る。同六年遂に高野山の大家覺變を襲ひ、大傳法院以下百餘字を燒却す。依りて逃れて根来に下り圓明寺を建つ。時に一門の徒七百餘人これに従ふ。爾後その規模を擴張して堂塔坊舎二千七百餘棟を有するに至る。これ新義派別立の紀元なり。爾來寺運益々隆盛に赴き、聖靈法印に及びて新義派學說大成せられ、寺領七十萬石を領し、一山の僧兵また頗る威勢を逞しうし、世に根來僧兵と稱してその強靱を稱せられしが、天正十三年織田信長より歸順を勧められしも應ぜざりしため、一郡を除くの外本院悉く燒却せらるる所となり、ここに一山滅亡の悲運を見るに至り。其後再興を企てし徳川幕府に認められて果さざりしが元和九年徳川頼宣當國を領するに及び、寺領二百六十石を附す。のち寶永四年、江戸幕府の陸光、五代將軍綱吉に請ひて日本總動化の許可を得、寛政九年本坊を再建す。爾後漸次復舊せしを以て紀州侯、豊山の法住を請じて中興第一世となし、爾來智豐兩山交臂に往持して明治維新に及び今なほ一家の權威たり。堂宇中多寶塔は國寶。

【根知村】新潟縣越後國西頸郡の中郡。糸魚川町の南方約七軒。根川の東岸。支流根知川に沿ふ根知谷一帯を含み、南は兩神山(一九三六米)・戸倉山を以て長野縣北安曇郡と界す。東南部には千數百米の山岳重疊し、根知川は東南隅兩神山に發源し村の中央を西北に流れ、西境を北流する根川に合す。根知川流域は本村主要なる耕地なるも狭小にして夏季流水の便よろしからず。農業を主とし、林業・

ネサキ

り覺變、上皇の詔を奉じて常院及び金剛寺の座主を兼ねしが、大傳法院の勢力漸く盛大に赴くや、金剛寺宗徒との間に溝壑を生じ、保元元年兩者の軋軋愈激烈を加へ、覺變顯授の責を引きて座主の職を眞誓に譲る。同六年遂に高野山の大家覺變を襲ひ、大傳法院以下百餘字を燒却す。依りて逃れて根来に下り圓明寺を建つ。時に一門の徒七百餘人これに従ふ。爾後その規模を擴張して堂塔坊舎二千七百餘棟を有するに至る。これ新義派別立の紀元なり。爾來寺運益々隆盛に赴き、聖靈法印に及びて新義派學說大成せられ、寺領七十萬石を領し、一山の僧兵また頗る威勢を逞しうし、世に根來僧兵と稱してその強靱を稱せられしが、天正十三年織田信長より歸順を勧められしも應ぜざりしため、一郡を除くの外本院悉く燒却せらるる所となり、ここに一山滅亡の悲運を見るに至り。其後再興を企てし徳川幕府に認められて果さざりしが元和九年徳川頼宣當國を領するに及び、寺領二百六十石を附す。のち寶永四年、江戸幕府の陸光、五代將軍綱吉に請ひて日本總動化の許可を得、寛政九年本坊を再建す。爾後漸次復舊せしを以て紀州侯、豊山の法住を請じて中興第一世となし、爾來智豐兩山交臂に往持して明治維新に及び今なほ一家の權威たり。堂宇中多寶塔は國寶。

ネサキ

【根知村】新潟縣越後國西頸郡の中郡。糸魚川町の南方約七軒。根川の東岸。支流根知川に沿ふ根知谷一帯を含み、南は兩神山(一九三六米)・戸倉山を以て長野縣北安曇郡と界す。東南部には千數百米の山岳重疊し、根知川は東南隅兩神山に發源し村の中央を西北に流れ、西境を北流する根川に合す。根知川流域は本村主要なる耕地なるも狭小にして夏季流水の便よろしからず。農業を主とし、林業・

ネズガセキ

【念珠關村】山形縣羽前國西田郡の西南部。南方は新潟縣に接し、西方は日本海に面す。南境には芋澤山(四八三米)、北境には大畑山(六一七半)、矢野山(四二四米)あり、全村概ね山地にして、小川川は北部を、鼠ヶ淵川は南部をそれぞれ西流し日本海に注ぐ。海岸は山地迫りて岩石海岸をなし、辨天島に鼠ヶ淵燈臺(大正十四年設置)を置く。燈臺不動白光、光遠距離十間。鼠ヶ淵港は辨天島が防波堤となりて天然の良港をなし指定港たり。米・蕎麥を産し、また漁業行はれ網の漁獲少からず。道路はまた漁船の快航を南北に通ず、これに並行して羽鶴本線通じ鼠ヶ淵驛(大正十二年設置)あり。此地はもと鼠ヶ淵と稱し、北陸道より出羽に入るの關門に當るところより古來その名著はる。東鑑に據れば、文治五年七月、源賴朝のまきに大舉して陸奥の藤原泰衡を討たんとするや、比企能久四能員・宇佐美平次實政等をして越後より此關を経て出羽に出でしめしことあり。かの源義經が奥州落ちの道程は、東鑑に伊勢・美濃等の國を経て奥州に赴きたりとのみ記し、他に記すと、ころなく、古來頗る疑問とせられしが、義經記に據れば北陸を経て此關に出で出羽を通りて平泉に出づとあり。この書は元來漢義に屬して信を措き難しと稱せらるるも、義經の

ネズガタ

【寢姿山】京都市東山の異稱。鳳凰山雪の句(蒲原)著る寢姿(東山)に基きていふ。

ネツコ

【猫越峠】 越前・根古山とも云ふ。天城山脈西部を乘越す峠。越前縣田方・賀茂二郡の境上に最高點を置く。北東麓に湯ヶ島・吉奈温泉湧く。下田街道の別路、湯ヶ島より南西方に分れてこの峠にかかり、仁科村・松崎町を経て、南東方に轉じて下田に至る。北東降すれば上野野村字猫越あり。この峠より東接天城峠まで平坦なる尾根越しの林道通じ、更に東接高二郎岳方面に渡走可能なり。峠の周圍はいま農林省經營の國營獵區をなし鹿・猪等多く棲み、獵期には狩獵家集

ネツツ

【熱野村】 北海道後志國後志支廳歌志那郡の南部。高砂灣の南岸にあり。西及び南は太田川を以て壽都郡と界し、北は歌志那村、東は磯谷郡に接す。面積一・二〇・八一一方軒。北半は六・七百里の山地に占められ、南半は熱野川流域なり。東部山中に發し村内を西流し西境にて太田川に注ぐ熱野川は沿岸平地を灌漑し、村内の人口を沿岸に吸寄せり。米・亞麻・馬鈴薯・牛・馬・木材等を産し、製麻業行はる。商館本線は村内に熱野驛(明治三十六年設置)を置く。本村は大正四年熱野・作間の二村を以て置きしもの。本村と磯谷郡南尻村に跨り重要礦山たる大金礦山あり、礦種は金・銀・銅・鉛なるが、昭和十年には金銀礦物五、三九三三(噸)約三十七萬噸を出す。なほ本村内には砂金及び砂白金の礦あり。

ネノ

【根野村】 廣島縣安藝國高田郡の西南部。西は山縣郡南方村、南は安佐郡大林村に隣接す。西北境に堂床山(七四〇米)、西南境には備前坊山(七八九米)あり。東境にも赤丘陸性山地連り概ね山地をなすも、中部はほぼ南北に稍廣き谷底ありて耕地開く。米・麥・蕎麥の外に生絲の産多し。縣道は中部谷底を走りバスを通ず。人口は大正九年二六四四人、同十四年二六八八人とほぼ同數なるも以後は減少し、昭和五年二〇九三人、昭和十年一九九六八となる。人口密度は昭和十年

ネスカ

能島(愛媛縣)

野

【野村】富山縣越中野村郡の中野。庄川の左岸に沿ひ高岡市の東に接す。東は川を隔てて大門町に對す。全村土地平坦肥沃、射水平野の中部を占め水田多し。米を主産物として農産の特産物あり。北陸道及び倉庫北陸本線村内を東西に貫き高岡市へバスの便あり交通至便なり。

【野(村)】石川縣石川郡にありし村。大正十四年、金澤市に編入さる。

【野(村)】愛媛縣東宇和郡にありし村。大正十一年野村町と改稱す。

【野岳】愛媛縣長門郡の一峯。

【能生町】新潟縣越後國西頸城郡の東北部の海濱。糸魚川町の東方約一二キロ。能生川の河口を扼し、東より一〇〇米餘の丘陵西北河岸に迫り、西部河岸には僅の平地あり。舊北陸道の一驛としてまた漁業の中心地として榮え、水産を筆頭に米・蕎麥等の産これに次ぐ。海沿ひに国道及び倉庫北陸本線通じ、後者に能生驛(大正元年設置)あり、糸魚川・名立間のバス及び能生川に沿ひ上流の須川まで自動車あり。明治十一年、明治天皇北陸御巡幸の際この地に御小休ありせらる。

る。(白山神社)社格不詳。祭神、奴奈川比賣命・伊弉諾命・大己貴命。熊登國石動山より勧誘すといへども、その創建年代および沿革等はすべて不明なり。社賣中・彫製立像(木造)一軀は肢體の朽損著しきも、面相・衣裳の様式より藤原末期の作と推定せられ、國寶に指定せらる。例祭日不詳。この社賣は天然記念物に指定せらる。

ノ一カ

【直方市】福岡縣筑前國の東端に位し、筑豊炭田地方の中心をなす商工都市。北は鞍手郡木原ノ瀬町・植木町・飯塚及び遠賀郡香月町に、西は鞍手郡西川村・宮田町に、南は嘉穂郡福井村及び田川郡上野村に、東は金豊郡中谷村に接し、東西約九キロ、南北一キロ、面積五六・五方キロの廣大なる地域を占む。人口四萬餘。東境に古生代の片岩より成る福智山塊礫り、本市と企救・田川二郡との境界に主峰福智山(九〇〇米)風主の如くに聳え、山腹の西に延ぶるものは鹿取山となり、北麓は中生層中の四稜岩を以て構成さるる雲取山・尺岳に續き、尺岳は西に舞岳を連ぬ。西北境には六ヶ岳山塊あり、最高三三九米にて中生層の砂岩・粘板岩の侵入せる岩脈を見る。此等東西兩山地の間は即ち遠賀川低地にて、東南より彦山川、西南より高瀬川北流し來り市の中西部に於て合流、遠賀川となり北流を續く。而して川の兩岸には左岸に新入丘陵、右岸に香月丘陵、また南部

開闢あり、一日の列車上下約百五十回、殊に石炭輸送車中輻輳の多きことに於て全國有數なり。いま市内各驛の運輸状況を見るに別表の如くにて、發送貨物は鐵及び鋼・同製品、到着貨物は鐵・鋼及び同製品・石炭・米・石油等を主とす。道路は遠賀川に沿ひて數條の縣道南北に通

市内各驛運輸状況(昭和九年)
Table with columns: 驛名, 旅客(人), 貨物(噸), 運賃(圓), 收入(圓)

じ、北は植木町・木屋瀬町・八幡市・芦屋町等、西南は飯塚市、東南は香春町、後藤寺町に達し、何れもバスの便あり、また直方驛より四方福丸へは鞍手軌道線(軌道自動車)を通ず。市街は嘉麻川・彦山川の合流點に近く、その西南方にやや南北に長く發達す。官公署の主なるものに市役所・税務署・警務署・區裁判所・貯蓄出張所等、教育施設に縣立の鞍手中學校・直方高等女學校・直方高等實業女學校及び縣立圖書館等、特殊施設として炭坑煤礦豫防研究所・私立筑豊礦山學校その他商工會議所・三菱筑豊礦業所・堀礦業會社・野上礦業所・筑豊新聞社・筑豊日日新聞社等あり。市内の名勝には日若駒を以て名高き多賀神社を始め、打向山

に赤池丘陵の何れも第三紀丘陵がほぼ南北の方向に連り、この地帯より石炭を出すこと多し。遠賀川右岸には間同約五キロの小野平田池あり。氣象は年平均氣温一五・五度、降水量一六三八毫米を示すも夏・冬の氣温差大きく、謂はゆる内陸性氣候を呈す。昭和九年中の観測に據るに、最高は七月三六・八度、最低は一月零下五・三度にして、また風は一般に北風又は西風卓越し、特に冬季は西北風稍強く寒冷を覺え、初霜・初雪は何れも北部海岸地方に比し二週以上早し。産業は商業及び工業を主とし、礦業・農業等之に次ぐ。昭和九年の職業戸数は農一〇四三、礦四八五三、公務自由業七三一一其他なり。農産物は米を第一に、麥・蕎麥・甘藷等を主とし、遠賀川低地には水田多し、以て山麓利用の野麥栽培地帯をなす。畜産に牛乳その他あり、東部山地よりは木炭を出すこと多し。工業は三百萬圓以上にして地産産物の大部分を占む。鐵工業は最も盛にして鐵製品の産額百萬圓前後なり、石炭製造これに次ぎ、其他、菓子・木製品・清酒・醬油・墨・醃菜・藤製品等は主要工業なり。本市内或は隣接町村に亘りて大小の炭礦多々ありれど主なるものは別記新入炭礦の外に新高江・明治の二炭礦にて何れも重要炭礦山とす。新高江の炭礦は本市及び鞍手郡木屋瀬町に亘り昭和十年には炭塊・粉炭・

淨水池附近を利用せる淨水公園、上新入の淨生田公園等あり。また清湖の觀鳥場は春秋二季に盛況を呈し、福智山には大スキー場あり。本市の人口は左表に見る如く異動顯著なり、これ市勢が石炭業の消長と密接なる關係を有する證左とす。

人口密度
Table with columns: 大正九年, 昭和十年, 昭和三十四年, 同十年

間通して直方驛設けらるるや河港は老衰せしも却つて商工業・交通は大いに發達し、其後數度の戰役の影響を受けて經濟都市として今日の擴張を受けに至れり。大正十五年十一月新入村・福地村・榎野村・下境村は直方市に併合せられ、昭和六年一月市制を布く。(鷹取城址)市の東南境、福智山中腹の一峰、鷹取山上にあり。後朱雀天皇の朝に築かれし古城にて、舊て筑前六城の一に數へらる。天正中、大友氏の將毛利某これに居り、黒田氏領有するに至り家臣手塚水雪を置き子孫代々在城せり。水雪の時、藩主長政の命により歸化人招き此山に靈器を造らしめ鷹取城と名づく、これ茶器として有名なる高取燒の始めなるべし。(多賀神社)大字直方、妙見山に鎮座。縣社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命・神功皇后外三柱。創建年代詳ならずも、もと日若宮と稱し後に妙見大明神と改む。因りてその鎮座地をも妙見山と稱するに至ると云ふ。天文の頃に大内義隆は當郡龜ヶ嶽城主杉權頭連並に命じて再建し、元和年間黒田長政・隆政父子の領地となるや寛永十二年社殿を修築、崇信厚かりき。貞享十三年黒田光之また社殿を修造し祭田を寄す、此時に神功皇后以下三柱を配祀すと云ふ。同長清に至り元禄四年に現社地に遷し、社領三十石・年中祭典費等を寄進す。例祭、十月一日、日若祭と稱し有名なる日若駒の奉納あり。神社南丘

切込炭・粗炭合計二萬三千餘噸を出す。明治の鐵道は本市及び嘉穂郡の額田村、鞍手郡の宮田町・小竹町、田川郡の上野村に跨り二六六萬餘坪あり、昭和十年には地炭・粉炭・切込炭・粗炭合計四萬餘噸を出す。商業極めて盛況にして、御間屋多き估券ある商業町をなす。その商團は舊て鞍手・田川二郡に限られしが、鐵道交通の便を得てより逐年躍進し、現在飯塚市と商團の競争を行ふに至れり。主なる金融機關には鞍手銀行・筑豊貯蓄銀行・十七銀行支店・不動貯蓄銀行支店等あり。市は古來久留米・熊本等より小倉への交通路に當り、今は樹枝型をなせる筑豊交通線の節點に坐し鞍手・嘉穂・田川の諸地方への重要な關門をなす。即ち倉庫筑豊本線は折尾・植木を経て市に入り、直方驛(明治二十一年設置)に達し更に飯塚方面に至る。直方驛より若松へは二五キロ(約一時間)、折尾へ一四キロ(二〇餘分)、飯塚へは一五キロ(約三〇分)にして通ず。直方驛よりは東南伊田(倉庫伊田驛を枝中泉驛(明治三十一年設置)あり、同驛より藤原驛を経て日輪驛(以上兩驛明治三十一年設置)に至る一・四キロ、大城第一(明治三十九年設置)に至る一・六キロ、赤池炭坑に至る四・五キロの三貨物線を出し、筑豊本線の貨物驛新入(明治三十年設置、直方驛の北隣)と共に石炭の輸送に當る。直方には機關車・保線區・通信區、電力區・檢車所その他の

上に日若公園あり面積約二三〇アール、忠魂塔・遊戯場等あり眺望佳なり。(鳥野神社)榎野に鎮座。縣社。祭神、天照大神・保食大柱・日向大神外二神。社傳に瓊々杵尊の日向國高千穗原に駐り給ひし時、保食大神の靈徳を感じ給ひて當社を創祀さると云ふ。縁起略に據れば、日本武尊熊襲征討に當り日向の折、當社にその靈徳を祈られ、凱陣の後その報賽として上中下三所の宮居を造營せられ、次で神功皇后三尊より御凱陣の時に鎧矢を納め給ふと云ふ。白鳳年間、太宰帥栗隈王は神威に感じ動輒を仰ぎて三所の宮を修造し、四方十二里を以て永く社域となす。平安朝の初世に役小角・最澄・空海等の求法を祈りて、豐碑大塔および鐘樓を築きてより英彦山の修驗入山の靈境となると云ふ。延喜二年朝廷より御粥饌地寄進の事あり。降りて延久二年御前守藤原經新兩の事、弘安四年太宰少貳與國降伏祈願の事、元弘三年王道再興、建保降伐の勅願給付等あり。天正十五年、小早川隆景の筑前領主となるや大いに社殿を再興し、文祿二年、社領百二十町歩を寄す。爾來、累代領主相承けて社殿の修營・祭祀の事に當る。例祭、十一月十二日。一に種掛祭とも稱せらる。附近の内ヶ磯溪谷は本谷流・大塔瀨等あり、河鹿・秋葉の名所として聞ゆ。(西徳寺)眞宗本願寺派。覺香山。慶長年中、西徳是照の創建に係る。是照はもと名島城主

小早川秀秋の老臣なり。〔新入炭礦〕直方市及び鞍手郡の植木町・水原瀬町・畑村・古月村・西川村、遠賀郡の中間町に跨り、礦區七三五餘坪。明治の初期海軍備炭田(第一坑)に始まり、漸次擴大して現在重要礦山に屬す。昭和十年には塊炭一七、三七七噸、粉炭二七四、〇七六噸、切込炭一〇四、〇五八噸、粗炭一九、一八一噸、この總價約三三五萬圓を出す。同年六月末の使用礦夫一、〇五人にして現在三菱礦業會社の經營とす。〔四森鑛〕大字上境にあり。彦山川に設けられ、高さ約四・二米、幅六三・六米、用水路幹線一・一軒餘、灌漑面積約三百ヘクタール。入梅に閉鎖し、秋の彼岸に開鑿す。この鑛は附近の水利乏しく年々旱害を被れること甚しかりしを、渡邊善吉安永六年に築造し、のち天保十四年加藤仁助等これを改修せしもの。〔福智山スキー場〕福智山上にあり。スキーの長さ六軒、複線・単純の兩種を併有し、九州第一のスキー場と稱せらる。頂上の眺望雄大にして山小屋の設備あり。

ノーカー 直川村 和歌山縣紀伊國海草郡の北部。和泉山脈の南斜面に位置し、紀ノ川北岸に沿ひ、南は川を隔てて和歌山市の東北部に對す。南北に細長き村なり。北境には和泉山脈東西に連りて雲山峯・笠法ヶ嶽・聖石山・大福山等屹立す。南部は地形低平にして紀ノ川南境に沿ひて西流し、小津北境に發して之に合す。米・藁・柑類等の農産の外、畜産・水産・礦産あり。南部は交通發達し淡路街道東西に走りて和歌山市へバスを通じ、計線阪和電鐵また南部を横切りて和歌山市に至る。此地は紀伊村等と共に古くは和名抄、名草郡直川郷に當り、中世は直川莊といへり。

能高 能高郡 臺灣臺中州二市十一郡中の一。州の東部中央に位置し、大肚溪(烏溪)・濁水溪の最上流域に跨る廣大なる山地帯を占む。東境は華陽山・合歡山・菁寮山・能高山(三二五二米)・安東軍山等三〇〇〇米以上の峻峰連なる中央山脈の分水嶺を以て花蓮港と界し、北はタタ大山・八仙山、南は草社大山・大尖山の連嶺を以てそれぞれ東勢郡・新高郡に接し、西は大屯・南投二郡に隣る。前記の諸山のほか、郡内には高峯峻岳重疊として起伏し、大肚・濁水二溪の上流は各々東境分水嶺山地の西斜面に源を發し、幾多の小流を集め、深谷を刻みつつ大體西流して次第に大となる。殊に大肚溪上流の一分流南港溪の上流を層溪と稱し、景勝を以て著ける。平野は南港溪によりて灌がれる埔里盆地を除き殆ど見るべきものなし。面積一六二六方軒、埔里街・國姓庄及び街庄を置かざる蕃地に分割され郡役所を埔里街に置く。行政區域は郡の西端部僅に總面積の七五%を占むるに過ぎず。人口五萬一千餘の内、蕃人七千餘人ありアマール・ブメンの二種族より成り、昭和五年當社蕃の暴動、謂はゆる露社事件ありたるも、其後平穩に歸せり。郡下唯一の平野たる埔里盆地と雖も海拔四五〇米内外にあり。比較的水利の便に恵まれ、地味また肥沃にて米・甘蔗その他農作物の豊産地なり。臺灣製糖の埔里工場を有し、工業は之を除き見るべきものなし。交通は從來集集線の終點外車場驛(新高郡集集庄)より埔里に至る間經恒軌道(手押臺車)を通ずるに過ぎざりしも、其の後水運抗礦(集集庄)より日月潭・魚池(新高郡魚池庄)を経て埔里に至る自動車道路(兼合自動車の便を有す)及び臺中より烏溪沿岸に沿ひ埔里に達する自動車道路の開通を見たり。蕃地方面には能高鐵路・萬大卡社間道路・合歡道路あり。

能高山 臺灣中央山脈北部に位置する一峯。東側は花蓮港に屬し木瓜溪發して南東流し、西側は臺中州に屬し、濁水溪發して南西流す。標高三三三三米。この山の東部は險峻にして臺灣ツカ・槍等の原始林に被れ、蕃社は殆んど無し。山頂部には岩石露出す。北東方に番栗主山(三六〇五米)峙ち、中部鞍部に能高驛の最高點(三〇七〇米)あり。西麓に名高き露社蕃社あり。

能高郡 臺灣中央山脈横斷の一主要幹路。埔里(臺中州能高郡埔里街)より露社(一一四九米)に至る間約二四軒には臺車軌道及びバスの便あり、それより過みて約二八軒の能高駐在所(二八六〇米)に至る間には濁水溪を渡る、その右岸には暖温泉あり、オアルン駐在所の手前には長さ二二〇米、高さ一〇〇米のスキー場あり。能高にて一泊し、翌日は最高點なる記念標(三三〇七米)を過ぐれば東斜面となり、急下して番栗溪(一六二五米)に達し、更に天長峠(一八七三米)を越え分水(一三九八米)を経てパトラン駐在所(七八四米)に至り一泊すれば、三日目に早く臺東線初音驛(二〇米)に達することを得。此の道路は大正六・七年度に開鑿せられしものにて臺中州露社より花蓮港初音に至るまで九〇軒を算す。

能高山 能高山 能高山 能高山

能津村 高知縣土佐國高知郡の東北部。仁淀川の南岸に沿ひ、伊野町(香川郡)の西方約四軒。東西に稍細長く、中央は南方へ彎曲す。南境は約三〇〇米程度の山地連り、北方へ數條の山脚を延びて傾斜地をなし、北麓に仁淀川迂回しつゝ東南に流れて村境を劃す。米・麥・藁ほか工業・林産・畜産あり。また大理石の特産あり。仁淀川に沿ひ東部に縣道走り中央にて村を横切りて西南方越知町に向ふ。概して交通不便なり。幕末勤王の土松山陣營は本村の生れにして、武市瑞山に從ひ血判同盟に加はり、禁門に警戦のち天王山に自及す、時に年八十八のち從四位を贈らる。(四社神社)大字能津に鎮座。郷社。祭神、住吉三神・神功皇后。古來當地の産土神たり。例祭、三月二日・十一月七日。

能泉村 山梨縣甲斐國西山梨郡の北部。甲府市の北約一・五軒。東南は千代田村に圍まれ、西北方は荒川を隔てて中互摩郡宮本村・吉澤村と相對す。水々森山(一五五三米)・帶那山(一四二三米)等の連嶺の西斜面にして、西方にも彌瀨寺山(一〇五八米)等の山地あり、中間(本村西境)を荒川は峡谷をなして南流し昇仙峽として廣く知らる。天神・森より仙崎池に至る間には花崗岩の巨塊突出して奇岩斷崖をなす。米・麥・桑・藁の外に木材・薪炭を出す。街道は荒川に沿うて通ず。

能生谷村 新潟縣越後國西頸城郡の東部。妙高火山の北なる火打山(二四六二米)より發源し、西北に流れて日本海に入る能生川の溪谷一帯を含む地帯にして、西北は能生町を隔てて日本海に近し。東境・西境、づれも妙高火山群の北端なる山脈縱走し、殊に西境には鉾ヶ岳(一三二六米)屹立す。南部は最も高峻にして火打山その他を境に中頸城郡に接す。能生川上流は溪谷なるも下流には狭き平地開け耕地拓く。米を主産とし、養蠶・製炭等を副業とす。略中部に細口温泉湧出し、天然ガスの發生地もあり。省線北陸本線能生驛に最も近く縣道バスの便あり。

能生谷村 能生谷村 能生谷村 能生谷村

能生谷村 能生谷村 能生谷村 能生谷村

能生谷村 能生谷村 能生谷村 能生谷村

ノイチ

山性丘陵地帯により三河平野に分たれ、只南方の一區の少開きて伊勢海に臨む。平野は殆ど方形をなし、東西約四〇軒、南北約四五軒、面積約一八〇〇方軒に達す。平野は關東平野などと異り、その内には丘陵・臺地なく廣潤なる一大平野をなす。平野の成因は第三紀の中頃伊勢海の侵入がこの平野全部に及び、先端は濃飛高原の縁邊に達したりしが、その後土地の隆起と木曾・長良・揖斐の三大川の堆積作用により順次陸地となり、今なほ三大川の吐口には堆積を續く。これ等の三川は平野の西南部に接近して流るるが古來氾濫多く、爲に住民は堤防を築きて土地と生命とを保護せり。その堤防は從つて輪形をなし、爲にその中を輪中と稱す。平野は低平地廣く續きて米作多く特に美濃米は良質にて名高し。また東南部地域は蔬菜の栽培盛んにて、我國第一の地位にあり。人口密度は頗る大にして我國に於ける人口集團地域の一を形成す。中心都市は東南端にある名古屋にて、北部に岐阜・大垣两市あり、中央部には一宮市あり。其他都市甚だ多し。地形上東西交通の要衝に當り、古來京都と關東とを結ぶ國道幹線はその伊勢路・近江路を經るものも加給の北國よりするものも一旦はこの平野に落ち、更に分岐しては海岸に沿ふ東海道となり、他は山間を縫ふ中山道となる。かく地形上・經濟上に重要な平野は軍事上にも亦重要な

能美

位置を占め、戰國時代の英雄に蹟足を展し得る地盤を興へたり。道路網を見るに東海道は平野の南端を據め、中山道は主に北邊を走り、津島道として美濃街道あり。その他主要道路に大山街道・多治見街道・岐阜街道・津島街道・飛騨街道・郡上街道等あり。鐵道には東海道本線、名古屋・岐阜・大垣等の重要都市を結ぶし、名古屋を起點とする關西線・中央線、岐阜を起點とする高山線等と接續す。社線名古屋鐵道また平野中を縱横に走る。ノイチ 農圃 濃鐵道總局北群東部線の一區(昭和五年設置)。朝野成鏡北道源郡安農園にあり。附近に東拓新平牧場あり。ノイマ 苗羽村 香川縣渡邊國小豆郡の東南部。小豆島の東南部に突出する牛島頭部の西岸に在り。海濱東北隅に臨む。東境に約三〇〇米の山地連りて西方へ傾斜し西岸に低地を造る。海上に辨天島浮ぶ。醤油製造業及び之に伴ふ南工業を村の生命とし、醤油産額年約五百萬圓に及ぶ。農業・漁業は幾分生計の補助に當り程度なり。西岸に縣道走りて南方坂手港及び本島西南端土庄町へバスを通ず。大字苗羽に郵便局あり、應神天皇行幸の御、御休息所とせられし舊跡と傳へ、品陀和氣命(應神天皇)・息長帯姫命・帶中津比古命等五柱を奉祀す。もと馬日本靈大津と云ひしが、明治五年現社に改む。例祭 八月十五日。

ノイマチ

能町村 富山縣越中郡射水郡の西北部。庄川の左岸小矢部川と射水川との合流點を占め、西南は高岡市に接す。土地一般に低平にして灌漑の利に富み、米の産額多く農産の特産物もあり。省線中越線南北に通じ大字能町に能町驛(明治三十三年設置)を置き、省線新海線の分岐點をなし、後者の古久驛(大正七年設置)また大字古久新にあり。尙ほ縣道を高岡市・伏木町に通じバスの便あり。萬葉集第十六卷に「大野路は繁道は森徑繁くとも君し通はば徑は廣けむ」とあるも此地なるべし。ノイミ 能美 社線。主として石川縣能美郡にあり。能美郡根上町の新寺井驛より石川郡鶴來町の社線金澤電氣鐵道の橋梁に至る一六・七軒。新寺井驛は省線北陸本線の寺井驛に近く、新寺井驛より能美郡山上村の天狗山驛間の一五・八軒は大正十四年開通し、天狗山驛より鶴來驛間は昭和七年に開く。動力は電氣、軌間一・〇六七米、省線と連帶運轉。【能美島】 廣島縣安藝國佐伯郡の東南海上にあり。廣島灣口東偏に在り北側にあり安藝郡江田島とは飛渡ノ瀬戸の地峽にて連り、その東部に吳市を望む。東南部には倉橋島に對し西北方遙に巖島を望み附近大小無數の島嶼散在す。西北より東南に細長く地峽部により二部に分れ、北を西能美島と云ひ、南を東能美島と稱し共に

ノイ

ノイ 野伊 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に野島能伊野見伊。能伊は或は野於の譯なるべく、その地は郡の西邊に坐する巖山(東麓)の住吉村・武内村の邊に當るか。住吉村は宮野・大野の二大字に分れ、武内村は眞手野・梅野の二大字に分るを以て見れば、この邊は即ち野伊郷の地ならん。ノイチ 野市町 高知縣土佐國香美郡の西南部。高知平野の東部に在り、南方一軒餘にて土佐驛に達す。全村地形平坦にて北方約一・五軒にて物部川より分る

ノウラ

香宗川は中央を東南流して古川村より海に注ぐ。水田よく發達して米産多く、繭・桑葉・紫雲英・麥等もあり。街道四道八達し、中央には高知街道東西に走り西部にて之と十字に交叉する街道ありて北方山田町に至り、東部にては之より分れ東隣香宗村に入るもの、東北隣宮家村に至るもの等ありてバスの便よし。社線高知鐵道中央を東西に通じて野野野(昭和三年設置)・野市(大正十三年設置)・濱山(昭和三年設置)あり。往古は野市・佐古等の地を深淵郷と稱し、山内氏の頃、野中兼山、長曾我部氏の遺臣にして藤より離れたるもの百人を遣ひ此の地を拓かしむ、之を野市百人衆と呼び郷士と稱せり。大正十五年町制を布く。【深淵神社】 大字野野に鎮座。縣社。祭神、深淵水夜禮花命。孝安天皇三十一年、祭神の神勅に依りて奉祀せしと、と口碑す。元慶三年從五位上に陞叙せられ、延喜の制に式内小社に列す。例祭、十月三十日。(日吉神社) 大字富岡山に鎮座。郷社。祭神、大山牟神。古來當地の産土神にして、もと山王權現と稱せしが、明治元年現社に改む。例祭、七月廿八日十月廿四日。ノウラ 野裏 大隅國(鹿児島縣)の古地名。ノエ 野江・野枝 もと大阪府東成郡の村なりしが今は大阪市旭区に入り町名となる。京街道に當り江戸時代利場のあ

ノカミ

ノオ 野應 紀伊國(和歌山縣)の古地名。靈異記に名草野野應と見え、和名抄に名草野野應あり。その地いま海草郡の紀ノ川の右岸山口村の邊なるべし。即ち日本後紀、弘仁三年の條に見ゆる名草野も此の邊にありならん。ノオ 濃飯 濃飯(若狭國)ノガタ 野方 大東市中野區の北半をなす舊地名。大東市の一都となる迄は豊多摩郡に屬する町の名稱なりき。この名稱は舊領名に起源するものにして、その範圍は相當廣かりしが、町村制實施の際に江古田・新井・上高田・上沼袋・下沼袋・上鷺宮及び下鷺宮の七村を合併して野方村を形成し、東京市の郊外たりき。のち東京の發展と共に西武鐵道沿線の住宅地の一部となり町制を布けり。然るに大東京市實現と共に中野區の一部となりて町名

ノカミ

は消滅し、もとの町内は略ぼ舊名をとりて野方・江古田・新井・上高田・沼袋及び鷺宮の六町となるに至れり。【野方村】 鹿児島縣大隅國壺屋郡の西南部。大崎町の西北に隣り西及び南は肝屬郡に接し南は串良町に接す。土地高燥にして東へ傾斜地をなすも南部は殊に平坦なる臺地狀をなす。北部には瀬戸間伏川西方より流れ來りて東へ横斷し西北方より來る支流を合す。米・繭・麥等の農産及び林産・畜産・工業あり。東北方岩川町へ至るバスの便あり。ノカナン 野花南 北海道石狩國空知郡野別村の大字。根室本線の野花南驛(大正二年設置)あり。ノガノイケ 野鹿池山 四國山脈の一峯。四國の中央部、吉野川の上流左岸に在り。高知縣長岡郡西豊水・大杉の二村と徳島縣三好郡三名村の境上に跨る。標高二九五米。山體結晶片岩より成る。東麓に黒瀬山、北西麓に三佛山連る。ノカミ 野上 栃木縣下野國安蘇郡の北部。田沼町の北方にて間に三好村を挟み南北に長き大村なり。足尾山地東斜面の一部を占め、北境附近には根本山(一九七米)・熊鷹山(一一六九米)・丸岩岳(一一二五米)・水宮山等聳え、村の東境・西境共にこれ等諸山につづく山地連互して次第に東南に低下し、村の中央はその都合にて野上川東南に流る。山地一帯森林

ノカミ

多く、川沿ひには狭き平地ありて米・繭を産す。山地多きため豪霖は川沿ひのみ發達し、縣道また之に沿ひて南走し田沼町に通ず。バスの便あり。同町に社線東武鐵道佐野線の田沼驛を置く。【野上村】 埼玉縣武蔵國秩父郡の東北部。皆野町の北隣にして荒川の西岸にあり。西境には山地連りて、南部に寶登山(四九七米)あり。東境を北流する荒川の沿岸には細長き平地あり米麥を産し、また養蠶も盛んにして繭・生糸・絹織物の産額大なり。川沿ひに縣道通じ社線秩父鐵道また之に沿ひ、村内に野上・長瀬(共に明治四十四年設置)・上長瀬(大正五年設置)の三驛を置く。村内には長瀬の郷地あり。此の地は中古、白鳥庄に屬す。【長瀬】 指定名勝・天然記念物。秩父鐵道長瀬驛の東より上長瀬驛の東に至る間の荒川の峽谷にして延長一軒に及ぶ。河床に結晶片岩の岩床あり、河水その間を浸蝕し極めて緩かに流る。對岸に岩壁時々小瀧を以て懸り、一に秩父赤壁と稱せらる。長瀬驛より川岸に出でて上流に向へば河原の結晶片岩層を示し、その裂隙に石英脈白く填充す。また岩盤の上に大小の陥穴あり。水際にある虎石と稱するものは、綠泥質雲母片岩・黒雲母片岩及び綠泥片岩の互層を示す。上長瀬驛の西南、觀音橋南詰の下に二箇の陥穴紅崖片岩中にあり。その大なる方は直径二米に及ぶもコンクリートにて埋められ居れ

り。この紅霞片岩は分布甚だ狭く世界的に珍らしき岩石なり。また長瀬に近き處より川岸に沿ひて下れば石炭片岩・絹雲母片岩の間に多数の石英脈を見、大黒岩と稱する赤褐色の甚だしく粗曲せるものを眺め曲淵に達するや、石炭絹雲母片岩・綠泥角閃岩・絹雲母片岩等見事に露出す。長瀬の東方には當地の礦物・植物・化石等を採集したる標本陳列所あり、一日の遊樂、又は地質・礦物の見學地として究竟の好遊地たり。(寶登山神社) 大字野木谷に鎮座。祭神、神日本武尊征夷の魂、當山にて故傍山東北段を遙拜せらる。時に山中に猛火起りしに五大現はれて之を鎮む。尊これを大山祇命に奉ふ靈犬なりとし、當山の鎮護として大山祇命、火防の守護として火産靈神を祀り給ふと傳ふ。例祭、四月三日。

村・岩手村等に亙り、野上はいま關ヶ原町の大字にその名残る。
【野上電氣鐵道】社線。和歌山縣海部市の日方驛より海草郡野上村を抜る野上村を経て東野上村の生石口驛に至る一・四軒。日方驛は省線紀勢西線の海部驛に近く、日方驛より東野上村の紀伊野上驛間は正五年間通し、紀伊野上驛より生石口驛間は昭和三年間通し。軌間は一・〇六七米、省線と連帯運輸す。
【野上】紀伊國(和歌山縣)の古地名。中世の莊號にて資志莊の南に隣る。その地いま那賀郡を流るる紀ノ川の一支野上川の中流の兩岸に亙り、東野上・南野上・中野上・北野上・小川の諸村の地即ち是なり。

【野上】伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に日野野上郷あり、中世は二部莊といふ。其地いま日野郡二部村(大正十年二部村・野上村を廢して置けるもの)及び濱口町の南部に亙る地をいふ。
【野上】廣島縣深安郡にありし村。大正二年福山町(大正五年市制を布く)に合併す。

【野上村】大分縣豐後國玖珠郡の東部。嶺山西北麓の地に於て筑後川上流玖珠川の源流地を占め、東は速見郡と界す。南方に崩平火山(二八八米)聳えて本村南部に北及び西北一帯の中腹より山麓に亙る高嶺なる緩傾斜の山地なり、北境に西部の青野山(八五一米)より約八―

九百米程度の山脈が東北方に連りて村境を限り南へ稍急斜す。兩山地の中央に此地に發する玖珠川西流す。沿岸にやや耕地を見る。山林及び原野面積廣し。竹林處々にあり。縣道河谷に沿ひて本村を横斷し、省線久大本線また此地を貫きて豊後中村(昭和三年設置)野上(大正十五年設置)の二驛あり。此地は中世、飯田郷に屬し、本郡清原氏の一族野上氏の居りし所。蓋し此の地に在名を稱せしものなるべし。明治二十九年、飯田村の大字野上、後野上、及び東飯田村の大字右田を合して本村を置く。(鎮神社) 大字後野上に鎮座。祭神、阿蘇津彥命・磯岩立命・阿蘇津姫命。古來當村の産土神として崇敬せらる。例祭、四月十七日。

ノカミ 野神杖 大隅國(鹿兒島縣)の古地名。三代實録貞觀二年十月大隅國野神・吉多二牧を廢する記事あり、刻本の頭書に野神杖の野神杖なるべしといふ。和名抄野神杖に野神杖あり、恐らくは野神杖此の内に在るべし。いま同郡に内之浦町あり、野神杖は内之浦の内の脱落せしものならんといふ。

ノキ 乃木村 島根縣出雲國八束郡の中部。松江市に南隣りて宍道湖に臨む。南部及び東北隅に小丘陵ある外は地形一般に平坦なり。南部には一小流北流して流域一帯に耕地拓く。米・藁の農産及び工業・林産・畜産・水産あり。山陰道および省線山陰本線は西岸を通過し後者に

乃木縣(昭和十二年設置)あり。古くは和名抄、意字郡邑部郷に屬す。(善光寺) 大字乃木にあり。時宗、一崎山。宇治川の先陣に名高き佐木高綱の創立して餘生を送りし處。本縣は源賴朝の守本尊なりきといふ。境内に高綱の納骨塔及び乃木大將一家の御墓塔あり。乃木大將は高綱の後裔にして、在世中屢々参拜されたり。(松江競馬場) 競馬は春秋二回に開催され、百數十頭の駿馬出場し、走路の完全なること關西に見るところなり。

ノキ 野木 野木村 新木縣下野國下部賀郡の南端。同々田町の南隣りて、南は茨城縣龍島郡古河町その他と隣る。西南境附近は渡良瀬川・思川の合流點をなし、全村平地にて耕地よく拓け米・藁の産多く、また鹽も盛なり。陸羽街道は西部を北走して同々田町・古河町へ入るの便あり。省線東北本線またこれに沿ふの便あり。同々田町に同々田驛、古河町に古河驛を置く。明治天皇、明治九年、奥羽御遊幸の際及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせらる。此地は舊奥州街道の野木宿のありし所に於て、和名抄奥州郡野木宿の内。美和元年二月、源賴朝の伯父志田三郎義廣賴朝を討たんとし、常陸より三萬餘の兵を率ゐて下野に入る。時に小山朝政、千餘騎を以て此地に陣して義廣の軍を討たんとし、人をして林の梢に昇らしめて聲を發

【野木村】島根縣出雲國能登郡の北部。飯梨川右岸に沿ひ、安來町の南に接す。南部に約四〇〇米の山地ある外は北隅に八八米の丘陵あれども、地形概して平坦にして飯梨川西境を北流し、途中伯太川分れて東北流す。地味肥沃灌漑の便よく農産物の産出郡内最高位を占む。米・藁・鶏卵・畜産・林産及び清酒其他の工業あり。縣道中央を横斷し省線山陰本線安來驛及び南方廣瀬町へ自動車の便あり。古くは野城・能城に作り、出雲風土記に意字野城郷あり、これ意字郡の東部を割きて能登郡を置きし時の郡家のありし地か。延喜式兵部省式に出雲國野城郡馬五疋と見え和名抄には能登郡能城郷見ゆ。(能登神社) 大字能登に鎮座。祭神、天穗日命・大己貴命・事代主命外十柱。貞觀十三年十一月從五位上に陞敘せられ、延喜式意字郡四十八座の一たり。古來朝廷の崇敬篤く、室町の季世、尼子

兵直の時に當りて殊に社遷隆昌せり。例祭十月十九日。(意多夜神社) 村社。祭神、大國魂命・大田命外九柱。式内社。俗稱飯生明神。例祭、九月九日。

ノギサワ 野木澤村 島根縣雲南國石川郡の西部。石川町の北に接し、西は阿武隈川を隔てて西白河郡に對す。地勢東部に高く、西方に傾斜し、丘陵性産地をなす。阿武隈川は西境を北流し、沿岸に耕地拓く。米・藁・鶏卵・葉煙草・馬等を産す。石川街道は西部を南北に通じ北方岩瀬郡賀川町、南方石川町へ入るの便あり。省線水郡線は略石川街道に並行して走り大字中野に野木澤驛(昭和九年設置)を置く。此地は和名抄、白河郡藤田郷の内なり。村内に藤田城址あり。石川源太有光の嫡子、遠江守光祐、ここに據り、治暦年中より石川四郎家光の居城となり子孫相繼いで居る。中務大輔清光の時、天正十六年、石川大和守昭光のために城を築る。

ノギタ 野北村 福岡縣筑前國糸島郡の北部。北及び西は豊後海峽に臨み東南約三・五軒に前原町あり。南部には火山(二四六米)屹ちて西麓は海に瀆す。北部には彦山(三三二米)聳りて北麓及び西麓は海に迫り、殊に西北岸は斷崖をなし三瀬あり。中部には低平なる平野あり。主邑は彦山南麓の海岸にあり。米・藁等の農産及び水産・林産あり。省線筑肥線筑前原驛へは東南約六軒にしてバスの

せしむ。義廣その聲に應ひ周章す。朝政之を襲ひ義廣の軍大敗して信濃に走れりと。(野木神社) 大字野木宿に鎮座。郷社。祭神、菟道稚郎子命・磐田別命外四柱。仁德天皇御宇、下野國造奈良別命の當國赴任の際に菟道稚郎子命を祀れるをその創建とす。弘安四年の元寇異變に夷狄退散祈願のため磐田別命外四神を合祀す。延暦年間坂上田村麿は蝦夷を討ち凱旋の途次、その報賽として現社地(もと臺手箱に鎮座)に遷祀す。當時は大領大總社と稱し源賴朝・將軍頼家の崇敬あり。足利季世の戦亂相次ぐに地領失はれ社殿も傾廢せしが、元和年中徳川秀忠は黒印地十五石を寄せ社遷舊に復す。其後古河城主(小笠原・奥平・土井氏等)代々崇敬、領内の鎮守・祈禱所と定めたり。例祭、陰曆七月四日。(法得寺) 大字佐川野にあり。眞宗本願寺派。高梁山上宮院。もと天台宗なりしが、仁治三年第三代住持禪空、親鸞門侶二十四輩の第一飯沼性信に歸して現宗に改む。

【野木村】 福井縣若狹國越前郡の東部。北川の右岸に位し小濱町の東方約五軒にあり。西南部は川に沿ひ細長く西北方へ突出す。東部北半は東・北・西の三面山地に圍まれ中央に河川南流し南境に沿ひて西北流する北川に合す。北川に沿ひて細長き平野發達す。西北部は山地南斜面をなす。田畑よく拓けて米・藁を産す。丹後街道東南部を東西に走り北川を渡り

て西方小濱町に向ふ。丹後街道より分れて北川北岸を西に走る街道あり。省線小濱線は隣村内を東より南に繞りその三宅驛(三宅村)は西南約〇・五軒、新平野驛(松水村)は西南約〇・五軒にあり。此地は和名抄、菟道稚郎子命の内なるべく、大字玉置は郷の遺蹟なるべし。東郷、元暦元年の條に若狹國玉置領を關城寺に寄附のこと見ゆ。これ蓋し本村の地なるべし。

ノキ 野城・能城 島根縣(鳥取縣)ノキ 能登 【能登郡】 島根縣十三郡の一。出雲國の東端。中海に臨む。東北方約一軒には米千石あり。東及び南は鳥取縣に圍まれ伯太川・飯梨川流域の地を占む。南境には八〇〇米餘の山脈略ぼ東西に走り、西南境に五峰山(八二〇米)・三郎山(八〇六米)等聳ゆ。三郎山より北方更に東北方へ連る一脈西境を限りて北麓中海岸近く及び、其他數條の支脈東北方へ連り、東境を限りて北方に延るものは東北部に低き臺地狀丘陵となりて起伏し中浦に岬を延す。そのうち八尋岬は中海東南隅米千石の西北を圍む。河川は西に飯梨川、東に伯太川ありて共に北流し北方にて流路相接近し中海に注ぎ、河口に兩者共力による三角洲突出す。附近平野一帯に開け安來平野と稱す。低地は水利の便よく米・藁を産し生牛の産亦多く外に粟・清酒の特産あり。安來町・廣瀬町には工業行ける。郡内前記の二町外十四箇村を合

ノクチーノコキ

傾あり。この地は和名抄、志摩郡明敷郷の内なり。

ノクチ 野口

【野口村】 茨城縣常陸郡那珂郡の西部。那珂川の北岸にあり。南方は東茨城郡澤山・伊勢畑の二村と相對す。八溝山脈一支脈の一部を占め、北部・東部は低き山地にて森林あり。那珂川流域及び、東部を南流して本流に合する諸川の流域には平地ありて米・麥を産す。縣道四方に通じ、對岸澤山村に社神茨城縣道終點御前山驛ありて縣道を通ず。此地は和名抄、那珂郡川邊郷の内なるべし。村内に佐竹行義の六子、景義の居りしといふ館址あり。【壽命寺】 大字野口にあり。眞宗本願寺派。信願山蓮臺院。觀音門下二十四輩の第十六、穴澤入信の舊跡たり。入信房もと穴澤の地に在りしが、觀賢の命により眞應元年、本寺を創建すといふ。

【野口】 京都府受室郡にありし村。大正六年、京都市に編入す。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口村】 兵庫縣播磨國加古郡の西部。加古川町の東に接し、南は別府町を距て播磨灘に近し。全村地形低平にして沃野開く。米・小麥・粟・麥・粟・粟・食用大豆・蔬菜・花卉・烏卵・産製品・瓦物・

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口村】 兵庫縣播磨國加古郡の西部。加古川町の東に接し、南は別府町を距て播磨灘に近し。全村地形低平にして沃野開く。米・小麥・粟・麥・粟・粟・食用大豆・蔬菜・花卉・烏卵・産製品・瓦物・

ノコキーノコキ

本製品等の産あり。山陽道中央を通過しその北に省線山陽本線通じ、加古川驛(西北方約一・五軒)に近く、オノの便あり。此地は和名抄、賀古郡餘戸郷の地なり。増鏡に主上(後醍醐帝)は隱岐の島より還幸、其十二日加古川宿におはします。妙法院宮は此川の東、野口迄参り給ふ、などと野口の名見ゆ。野口城址あり、別所氏の家臣長井四郎左衛門これが城主たり。天正六年、羽柴秀吉、三木城を攻めんとして先づ書寫山に陣し、進みて當城に至り沼地を埋めて攻撃するに及び城遂に陥る。【野口神社】 大字野口に鎮座。郷社。祭神、速玉男命・品陀別命・大山咋命等五柱。もと五所大明神と稱し、古來同郷八箇村の氏神たり。例祭、十月十五日。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

ノコキーノコキ

ノケ

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

ノコキーノコキ

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

【野口】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡野口郷あり。延喜兵部省式に丹波國野口郡々馬八疋とあるは、郷にして群を號ししものなるべし。郷域は東本梅・西本梅・摩氣村の邊に當る。

ノサカ——ノサワ

北麓中央に淨土岳(五〇一米)、西部には三嶽山(五〇一米)を起す。北部には平野開けて北方へ横き中川中央を東北流す。米・麥・蕎麥・茶等の農産物及び木炭を出し外に笠の産あり。省線長崎本線鹿島町を通過しその肥前鹿島郡は東北方約二軒にあり。此地は和名抄、藤津郡加美郡の内なり。古(日代宮御宇天皇(景行天皇))行幸の際、ここに土蜘蛛三人あり、その名を大白・小白・小黒といふ。降伏を肯ぜず、依りて陪從を遣して之を誅滅せんとせしかば大白等三人叩頭して降れり。【三嶽神社】 大字三川内に鎮座。神社。祭神、押武彥日命・水分神・日本武命。光仁天皇寶龜二年、大和國吉野水分神を分祀せるとの傳ふ。上下宮に分る。例祭、十一月三日。【蓮慶院】 大字山浦にあり。古義經官宗。御室末。本尊藥師如來坐像(木造)は藤原時代の作にて、傳定朝作阿彌陀如來坐像二軀(木造)と共に國寶なり。

ノサカ 野坂

【野坂岳】 教賀市の南西方約八軒に當る山。福井縣教賀郡野坂村に屬し、西側は三方郡耳村に亘る。標高九一四米、山體秩父古生層より成る。山頂より北方に教賀灣並びに日本海の湧波を望み、南方には三國連嶺の山濤を眺めて美し。この附近は降雪量多く、頂上部は良きスキー・スケートをなし、またスキー・クラブに連す。山頂部に一小祠あり。北麓に小嶺

線及び丹後街道を通じ、また教賀歩兵第九團隊兵營あり。南東方より室ノ川發源し、北流して教賀灣に注ぐ。

【野坂】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に高草郡野坂郷あり、乃左加と註す。東大寺天慶三年文書には高草郡野坂郷見ゆ。その地いま詳かならざるも、恐らくは氣高郡の明治村・豐實村にわたる地なり。

【野坂峠】 中國山脈西南端部を乘越す峠の一。北側は島根縣鹿足郡津和野町に南西側は山口縣阿武郡徳佐村に屬す。最高點約三五〇米。南西側路に徳佐村字野坂あり。山陰道は略この峠路に沿ひて走り最高點の西方にて隱道を穿ちて東西に走る山道を通過す。藩政の頃は津和野の城下町を控へて往来繁き峠路たりき。

【野坂】 筑前國(福岡縣)の地名。和名抄に宗像郡野坂郷見え、乃左加と註す。宇佐宮の永仁五年の文書に筑前國野坂郷とあるも此の地を稱せしものなるべし。その地いま南郷村(明治四十四年野坂村・宮田村を合併して置けるもの)の地に當り、大字野坂は御室名の遺稱とす。この地の許斐山に宗像大宮司の家人許斐氏の居りし城址あり。

【野坂】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄には基北郡野坂郷と見ゆるも謬なるべく、萬葉集卷三に「若北の野坂の浦ゆき」とあるによりて野坂と訂す。その地いまの基北郡田浦村の地なるべし。

銅鐵四、三一五冠を出す。鐵石は日立鐵山に送りて合併製鍊す。昭和十年六月末の使用鐵六一三二人にして現在日本鐵業會社の經營とす。【諏訪神社】 大字諏訪に鎮座。祭神、健甕名方命。永仁二年蘆名盛宗、信州諏訪より勧請すと傳ふ。爾來代々の領主尊崇篤し。舊野澤組四十四ヶ村の産土神、例祭、九月十五日。

【野澤】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。千曲川の右岸、佐久平の南部を占め、南は白田町に接し、東北は川を境に中込町に對す。土地は概して平坦にして灌漑の便よく水田多し。白田町と共に南佐久主要の大豆にて、附近の農産物・繭の集散地にして製糸・製紙の業も盛んなり。また楠にて飼ふ佐久熊も山國にありて名高し。南北・東西に縣道貫通し、省線小海線中込驛に近く、白田町・北佐久郡岩村田町へはバスの便もあり。此地はもと伴野庄に屬せり。大字跡部は戦國頃の頃、武田家の重臣たりし跡部・小宮山など皆この邊を本據とせるもの如し。

【野地】 香春村(福島縣)ノジ 野路 老上村(滋賀縣)ノジ 野島 【野島崎】 千葉縣安房郡白濱町にある岬角。房総半島の最南端に位し、島崎部落より南方に突出すること約五〇〇米に達し、その先端は急灣崖を帯びて壯觀を呈す。半島の頭部が低く、もと海水が盛

ノサワ——ノシリ

北は北津郡に接し、その五所川原町の東南約一二軒にあり。東北境は海抜約一五〇米にして南方に傾斜し一部は山地をなすも、他は概して平坦にして津輕平野に屬す。山麓地帯には池沼多し。米・林檎を産す。道路は西部を西北に通じ五所川原町に至る。東方奥羽本線渡岡驛へは約二・五軒、自動車の便あり。郡の中心黒石町へはバス通ず。【神明宮】 大字鎮に鎮座。祭神大日靈尊・豊田四尊・天津兒屋根命。古來、舊館館中の産土神として崇敬せらる。例祭、四月十六日。

【野澤町】 福島縣岩代國河沼郡の西部。西は新潟縣東蒲原郡東川村に接す。越後山脈の東斜面に屬し、西境には南より高陽山(九〇四米)・金連山(九二五米)・大倉山(九五〇米)等ありて東方に傾斜し、安座川は西南境に發源して東北方に流れ阿賀川に合し、長谷川は東北境をなして北流し阿賀川に入る。全町概ね山地をなすも東北部のみは平坦にして河成段丘發達し、また市街あり。米・繭・木材を産す。越後街道は町の東北部を西北方に通ず。省線磐越西線また之に並走して野澤驛(大正二年設置)あり。本村は明治四十年に町制を布き、大正十四年に庁草越村・正中村を編入す。大槻の瀧照寺々城は大槻城のありし所、城主は伊藤氏なりと。【赤羽根嶺山】 常町と下谷村に跨り鐵道七十七高餘坪、重要嶺山に屬す。鐵道は金銀銅鉛亞鉛なるが、昭和十年には金銀

ノサキ 野崎

【野崎村】 栃木縣下野國那須郡の西部。西那須野町の西南隅にて、西は鹽谷郡矢板村・奥村・片岡村と隣す。那須野ヶ原の西南端を占め、帯川は村内を東南に流れ、沿岸に耕地開けて米・麥を産し、養蠶も行はる。陸羽街道は中央を東北に走り、省線東北本線また之に沿ひて大字薄葉に野崎驛(明治三十年設置)を置く。本村の大字薄葉は天正十三年三月、鹽谷伯耆守義綱が川崎城を攻落し、喜連川を取り返さんと鹽谷安房守孝信を先陣として其勢三百餘を以て此の原に向ひたり、これを聞きし那須實晴は大關入道安頼と謀り山田筑後守業長・岡本對馬守氏宗等百餘騎を馳向はしめしが山田・岡本討死す。これ即ち薄葉ヶ原の戦なり。

【野崎】 大阪府北河内郡四條村の大字。省線片町線の野崎驛(明治三十二年設置)を置く。

【野崎村】 和歌山縣紀伊國海草郡の西北部。紀ノ川河口近くの右岸に沿ひ和歌山市の西北に接す。西は津村及び其北の松江村を隔てて紀伊津に近し。地形平坦にして紀ノ川は南境を西流し約三軒先にて海に注ぐ。紀ノ川支流の須波村を流す。米を主として農産物を出し、畜産・蠶産もあれど紀ノ川河口に位するため林産物も多く、また和歌山市に隣接して綿織物その他の工業頗多し。和歌山市より北方へ走る縣道及び西北方加太町に至る縣

道中央を横切り、社線南海電線東部を掠めてその紀ノ川驛(橋見村)は東北境に近く、また和歌山市驛(南約〇・五軒)にも近し。西南部には社線加太電氣鐵道の北島(大正三年設置)島崎(明治四十五年設置)の二驛を置く。【龍持寺(龍取本山)】 大字龍取にあり。淨土宗西山派。受陽山知足院と號し、同派檀林七僧寺の一なり。寶徳二年、明秀光雲の開創に係り、のち後奈良・正親町兩天皇より勅願寺の輪旨を賜はる。いま末寺八十八箇寺を有し當該當國第一の互利たり。

【野里】 省線播磨線の一驛(明治二十七年設置)。兵庫縣姫路市西中島にあり。【野里】 省線古江線の一驛(大正四年設置)。鹿児島縣肝屬郡大始良村にあり。

【野澤】 青森縣陸奥國三戸郡の略中央部。三戸町の北方約八軒。地形東西に長く約一八軒あり。西境は海抜約五百米にして東方に傾斜し、浅水川は西部に發源して川の略中央部を東流す。全村概ね山地にて川の兩岸に耕地拓くのみ。四大字中、銀部を餘く三大字は主業の米作の外に林産物を餘り津輕林檎中身も發賣あるものを産出す。冬季は薬工品の製作に従事するも近時養蠶・養豚業行はるゝに至れり。羽州街道は東部を南北に通じ、南方東北本線三戸驛へは自動車の便あり。

ノサワ 野澤

【野澤村】 青森縣陸奥國三戸郡の略中央部。三戸町の北方約八軒。地形東西に長く約一八軒あり。西境は海抜約五百米にして東方に傾斜し、浅水川は西部に發源して川の略中央部を東流す。全村概ね山地にて川の兩岸に耕地拓くのみ。四大字中、銀部を餘く三大字は主業の米作の外に林産物を餘り津輕林檎中身も發賣あるものを産出す。冬季は薬工品の製作に従事するも近時養蠶・養豚業行はるゝに至れり。羽州街道は東部を南北に通じ、南方東北本線三戸驛へは自動車の便あり。

【野澤村】 青森縣陸奥國三戸郡の略中央部。三戸町の北方約八軒。地形東西に長く約一八軒あり。西境は海抜約五百米にして東方に傾斜し、浅水川は西部に發源して川の略中央部を東流す。全村概ね山地にて川の兩岸に耕地拓くのみ。四大字中、銀部を餘く三大字は主業の米作の外に林産物を餘り津輕林檎中身も發賣あるものを産出す。冬季は薬工品の製作に従事するも近時養蠶・養豚業行はるゝに至れり。羽州街道は東部を南北に通じ、南方東北本線三戸驛へは自動車の便あり。

【野澤村】 青森縣陸奥國三戸郡の略中央部。三戸町の北方約八軒。地形東西に長く約一八軒あり。西境は海抜約五百米にして東方に傾斜し、浅水川は西部に發源して川の略中央部を東流す。全村概ね山地にて川の兩岸に耕地拓くのみ。四大字中、銀部を餘く三大字は主業の米作の外に林産物を餘り津輕林檎中身も發賣あるものを産出す。冬季は薬工品の製作に従事するも近時養蠶・養豚業行はるゝに至れり。羽州街道は東部を南北に通じ、南方東北本線三戸驛へは自動車の便あり。

【野澤村】 青森縣陸奥國三戸郡の略中央部。三戸町の北方約八軒。地形東西に長く約一八軒あり。西境は海抜約五百米にして東方に傾斜し、浅水川は西部に發源して川の略中央部を東流す。全村概ね山地にて川の兩岸に耕地拓くのみ。四大字中、銀部を餘く三大字は主業の米作の外に林産物を餘り津輕林檎中身も發賣あるものを産出す。冬季は薬工品の製作に従事するも近時養蠶・養豚業行はるゝに至れり。羽州街道は東部を南北に通じ、南方東北本線三戸驛へは自動車の便あり。

【野澤村】 青森縣陸奥國三戸郡の略中央部。三戸町の北方約八軒。地形東西に長く約一八軒あり。西境は海抜約五百米にして東方に傾斜し、浅水川は西部に發源して川の略中央部を東流す。全村概ね山地にて川の兩岸に耕地拓くのみ。四大字中、銀部を餘く三大字は主業の米作の外に林産物を餘り津輕林檎中身も發賣あるものを産出す。冬季は薬工品の製作に従事するも近時養蠶・養豚業行はるゝに至れり。羽州街道は東部を南北に通じ、南方東北本線三戸驛へは自動車の便あり。

【野澤村】 青森縣陸奥國三戸郡の略中央部。三戸町の北方約八軒。地形東西に長く約一八軒あり。西境は海抜約五百米にして東方に傾斜し、浅水川は西部に發源して川の略中央部を東流す。全村概ね山地にて川の兩岸に耕地拓くのみ。四大字中、銀部を餘く三大字は主業の米作の外に林産物を餘り津輕林檎中身も發賣あるものを産出す。冬季は薬工品の製作に従事するも近時養蠶・養豚業行はるゝに至れり。羽州街道は東部を南北に通じ、南方東北本線三戸驛へは自動車の便あり。

ノサワ 野後

【野後】 出羽國(羽前・山形縣)の古地名。延喜兵部省式に出羽國野後縣々馬十疋と傳馬三疋、船三隻と見ゆ。この縣は陸奥・出羽兩國府を結ぶ官道にありしものにして、もと玉野(いま北村山郡宮津村の地内)にありたりしを、後に最上川畔の大石田町(いま北村山郡)の地に移したるものなるべし。大石田町の大字に今宿と

ノサワ 野中

【野中村】 富山縣越中郡下新川郡の北部。舟見町の北に接し、拍町の南方約四軒の地。黒部川アルミの東部を占め南へ僅かの傾斜あり、任中中央を小川南へ貫流す。全村水田開け、農業を主産業とす。米・麥・黒部西瓜の産あり。南北に走る二條の縣道により舟見町より泊・入善兩町へいづれもバスの便あり。村名はノサカとも讀む。

ノサワ 納紗

【納紗布崎】 北海道根室國花咲(根室)半島の尖端にある崎。北海道本島の最東端にして花咲郡釧路村にあり。岬上の最高點は僅かに二八米に過ぎず。崎の南岸に一小海ありて夏季採藻のため附近の小島に赴く小舟の好寄泊港をなす。附近海上は冬季は氷水、夏季は漁業に便はれ且つ鳥島・岩礁散在し船舶航行に注意を要す所なり。ために岬端に納紗布崎燈臺(明治五年設置)を置く。燈臺は毎三秒一閃光(紅光分區)の閃白光にして光達距離一四・五哩。なほ霧笛の設置あり、三十秒を隔て五秒吹鳴す。

ノサワ 納紗

【納紗布崎】 北海道根室國花咲(根室)半島の尖端にある崎。北海道本島の最東端にして花咲郡釧路村にあり。岬上の最高點は僅かに二八米に過ぎず。崎の南岸に一小海ありて夏季採藻のため附近の小島に赴く小舟の好寄泊港をなす。附近海上は冬季は氷水、夏季は漁業に便はれ且つ鳥島・岩礁散在し船舶航行に注意を要す所なり。ために岬端に納紗布崎燈臺(明治五年設置)を置く。燈臺は毎三秒一閃光(紅光分區)の閃白光にして光達距離一四・五哩。なほ霧笛の設置あり、三十秒を隔て五秒吹鳴す。

あるは玉野の舊跡に對して新築たること
を請ふるものなり。船五隻は最上川の流船
なり。

【野尻】 上野國(群馬縣)の古地名。和名
抄に碓氷郡野尻見え、能之利と註す。
延喜兵部省式に上野國野尻馬十疋と
あるは本郷の譯を變れたるなり。其地、
碓氷郡安中町・原市町に當り、譯址は
安中町の中ならんといふ。安中町に野尻
の地名今も残れりといふ。

【野後】 日向國(宮崎縣)の古地名。延喜
兵部省式には日向國野後馬五疋と見
ゆ。日向國より肥後國に於ける街道
ここに於る。いま西諸縣郡野尻村はそ
の遺稱なり。附近は明治十年西南之役の
古戦場たり。

ノシリ 野尻

【野尻】 福島縣大沼郡にありし村。昭和
二年に大沼村と合し昭和村を建つ。

【野尻村】 富山縣越中郡東礪波郡の西部。
和名抄、礪波郡高揚郡の内なるべく、中
世は野尻郷に屬す。野尻町の北、西礪波
郡津野町の東南に接し、西は小矢部川を
境に西礪波郡に接す。礪波平野の中部を
占め澁水よく水田開く。農業を主産業と
し米を主産し、蕎麥も僅かに産す。また
賣薬の特産も相當にあり。東部を省線中
礪波南北に貫通し、高橋(明治三十二年
設置)あり、また社線加越線道通し、本江
線(昭和八年設置)・栗田屋線(大正十五年
設置)あり。野尻町・津野町及び出町へ縣
道通じ、自動車の便よし。

【野尻湖】 長野縣上水内郡にある湖。長
野平の北、關川の上流にあり、湖岸は信
濃尻村・古間村に亘る。妙高・黒姫・飯
綱の三火山を西にし、斑尾火山を東に控
へて大沼窪地帯の一部に湛水し、斑尾火
山の噴出物によりて堰止められたるものな
り。湖岸線は複雑にて高度六五四米に位
し、面積は三・八六平方千米にて湖岸延長
一四・〇千米。北方に琵琶島といふ火山島
あり。深度は概々崎と對岸の龍宮鼻との
中間にて三八米を示し、注入川はあまり
なく、排水川の池尻川は北流して關川に
注ぐ。水色は綠にて透明度が約七一―一
米、夏に特に透明なり。二―三月にわた
り四〇日閉結水するも不定にて、降雪多
きためスケートは不可能なり。浮遊生物
としては珪藻が稍々多し。魚類としては
マス・コホ・フナ・ウケヒ等が主なるも
のにて産額は餘り多からず、底質は珪藻
質泥なり。湖畔は遊樂地として近年次第
に繁榮し、殊に南岸には外國人の夏期衆
多し。また古くは、永祿七年七月上杉
謙信の宿將宇佐美駿河守定行が謙信の旨
を承け、信濃上田の城主長尾鶴守政景
(一に義景に作る)を招き、野尻湖の漁獵
に事よせて、ともに龍ヶ崎より乗船し、
俄かに船を洗め、ともに殺せり。政景は
景勝の父なり。

【野尻村】 熊本縣肥後國阿蘇郡の東南部。
阿蘇火山の東麓と九州山脈の雄峯祖母山
とに亘る地域を占め、東北は大分縣直入
郡に隣接し、東南は宮崎縣西臼杵郡に界
す。地形西部に高く東北方へ緩く傾斜し
その東麓は大谷川北流す。東隅は九州山
脈に屬する山地の一部にて、東方に登り
る山脈の最高峯祖母山(一七五八米)の西
麓をなし、西北麓に總敷(一〇六九米)
あり。耕地乏しく大部分は原野にして畜
産に適し阿蘇馬の産地たり。南部より東
南部には西南高森町より東北方竹田町へ
通ずる縣道走り、高森町へ至るバスの便
あれど交通一般に不便なり。この地は豊
後竹田に向ふ街道の一環にして、風土記
の直入郡柏原郷の内たり。維新の勤王家
たりし野尻藩(藩主五位)は本村の人。

【野尻村】 宮崎縣日向國西諸縣郡の東南
部。大淀川の左岸に沿ひ小林町と高原町
の東に隣る。東南は川を隔てて北諸縣郡
高城町に對し、東及び東北は東諸縣郡高
岡町・鏡町に界す。東西に細長し。北境
には約五―六百米の山脈東西に連りて村
境を隔り、南半は其の山麓が臺地狀の丘
段となり、特に中央は平坦なる臺地をな
す。南境には岩瀨川これに沿ひて東流し
南方郡城方面より流りて東南境に沿ひて
東流する大淀川に合流す。岩瀨川に沿ひ
て耕地發達し農業・林産・畜産・工業・
水産・礦産あり。縣道中央を東西に横斷
し東方高岡町及び宮崎市方面へバスの便
よし。この地は延喜式に延喜・野後・夷
守とある大隅國に通ずる譯路に當り明治
十年西南の役に激戦のありし所。(高都
萬神社)大字東麓に鎮座。郷社。祭神猿
田彦命。もと大王権現と稱し、當所の地
鎮守たり。寛文四年再建す。例祭、十一
月二十八日。

ノシリ 苗代村

石川縣加賀國美加
郡の西部。近世苗代郷と稱せし地なり。小
松町の南に接し西は今江川に、西南部は
木場湖に臨む。東南部に一〇〇米前後の
丘陵を負ひ、他は加賀平野の一部にて平
坦肥沃なる水田拓く。米を主産物とし湖
の副産あり。其他、東南部山麓に九谷機
の蒸業行はる。省線北陸本線は西部を南
北に走り、社線尾小屋電線は東北境に沿
ひ吉竹(大正八年設置)あり。國道は西
部を、二條の縣道は南及び東へ走り、小
松町・大杉間のバス通す。(輔生神社)
字吉竹に鎮座。郷社。祭神、輔生神・倉
稻魂神・大田神等七柱。養老元年釋尊澄
の勸誘せる所といふ。式内輔生神社に充
つる説あれども明ならず。文治五年官軍兵
衛尉再建、萬治三年藩主前田利常造營す。

ノシリ 能代

【能代川】 米代川(秋田縣)
【能代】 ↓加代藩町

ノジロ 野代村

三重縣伊勢國桑名郡
の北部。揖斐川西岸に沿ひ、西南部は桑
名市の西北との間に約一・五千米を距つ。

ノシロミナト 能代港町

秋田縣羽
後國山本郡の西部。西は日本海に面す。
面積六・九一方千米。米代川の河口に位し
川は町の東境及び北境をなして西流し日
本海に注ぐ。町の南部には山林ありて積
臺地狀をなし、海岸は草地をなす。港は
船舶の出入土崎港に次ぎ、商業發達にし
て、木材・野菜・果實等の集散をなす。
秋田木材株式會社以下數會社ありて、製
材行はれ、春慶・梨等の名産あり。羽州
街道は南方より來り、東方に向ふ。五能
線の能代(明治四十一年設置)を置く。
また能代港・米代川による水路航行の便
あり。人口密度は一方千米につき約三七二
七人なり。此地は郡内の主邑にして舊郡
役所のありし所。港は秋田縣屈指の良港
にして、寶明天皇の四年、國守阿倍比羅
夫、淨代の蝦夷を降して此地に淨代郡を
定め、蝦夷を襲して歸り、尋で大領・小
領に位を授けしことあり。寶龜二年、淨
代の使節、野代湊に到着せしことあり。

元慶二年三月蝦夷叛亂して秋田城及び其
附近を燒く。四月、官軍兵六百をして賊
の窟野代の營を守らんが爲に連發せし
も遂に於て蝦夷の奇襲に遇ひ大敗す。か
り淨代・野代とあるは皆此地なれば上古
より風く聞けしを知るべし。天正年中、
秋田實業の區、大高相模守は野代城代と
して來治せしが、慶長以後は佐竹侯より
野代奉行を置きて之を治めし。明治十
四年、明治天皇が山形・秋田及び北海道行
幸の際この地に御泊あらせらる。(日吉
神社) 縣社。祭神、大物主神・大國主神。
大山作神。天文二年の創建なり。清水治
郎左衛門政治なるもの靈夢に依り、能代
の東北方なる川中島八幡社の傍に一字を
造營して勸誘すと云ふ。二十有餘年後の
弘治年間洪水のため川筋變じ中島崩潰
し八幡社と共に社地危きに依り、當社は
川向北の野中中島に、また數年後に日
和山に、更に般若山・惡土野と四度遷座
す。其間、文祿年間大光院院長の男鹿
松戸村より來りて當社の別當となる。當
時、藩主より社領十石を附し年々修葺料
を下して神出米百石および役銀を備ふ。
更に社殿再建の際に假殿悉く寄進さると
云ふ。例祭、七月十四日。(八幡神社)
大字能代に鎮座。縣社。祭神、八幡大神・
事代主大神・住吉大神等八柱。寶明天皇
御宇四年北夷征討の時、征夷八幡と號し
て海岸中島に鎮祭する所と傳ふるも詳か
ならず。領主秋田氏・藩主佐竹氏歴代相

【野尻村】 熊本縣肥後國阿蘇郡の東南部。
阿蘇火山の東麓と九州山脈の雄峯祖母山
とに亘る地域を占め、東北は大分縣直入
郡に隣接し、東南は宮崎縣西臼杵郡に界
す。地形西部に高く東北方へ緩く傾斜し
その東麓は大谷川北流す。東隅は九州山
脈に屬する山地の一部にて、東方に登り
る山脈の最高峯祖母山(一七五八米)の西
麓をなし、西北麓に總敷(一〇六九米)
あり。耕地乏しく大部分は原野にして畜
産に適し阿蘇馬の産地たり。南部より東
南部には西南高森町より東北方竹田町へ
通ずる縣道走り、高森町へ至るバスの便
あれど交通一般に不便なり。この地は豊
後竹田に向ふ街道の一環にして、風土記
の直入郡柏原郷の内たり。維新の勤王家
たりし野尻藩(藩主五位)は本村の人。

【野尻村】 宮崎縣日向國西諸縣郡の東南
部。大淀川の左岸に沿ひ小林町と高原町
の東に隣る。東南は川を隔てて北諸縣郡
高城町に對し、東及び東北は東諸縣郡高
岡町・鏡町に界す。東西に細長し。北境
には約五―六百米の山脈東西に連りて村
境を隔り、南半は其の山麓が臺地狀の丘
段となり、特に中央は平坦なる臺地をな
す。南境には岩瀨川これに沿ひて東流し
南方郡城方面より流りて東南境に沿ひて
東流する大淀川に合流す。岩瀨川に沿ひ
て耕地發達し農業・林産・畜産・工業・
水産・礦産あり。縣道中央を東西に横斷
し東方高岡町及び宮崎市方面へバスの便
よし。この地は延喜式に延喜・野後・夷
守とある大隅國に通ずる譯路に當り明治
十年西南の役に激戦のありし所。(高都
萬神社)大字東麓に鎮座。郷社。祭神猿
田彦命。もと大王権現と稱し、當所の地
鎮守たり。寛文四年再建す。例祭、十一
月二十八日。

ノセカ 野塚村

富山縣越中郡
負部の南部。井田川の上流野積川の流域
一帯を含み、八尾町の南に接す。南は一
五〇米前後の山脈を以て岐阜縣吉城郡
に界す。野積川は村の南部山地に發源し
略々中央を北流し、東西境にはいづれも
山脈連亘し、久婦須・大長谷兩河の谷を

ノセカ 野積村

富山縣越中郡
負部の南部。井田川の上流野積川の流域
一帯を含み、八尾町の南に接す。南は一
五〇米前後の山脈を以て岐阜縣吉城郡
に界す。野積川は村の南部山地に發源し
略々中央を北流し、東西境にはいづれも
山脈連亘し、久婦須・大長谷兩河の谷を

ノセカ 野積村

富山縣越中郡
負部の南部。井田川の上流野積川の流域
一帯を含み、八尾町の南に接す。南は一
五〇米前後の山脈を以て岐阜縣吉城郡
に界す。野積川は村の南部山地に發源し
略々中央を北流し、東西境にはいづれも
山脈連亘し、久婦須・大長谷兩河の谷を

ノセカ 野積村

富山縣越中郡
負部の南部。井田川の上流野積川の流域
一帯を含み、八尾町の南に接す。南は一
五〇米前後の山脈を以て岐阜縣吉城郡
に界す。野積川は村の南部山地に發源し
略々中央を北流し、東西境にはいづれも
山脈連亘し、久婦須・大長谷兩河の谷を

ノセカ 野積村

富山縣越中郡
負部の南部。井田川の上流野積川の流域
一帯を含み、八尾町の南に接す。南は一
五〇米前後の山脈を以て岐阜縣吉城郡
に界す。野積川は村の南部山地に發源し
略々中央を北流し、東西境にはいづれも
山脈連亘し、久婦須・大長谷兩河の谷を

ノセカ 野積村

富山縣越中郡
負部の南部。井田川の上流野積川の流域
一帯を含み、八尾町の南に接す。南は一
五〇米前後の山脈を以て岐阜縣吉城郡
に界す。野積川は村の南部山地に發源し
略々中央を北流し、東西境にはいづれも
山脈連亘し、久婦須・大長谷兩河の谷を

ノセカ 野積村

富山縣越中郡
負部の南部。井田川の上流野積川の流域
一帯を含み、八尾町の南に接す。南は一
五〇米前後の山脈を以て岐阜縣吉城郡
に界す。野積川は村の南部山地に發源し
略々中央を北流し、東西境にはいづれも
山脈連亘し、久婦須・大長谷兩河の谷を

を集めて東北流し、東隅より大塔村に出づ。北部には西北の陣ヶ峯に發して東流し大塔村に出で十津川上流天ノ川に合する支流あり。その間、南部流域との間約一千餘米の分水嶺によりて距つ。河谷沿岸にも平地乏しく、斜面耕地を作り、米・麥・蕎麥を産するも村内の重要産物は林業なり。外に産物あり。中央に和歌山縣高野町と東南方西牟婁郡串本町とを結ぶ街道横断すれど、交通は極めて不便なり。大字池津川・立里の地に銅鑛の地あり。また大字北側に將軍塚あり、將軍宮跡良王の墓なりと、跡良は大塔宮の御子なり。〔高野寺〕大字今井にあり。古義真言宗。阿彌陀如来立像一軀(木造)は藤原末朝の傑作にして國寶。

ノソキ 及位村 山形縣羽前國最上郡の北部。東及び北は秋田縣雄勝・由利二郡に接す。面積一〇・五平方町。西北境に大森山(一〇七八米)・男加無山(九七七米)・女加無山(九二五米)、西境には黒森(七二八米)・東境には黒森(一〇五八米)あり、四周山地連なりて中央部に傾斜し、鹽根川は東南部に發源し孤状をなし、村の略中部を西南に流る。沿岸に耕耕地拓く。米・蕎麥を産す。村の北部山麓地帯に及位牧場にして牧畜行はれ、また伐木・運材の業行はる。羽州街道は中東部を南北に通ず。奥羽本線は北方より來り鹽根川に沿ひて西南方に向ひ、及位・釜淵(共に明治三十七年設置)の二驛あり。

本村の夜峠は一に杉峠とも稱し、戊辰の役に激戦の地なり。明治十四年、明治天皇・山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。

ノソキ 野反池 群馬縣吾妻郡六合村にある池。大高山(二〇七九米)と八間山(一九三五米)との間、辨天山(一六五三米)の北斜面の凹地に湛ふ。海拔一四八七米にあり、周囲約四町。排水は北流して中津川の上流をなす。

ノソキ 野田 樺太真岡支廳二郡の一。南は豊原郡、北は泊居支廳泊居郡、東は豊原支廳豊原郡に接し、西は日本海に面す。南北三〇・三五町、東西二〇・二五町。東部は香染山脈に屬する山地にして、野田山(一〇二九米)・常勢山・留多加山(七八六米)等連なり、この山脈より西方に數條の支脈を出し四一五〇米の丘陵起伏し、海岸に近き野田岳(六六一米)やや若はる。河川は野田川・登富津川・列丹川等いづれも東部山地に發して西流し、西北流して海に入り、列丹川の流域、特にその河口附近に廣く平地ひろげ、本地方に於ける主要農業地帯を成す。海岸には列丹川口に當り小龍登呂岬あり樺太西岸に於て顯著なる岬角にて、其北に登富津川の淺灣を擁し、野田川口には野田泊地の小灣入を有す。農業は小龍登呂村の平野部に盛にして蕎麥・豆類・馬鈴薯等を産し、また牛・馬の飼養行はる。北

部及び東部山地の森林は本部の重要資源にして、開發大いに進み、野田に製紙工業行はる。西部には野田・小龍登呂炭田ありて石炭を出し、また石油の埋蔵あり。水産は鱈・鰯等多く、野田はこれ等漁業の中心をなす。海岸に沿ひ鹽鹼鐵道西海岸線走り北は泊居町、南は眞岡町に連絡し、道路は西部鐵道幹線が鐵道と並走し海上は野田港に定期船の寄港あり、交通便なり。行政上、野田町及び小龍登呂村に分つ。

ノソキ 野田町 樺太真岡支廳野田郡の北部。眞岡町の北約四〇町の日本海岸に位す。東に西樺太山脈走り東北隅に野田山脈、その東南に美津山・常勢山等連り、野田山岳より山脈は西北及び西南に走る山脈あり、鶴巻岳(四四二米)・野田岳(六六一米)等聳ゆるを以て、域内平地に乏し。野田山岳の南面に道手川・野田川發し、一は西北流、一は西流して海に入り、又海岸山脈の西面に荒瀧川・鉢子川等の小川發す。産業は林・工・織・漁・農の各種に亘つて行はるも、野田に於ける製紙業を最も盛なりとす。即ち野田・鉢子・荒瀧等の諸川上流の木材を利用するものにて、大正十一年十一月王子製紙工場設立せられ、林用馬車軌道二條を敷設して材木を運搬、パルプ・洋紙の生産に従ふ。農業は前記各川下流の沖積平地に盛み、蕎麥・粟・豆類・馬鈴薯等を耕

作し、荒瀧には牧畜行はる。沿岸は鱈・鰯の好漁場にして野田に漁業組合あり。鐵道は石炭・石油とす。石炭は中部の下部第三紀層に埋蔵せられ、鶴巻・野田の二炭礦より採掘せらる、また石油は同じく第三紀層の上部含炭層に接近する厚さ約二〇米の凝灰岩層にやや多量に含油せらるるも未だ開發に至らず。西部海岸に沿ひ鹽鹼鐵道西海岸線及び西部鐵道沿路拉走し、前者に野田(大正十一年開業)・久良志・小岬(共に昭和五年開業)・鶴巻(昭和九年開業)の四驛あり、交通便利なり。市街地(大字野田)は野田川及び鉢子川の河口に位し、前面に小灣を擁して、定期船の寄港あり、商港にして漁港を兼ね。王子製紙工場は市街の東北端にあり。ここに警察署・郵便局置かれ、また北海道拓殖銀行支店・産業組合等あり。附近に梅ヶ嶺・日露役古戰場等あり。本町はもと野田と稱し、領有以前はアイヌの小部落あり、邦人の移住せしは明治三十年頃開始せらる。眞岡支廳出張所ありしも大正十一年廢止、同十二年に町制施行。〔鶴巻炭礦〕當町内に約六七萬坪の礦區を有す。炭層は西海岸上部炭層群に屬し走向は北七〇度東、傾斜は平均三〇度北西とす。極めて近年の開坑に俾り、目下採行中の炭層は一番層(一・四米)・二番層(〇・九米)・三番層(一・一米)の三層とす。炭質は不結核性無膏炭にして灰分少きを以て汽機用として好適とせらる

ノソキ 野田 縣(一三二五六町)・註(五六四一四)・鮎(七七〇九)・昆布(一九二〇一)・若布(五四九七)・蠶糸(一〇二五六)等を主なるものとす。縣道小本久慈線は海岸に沿うて通ず。

るが、昭和十年には僅に三萬餘石を産出したるに過ぎず、されど尙ほ將來發展性あるものとせらる。現在樺太炭業會社の經營に屬す。(梅ヶ嶺及)字梅ヶ嶺にあり。浴用加熱。痔疾・性病・皮膚病・子宮病等に効あり療養向きなり。山を負つて間宮海岸に臨み、眼界廣く眺望よし。背後の山に遊園地設けらる。

ノソキ 野田村 岩手縣陸中國九戸郡の東南端。南は下閉伊郡菅代村・安家村に隣り、東は太平洋に臨む。形はほぼ平行四邊形をなし北・西南の三方は山地丘陵連なり。西境は最も高く和佐比山(八一四米)・高森(七〇二米)あり。北部より宇部川・五川・安家村は並行して東北流し野田灣に注ぎ、流域には沖積低地あり。海岸は屈曲少く、美麗なる磯多き砂濱をなし南方は僅に崖をなす。東北部平坦地、主として宇部川流域は沖積層にて、山地丘陵は第三紀層或は花崗岩・古生層より成る。土性は河川流域は砂質礫質土を形成するも其他は壤土・砂質壤土・埴質壤土・腐植質壤土より成る。山地は主として農業・製炭業を主とし中・東部の沖積地は牛糞牛糞なり。農産物は昭和十年統計によれば米(三四三石、九五二一)・麥(一六七七石、二四四四)・大豆(六〇三石、九六四八)・稗(一三八九石、九〇二九)・馬鈴薯(三二二九)・蕎麥(一七六三三)等、林産物は用材・薪炭材・木炭にして計六〇三一一圓を出す。水産物は

【野田村】 縣道は村の中央を横走し、またこれと分れて八日市場町に通ずるものあり、同町にある省線鐵道本線八日市場驛へバスを通ず。この地は和名抄、眞岡郡野田郷の地にして、村名は郷名の遺稱なるべし。地名風光の千風知を野手次郎といふは此處に在住せるによる。日蓮門下の僧僧日朗は此地の産なり。

ノソキ 野田町 千疊嶺下樺太東部の北部。江戸川の東岸にあり。全町平地にて北境には産生沼あり。農業行はれて米・麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。町は古來醤油の醸造地として名高く、殊に龜甲萬は有名なり。養蠶は南部に發達し、縣道はそれより四方に通じ、また鐵道鐵道線は東部を北走して、町内に野田町(明治四十四年設置)・愛宕・清水公園(共に昭和四年設置)の三驛を設く。康正年間、古河公方成氏ここに築城し、野田有馬助を置き、附近を野田領と稱せしが、これが町名となりしものなるべし。

ノソキ 野田 縣前國(福井縣)の古地名。和名抄に丹生郡野田郷あり、乃太と訓す。その地、今の丹生郡野田村・宮崎村の邊なるべし。

西部は山地をなし、中央に稍低地開けて大分川の支流東北流すれども土地一帯に高嶺なり。即ち東境には御産ヶ岳(七九七米)・陣子岳(七五一米)雙えて西北方へ傾斜し西部の山地は西南部に高く、東北へ緩く下り、北境附近にて稍高まる。中央河谷に沿ひて耕地あり。米・麥・蕎麥等の外に林産あり。また原野廣く牧畜行はる。中央を縣道通斷して大分市へハスの便あり。この地は和名抄、大分郡種田郷の内。もと細川家の所領たり。明治四十年野津原村及び諏訪村を合し新に野津原村を置く。(野津原神社)大字野津原に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊・加藤清正・菊理比賣命等十三柱。建久年中大友能直京都祇園社より素戔鳴尊を勧請したるに創まるといふ。もと當村上平野にありしが、元和四年今の地に再建。例祭、八月二十四日。

ノツホロ 野幌 北海道石狩國札幌郡江別町の大字。省線函館本線の野幌驛(明治十五年設置)ありて、札幌夕張鐵道の起點をなす。

ノト 能登 北陸道七國の一。日本海に突出せる半島狀の國。南に越中・加賀二國と接する外、三方海に臨み、東側には七尾灣ありて能登島を抱く。いま羽咋・奥島・鳳至、珠洲の四郡に分ち、石川縣の管轄に屬す。この國は早く成務天皇の朝に國置を置き、崇神天皇の皇子大入來命の任命

されしこと國置本紀に見え、また雄略天皇の御代に羽咋國置み置かれし事もまた同書の中に出づ。國郡制定の時これ等の國は郡となりて越前國に入る。然るに奈良時代の養老二年、越前の羽咋・鳳至能登(のち奥島と改む)・珠洲の四郡を以て能登國を置きしが、天平十三年に再びこれを廢してこの度は越中國に編入す。併しこれも永廢せず、十七年後の天平寶字元年には能登國を再興。國府は今の奥島郡矢野郡村大字古府の地にありき。寶龜七年矢野郡の大府國守となりて以來國守に任ぜられしもの中には大伴家持・源順等あり、降つて平安時代の終り頃には平教經の如きもまた能登守たり。文治二年、源賴朝の時、長谷部信連を鳳至郡の大府國守とし、得田章通を羽咋郡得田莊の地頭職となす。前者は長氏の祖、後者は徳田氏の祖にて、共に地方の豪族となる。元弘元年、中院少將定清、能登の國守となりしが建武中興の時、越中に移る。時に越中の入替門閥なるもの足利尊氏に黨し能登・越中の兵を集めて定清に反抗す。定清これと戦ひて戦死し、のち本國は足利氏の手に移す。天授年間、足利義滿の時、高山義深を此の國の守護となす。爾後、子孫國、孫滿爾次いで國守となり、國內の長・徳田等の家族も歸服す。應永五年滿爾が七尾城に築き、爾後高山氏は七尾城に居ること八世、百八十年、高山義春の時病死し高山氏はじぶ。次

いで天正五年、上杉謙信が來攻して七尾城を陷る。「霜降軍營」云々の詩はこの時の作なり。天正九年には織田信長七尾を降して此地を前田利家に與ふ。利家國內を平定し、城を所口村(七尾郊外)に移しこれを小丸山城と稱せり。こゝに於て七尾の舊城は廢す。天平十年本能寺の變起り、信長横死の後、羽柴秀吉は利家と和し加賀の河北・石川二郡を與へしにより利家は七尾に子利長を置きて尾山(金澤)に移れり。慶長四年羽咋・奥島二郡を割きて次子利政に與へしが、關原戰後徳川氏の世となるに及んで利政の封を取め、利長を加・能・越三州に封ぜり。利長乃ち能登の老臣を集めて國務に參與せしめ所口奉行を置きて郡村の行政を行はしめ以て皇政維新に至る。明治四年十一月に五子、七尾縣を七尾に置き能登一國及び越中國の射水郡を管せしめしが、翌五年九月これを廢して射水郡を越中の新川縣の管下に移し、能登一國は石川縣の管下となり、以て今日に至る。

ノトガワ 能登川村 福賀縣近江國神崎郡の西部。八幡町の東北約四・五里に位し、西は琵琶湖岸に面し、南は蒲生郡に接す。南に觀音寺山(四三三米)あり、東境は一般に丘陵をなせども西半は平野にて西南境に安土山あり、南北湖中へ突出して中に湖を抱く。米・桑葉・雑穀作物・繭・麥・茶等の農産の外、水産物及び林野産物あり。尙ほ此地は近江麻布の生産地にして、縣は工業試験場を置きて特産麻布の改良と新特産人絹織物の用途の開拓に努め、以て近江織布に新生命を見出さんとしつあり。今一つの特産物に全國最大の産額ある菜種油ありてモビル油とす。中央を南北に縣道走り其の北部に市街地發達し、省線東海道本線また此地を通過し、能登川驛(明治二十二年設置)は北約〇・五里、五味村の地籍に置く。村内に後藤但馬守賢登の居城址あり、賢登は六角氏の將にして武勇を以て稱せられしが六角義賢これを思ひ誘致す。伊藤村と組合村をなし本村に役場を置く。蒲生郡安土村と本村に互り安土城址あり指定史蹟たり。安土村

ノトセ 能登瀬 愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年に大野村の大字能登瀬を分割して能登瀬村を置き、同三十九年に本村外六箇村を合し七郷村を置く。

續く砂丘の海濱をなし、羽咋附近より石海岸となる。半島の交通幹線として北陸本線津幡驛より分るる省線七尾線は邑知地溝帯を越し七尾灣を廻り輪島に至る。なほ七尾線羽咋驛より西岸を廻る省線能登鐵道は富永附近まで達す。自動車路は到る處に通じ、七尾港よりは沿岸各所に達する定期航路あり。人情は頗る純朴にて宗教心厚し。冬の積雪量は加賀・越中より少く、気温も突出する北に行く程却て暖かし。併し冬季に過剰となる労働力は季節的移住として現れ關西方面へ杜氏として出るは名高し。産業として東海岸の鮭・鱒・鱈等の漁業、山地一帯より出る木炭の量も多し。特産物には漆器輪島塗と地溝帯内部を主産地とする麻織物能登上布が著名なり。なほ飯田町附近に石膏と珪藻土、七尾町附近にセメント・肥料・珪藻土等を産す。

ノトカ 能登香山 美作國(岡山縣)の古山名。萬葉集卷十一に「能登香山の山は誰かぞ君來ませるに無あけず疑む」と見ゆ。いま美作郡栗井村の山が即ち是なりといふ(美作名所集)。

ノトベ 能登部町 石川縣能登國奥島郡の西南部。七尾町の西南約一里許。邑知地溝帯の中を占め、西は羽咋郡下甘田村に界す。西北部は層上山脈の一部なる二〇〇米前後の丘陵起伏し、東部は平野開く。產業は西北山麓に並列し一部は西北丘陵地を占む。被り農業に従ひ、米を主産物とす。また絹織物業も盛なり。省線七尾線東部を貫通し能登部驛(明治三十一年設置)あり。縣道これに並行交錯し、島屋村・金丸村へハスの便あり。この地は和名抄、能登郡與來郷の内なるべし。大字徳丸城は天正年間長運龍の居りし所なり。(能登比咩神社)大字能登部下に鎮座。郷社。主祭神、沼名水入比咩命。合祀神、天照大御神外八柱。創建年代不明なるも、主祭神は此地に発し給ひしかば丘上に奉葬、神靈を奉養す、これ當社の起原なり。御墓は當社の西北山上にありて石柱に能登比咩宮と刻す。郷民は幼少、源順・藤原基綱・高山基國・前田利家等の崇敬篤く、祭事を修し幣帛を供進せらる。明治四十年同所の諏訪・稻荷・菅原・八坂・谷内・大將軍等の各神社を合祀す。祭神比咩命は崇神天皇の皇女、櫻杵の業を興し給ひ、のち櫻杵を海中に投ずるに怒り一島を生じ之を能登比咩島または能登島と號し、いま宮木

登瀛河のさやけきたぎつ瀬こと波名朝臣少足」とあり。高市郡にある東坂川を稱すといふ。

ノトヘ 能登部町 石川縣能登國奥島郡の西南部。七尾町の西南約一里許。邑知地溝帯の中を占め、西は羽咋郡下甘田村に界す。西北部は層上山脈の一部なる二〇〇米前後の丘陵起伏し、東部は平野開く。產業は西北山麓に並列し一部は西北丘陵地を占む。被り農業に従ひ、米を主産物とす。また絹織物業も盛なり。省線七尾線東部を貫通し能登部驛(明治三十一年設置)あり。縣道これに並行交錯し、島屋村・金丸村へハスの便あり。この地は和名抄、能登郡與來郷の内なるべし。大字徳丸城は天正年間長運龍の居りし所なり。(能登比咩神社)大字能登部下に鎮座。郷社。主祭神、沼名水入比咩命。合祀神、天照大御神外八柱。創建年代不明なるも、主祭神は此地に発し給ひしかば丘上に奉葬、神靈を奉養す、これ當社の起原なり。御墓は當社の西北山上にありて石柱に能登比咩宮と刻す。郷民は幼少、源順・藤原基綱・高山基國・前田利家等の崇敬篤く、祭事を修し幣帛を供進せらる。明治四十年同所の諏訪・稻荷・菅原・八坂・谷内・大將軍等の各神社を合祀す。祭神比咩命は崇神天皇の皇女、櫻杵の業を興し給ひ、のち櫻杵を海中に投ずるに怒り一島を生じ之を能登比咩島または能登島と號し、いま宮木

浦にあり。或説に櫻子の葉は初め能登比呼命なりとし、吾名木入比呼はその當時能登比呼命の遺業を興し給ふものとす。いま支那石・八尋石と云ふ社實は、泉女自ら櫻子を織り給ふ所の石にて織糸の重みに置き給ふ故に其名ありと云ふ。また櫻子を織り給ふ時に櫻葉を機糸に織りて織成し給ふ事を發明せられしを以て、里人にまに此法を傳ふ。故に祭事には櫻葉を織りて供する古例ありと云ふ。社城の西北山丘に懸布瀧あり、その下流を宮川と云ひ命の布を晒し給ふ處と云ふ。例祭十一月十九日。〔能登郡神社〕大字上に御座。縣社。祭神、大入許命。迦具土命。建御名方命。菅原道真等五柱を合祀。創立年詳ならず。大入許命は、崇神天皇の皇子、能登臣の祖、此地方開拓に功有りといふ。式内能登國生古神社即ち之なりといふ。中世以來また式内餘喜比古神社なりとも稱し、藩主前田氏の崇敬篤し。明治六年現社名に改む。例祭十一月廿一日。〔本土寺〕大字西馬場にあり。日蓮宗。當在由。正安二年僧業純、日像に就きてその弟子となりこれを開創し、日像を以て開山とす。本國に於ける本宗最初の寺院たり。天正年中、領主長兵衛新願所となり山林二十五町を寄せらる。ノトマチ 野堂町 江戸時代、大阪岡場所の一。現今、同市東區谷町一丁目東の節・島の谷以南の俗名、浪花色八卦、上野町、野堂町、島嶼先新地皆此野に屬也

ノトリ

野堂町此あたりを上品とし、肥前國(長崎縣)の古地名。和名抄に高來郡野島郷あり、乃止利と訓ず。その地今の南高來郡島原町の邊なるべし。延喜兵部省式に肥前國、野島郡々馬五疋とあるは此地なり。ノトリタ 荷持田村 書紀、神功紀に見ゆる筑紫の古地名。皇后、皇命に従はざるを以て誅伐し給へる羽白熊鷹なるもの居住せし地。その位置いま詳かならざるも、或は筑前國(福岡縣)朝倉郡秋月町の大字野島ならんといふも詳ならず。ノト 能取 〔能取町〕北海道北見國の北岸。網走町の北に外出してオホーツク海に臨み、西岸に能取湖を抱く。北見國オホーツク海岸線の單調を破りて著しく、北端に燈臺を設く。半島部は總て二三百米の山地に覆はれ海岸に迫りて險崖なせり。海岸線極めて平滑、小波落り。〔能取郡〕北海道網走支廳網走郡網走町にある潟湖。本町市街地の西方約五軒、網走湖と丘陵を隔て、その北西二・五軒にあり、湖形は圓形に近く湖線の延長三二米なり。西岸より御原内川の注入するのみにて、湖水の増減少なく、東岸と西岸は丘陵迫り、直ちにオホーツク海と連絡するも、北岸には砂嘴が延び排水口の幅員僅か一〇〇米に過ぎず。單なる潟湖ならず土地の沈降により生ぜしもの。

ノト

能登呂村 樺太大泊支廳留多加郡の南部。亞庇瀨西岸に沿ふ狭長の地を占め、北は三郷村、西は本斗郡に接す。三郷村との境より南端の西能登呂岬まで六六軒北端に於ける東西の長さ約二〇軒なり。西部に西樺太山脈南北に走りて本斗郡との分水嶺を成し北より逐平山・臥牛山(五〇三米)・十串山(四四九米)・白山山等連りて西能登呂岬に盡き、東方に向ひ多数の山脈を出し北に兩龍山(四三三米)・葦取山等雙峰。河川は兩龍川・葦取川・泥川・古江川・内砂川・孫杖川・知志谷川・七江川等何れも東流して亞庇瀨に注ぎ、沿岸に低地横たへる。河岸は概ね單調にして、砂濱・礫濱相連なり、南部には暗礁・磯多し。古江川以北は海岸長く連なる。泊地として西能登呂岬の北に小泊・七江等あれど良港と云ふべからず。また西能登呂岬附近は暖潮兩海流の衝突するによりて濃霧の發生甚しく本島最多露地域の一をなす。産業は水産業が第一とし、鱈・蟹の漁獲多く、沿岸には兩龍より西能登呂に至る間十餘の漁場あり。兩龍川上流その他より木材を出したる木

ノナカ

野中 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡野中郷あり、乃奈加と訓ず。その地今の磐田郡磐田町の邊か。〔野中〕河内國(大阪府)の古地名。和名抄に丹比郡野中郷あり、その地今の南河内郡城生村の邊に當るか。ノナカ 野仲 豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に下毛郡野仲郷あり、その地今の下毛郡大畑村・如水村の邊か。ノナミ 野波村 島根縣出雲國八東郡の北部。島根半島の中央東偏に位して日

ノナイ

野内村 青森縣陸奥國東津輕郡の東部。青森市の東北約八軒。西は青森灣に面す。北境に高森山(三八七米)、南境には大平山(五五一米)・田ノ頭山(二六六米)あり、東境は海拔約六〇〇米にて西方に傾斜し、淺虫川は北部を、根井川は南部を各西流し青森灣に注ぐ。全村概ね山地にして海岸に山地迫り岩石海岸をなせる所多し。淺虫川の下流に淺虫温泉湧出す。米・林檎・淺虫石を産す。陸羽街道は海岸に沿ひて青森市に通じ、青森・淺虫間定期バスの便あり。東北本線淺虫(明治二十四年設置)・野内(明治二十六年設置)の兩驛を置く。村内に青森區裁判所出張所・東北帝國大學理學部附屬臨海實驗所あり。この地は奥州街道の野内

ノナカ

野中 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡野中郷あり、乃奈加と訓ず。その地今の磐田郡磐田町の邊か。〔野中〕河内國(大阪府)の古地名。和名抄に丹比郡野中郷あり、その地今の南河内郡城生村の邊に當るか。ノナカ 野仲 豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に下毛郡野仲郷あり、その地今の下毛郡大畑村・如水村の邊か。ノナミ 野波村 島根縣出雲國八東郡の北部。島根半島の中央東偏に位して日

ノナカ

野中 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡野中郷あり、乃奈加と訓ず。その地今の磐田郡磐田町の邊か。〔野中〕河内國(大阪府)の古地名。和名抄に丹比郡野中郷あり、その地今の南河内郡城生村の邊に當るか。ノナカ 野仲 豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に下毛郡野仲郷あり、その地今の下毛郡大畑村・如水村の邊か。ノナミ 野波村 島根縣出雲國八東郡の北部。島根半島の中央東偏に位して日

ノナイ

野内村 青森縣陸奥國東津輕郡の東部。青森市の東北約八軒。西は青森灣に面す。北境に高森山(三八七米)、南境には大平山(五五一米)・田ノ頭山(二六六米)あり、東境は海拔約六〇〇米にて西方に傾斜し、淺虫川は北部を、根井川は南部を各西流し青森灣に注ぐ。全村概ね山地にして海岸に山地迫り岩石海岸をなせる所多し。淺虫川の下流に淺虫温泉湧出す。米・林檎・淺虫石を産す。陸羽街道は海岸に沿ひて青森市に通じ、青森・淺虫間定期バスの便あり。東北本線淺虫(明治二十四年設置)・野内(明治二十六年設置)の兩驛を置く。村内に青森區裁判所出張所・東北帝國大學理學部附屬臨海實驗所あり。この地は奥州街道の野内

ノナイ

野内村 青森縣陸奥國東津輕郡の東部。青森市の東北約八軒。西は青森灣に面す。北境に高森山(三八七米)、南境には大平山(五五一米)・田ノ頭山(二六六米)あり、東境は海拔約六〇〇米にて西方に傾斜し、淺虫川は北部を、根井川は南部を各西流し青森灣に注ぐ。全村概ね山地にして海岸に山地迫り岩石海岸をなせる所多し。淺虫川の下流に淺虫温泉湧出す。米・林檎・淺虫石を産す。陸羽街道は海岸に沿ひて青森市に通じ、青森・淺虫間定期バスの便あり。東北本線淺虫(明治二十四年設置)・野内(明治二十六年設置)の兩驛を置く。村内に青森區裁判所出張所・東北帝國大學理學部附屬臨海實驗所あり。この地は奥州街道の野内

各海峽を挟む。半島は南北に延ぶること約一〇軒、樺太山脈の最南部が南端の西能登呂岬まで連亘するも、多間内山(五一八米)・牛荷山(五八九米)・臥牛山(五〇三米)・兩龍山(四五七米)等を主峯とする丘陵性の山地にて、山麓は海成段丘をなして海に臨む處多し。東岸は鯨・貝類・昆布、西岸は鱈・鰻の漁獲多し。海岸線單調にて西南端の白土以外は好適地を缺くも漁業發達をなし、農業村落は暖流の影響を受ける西海岸に内集、南名好等が近年發展しつつあり。東西兩斜面とも含炭層を有するも現在封鎖田となり、内集炭田のみが昭和三年開封され、三菱礦業會社の手により採掘され活況を呈す。ノナイ 野内村 青森縣陸奥國東津輕郡の東部。青森市の東北約八軒。西は青森灣に面す。北境に高森山(三八七米)、南境には大平山(五五一米)・田ノ頭山(二六六米)あり、東境は海拔約六〇〇米にて西方に傾斜し、淺虫川は北部を、根井川は南部を各西流し青森灣に注ぐ。全村概ね山地にして海岸に山地迫り岩石海岸をなせる所多し。淺虫川の下流に淺虫温泉湧出す。米・林檎・淺虫石を産す。陸羽街道は海岸に沿ひて青森市に通じ、青森・淺虫間定期バスの便あり。東北本線淺虫(明治二十四年設置)・野内(明治二十六年設置)の兩驛を置く。村内に青森區裁判所出張所・東北帝國大學理學部附屬臨海實驗所あり。この地は奥州街道の野内

宿・淺虫宿のありし所にして、大字淺虫より久栗坂に至る山道を戸前坂と稱し道路が海岸に屹立する岩壁を上を通過し、古人これを麓部外濱の間の險阻と傳し、多字末井の橋と稱し(俗に鳥頭前とも、塔前とも兎味ともいふ)、東麓建久元年(文治六年)二月の條にこの名見ゆ。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際、及び明治十四年山形・秋田・北海道行幸の際、本村の地に御小休あらせらる。〔淺虫温泉〕青森灣に臨みて湧出す無色透明の食鹽泉なり。往昔圓光大師巡錫の時、鹿の海波に浴するを見て温泉を知りしが、土人は浴するを怖れ、鹿を浸して蓋したるを以て鹿蓋の名生じ、轉じて淺虫となると稱さる。地は東西南の三方開段を運れ、西北の一方は青森灣に臨み海上指顧の間に湯ノ島・鵜島・櫻島等の大小の島々浮び四圍の風光に勝れ夏季海水浴に適す。ノナカ 野中 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡野中郷あり、乃奈加と訓ず。その地今の磐田郡磐田町の邊か。〔野中〕河内國(大阪府)の古地名。和名抄に丹比郡野中郷あり、その地今の南河内郡城生村の邊に當るか。ノナカ 野仲 豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に下毛郡野仲郷あり、その地今の下毛郡大畑村・如水村の邊か。ノナミ 野波村 島根縣出雲國八東郡の北部。島根半島の中央東偏に位して日

本海に臨み、松江市の東北五軒餘に當る。南に島根山脈を負ひそれより西北方へ延びる山地、一は西境を限り一は中央海中に突出して先端多古島に盡き、その間に灣を圍み灣頭に村落あり。村内平地乏しく海岸は風曲に富み斷崖海に迫るところ多く、附近六ヶ島・松島・築島等の小島散點し風光また絶佳なり。米・麥・甘藷・蕎麥・油桐・果實等の農産を出し、近海に魚獲の獲息多く魚類の集散地にて、鰺・鰯・鱈・鰯・和布・荒布・海苔等の産あり。南隣本庄村に通ずるには文尊寺の鞍板ありて陸上交通不便なり。海上近海に定期發着船の便あり。此地は和名抄の島根郡千酌郷の中なり。野波浦は後醍醐天皇の隱岐より御遷幸の際、御舟を着け給ひし地と傳ふ。(多古の七ヶ穴)指定天然記念物。島根半島の最北端をなせる多古島の岬角は集地岩及び凝灰岩の互層より成り、その中、神泊より瀨崎に至る間の海岸は高さ約五〇米、延長約四〇〇米に亘る一大絶壁にて、その下部に大小四箇の波蝕洞窟が九箇の開口を開きて相並ぶ。九箇の開口の中、正面より一望し得るは七箇のみなるを以て七ヶ穴と稱す。〔築島の岩脈〕指定天然記念物。字推崎栗落の東にあり。築島は第三紀の凝灰岩より成り海岸の斷崖に安山岩質の一の侵入岩床ありて、これより上に更に一米乃至二米程の厚さを有する侵入岩床あり、上段の岩床は下段の岩床に岩脈によりて

炭の産あり。農業は兩龍・泥川・古江・内砂・知志谷・七江・小瀨等の各噴民地を中心に行はれ、燕麥・粟・豆類・馬鈴薯・牧草等を産し、牛・馬・鵞の飼養も行はる。兩龍川流域には南部封鎖炭田に屬する兩龍炭田あり推定埋藏量三千四百萬噸なるも未だ採行に至らず。東部縱貫道路貝塚より分岐する兩龍街道は海岸に沿ひ西南走し西能登呂岬に達し、うち古江以北は改修成り車馬を通じ、また泥川より西方十和田峠を越えて本斗郡好仁村に至る間道あり。兩龍は兩龍川河口右岸に發達せし本村の最大村落にして、住民は主として漁業に従事し、郵便局・漁業組合・産業組合等あり。西能登呂岬には簡易製鹽所を設け、また西能登呂岬燈臺(明治十六年設置)あり、第二等燈臺にして、紅白互光。紅白光各五秒(紅光分五秒、白光分五秒)あり。船泊港に關する事務を取扱ひ、また露船を裝備する。岬の北側なる小泊(西能登呂)は海底電線の陸揚地にして、慶命宮の定期航路船が寄港す。岬の東南約一五軒、宗谷海峽中に二丈岩あり、閃白光、光連一三哩の燈標及び露船を裝備す。因に兩龍は開宮林藏第一回探險團にカメルとある地にて、明治初年邦人の經營せる十五漁場の一とす。〔能登呂半島〕樺太島西南部を占むる一大半島。東は中相半島との間に亞庇瀨を抱き、西は開宮海峽を隔て遠にアウツハ大陸に對し、南は北海道本島との間に宗

運り、岩脈は更に上部の地層を貫通して殆ど直立す。上部の侵入岩床と岩脈との交叉する部分より、また一枚の薄き岩脈出でて層面を僅かの角度にて切る。以上の一群と近接して稍々その西に當り、更に一箇の岩脈ありて略々南北に展布を爲し、この接觸部に沿ひ一箇の洞窟を買き、野根町。高知縣土佐國安藝郡の東北隅。甲浦町の西に隣り、北は徳島縣海部郡穴吹町に接し、東は太平洋に臨む。西境に七百乃至九百米の山地連亘し西南境には小坂山(七八五米)あり、東北境にも四百乃至五百米の山地あり。中間を穴吹町の西北山地に發する野根川、山地を縫うて東南に流れ下流にはやや廣き沖積地を形成す。雨量は室戸岬の頭部に當るを以て非常に多く、四圍にても最多雨地域に屬し、また屢々颱風に襲はるる事あり。野根川下流の沖積地には耕地よく開ける。麥・蕎麥を産し、山地は氣候的に惠まるるを以て植物の生育に適し美事なる林相を呈す。縣道は海岸に沿うて走りバスの便あるも、縣中心部に赴くには室戸岬を迂廻するか、若しくは野根山麓の險路より室戸利町に至るものにて何れも不便なるを免かれず、従つて徳島縣穴吹町方面との關係が密接となる。野根山は山中の路程殆ど四四軒に及び、四國中驛路筋に當る山路としては第一の難所たり。絶頂に昔は岩佐と呼ぶ關所あり、その下の泉を岩佐の清水と稱へて名高し。

山上には老杉古樟天を掩ひ、幽邃を極む。古へは土阿の官道たりしこと、續日本紀に見え、承久の亂後、土御門上皇が土佐に御遷幸の時、この山中にて雲に苦しみ給ひしことあり、承久記に「浮世にはかかれ世こそ生れけり知らぬ我涙かな」と御詠遊ばさるとあり、また彼の岩佐清水は貞應元年、更に阿波に遷すの時、岩間より送り出づる眞清水を御掬ひありて賞美あらせられ名づけ給ふといふ。昭和十三年町制を布く。(八幡宮) 大字野根に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。古來當村の地鎮守にして、領主惟宗氏の崇敬あり。例祭、七月九日・十月六日。

ノノノ 能濃 石見國(島根縣)の古地名。和名抄に奥足郡能濃郷あり、その地今の鹿足郡津和野町・小川村・木部村・畑迫村の邊なるべし。

ノノイチ 野々市町 石川縣加賀國石川郡の北部。金澤市の西南に接續す。金澤平野の略中央に位し、土地平坦肥沃にして水田多し。農業を主とし金澤方面に出ず蔬菜を除けば殆ど米なり。南北に社線金澤電軌貫通し、野々市驛(大正五年設置)を置くほか縣道四道し金澤市・春嶺西金澤驛(押野村)等へハスの便あり、松任町・鶴來町へも縣道通じ、金澤・松任間の社線金澤電軌松任線の便もあり、交通至便なり。この地は北國街道の野々市宿のありし地にして、和名抄、石川郡富樫郷の内なるべく、古くは布市に作る。永延

年中、富樫家國、始めて此處に居を構へ、子孫相承け二十三世五百年餘に及ぶ。元龜元年五月、一向宗徒のために隔れられ宗徒ここに築きて據る。天正八年、織田氏の兵來りて攻め遂に陥る。大正十三年町制を布く。

ノノウエ 野上(一) 野上(美濃國)ノノウチ 野口 (丹波國船井郡)

ノノサト 野里 若狹國(福井縣)の古地名。和名抄に遠敷郡野里郷見ゆ。また延喜兵部省式には若狹國遠敷郡馬五正とあるもこの地なるべく、和名抄は地名を二字となすために里の字を加へたるものならん。而してその郷城は遠敷郡熊川村の地か。而して遠敷郷址はこれを大字熊川の邊に定むべきか、後致を俟つ。

ノノセ 野之瀬村 山梨縣甲斐國中野郡の西部。甲府市の西南約一十軒。甲府盆地西邊をなす山地の山裾を占め西より東へ傾斜す。聚落は概ね東部に散在し、養蠶業を主産業とし、次で農業行はる。藁・桑の産量も多く、米の産これに次ぐ。街道は東部を貫通するも溪澗に沿うて通ずる險路ありて交通便ならず。大字野上野城址あり、今の高島は後年に増築せるもの。足利尊氏の頃、武田信武の次子、輝正少輔信明、この地を領し大井氏と稱し、武田氏に抗す。戦世の後を上野介信直とす、即ちここに居城せしものか。

ノノダケ 筈嶽村 宮城縣陸前國遠田郡の東北。涌谷町の東北約五軒。東南は北上川及び江合川を隔てて桃生郡に、東北は迫川を隔てて登米郡に接す。村の西南半部は又兵衛坂丘陵に屬し、筈嶽山(二二二米)ありて山地をなすも、東北半部は平坦なり。迫川は東北境を東南に流れ江合川は東南境を東流し何れも東南境にて北上川に合し、流域は頗る卑濕なり。米・藁・麥を産す。道路は村の東部及び西部を各南北に通ず。西南方石巻線涌谷驛へハスの便あり。筈嶽はもと神樂岡と稱し、延暦二十年、東夷の巨魁高麗起り、駿河に至るや坂上田村麻呂これを清見關に防ぎ、高麗敗れて神樂岡に據る。田村麻呂退却して來り、遂に此地に高麗を殺し、その首級を京師に送り、關を岳上に埋め、神樂岡の東邊に殘矢一條を對し凱陣の祭式を行ひしといふ。(筈嶽寺) 大字筈嶽にあり。天台宗。無量山常任院。俗稱、筈嶽觀音。奥州三觀音の一。寶龜六年鎮守府將軍大伴陸奥守の尊朝と傳へ、延暦年間坂上田村麻呂堂宇を創建すといふ。嘉祥二年國仁中興し、當時二十一坊ありて寺勢盛なりき。舊寺領百二十石。

ノノミ 野登 三重縣伊勢國鈴鹿郡の西部。鈴鹿山脈の東斜面にて、東南部は龜山町に接し、西は山脈を距てて滋賀縣甲賀郡に界す。西境は七八百米程度の鈴鹿山脈南北に連り、山地東方へ傾斜して東部

ノノカク 延方村 茨城縣常陸國行方郡の南部。潮來町の東隣にして北浦に臨む。東は北浦を隔てて鹿島郡の一部と相對す。西北部は低き丘陵地をなすも、他は水郷にして、北浦より野川を経て外浪浦に注ぐ部分を含め、土地低平にして水田多く、米を主産す。特産物としては藻貝の製作行はれ、年産約十五萬圓あり。對岸鹿島郡津村との間に神宮橋あり。縣道は潮來町より來り、村の中央を經てこの橋を渡り鹿島郡鹿島町に通ず。北浦をばじめとして利根川・霞ヶ浦方面への水運の便大なり。この地は和名抄、行方郡餘戶郷の地なり。江戸時代、水戸藩の藩校(文化三年、小宮山昌秀の創立)延方郷校のありし所。

ノノサト 信里村 長野縣信濃國更級郡の北部。犀川の右岸。長野市の西南方約六軒。中央に七〇〇米餘の茶臼山の丘陵起伏し、北は犀川に、東南は善光寺平に向ひ傾斜す。耕地は北部河岸及び東南部に開け養蠶・農耕盛なり。藁・米・麥及び蕎麥の産あり。北部・南部に縣道通じ藁ノ井驛(約六軒、途甲ハスの便あり。大字有族にある茶臼山は、川中島を瞰下す。永祿四年八月武田信玄この山に陣して妻女山の上杉謙信に對す。(布制神社)

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

は濠地狀の丘陵をなす。中央には西境に發する鈴鹿川支流の野登川東流す。米・藁・麥等の農産の外に林産・畜産・蠶産・工業あり。龜山町へ定期バスあり。此地は和名抄に鈴鹿郡英多郷とある地に屬す。〔野登山〕 鈴鹿山脈に屬する一峯。龜足山ともいふ。三重縣伊勢國鈴鹿郡にありて、野登村の北方、庄内村との境上に跨る。標高八五二米。

ノハラ 英原 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に香川郡英原郷あり、乃波良と訓ず。その地、今の高松市に當る。

ノハラ 野原町 奈良縣大和國宇智郡の南部。吉野川に沿ひ、北は川を距てて五條町に對し、東南は吉野郡に界す。東南部は大柴山脈西北麓の山地にして約二〇〇米程度の高さを示し西北方に緩傾斜し西北部に低地ひらく。北境に沿ひ吉野川迂回しつつ西流し西隔にて南方より來る黒瀬川を含す。米・藁・麥を産し竹林多し。西部に五條町より南下する縣道あり之を挟んで市街地發達す。五條町へ自動車の便あり。昭和三年に町制施行。

ノビドメ 野火止川於て 東京府北多摩郡小平村大字川於て、東京市の玉川上水より取入れ、東北に流れて埼玉縣北足立郡に入り、大和田町の野火止を通りて志木町に至りて新河岸川に入る用水路。長さ約二五軒。この用水は沿岸の住民の飲料水となり、また動力用ともなりその他は灌漑に用ひらる。抑々この用水

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

ノノフナ 延永村 福岡縣豊前國京都市の北部。和名抄、京都郡高來郷の内。行橋平野の西北部を占め、東は行橋町に接す。西南部は低き丘陵をなし、その中央には東北より西南へ通ずる低地開く。東部より北部一帯は東へ傾く廣き平野にして、南方より來る峽川は東部中央を東

は河原城主松平伊豆守信綱の發意にて、家臣の安松金右衛門の辛勞經營に成りしものなり。由來玉川上水の分水といふことは容易に許されざりしを、信綱は或時、功ありて將軍より恩賞を賜はらんとせしに、これを固辭し特に一升の分水を得しといふ。一升の水とは蓋し一升の大の取入口より流れ出る水量をいふ。信綱はここに於て家臣の安松金右衛門の見積りし三千兩の豫算を以て後世の爲、この大工事を起すに至れり。金右衛門は當時の不完全なる測量術をもつて土地の高氣を測り、日夜數百の人力を奮し刻若して工事を完成せしむ、意外にも水通らざりき。翌年まで待ちしも同様なるを以て、往々彼を非難するものあり。この時彼は人に語りて曰く、古より詠に河は九里を測はずといふ、河越の地は土地は熾き砂塵を吹きて古より人々を苦しめしが、今年に塵立たず、その上畑作物の出来例年に倍す、これ即ち河水が土地を潤はせし結果なりと。かくて待つことまた一年、翌年になりて一夜大雨の後、水は雷の如く轟然と音を立てて河に通じ新河岸川まで流れり。信綱の喜びは非常なるものにて、金右衛門の自信と恩賞を厚く賞せりといふ。平林寺の移轉(崇禎より野火止へ)は信綱在世中には果さざりしが、子孫綱の時父の志を成し、且つ信綱の墓をも移し境内に用水を導けり。用水はこの邊にて數條となり野火止地方を灌漑し、爲に多

くの薪田を得、人家も増加するに至れり。今もこの地方にては野火止用水をば「伊豆殿堀」といひてその遺蹟を稱へ、また今の高等小學校本巻一にも記載され、世に著はる。

ノヒル 野蒜 「野蒜村」 宮城縣陸前國桃生郡の南部。鴨瀨川の河口右岸にあり、西は松島灣に臨み、東南は石巻灣に面し、南は秋田道を隔てて宮戸島に相對す。西北部には百米内外の丘陵起伏し、鴨瀨川流域及びその河口より松島灣に通ずる東名運河一帯には低地ありて耕地よく開く。海岸には砂堆ありて砂濱廣く、松島灣の形勝地を控へ好き海水浴場として知らる。農業盛にして米・麥・藁を多産し、漁業も行はる。社線宮城電氣鐵道は中部をば江東西に通じ大塚驛・東北須賀驛(共に昭和三年設置)・東名驛(昭和六年設置)を置き、縣道は鴨瀨川に沿うて走り、交通便なり。此地は藩政時代は鴨瀨川物資集散地として伊達家倉庫所在地の一たり。物資は鴨瀨川の上流地方より舟運により送り來り更に鹽釜港より通ずる真山堀を過り、仙臺に搬出せり。

〔野蒜運河〕 宮城縣にある運河。北上川の河口石巻市より鹿來村(桃生郡)を経て南西約二〇軒、鴨瀨川河口の野蒜村(桃生郡)に到る。明治十一年開鑿の工を起し同十五年十月竣功す。大字野蒜より更に大字東名に到り松島灣に通ずるものを東

ノヒル——ノフナ

ノヒル——ノフナ

流し行橋町より周防灘に注ぐ。米・麥を産す。行橋町より西の方田川郡香春町へ通ずる縣道中央を西市へ走り自動車便あり。(正八幡神社)大字草野に鎮座。郡社。磐田別命・息長足・饗命・比咩大神。古へ、草野村・行司村・長音寺村の産土神たり。例祭、八月二十四日。(恒富八幡神社)大字上津熊に鎮座。郡社。祭神、神功皇后・聖神天皇・比咩神。舊地は宇佐神宮の神領たりし關係上、同宮より分配せるものなるべし。古へ上・中・下津熊村の産土神たり。例祭、五月十四日。

延野村 徳島縣阿波國那賀郡の中央南部。那賀川中流に跨り驚敷町の南に接し、東は新野町に隣り、南は海部郡に界す。四周山地を以て開かれ中央河川に傾斜し、東境には矢筈山(五六二米)あり、西南境には六二二米の山地あり。那賀川は西方より来り本村を西南より東北へ横断して驚敷町に出づ。西南部に於ては東南方より来る小河を合す。沿岸にやや低地開け、米・麥・苧の産あり。驚敷町方面より南方日和佐港へ出づる縣道中央を南北に走りてバスの便あり。

野部村 靜岡縣遠江國磐田郡の中部。天龍川の左岸、二俣町の東南に接す。東北部に二〇〇米餘の丘陵あり西南へ傾斜す。天龍川は西部を南流し西南部に平地開く。河岸は砂土多く流水比較的便ならず、畑地多し。米・麥・茶の農産

物に次ぎ齒の産多く、牧畜・林業・工業また行はれ、多方面の産業を呈す。社線遠州鐵道の遠州二俣驛に近く、縣道また南北に貫通し、交通便して傾なり。この地に豪士野邊氏あり、蓋し遠江權守藤原信實の五世、入江權守清貞の子に野邊三郎家貞あり、左名を稱せしものか。

延岡市 宮崎縣東北部第一の都邑。もと内藤氏の城下町にて、いま縣北部の物資集散地たると共に、九州東岸に於ける一大工業都市。東經一三一度四〇分、北緯三二度三三分、五ヶ瀬川の河口に位し、東方一帯は日向灘に臨み、北は東臼杵郡北川村・南浦村に、西は同郡北方村・南方村に、南は同郡門川町に接す。東西約一九軒、南北約三〇軒、面積一七三・九七方軒あり、全市部のうち東京・京都・大阪の各市に次ぎて廣く、横濱市とほぼ相等し。人口約九萬。

延岡市 宮崎縣東北部第一の都邑。もと内藤氏の城下町にて、いま縣北部の物資集散地たると共に、九州東岸に於ける一大工業都市。東經一三一度四〇分、北緯三二度三三分、五ヶ瀬川の河口に位し、東方一帯は日向灘に臨み、北は東臼杵郡北川村・南浦村に、西は同郡北方村・南方村に、南は同郡門川町に接す。東西約一九軒、南北約三〇軒、面積一七三・九七方軒あり、全市部のうち東京・京都・大阪の各市に次ぎて廣く、横濱市とほぼ相等し。人口約九萬。

二五〇―三五〇米を示し、高平山(四〇五米)・愛宕山(二五一米)・虎見山(三〇八米)・および城山・今山等は著るし。河川は五ヶ瀬川の外に北川・観子川・神田川等あり、五ヶ瀬川は最大にて阿蘇外輪山に發し三田井の仙傳を経て東南流し來り市の西境にて大瀬川を分流するも市街東邊に於て再び合流す。北川・観子川は共に北方縣界の山地に發し縱谷をなして南流、一は可愛岳の東裾を、一は同じく西裾を環流し、五ヶ瀬川とその河口に於て合流、海に入る。また神田川は南部丘陵地に發し矢野谷を経て愛宕山南麓を流れ、濱川を容れて長濱にて海に注ぐ。此等諸川は何れも流域に於て廣き沖積地をつくり、耕地は是る。即ち本市の主要部は此等河川のアレル上に發達せるものにて、河口に近く祖父ヶ島・伊丹島・懸島・方野島等、大小幾多の島を形成し、城山の如きも嘗ては河上の一小島たりしと考へらる。海岸線は延長三〇軒に及ぶ。南部に遠見山半島突出しその北端に鞍掛岬あり附近は出入多き海崖を成せど土々呂港を内に擁し、これより北約一〇軒、五ヶ瀬川河口に至る間は孤島を描く低砂濱にて長濱と稱し、一帯に松原緑き、遠淺にして好遊の海水浴場を提供す。河口と方野島とによりて延岡港を構成し、河口は火打崎に至るまで再び險岸をなす。氣候は九州中にして最も暖き地方に屬し、雨は多く、概して紀伊半島又は土佐の沿

二五〇―三五〇米を示し、高平山(四〇五米)・愛宕山(二五一米)・虎見山(三〇八米)・および城山・今山等は著るし。河川は五ヶ瀬川の外に北川・観子川・神田川等あり、五ヶ瀬川は最大にて阿蘇外輪山に發し三田井の仙傳を経て東南流し來り市の西境にて大瀬川を分流するも市街東邊に於て再び合流す。北川・観子川は共に北方縣界の山地に發し縱谷をなして南流、一は可愛岳の東裾を、一は同じく西裾を環流し、五ヶ瀬川とその河口に於て合流、海に入る。また神田川は南部丘陵地に發し矢野谷を経て愛宕山南麓を流れ、濱川を容れて長濱にて海に注ぐ。此等諸川は何れも流域に於て廣き沖積地をつくり、耕地は是る。即ち本市の主要部は此等河川のアレル上に發達せるものにて、河口に近く祖父ヶ島・伊丹島・懸島・方野島等、大小幾多の島を形成し、城山の如きも嘗ては河上の一小島たりしと考へらる。海岸線は延長三〇軒に及ぶ。南部に遠見山半島突出しその北端に鞍掛岬あり附近は出入多き海崖を成せど土々呂港を内に擁し、これより北約一〇軒、五ヶ瀬川河口に至る間は孤島を描く低砂濱にて長濱と稱し、一帯に松原緑き、遠淺にして好遊の海水浴場を提供す。河口と方野島とによりて延岡港を構成し、河口は火打崎に至るまで再び險岸をなす。氣候は九州中にして最も暖き地方に屬し、雨は多く、概して紀伊半島又は土佐の沿

Table with 2 columns: 農産物 (Agricultural Products) and 畜産物 (Livestock Products). Rows include 米 (Rice), 麦 (Wheat), 大豆 (Soybean), 雑穀 (Miscellaneous Grains), 畜産物 (Livestock Products), 養蚕 (Silk Rearing), 養蜂 (Beekeeping), 養魚 (Aquaculture).

特に工業物の増加は目覺しきものあり。本市が城下町より近代都市への開進に移りしは大正十二年日本窒素肥料株式會社

延岡工場設立せられしに始まり、昭和四年には日本ベンベルグ硝子株式會社延岡工場、同七年には旭硝子株式會社延岡工場設けられしが、同八年兩社は合併して旭ベンベルグ硝子株式會社を創設、現在旭・ベンベルグ・レーヨンの三大工場の外、曹達工場・ハンカチーフ工場・旭味(調味料)工場を有す。ベンベルグ工場は敷地十萬坪餘、本邦最初の鋼アンモニヤ法による製品を市場に送りし工場にして、レーヨンは工場に送りし工場による製品を出し工場面積十二萬坪を擁す。なほ日本窒素火薬株式會社は延岡火薬工場に附隨して製面工場を設け、更に延岡プラスチック工場を設けプラスチック(セルロイド)の一種を製造し、以上二社工場の職工數約二萬人。而して生産額が八億餘圓に達し、延岡にして首位を占め、工業製品・火薬類・硫安・硝子・漆粉・旭味・プラスチック・アミノ酸・油等の右二社製品の生産額四九三萬圓にして、市の全生産額の九六%強に當る。其他、工作機械・鋳物・鑄造・製材・製氷・建築家具類等の諸工業あり、工場にては中島商事株式會社土々呂糖練所(糖)日平商店醸造試験場(清酒)等や著る。特産品には前記「旭味」・アミノ酸・油のほか、糸・石工品(紅石硯)などあり。農業は東部沖積地に主として行はれ耕地面積は水田一四八〇ヘクタール、畑八九〇ヘクタールあり、米三萬六千石、

Table showing market prices for various goods. Columns include 米 (Rice), 小麦 (Wheat), 大豆 (Soybean), 雑穀 (Miscellaneous Grains), 畜産物 (Livestock Products), 養蚕 (Silk Rearing), 養蜂 (Beekeeping), 養魚 (Aquaculture).

高約四二萬圓、水産製造は香乾・鹽藏・節類・蒲鉾類等を合せ二〇萬圓餘に達す。また五ヶ瀬川の鮎漁は有名にて鮎鮎・鮎

うるかの特産あり。市の北部を主とする山林はまた本市の資源の一にて約七四〇〇ヘクタールの山林は諸種の濃密針葉樹に富み、松・杉・檜の用材を主とし(一九九圓)・同上板・薪材・葦草・推草等を出す。いま昭和十一年に於ける主要生産物(十萬圓以上)を表示するに上表の如し。(交通)省線日豊本線は北川溪谷に沿って南下し、五ヶ瀬川左岸に延岡驛あり、次いで長濱海岸に沿って南走し南延岡・土々呂の各驛(以上何れも大正十一年設置)を設く。延岡驛より小倉までは二五六軒(全行約六時間)、宮崎までは八四軒(約二時間)あり、同驛より五ヶ瀬川溪谷を渡る日ノ影線が駛り、西隣南方村には西延岡驛が設けらる。各驛の運輸状況をみるに、乗降人員は延岡驛二六萬人、降二七萬人にて最も多く、南延岡驛は乗降各一萬人、土々呂驛は同じく各四萬人となるに反し、貨物は南延岡驛にて最も多く取扱はれ、延岡・土々呂は之に次ぐ。而して貨物の移入額は三二四二萬圓にて機械類・電器用品・石灰・豆粕・織績及び織製品を主とし、其他の硝子(銀・銅)・硝子・米・砂糖・煙草・自轉車等も多く、移出は九八二萬圓を算へ揚發物・硝子・推草・工業製品・硝子及び金屬製品・木炭等を主要なるものとす。道路は日豊本線とほぼ並行して國道大分街道が市に貫走する外、延岡驛附近より西へ高千穂街道が駛り、五ヶ瀬川は河口より上

流の目ノ影まで舟楫の便あり。海運は延岡・土々呂の二港による。何れも指定港灣にして、土々呂港は現在大阪商船の大阪・鹿児島航路、土佐商船の高知・細島航路の寄港地となり、特に人絹輸出港として著はれ、北方の洋梨時に土々呂港燈臺(明治三十九年設置)あり、米運距離は六哩。また延岡港はもとの東海運路にして江戸時代より開け、交通運輸上の要地たると共に、風光の美を以て知らる。兩港の港勢を見るに、入港船舶(汽船のみ)は延岡五八三(二〇萬噸)、土々呂は四七九四隻(七三萬噸)にして、後者は此の點に於て縣下各港の第一位にあり。船客數は延岡は乘一六三三〇、降二二五三〇、土々呂は乘一一五八四、降二二〇一七にて共に縣下各港の上位を占む。貨物は延岡港の移出額三・九萬噸(三二五萬圓)、火薬・木炭・木材・移入額二・八萬噸、(一四〇萬圓)、金屬及び同製品セメント・機械油)に對し、土々呂港は移出二・四萬噸(六二二萬圓)、人造硝子・硝子・推草、移入七千噸(一四四萬圓)、機械油・金屬及び同製品・和酒・織物・豆類等)の數字を示す(以上港海統計の昭和九年)。(地理的區分)市の中心をなすは五ヶ瀬川・大瀬川の合流地點にある三角洲上に於て、西側に舊城址城山公園あり、その東側なる本小路を中心として市役所・官崎地方裁判所支部・區裁判所・稅務署・

郵便局・警察署・商工会議所等集中す。本小路に接する本町通・船倉町などは對岸の祇園町附近および國道筋の川原町その他とともに商業地域の中心をなし、諸會社・銀行・商店など概比す。五ヶ壱川には幅員一五米の板田橋・安賀田橋を始め五ヶ壱橋・大瀬橋・川島橋等の長橋を架し、大瀬橋上流には有名な鮎瀬ありまた川に遊船を泛ぶ。中央三角洲の南方は工場地帯にして旭ペンベルグ諸工場を始め大小の工場とその住宅・寄宿舎多く、その東方には田圃ひらけ、南端に南延岡驛あり。西南方は愛宕山を風主とする丘陵地帯にて附近には古墳・アイヌ遺跡等散在し、また井上城址等あり。東部の長濱海岸は沙千狩・海水浴に子女群集する場にして、その南邊に延岡競馬場・平原遊園地あり。城山の北方對岸には今山丘陵起伏し、今山公園・八幡神社・今山大師・靈雲寺等は其附近の名勝にして、その東麓なる延岡驛に近レの工場が廣大なる地積を擁す。以上の地域の北に東海、南に土ヶ呂の新市場あり、東海の河口に臨み日本窒素大業の大工場あり、その西北の丘陵は西南役の古戦場として聞え、その東麓は野(北川村地内)には環々々々御殿と傳ふる地、南麓に那智ノ瀧・琴彈ノ松・蛇谷ノ瀧・土持高僧墓・千光寺等の名勝史蹟あり。土ヶ呂港附近はまた海水浴場として著はれ、此處に岩戸織山株式会社・土ヶ呂精練所・燈臺あり、

その東方側名には陸軍演習場あり、附近は千疊敷・三松公園・瀧ノ不動等の景勝に富む。斯の如く市域廣大に過ぐるを以て市役所は北部の大字稻盛時に東海出張所を、南部の大字稲津土ヶ呂に伊形出張所を設く。前記の外、市内の官公署に利務所支部・供託局出張所・警察署・同署東海貯木場・大蔵省預金部出張所及び鐵道關係の保檢區・機關區・鐵道診療所等、教育施設に縣立の中學・商業・高女各學校及び縣立圖書館等、その他延岡新聞社・延岡新報社・延岡實業株式會社・延岡電氣株式會社・日豊水電株式會社・延岡瓦斯株式會社・日州製氷株式會社等あり。(人口)市の昭和十一年現住戸數は一四〇三六、人口は七八一〇二にして、同十二年の推計人口は八九〇〇〇を算す。國勢調査の計數によれば、大正九年は二〇一四六、同十四年二四六六〇、昭和五年三〇八九七、同十年五五六一二と格段の増加を示し、なほ昭和七年以後の累年人口比較は表列の如く、最近五年間に於て延岡市人口累年比較

十一年に於て他地へ出たる者一二九〇人、他より入りし者三六〇九六人に於て最近五年間に二倍乃至二倍半の増加を示し入寄留者にありては昭和十年頃より女子數が男子數を凌駕し、昭和十一年に於ける現住人口中、男三八六四七に對し女四〇四六五となり、近郊農村の女子が労働者として動員せらるるもの多きを示す。(沿革)此の地は沿革極めて古く、既に史前時代に先住民族多く居住し、いま彼等の遺物たる古墳・メソリチムなど各所に散在す。和名抄、白井郡美田郷は現在の市域の大部分の地に於て、南部の大字稲津土ヶ呂附近は同郡同田郷の内とす。英田はまた美多・吾田・縣なども記す。中世、土持氏の所領たること約七百年、初め縣城にあり、次で井上城・西階城・(東白井郡南方村)を経て松尾城(南方村)を築きこれに居る。十六代親成に至り天正六年大友宗麟に滅され、次いで島津氏に屬せしが、同十五年豊臣秀吉の九州を平定するや高橋元種を此處に封じ、元種は慶長八年松尾城より改築なれる縣城に移る。同十八年元種没ありて除封せられ同十九年有馬直純肥前島原より移り五萬三千石を食む。千原純の時同二年に縣城を延岡城と改め、延岡の稱ここに創まる。元種四年孫清純は越後赤魚川に移り翌五年三浦明教、下野壬生より來り治し正徳二年明教の三河河原に移るや、牧野正英同國吉田より移封し九萬石を食む。

牧野氏三十六年に於て延岡四年常陸笠間に移り、内藤備後守政樹七萬石を以て磐城平より來封し、千孫相承けて維新に至る。明治四年に藤澤、延岡・美々津・宮崎・鹿兒島の諸縣に轉屬し、同十六年鹿兒島縣より分離し再び宮崎縣に屬す。同十七年白井郡を東・西に分つや東白井郡に屬し、同富・恒富・出北・三須の四箇村に分る。明治二十二年町村制施行に伴ひ、同富村より延岡町を分離し、恒富村に出北・三須の二村を合併し、同富村に合併す。恒富村の一町二村となる。大正十二年省令日豊線全通し、海陸運輸の利便を得るや商工業俄に勃興し、昭和五年四月三町村は合併して新に延岡町を建て人絹工業の隆盛により町勢頓に伸展し、同八年二月十一日市制施行、次で同十一年十月、東海・伊形の兩村を合併し今日の大延岡を建設するに至る。(先史時代遺蹟)大字恒富、愛宕山麓の洞窟遺跡は最も顯著なり。大正十三年新遺蹟に際し發掘せられたるものにして一部破壊せらるるも、自然に海岸に存在せし洞窟と考へられ、窟内に海産物へかけて貝殻あり。多數の貝殻に混じりて石器時代の石器破片あり、窟底に原始的石棺五箇を發掘し、同時代の人骨三體を發見せり。アイヌ居住乃至富貴の跡なりと推斷せらる。もと東海村地内には石器時代人信仰の象徴と見るべきメソリチム二箇あり。また市内より富高町方面に互り前方

後圓・圓墳・槌式・ケトル式等の古墳少からず、中には市の西郊なる南方村の天下古墳は有名なり。市内には愛宕山南麓・神田川に臨める低地に陸奥古墳・片田古墳・神田貝塚あり、東麓には鬼ヶ城遺蹟あり。其他五ヶ壱瀧川右岸の古川及び城山などに古墳を存す。陸奥のものに規模やや大きく、圓形古墳より長方形の石棺を、又これに接して粘土棺を疊置し、神田貝塚よりは石棺丁・勾玉類を鐵紋土器破片と共に出土せり。(延岡城址(城山公園))市の西部丘陵上にあり。海拔五三米餘、周圍一軒餘にして本丸・二ノ丸・三ノ丸に分れ、少しく西に離れて西ノ丸(周〇・三軒餘)あり、五ヶ壱瀧川これを圍繞して頗る要害の地をなす。もと縣庄司なる土持氏の居址なりしが、慶長六年高橋元種これを改築し、同八年工竣りて松尾城より移り、爾來有馬氏・三浦氏・牧野氏・内藤氏の居城となり維新に至る。初め縣城と稱し、明曆に至り延岡城と改め、内藤政樹の時よりは龜井城とも稱す。明治三年廢す。いま本丸・二ノ丸・三ノ丸の石臺を遺存す。城址を明治三十九年城山公園となし、山上に櫻樹を多く植う。城主の居館址なりし西ノ丸址には舊藩主内藤氏邸あり、之に接して縣社龜井神社・武徳殿あり。城山の頂上にて毎時鐘を鳴らして時を告ぐるは舊藩時代の太鼓番の制度を踏襲せるもの。なほ城郭内、天神小路には謡曲に

名高き種子ノ墓あり。(井上城址)大字恒富にあり。大瀬川の南端に突出し、東市に愛宕山を負ふ。一天守山と稱す。西南の本丸址は海拔六〇米、周圍一・二軒、その東に北ノ丸、西に西ノ丸の址あり、前者は高さ本丸と相伯仲し周圍〇・七軒、後者は周〇・三軒。日向古跡跡に據れば永仁五年土持國綱これを築き縣城より移り、居ること百三十三年、永享元年西階城を築き移るに及びて廢す。附近に八十八箇所の石像を祀り、また大師堂あり、風光明媚の小公園地をなす。(西南役戦跡)市の北部の丘陵、和田越より長尾山一帯は明治十年西南の役の際薩軍警備の地として知らる。薩軍は熊本の戦後、人吉・都ノ城・宮崎の戦に敗れ八月上旬長井村に據る、即ち可愛島東麓なる今の北川村の地なり。官軍は第一乃五軍四旅團を以て之を圍み、また軍艦日進・清輝・鳳翔等を以て翌日間の陸地を撃つ、その本據は長尾山の東南麓なる稻葉崎・栗山の邊にあり、山縣參軍・三好少將・野津少將等これを督す。薩軍は桐野利秋以下精銳を以て之に抗し屢々官軍を危地に陥れしが棄軍せず、遂に八月十七日夜、闇に乗じて可愛島の嶮を突破し重圍を脱し、三田井・日肥の國境を南下して鹿兒島に逃る。蓋し十五日より數日間の戦闘は本役最後の大戦たり。(愛宕公園)恒富にあり。愛宕山の東端

申前の愛宕神社を中心とする地域にして大正峰頭よりは西に高千穂の峽谷、東に四國の御角を望み、縣下隨一の公園と稱せらる。山上の林間に御手洗水神を祀り附近頗る林泉の美に富む。(今山公園)大字同富今山にあり。五ヶ壱瀧川の左岸なる運石の東端に位し、自然の風光に富み幽邃の地なり。今山神社・大師堂・西南役戦跡碑・蓬萊館等あり、また夜櫻を以て名高し。大師堂は延岡大師と稱し、今山神社の北隣にて、毎年陰曆三月二十一日の大祭には遠く他縣より賽者殺到し賑盛を極む。(今山八幡神社)大字同富に鎮座。縣社。祭神、品陀和氣命・息長帶姫命・玉依姫命外に合祀十一神。此地もと豊前字佐八幡宮の神封なれば天平勝寶三年に同宮をここに勧請せらるに創まると云ふ。治承四年、領主土持榮綱は宇佐神社に準じて社殿を再興し爾來累代の領主なる土持・高橋・有馬・三浦・牧野の諸氏相繼ぎて厚く崇敬し、内藤氏に至りて遂に領内守護の鎮守と改む。明治四年廢藩置縣の頃に村内の小祠を此處に合祀し郷社に列し、のち縣社に昇る。例祭、十一月二十三日。(安賀多神社)大字同富に鎮座。縣社。祭神、大日靈貴命・手力雄命・高橋姫命外に相殿四柱。美老元年頃には同富村字今山に鎮座せしも、天正四年大友宗麟の亂に遭ひて社殿・舊記を焼失しその由緒を明かにせず。寛永元年に領主有馬直純

は再建して現社地に遷し、神明宮と稱し領内鎮守となす。明治六年五月縣社に列すと共に現社址に改稱す。祭神の大日靈貴命は天照大神の別名、高橋姫命は高橋豐秋津師比賣命の略名にて一に携籠千々姫・携籠姫とも云ふ。例祭、十二月十六日。(龜井神社)大字同富に鎮座。縣社。祭神、菅原道真外一神。合祀、内藤家長・内藤元長。舊稱天滿宮。正保三年有馬直純の勸請、享和年間、延岡藩主内藤氏祖先家長とその子元長を合祭し延岡城の鎮守となす。例祭三月二十五日。(栗野名神社)大字栗野名に鎮座。縣社。祭神、太玉命・天細女命・事代主命・磐長姫命。古來當地の産土神たり。例祭十一月二十四日。(恒富神社)大字恒富に鎮座。縣社。祭神、天兒原根命・武徳祖命・齋主命・源大神等八柱。美老二年の勸請と傳へ、もと春日明神と稱す。中世以來、領主土持・高橋・有馬・三浦・牧野・内藤等諸氏の崇奉變らず。例祭、十二月五日。(三須寺)北町にあり。淨土宗知恩院末。慶長十九年有馬直純が肥前高來より移せしものにて、縣廳意上人を開基とす。延享以後は内藤氏の菩提所たり。境内に有馬直純・内藤家長の墓あり。(靈雲寺)北小路にあり。曹洞宗。萬歲山・美老三年美領和尚の開基といふ。高橋氏、次いで有馬氏の菩提所にて、明治

維新までは東白井郡四十七箇寺を管せる名刹なりき。
(出北観音堂) 出北にあり。...

ノヘシ 野邊地

【野邊地町】青森縣陸奥國上北郡の中部。西は東津輕郡に隣り、北は野邊地海に面す。野邊地海に沿ひて幅約三軒の狭状をなし、面積八一・七六方軒。...

馬門は舊奥州街道の馬門宿にて、神明町に野邊地城址あり、慶長十三年、日戸内勝秀恒この城代を命ぜられ、寛文四年より代官を置きたり。...

ノヘシ 野邊山

【野邊山】青森縣陸奥國上北郡の中部。東部の野邊地海に二分す。野邊地海の東岸は下北半島の頸部にて北方には大津海の小海入あり。...

ノヘシ 野間

【野間村】愛知縣尾張國知多郡の西海岸。内海町の北に接し、東は河和町に界し、西は伊勢海に面す。東部及び南部は一〇〇米以下の丘陵起伏し、其間に細き谷が樹枝状に開け西部は平野なり。...

ノヘシ 野間

【野間村】京都府丹後國與謝郡の西北部。奥津半島の中央に位し北及び西は竹野郡に隔まれ西南は僅に中郡に接す。...

ノヘシ 野間

【野間村】京都府丹後國與謝郡の西北部。奥津半島の中央に位し北及び西は竹野郡に隔まれ西南は僅に中郡に接す。...

ノヘシ 野間

【野間村】京都府丹後國與謝郡の西北部。奥津半島の中央に位し北及び西は竹野郡に隔まれ西南は僅に中郡に接す。...

【野間村】京都府丹後國與謝郡の西北部。奥津半島の中央に位し北及び西は竹野郡に隔まれ西南は僅に中郡に接す。...

【野間村】京都府丹後國與謝郡の西北部。奥津半島の中央に位し北及び西は竹野郡に隔まれ西南は僅に中郡に接す。...

【野間村】京都府丹後國與謝郡の西北部。奥津半島の中央に位し北及び西は竹野郡に隔まれ西南は僅に中郡に接す。...

【野間村】京都府丹後國與謝郡の西北部。奥津半島の中央に位し北及び西は竹野郡に隔まれ西南は僅に中郡に接す。...

平安南道大同郡山面にあり。

ハイシ 拜志 山城國(京都府)の古地名。和名抄に紀伊郡拜志郷あり、波以之と訓す。その地はいまの京都市伏見區深草の邊に當る。

【拜志村】愛媛縣伊豫國浪島郡の南部。松山市の東方の約七村に位し、南は上浮名郡に界。南境には四國山脈、風嶺(二七二米)・上林峠(一〇六五米)等東西に連り、それより西北方へ延びる山脈は東西兩境を隔る。北部は松山平野の低地を占め、北境には重信川西流す。米の産多く、米・麥も産す。社説伊豫鐵道福河原驛へは北方約二村にして無道通す。此地は古くは拜志郷に作り、和名抄に浮穴郡拜志郷と見ゆるはこれとす。

ハイシマ 拜島村 東京府武蔵國北多摩郡の西南隅。八王子市の北約六村。西は西多摩郡、南は南多摩郡に境す。西境近くは秋川を流れ多摩川は西南部に東南流す。川の南岸には一七一米の山あり、北岸は低平にして水田・桑園拓く。養蠶業は最も盛んでして、米・麥の産これに次ぐ。社説青梅電氣鐵道が通じて拜島驛(明治二十七年設置)を置き、こゝにて省線八高線及び社説五日市鐵道と接続し、從者に南拜島驛(昭和五年設置)を置く。この地は近世に拜島領に屬す。夏し村名は領名の遺稱なるべし。永祿十二年、武田信玄が北條氏照の

居城なる細山(八王子城)を攻むる時に本陣を置きし所なりと云ふ。

ハイシヨ 梅松面 朝鮮京畿道水原郡の北部に位置し、郡邑水原の西方約一〇村にあり。中部に二三五米を最高とする丘陵群は、周縁は比較的

低平、殊に西部の沿海地方は地味肥沃にして耕地よく發達す。農産物の主なるものは米・小麥・粟・稗・大豆・生牛・家禽等にして、鶏卵の産亦多し。南部に社説朝鮮京畿道水仁線通じ、これと時々並走して水原・南陽間の三等道路東西に横斷し、交通比較的便なり。聚落は主として海地の周縁に分布し、南部の院坪里を主邑となす。

ハイズミ 羽和泉村 廣島縣備後國御調郡の西北隅。三原市の西北約六村にあり。北及び西北は世羅郡に隣り、西より市にかけて豊田郡に界す。西北部より西部及び中央にかけて四五百米の臺地狀の丘陵起伏し、南隅及び東より東北隅にかけては小丘陵あり。低地は東部に稍南北に連れる極端なる形状の淺き谷ありて南部の低地と連絡す。農産物最も多く工業・林産・畜産あり。東隣久井村に出づれば縣道走りて三原市及び東北方の甲山町へ入るの便あり。明治二十二年、羽倉・和草・泉の三村を合して羽和泉村と名づく。

ハイセツ 掘接堡・掘接庄 臺灣臺北平野の南部なる新庄・大興庄(淡水河

上流)兩溪間一帶の舊縣名。海山郡の板橋街・中和庄・十城庄各全部に、臺北市の東園町の一部(もとの加納子)及び新莊郡無莊街の西段を合したる地域が之に相當す。掘接なる稱呼は、もとの地域に古居せし平埔部族がイチャイ社に宛てたる近音譯字なり。清領時代に立てられしより我が領臺後、依然存留せしが、大正九年地方制度改正に依りて廢せられ、前記市街庄に分割せらる。なほ同堡は臺灣府志(舊修)に掘接庄と見ゆ。

ハイセン 社 臺灣高雄州旗山郡にある舊社。臺灣漢の舊城にあり。タオヲ族四社番に屬する高砂族の部落。

ハイセン 沛川 朝鮮江原道通川郡龍川驛(昭和六年設置)あり。

ハイタ 林田 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に青東郡林田郷あり、その地は津山市の内なるべきも詳ならず。

【林田】(讃國(香川縣)の古地名。和名抄には阿野郡に林田郷あり、波以多と訓す。その地はいまの讃國郡林田村の邊に當る。

ハイダテ 佩橋山 九州山脈の一峯。大分縣大野郡三重町と南海部郡尾尾村との境上に位す。標高七五四米。山體秩父古生層より成る。峯頂は二分し、峻峯を時たしむ。山腹は互杉の原始林を以て掩はれ、また山中に鬼つづき等多く、高山

の風景を有す。山頂よりは東方白井灣の島々、南方大分・宮崎縣境の山嶺を一時に收む。この山の南麓に當る三國峠は、西南の役に薩南男子の死守して遂に敗れし古戰場なり。登山は西方の三重町の豊肥本線三重町驛より松尾部を經て行はる。

ハイツキ 波比郡奇能可波・延槻河 越中(富山縣)の古川名。萬葉集卷一七に「新河郡波比延槻河時作歌一首 立山の雪し來らしも延槻河の波瀾あぶら浸かす」と見ゆ。いまは下新川の魚津町の南にて海に入る早月川の古名なり。

ハイテン 梅田面 朝鮮慶尙北道清道郡の中部東隅。郡邑清道の東方約五村。周縁花崗岩質山地を以て圍繞す。即ち北境には城山(六九七米)・仙義山(七五八米)・龍角山(六八七米)、南部には九萬山(七八五米)・龜山城等の高峰峻嶺重疊し急傾斜を以て城内に下り、南部を沿東江支流の東倉川東北・西南に貫流して沿岸低地に低地を見る。産物は米・大豆・大豆・棉花・檀草等にして、特に大豆は品質・量共に郡中の優位にあり。また紙・綿布・生牛等の産あり。道路は中部に清道・慶州間三等道路東西に通じ、東倉川に沿ひては梅川へ出づる路線あり、いづれもバスを運ず。聚落は主として東倉川沿岸低地と北部の山間盆地とに分布し、東倉川右岸の東倉は面色にて金礦粗

合・市場等あり。

ハイヌズカ 羽大塚町 福岡縣筑後國八女郡の西部。筑紫平野の一部を占め、久留米市の南方約五村にあり。地形低平にして南境には筑後川の支流西流す。田畑よく發達し、東北部には耕地の間に所々に森林地あり。東部には桑園多し、縣道南部を東西に貫きて四方三浦郡大川町と東方福島町とを結び、之と交叉して東部には南北に走る縣道ありて久留米市と山門郡高瀬町とを連絡し、之に沿ふ東南部に街村聚落あり。省線鹿兒島本線その西を通過して羽大塚驛(明治二十四年設置)あり。また社説南筑鐵道の羽大塚・山ノ井二驛を設け交通便なり。この地は和名抄、上妻郡野野の内なるべく、大正四年町制を布く。八女工業學校・八女中學校・馬政局農事試驗所九州小形試驗地あり。(鴨野神社)大字野野に鎮座。祭神、伊弉諾伊弉之男命、熊野速玉之男命。創建年代詳かならず。慶長年間當國の領主田中兵部大輔再興し社領三百五十八石を寄す。ついで有馬氏累代崇敬し、同領の社領を安堵す。例祭、陰曆十一月一日。

ハイハラ 植原牧 延喜式左馬寮式に見ゆる信濃國の牧の一。その地今の長野縣東筑摩郡廣丘村大字植原なるべし。

ハイハラ 植原 靜岡縣十三郡の一。遠江國の東部に位し、大井川右岸一帯の地を占む。

ハイヌ 八ハハ

ハイヌ 八ハハ

東は大井川を境に駿河國志太郡に、東北は白根山脈を境に同安倍郡に接し、北端は信濃國下伊那郡に、西は赤石山脈により周智郡・小笠原郡に界す。面積六五六・八一方村にて南北に狭長なる地域なり。郡内山岳叢生し大井川は東境を屈折して南下す。平地は東南部下流に沿ひて幾分開く。北部山地は森林雲茂し木材・薪炭を主産とし、南部平野には米、丘陵地帯には茶の産多し。また大井川上・中流の各に沿ふ山村は養蠶を主とし、川根茶の産亦多し。海岸の相良・川崎兩町は漁業の中心地にて鰯・鯉その他漁獲物の集散地なり。大井川中流に沿ふ金谷町は對岸の志太郡島田町と共に木材の集散、製材盛なり。東海道及び省線東海道本線は郡の最狭部たる金谷町附近東西に横斷し後者の金谷驛あり。之より北方へは社説大井川鐵道の便あり、上流上川根村千頭を終點とし、更に之より奥へ林川鐵道を運ず。また南部には相良・川崎を經て志太郡藤枝に至る社説藤枝鐵道通す。郡内金谷・川崎・相良三町十三ヶ村を含む。神紀天平十五年紀に郡名見ゆ。和名抄は波伊波良と註し、實良・栗原・大江・細江・船水・藤田・相良の十郷および神戶一、藤家一を管す。もと藤原に作りしも近世に改め藤原に作る。明治十二年、大井川左岸の地を駿河の志太郡に移し以て今日に至る。

【藤原町】奈良縣大和國宇陀郡の西北部。

【藤原町】奈良縣大和國宇陀郡の西北部。

【藤原町】奈良縣大和國宇陀郡の西北部。

松山町の東北に接し、西は磯城郡初瀬町に、北は山邊郡に界す。四圍は山地を繞らし、東南境には伊那佐山(六三三米)あり。北境には鳥見山(七三三米)・貝ヶ平山(八二二米)・額井岳(八一六米)等連る。宇陀川は南方より來りて南部を北流し、西南方より來る支流を入れて中部にて東折し、東隣内牧村に出で、再び東北郡に入り來りて東北流し、三本松村に出づ。米・麥・黍の農産及び賣藥あり。中部に市街地發達し、道路は之より北へ笠置街道、東北へ名張街道、西へ奈良街道等派出し、また南方松山町へ至るもの、東南方宇太町へ出づるもの、及び宇治山田町へ向ふもの等あり、且つ社説參宮急行鐵道(昭和五年設置)ありて、交通便なり。明治二十六年町制を布く。本町と初瀬町の間に墨坂あり、神武天皇御東征の舊蹟なり。(墨坂參照)書紀神武天皇の四年に天皇靈跡をたてて皇祖天神を祀り其地を名づけて小野村と稱し給ふとあり。その小野村は本町なりとの説あるも、其地は磯城郡城島村大字外山の地なるべし。大字兩師は神武天皇大和御平定の際、天神地祇を祀り馳捷を祈られし荒川朝臣の地なりといふ。大字福地の字は延仁天皇の朝皇太神宮の伊勢に鎮座しますとの間、諸所に移らせ給ひし頓宮の一なる延祖頓宮のありし處。かくの如く上代より知られたる地なり。(宇太水守神社)大字下井足に鎮

座。祭神、天水分神・國水分神。式内社。中世以降は大いに衰微し社僧を以て神事を勤む。のち近郊十村の氏神となる。例祭、十月二十一日。(墨坂神社)大字藤原に鎮座。祭神、墨坂神。その創祀は墨坂紀に「九年春三月甲子朔戊寅、天皇夢に神人あり、之に語へて曰く、赤橋八枚赤赤八等以て墨坂神を祀り、墨橋八枚黒黒八等して大坂神を祀る云々」と云ひ、これ勸祭の始めかと思はる。古記・傳説によれば、當社は文安六年に墨坂申天の森と稱せる所より現地に遷座せしもの、如し。併して天の森は之より靈跡となり當社遷宮後に小祠を經營し上の森と稱せり。その意は當社舊宮の餘材を以てするを指し、例祭、十月二十八日。(橋下神社)村社。祭神、高倉下命。式内社。例祭、九月二十八日。(宗新寺)大字藤原にあり。融通念佛宗。佛涅槃圖三幅(絹本唐紙)。多間天立像(木造)一軀は國寶なり。

ハイハラ 藤原 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に藤原郡藤原郷あり、波以八良と訓す。その地今の藤原郡金谷町の邊か。

【藤原】阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄には美馬郡藤原郷あり、波以波良と訓す。その地今の江原郡・穴吹町の邊に當る。

ハイハラ 社 臺灣臺中州龍巖郡にある舊社。ハイハラ山の南方北港橋左

【藤原町】奈良縣大和國宇陀郡の西北部。

岸なる丁字山西北方山脈の標高約五〇〇米の地に位置す。...

ハイホー 梅浦

【梅浦】朝鮮忠清北道丹陽郡の北西部に位置し、郡邑丹陽の北五軒餘にあり。...

ハイホー 排方面

【排方面】朝鮮忠清南道牙山郡の東部に位置し、郡邑温陽の東部に隣接す。...

ハイホー 葉枝見村

【葉枝見村】滋賀縣近江國愛知郡の西北部、愛知川河口の右岸を占め、南に川を隔てて神崎郡に界す。...

ハイホー 芳賀

【芳賀】出羽國(羽前國、山形縣)の古地名和名抄に最上郡芳賀郷あり、その地今の東村山郡高橋村の邊に當る。...

ハイホーハカタ

には東北部に曲橋川流れて、謂ゆる牙山平野の一部を成し土地低平にして灌漑の便よく、水田耕作に便する。...

ハイホーシ 鶴帽子峠

【鶴帽子峠】飛騨山脈西一支脈たる巻越山塊を乗越す峠の西谷村との境上に最高點(九七八米)を置く。...

ハイホー 梅陽面

【梅陽面】朝鮮黄海道瑞興郡の東部に位置し、郡邑瑞興の東方約一〇軒にあり。東境には春光山(五二二米)ト喬山(五七六米)等相連り、南部には高龍山(四八五米)屹立し、城内殆んど山地にして中央を流る瑞興江に沿ひ僅かに低地を見るに過ぎず。...

ハイホー 梅林村

【梅林村】本縣肥後國玉名郡の東部、高瀬町の東方約二軒にあり。東部には東境及び其西に三八〇米餘の丘陵西北より東南に連りて山地をなし、西部は平坦なる低地開け、菊池川支流は西南部を西北流し西隅にて本流に合す。...

ハイホー 蔓田

【蔓田】播磨國(兵庫県)の古地名、和名抄に名可郡蔓田郷あり、刊本は蔓太に作るも高山寺本により訂す。その地今の名可郡野間谷村の邊に當る。...

ハイホーハカタ

パウモリ

【パウモリ】社 臺灣臺東廳にある蕃社。オオトン山北方太麻里溪流域に位置し、パイワン族の太麻里番に属する高砂族の部落。...

ハエ 八重岳

【八重岳】鹿兒島縣霧島郡久島の中央に聳ゆ。九州地方の最高峯宮之浦岳(一九二八米)を始め、水田岳・黒味岳等三峯に分れ、山姿秀抜、山頂四時白雪を戴き初夏なほ残雪を見る。...

ハエ 飯江村

【飯江村】福岡縣筑後國三池郡の東部大牟田市の東北方約七軒に位置し、北と東は山門郡に境す。南部大半は丘陵をなし、矢部川の支流飯江川が東北境と北境に沿ひて西北流及び西流し、沿岸に平野開く。低地は田畑よく拓け米多産す。...

ハエノサキ 南風崎

【南風崎】大村線の一驛。(明治三十一年設置)長崎縣東彼杵郡宮村にあり。...

ハエバル 南原村

【南原村】沖繩縣島尻郡の北部、首里市の東南に接す。村内丘陵起伏して概ね山地を成すも、南境及び中部を何れも西流する二小流ありて、其沿岸に低地を見る。主産業は農にして専ら甘蔗・甘蔗を栽培し、また製糖業行はれて年二十萬程度の産額をあぐ。...

ハエバル 博土山

【博土山】群須火山帯の一峯。島根縣大浜郡東川村・中ノ川村・昭和村、尾松村の四村境上に跨る。標高一四八二米、山體輝石安山岩より成る。...

ハエバル 伯方島

【伯方島】愛媛縣越智郡に属する島。瀬戸内海瀬田諸島中の一にて、高瀬半島尖端の東北に横たわる大島の北方に位置し、西は鼻淵瀬戸を隔てて大三島に對す。北は在口島を控ふ。全島山勢にして平地に乏しく、海岸は海崖をなす部分多し。田は僅かなるも、畑の面積は大にて...

ハカタ

傾斜地よく利用さる。畑作としては甘藷の栽培多く、その他に紫煙草・除蟲菊・西瓜などの栽培も行はる。また蜜柑を産す。水産方面も多少活動するも漁獲高は餘り多からず。東北部の海岸には鹽田ありて鹽を産す。行政上、東伯方・西伯方の二村に分れ、前者の特色を木の浦と稱し、小市街地を形成し、地方航路の汽船寄港す。

ハカタ 伯多 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に備前郡伯多郷あり、その地名の御調郡上川邊村の邊に當る。

ハカタ 波方村 愛媛縣伊豫國越智郡の北岸。波止濱町の西北に隣り高嶺半島の北端を占む。南部を除く外は瀬戸内海に囲まれ全村高嶺半島の北部に突出せる半島狀の地域をなす。一三〇米程度の丘陵地帯に起伏して山脚海に迫り、北部には大角島が尖塔狀に北方へ突出し、西北部に唐津崎・梶取ノ鼻・御崎ノ鼻・龜掛ノ鼻等を繞らす細長半島長く海中に延ぶ。低地は西北部半島の頭部及び東南方波止濱町海岸より傾き、本部の東隅にある丘陵を西に繞り東北部海岸に終る低地稍々著し。前方遙か海上には大崎下島・上島・岡村島・大下島等を始め大小の島島散在す。米の産多く多・圃の外また鰯卵あり。南部には熊道東西に走り波止濱町とその東南隅の今治市へバスを通ず。波止濱町の東島(大字東島)小島等の島嶼岩礁及び同大字波止濱より本村大字波方

四〇〇

濱の海濱にかけて波止濱と呼び風光頗る佳にして名勝に指定さる。
ハカタ 博田川 石川(大阪府)
ハカタ 博多 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に新治郡博多郷あり、その地今の眞壁郡河間村の邊に當る。
ハカタ 博多 福岡市の一部。福岡市は那珂川により二區に分たれ東を博多、西を福岡とす。博多港に臨み福岡市の商業地域にして、省線鹿児島本線の博多驛(明治二十二年設置)を置き、省線筑肥線の起點となり、九州郵便航路に連絡す。往昔の博多は今の福岡市及びその附近の地を含み、古くは那津・那大津・冷泉津・石城の名を以て呼び、漢書は福家臺・八角島と書す。博多は古き歴史を持ち、西國の商業地、海外貿易地として、また國防施設のある都府として、難波津にも劣らぬ歴史を有す。博多の歴史を詳めるに、かの後漢書倭國傳に倭國の都といふもの地ならんと思はる。當時肥前國松浦に上陸し大倭國に向ふ支那人が、末羅國・伊都國よりこの倭國を經て大津といひし向へり。博多を太古に經て大津といひし合せ考ふべきなり。太古より朝鮮・支那の商船等が寄港し、また九州地方の人々がこの津を中心として彼地に往來せしものと思はる。この地に倭産せる住吉の神

豆類・豆類・木材等を輸入し、石炭・揮發油・地下足袋・金屬・煙草などを移出し、鮮魚介・金屬・木材・朝鮮米を移入す。
【博多海運鐵道株式會社】 社址 博多港岸にあり。福岡縣糟屋郡志賀島村の西戸崎驛より省線鹿児島本線の香椎驛(同香椎村)を經、同字美町の字美驛に至る二四・七軒と同仲原村の酒蔵驛より同須藤村の旗石驛に至る二・九軒及び、宗像郡津屋崎町の宮地敷驛より糟屋郡和自村の和自驛にて前者と交叉し、福岡市の新博多驛に至る二三・一軒より成る。軌間一・〇六七米。動力は蒸氣・電氣・ガソリン。會社と運送運輸す。
【博多大津】 福岡市
ハガネ 羽金山 香振山塊の一峯。福岡縣糸島郡長糸村と佐賀縣小城郡北山村との境上に在り。標高九〇〇米、山體は花崗岩より成る。福岡縣側にては獅子舞岳とも云ふ。
ハカマゴシ 袴腰 〔袴腰山〕 富山縣東礪波郡上平村と南山田村との境上にあり、標高一六三米。山體は第三紀層より成る。北東方は矢部川上支山田川の水源地をなす。東北麓に小瀬峠・細尾峠最高點連り、西南麓に三方山・猿ヶ山嶺。
【袴腰山】 黒山(鳥取縣)
バカリ 社 臺灣新竹州大湖郡にある神社。大湖庄の東北方淡水溪右岸

ハカタ

は頗る古き神にて、仲哀天皇が熊襲征伐のため福日宮に行幸あらせられし時、征韓をお薦めせし神はこの神ならんと思はる。この時、熊襲といふ行政區名が書紀に出て、今の博多がこの熊襲の都府と見らる。齊明天皇の西征の時、長ノ津と改めらる。此頃までは西國の都府にして貿易港とのみ見らる。太宰府の建設せられし以來はこの都府が國防地帯として武装せしもの如し。貞觀十一年太宰府權小貳坂上護守の奏上にも「博多是關國轉輸之津警固武備之要」とあるにても知ることを得。警固所筑紫營大津城の名も見ゆるより相當の武備ありしもの如く、石疊も古くよりこの地を中心として築かれしものと思はれ、また外客接待のため博多鴻臚館も設けられ、太宰府の都城の津口としての施設は、恰も京都の浪華津(大阪)の關係の如きものあり。遺跡雖も遺唐使等もこの地に寄泊せしことは萬葉集にても了知せらる。かゝる地なりしため韓史・支那史書にもその名記さる。新羅朴堤上がこの地にて殺されたることなどは韓史に載せられしも周史には見えず。要するに朝鮮・支那に對する重要な策源地なりき。太宰府の武備衰へるにつれ、此地の武備も衰へしも、天慶の亂の時韓史のため博多の地荒され、右近衛少將小野好吉は陸上より、藤原隆聖・大藏卿實は海上より攻撃し遂にこの地に純支を破れり。また蒙古襲來

と八卦刀石岸山腹の標高約四五〇—〇〇〇米の高所に在りしれども、一般に傾斜にして農耕よく行はる。サイセツト族の淡水蕃に屬する蕃社なり。
ハカワン 社 臺灣新竹州大湖郡にある神社。ガオン溪上流左岸の標高約九〇〇米の急峻なる地に在り。種族はアマヤル族のサオガン蕃に屬する高砂族の部蕃なり。
バカン 馬韓 朝鮮の古國名。三韓の一。朝鮮の韓民族が建てし國の一にして北は漢の樂浪郡に接し、西・南の二方は海に面し、東は韓韓・辰韓に隣り、今の京畿・忠清・全羅の地方に當る。統一せる國家をなさずして部落的の小國なりしも、三韓中最も大なりしといひ、凡そ五十三國に分たれたり。「魏志」によれば、馬韓の民は土著して鬻鬻を知り、織布を作り、草屨の土質を作りて住み、一家ともその家に住み、長幼男女の別なく、葬には棺ありて葬なかりき。環珠を以て財寶となし、金銀銅鐵を珍とせず。その性は強勇にして、鬻を結び冠をつけず、布袍を着て足に革を履く。國中に事あれば年少勇健なる者出て之に當る。五月下種を終れば、鬼神を祭り群聚して歌舞飲食し、十月農功畢れば、また同じく遊樂せりとあり。以上の如き狀態にて、西紀前一八八頃その地に濊蕃が百濟國を建設せり。
バカン 馬關嶺

ハカタ

のときこの地は戰場なりき。沖濱の名この地に見ゆ。北條氏執政の時館は一時的の地にありしが郡領の名が記さる。北條英時経濱の館に居りしを肥後國菊池武田攻めんとして博多に出陣し戦ひ、街衢兵火に罹りしことは正慶亂離志に詳かなり。足利時代の博多津を語るものは老松堂日本行録あり。これは明の永樂十八年受命(應永二十七年)我が國に來たりし韓使の紀行なりしが、朴太の文字を用ひ、筑紫郡廻漕川義俊の名この地に見えまた承天寺・妙樂寺・斷過寺・金福寺、盛願寺等の名見え、同書に「朴太の地城なく夜々賊起りて人を殺す追捕するなし」とあるより、無警の狀態を察知せらる。下りて戰國時代となりて小貳・大友兩氏がこの地を分領し、小貳氏は西南四千餘戸、大友氏は東北六千餘戸を領せり。ついで大内氏の勢力この地に及びしことあり。かく戰國を畫ひしもの、外國貿易は依然盛んにして海外諸國の船が來航せしものと思はる。豊臣秀吉西征の際、天正十五年六月七日博多に著し、南港の職に宛らされしを痛み、こゝに新に都府計畫を建つ。これにはかの宗藩の力が與かりて力ありしものと思はる。いまだ同地豐國神社には天正十五年博多町割間社が設けられしが、以來、博多は商人街となる。關原役後、黒田長政政前五十二萬石を領し福岡に築城せしより、福岡は侍の住居を主とし、中島橋を距てて

【馬關】 下關市
【馬關海峽】 關門海峽
バカン 馬關嶺 朝鮮慶尙南道固城郡の略中央に位置し、郡邑固城の北方約五軒にあり。西に蓮花山、南に琴井山の諸峰聳えて西南部は一帶に山地を成せども漸次傾斜し、東北部には稍さき低地横はり、殊に御海の支海會津浦に臨む一帶は低地をなす。沿岸は淺淺にして漁業・交通共に天惠を受くること少なし。産物には米・大豆・大麥・雜穀・生牛・牛皮等あり。道路は南方固城より東北方の馬山府に通ずる二等道路東部を縱貫し、乗合自動車便あり。支線として東西横斷路あれども等外線にして車を通ぜず。交通便ならず。
バガン 島 Pagan I. 南洋群島。マリアナ群島の北部にある活火山島。行政上サイパン支那に屬す。東經約一四五度五〇分。北緯約一八度に在り。全島は安山岩とその碎屑物とより成り、噴煙は旺盛に騰る。昭和十二年四月現在の人口一九六、うち内地人四一、島民はサヤモロ族一〇人、カナカ族四五人をかぞふ。南洋貿易株式會社のマリアナ群島線航路は年約五回寄港す。
ハキ 把木村 福岡縣筑前國朝倉郡の東南部。筑後川右岸に沿ひ、浮羽郡吉井町の東北約五軒にあり。東部は東北方に聳ゆる時倉山(四七〇米)の西南斜面をなし、西北部は米山(五九一米)の南斜面を

ハカネ

博多は商人の町となる。神谷宗湛・島井宗室等の豪面がこの地に出で、博多は商業都市として、不朽の歴史を持つ。
【博多港】 福岡港とも云ふ。福岡市の北方にある港。海岸は福岡市及び糸島・早良・糟屋三郡に亘る。志賀島と其西方に横はる玄界島及び志賀半島の北端西浦岬により湾口を扼され、東北部は瀬戸内海の砂洲により本陸と志賀島を繋ぎ灣と玄界島を距つ。灣内の志賀島の南方に殘島あり。灣内は東西約一七軒、南北五軒餘にして廣さき水深は大ならず。互船の碇泊には便ならず。沿岸には最近土地隆起せし跡あり。灣内に注ぐ多々羅川・那珂川・穂井川・室見川等は土砂を堆積し灣奥は益々水深を減す。福岡市は灣の東岸に在り、那珂川を距て、博多港・福岡港あり。河川の運搬する土砂の堆積により水深淺く、港として適さざるも大規模の築港工事をなし船舶を入る。博多港は古く那津等と稱し朝鮮・支那を始め印度・南洋等との交通貿易上重要な港津たりしも、戰國の頃よりその繁榮を平戸・坊の津等に奪はれ、江戸幕府の鎮西以來船舶の出入絶え且つ土砂の堆積のため港も淺く、明治になり那珂川と石室川の河口の間に小規模の船溜りを作り現在の博多港となり、海の中道の舟楫にある西戸崎を外港となし、外國貿易として布帛製運動靴・小麥粉・汽罐・綿織底足袋・紙類・石炭等を輸出し、揮發油・瀝油・飼料・

四〇〇

ハカネ 馬關嶺

ハカネ 馬關嶺

なす。中部には平野開けて筑紫平野の東...

ハギ 萩 萩市 山口縣北部の都市。王政復古運動の一發祥地にして、また夏橙の本場として著る。東經一三一度二十四分、北緯三十四度二分に位置し、北は日本海に臨み、東と東南は阿武郡大井村・福川村・川上村・明木村に、南は美濃郡赤松村に西は阿武郡三見村及び津和野三隅村に接す。東西一廿一、南北一八、面積七九、三四方町。人口三萬餘。東・南・西の三面を山に圍まれたる形勢の地にして、鹿骨ヶ坂・松木峠・猪ノ熊峠等の険ゆる四峠によりて他地方との交通は行はれ、明治維新の志士等が評議せし、この隘路を越したる地理的環境によるを思はしむ。市の西南部なる山田區・梅區の大部分は白雲系の山地にて、市境の嶺ヶ岳(六一六米)は最も高く、その山趾の一は正北に走り...

後には寒暖二端の影響を受くるを以て夏日本中最も温和なる地域に属し、平均気温十七・四度(最高三五度、最低零下二・五度)。最近五ヶ年間の平均降水量一六九一に於て、積雪も、豊饒に過ぎず。産業は農業及び水産業を主とし、商工業は未だ甚だ盛なりと云ふべからず。いま職業別戸數に據りてその趨勢を見るに、昭和十年現在に於て農業一六八九、水産業一〇五六、工業三七八、商業二七三〇、交通業五七、公務自由業四〇六、其他有業者二九六、無業五四八の數字を示す。而して市の生産總額は六百萬圓に近く、水産物はその五八%を占め、工業物・農産物等は之に次ぎ統計は總て昭和十年)

萩市生産額表

丸太および割材類(一三萬圓)・食料品(五萬圓)・その他、竹材・炭化石灰・夏橙等を主として計五七四、〇八七圓を示し、大連港を第一として滿洲・中華民國の諸港へ輸出せり。昭和十年の國勢調査に於て、現住人口逐年比較(一)

現住人口逐年比較表

丸太および割材類(一三萬圓)・食料品(五萬圓)・その他、竹材・炭化石灰・夏橙等を主として計五七四、〇八七圓を示し、大連港を第一として滿洲・中華民國の諸港へ輸出せり。昭和十年の國勢調査に於て、現住人口逐年比較(一)

杉丸太と共に滿洲・朝鮮方面に輸出せらる。その他木炭・竹・竹皮・松茸等を産す。工業は醸造・製材・鑄造・織工及び化学工業に於て工場工業行はるる規模未だ大ならず、工業額は清酒・焼酎の三七七萬圓最も多く、履物の二六萬圓、其他挽物・曲物等の木製品や若はれ、魚鱈(八萬圓)・サレシ油(一萬圓)・蝸・竹・炭(六萬圓)・陶磁器(二萬圓)・木製玩具(三萬圓)等は特産として挙げべく、その他糖漬・清酒飲料・靴・機械・造船等あり。陶器は萩(一)に高麗製また松本製と稱し、文藝年中毛利輝元に従ひて來朝せる高麗歸化人李敏が唐人山鹿の松本において製せしを創始とす。水産業は古くより發達し、近年は機船底網漁業及び大網漁業・鰯回付漁業等の定置漁業も盛んにして經營の合理化行はる。沿岸漁獲物は鰯・鯛・鱈・鮭・鱒・鱈・鰻・烏賊等を主とし、九七萬圓、遠洋漁獲物は鰯・鱈・鰻等を主とし二〇〇萬圓あり。水産製造は清鮮(三八萬圓)が第一とし、鰻・若布・鰯ひれ等を主とす。商業は行政の中心山口に移りてよりやや衰退し、僅に農産物・漁獲品等の集散地として命脈を繋ぐに過ぎざりしが、昭和四年山陰線全通し、道路完成・港灣修築等と相俟つて物資の動きは頓に活況を呈するに至れり。取引市場は濱崎・越ヶ濱・玉江の三箇所に生魚市場あり水揚高九五萬圓に上り、其他東田町に青果市

場、香川津に家畜市場あり。その取引高前者は八萬圓、後者は七萬圓を算す。金融機關は百十銀行・長岡銀行を主とす。省線山陰本線は海岸及び阿武川筋に沿ひて市内を貫き、山田區に玉江驛、梅區に萩驛、梅東區に東萩驛(以上各驛とも大正十四年設置)あり、萩・東萩兩驛において山口市を繋ぐ省營自動車防長線と接続す。道路は唐橋町を樞軸として縣道・市道四通し、小郡・三谷等へパスの便あり。また市乘合自動車には萩驛・越ヶ濱線と玉江驛・松本線の二線あり各線發着時間と連絡をとり、萩港は昭和二年の開港にかゝる指定港灣にして、朝鮮大連・北海道及び北鮮・東京間を航する定期船の寄港地たり。なほ松本川は改修よく行はれて舟楫を通じ、萩港より河へは總會運河を通ず。鐵道による貨物は移出にありては夏橙・木炭・水産物等多く、移入は石炭・肥料・米・セメント等を主とす。萩港の輸移出入は總計四八六萬圓に達し、うち移出は夏橙(九〇萬圓)・丸太類(六六萬圓)・竹材(一〇萬圓)・鹽詰(一一萬圓)・その他、雜貨・帽子・米・清酒等にして計二四三萬圓、移入は鹽油(三八萬圓)・其他油類(三八萬圓)・鮮魚介(一五萬圓)・針金(一七萬圓)・除虫菊(七萬圓)・雜貨などを主とし計一八五萬圓、而して移出先は朝鮮の各港を第一とす。また外國貿易にありては輸入はな

南・周布政之助・野村靖・長井雅樂・桂太郎・村田清風・曾根龍助等の舊宅地、澤宮高嶺地等の史蹟地帯に遡る。市役所・區裁判所・税務署・大藏省預金部出張所等の諸官衙は、本區に置かれ、其他縣立の中學・高女・兩校及び圖書館・市立商業學校・商工會議所・市立堀内病院・防長日報社・長州新聞社並に銀行會社等あり。梅區と山田區とは何れも橋本川右岸にあり、梅區の梅町・金谷・神原・難式町等が市街地をなし、山田區の玉江浦が漁業の中心をなす外は山林多く、之に反し松本河右岸の梅東區は、萩港を控へて市況最盛にして、税關支署等あり。また松下村塾址・反射燈を始め玉木文之進・穴戸磯・伊藤博文・來原良藏等の舊宅地、吉田村塾・松浦松淵・品川彌二郎・三浦梧村等の誕生地その他の史蹟多く、總々濱の明神池また著名なり。市に萩市觀光協會あり事務所を市役所に置き、また史蹟巡り遊覽パスありて遊覽者の利便を圖る。

〔沿革〕 此地は和名抄、阿武郡梅木郷の地。梅木また梅と書す。而して現在の市の中心は古く島と呼び、いま萩區南部に川島の地名あり、天正の頃より萩と稱し、また萩津浦・萩浦などとも呼ぶ。蓋し萩の名は梅の轉訛ならん。久しく漁村たりしが、慶長五年毛利輝元、封を此地に受け周防・長門の二州を領し、指月山下に城を築き市街を經營し、爾來幾多の變遷を経て藩内第一の都邑となる。かくして城東の堀ノ内には上士の武家屋敷並び、その東松本川に沿ふ邊に下級侍屋敷町あり、其他市區井然として見るべきものあり、當時の町割配置は大体に於て今日まで維持せらる。輝元より後二百六十年間毛利氏の城下町として榮えしが、文久三年毛利敬親の居を山口に移すにおよび、一時衰微にむかふ。江戸時代末期に至るや維新同天の策源地となり、勤王殉國の志士を輩出し、その遺跡また甚だ多く、今日史蹟名勝として指定保存せらるもの多からず。此の間、慶應元年に幕府再度の長州征伐の軍を起すや、奇兵隊は藩の守護を弁へんとして市を襲撃せしむ、禍害大ならず。長兵却つて幕府軍を諸所に破り、幕府崩壞の遠因をつくれり。明治四年廢藩置縣に際し山口縣廳の支廳を米屋町下り筋に置き、同七年これを廢し、藩政時代に設けられし元町奉行所及び當島寄附所の管下なる町村に大小の區制を布く。明治九年十月、前參議前原一誠は時勢を慨し、奥黨二百餘人を明倫館に會して兵を擧ぐ。縣令關口隆吉山口分營の兵を率ゐて此處に迫り、一誠等防戦、市街に兵隊を見、十一月島島親軍司令長官少將三浦梧村の軍、軍械二隻と呼應して之を攻め、同六月萩陥落し、風平らぐ。明治二十二年四月、町村制施行、萩町は梅東東分村・梅西分村・山田村と共に自治體となり、大正十二年四

月萩町及び梅東村(もと梅東東分村)・梅村(もと梅西分村)・山田村を合併して萩町を置く。次で鐵道の開通及び日本海に於ける開港場となる等により町勢伸張し、昭和七年七月、萩町を廢しその區域を以て萩市を置き今日に至る。〔萩城址〕 萩區堀内にあり、毛利氏の居城にして、古への阿武郡川島庄指月山の地、一に指月城と稱す。慶長五年關ヶ原役後、毛利氏は防長二州三十六萬石餘に割封されたるを以て、藩主輝元は居城を萩州島より移すこととなり、三田尻・山口・萩の三箇所を候補地となせしが、幕府は僻在不便の萩に許せしを以て此地を本城とし、慶長九年六月築城に着手、同十三年六月竣工し、以後藩治の中心となる。文久三年五月攘夷の期限決定するや、藩主敬親は攘夷執行のために萩は要害並びに交通不便なるにより、同年四月十六日山口に移り、この地を防長軍防の中心となせり。翌年再び萩に歸りしも、爾後屢々山口・萩の間を往來し、慶應三年二月十三日に山口を以て一藩の根據地と定む。王政復古に際し、山口藩は諸藩に先んじて藩府奉還の實を擧げんため、島津重豪の旗を藉り解藩せり。明治十年十二月山口縣が舊城址を公園となし、志都岐公園と稱し、今日に至る。(志都岐公園) 本丸址にして、堀内に志都岐神社・江風山月書樓等あり。樓は毛利敬親が茶事に託して志士と密議せし所に、もと

同武川畔にありしを移せるもの。堀内に櫻樹多く花時賑ふ。〔春日神社〕 萩區堀内に鎮座。縣社。祭神、武甕槌命・經津主命・天兒根根命・姫大神等五柱。大同二年國司某大和の春日神社より本郡土原村の地に勧請せらるに創まると傳ふ。慶長十二年毛利輝元當地に奉遷し、萩の鎮守となす。例祭、十月六日。〔志都岐山神社〕 萩區堀内に鎮座。縣社。祭神、毛利輝元・同元就・同敬親・同隆元・同元徳。又毛利秀武等十二柱を配祀す。明治十二年二月の創建にして、毛利氏中興の祖先及び歴代の藩主を祀れるなり。社地は慶長九年毛利輝元の築ける萩の舊城址(今は萩公園)に在りて、老樹鬱蒼たり。例祭、十月十五日。社寶中、太刀二口は國寶。〔松陰神社〕 梅東區松本に鎮座。縣社。吉田矩方(松陰)を祀る。明治廿三年、祭神の令兄杉長治郎氏の郷里山口の堀内に祠を設けられしをその創建とす。同四十年に防長の元勳等相謀りて先覺の遺徳を景仰し、私社松陰神社の列格及び社殿改革の事を朝廷に請うて許さる。堀内に松下村塾あり。また附屬の寶物館に松陰の遺品類を保存す。例祭、十一月廿一日。〔梅八幡宮〕 梅區に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。社傳によれば、文治四年二月十五日佐々木四郎高綱宇治川先陣の賞として長門の守護職

に任ぜられし時、鎌倉幕府八幡宮の分靈を此地に勧請して一部に鎮座とせらるをその創建と云ふ。一説に正治年中に地頭三好康久夢想によりて木部村より勧請すと云へど詳ならず。のち高治元年に毛利綱廣は社殿を造營す。往時は供僧寺永福寺を擁して盛況を極めしと云ふ。例祭、十月十四日。〔金谷神社〕 梅區金谷に鎮座。郷社。祭神、菅原道真・菅原長善。文治二年七月常國の守護佐々木四郎高綱、國家保護のため筑前の太宰府神社より勧請し、當郷奥金谷に創祀せる社にして、爾來大内・毛利氏累代崇奉すること篤し。元禄年中今の地に奉遷すと云ふ。〔大照院〕 梅區西田町にあり。臨濟宗南禪寺派。靈梅山。寺傳によれば、もと日輪山觀音寺と號して天台宗を奉じ、桓武天皇御宇勸願所と定めらる。慶安四年領主毛利秀就を本寺に葬り、その法號に因みて現寺號に改め、南禪寺言如則遊を請じて中興開山とす。爾來毛利氏の崇敬厚く寺領千五十石を寄せらる。赤童子立像(木造、鎌倉末期作)一軀は國寶。奥の院を觀音と稱す。〔東光寺〕 梅東區松本にあり。黃檗宗。靈岡山。もと厚狹郡松谷村にありしを、元禄四年毛利吉就これを現地に移して諸堂を造營し、靈梅道明を請じて中興開山となす。爾來大照院と共に同氏累代の廟所たり。當時宇治黃檗山を稱し、大小四

十餘院ありしといふ。近世寺領八百五十石を有し、黃檗三叢林の一と稱せらる。本堂の背後に吉藏・吉元・重就・齊房・齊元の墓、その前庭に元治甲子變の殉難者益田右衛門介等十九烈士の墓あり。なほ同寺附屬の墓地に吉田松陰・高杉晋作・玉木文之進等の墓あり。〔南明寺〕 梅區にあり。天台宗。日輪山と號す。觀音立像(木造、藤原時代の作)一軀・千手觀音立像(同上)一軀は共に國寶。〔萩別院〕 萩區西田町にあり。眞宗本願寺派。慶長年中領主毛利輝元、直實清光院のために此地に香樂院を創して清光寺と號す。時に本願寺准如、准圓を遣はして、これに住持せしめしに始る。〔伊藤博文舊宅〕 指定史蹟。梅東區新道にあり。居宅及び附屬の二小屋より成り居宅は草葺、平屋建にして、六疊一室、三疊三室等の六室に玄關・臺所の土間を附屬し、伊藤博文が安政元年、十四歳より明治元年兵庫縣知事に就任するまでの住宅たり。いま宅地内には博文の銅像建つ。〔笠山〕 梅東區にあり。日本海に突出する笠山半島(越ヶ濱半島)のほぼ中央部にあり、標高一二二米の成層火山。下部はアスピーテ式火山を成し、その上方標高六〇米以上の處にトローア式火山突瓦としてそびえ、頂上には標高各三〇〇米の標式的噴火口あり。半島は全部、石英

玄武岩・玄武熔岩・火山礫・火山灰等より成り、處々に風穴あり。山頂の展望雄大を極む。山中に橋樑點在す。(笠山橋) 自生北限地) 指定天然記念物。梅東區越ヶ濱の北方七〇〇米、笠山の東北面なる地下山、北緯三四度二分に位し、八株成育して果熟し、古來山蜜柑と呼ばれる。標高分布狭く、九州南部及び紀伊の山中に歸し見ると云ふ。〔菊ヶ濱海水浴場〕 萩區、松本川より指月山に至る間の淺灘。白砂青松ながく連り風景よし。濱の市の砂丘には砲臺の址あり、文久・元治年間沖合に露國軍艦の通報する等ありて物情騒然たりし頃、海防のため築造せしところにて、主として留守居の婦人の手に成りしにより、俗に女浴場と稱す。〔木戸孝允舊宅〕 指定史蹟。萩區吳服町二丁目にあり。木造、瓦葺、二階造にて階下は玄關・座敷等九室あり、階上に二室を有す。木戸孝允が生誕の時より嘉永五年十一月江戸出府まで二十年間起居せし所。階上に幼時勉學の書齋あり、その他客室・浴場・庭園等まで全く舊態を完全に遺存す。〔萩藩御船倉〕 指定史蹟。萩區濱崎町にあり。慶長年間、毛利氏轉封の後築造せしものにて、藩主の御用船を繋留せし處。周圍を石を以て築き上げ、もと三箇所あり、大船倉を中央に、小船倉を左右に並列せしが、廢藩と共に一部を取除

かる。〔萩八景〕 毛利吉就が支那の瀟湘に傲び城下に携はしめし勝地に、之を八江と名く。一、倉江の歸帆(西ノ濱對岸)二、玉江の秋月(橋本川下流)三、櫻江の暮雪(河津對岸)四、小松江の曉鐘(大照院附近)五、上津江の晴嵐(神原上流)六、中津江の夜雨(龍藏寺附近)七、下津江の薄暉(弘法寺對岸)八、鏡江の夕照(濱崎對岸)〔萩反射燈〕 指定史蹟。梅東區前小畑にあり。長藩の軍艦建造地なりし坂ヶ鼻に近き上ノ原と呼ぶ小丘上にあり。高さ一五米。基礎は長方形をなし、上方は漸次狭小、分れて二本の煙筒となる。幕末海防の急を告ぐるや、安政五年萩藩ここに製鐵所を營み、藩士山田亦介・來原良藏をして反射燈を築かしめ、高麗と呼ぶ。主として艦船・鐵砲其他の兵器製造の用に供す。爐は玄武岩・耐火粘土・煉瓦を以て築き、いま煙筒一基と爐の一部を遺存す。〔松下村塾〕 指定史蹟。梅東區松本にあり。いま縣社松陰神社境内にあり。木造瓦葺、平屋建。吉田松陰の叔父玉木文之進の創むる所にて、松陰が藩藩に幽囚せらるる間、安政三年七月藩許を得てより同五年十二月五日入獄の時まで此の家塾に於て子弟を訓育す。八疊敷及び十疊敷の二室より成り、よく舊時の狀態を遺存す。彼の「凡生爲人、宜知人所以異於

禽獸、蓋人有五倫、以君臣父子爲最大、故人之所以爲人、忠孝爲本、に始まる所、謂七期は有名にて、この勢より出でたる人材には高杉晋作・久坂義助・尾寺新之丞・伊藤博文・前田一誠・品川彌二郎・山縣有朋・三浦梧楼その他甚だ多し。

享保四年、藩主毛利吉元これを城内堀内に創立し、嘉永二年毛利敬親これを現在地に再建、聖廟・講堂・文庫・御殿・劍術・槍術・水軍・砲術・地理・算術・木馬・柔術・甲冑・兵書・禮式等の講堂を完備す。水練池は即ち水軍附屬のものにて、水騎の練習のため設けらる。池は玄武岩の石垣を以て築き、周縁に長き切石を繞らし、長徑四〇米、深さ三米。村田清風の設計に係ると云ひ、日本最初のプールなり。池は明治九年萩の亂に、前原黨の難民が夜陰に乘り、池内火薬庫の彈藥を此中に投ぜしにより、殆ど殆どといふ。池の前面に二基の碑あり、一は元文六年山縣周南の撰文に成り高さ約三米、

區松本、松下村の東隣。瓦葺、水邊平屋建、八疊三室、六疊三室、四疊一室、三疊一室、三疊半一室等の外に物置及び土間あり、幽因の室は東南隅なる三疊半の一室とす。家は松陰の實家杉氏舊宅にして、安政二年十二月十五日松陰野山の獄(いま萩區吉萩町に址あり)より一旦免されてのち、翌三年正月より同五年十二月五日再び入獄するに至れるまでの二年間に幽因せらる。建物は後年多少の修理を經たるも、幽因の室はよく舊態を遺存す。建物の西北なる土間の一部には米搗場あり、米搗臺及び石臼はいま屋外に移轉して保存せらる。「吉田松陰」山口藩士。諱は矩方、通稱寅次郎、松陰・二十一回猛士等と號す。天保元年八月四日、藩士杉谷合之助の次子に生れ、吉田大助に養はる。同十年家學教授見習として明倫館に登り、十二年、「武教全書」を講じて偉才を賞せらる。のち馬技・長沼流兵學・西洋陣法等を學び、嘉永二年九州を遊歴し長崎に支那語を學び、蘭船に上りて海外の事情を得。翌年江戸に出で佐久間象山等に從學、文武を研修し、房相の海備を視、東北を遊歴せしが、亡命の咎により謹慎を命ぜらる。同六年再び諸國を遊歴、米穀浦買に來たるや赴きて事情を察り、次いで長崎砲台の露艦に投ぜんとし、果せず、安政元年正月下田に赴き米穀に乘らんとし、拒まれ歸りて自首し縛に就く。江戸に拘禁、次いで萩

の獄に移され、翌年十二月出獄して杉氏の獄に備せしが、翌年松下村塾を開き子弟の黨に當る。安政五年内外の事情漸く切迫するや時務策を藩主に上り更に家學の教授を許さる。幕府條約調印の措置を誤るやその非を極論し、ついで閣老副都詮勝を要撃し天下勤王の魁をなさんと企てしが、藩府により一室に幽囚され十二月下獄。獄中なほ正義を唱へ畫策に力めしが、幕府大獄を起すに及び江戸に搬送、傳馬町の獄に下り、十月二十七日小塚原に斬らる。年三十。同向院に葬り次いで文久三年世田谷若林に改葬。明治十五年若林に、同四十年萩に松陰神社創立せらる。明治二十二年二月贈正四位。

ハギガオカ

萩ヶ岡 土橋線の(昭和十年設置)。北海道十勝國河東郡上士幌村にあり。

ハギクラ

萩倉牧 延喜式左馬寮式に見ゆる信濃國十六牧の一。その地いま長野縣諏訪郡下諏訪町の大字萩倉の地なるべし。

ハギサカ

萩坂 石川縣河北郡にありし村。明治四十年、俱利伽羅村と合し俱利伽羅村を置く。

ハギシヨ

萩莊村 岩手縣陸奥國西磐井郡の西南郡。一開町の西南に開り、南は宮城縣栗原郡萩野村・島矢崎村・栗駒村に接す。面積八七・〇四方町にて本郡第二の大村。西南境に三〇〇乃至四〇〇米の山嶺連り、鶴ヶ森(四〇六

米)・三日月山(二九四米)・自境山(二六八米)等あり。西北部は安山岩及び第三紀層の丘陵地をなす。久保川・市野々川は東北部に合し、東北境を東流する北上川の一支出れ井川に入る。東北部の河川流域には沖積地あり、地味肥沃にして耕地よく開け(二一五〇町)・多(四五千町)・大豆(一五〇町)・蕎麥(二〇千町)・粟(二二千町)を産し、西北部の丘陵地には薪炭(二九千町)・用材(一四千町)を出す。一開町に到る街道は市野々川に沿って走りバスを通ず。この地は和名抄、磐井郡磐井郷の内なり。村内には小松橋址・黒澤墓址などあり。小松橋は安倍宗任の叔父、僧良照の橋なり。所謂前九年の役に良照ここに據りしが、源賴義・清原武則に攻め亡ぼさる。黒澤墓は葛西の家臣、黒澤登前義住の居りし所なりと。

ハギノ 萩野

【萩野村】宮城縣陸奥國栗原郡の東北部。東および北は岩手縣に接す。村内には丘陵東西に連りて有馬川は北部を、中江川は南部を各東流し、沿岸には耕地拓く。米・木炭・麥・蕎麥を産す。陸羽街道は村の東部を南北に通ず。東北本線有馬驛(大正十二年設置)あり。本村大字右壁に古墓二あり、東の館を丸森城と稱し、源賴義の陣せし所、延文中は大崎氏の家臣、後藤美濃これに居り、元龜以來、葛西氏の家臣、門田淡路これに居りしと。

ハギノ 萩野

【萩野村】宮城縣陸奥國栗原郡の東北部。東および北は岩手縣に接す。村内には丘陵東西に連りて有馬川は北部を、中江川は南部を各東流し、沿岸には耕地拓く。米・木炭・麥・蕎麥を産す。陸羽街道は村の東部を南北に通ず。東北本線有馬驛(大正十二年設置)あり。本村大字右壁に古墓二あり、東の館を丸森城と稱し、源賴義の陣せし所、延文中は大崎氏の家臣、後藤美濃これに居り、元龜以來、葛西氏の家臣、門田淡路これに居りしと。

西の館は有馬城とも、白岩城とも稱し、初め大崎氏の家臣、後藤美作居り、のち同家臣菅田帶刀居り、元龜以來は葛西氏の家臣、有馬屋敷・同安藤・同攝津と父子相繼ぎ之に居る。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際本村に御小休あらせられ、いま明治天皇有馬御小休所附御跡水として史蹟に指定さる。

ハギノ 萩野

【萩野村】山形縣羽前郡最上郡の中部。新庄町の東北に隣り、東北端は秋田縣に接す。面積八六・五三方町。東北境には神室山(三六五米)あり、それより西南には天狗森(一三〇二米)・小又山(一三六七米)・火打岳(一三三八米)・八森山(一〇九三米)等の山嶺連りて西方に傾斜し、指野川は東北境に發源し、村の北部を西南に流る。村の西部はその扇状地にして豊野原の名あり。米・蕎麥・木炭を産出し、豊野原には軍馬補充部萩野支部あり。羽州街道は西部を南北に通じ、南方野庄町へは自動車便あり。奥羽本線泉田驛(大正二年設置)を置く。

ハギノ 萩野

【萩野村】福井縣越前郡丹生郡の中西部。西は四箇浦・下野二村を隔てて日本海あり。村内は概ね山地にして西北境には越前山(六四三米)・西境には六所山(六九八米)あり、大川もなく東南部に僅に低地あるのみにして交通も不便を極む。筑紫・入尾・若菊の三地方は高原にして里俗に山と稱し、年中殆ど蚊帳の必要なき、他の笹川・赤井谷・山田・細野・岩倉・櫻谷の六地方を山下と號す。村民は農業に従事し商店販賣ありのみ。産業も振はず。米・蕎麥・木材・蕎麥を産するのみ。東南隅の常盤村と同じく本郡中の寒村にして人口の密度(一方町七三人)も低し。この地は和名抄、丹生郡平知郷の内なるべし。いま常盤村・織田村と組合村をなし、役場を織田村に置く。

ハギノ 萩野

【萩野】愛知縣西春日井郡にありし村。昭和十二年名古屋市中に編入さる。

ハギハラ 萩原

【萩原】紀伊國(和歌山縣)の古地名。日本後紀・弘仁二年八月、不要の故を以て紀伊國萩原・名草・賈太の三郡を廢せしが、翌年四月には萩原郡を復せし由見ゆ。延喜式兵部式に紀伊國萩原郡々馬八疋とあり。その地はいま伊都郡笠田町大字萩原といはる。

ハギマ 萩間村

【萩間村】静岡縣遠江國檜原郡の南部。川崎町の西、相良町の西北に接し、西は小笠原に界す。東西に丘陵連互し、北部に源を發する萩間川は村内のほぼ中央を東南に流れ流域に僅かの耕地あり。農業を主産業とし、茶の栽培最も盛なり。次いで米を産す。湖産として林業・牧畜・養蠶共に盛なり。谷治に西北・東南に貫通する一條の縣道あり。相良・金谷兩町間のバスを通ず。この地は和名抄、藤原郡相良郷の内なるべし。

ハギユ 萩生

【萩生】山形縣西置賜郡豊原村の大字。米坂東線の萩生驛(昭和六年設置)あり。

ハギワラ 萩原

【萩原】岐阜縣飛騨國益田郡の西部。飛騨川の上游益田川左岸に沿ひ、南は下呂町に東北は小坂町に接す。東部には御前山(一六四六米)屹立し、益田川は北境よりこの山裾を曲り、北より一支を合して西境を南流す。山地河岸に迫りて平地に乏し。米・麥の農耕および養蠶を主産業とし、木炭・一位細工などの特産物あり。倉嶽高山本線及び一條の縣道河岸に沿ひ、前者に神昌寺驛・飛騨萩原驛(共に昭和六年設置)・上呂驛(昭和八年設置)を置く。この地は和名抄、益田郡益田郷の地なるべく、町内に諏訪城・標洞城あり。諏訪城は佐藤六左衛門秀方の居城にして、秀方の裔孫捨藏は有名なる佐藤一齋(儒者)なり。標洞城は後風土記によれば、三木大和守直頼が永正・大永の間、此處に築城して之に居り、その子良頼、良頼の子自綱相繼いで城主たりしが自綱は大野郡内へ取り成勢振ひ、天正七年大野郡松倉山に築城して移住し、この城は自綱の子信綱に守らせしが、信綱遺心を起せしより天正十二年自綱に殺さる。「久津八幡神社の夫婦杉」指定天然記念物。久津八幡神社境内にあり。雌杉・雄杉の二株にして、雌杉は社殿の西北に、雄杉は社殿の北方にあり。雄杉は樹圍一三米、雌杉は九米とす。杉の巨樹として

主として、島嶼・貝貝・大倉・中屯・目... 斗嶼・吉貝其他大小十餘の島嶼を以て形... 成す。其地勢は各島大同小異にして、特... に出るべきものなく、また漢川と稱す... べきものなし。毎年九月より翌年三月... 頃までは季節風猛威を振ふ。雨量は一年... を通じ甚だ少し。地質は第四期洪積層に... 屬し、土質は砂質強土なるも季節風猛烈... なる爲樹木繁茂せず。本庄下産物は其の... 地勢上よりして、其産を望むべからざる... も、水産物は本庄下住民の生産をなし、... 主として近海漁業に従事す。されど近年... 農産物の増殖奨励によりて、遠洋に出漁... する者多きを加へたり。鯛・鰯・口美鯛・... 鰯・鰯・鰯・鰯等を主たる漁獲物とし、... 是等を原料とする醤油・味噌・酒・... 調味料・鰯の花等の水産製産物を出... す。農産物の主なるものは甘藷・落花生・... 高粱・玉蜀黍・粟・蕎麥等にして、其他... 若干の畜産あり。交通は主として海路に... よらざるべからざるも、陸路に於ても本... 庄の通駁より馬公街間には道路を有し、... 他に郵便船による渡船をも有す。本庄... の沿革詳らかならざるも、本庄の主島を... ならず白砂島・中屯嶼は、既に明初漢人の... 來住するものあり、また和蘭人の木島を... 占領せし際は築城し、今に至るも其遺址... 存すと云ふ。漢人の渡來漸く増加せしは... 乾隆初年あり。我が領臺後大正九年十月... 月の地方制度改正に際し、又同後大正の五... 年(現大字)、通運港下の三郷(現大字)に...

海運下の三郷(現大字)、吉貝港下の二郷... (現大字)、赤崁港下の二郷の地を合して... 一庄を建てて白砂庄となし、高雄州澎湖... 郡下の二庄となせしが、のち澎湖郡は鹿... に昇格せり。(通運港の大榕樹)大字通運... に成長する大榕樹にして、往年支那兵克... 船が鮮植として、將來植付けせしものに... して、現在著しく成長し、幹枝二百坪に... 達り、樹下僅に一箇大隊の兵を蔽はしむ... るに足るべし。日本名木の二にして、約... 三百年の樹齡を有すと云ふ。
【白砂嶼】朝鮮の最高峯なる白頭山の東... 南に連亘する摩訶山脈中の一峰。成鏡... 南道甲山郡善天面と成鏡北道茂山郡三社... 面に跨り、標高二〇五七米。東面には... 西頭水一支が、西面には佳林川が發源す。
【白砂嶼】朝鮮成鏡南道の東北境に雙嶺... る山。摩訶山脈中の一峰にして、冠頭... 峰の東北東約七軒、その最高點は甲山郡... 雲興面内にあり、標高二〇九米。その... 東斜面、成鏡北道茂山郡内には佛趾池あ... り。

ハクサ 柏沙面 朝鮮京畿道利川郡の... 東北端に位置し、郡邑利川の北五軒にあ... り。城内小丘陵起伏するも比較的扁平に... して耕地よく發達す。産物は米を第一と... し、小麥・大豆・粟・玉蜀黍等あり。道... 特別作物に棉花・煙草・大麻等あり。道... 防網は面政の中心支那を軸として西南... 方利川及び東北東方流川の河津梁浦里に各... 三等道路を通過し、其他他等外路線を放射... する。

ハクサン 白山 東京の地名。小石川區なる白山... 神社を中心とし、その一帯を稱す。現今... は白山前町、白山御殿町等に分る。好色... 一代男・二・深川の八幡・築地本庄の三... つ目撃筋・日黒の茶屋を授し、品川の連... 飛、白山、さん時の得しれぬもの。
【白山】 越後山系の一峯。新潟縣中蒲原... 郡十全村・七谷村・川内村の三村境界に... 跨り、標高一〇一二米。山頂部に鱗池を... 湛ふ。龍代川の一支北斜面より源流して... 北流す。
【白山】 香嶺越後線の一驛(大正元年設... 置)。新潟市白山浦にあり。
【白山火山帯】 西南日本内帯の日本海岸... に沿ひ散在し噴出せる活火山を白山火山... 帯と稱す。北東より西南に走り、山陰火... 山系または西南日本内帯火山帯とも呼ば... る。主として第四紀噴出の含雲母角閃石... 安山岩より成る鐘狀火山の列にて、石川... 縣の白山に始り大川・三瓶山・青野山・... 四熊岳等を經て九州の鏡見岳・由布岳・... 九重山・金草山・温泉岳等に續く。その... 東端は白山火山群にして、これに屬する... 白山(二七〇二米)はこの帯中唯一の活火... 山なり。大日岳はその南部に位置し、標...

山と共に日本の三名山として天下に名高... く、信仰登山の山として知らる。石川縣... 能美郡尾口村・白峰村と、岐阜縣大野郡... 莊川村・白川村の諸村に跨りて峙ち、... 南方部は福井縣大野郡に延び御前岳(標...)(二七〇七米)・大汝峯(二六四六米)・御... 前峯(二六五六米)の三主峯、及び別山・... 三ノ峯・二ノ峯・一ノ峯などより成る。... 單式成層火山にして初壯年期の山峯を呈... す。御前岳及び御前峯はシユラ紀層(手... 取層)を基底として最初に噴出せる含雲... 母石英角閃石・紫蘇輝石安山岩熔岩よ... り成る火山丘(シユラ紀層は二三〇〇米... の高地に到達するを以て火山としての白... 山は僅か四〇〇米の小圓錐丘に過ぎず)の... の舊火山口壁の一部に當り、大汝峯はこ... の舊火山口の北縁附近に後噴出せる角閃... 石・紫蘇輝石安山岩の熔岩丘なり。この... 三峯は北西より東南に鼓時す。御前峯と... 大汝峯との間シロミズ谷頭に翠ヶ池火山口... 址あり。此處より玻璃質角閃石・紫蘇輝... 石安山岩の熔岩噴出して東方の白川谷に... 流下したり。鏡泊湖地獄・紺屋池もこの... 二峯の間の火山口址なり。なほ御前峯と大... 汝峯の間に五色池・百姓池・千蛇ヶ池・... 血ヶ池・油ヶ池等あり、何れも小噴火山口... の湖沼となりしものなり。この山は有史... 後は天正七年(一五七九年)を最後とし、... それ以前には四回の活動記録を有し、現... 在は地獄谷・白川谷に硫氣を噴出し活動... の餘生を示す。水流は東斜面より庄川、

北方と西斜面より手取川、南西斜面より... 九頭龍川の支上流を流す。御前岳... の南方に彌陀ヶ原あり。この山北縁の家... 雪地に聳え、冬季積雪多く、夏は万年... 雪を戴き、四時白雲の絶ゆることなきた... め白山の名稱出たりと云ふ。白山は傳... 説に依れば、養老元年六月神皇の曾孫... その弟子淨定と共に初めて登山し、十一... 面觀世音・聖觀世音・阿彌陀如来を拜し、... 頂に三社を築き三神を鎮め、三佛身を安... 置し、一千日を期して修行苦行し、遂に... 開山せりと云ふ。今は御前岳に白山比咩... 大神を祀りて白山神社となし。大汝峯に... は大己貴命を祀りて奥の院となす。其後... 奉澄は淳和天皇の天長九年加賀・越前・... 美濃の三馬場を開き、各々神宮寺を建立... せり。加賀馬場は白山寺(本宮)と云ひ、... 越前馬場は平泉寺、美濃馬場は長瀧寺... (中宮)と稱し隆盛を極めしが、戰國時代... に神領は荒され、兵火にかかりて荒廢せ... しが、信長・秀吉・家康を経て復古せし... が、明治五年神佛混同禁止令により佛像... は白峯村林西寺に移祀せり。登山路は四... 路あり、一は北陸本線西金澤驛下車、金... 澤電氣軌道線にて輪來驛に至り、金名鐵... 道線に乗換へ白山驛下車、手取川の上流... 牛首川に沿ひ市瀬に至る。この間パスの... 便あり、市瀬の北方に白山温泉湧く。こ... れより東に御前嶺の新道に沿ひて達す。
第二は手取川の上流尾瀬川に沿ひて南東... に向ひ、支流湯谷を経て美女坂と稱する

尾根に登り、藤原山に達し、更に山背を... 南に進み長坂を登れば四ヶ塚山に達し、... 北龍ヶ馬場を経て奥の院に至る。この道... に新道二道あるも難路なり。第三は東方... 庄川の上流大白川に沿ひて西行し、平瀬... より約一二軒にて白水ノ瀧に達し、その... 上流約一軒にて大白水温泉湧き宿泊の便あ... り。更に地獄谷に沿ひカンヅラの雪渓を... 經て山頂迄約一〇軒、之を裏路と稱す。
第四は九頭龍川支流の石徹白川の中流石... 徹白より鏡ヶ峯・一ノ峯・二ノ峯・三... ノ峯・別山を經て尾根傳ひに至るものに... して、長路なれど面白き遊路なり。山... 頂の風鳴は雄大にして東方は飛騨高原を... 經て木曾御岳・乗鞍岳を望む、東方より... 北方にかけては北アルプスの連山山波の... 如くに連りて見ゆ。西は北陸の平野を經... て日本海の碧波を見渡し、南方は遠に伊... 吹山を望む。山頂部には榎松・イブキト... ノリ・タケノコ・ハクザンシヤクサタラ・... ハクザンフワロ・ハクザンシヤクサタラ・... ハクザンニンジン・ハクザンバクワウ等... の高山植物ありて生育し、開花期にはお... 花畑を現出す。特に黒百合は佐々成政、... 千蛇ヶ池の黒百合を北の政所に献じしと... 傳へて名高し。中腹にはアナ・扇柏・羅... 漢柏等あり、中腹以下はトナノキ・イタ... ヤカイテ・ミツナラ等生育す。
【白山電氣鐵道】 社線。石川縣能美郡小... 松町の省線北陸本線小松驛より同郡國府... 村の輪川遊泉寺驛に至る五・九軒。昭和

四年開通。軌間一・〇六七米。動力は電... 氣。省線と連帶運輸せず。
【白山】 中國山脈の一峯。福知山市の南... 西方約二〇軒、兵庫縣氷上郡沼宮村に峙... つ。標高五四五米、山體は石英斑岩より... 成る。山中に白山権現を祠る故に一に白... 山権現と云ふ。
【白山岳】 九州山脈球磨連山の一峯。國... 見岳・輝畑岳とも云ふ。熊本縣八代郡... 柿迫村と下益城郡年輪村の境上に位す。
標高一〇七三米。山頂よりは西方八代灣... (不知火灣)の磯濱住なり。
【白山村】 大分縣豊後國大野郡の中郡。... 九州山脈の一峯傾山の東北斜面を占め、... 三重町の西南に接し、東北隅は僅かに南... 海部郡に界し、西南隅は宮崎縣西臼杵郡... に隣る。地形高峻にて西南部の傾山は一... 六〇五米の高さを呈す。それより東北方... (山地連りて南境をなし梅津越(四五... 一)米)・旗返峠(五一・二)米)・三國峠等あり。
西南部に發する一條の河川は村内の水を... 集めて中央を貫きて東北流し、更に北流... し北方約一軒にて大野川支流なる奥敷川... に合す。林産資源豊かなり。北方約二五... 軒に省線豊肥本線の牧口驛あれど交通は... 不便なり。
【白山】 朝鮮成鏡南道の北部、赴職嶺山... 脈中の一峰。豊山郡安水面・熊耳面およ... び新興郡東上面に跨り、標高二三九九... 米。
【白山】 朝鮮成鏡南道の西北境に近き山。

臥崎峰山脈支脈中に位し、臥崎峰の東約八軒、長津郡内面・上南面に跨る。標高二〇七米。

【白山面】 朝鮮全羅北道金堤郡のほぼ中央、金堤邑の北に隣接す。城内一帯に花崗岩山地の露岩による老年期の小丘陵起伏し、最高僅かに五六米を数ふるに過ぎず、東津水利組合の灌漑地域に属するを以て灌漑の便よく、耕地よく拓け、畑作農業卓著す。住民は質朴にして農を業とし、概して富裕なり。産物は大豆最も著はれ、米・大麥・小麥・粟・棉花・烟草・梨・葡萄等あり。鐵道湖南本線は面の東部を南北に走れるも直接停車場を持たず、北方の芙蓉驛及び南方の金堤より三等道路により連絡す。また金堤・萬頃間の三等道路は西部を通じ交通比較的便なり。聚落は地形の關係上極めて普遍的に分布す。

【白山面】 朝鮮全羅北道扶安郡の東端に位置し、郡邑扶安の東南約五軒にあり。東津江東境を成して北流し、謂ゆる東津江平野の一部を成し土地極めて低平にて地味肥え、西部は八旺川北に向つて貫流し、灌漑水利の便よく重要な農業地帯の一を成す。農産物は米を第一とし、小麥・大麥・大豆、其他の雜穀類にして、工農作物に苧麻・烟草・棉花等あり。また生牛を産す。道路は金堤より古阜に通ずる三等道路東部を貫貫し、また鐵道湖南本線仁壽より来る三等道路は面の北部を

東西に横斷して西方扶安に通じ、古阜・扶安間の三等道路また西部部を通過し、更に之等を等外路線により連絡し、交通至極便なり。聚落は南部に多く、平橋里には陰曆一・六の日に開く市場ありて穀類・薪炭・馬・豚・生牛等の取引行はる。

【ハクシヤトン】 白沙屯 臺灣縦貫線の一驛(大正十一年設置)。新竹州苗栗郡通霄庄白沙屯にあり。

【ハクシユ】 白岫面 朝鮮全羅南道靈光郡の西部、郡邑靈光の西方約一〇軒、西は黃海に面す。靈光山脈の末梢部に属する(標高二〇九米)・(標峰(三五一米)等)並立し、中部以北は丘陵地をなし、東北境は法聖浦の入江深く灣入し、南部の佛甲川流域は低平にて地味肥沃、農産豊かなり。住民の多くは農業に従事し、沿岸の諸聚落は牛・馬・牛・牛・牛にして、製鹽業に従事するものもあり。産物は米・粟・大麥・大豆・棉花・烟草・鹿等のほか、食鹽および海藻・貝類・石首魚・鰻・烏賊等にして、殊に石首魚は最も漁獲多し。道路は南部に靈光より西走して海岸に達する三等道路ありてバスを通じ、水路は木浦・群山間の主要航路地たる法聖浦を控へ比較的便なり。

【ハクシユコータン】 白嶺公潭堡 江蘇省溧水縣東南石碣の一古蹟別名。布袋庄の樹林頭・貴倉・過潭・漢城の四大字、鹿草庄の竹子脚・頂潭・下潭・龜佛山・後庄子の五大字及び義竹庄の五間

大雲江左岸に位置し、京義街道の要驛にして、道内商業の中心を成し、其の南面は東に寧邊・熙川・江界の諸郡に及ぶ。また交通の中心をなし、京義本線中驛に分岐する博川線は北走し、一院・博川の兩驛を大正十五年設置あり、道路は終點博川線を起點として四通發達し前記諸郡に連絡す。邑内には郡廳・地方法院出張所・朝鮮殖産銀行支店・金融組合等あり。市場は邑の北端にありて陰曆五・十日に開き、主要商品は米・粟・生牛・綿布・薪炭等にして一箇年取引高約二〇萬圓に達す。また大雲江より漁獲せらるる鮎は此地の名産なり。

【博川線】 朝鮮總督府鐵道京義線の一部分。平安北道博川郡内に通ず。京義本線の孟中里驛(博川郡南面)に起り、博川驛(博川郡内)に至る九・三軒。省線と連帶運輸す。

【ハクソソ】 白村江 朝鮮の西南部を流る、錦江下流の稱。一に白江と稱し、古戰場として名高し。白村江は従來錦江の下流を稱するものとせしが、近頃の研究によれば現在の全羅北道の井邑、扶安の二郡を流る、東津江口にありて、錦江と萬頃江の南にあるといふ。新羅は武烈王(二十九代)の時、國勢強大となりて唐と結び、當時國力衰弊せる百濟を伐たん事を請ふ。よつて唐の高宗は蘇定方を行軍大總管となし、水陸十三萬の兵を派して新羅の太子法敏および大將軍金庾信の率

居・市勢竹・牛浦・漢洲の四大字を合したる地域に相當し、清の雍正十二年に立てられしより、我が領土後も依然存続せしが、大正九年地方制度改正に依りて廢せられ、前記諸庄に分割せらる。なほ乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)に白嶺公潭街といへるは、いま鹿草庄の頂潭・下潭を合したるものなり。

【ハクスイ】 白水村 熊本縣肥後國阿蘇郡の南部、阿蘇火山中央火口丘の烏帽子嶽・中嶽の南斜面に位し南は南郷谷に互り東南部は更に南方へ延びて外輪山頂に及ぶ。東南部は高森町に隣接す。中嶽(一三三三米)噴煙を吐きつ、北境に聳え其西に烏帽子嶽あり。山麓南方へ雄大な嶺が南郷谷開け南境に沿ひ白川西流す。東南は外輪山の北斜面をなし東南境に九四四米の高さを有す。低地は農業行はれて普通作を主とし米・大豆・粟・玉蜀黍等を産す。北半は原野廣く牧畜行はれ馬を産す。南部を東西に縣道走りまた東北方の竹田町方面へ至る縣道あり。省線高森線また南部を東西に貫き阿蘇白川・中松の二驛共に(昭和二年設置)あり。本村は謂ゆる南郷谷の内にて和名抄、阿蘇郡衣尻郡の南。いも阿蘇國立公園の一石たり。村内の俱利伽羅谷の洞窟内の青石は俗に阿蘇の神體と稱す。龍形にして生けるが如く、石鑪年ごとに生え代ると傳ふ。(八坂神社)大字一間に鎮座。郷

ある精兵五萬と合せしめ、百濟を攻撃せしが(六六〇)、百濟は抗する能はず義慈王及びその一族は唐軍に降り、王宮も灰燼に歸せり。其後、義慈王の從子卑室福信は日本に使者を出して救援を乞ひ、實として日本にありし王子豊璋を迎へて王となし、齊明天皇は太子の稱を容れて阿曇比羅夫をして舟師を率へて百濟を救はしめたりしが、唐と新羅の聯合軍と白村江口に於て激戦し大敗を蒙り、百濟は遂に全く滅びたり。

【ハクテン】 柏田面 朝鮮慶尙南道咸陽郡の西端部に位置し、郡邑咸陽の西北約一〇軒にあり。小白山脈中に位置せるを以て土地頗る高燥、四面山地を以て圍繞し、北には白雲山(二二七八米)、東境には元山(二〇三二米)・大方嶺、西部には月鏡山(九八二米)等聳えて急傾斜を以て城内に下る。四圍の山地に發源せる涓川溪谷は盆地床の中央に集り灌漑して後、東南方に峽谷を成して面外に流出す。住民は殆んど農業に従事し傍ら養蠶・採薪の業に従事す。農産物は大麥・大豆・粟・蜀黍・米・大麻等にて殊に大豆は最も重要な産物なり。道路は溪谷に沿ひ發達せるも未だ改修のもの多く、坂路・峴時多く交通極めて不便なり。聚落密度は極めて疎にして面事務所を坪亭里に置き、市場を北方一軒の兩柏里に置く。市場は陰曆二・七の日に開くも頗る不振にして漸次衰退に赴きつゝあり。

社。祭神、須佐之男神・稻田比咩神・大郡武智神。安康天皇二年國家鎮護に當り北山の地に阿蘇家より勧請すといふ。のち現地に遷座す。例祭、七月十五日。

【ハクセキ】 白石面 朝鮮京畿道楊州郡の西北部、郡邑議政府の西北約五軒、京城府の北方約二〇軒にあり。天寶山脈に属する道樂山(四四一米)・佛國山(三六一米)等相連りて東境を劃し、南境には鶴鳴峰(六二二米)、北境には隱鳳山(四六四米)、西境には朴達山(三六七米)等聳えて、北半部は山岳重疊すれども漸次東北に低下し、東北部にはやや低地横はる。農産物の主なるものは米・小麥・大豆・粟にして副業として養蠶飼育行はれ、林産には木炭・薪の外、栗の産額は極めて多く年産一千餘萬石に達し郡中は勿論、道中屈指の産地をなす。鐵道京元線は面の東方近く南北に通じ、議政府驛及び德亭驛により連絡するも交通運輸未だ便ならず。聚落密度は小なり。西部山中の靈場里には観音閣・昭寧閣等の陵墓あり。

【ハクセン】 白川 鎮川面(朝鮮黃海道) 博川郡 朝鮮平安北道一府十九郡中の一。道の西南端に位し、東は寧邊郡、北は泰川郡、西は定州郡に境し、南は清川江を隔てて平安南道安州郡と相對し、面積五二九方軒、鐵山郡につきて小なり。

【ハクセソ】 白頭 北朝鮮の日本海岸にある山脈。北は國境の白頭山(二七四四米)に起り、初め東南に方向を取り小白山(二一七四米)・南龍胎山(二四三五米)・望南山(一八八〇米)等を起して咸鏡南・北兩道の境界をなし、のち方向を西南に轉じて咸鏡南道のほぼ中央を西南に走り鴨綠江と日本海との兩峯の分水嶺を形成し、嶺中に觀粟(一九〇七米)・大嶺山(二一三三米)・白山(二五七九米)・白巖山(一七四二米)等を起して更に方向を南方に轉じ斷崖山(一三八一米)・落雁峯(一三二四米)を起し、のち平安南道及び黃海道との境界山地をなして江原道西北境の大乙山(二六八一米)に達す。延長實に四五〇軒に達し、北方に高く南方に漸次低夷する大山脈なり。有名なる赴戰嶺(一四四五米)は白巖山の東方にありて日本海斜面の城川江と鴨綠江上流の赴戰江との分水嶺をなし、東洋第一の稱あり。

【白頭山】 朝鮮と滿洲との國境に聳ゆる死火山。咸鏡南道の北端と咸鏡北道の西端とが相抱きて滿洲國の通化省へ突出するその突角部に位置し、摩訶壇系に属する古生代の地層を貫きて、第三紀後半より第四紀前半にかけて噴出せるアスベトテ式火山にして、火口壁最高峯たる大正峯は海拔二七四四米、半島第一の高峯なるも、その山頂は滿洲國側に屬せしめらる。白頭山は天坪と稱する海拔一五〇〇

【博川面】 朝鮮平安北道博川郡の東北部。大雲江の下流左岸にあり。東北境には天燈山(二八二米)、南境には鳳凰山(二一七米)等あれども一般に老年期の地貌を呈し、城内丘陵の小起伏あるに過ぎずして耕地よく發達す。氣候は本道中最温暖の地域に屬す。住民は農を主に日稼・商業これに亞ぎ富の程度比較的均し、貧困者少なし。産物は米を第一とし、大豆・稗・馬鈴薯あり。博川邑は面の西部

【博川面】 朝鮮平安北道博川郡の東北部。大雲江の下流左岸にあり。東北境には天燈山(二八二米)、南境には鳳凰山(二一七米)等あれども一般に老年期の地貌を呈し、城内丘陵の小起伏あるに過ぎずして耕地よく發達す。氣候は本道中最温暖の地域に屬す。住民は農を主に日稼・商業これに亞ぎ富の程度比較的均し、貧困者少なし。産物は米を第一とし、大豆・稗・馬鈴薯あり。博川邑は面の西部

【博川面】 朝鮮平安北道博川郡の東北部。大雲江の下流左岸にあり。東北境には天燈山(二八二米)、南境には鳳凰山(二一七米)等あれども一般に老年期の地貌を呈し、城内丘陵の小起伏あるに過ぎずして耕地よく發達す。氣候は本道中最温暖の地域に屬す。住民は農を主に日稼・商業これに亞ぎ富の程度比較的均し、貧困者少なし。産物は米を第一とし、大豆・稗・馬鈴薯あり。博川邑は面の西部

米内外の廣き玄武岩臺地上に聳え、アルカリ類面岩より成る扁平なるドーム狀山體は一面に厚き浮石層に被られ白く碧空に映じ、荒野は一帶深緑の樹海に接取らる。蓋し白頭山の名はこの景観山容より出でしもの。山形を遠望して白頭を高嶺上に伏せたるが如しと敘したる支那人の一句はその實景を表現す。而して全山を圍む前記の玄武岩臺地は朝鮮内にありては東南方に向ひ大嶺脈(二二六〇米)・大角峰(二一七〇米)・小嶺脈(二二二三米)・北鹿胎山(二二八九米)・南鹿胎山(二四三五米)・蘆頂嶺・黃峰・冠頭峰(二二三六米)を過ぎ更に南方に延び、延長二〇〇行に亘る摩天嶺山脈を起し、滿洲國に入りては吉林・通化の方面へまで到る。頂上には高度三二五〇米に達する大火山壁ありて大正峰以下多數の秀峰聳え、此等に圍まれたるカルデラ湖の天池は紺碧の神祕を湛ふ。天池は一に龍王潭とも呼び南北五行、東西三行、四凡そ一二行、勾玉狀をなし、水温は攝氏一〇度内外、魚類等の棲息を見ず。水深は最深三一〇米餘といふ(一九二九年オプス等計測)。湖の北端は裂けて開門と稱する大口淵となりて松花江の上源をなす。開門の東南方約一行的池畔その他、及び西南麓の湯水長(滿洲嶺)には硫黄泉湧出す。山麓は我國移住を見る原生の森林をなし、テウセンカラマツ(紅松)を主とし、ワシ・オウソウ・マツ・ササキ・ハルミミ・

テウセンマツ等の針葉樹とゾウカンパ・ダケカンパ等の陽性落葉樹を混生する樹海を以て覆はれ天候の寶庫をなし、灌木帯なる頂上部にハヒマツの叢生を見ざる事は一の奇現象とさる。また輕石質砂礫層に喰入れる草原帯はお花畑を形成し七・八月の交美觀を呈す。白頭山はその位置、日本海岸地帯よりも、黃海方面よりも二〇〇行を距る内陸にあり、而して此の山の特色はその廣大なる山貌にあり、されば朝鮮にては古來この山を諸山の祖と仰ぎ、支那にては愛親覺羅發祥の靈地と神祕視し、不咸山・太白山・長白山または單に白山と稱したり。登高の記録は約二五十年前康熙年間初めに清國人の頂を究めしを最初とすといふ。又同五十二年(一七一二)には清・韓兩國より使節を派して定界(國境)決定のため登山せし等の歴史あり。其の時に建てられし定界碑は山頂の東南約四行、海拔二二〇〇米の地點にありしが、い何人かに取去られ、たゞ附近開門江源流の南岸に沿ひて残されたる定界石のみ點々として残る。近時に於ては内地は勿論、外國の學者・登山家に注目せられ謂ゆる高山學の對象となるに至りしが、大正末年朝鮮教育會主催の登山、昭和四年の京都帝國京城帝大有志による登山は何れも劃期的のものにて、参加せる各専門家に大體詳細なる記録發表せらる。登山路は大體三つあり、一は成徳南道惠山邑より鴨綠江

流域を北上し、善天堡・三池淵・神武城・無頭峰を経て定界石附近に至るもの。二は成徳北道、又は東開島方面よりするものにて、茂山より開門江に沿ひ、三長・農事洞・神武城等を経て定界石附近に出づるもの、三は松花江支流の漫江に沿ひ白頭山西部より山頂に達するものにして何れのコースを選ぶも山中十日以上の露餐を必要とす。

ハクトク 白徳山 朝鮮江原道の南部にある山。大白山脈支脈の一雄峰にして平昌郡平昌面・芳林面と寧越郡水周面とに跨り、標高三三三〇米。此山を中心として北西に連る山稜を獅子山と稱す。

ハクバ 白馬 朝鮮江原道金川郡の中央より北に位置し、郡邑金川の北方一〇餘行。馬息嶺山脈に屬する軍長山(三六六米)の東南隅に屹立せる他は著しきものなく一般に丘陵性山地を成す。西境に九淵川流るも、灌溉用水に乏しきを以て主として畑作農業行はる。住民は農業を主とし傍ら養蠶に従事す。産物は大豆最も多く、雜穀・商人蔘等これに次ぐ。また南部は三蔵嶺山の嶺區の一部にあたり金・銀・鉛を出す。城内に鐵道又は自動

ハクホー 白棚鐵道 社。福島縣西白河郡白河町の省線東北本線白河驛に近き白棚白河驛より、東白川郡御倉町の省線赤松線御倉驛に至る二三・三三行。軌間一・〇六七米、動力は蒸氣・サソリン。省線と連帶運輸す。

ハクホー 白茅山 朝鮮咸鏡南道甲山郡東面・長平面及び豐山郡天南面に跨り、標高一九〇九米。此の山より西方の標峰(一八四〇米)および南方の黃土嶺(一五八九米)に連る間はメーサ狀を

帶運輸す。ハクラス 社。臺灣臺中州新高郡にある蕃社。濁水溪右岸水社、大山南寮バラス社在所より約一〇〇米東方の地に全戶集居す。アメン族の下社蕃に屬す。高砂族より成る部落なり。ハクリ 羽栗 美濃國(岐阜縣)の古郡名。地はもと尾張美濃郡の域内なりしが、木曾川河道の變化によりて美濃國に入り葉を羽と改めしもの。明治二十九年中島郡と合して羽栗郡の新稱を建つ。【羽栗(郡)】山城國(京都府)の古地名。和名抄に久世郡羽栗郷あり、其地いま詳かならず、その地今の久世郡佐山村の一部に當るか。

ハクリ 葉栗 愛知縣尾張國の西北部。縣内十八郡の一。木曾川左岸に沿ひ、北及び西は木曾川を境に美濃國羽栗郡に、東は丹羽郡に、南は一宮市および中島郡に接す。面積三八・四八平方の小郡なり。木曾川の沖積地、濃尾平野のほぼ中央を占め、土地平坦肥沃、農耕に適す。郡の主要物産は綿・毛その他の織物にして郡内各町村いづれも染織工業地なり。次で農業・養蠶にて東部は主として養蠶に、西部は農業に主力を注ぐも之また多額の産額を挙げ、粟・粟・米を初め多・鶏・鵝・鵞等いづれも多く小郡ながら豊かなり。また北方村は木曾川漁業の中心をな

す。省線東海道本線西部を南北に貫通し木曾川驛を置くほか、國道・縣道網狀に發達し交通至便なり。郡内は宮田・淺井・木曾川三町外三村を含む。神紀神護景雲三年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は波久利と註し、葉栗・河沼・大毛・村岡・若栗の五郷を載す。平安時代の頃より木曾川の河道變じて郡を中斷す。天正年中豊臣秀吉は木曾川以西の葉栗郡を美濃に入れ改めて羽栗郡とす。

【葉栗村】愛知縣尾張國葉栗郡の北部。一宮市の北に接し木曾川左岸に沿ふ。東は淺井町に、東は丹羽郡に界し、北は木曾川を隔てて岐阜縣羽栗郡に界す。土地一般に平坦肥沃にして北部には桑園多く、他は水田開く。養蠶業發達し米・繭の産多き外、近時は織物業盛となり絹及び絹織交織物・毛織物等の産額多し。縣道四道し、省線東海道本線木曾川驛へ約二行、布袋野驛・一宮驛へ各四・五行を隔てバスの便あり。此地は和名抄、葉栗郡大毛郷・若栗郷の地にして明治三十九年光明寺村・大田島村・佐千原村を廢し新に葉栗村を置けり。舊郡役所のありし所。大字佐千原はまた佐手原ともいひ、神風抄に尾張國佐手原御厨とある地。本村及び草井村・宮田町・淺井町・北方村に亘る木曾川沿岸は風景佳にして且つ櫻樹多く、いま指定名勝天然記念物たり。【敬手神社】大字佐千原に鎮座。郡社。祭神、高水上神。垂仁天皇御宇、備姫命

ハクリュー 白龍湖 山形縣東置賜郡赤湯町にある湖。赤湯温泉の北東にあり、米澤盆地の東北隅にある沼澤地の遺りしもの。高度二一五米に位しほぼ三角形にして東北にお釜と稱する入江あり。面積は〇・〇三平方、深度三米、淺所は淨葉植物にて被られ、岸まで深田が開蕪さる。雄木と一本の小松の生えし大なる浮島あり。水色は褐色にて透明度一・五米、鯉・鱒を産し赤湯温泉の遊び

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクモ 白羊山 北下面(朝鮮全羅南道)

ハクモ 伯陽電鐵 社。米子市の米子市驛より鳥取縣西伯郡法勝寺村の法勝寺驛に至る一二・四行、及び西伯郡天津村の阿賀驛より鳥取縣東伯郡里村の里里驛に至る五・五行より成る。軌間一・〇六七米、動力は電氣、省線と連

ハクリー——ハクロ

場となる。

ハクリー 稲梁面 朝鮮平安

北濱鐵山郡の南部、鐵山面に南隣す。黄海に突出する鐵山半島の東南部を主要部となし、其の南方海上に羅列する椋島・炭島・大和島の三大島及び附近の小島嶼より成る。陸地部は東北—西南の方向に二〇〇—三〇〇米の丘陵連なり中部に高嶺山(三三八米)、西南端に舟山(三七九米)聳ゆるも、北部は鐵山平野の一部を成して農産に富む。海岸は小屈曲少からざるも、沿海は干潮時に泥濁を露すを以て良泊に乏し。農産に米・粟・大豆等あり、粟は良質を以て開ゆ。城内に幹線道路を通ぜず交通やや不便なれど、西北部の豊川湖は地方的交通の中心をなし此處に市場あり。椋島は牛島南端を距つる二軒、東西一〇軒に及ぶ山嶺の大山にて、西に連上車突出し、北岸には船倉浦・根浦の灣入ありて泊地を提供す。炭島は椋島の東南に深き水道を以て相距り、南北の長さ約五軒、土神峯(三〇三米)を最高とす。その東南に牛里島・桑島等、西南に灰島・小和島・大和島等あり。大和島は東西二・五軒、南北三軒、南端に高距二六四米の山聳え、南は崖岸を成すも北に低夷して大和湖部落に至る。島の西端に大和島燈臺(明治三十七年設置)あり。燈臺は連閃白光にして一八秒を隔てて十二秒間に三四光を發し、光達距離は二五哩に及ぶ。但し毎年結氷中は點燈を停止す。

以上諸島の住民は陸地沿海部の部落民と共に漁業を主産業とし、藪魚・石首魚・大刀魚・鰻・牡蠣・淺網等を漁獲す。

ハクリー 麥藁 成尾橋(臺灣)

【多寶街】 瀨音庄(臺灣)

【多寶街】 瀨音庄(臺灣)

【白備面】 朝鮮黄海道長淵郡の西南海上に横はれる白備島・大青島・小青島等の諸島より成る。佛陀山脈西南に走りて長山串となり其餘脈北降して白備諸島を成せるものにして諸島の配列は山脈の軸に一致す。白備島は北部に位置せる最大島にして、周囲約四五軒、面積四六・三平方軒、大青島は之に次ぎ周囲凡そ二三軒、中央に位置し、小青島は周囲一二軒、最南端に横はれる。各島何れも臺地狀を成し海崖頗る發達し、白備島は東部に港口を有する一大入江を抱く。一般に地味肥沃にして農産に適し、白備島には水田約五〇ヘクタールあり。又此三島は朝鮮西海岸に於ける主要漁場をなし、漁期には牛島島が勿論、内地より漁船來集し魚類を極む。産物は農産に米・小麥・豆類・粟・煙草等あり、放牧行はれ、水産物には石首魚を始め鰻・いかなご・鰯・鱈・鱒・海鼠・若布等多く、また近海に捕鯨行はれ、大青島に日本捕鯨株式會社の事業場あり毎年捕鯨船三、四隻出動し、十頭内外を捕獲す。また大青島には大理石を産す。墾殖は海岸に沿ひて分布し、白備島

に銀村里・蓮和里・加乙里・北浦里・南浦里等、大青島には大青里、小青島には小青里あり、銀村里を主邑とし、陸地部の豊津・徳洞等の間に渡船運路あり。白備島は古來兩班の流配地としてあらはる。また兩國の漢書を記せる頃には日本の勢力及び、同書に倭人住居すと見ゆ。蓋し同島は地理的關係より古く日本及び北支の海賊の根據地たりしもの、如く、高麗朝初期に銀將を置き白備領と稱し、李朝太祖また金使を置き近世に至り、李朝大祖の西端に小青島燈臺(明治四十一年設置)あり、連閃白光にて二〇秒を隔て二〇秒間に四閃光を發し、光達距離廿五哩吹鳴す。また無線電信を併置し船舶運路に關する事務を取扱ふ。

【白備島】 ↓白備面

【白備島】 ↓白備面

ハグロ 羽黒 鶴岡市の北東一四軒前後。山形縣東田川郡手向・立谷澤の二村境上に跨がる山。標高四一九米。月山(一九二四米)湯殿山(一五〇四米)と共に羽前三山又は出羽三山と稱せられ、修験道の靈場として善く世に知らる。この山、月山の北麓に接する小丘にて出羽山脈第三紀層より成る裂片地塊なり。西麓成川を距て、月山火山の泥流層と明に境界せらる。山頂に出羽神社あり、羽後神社とも稱し、古來東北無比の修験者の聖壇にして、推古天皇の御宇に創建せられ、神佛

混淆諸時代には羽黒大権現と稱し、七千の僧之を守り、隆盛を極めたりと。境内には三山神社の山祖と傳へらる。蜂千皇子(崇峻天皇の皇子)の社殿と御陵墓とあり。殆ど全山に互り巨大なる老杉茂り、石燈その間に點在す。月山と羽黒山との中間には植物帯の變化多く、老杉の鬱蒼たる喬木帯あり、また高山植物の繁茂を見る。山頂よりは北西方に酒田盆地の展開するを俯瞰し、その彼方に日本海の萬波を望見し、南方近く月山・湯殿山を仰望す。北斜面には精進瀧瀑布く。登山は多く北西方手向山より登る。これより月山・湯殿山へと三山を巡拜するを表口と云ふ。又冬季は月山・湯殿山登山は困難なる爲め多く羽黒山のみ詣りて、三山詣りに代ふ。神社に就きては、手向山を見よ。※月山・湯殿山

【羽黒】 水戸線の一驛(明治三十七年設置)。英城西茨城郡東部羽黒村にあり。

【羽黒村】 羽黒郡下野國河内郡の北部。宇都宮市の北約八・五軒、北は鹽谷郡大宮村に接す。全村概ね三〇乃至五〇〇米の山地にして、北部に羽黒山(四六八米)、西部に高嶺山(四七七米)聳立し、東南部に在臺地あり。羽黒山の西南斜面に發する田川は中部を南流し、北部を鬼怒川は分流をなし、西鬼怒川は東北境を南東に流る。河川沿岸には僅に沖積地ありて耕地開け、米・麥・粟を産す。縣道は東部を南北に通じ、田川に沿ふ街道を

ハクロ

分つ。村内には羽黒用水あり。この用水は元和三年宇都宮城主本多上野介の命により開通せしものにて、もと御用材木運漕のために造られしが、のち灌漑用水となる。大字中里は宇都宮氏の一族、氏家五郎兵衛公頼の二男、この地を領し中里氏を稱せり。(羽黒鐵山) 當村内に十三萬餘坪の鐵山を有する金鑛銅山。重要鐵山に屬し昭和十年には金鑛二、〇二八噸、この他額十五萬餘圓を出す。同年六月末の使用鐵夫四八人。(羽黒山神社) 大字今里に鎮座。郷社。祭神、宇迦之御魂神。後冷泉天皇康平年中の創建に係る。宇都宮城主奥平・戸田氏累代崇奉す。社地羽黒山は鬼怒川の右岸に聳え、古樹蒼鬱として風光絶佳なり。例祭、陰曆十月七日。

【羽黒村】 愛知縣尾張國丹羽郡の東部。大山町の南に接す。東部僅かに丘陵を含み他は平坦肥沃なる豊尾平野の一部に屬す。農業・養蠶共に盛にして米・蠶の産多く、製糸業も發達す。その他馬・麥・蔬菜等の産額亦多し。社名古所鐵道南に走り羽黒驛(昭和六年設置)あり、縣道縱横に走りて大山・小牧間にバスを通ず。この地は和名抄、丹羽郡小弓郷の内なるべく、大字羽黒は天正十二年、小牧の役に豊臣秀吉を築きて、堀尾吉晴・山内一豊等を置き、小牧山の徳川軍と相對峙す。三月十七日、家康の將、酒井忠次・松平家忠等これを襲ひ、家康方の美

鹿可兒郡金山城主森武藏守長可の敗走して多くその精銳を失ひし地。(鳴海神社) 大字羽黒に鎮座。郷社。祭神、山神・多良神・高松加美神。延喜の制、國幣の小社に列し、尾張國神名帳に「從三位鳴海神(天神)」と見ゆ。古來地方民の崇敬篤きものあり。例祭、九月一日。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

ハグロ シタ 羽黒下 青嶺小海嶺の一驛(大正四年設置)。長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

ハグロ シタ 羽黒下 青嶺小海嶺の一驛(大正四年設置)。長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

ハグロ シタ 羽黒下 青嶺小海嶺の一驛(大正四年設置)。長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

【大阪】 長野縣南佐久郡青沼村にあり。

【大阪】 博愛堂(大阪)の口の千鳥の東にありし瀧名。後その附近の名稱ともなる。地形の變によりて明かになし難きも、いま大阪市西區新町の邊なるべし。大阪冬の陣の時、豊臣方の蒲田兼相陣を此の地を設けたり。

ハクロ

ハコサキ

箱崎

福岡市の東に接して博多灣に臨む。筑豊の平野開けて地形低平なり。多々羅川の福岡市との間を西北に流れて西部にて北に折れ村を貫きて北境より海に注ぐ。北

ハクロ

ハコサキ

箱崎

福岡市の東に接して博多灣に臨む。筑豊の平野開けて地形低平なり。多々羅川の福岡市との間を西北に流れて西部にて北に折れ村を貫きて北境より海に注ぐ。北

はこの外、樺太・千島方面に至る中心港として、函館新加坡線・函館大泊線・函館小樽線・函館鹿部線・函館札幌線・函館釧路線・函館根室線・函館樺太線・函館古守線・函館能登線・函館安別線・大阪函館線・函館能登線・函館安別線・函館下北線・函館三陸線・函館大館線・函館函館北線・函館室蘭線・函館基線あり。昭和十年の運輸乗降客は八三六、〇一人なり。陸上交通はこの地より函館本線發して函館群(明治三十七年設置)を置き、宗谷本線及び室蘭本線と共に北海道を縦貫し樺太に至る基盤に當り、札幌(六時間半)(二八六・三軒)、稚内(一七時間半)(六七八・七軒)、根室(二四時間(八二〇・四軒))にて達し昭和十年の函館乗降客は一八二〇四七人、到着貨物は三二五七七七噸、發送貨物は六九七六九噸なり。市内交通は社線帝國電力電車市内線が、樺太・大門前間を通じ、更に湯川町に至る湯ノ川線に接続し、また乗合自動車もあり都市交通發達す。本市を都市地理的に見れば、本市は従来歴大火に遭遇しこれを機会として街路を整備し、また海岸一帯は埋立をなせしも職員は概して狭小なり。近年漸く市街化せしは郊外の街路は未だ雖然たるを免れず。連絡船機を中心とする低洲の地域は商業區にして、殊に、地蔵町・末廣町・恵比壽町は繁華の中心地にして、市役所・郵便局・銀行・會社・新聞社等多く集ま

る。函館山を繞る山麓地帯は住宅區にして波島支廳・領事館・道廳出張所・函館地方裁判所・津輕警察司司令部・函館關國司令部等はここにあり、また函館公園もありて園内に函館館・水産陳列所等あり。その外縁に連なる樺太町・西濱町及び北岸の海岸一帯は工業區にして、また税關・測候所・榮港事務所等あり。山背泊町・相生町・住吉町も將來漁港としての設備完成の曉には近海漁業による水産物の加工地としての發展が豫想せらる。市の北部の五稜郭及び千代ヶ岳方面は住宅區をなし、これより東方には重砲兵大隊・騎馬場・陸軍射撃場・射野綜合運動場あり。

の管領する處たり。而してかの信廣は後に松前氏の祖となりし人、政道は波道の後ヲシロケシの地即ち今の函館山の麓に館を築く、その形、館に似たるを以て箱館の名出づといふ。當時の領主は單に和人のみに君臨したるもの、されば其頃既にワシロケシには治領するに足るだけの和人居住したること明かにして、殊に東隣には志濃里館(今の磯島津村の内)ありて小林良景これに居り、西隣には茂別館(今の茂別村の内)ありて安東宗政これに居りしかば、箱館の勢力範圍は大體いまの箱館市都市計畫區域を出づることあらざるべし。當時此邊は和人とアイヌ人の接觸地にして兎角感情の衝突多かりしが、偶々康正二年志濃里の和人がアイヌ人を刺殺せるより端を發し遂にアイヌ人の大集團的蜂起となり、翌長祿元年五月東部の酋長コシヤマインは夷衆を率ゐて先づ志濃里館を陥れ、次で同月箱館を陥る。當時和人は口蝦夷(北海道入口)のみならず、館十二ありしが十まで攻落せしめらる。此時武田信廣の功により挽回せしが、此の河野氏振はず、他の館主と共に信廣の子孫に一統せらるるに至る。信廣の子孫は松前氏を名乗り蝦夷地を一統し函館に築き、シヨクヲを以て關所となす、これ東蝦夷地の關門たり。蓋しシヨクは今の龜田と改稱せられしが、今の龜田村のみの地域にはあらず、函館市の一部をも含む廣き地域にて、關所の所

在地は今の函館市と龜田村との間にありしなるべし。されど箱館の繁華は千島、北海道へ外國船の出沒し始めし後に於て著しきものあり。即ち幕府は外國に對する松前氏の力に不安を感じ蝦夷地を直轄す。かくて従来内地と北海道との間は多く三瓶・函館の航路をとりたりしも、江戸と北海道との交通頻繁なるに及び之を不便として冬季運天候なる時を除き多く佐井・箱館の航路をとるに至る。船の輻輳は船割を設け荷役の便を計る等のこととなり、また埋立をなして會て北海道には無かりし造船所の建設ともなりて箱館は愈々港としての設備を要するに至る。剩へ露國の千島來使は箱館・樺太の航路を開く(高田屋嘉兵衛に依る)基となり、これはまた北海道東海岸諸地の物産を箱館に集中するの結果を産み、更にこの多數の集積物は江戸との航路感んになりたるため、江戸を始め水戸・仙臺等の新設路に移出さるに至れり。一方幕府は遂に享和二年蝦夷奉行(のち箱館奉行と改む)を置きしが、奉行は文化初期に越後・南部より農民を募集して箱館地方に移住せしむ。即ち小屋・農具等を給して開墾せしめしが之れ官募移民の濫觴とす。其の後箱館奉行は廢止せられしも箱館の繁榮にはさして影響なし、されど交通・運輸・漁業・商業等、箱館を根據に活躍したる高田屋の遺産(天保初期)は箱館にとりて大なる傷手なりき(當時は嘉

兵衛といひ金兵衛の時代たり)即ち當時蝦夷地三港の内、函館・江差には資産萬を以て數ふべきもの何れも六、七軒はありしかど、箱館にかかる大商家は高田屋一軒なりしなり。然るに安政元年神奈川條約の結ばるるや箱館は開港場の一となり再び發展の要因を握るに至れり。即ち箱館奉行は再び開始せられ、國防上安政二年頃より御手作場と稱する官費開墾農墾を始め、また安政六年以後官費開墾費を貸與して植民を計りたり。次で箱館商人にして移民を募集し開墾を企つる者あり、かくて文久二年頃には箱館附近に十一箇所の開墾地を生じ、箱館は高田以外に背後に農村を得て非常なる強味を持つに至れるが、其後の發展を見るに箱館は矢張り商港たる事が殷盛を招來せし主因にして、明治に入りて漁業の根據地となり愈々榮えたり。幕末以後の發展を人口の上より觀察せんに、先づ松浦武四郎の東西山川地理取調圖安政人別によれば北海道にはアイヌ一萬五千七百餘人、和入八萬六千三百餘人にして、その和人のうち樺石六千三百餘、江差地方二萬餘、函館地方三萬餘にて箱館地方また三萬餘とあり、北海道唯一の城下町函館とは比較にならざる箱館が、その繁榮此頃には既に函館に迫るに至りしを知るべし。なほ箱館のみの繁華は安政三年約九千八百人、翌四年には一萬人を超え、明治元年には一萬八千六百餘人なるが、な

は函館に及びざりきといふ。然るに明治に入りて間もなく函館を凌駕し、かくて第一回國勢調査(大正九年)には函館の約四千四百人に對し函館は十四萬七千餘人といふ大なる開きを持つに至り、更に今日にては二十一萬人を超ゆる大都市となれり。國勢調査以後の人口増加率は左表の如くなるが、昭和五十年に増加率人口増加率(千人に付)

Table with 4 columns: 全国都市平均, 函館市, 湯川町, and 人口増加率(千人に付). Rows show data for 大正九年, 大正十五年, 昭和五年, 昭和十年, 昭和十五年, 昭和二十年, 昭和二十五年, 昭和三十年, 昭和三十五年, 昭和四十年, 昭和四十五年, 昭和五十年.

寺濱館別院の門前に建つ。始め天保四年陸奥國乗寺の僧法基(のち堀川兼經と改む)函館に來り、一寺を創建し願乗寺と稱せしが、この地の飲料水に乏しきを憂ひ、本山東部西本願寺に建築し新築の開墾を企て、箱館奉行の允許を得、安政六年五月工を起せり。川底掘三間、延長四十九町七間二尺五寸、橋を架すること八、龜田川の水を引きて箱館内に注がしむ。萬延元年の功績を重しこれを願乗寺川と呼ぶ。碑は元の功績を重ししものにして、高延元年幕吏鈴木重尙(茶漬)の撰文たり。門前に築したる橋を願乗寺橋と呼びしも、明治二十年新川開墾の後に廢溝となり遂に埋立てらる。なほ東川町・西川町の名はこの川より起れりといふ。

産地として知らるるも、夏季は好箇の水泳ブーム、冬季は市廳一のスケートリンクとなる。

面館と改稱せられたるものなり。〔面館八幡宮〕各地頭町に鎮座。國幣中社。祭神聖田別命。相殿に住吉大神・金刀比羅大神を祀る。社傳によれば文安二年に當國龜田郡の領主河野加賀守政通、古の館址に築城の際その東南隅に城塞鎮護の神として八幡神を勧請せるに創まると云ふ。永正八年、政通の子秀通は蝦夷軍と戦ひ利あらずして戦歿す。一族即ち神輿を奉じて河野赤川村に遷移す。爾來一百三十餘年を経て慶安年間、河野伊知女なるもの當社を赤川村より舊館地に奉遷すと云ふ。新くて正徳年間、舊館地を太夫代りて之に奉仕し以來運船として明治十年に及ぶ。初め河野氏の失脚するや松前氏これに代り當社の崇敬意らざりしが、寛政十一年正月幕府は東蝦夷を直轄とし、箱館奉行所を設置するに及び當社もその用地たるを以て會所町に奉遷す。文化元年に幕府は社殿を造替し、箱館奉行また令して三年ごとに祭祀を行ふべきを定む。當社はもと一葉族の私社たりしも、安政六年六月箱館を開港場となすや當社その地鎮守となる。爾來當國の名社として官民の崇敬深く、明治四年七月北海道開拓使より崇敬社に指定せられ、同年五月廿八日國幣中社に列し、翌年と翌々年に兩度頻焼の厄に遭ひ同十三年十月現社地に奉遷し、官費を以て造替、同廿九年國幣中社に昇る。現社殿は大正七年の再建なり。境内三萬六千九百餘坪、

昔後に奇蹟懸崖、白雪時には御尊を發する面館山を負ひ、陸奥の大瀧、波島の湖首の二神に遠く煙波の間に駕見、宇賀浦の香浪、住吉濱の潮音また指呼の間にありて、面館市街をその脚下に俯瞰す。朝暉直射、夕陽垂々の貌、當地八景の隨一と稱せらる。例祭、八月十五日。〔東照宮〕蓬萊町に鎮座。縣社。祭神、徳川家康。光格天皇御宇の創建。元禄年間、露人初めて此地を窺ひ寛政年間には千島全島を窺食す。光格天皇深く宸慮を憐れ給ひ幕府に命じて之を撤ばしむ。幕府は朝廷許可の下に東照宮の神靈を日高國樺太の里に鎮祀す。これ當社の創めなり。安政年間、幕府は五稜郭城を築くに及びその鬼門に當社を奉遷して蝦夷地守護の大神として鎮め奉る。明治二年兵燹に罹り社殿賣物を灰燼に歸し、同七年六月各地頭に移し何十一年現社地に奉遷す。例祭、六月十七日。〔山上大神宮〕船見町に鎮座。縣社。祭神、天照大神・豐受大神。もと神明宮と稱す。蝦夷島奇蹟に「神明宮・鎮座未詳」とあり。但し天和八年に龜田村舊社地より當國片町に奉遷せる由、當社明細帳に見ゆ。明治七年現社殿に改む。其後、二度の大災に遷座ありしも同三十五年に現社地に奉遷す。例祭、七月十六日。〔高龍寺〕臺町にあり。曹洞宗。龜田山。法源寺第四世芳叢これを龜田村に創建し、寛永三年現地に移る。

〔實行寺〕船見町にあり。日蓮宗。一乘山。明暦元年清寛この地に草庵を結びしに創まる。明治十七年身延久遠寺に屬し同二十三年北海道開拓となる。〔稱名寺〕船見町にあり。淨土宗。護念山。正保年間開創の開創に係り、はじめ龜田村にありしといふ。〔新法蓮寺〕相生町にあり。明治元年創建。開山は好見法印なり。本尊大日如來を安ず。〔面館別院〕東川町にあり。眞宗本願寺派。天保四年但馬の大瀧、本山の命を奉じて當地の豪商國領平七の助力を得て本願寺掛所を置く。萬延元年本掛所を願乗寺と稱し、小幡の願乗寺をその出雲所となせしが、明治十年改めて本山別院となす。同四十三年洋風極楽瓦造の本堂を新築す。〔面館別院淨支寺〕元町にあり。眞宗大谷派。寛永十八年福山蓮華寺六世淨支當國上通郡木古内村に遺蹟を創建せしに始る。のち箱館に移り、安政五年本山掛所となし。明治九年に五里本山別院となる。本堂は十八間四方面にして鐵筋混凝土造りの近代建築なり。〔高野寺〕青柳町にあり。古義眞言宗。北南山教王院。明治十六年越後の曾佐伯本弘當地に布教中これに創建す。もと東川町にありしを、同二十三年現地に移す。〔天壽寺〕春日町にあり。天台宗。福聚山藥王院。延暦寺末。嘉永元年の創建。

智周房廣照を開山とす。本尊藥師如來は派僧の作なりといふ。〔面館線〕省線の一線。面館本線・江差線・瀬棚線・京極線・札沼線・幌内線・歌志内線・手宮線・岩内線及び幌加内線の混稱。〔面館本線〕省線面館線の幹線。北海道波島半島の南部。面館市の面館驛より長萬部驛(釧路國山越郡長萬部村)・俱知安驛(釧路郡俱知安町)・小幡驛(小幡市)・札沼線(札幌市)を経て旭川市の宗谷本線旭川驛に至る四二五・一軒と、石狩國空知郡砂川町の砂川驛より同町の上砂川驛に至る七・三軒、小幡市の小幡驛港驛より同市の濱小幡驛に至る三・二軒及び空知郡美瑛町の美瑛驛より同町の南美瑛驛に至る三軒の貨物支線を含む。旭川驛より稚内驛に至る宗谷本線、長萬部驛より東に至る空網本線と共に北海道を縦貫し樽水に通ずる要路に當り、三線を連絡直通する急行列車によれば面館より小幡まで約五時間半、札幌までは約六時間二十分、旭川まで(空網本線線路)約九時間、稚内まで(空網本線線路)約十七時間半にて通す。〔面館港〕北海道本島の西南端。波島半島の南端は、謂ゆる面館地盤線によりてハの字形に對向し、その内に抱くことよる面館港といふ。灣口は大鼻崎と葛登支岬とによりて扼され、その中に面館港の灣入を形成して巴狀をなす。されば面館

港は一名巴港とも稱せらる。面館港は西南側を面館山に隔られ、東北より西南へは灣の靜波を隔て波島本土の山々に對し、東南側は陸奥島の低地に完全に外洋の波を遮りし天然の良港なり。加ふるに港の西北面館灣に開きし部分には、延長九一八米の西防波堤が突出し、これが第二期計畫によりて更に約六六六米増築さるる予定なり。それと約三六三米の港口を隔てては延長約一〇九〇米の北防波堤が築造さるる予定にて、更に西北端、七重濱より北、延長四八五米の第三防波堤が西南方に向つて突出し、第一防波堤(四五四米)・第二防波堤(四五五米)と共に風波の危險より一層完全に防護さるる計畫なり。港内の被覆面積三八八三平方水深は最深一四・八米、平均水深は三米乃至九・一米なり。東岸及び南岸には埋立工事が進行中なり。現在東南岸には鐵道連絡岩壁が出来、第二期計畫にては一層大規模に七〇〇噸級船の第一號、第二號の埠頭、その繋船岩壁七六〇間が埋立地先に出来る予定にて、深さも平均七・一〇米に淺深さるる筈なり。別に市價によつて海岸町、西濱町港灣修築工事岸荷役を可能にし、東南の住吉町先には遊樂漁港を築造する計畫なり。

ハコネ 箱根 〔箱根町〕 神奈川県相模國足柄下郡の南部。蘆ノ湖の東南岸にあり。西は静岡縣田方郡の一部と隣る。南境に鞍掛山(一〇〇四米)あり。これと湖水との間の狭き平地を東海道通じ、町はこれに沿ふ街村として發達せしものなり。蘆ノ湖は富士を望みて風光佳良なり。東海道は西境箱根峠(八四九米)を経て静岡縣に入り、又箱根峠より分れ、南走して十國峠を経て熱海市に至る自動車専用道路あり。また小田原町・上野原方面、三島・沼津方面等へ何れもバスを通ず。町は徳川氏が政策上天下の要路東海道を通じ且つ江戸警備上關所を設置せるより箱根町として發達せるもの。即ち二代將軍秀忠が元和四年川越城主平正綱に命じて箱根宿驛を開かしめ、小田原及び三島の町民を移せしめしもの。市街は地形の制約とその宿驛たる職能上より街村をなし、中央部にある箱根史料陳列館より南部は三島町、北部は小田原町等の字名を存す。常町より東方小田原、西方三島へ各々四里にして所謂箱根八里の中間驛の宿驛をなせしもの、市街の北端に當時の關所跡及び見返り松あり、北方堂々崎には箱根陣宮あり。青嶽東海道線の開通後急激に寂寥のため登山鐵道の開通と共に遊覽避暑の客を招致し、町民は箱根細工の製造・旅館・土産物店・案内業等を生計とす。

大正十二年の關東大地震の災害を受け、更に昭和四年の北伊豆大地震には殆ど全滅の慘運に遭遇せしが、今や復興して面目を改む。〔箱根町〕箱根町の東方にあり、江戸時代箱根の關所として世に知らる。その起源は明かならざるも、承久の亂當時、既に東麓に國關尾・箱根兩方遺蹟とあれば、此頃より東海道の要衝として往來を審閲せしこと分明なり。但しその場所が明らかならざるも元箱根村の邊にありしものと思はる。また鎌倉の圓覺寺文書に康暦二年六月箱根山茶川宿の邊に關所を構へ、その征伐を以て同寺の造營料に充てたること見ゆ。この茶川宿は今の元箱根村の邊ならんと言はる。また同寺應永十三年の文書には、箱根山水呑(水呑)關所云々と見ゆ。水呑は伊豆山中新田に其の名稱遺れば、この邊にも關所ありしものと見ゆ。然るにこれは天正七年北條氏が山中城を修築せし時に、城構の中にこれを取入れたらしといふ。江戸幕府に至りては元和四年箱根宿(今の箱根町)の東方、湖水端に關所を設けて往來を改むることとなり、小田原城主をして預り警備せしむ。關所の通行には手形を要し、中には婦人と鐵砲とに對しては殊に査閲厳重なり。關址はいま指定史蹟たり。〔箱根關所考古館〕箱根關所址の近くにあり。關所の遺物と、ここに關所の旅館を營み居りし當時の本陣に残りし古文書などを陳列して一般の觀覽に

供す。各種の關所通行手形・印籠・制札・繪圖などがあり、本陣宿泊簿の一冊には大石良雄の名を存し左の如き記録あり。〔島目二貫外淺野内匠權御家老大石内藏助盛、但風呂代とも〕 〔箱根山〕また箱根山・面館山にも作り、一に箱根ともいふ。富士帯火山脈に屬する標式的二重式火山にて、伊豆半島の頭部を扼し神奈川・静岡の兩縣下に跨る一大火山。南方は伊豆半島の女岳火山及び天城火山に連なり、北は足柄崎によりて丹澤山塊に連なり、西北は富士の秀嶺に接す。箱根火山の噴出は富士山より古く南方の女岳より新しく、伊豆半島中央部の天城火山とほぼその生成の時代を同じうす。中央部に噴出の列産せる火山群あり、之等を圍繞して箱根形をなせる外輪山あり。外輪山中の最も雄なるものは北部の金時山(一一一三米)を最高とし、其西方に乙女峰(一〇〇〇米)・九嶽(一一五四米)・長尾崎(九〇三米)・三國山(一一〇二米)・箱根峠(八四九米)・鞍掛山(一〇〇四米)・鷹巣山(八三七米)・明星ヶ嶽(九二四米)・明神嶽(一一六九米)等の諸峯聳ゆ。外輪山の長標は略南北に互り金時山より鞍掛山に至る約一二軒、東西の短標三國山より鷹巣山に至る約六・五軒、穴口内面積約二四五平方、その穴口の廣大なること九州の阿蘇火山を除きて他にその比を見ず。穴口原は踏鐵敷をなして西南部に瀧水したるもの、これを蘆ノ湖

と北に仙石原・宮城野あり。中に箱根町・湯本町をはじめ温泉村・宮城野村・仙石原村・鹿之湯村・元箱根村の二町五箇村を含む。即ち宮城野はその始めユニカルの單式火山なりしが、火山活動力の減退とともに上部岩層して湧る噴火口を生じ、噴火口は水を蒸へてほぼ圓形のカルデラ湖を形成せしものなるが、更に火山活動の復活によりて火口の中央にトロイテ式の新火口丘を噴出し、東南隔より斜に北北西の方向に下雙子山(一〇六四米)・上雙子山(一〇九一米)・駒岳(一三二七米)・更に神山(一四三九米)あり。これを最高點とす。やや離れて北西に臺ヶ嶽(一〇五四米)・小塚山(八五三米)等がほぼ同一方向に列座す。而してこれ等六箇の火口丘は駒ヶ岳を除きては同質熔岩より成り、駒ヶ岳のみその地質を異にし、この噴出を最後として箱根火山の生成を完了せしなり。而してその後神山の中間に大涌谷(大地獄)・早雲地獄・小涌谷(小地獄)・湯ノ花澤・破雲山等の爆裂火口を生じ、殊に大涌谷の爆裂火口は最も大なるものにて、神山の山體の北半部を吹き飛ばし、ために現存部は鳥帽子の如き奇形に變じ、現在の荒蕪ななせしものなり。爆裂火口内にはいままは各所に亞硫酸ガス及び硫化水素等の瓦斯を水蒸氣と混じり白煙霧々としてその餘勢を示す。而して蓋ノ湖の水は火口湖となりて北方の御坂より流れ出て仙石原を

貫流し、小塚山の北麓より浸蝕の度加はり木質・宮ノ下と順次下るに従つて愈々垂直的浸蝕度を高めて峡谷をなし、湯本に至つて西南より来る一火口湖須雲川と合し、東流して小田原町の南端に於て相模灣に注ぐ。なほ雙子山西麓には精選池等あり。箱根山の名は富士・日光と共に廣く世界に知られ、昭和七年十月を以て富士箱根國立公園に入る。山内各所に温泉湧出するもの今は十四湯を算し、保養の地として其の名天下に著る。なほ蓋ノ湖南岸の海岸線には氣象觀測所があり、その南方に航空無線局ありて箱根の氣流を飛來の航空機に報じ、南方迄なる十國時には我國最初の航空燈臺あり。會我會稽山・四「款」な駒に勢付けてハイサイ、足柄越は風流く、露を露の箱根山、今行く道も、証に行く雲の河原のいつとも、大人童の隔てなく、誰は重たし進ひは深し、何が菩提の道と成る、機梅々々、機梅々々」箱根は相模の西方に連なる山嶽の汎稱にて、本州の中部を穿斷せる富士火山脈に屬し、その東西によつてやや風土を異にす。山道は古來箱根八里と云はれた天下の險を以て語はるものにしてその名は既に萬葉集に見え、足柄の箱根と稱せらる。蓋し古の東國に至る官道は専ら足柄路によりしものなりしが、富士山噴火し晝夜砂塵を飛ばせしを以て、桓武天皇の延暦二十一年正月勅して駿河・

相模兩國に命じ讀經して以て英映を撰しめ、次で五月には「廢相模國足柄路」開。管御途、以て富士燒石塞道也云々」と見ゆ。蓋し管御途は即ち箱根路にして噴火の爲に道路が閉塞せしによる。而してその翌年五月には再び足柄の舊道が復し、箱根路を廢せしこと見ゆ。これ箱根路は險難なるが道程近きを以て、依舊これに於ける旅行者ありしものなるべし。かの保元物語に、源爲朝、坂東に城郭を構へて足柄箱根を塞ぎ京都に當らんとせしこと見え、東鑑には頼朝の石橋山敗戦ののち、北條時政・義時父子が箱根路により甲斐に赴くとあり。承久の亂には兩道を固めしこと見ゆ。こののちの紀行文例へば更科日記・海道記には足柄路、十六夜日記・東國紀行には箱根路を通れるを見れば、その時に應じて兩道とも往來せしこと分明なり。されど當時は本道として足柄、間道としては箱根を通る人多くなりしこと、道興の福地記、宗牧の東國紀行を始め、北條・今川二氏の往來等によつても明かなり。江戸時代に至りては箱根を本道と定めしが、それまでは箱根は間道たりしなり。この時代の箱根路は難かからざるも、大體、湯本村より湯坂を登り、栗葉山の上を經て蓋の湯へかかり、元箱根に出でしものと推定せらる。然るに江戸時代に至りては、東海道は京都と江戸との聯絡上最も重要な往

還となりしを以て、多少險難なるも、最捷徑の道を選びし結果、足柄の迂遠を棄て箱根の間道を修理し、須雲川の谷を通り湯本宿に至る街道を以て官道となすに至る。これ實に元和四年のことにして松平正綱が命を奉じて路を開き、三島・小田原兩藩の住民を移して新たに宿驛を設けしもの即ち箱根宿なり。箱根宿と湯本宿との間には畑宿あり。而してこの箱根路にはもと墨石を敷きしが、これは文久二年に時の將軍徳川家茂が攘夷の謂動によりて上落をすることとなりしときに、始めて敷きしものなり。今はこれ撤去す。然るにこの箱根路も今や自動車道完成し、會ての天下の險も今や全く舊觀を失ふに至れり。【箱根温泉】箱根山中にある諸温泉。その所在地は飯間村に亘るも、それ等を總稱して箱根温泉と稱す。古來箱根の七湯と稱し小田原町に最も近き湯本(一五〇米)を始め、塔ノ澤・宮ノ下(三九〇米)・堂ヶ島・底倉・木質(三九五米)・蓋湯(八五〇米)等が湯ノ町として榮えしが、交通機關の發達と京濱大都市の急激なる發展に伴ひ、遊樂保養地としての繁昌に從ひ温泉場の數も次第に多くなり、強羅・小涌谷・姥子・仙石原・湯ノ花澤等最近にては十五湯を數ふるに至る。以上温泉の分布を見るに、何れも神奈川縣内に屬するもののみにして静岡縣に屬するものは一つも見ず。それは温泉の湧出の

箇所と地形とが最も密接なる關係を有するものにして、最も多きは早川火口湖に沿ひたる部分にして、入口より數へて前記の湯本・塔ノ澤・宮ノ下・堂ヶ島・底倉・木質等の六湯にして、火口湖のため火山體が深く下方に浸蝕せられし結果にして、第二は中央火口丘の周縁の、多くは爆裂火口より湧出するものなり。強羅温泉は早雲地獄の硫氣孔にその源泉を仰ぎ、大涌谷の硫氣孔より出づる熱湯はその下方の仙石村に仙石上湯・仙石下湯・仙石元湯・後石の四温泉場を設立せしむ。小涌谷にも小地獄の硫氣孔の湯を引きて浴場の設備あり、湯ノ花澤爆裂火口にも温泉湧出す。後者は何れも近代に新興せし温泉場なるも、以上の外中央火口丘系の温泉に屬するものに廣湯・姥子の二温泉古來有名なり。更に泉質による分類を見るに、火口湖に沿ひて湧出する温泉はいづれも鹽類泉もしくはこれに準ずる單純泉にて成分も類似し、温度も殆どの湯本が一〇〇度にて一番低く、高度を増すに従ひて温度も高くなり底倉にては一六七度に達す。中央火口丘の周縁に湧出する温泉は姥子の鹽類泉を除く他は硫黃泉または酸性泉にして、鹽湯を除きては概して高温なり。以上の如く、箱根山中は潤澤なる温泉と泉質に富む上に雄大な火山地形の美に抱かれ、且つ温泉場として保養地としての條件たる交通機關の便は登山電車・登山自動車・ケーブルカー、

湖上オートボート等によりて遊樂なく備はり、相模・駿河の海濱は指呼の間にありて鮮魚は意のままに得られ、一日の清遊にて老幼婦女も樂に周遊が試みられ長き湯治にもあかぬ風光と山海の美味があり、温泉場としての好條件を具備せる保養遊樂地なり。【箱根登山鐵道】社線。神奈川縣足柄下郡小田原町の香線東海道本線小田原驛より早川の峡谷に沿うて箱根湯本驛・塔ノ澤驛・宮ノ下驛・小涌谷驛を經て、宮城野村大字強羅の強羅驛に至る一五七の軌道線と、強羅驛より同村の早雲山驛に至る一・二杆のケーブルとより成る。なほ小田原驛に於ては社線小田原急行鐵道及び大雄山鐵道とに連絡す。軌道線は軌間は一・四三五米、動力は電氣。鋼索の軌間は一・四米。【箱根ヶ崎村】東京府武藏國西多摩郡の東部。青梅町の東方約七杆にある小村にて、北は埼玉縣入間郡元狹山村に隣る。東境附近は狭山丘陵の西端をなし、村の大部分は武藏野臺地の一部を占めて畑地多く、麥・粟・米を産す。青梅街道は中部を西走して青梅町に通じ、登落はこれに沿ひて發達す。省線八高線は中央を北走し箱根ヶ崎驛(昭和六年設置)を置く。この地は武藏七室村山堂の根據地たり。いま殿ヶ谷村・石畑村・長岡村と組合村をなし、役場を本村に置く。

ハゴロモ 羽衣山 富士山の別稱。ハザ 波佐村 鳥居縣石見國那賀郡の南部。濱田町市街地より東南約一〇杆にあり。西南隅は美濃郡に隣接し、南より東南部一帯にかけては廣島縣山陽郡に界す。村形西南より東北に長く北部にて東西に幅を增す。四周山岳に圍繞され西南隅に彌波山(九六四米)あり。南境及び東境には大佐山(一〇六九米)・雲月山(九一二米)等聳ゆ。彌波山に發する周布川は南部中央を東北に貫き下流し、雲月山西麓に達して西北折し西北部より隣村に出づ。河谷に沿ひて北半にやや低地開け、北部に此谷に連りて東北に延ぶる狭長なる低地あり。米を主とする農産、木炭を主とする林産及び畜産等あり。外に工業品として清酒あり。縣道は中部及び東部を共に西北より東南に貫き濱田町へバス通す。この地は和名抄、那賀郡久佐郷の内なるべし。周布川かはしんじゆかひ棲息地は指定天然記念物たり。ハサキ 波崎町 茨城縣常陸國鹿島郡の東南端。利根川口の北岸にて千波縣綾子市と相對し、東北部は鹿島灘に臨む。全町平地にして海岸は單調なる砂濱をなす。漁業を主とし、大部分鹽漬業に従事し、設備の完備、油鹽高及び製品の多量なることは全國に冠たり。町の西部にては農業行はれ、米・麥を産す。その他、藤表の製造業にして全國一なりしも、現在は稍衰微せり。利根川沿ひに縣道あり。

ハサマ 追川 宮城縣にある北上川の一支。栗原郡の西北境に發する栗駒山の南斜面に發する一追川・二追川・三追川が、大同村・志波村附近にて相合し追川となり、更に伊豆沼・長沼の水を合せて、卑濕地を曲流をなして東南流し、登米郡・遠田郡境にて北上川に合す。ハザマ 迫間村 熊本縣肥後國菊池郡の北部。菊池川上流の北岸に位し、隈府町の東北に接す。稍東北より西南に長く中央は南・北行境迫りて狭し。東北境に女鞍岳(六二五米)聳えて西南方へ傾斜し全村概ね其の斜面地を占む。南境に沿ひて菊池川西南流し、西部には其支流迫間川西南に流れ約七杆西南に至りて兩者合す。川に沿ひてやや耕地を見る。農産・林産あり。隈府町より来る縣道中央を東に貫きて北方日田町に通じ隈府町へバスの便あり。この地は和名抄、菊池郡上甘郷の地なるべし。村内に寺尾城あり、延元二年、菊池武重の立錫れる要害なり。〔興福寺〕日蓮宗。淨業山と號す。文明

ハサマ——ハサン

年中の創建、開基を地頭限部氏とす。寛文六年限部町妙壽寺開山元上院日圓上人これを再興す。

ハサマ 挾間村

大分縣豊後國大分郡の中郡西端。大分川の北岸に位し、大分市の西南より約三軒西にあり。東西に細長き村なり。大部は山岳地をなし、南境を東流する大分川沿岸に低地あり。農産・林産・畜産あり。川の左岸に沿ひて縣道走り大分市に自動車を通じ、また省線九大線これに沿ひて通過し、向之原驛(大正四年設置)・東瀬驛(大正十四年設置)あり。この地は和名抄、大分郡阿南郷の内なるべく、近世は買來郷に属す。〔龍祥寺〕 大字挾間にあり。臨濟宗建仁寺派。觀翠山。應安四年國主大友氏の先祖挾間四郎直重の創建にして、開山は放生光林なり。境内に挾間氏累代の墓碑あり。

ハサラ 婆娑羅山

天城山脈南西支脈に隆起する一峯。下田町の北西方一〇軒前後に當り、靜岡縣賀茂郡檜杵村と中川村との境上に位し、標高六〇八米。西針山より中川發源し、西流して駿河河に注ぐ。

ハサン 巴山

愛知縣額田郡にありし村。明治二十三年榮枝村と改稱、同三十九年榮枝村外二村を廢し豊富村を置く。

ハサン 馬山

朝鮮黃海道豊津郡の北部。北境には龍津山・國府山(五二七米)等聳立

ハサマ

し、西境には秀峯山・白雲峰等聳え漸次東南に向ひて傾斜し、東南部は低平にして沃野相連なり。木は康留江の滯入に臨む。住民は勤儉にして農に従事し、鹽津邑に於ては商業行はる。産物は米・小麥・大豆・雜穀・人参・栗果・牛等あり。水産物には淺網・海草等あり。また秀峯里附近より金・銀を出す。社線龍津海線は東より來り新康嶺・冷井の兩驛を経て鹽津驛を終點とし、海州へは四〇軒、一時間餘にて達す。道路は鹽津邑を軸とし二等道路を東北方豊野里、東方康留里、西方邑底里に通じ、また南方龍洞島里、北方善灘へも各バスを通ずる他、等外路線放射狀に通じ、陸上交通極めて便なるも水路は沿岸泥堆を繞らし船の出入極めて不便なり。聚落は南部に多く分布し、馬山を主邑とす。此地は通稱鹽津邑と稱し、交通の中心たるのみならず郡政の中心をなし、郡廳・地方法院出張所・金融組合・農林業組合等あり。陰曆一、六の日に開く市場は取引活潑にて年取引十餘萬圓の多きに達す。邑の西端には馬山温泉あり、サウナ・温泉・湯治場を有し、度六七度、放射能作五・二六マツハを有し皮膚病・胃腸病等に特効あり。地方民の東浴する者多し。

〔馬山面〕 朝鮮黃海道平山郡の西南部に位置し、郡邑南川川の西南方約三〇餘軒にあり。嶺山(三五五米)・角虎山(五〇三米)・冠嶺山(四四六米)・國士峰等

西北境に聳え、更に北部中央には金剛山(四〇四米)屹立し、西北部は一帶に山地を成せども南半部は丘陵地帯にして比較的平坦面多く、耕地よく發達す。物産は米・小麥・大豆・粟等に於て又煙草・人参等の特殊産物あり。道路は京義線南川驛より海州邑に到る三等道路を通じ兼合自動車の便あり。

〔馬山面〕 朝鮮全羅南道南道南郡の東端に位置し、郡邑舒川の東北方約一五軒にあり。車嶺山脈の東端部に属する嶺山(二〇八米)の北境に聳ゆる他は著しきものなく、花崗岩山地の傾斜による老年期の丘陵二〇米内外の高度を以て起伏するに過ぎず。灌溉水利に乏しく畑作農業を主とし大麥・粟・大豆・苧麻等の栽培行はれ、婦女は苧布の製織に従事する者多く、韓山苧布として朝鮮各道に著はる。其の他煙草・生牛等の産あり。道路は南嶺山より北方鴻山に通ずる道路既成する外、邑新場より城内及び隣接各面に放射狀に道路開發し、交通便なり。聚落は普遍的に分布し、邑新場里に市場ありて陰曆三・八の日に開き、苧布・苧麻・雜穀類等の取引行はる。

住民は農を主とし、傍ら採炭の業に従事す。産物の主なるものは米・大麥・苧布・麻布・紙・煙草等なり。道路は求禮より河東に達する三等道路南部を横斷する他道路網極めて疎にして交通便ならず。老姑壇は一〇〇米内外の空地にして外人遊樂地として知られ、約四〇戸の外人別荘あり、ホテル・テニスコート・水泳プール・ゴルフリンクス等設けらる。その西南端に名刹龍巖寺あり、智異山中第一の大伽藍にて、約一四〇〇年前新羅眞興王の時、煥起大師これを開き、現在の建物は約三百年前の重建に成る。二十一堂三門を有し、覺皇殿の四壁は華嚴經の石形にて圓まれたるを以て知られ、また釋迦舍利塔は形體秀拔にて考古學界に重寶視せらる。寺まで求禮邑よりバスにて十五分。

〔馬山面〕 朝鮮全羅南道海南郡の北部に突出する半島部に位置し、海南面の北に隣接す。半島の頂部をなす東南境には金剛山(四八一米)・南嶺山等聳立し、中央部には英梅山(三〇八米)等聳え、高峻ならざれども城内山地を成し平地極めて乏しく、北岸及び南岸に積砂地を見る。住民は農業または漁業に従事し、傍ら製鹽を行ふ者頗る多し。産物は米・大麥・大豆・棉花・繭・莞草等にして水産物には食鹽・海苔・石首魚・鰻等あり。道路は海南邑より西方右水營に通ずる二等道路の南部を横斷し、更に上龍里より北方

貫波浦、北西方草里道路を駛ら何れもバスを通じ、其他等外路線よく發達して

〔土師〕 鳥取縣八頭郡にありし村。明治三十六年中田村を土師村と改め、昭和十年土師村及び智頭町・山形村・那岐村を廢しその區域を以て智頭町を置く。

ハシ 波子

鳥根縣那賀郡波子村の大字。山陰本線の波子驛(大正十年設置)を置く。

ハシ 端(村)

石川縣鹿島郡にありし村。昭和九年、本村外二箇村を合し和倉町を置く。

ハシ 土師

〔土師〕 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に足利郡土師郷あり。その地今の足利郡小俣町・栗鹿町・三和村・山前村等の邊に當るか。

ハシ 丹波國

(京都府)の古地名。和名抄に天田郡土師郷あり、その地今の福知山市の一部なるべし。

ハシ 河内國

(大阪府)の古地名。和名抄に丹比郡土師郷あり、その地今の南河内郡日置莊村なるべし。

ハシ 河内國

(大阪府)の古地名。和名抄に志紀郡土師郷あり、その地今の南河

内郡道明寺村の邊か。

〔土師〕 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に山本郡土師郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

ハシ 筑前國

(福岡縣)の古地名。和名抄に那珂郡土師郷あり、その地今の嘉穂郡桂川村の邊か。

ハシ 大分縣

大分縣大野郡にありし村。明治四十年本村外四箇村を廢し東大野村を置き、のち大野町と改稱す。

ハシ 馬芝堡

臺灣臺中州彰化郡の西部、海に瀕する一帶の舊區別名。鹿港街・福興庄全部及び秀水庄の大部分(秀水・陝西の二大字を除く)を合したる地域之に相當す。清の康熙六十年代に於て馬芝堡を建て、雍正十二年鹿港附近の一區域を分ちて牛堡となし、之を鹿仔港

堡と稱し、乾隆年間邊の字を削り、馬芝と改め、上下二堡に分ちしが、光緒元年再び合して一堡となし、鹿仔港堡をも合併せり。此の地方はもと平埔蕃族ゴアウオサア部族のマアオイオ社の占居せし所にして、馬芝堡は之に宛てたる近音譯字とす。我が領臺後も依然存續せしが、大正九年地方制度改正に依りて廢せられ前記街庄に分割せらる。

ハシ 橋井

陸奥國(陸中)國岩手縣)の古地名。和名抄に江刺郡橋井郷あり、刊本に橋井とあるも、いま高山寺本により橋井となす。その地今の江刺郡内ならんも詳かならず。

ハシ 樫字土村

熊本縣肥後國天草郡天草下島の中郡東北編。本渡町の南に接し東北は約二軒にして本渡瀬戸へ出づ。四周山地を繞らし、東北境に染岳(三八〇米)聳え、東南境には帽子岳(五〇二米)聳立す。東北には僅に各開けて、河川東流し東隣龜島村に入る。本渡町より南端牛深町に至る縣道中央を東北より西南に貫き本渡町へバスを通ず。

ハシ 橋浦村

宮城縣陸前國陸生郡の北部。飯野川町の東に接し、北及び東は本吉郡に境す。東北境に輪倉山(五三三米)、西境に墨森山(三八三米)・ツロ山(三三三米)あり、何れも南方に傾斜し、南部に稍平坦地あり。道波川は南境を東流す。米・木炭・麥・蕪を産す。道路は南部を東西に通じ、西南方の石巻

ハシ 箸尾町

奈良縣大和國北葛城郡の東北端。生駒郡龍田町の東南約一・五軒に位し、東は磯城郡に界す。西境には約一〇〇—二〇〇米の山地あれど其他は奈良盆地の西部を占むる平地にして、東境には曾我川、その西には葛城川、中部にはその支流それ〴〵並行して北流す。これ等河川の灌溉の便よく米・麥・繭等を産す。また特産に西瓜あり。道路は下街道南北に通じその他田原本町に至るもの、東北方郡山町へ出づるもの等あり。また社線大和鐵道箸尾驛(大正七年設置)ありて交通の便よし。中世箸尾といふ。職國の頃、箸尾氏代々この地に居る。豊臣氏の頃二萬石の封を領せしが、關ヶ原役後改易となる。昭和二年町制施行。(執行寺) 大字壹野にあり。眞宗大谷派。安勝山信濃院。俗に御堂と稱し本派五箇寺の一。文正年間本願寺八世蓮如、攝州富田に地を開き、文明年間坊舎を建立して富田坊と稱し、のち現地に遷す。(大願寺) 大字的場にあり。古義眞言宗。滿島山。同宗高野末。聖德太子の創建と傳へ、太子作の薬師佛を安置す。舊寺領三十石。

ハシ 橋尾

愛知縣八名郡にありし村。大正九年、本村を廢して大和村を置く。

ハサン

ハサン——ハシオ

ハシカ

ハシカ 澗岡村 香川県澗岡郡... 澗岡村の東北部。高松市の西方約五軒にありて東は香川郡に界す。北部は山地をなし、北境に大平山(四七九米)・國府臺等聳え、東境には袋山(二六二米)あり。南部は平野開けて東南部を貫き東北流する河川ありて東北隅に備置山(二二〇米)あり。村内所々に灌漑用湖沼分布す。農業よく發達して米・麥・米國産粟・粟等を産し、接木錦橙(年産二十萬圓)・苗木盆殺・果樹等の特産あり。南部に國道と省線澗岡線東西に走りて澗岡・國分の二驛(共に明治三十年設置)あり。もと新居村・國分村の二箇村なりしが、之を合併して一村とし村界の岡を橋岡と稱せしより澗岡村と名付く。大字國分は天平の頃國分寺並に國分尼寺を置かれし處にしていま國分寺は千手院と稱し四國通路第八十番の札所なり。また國分八幡宮あり、江戸時代の初め丸龜藩土田宮坊太郎(小太郎)父の仇堀源太左衛門親常を討ちし所として名高し。(國分寺)大字國分にあり。古義言宗。白牛山千手院と號す。天平十三年聖武天皇の勅諭により諸國に詔して建立せしめ給ひし金光明四天王護國之寺の一にして行基を以て開山とす。弘仁年間空海これを再興す。現に四國八十八所第八十番札所にして、當國七觀音の一たり。本堂(内部構造等)によく鎌倉期の特徴を存す。及び本尊千手觀音立像(木造)一軀(鎌倉期の作と推せらる)は共に國寶なり。

ハシカ

ハシカ 初鹿尾 臺灣臺東線の驛(大正十一年設置)。臺灣臺東線北に國寶あり。ハシカ 羽鹿島村 山梨縣甲斐國四八代郡の西北部。富士川の左岸に沿ひ、川を隔て、南は厚野郡に對す。市川大門市の西南約六軒、南は厚野郡澗岡町の西南約四軒に在り。面積一・二五平方町の小城。昭和十年度の人口二二一人、一方軒の密度一七七人にして、全國平均一八一一人より少し。村内丘陵起伏して殆んど山地を成し、西南部に僅少の低地を見るのみ。隨つて耕地の見るべきものなく僅に丘腹を利用して桑園拓くるのみ。社福富士身延鐵道の黒澤驛に約二軒、交通比較的不便ならず。豊和村・八之尾村と共に結核にあり。

ハシカ

ハシカ 階上 陸奥國(青森縣)の古郡名。鎌倉時代の初め南部公行の所領郡部を戰國時代以後かく稱せしといひ、或は郡部の一部を割きて稱せしものならんといふも詳かならず。階上はのち省置して海上にも作る。いま上北・下北二郡即ち是なりといふ。

ハシカ

ハシカ 橋上村 高知縣土佐國幡多郡の西部。宿毛町の北方三軒餘、西北部は愛媛縣北宇和郡に界す。はつ西北より東南に連なる高峯なる連嶺によりて四周を圍まれ、西北部に大黒山(一〇六米)及び諸峯それに續きて東境中部にホケケ峯(七五一米)聳ゆ。西境には鎌山(一〇六

ハシカ

ハシカ 澗岡村 香川県澗岡郡... 澗岡村の東北部。高松市の西方約五軒にありて東は香川郡に界す。北部は山地をなし、北境に大平山(四七九米)・國府臺等聳え、東境には袋山(二六二米)あり。南部は平野開けて東南部を貫き東北流する河川ありて東北隅に備置山(二二〇米)あり。村内所々に灌漑用湖沼分布す。農業よく發達して米・麥・米國産粟・粟等を産し、接木錦橙(年産二十萬圓)・苗木盆殺・果樹等の特産あり。南部に國道と省線澗岡線東西に走りて澗岡・國分の二驛(共に明治三十年設置)あり。もと新居村・國分村の二箇村なりしが、之を合併して一村とし村界の岡を橋岡と稱せしより澗岡村と名付く。大字國分は天平の頃國分寺並に國分尼寺を置かれし處にしていま國分寺は千手院と稱し四國通路第八十番の札所なり。また國分八幡宮あり、江戸時代の初め丸龜藩土田宮坊太郎(小太郎)父の仇堀源太左衛門親常を討ちし所として名高し。(國分寺)大字國分にあり。古義言宗。白牛山千手院と號す。天平十三年聖武天皇の勅諭により諸國に詔して建立せしめ給ひし金光明四天王護國之寺の一にして行基を以て開山とす。弘仁年間空海これを再興す。現に四國八十八所第八十番札所にして、當國七觀音の一たり。本堂(内部構造等)によく鎌倉期の特徴を存す。及び本尊千手觀音立像(木造)一軀(鎌倉期の作と推せらる)は共に國寶なり。

ハシカ

ハシカ 階上 陸奥國(青森縣)の古郡名。鎌倉時代の初め南部公行の所領郡部を戰國時代以後かく稱せしといひ、或は郡部の一部を割きて稱せしものならんといふも詳かならず。階上はのち省置して海上にも作る。いま上北・下北二郡即ち是なりといふ。

ハシカ

ハシカ 橋上村 高知縣土佐國幡多郡の西部。宿毛町の北方三軒餘、西北部は愛媛縣北宇和郡に界す。はつ西北より東南に連なる高峯なる連嶺によりて四周を圍まれ、西北部に大黒山(一〇六米)及び諸峯それに續きて東境中部にホケケ峯(七五一米)聳ゆ。西境には鎌山(一〇六

ハシカ

ハシカ 橋上村 高知縣土佐國幡多郡の西部。宿毛町の北方三軒餘、西北部は愛媛縣北宇和郡に界す。はつ西北より東南に連なる高峯なる連嶺によりて四周を圍まれ、西北部に大黒山(一〇六米)及び諸峯それに續きて東境中部にホケケ峯(七五一米)聳ゆ。西境には鎌山(一〇六

ハシカ

ハシカ 橋上村 高知縣土佐國幡多郡の西部。宿毛町の北方三軒餘、西北部は愛媛縣北宇和郡に界す。はつ西北より東南に連なる高峯なる連嶺によりて四周を圍まれ、西北部に大黒山(一〇六米)及び諸峯それに續きて東境中部にホケケ峯(七五一米)聳ゆ。西境には鎌山(一〇六

ハシダテ 橋立村

石川縣加賀郡江沼郡の北部。大聖寺町の北に接し、北及び西は日本海に面す。全村一〇〇米前後の丘陵にして、加佐ノ岬突出し加賀海岸の平原を僅に蔽る。聚落は北部に發達し牛農・牛漁なり。水産物・米・蕎麥・甘藷等を産す。南北に縣道走り大聖寺町へバス通ず。この地は和名抄、江沼郡竹原郡の内なるべく、昭和五年橋立・黒崎二村を合併して成れるもの。大字小瀬浦に古來歌枕の名所あり。澤邊草に「加賀へ下りけるに小瀬浦といふ所に、おもひきや小瀬の浦の苦屋にて寢覺に秋の月を見んとは 隆頼」(田水神社)大字橋立に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・天津日高彦火々出見命・豐玉姬命。創建年代明かならざるも延喜式内の古社にして、神祇志料に「式内出水神社は舊橋立村の泉にありしを、のち同村内庭場山へ遷す云々」とあり。往昔、院地字イヅミと云ふ所に鎮座の神ありて出水神社と稱せしを、のち社地崩潰して海中に没す。其後、いまの八幡社へ合祀せしより出水神社の號廢絶すと云ふ。明治十五年九月現社號を再稱す。例祭、二月十二日。

ハシバ 橋場

【橋場】 省線東北線の一。岩手縣盛岡市の盛岡驛より岩手縣明神村大字橋場の橋場驛に至る二三・七軒。盛岡驛にて省線山田線に接続す。【橋場】 岩手縣岩手郡明神村の大字。

省線橋場驛の橋場驛(大正十一年設置)を置く。

【橋場】 東京の舊地名。淺草の石濱の一帯にして、のち橋場村と稱せしもの。此處より隅田川に船橋を架け渡せしを以て橋場と稱す。奥州に至る街道此處にかゝる。後世橋場は二分して一部は淺草區橋場となり、一部は地方橋場となりいま荒川區南千住に入る。※石濱

ハシハマ 波止濱町

愛媛縣伊豫國國智郡の北部。今治市の西北部に西隣し、北は波止濱に臨む。南境に二四〇米程の丘陵連りて南部は山地をなし、北部には平野開け、南方へ深く滲入する波止濱は北方の港口に東島及び東島瀬戸を距てたる北の小島二島を控へて開ける宮瀨の名に背かざる良港なり。氣候溫和風光明媚にして鹽が最も名高く年額一五〇〇萬斤、坂出専賣局波止濱出張所置かる。其他船渠會社の造船、綿織物・製油など之に次ぐ。名物としては慶長の昔海産に沈める謂ゆる蛤釣器の珍品と鯛の漬物あり。海岸築港より今治市及び西隣波方村へ縣道通じバスの往來繁く省線波止濱中部を横切りて波止濱驛(大正十三年設置)あり。港は船舶の出入絶えず海陸の交通至便なり。波止は長谷の轉駁にして古へ大和の長谷の人こゝに來住せるより此名起るといふも如何にや。天保年間こゝに鹽田を築きてより郡落發達

ハシマ 羽島郡

岐阜縣美濃國の南部。縣内十八郡の一。東を木曾川、西を長良川に挟まれたる三角地帯を占め、北は稲葉郡に、西は長良川を境に安八・海津兩郡に、東は木曾川により愛知縣尾張國粟津・中島兩郡に界す。面積八七・一方軒、三日月形の島小郡なり。濃尾平野の略中央を占め、土地平低にして古來水陸の要衝を度々受け、治水困難なりし所。今は三川分流水事成りて水難を逃れ得るに至るも湧水脈しく悪水に悩む所もあり、旱が續けば豊年となる。先づ美濃米を筆頭に、麥・粟・大豆等の農産に富み、副業の機業は郡の主要産業となり、笠松町を中心とする美濃織、竹ヶ鼻町の紡績、川島村の結城・後留・川島絹等殊に名高く、近時は毛織物業も盛となり郡の主産物は織物類なり。東北部を南北に省線東海道本線貫通し、笠松より北は竹ヶ鼻を経て大須賀に至る社線竹ヶ鼻鐵道の便あり。道路は笠松町より岐阜に至る岐阜街道を始め、笠松・竹ヶ鼻を中心各

ハシモト 橋本

【橋本】 神奈川縣高座郡相原村の大字。省線橋本驛の橋本驛(明治四十一年設置)ありて社線相模鐵道の接續點をなす。【橋本】 一に橋下を以てかく稱す。即ち和名抄の濱名郡折原の地なり。されば宿驛西畔にありしを以てかく稱す。即ち和名抄の濱名郡折原の地なり。されば宿驛として早く開け遊女とも多く、増鏡にもその状況を掲ぐ。「建久の初つた、朝朝みやこへ登る。その勢いかめしき事いへばさらなり……遠江國橋本の濱につきて参れり云々」室町時代の明應七年の大地震・津浪のために濱名川壅塞し、その東に所謂今切出来て濱名湖と海と通ずるに至れり。地はいま静岡縣濱名郡新居町の中なり。

ハシヨ 馬上嶺山

【大分縣】 立石町。【馬場】 馬場。【馬場】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(大正八年設置)。成鏡南道水興郡德興面にあり。

ハシヨロ 社

【馬場】 朝鮮江原道鐵原郡の西端、郡邑鐵原の西方約二〇軒にあり。馬島嶺山脈に屬する靈影山(五八三米)北境に聳え、西境には大城山(三八九米)・浮鴨山(四四二米)・歌河嶺(四二五米)等相連りて伊川郡及び黃海道・京畿道の一端と境し西部は山岳重疊すれども、東南部は臨津江支流蔚谷川これを灌漑し稍大なる低地帯をなす。米穀・繭・絹布・生牛・蜂蜜等の産あり。また安映嶺山の嶺區の一部ありて破化鐵を出す。道路は鐵原より來る三等道路面を横斷して西方安映にバスを通じ、沿線は交通區比較的便なるも其他は未改修にして交通便ならず。聚落密度は疎にして、長浦里に面事務所を置き、また陸軍一六の日に開く市場ありて雜穀・薪炭・生牛等を主として取引す。

ハシラサワ 杜澤村

【大分縣】 大分市。【杜澤村】 福島縣岩代國伊豫郡の中郡。東南は掛田町、西北は保原町に隣接す。南方に兩乞山(三五

ハシリガタ 走瀨村

【大分縣】 熊本市の西南約一〇軒にあり。隴川及び其支流に依り四方を包圍せられ自から島狀を成し、西北部を除く以外は宇土郡に對す。全村地低平にして耕地よく拓け、米・蔬菜等の産多し。昭和二年潮害を蒙り全村全滅の慘事を招來せしも、多年の努力に依り漸く舊に復するを得たり。城内に交通の便なきも鹿兒島本線宇土驛に近く且つ隴川による舟楫の便ありて交通概して不便ならず。この附近は西南の役に激戦のありし地。

ハシリシマ 走島村

【大分縣】 熊本市。【走島村】 廣島縣備後國沼隈郡の東南海上。走島を主島とし東南の宇治島、東北の特島、西北の加治屋島より成る。新町の東南約六軒。面積三・三九方軒。本村は香川縣三豊郡莊内村の三崎より本郡千早村の阿伏見岬を結ぶ瀬戸内海國立公園西隈線のほゞ中部に位す。走島及び宇治島が主要島にして、走島は周囲約一〇軒、一〇〇米餘の丘陵連り、最高點は東南部にありて一八〇米、西南部海岸は概れ海崖をなすも、小瀬流に沿

ハシモ—ハシリ

その傾斜地にて南部は僅に紀ノ川流域平野なり。米・蕎麥の農産、その他林産・畜産・工業等あり。北は葛城山脈中の各部落より有名なる高野豆腐の産出あり。紀ノ川に遊びて走る大和街道と大阪より來る高野街道と此地にて相合し市街地其處に發達して本郡第二の都邑となり人口密度八七一一人を算す。省線和歌山線南部を横走し橋本驛(明治三十一年設置)ありて、社線南海鐵道高野線と接続す。天正年間僧惠其の開きし處と傳ふ。當時紀ノ川に長橋を架して高野への往來に便したるより此の名起るとも郡役所の所在地たり。明治二十七年町制を布く。(妙樂寺)大字東家にあり。律宗。丹生山樂師院。弘法大師延如一の住持と傳ふ。弘仁十一年嵯峨天皇の勅建に係り、のち北條時頼現地に遷して再興す。(應其寺)大字橋本にあり。古義眞言宗。中興山普門院。高野末。天正十五年、興山應其(木宮上人)豊臣秀吉の許可を得て紀ノ川に百三十間の橋を架けて旅人の便を圖り、古の相賀驛を繼ぎて橋本を拓き、同時に草庵を結びて住す。これ本寺の遺蹟なり。

ハシモト 橋頭

山城國(京都府)の古地名。和名抄に高野郡橋頭郷あり、その地今の京都市右京區嵯峨の邊に當る。

ハシユ 坡州

【坡州郡】 朝鮮京畿道の三府二十郡中の一。道の中央より稍々北西に位し、北は漣川・長湍の二郡、東は楊州郡、南は高

うて耕地開け西北海岸に墾殖発達す。宇治島は走島より小さく、最高點一八八米は中央にあり、北部海岸に墾殖あり。水産業に最も恵まれ、農業これに次ぎ水産加工業も行はる。本村は氣候溫和且つ瀬戸内にあるを以て小規模なるも新産業盛にして、昭和十年國勢調査によれば一方軒人口密度は三五六人を示し全國平均の一八一人の二倍に當り、人口も大正九年一〇〇三人、同十四年一〇八三人、昭和五年一四〇人、同十年一三〇六人と漸増す。往昔三韓及び唐と交易せる頃は瀬戸内海船着場の一なりしといふ。ハシリミズ 馳水・走水 浦賀海航の古稱。景行天皇の御代蝦夷征討に日本武尊命を奉じ紀伊橋本を伴ひ征討に向ふ。相模國より上總國に渡り給はんとし給ひし時暴風忽ち起り船を覆没せんとす。橋本、尊の身代として海に投ず。暴風忽ち止みて對岸に達することを得たり。時人その海を呼びて馳水といふと景行紀に見ゆ。いも神奈川縣三浦郡浦賀町の大字に走水あり、橋本の御體の流れ寄りし處なりといふ。走水神社あり、尊及び橋本を祀る。

ハシリユヤマ 走湯山 伊豆山の舊稱。安藝海市

ハシン 坡心庄 臺灣臺中州員林郡の中央に位置し、東は員林街、西は漢陽街、南は永靖庄、北は大村庄にそれぞれ境を接す。地勢平坦にて丘陵を見ず、地味肥

沃、且つ八條圳に依る灌漑の便に恵まれ、萬頃の水田廣く展開し、純農村を形成す。面積二二方軒餘、人口一萬七千二百餘。市面概其だ狭小なるも、土地肥て平坦なる爲め、耕地多く、農産豐富にして、米・甘蔗・甘藷・柑橘・芭蕉・蔬菜を主要なるものとす、殊に柑橘は員林蜜柑と稱せられて聲價既に高し。畜産にては勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏等の家畜家畜類多く、一般家庭に於て副業的に善く飼育せらる。明治製糖の員林・鹿間社線は中央部を東西に貫通し、之と殆んど並行して員林・漢陽間指定道路あり。また東南邊には鹿賞道路ありて共に兼合自動車の便を有し、鹿賞道路に沿ひ鹿賞中継線の輕便軌道(手押臺車)あり、交通の便備はる。管内はもと總て武西線に屬し、清の康熙末年より乾隆の中葉に亘りて主として唐人により開墾せられたり。坡心は當初埔心と稱し、未墾地の中心の意に出で、のち大埔心と改められ、現行制度施行に際し、更に池の中心、即ち周圍に池ある所の意より坡心と改稱せり。開拓時代に住民自衛の目的を以て部落の周圍に土塼を築き、其上に竹塼を題らしたる謂ゆる大埔心城は今尚ほ古跡としてその一部を存す。

ハズ 羽豆町 崎崎とも云ふ。ハズ 幡豆 愛知縣三河國の西南部。縣内

ハズ 羽豆町 崎崎とも云ふ。ハズ 幡豆 愛知縣三河國の西南部。縣内十八郡の一。矢作川下流左岸を占め、東南は瀨美郡に、西南は知多郡に臨む。北は矢作川本流を境に碧海郡に、東は額山郡に、東南隅は寶飯郡に界す。面積一七四・四平方軒。東半部は木曾山脈、東端なる二一三〇〇米の丘陵横はり、西半部は中央を南に貫流する矢作古川と北・西境をなす矢作川本流とに造成せられたる三角洲にして肥沃なる平地、謂ゆる三河アンマーラの一部をなし各種の産業発達す。平地は灌漑の便よく水田拓げ三河米の産額多し。その他三河西瓜・三州郡・漆等の副産物も多く、山手に近き方面は養蠶業盛にして多額の繭を出し、河岸の諸町村は養魚の副業、海岸諸村には水産業盛なり。また西尾町・平坂町・幡豆町を初め本郡一帯は織物業・製糸業を業頭に、清酒・製粉等の工業も盛にして綿織物・絹織物・生糸はまた本郡の主要物産なり。交通も之に従ひて便にして社線名古原鐵道西尾線、同羽海電氣鐵道、同三河鐵道等の便あり、東西に走る平坂街道・南北に通ずる西尾街道を初め道路も発達す。また矢作川に舟楫の便あり、海上は平坂港を中心に船便あり。郡内西尾・平坂・幡豆・寺津・一色・吉田の六町ほか六ヶ村を含む。三代元禄貞觀六年紀に郡名見ゆ。和名抄は寶飯・八田・意太・磯泊・大川・新島・修島・修島の八郷を管す。後世、北方、碧海郡との間に境域多少の變更ありて今日に至る。

ハスイケ 蓮池

「幡豆町」愛知縣三河國幡豆郡の南東部。東は寶飯郡形原町に接し、南は瀨美郡に面す。同時市の南方約一四軒の地、背後に二三百米の丘陵を負、西西部と南部に小平地を點綴す。海岸は二小突出ありて、東幡豆・西幡豆の小灣を分つ。工業・農業・水産業共に盛にして帯志地なほ七め製粉・清酒等の工業額は七十七萬圓餘に及び、次で四十九萬六千圓の養、十七萬圓の繭、十五萬七千圓の米等殊に著しく、水産總額も二十萬圓餘に達す。一條の縣道東西に貫通し社線三河鐵道の終驛三河島羽驛昭和四年設置)及び西幡豆・東幡豆・洲崎の三驛(何れも昭和十一年設置)あり。郡部及び吉田へはバス通ず。幡豆航空燈臺あり、白熱電燈四白光、一二〇萬燭光、赤遠距離は晴天の暗夜五〇軒。此地は和名抄、幡豆郡職部の内なるべく、明治三十九年本村及び東幡豆村を廢し幡豆村を置き、昭和三年町制を布く。

の城墟なり。太平氏は藤原秀郷の裔にして東鑑に見ゆる蓮池種家嗣の後なり、戰國末、その盛世に當りては采邑四千貫を領し勢極めて強大なりしが、十三世紀四百餘年を経て天文十五年、太平國興に至り、一條氏に降りて亡ぶ。而して一條氏は當城を攻略してより、その版圖は土佐西半國に及び、ここに重鎮を置いて東方の押へとせしが、永祿十二年に長曾我部元親、吉良親良の計略を以て蓮池城を取る。親良の卒後、子親實ここに入城し、吉良氏また蓮池氏を稱す。天正十六年に織田阿蘇にて親實は自殺して城廢す。

ハスイ—ハセ

ハスイ 蓮江 石川縣能美郡にありし村。明治四十年に外二村と合し當代村を設く。ハズカシ 羽東師村 崎 京都府山城國乙訓郡の東部。桂川の右岸に沿ひ東に川を隔てて京都市伏見區に接し、西に向日町に界す。地勢平坦にして肥沃なれば農耕に適す。米・麥・粟等の産あり。省線東海道本線神尾驛は西南約一・五軒あり。大字志水に羽東師社あり、式内の古社にして、その社の社を羽東師社と云ひ、和歌の名所なり。後撰集に「忘れ思ふ歌のしけるなや身をばつかしの森といふらん」とあり。(羽東師社高御産日神社)大字志水に鎮座。郷社。祭神、高御産日神。雄略天皇二十一年の創建と傳ふ。延喜の制大社に列す。天智天皇四年に藤原鎌足は勅を奉じて社殿を再建し、のち延暦十三年十一月遷都に際して再建あり。大同三年十二月攝社十一社を建つ。例祭、四月上旬日。

ハスコワラン 社 臺灣新竹州竹東郡にある蕃社。上坪溪上流左岸、鳥嘴山の東面、標高約九百米前後の地點に

ハスガタ 蓮湯 新潟縣北蒲原郡にありし村。明治三十九年、本村及び聖籠・蓮野の三村並に藤井村の一部を合し、新に聖籠村を設置す。ハスキ 播次 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に三次郡播次郷あり、今の雙三郡三次町・十日市町の邊に當る。ハスコワラン 社 臺灣新竹州竹東郡にある蕃社。上坪溪上流左岸、鳥嘴山の東面、標高約九百米前後の地點に

ハスボク 社 臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。鳳港溪右岸、パラロア山の

ハスノ 蓮野 新潟縣北蒲原郡にありし村。明治三十九年本村及び聖籠・蓮湯の三村及び藤井村の大字藤寄を合併し新に聖籠村を建つ。ハスボク 社 臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。鳳港溪右岸、パラロア山の西南山腹標高約二六〇米の地に位し、約六百年前にアンテイ社より三〇戸を以て移住し來れり。大正三年番器押取に際して反抗したるを以て討伐を受け頑強に反抗したるも利あらざるを悟り銃器十三挺を提出歸順す。パイラン族の恒春下番に屬する高砂族より成る部落なり。ハスニ 波積村 島根縣石見國湯原郡の西南部。温泉津町の南方約二軒に位し、西北部は一軒餘にて日本海岸に出で、西及び西南は那賀郡に、東南は邑智郡に界す。周圍山地を繞らし東南境には西山(五九三米)聳ゆ。低地は中央西部に稍々発達す。米・繭の外に林産・畜産及び工業あり。山陰道中央を東西に貫き省線山陰本線淺利驛(西方約四軒)及び黒松驛(西北境より僅か西方)へバスの便あり。此地古くは和名抄、湯原郡大家郷に屬す。ハセ 初瀬町 奈良縣大和國磯城郡の東部。櫻井町の東北約三軒、東は宇陀郡榛原町に界す。東部及び西部は山地をなし東北境に鳥見山(七三三米)あり、西境には赤向山(五六七米)あり。北方より流下し來る初瀬川は中央を貫き西南に流れ朝倉村に入る。米・繭・麥の産あり。此地は奈良盆地より伊賀へ通ずる街道に當り、街道は中部を東西に隔斷し、之に沿ひて初瀬町市街地は長谷寺の門前町として發達せしものなり。社線參宮急行電線(前記街道(上街道)と稱す)と枝走し長谷寺驛(昭和四年設置)あり。萬葉集に初

瀬小園・泊瀬小園と見ゆるは蓋し當町邊を稱せしものならん。初瀬詣の事は遠く源氏物語に見え古來其者甚だ多し。寺はまた標・紅葉・牡丹の名所としても知らる。大字出雲の地は武烈天皇の皇孫泊瀬列城宮のありし處なりといふ。歌統に名高き猪養阿は大字吉野の邊か。猪養阿〔吉野殿〕 大字角納にあり。施基皇子(春日宮天皇)の紀嗣皇太后後娘の御殿。中世以降殿所を失ひし。明治十二年現所に御治定。(興喜天満神社) 大字初瀬に鎮座。郷社。祭神菅原道真。天慶九年神祇大夫武藤呂の勸請する所。一名、興喜山天神。例祭、九月二十日。(長谷寺) 大字初瀬にあり。新義真言宗豊山派總本山。豊山神樂院。または本長谷寺とも稱し、本尊に十一面觀世音を安置し、西國三十三所第八番の札所として著る。天武天皇の朝、弘福寺の僧道明、勸を奉じて當山の西側に本長谷寺を創建し、且つ三重塔を建立して、塔中に銅版「法華說相圖」を安置す。のち聖武天皇の御願により僧道、東崗に精舎を建立、時に靈木を江州高島郡に得て、佛師瑞文會等丹誠を凝して彫刻安置せしもの即ち本尊十一面觀世音の大像なり。爾來朝野貴賤の崇敬篤く、臨幸、寺領寄進等屢々行はれ寺運隆盛を極めしが、中世の亂に際し寺門漸く頹廢に墜す。天正十五年に至り和州太守豊臣秀長、事畢僧正を請じて豊山に遊へ大いに一山の興隆を図る。これより

興福寺に屬し、法相宗を奉じ來りしを眞言宗に轉じ、根來山の學統をこゝに興し、專崇を以て當山中興の祖となす。爾來、秀吉は寺領を寄せ、家康また當山を保護し寺領三百石を寄せ、家光は金二萬兩を寄せて大いに講堂を興し近畿の名區をなすに至る。明治後、眞言宗の一本山に列し、三十三年に新古兩派に分裂するや、末寺三千餘箇寺を率ゐて獨立し、爾後新義眞言宗豊山派の總本山となる。境域及び四邊の風光また天下に知られ、春は櫻夏は牡丹、秋は紅葉、冬は雪、それぞれ眺めに勝れ、吉野・月ヶ瀬と共に古くより著明なり。境内の名跡として法道明御靈塔・紀實之故郷梅・定家塔・俊成碑等あり。本堂及び法華院・一面銅鑿・不動明王坐像(木造)一軀・地藏菩薩立像(木造)一軀、他四點は何れも國寶。詠歌「いくたびも參るこゝろは初瀬寺やまも響もふかき谷川」(節海院(日限地蔵))。大字初瀬にあり。新義眞言宗豊山派。長谷寺塔頭に於て、具には能滿律院、俗に日限地蔵と稱す。安置の地蔵尊は安産子育てに靈驗ありとて俗間の信仰厚し。寺裏中、春日長谷園(絹本着色)一幅・地藏十王像圖(同上)一幅は國寶。

ハセ 長谷

〔長谷〕 鎌倉町(神奈川縣鎌倉郡)の古地名。和名抄に新川郡長谷郷あり、その地名の上新川郡内ならんも詳かならず。

〔長谷村〕 兵庫縣播磨國神崎の郡北西部。東北は朝來郡生野町に接し、西北部は宍粟郡に界す。四周の村境は山脈にて圍まれ、北境特に高く段々峯は一一〇三米を有す。段々峯より一〇〇〇米餘の山脈南方へ延びて中央へ轉り其東西兩麓より東南流する河川ありて、生野方面より來りて東南部を東北より西南に貫きて流れる市川に合す。沿岸に稍々低地開く。山地廣くも農村にして米・蕎麥・粟・粟・花弁・食用農産・製茶・三椏・鶏卵等を主とし、外に双輪・木製品あり。東南部河谷に沿ひ無蓋及び者線橋俱備通過し前者にバス通じ、後者に長谷驛(明治二十八年設置)を置く。當村内には大山・龜若・鶴若・長谷・川上などの諸嶺山あれど著しきは坂美嶺山のみとす。同嶺山は長谷村・寺前村及び宍粟郡下三方村に跨り、嶺區五十二萬餘坪、礦物は銀・銅・鉛・硫磺・硫磺・硫磺、昭和十年には亞硫酸一四六、六五〇(噸)約二萬四千五百(噸)を出す。同年六月末使役人員十五名、重要礦山に屬す。

ハセ 波瀨

〔波瀨村〕 三重縣伊勢國一志郡の中部。松阪市の西北方一〇(噸)にあり。稍々東北より西南に長き長方形をなす。西南半は高き山地をなし矢頭山(七二三米)南境に聳ゆ。これ等山地より丘陵東北方へ延びて東西兩境を限る。中部には平地開け雲出川支流波瀨川その間を東北流す。村

民の八割は農業を營み、他は山林業なり。外に工業・商業を行ふものあり。産物は米・蕎麥・粟・ササゲ・清酒・木材・薪炭及び畜産・水産・礦産等なり、省嶺名松嶺井關驛へは東北約一軒にてバス通ず。古くは和名抄、壹志郡若野郷に屬す。文武天皇の元年、役小角この地の矢頭山を開くと傳へ、また山頂に波氏神社を祀りしは延暦二十年なりといふ。延喜十九年安樂寺建立、建仁元年、明星家盛は上出城を築きて歴代の居城とす。延元三年北畠顯能國司となり、應永元年顯能孫、兼佐波瀨城を築く、これ金生氏の祖なり。元正五年信長に滅さる。のち諸生氏郷の所領、次で豊臣氏の直領となり慶長五年古田織部正の封領たり。徳川幕府に至りて天和五年徳川頼宣の領となり明治維新に及ぶ。

〔波瀨村〕 三重縣伊勢國飯沼郡の西部。御田川の源流地を占め北及び西は奈良縣宇陀郡と吉野郡に界す。西境には高高山脈の高峯連立し高見山・國見山(一四一九米)等屹立す。北境及び南境もそれより東方へ派出する山脈によりてそれと圍まれ東北境には三峰山(一二三六米)聳ゆ。其南には高嶺山(七八三米)連りて東境を劃す。御田川は西境に發して中央の窪谷を東に流れ東南兩隅より發村に出づ。農林業を營む資本家は一〇%、山嶽業四〇%、商業を營むものは一〇%にて産物は木材・鹽・木炭・雜草等を主とす。河谷に沿ひて和歌山方面より來る伊勢街道通

じ東方の大石村までバスを通ず。此地は天正中に北畠氏の遺族、義故を集めて兵を擧げし處にて、瀬川一益の爲に敗る。(奉還寺) 大字波瀨にあり。曹洞宗。天開山。寶曆年中に了管の開創に係る。本尊子安觀音像は行基の作といふ。

ハセカワ 長谷川村

國大野郡の西南部。九州山脈の一峯、祖母山の東北斜面を占め、西は直入郡に接し、南は山脈を隔てて宮崎縣西臼杵郡に界す。南境には九州山脈東西に連り、西南隅に風母山(一七五八米)、中央に本谷山(一六四三米)、東南隅には傾山(一六〇五米)聳ゆ。祖母山より東方へ連る一支脈は障子岩・鳥嶽等を起して西境を限り、東南の傾山より北方へ延びる山嶺は東境を劃す。村内の水は西南に發する奥敷川となり中央を東北流す。地形峻峻なり。林産資源多し。また西南部に尾平嶺山あり。河谷に沿ひ東方牧口村へ自動車あり。村内に多くの礦區あれど主なるは三菱尾平嶺山と蔵内尾平嶺山とす。何れも祖母山の東麓にて謂ゆる尾平の地質は秩父古生層・中世層に屬する礫岩及び同時代の安山岩・流紋岩の熔岩を貫きて花崗岩進入し、その接觸部及びその附近に多様な礦床發達す。特に花崗岩・流紋岩中には重晶石・螢石等の氣成礦物を含む錳礦脈が廣く發見す。(三菱尾平嶺山) 當村と宮崎縣西臼杵郡岩戸村に跨る重要礦山。發見上、三礦區に分た

れ、この總面積百十六萬二百坪。礦種は銅鐵錳安寶母尼なるが、昭和十年には錳一〇八・七三〇(噸)、錳鐵二九・三三〇(噸)の總價額四十四萬七千餘圓を出す。同年六月末の使役職員三五四人。(蔵内尾平嶺山) 當村内に八五、一六四坪の礦區を有する重要礦山。礦種は銀銅鉛錳若鉛硫磺なるが、昭和十年には錳四四、六七〇(噸)價額約一七萬三千圓を出す。同年六月末の使役職員一七二人。

ハセケバ 長谷毛原村

和歌山縣紀伊國那賀郡の東部。東は伊都郡に接し南は有田郡に界す。村形東北より西南に延びやや正方形をなす。長峰山脈は西南より東北に延びて東南境を限り、立岩山・地蔵峠(八二二米)等あり。西北境にも約七〇〇米餘の山脈東北より西南に連りて村境を劃し、中央の都合谷を貫志川西南に貫きて流れ積川村に入る。米・蕎麥の農産及び林産・工業・畜産等あり。西方の能神街道より分岐する與道は河谷に沿ひて本村を貫き、東北方に至りて西高野街道に連り各部落これに沿ひて見らるるのみ。もと長谷と毛原の二部落なりしが合併して當村を成す。

ハセタニ 植谷村

兵庫縣播磨國明石郡の東部。東部は神戸市の西北部との間に約二軒を距つ。南は伊川谷村を隔てて垂水町なり。村形は東北より西南に細長し。東境に連る山脈より西南方へ山脈延りて南北兩境を劃し、北境中央に高嶺山

(一五〇米)あり。明石川の支流植谷川中央を西南流し沿岸に河谷平野開く。米・小麦・蕎麥・大豆・粟・粟・花弁・粟・粟・食用農産・果物・果實・製茶・切花・鶏卵等の外銷油・高製品・林産等あり。村内を縣道縱横に貫通す。(諏訪神社) 大字長谷に鎮座。郷社。祭神、磐田別命・事代主命・天兒屋根命等六柱を祀る。文永元年、衣笠法眼爲氏の創建するところと傳ふ。領主小笠原政忠印領三石を寄進す。もと諏訪大明神と稱す。例祭、十月六日。

ハセツカベ 丈部

〔丈部〕 陸奥國(陸中、岩手縣)の古地名。和名抄、磐井郡に丈几郷あり、凡の字は日の字の誤にして、日は部の略字なり。その地は今の東磐井郡長坂村の邊なるべし。〔丈部〕 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に河内郡丈部郷あり。その地詳かならず。〔丈部〕 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に長狭郡丈部郷あり。萬葉集に「上總長狭郡上丈部與麻呂」とあり、その族當の居りし所を丈部郷と稱せしものなるべし。其地は安房郡天津町の邊か。

ハセツカベ 杖部

伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に朝明郡杖部郷あり、鉢

津村の邊なるべし。〔丈部〕 上野國(千葉縣)の古地名。和名抄に長狭郡杖部郷あり。波世信と訓す。その地今の長生郡茂原町の邊に當るか。大字長谷は各郡が長谷郡となり、更に長谷となりしものか。

ハセバ 谷部

〔谷部〕 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に碧海郡谷部郷あり、その地今の碧海郡矢作町の邊なるべし。〔谷部〕 神護景雲二年の條に「今年七月、得參河國碧海郡人、長谷部文選」とあるは此地の名族なりしものなるべし。〔谷部〕 巴川面 朝鮮慶尙北道青松郡の西北部。郡邑青松に西隣す。大白山脈西斜面の山地にして東北境に飛鳳山(六七一九米)聳え、地勢高峻、中部を半邊川支流東南より西北へ貫流し、沿岸に平地ひろく、丘陵斜面及び溪谷はよく開墾せられ耕地の發達を見る。産物には大豆を

主とし、米・大豆・粟・煙草等あり。道路は青松・安東を連れる三等道路は面の略中部を横断し、これと北方の英陽に通ずる道路にバスを通じ、交通が便利なり。聚落は溪谷部に最も多く分布す。

ハセン 馬川面

朝鮮慶尙南道咸陽郡の南端に位置し、郡邑咸陽の南方約一五軒にあり。小白山脈中に位置し、半島の名山智異山(最高點一九一五米)に東境及び南境に連なり、北境には法華山(九九二米)・三峯山(一八七米)等聳え、西の全羅北道との境にも一〇〇米以上の山連なり、城內高山重疊起伏し、中央に憲岩山(九二二米)屹立し、周縁山地より流下せる五溪流は憲岩山山麓を環状に巡りて東北境の山麓を流り瀧川となりて流出し、之等の溪谷に僅に低地を見る。耕地は極めて少なく、地産も乏しく、僅に大栗・栗・稗・蜀黍・薪炭・椎茸・蕪草等あり。智異山中腹は楡・樺・檜等の原生林繁茂し京都帝國大學の演習林を成す。道路網は憲岩山麓を環状に繞り、之より前記の各溪谷に沿ひ放射状に通じ、極まる所にて峠により隣接面に各連絡す。瀧川左岸なる佳興里は面色にして、また市場ありて薪炭・雜穀等の取引行はる。智異山の西北麓に碧松寺の名刹あり。

パソクレー 馬息嶺

【馬息嶺山脈】朝鮮の中部にあり。山脈。白頭山に起り西南走して咸鏡南道の西南部に達する山脈が、北流する箇瀬江がよ

び南流する箇瀬江の溪谷により分離されて生じたる南北に狭長なる山脈にして、馬息嶺附近に起り西南に向ひて黄海道・江原道の界を交互し、京畿道北部に至りて娘む。脈中に東百年山(二四六米)・立岩山・徳業山・太乙山・天摩山(七六二米)等聳ゆ。

ハタ 八太

【伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に壹志郡八太郷あり、その地今の志都川合村・高岡村の邊なるべし、川合村の大字八太は其の遺稱なるべし。

ハタ 八田

【八田】越前國(富山縣)の古地名。和名抄に浪波郡八田郷あり、その地今の西福波郡野村の邊なるべし。

ハタ 八多

【八多】佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に佐太郡八多郷あり、その地今の佐波郡野村に當る。

ハタ 八多

【八多】兵衛國(福井縣)の古地名。和名抄に佐太郡八多郷あり、その地今の佐波郡野村に當る。

【波多村】鳥根縣出雲國飯石郡の中央西部。掛合村の西南に接し西北は飯石郡に界す。西方約七軒の地には三瓶山の麓あり。全村約七軒の地には三瓶山の麓あり。西北境に瀧珠山(六五九米)、西南部に野田山(七二三米)、北境には鳥屋ヶ丸山(六八七米)等の屹立す。其間所々に淺き谷を有し東部には刀屋川東北流す。主生業は農にして専ら米作を行ひ、また木炭を出す。特産物の一部として少量の山葵の産あり。東部には縣道南北に走り、東北方の三刀屋町および南方の赤名町に連絡す。この地は和名抄、飯石郡波多郷の地なり。出雲風土記には「波多郷、郡家西南一十九里、波多郡美奈天降坐家在、故云波多」と見ゆ。

【波多(國)】下幡多郡(高知縣)【波多】熊本縣宇土郡にありし村。明治三十二年三角浦村・大田尾村と共に廢せられ新に三角村を置く。三角町【波多】服織(美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に安八郡服織郷あり、其地いまの大垣市の邊なるべし。【ハタ 葉田】下幡多郡(岡山縣)の古地名。【ハタ 幡太】三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に瀧美郡幡太郷あり、その地今評かならざるも豊橋市の邊か。【ハタ 幡田】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に那珂郡幡田郷あり、その地今の那珂郡中野村・前波村・湊町・平磯町の邊なるべし。

にして西境に沿ひ仁淀川南流し、東南約七軒にて土佐灣に注ぐ。米・藪・柑橘・梨・枇杷・夢の外に工業・木産・畜産・林産あり。河津に縣道走りて伊野町へバスを通じ、東北方の高知市へ至る縣道ありて自動車往來はげし。本村と對岸高岡郡川内村大字大内との間に八田堰あり、仁淀川の上流凡そ一二軒、右岸川内村より左岸八田村に向つて仁淀川の水を堰き止めしものにして、左岸には八田川の一流を堰き、川内・八田・弘岡三箇村、四分・秋山・諸木・長濱の諸町村八百三十七町餘を灌漑す。實に慶安元年より承應元年に至るまで、前後五年を費し、野中兼山が經營せる大工事にして、その規模の雄大、その利用の厚博は香美郡物部川筋の山田堰と相並んで國中の二大水堰と稱せらる。

【波多】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡波多郷あり、その地今の高市郡高取町・舟倉村の邊か。

ハタ 幡多

【幡多】武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に男妾郡幡多郷あり、その地今の大里郡本島村の邊か。

ハタ 幡多

【幡多】相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に鎌倉郡幡多郷あり、その地今の中部郡野村・東藤野村・西藤野村・北藤野村・南藤野村の邊なるべし。

ハタ 幡多

【幡多】遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に長下郡幡多郷あり、列多と訓す。その地今の濱名郡御田村の邊か。

ハタ 幡多

【幡多】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に天田郡幡多郷あり、その地今の北河内郡豊野村の邊なるべし。秦氏の居邑にして姓氏録に「河内國宿禰、太秦公同祖」とあるは之なり。

ハタ 幡多

【幡多】淡路國(兵庫縣)の古地名。和名抄に三原郡幡多郷あり、波多と訓す。その地今の三原郡榎村の邊か。

ハタ 幡多

【幡多】岡山縣備前國上道郡の西部。岡山市の東に接す。南部に孫山等の小丘陵ある外は地形平坦にて中部に小流ありて西流し、岡山市に入りて旭川に合す。米・麥を産し、梨の特産あり。山陽道中部を通じ、北部には省線山陽本線通じて西大寺驛(東北約一軒)に近く、計線西大寺驛(北約一軒)に近く、師・藤原二驛共に明治四十五年設置あり。此地は和名抄、上道郡幡多郷の地に當り、書記應神紀に見ゆる葉田の茶守宮の址もまた此地ならんといふ。大字浮田に妙善寺城

ハタ 幡多

址あり、永祿年中に宇喜多直家の屬城たり。備中松山城三村元親は不意に襲うて之を取。直家これを復せんとして大に戦ひ城再び直家の有となる。此役を妙善寺崩と云ひ、嘉兵衛よく大兵を破れること直家一代の勝事と稱せらる。

ハタ 幡多

【幡多郡】高知縣土佐國の西南部。縣内七郡の一。四國島の西南端を占め、南及び東は太平洋に臨み、西北部一帯は愛媛縣に界す。郡内山岳重疊して峻嶒なる地形を呈し、四万十川の中流以下の沿岸に僅少の平地を見るのみ。即ち西北部一帯の山地は宇和山脈に屬するものにして、西境に鬼ヶ城山(一四二米)・大黒山・篠山等屹立し、北境には長山(九四〇米)等の約一〇〇米に及ぶ山峰あり。中央より東部に聳るものは火打山脈にして堂ヶ峯(八五七米)・佛ヶ森の高峯聳立して東に海に臨み、井ノ崎・辨天岬等突出し、東南流する伊興喜川・瀧川等あり。其北方に(郡東北境)南北に連る不入山脈の峻嶒あり。南部に廣く聳るものは幡多山地と稱し、今ノ山(八六五米)・中知山等中央に聳え、東南部に下ノ加江川、南部に宇品川等あり。山地の西・南及び東の三面は海に臨み、海岸極めて屈曲多く、ヤス状を呈し、西南端に淺瀬崎突出して柏島に接し西南方海上に沖ノ島を望む。東南端は恰も龜の頭部の如き形狀をなせる足摺崎の東南方への著しき突出あり。その頭部南岸に清水港あり。四

ハタ 幡多

萬十川は北方四國山脈より流れ來りて不入山脈と宇和山脈との間を流り入り火打山脈の北麓にて東北方より流下し來る仁井田川を合して西流し、火打山脈西麓を繞りて、そのにて宇和山脈(愛媛縣)より流れ來る吉野川を併せて中部を東南流し、火打山地と幡多山地との間を流れ、幡多山地の北麓を東北流する中筋川を入れて土佐灣に注ぐ。西南部には宇和山地南部に發する松田川ありて、幡多山地の西北麓宿毛町より宿毛灣に注ぐ。低地は米・麥等を産するも山地は林産資源頗る豊かにして西部に國庫園有林あり。沿岸は水産發達し、水産物は本縣主要産物にして、清水港・宿毛港を根據地として遠く支那・南洋方面への出漁者もあり。沖ノ島は古來珊瑚の産を以て著はる。郡内は中村町・宿毛町・清水町・下田町の四町外三十二ヶ村を合し、中村町の如きは一五二四人の人口密度を算するも、最も少きは津大村の二一人にて平均は六七人なり。河川に沿ひ縣道各地へ通じ諸處にバスの往來あるも、未だ鐵道通過せず交通不便なるを免れず。本郡は崇神天皇の朝、天降靈命神武に依りて國造となりし波多國の、國郡制定の時郡となりしものなり。三代實錄に郡名見え和名抄は波太と註し大方・熊野・山田・秋田・宇和の五郡を載す。中世は土佐の如と號し貴神配流の地たり。室町時代の末、一條

ハタ 幡多

産養蠶、沿岸漁獲物等あり。南部には縣道東西に走り東南方の有馬町へバスの便あり。之より分れて河谷に沿ひて一道東北へ走る。省線有馬線新道場驛へ北東約一・五軒にして、社線有馬線留置場に近し。延喜式の有馬神社は大字中にある、いま山王權現と稱す。和名抄に有馬郡幡多郷とあるは本村にして、中世は畑莊と稱す。

ハタ 波田村

長野縣信濃國東筑摩郡の西部。梓川右岸に沿ひ、松本市の西南方約九軒。西より北へかけては南安曇郡に界す。東北・西南に細長く、西南半は山脈連なり梓川の一支を源流す。東北半は松本市に屬し結構々原に接し扇狀地帯にして水田・桑園開け農業盛なり。米を主産とし、爾これに次ぎ、其他、麥・蕪菜類、山地には木材・薪炭等の産あり。松本市より社線松本電鐵線來り三溝驛・森口驛・下島驛・波多驛・島ヶ崎(以上共に大正十一年設置)湖東驛・赤松驛以上共到大正十三年設置)を置く。又これと並行して西南方に野多街道を置く。又これの便よし。此地は和名抄、筑摩郡波多郷の内なり。(安養寺)・龍泉寺・龍泉寺・龍泉寺、この領主小松盛政、了政と號し住す。

ハタ 波多

【波多】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に高市郡波多郷あり、その地今の高市郡高取町・舟倉村の邊か。

左大臣教房は京洛の難を避けて此處に居り天正年間に至る。

ハタ 羽多 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に鹿玉郡羽多郷あり反多と訓ず。その地今の濱名郡根志村の邊に當る。

ハタ 畑村 兵東縣丹波國多紀郡の中郡。藤山盆地の東部に在り、西南方約二軒を距て、徳山町あり。北境には金ヶ嶽(七二六米)・三嶽(七九三米)・西ヶ嶽等(七二六米)の山脈東西に連り山麓は臺地狀をなして中央に谷を狭み、南部は低平なる平野開け、南境に沿ひ藤山川西流す。農業を主生業とし米・大麥・蔬菜・花卉・食用農産・樺皮・果實・繭等の農産多く外に藤那・蠶糸・蠶製品・水産養殖等あり。社總本山鐵道藤山驛は西方約四軒にてバス

ハタ 秦 (秦村) 埼玉縣武藏國大里郡の東北隅。熊谷市の東北約五軒。利根川と御前堀川との合流地帯に在り。南は御前堀川を以て北境玉郡と、東北は利根川を以て群馬縣と境す。全村地低平にて耕地よく拓け、主として桑園は利根川沿岸に、水田は御前堀川沿岸に拓く。主生業は農にして米・繭を主産す。村の中央より東北・東南・西北・西南の四方に縣道通じ熊谷市にはバス通ず。また利根川・御前堀川に依る舟楫の便あり。

ハタ 旗山 徳島縣勝浦郡の小松島町の南部にある大字芝生の南端、土佐街道の東側路傍、田の中に孤立せる岩山にて海拔三〇米。東北より西南に走る扇形形の丘陵にて、徑二〇〇米、美観の修飾的遺跡として有名な山なり。壽永の昔、源義經が讃岐屋敷に籠れる平兵衛を奇襲せんとして播磨津波の浦より出帆し、風浪を冒し阿波國尾子ノ浦(現在の小松島附近)に上陸の上、この山の上に白旗を懸すと傳ふ。但しこれは傳説にて、元來の如山を旗山に附會せしものなり。

ハタ 秦村 岡山縣備中國吉備郡の中郡。東は高梁川を距てて埴社町に相對す。西部には三〇〇米餘の山地あり、西南境には正木山(三八一米)そびゆ。正木山の北麓は開拓され廣き谷地あり、北部を東流する高梁川は東北部に於て南方に流路を轉ず。南部の山崎に池あり。河の沿岸に低地ありて耕地開き、米多を産す。東部人口は國勢調査によれば大正九年二二九一人、同十四年二四四五人、昭和五年二〇九人、同十年二四九人となつて、同十年の一方新人口密度は一八一人にして全國平均の一八一人と同數なり。この地は和名抄に下道郡秦原郷と見ゆる地なり。

ハタ 羽田村 岩手縣陸中國江刺郡の西南部。北上川の左岸に沿ひ、岩手堂町の南約二軒、西北は北上川を距て、贈澤郡飯城村・飾禮村に相對す。面積一二・三五方軒にて本郡最小の村。東部には北上

ハタ 波多江 福岡縣糸島郡にありし村。昭和六年に加布里・前原町と共に

ハタオカ 畑岡 青森縣陸奥國南津輕郡の西北部。弘前市の北方約九軒。北及び西北は北津輕郡、西南は中津輕郡に隣接す。面積一〇方軒餘。津輕平野の略中央に在りて全村概ね平坦なり。岩木川は西南部を北流し、その支流河内を貫流せり。米・林産の産多し。道路は西部を南北に通じ、北方の五所川原町、南方の青森縣本郷川部驛へはバスの便あり。また青森五能線通じ林崎驛(昭和十年設置)あり。

ハタカワ 秦川村 滋賀縣近江國愛知郡の北部。愛知川町の東方約一軒に在り、北は犬上郡に界す。略西北より東南に細長し。東部は鈴鹿山脈西麓の山地にして約六―七百米の山脈は東境に西北より東南に連りその西斜面を占む。西部は平坦なる一帯の沃野なり。農業を生業とし米多を産し特産物として生薑・山芋を産す。西部低地は幾多の縣道縱横に走り、社總近江鐵道豊郷驛は西北方約〇・五軒にして交通の便よし。この地は和名抄、愛知郡波野郷に當る。(經野神社)大字岩倉に鎮座。祭神、素戔嗚尊。相殿に彦坐王、合祀に七神を祭る。彦坐王は開天化皇の第三皇子にて、崇神天皇御宇に四道將軍の一人として西海に赴かせ給へる丹波道主命なり。真耶本王はこ

の命の第五王子には當國國體たりき。當社は此地に住せし祭神の子孫がその祖神を鎮座せしものなるべし。式内經野神社に擬せらるゝも明かならず。貞觀五年に從五位下に遷む。佐々木高頼の高光頼の當地を領するや當社を鎮守とし、その崇敬は三世の孫實綱まで續き社理隆昌なりしが、安孫子城滅亡の際に兵火に遭ひ社殿・舊記悉く灰燼に歸す。萬治三年勸修寺宮良尚法親王は特に當社を崇敬され、また寛文五年八月には安孫子左衛門尉正令・同志原允義寛は永代の献湯料として神田の寄進ありて社運再び振ふ。なほ當村大字北波野にも經野神社ありてその起源を同じうす。明治四十二年に氏子區内なる村社・無格社十餘社を合祀し、近年縣社に昇格す。例祭、四月二十日。(經野神社)大字北波野に鎮座。祭神、素戔嗚尊。相殿に彦坐王、合祀に七神を祭る。彦坐王は開天化皇の第三皇子にて、崇神天皇御宇に四道將軍の一人として西海に赴かせ給へる丹波道主命なり。真耶本王はこ

同名神社あり。例祭、四月二十日。(安孫子神社)大字安孫子に鎮座。祭神、天稚日子命。佐々木氏の墓下に於て當領主たる安孫子氏代々の尊崇高かりし社。例祭、四月十六日、十月十日。(大行社)大字松尾寺に鎮座。無格社。祭神、高皇產靈神。寛正四年の創建と云ふ。沿革不詳。明治維新までは當村の古刹金剛輪寺(天平十三年行基の開創にて俗に松尾寺と云ふ)の境内にありて、その守護神たり。社殿中、本殿は圓寶なり。例祭、四月二十日・九月十六日。(金剛輪寺(松尾寺))大字松尾寺にあり。天台宗。松尾山。寺傳に據れば天正九年聖武天皇の勸願によりて行基これを開創す。時に金剛輪寺の勸願堂に寺領を賜ふといふ。當時寺領三千石を有し坊宮堂を鎮立せりといふ。嘉祥年間圓仁これを中興し寺勢大いに振ひしが、近世稍々退轉す。本堂を始め阿彌陀如来像(木造)・十一面觀音立像(同上)一軀、他十二點は國寶に指定せらる。(常照院)大字松尾寺にあり。天台宗。村内の金剛輪寺塔頭。彦根藩主水俣幹二の祖木俣清左衛門の本願にて創建すと傳ふ。阿彌陀如来像(木造)一軀は國寶。(明壽院)大字松尾寺にあり。天台宗。俗に松尾甘茶寺と稱す。

ハタオカ 畑岡 青森縣陸奥國南津輕郡の西北部。弘前市の北方約九軒。北及び西北は北津輕郡、西南は中津輕郡に隣接す。面積一〇方軒餘。津輕平野の略中央に在りて全村概ね平坦なり。岩木川は西南部を北流し、その支流河内を貫流せり。米・林産の産多し。道路は西部を南北に通じ、北方の五所川原町、南方の青森縣本郷川部驛へはバスの便あり。また青森五能線通じ林崎驛(昭和十年設置)あり。

ハタオカ 畑岡 青森縣陸奥國南津輕郡の西北部。弘前市の北方約九軒。北及び西北は北津輕郡、西南は中津輕郡に隣接す。面積一〇方軒餘。津輕平野の略中央に在りて全村概ね平坦なり。岩木川は西南部を北流し、その支流河内を貫流せり。米・林産の産多し。道路は西部を南北に通じ、北方の五所川原町、南方の青森縣本郷川部驛へはバスの便あり。また青森五能線通じ林崎驛(昭和十年設置)あり。

ハタオカ 畑岡 青森縣陸奥國南津輕郡の西北部。弘前市の北方約九軒。北及び西北は北津輕郡、西南は中津輕郡に隣接す。面積一〇方軒餘。津輕平野の略中央に在りて全村概ね平坦なり。岩木川は西南部を北流し、その支流河内を貫流せり。米・林産の産多し。道路は西部を南北に通じ、北方の五所川原町、南方の青森縣本郷川部驛へはバスの便あり。また青森五能線通じ林崎驛(昭和十年設置)あり。

ハタオカ 畑岡 青森縣陸奥國南津輕郡の西北部。弘前市の北方約九軒。北及び西北は北津輕郡、西南は中津輕郡に隣接す。面積一〇方軒餘。津輕平野の略中央に在りて全村概ね平坦なり。岩木川は西南部を北流し、その支流河内を貫流せり。米・林産の産多し。道路は西部を南北に通じ、北方の五所川原町、南方の青森縣本郷川部驛へはバスの便あり。また青森五能線通じ林崎驛(昭和十年設置)あり。

村内金剛輪寺塔頭。大黒天半御像(木造)一軀は國寶。〔矢取地蔵堂〕大字岩倉にあり。狩野庄傳記に、檢非違使五位上平師道の此地に地蔵を建立せしに始まる。時に戦亂ありて師道既に敗北せんとするや、小法師の出現ありて矢を拾ひ取り職捷を得るの奇蹟あり、依りて爾來、矢取地蔵と稱し、同氏累代の祈願所となす。本尊地蔵菩薩立像(木造)一軀は國寶。

ハタガワ

旗川村 郡木縣下野國安蘇郡の南部。佐野町の西北隣にて、東は堀米町と隣し、西は足利郡の一部と隣す。面積五・八六方町。全村平地にて、西境を旗川南流し、水田多く、米を主産す。その他、蕎麥・粟の産あり。舊道は堀米町・佐野町に通じ、佐野町に舎橋兩毛線佐野驛、堀米町に社線東武鐵道佐野驛米驛を置き、この地は往昔、佐野氏の番城を置きし所に、義人、田中正造の生地たり。正造は十九歳にして領主六角家の執政の非を鳴らし退放せられ、爾後、國事に奔走し縣會議員となり、縣令三島通庸の執政に反對し縣長の轉任を訴へ下獄。出獄後衆議院議員となり、足尾銅山礦毒問題に關し幾度か渡良川鐵道流下の被害慘狀を訴へ、政府の對策を提議せしが認められ、明治三十二年村民大舉して上京警官と衝突、多くの犠牲者を出せり。三十四年遂に直訴を行ふ。終生治水に盡し大正二年七十六歳にて歿す。

ハタケチ 島口村 熊本縣肥後國鹿野郡の西部。熊本市の西南方約五町にして島原海灣に臨む。面積二・五八方町の小村。地形低平にして西部沿岸には耕地開く。農産を主とす。附近町村へは村道走る。並建村・白石村・濱田村と共に組合村をなし、役場を並建村に置く。

ハタケサコ 畑追村 島根縣石見國鹿足郡の西部。津和野町の西に位し、西・南は阿武郡に隣す。北部に須郷山、西・南隅に十種峯の高峯聳え村内は概して高距三・四百里の高峯の山地をなして平地乏し。東北部に一條の谷ありて東南の方向に開き、その谷を津和野川の上流屈曲しつ、東南に流れ、流域には耕地ひらけ、農業行はれて米・麥・甘藷・茶・繭等を産す。山地は牧場をなす所多く積牛を牧畜し、また森林よく繁茂して木材・竹材・木炭等の産少からず。其他、養蠶業・蜂蜜採取等の業も行はる。東南部を省嶺山口線走りトシネル多し。河谷を傳ひて縣道東南より西北に走る。もと舊時兩村と云ひしが明治二十四年畑追村と改む。〔笹ヶ谷嶺山〕富村と木部村とに隣る重要嶺山。嶺區九十七餘坪にして附近は山岳重疊たり。嶺區は金銀銅鉛銻

とす。地質は粘板岩・砂岩・砂岩・灰岩の累層にして、方位は東西に近く北六十度傾斜す。主要嶺區は粘岩を上盤とし粘板岩を下盤とする石灰岩中に脈胎せる接觸嶺にて、獨立的の圍塊を形成し、嶺床中に角閃岩及び輝石を混在するを本嶺床の特性とす。採掘方法は、酸化鐵帶は錫礦等に依り硫化鐵帶は錫礦に依る。昭和十年には金八九五、銀七五六、五三〇五、銅二九三、五六九、亞砒酸六七、七四一、この總價額二十八萬餘圓を出だし、同年六月末の使用鐵夫數二五七人とす。開坑は弘安年代と稱せられ、慶長五年大久保石見守支配の時、堀與三右衛門に礦業を許可し、爾來、堀氏の經營たりしが、昭和の代に至り日本礦業会社の經營となる。なほ嶺山名は富村の字名に因るものとす。〔津和野神社〕大字田二種に鎮座。祭神、埴山比賣命・大國主命・宇迦能魂命・龜井並命。創建年代不詳。元中七年に津和野三本松城主なる吉見兵衛大輔直領、再度勸請すと云ふ。寶永四年舊領主龜井政武討死を爲替して堀安明神と改稱し、領内の總領守とす。祭神龜井並命は津和野藩堀井家中心の祖、秀吉に從ひ征伐の功により因州氣多郡一萬三千石を領し、關ヶ原の戰功にて三萬八千石に加増。短垣は民事に盡し海外貿易を企圖するなど國事に致すところ多し。慶長十七年正月鹿野城に病歿す。のち武藏短垣社と稱して堀安明神

ハタソメ

機初村 茨城縣常陸國久慈郡の東南部。太田町の東北隣にて、東北は多賀郡の一部と隣す。阿武隈山脈一支脈の西斜面を占め、東境は約三・五〇米あり。西南部は山裾の平地をなし、久慈川の支流里川南流す。農業行はれて、米・麥・大豆を産し、特産物には煙草・干鰯あり。縣道太田町に通じ、同町には省線水郡線常陸太田驛及び社線常北電氣鐵道常北太田驛を置き、この地は和名抄、久慈郡太田郡の内なるべし。崇神天皇の御代、長幡部の遠祖多豆命、美濃國より機織の具を携へて此地に來り給ひ、機織を造りて初めて機織の技を地方の民に授けらる。村名を機初といふは蓋しこれに因る。而してその織り給ふところの服は自ら衣裳と成り更に織織を要せず、之を内帯と云ふ。現に郷社長幡部神社は多豆命を奉祀す。大字三歳には諏訪神社あり。康平五年源頼義の次子義綱、奥州下向の際この地に留まること三年、その時に信濃の諏訪明神を勧請せるもの。地名はこの三歳に因むといふ。また大字田波は佐竹義隆の居りし處といふ。〔長幡部神社〕大字幡に鎮座。祭神、多豆命。式内小社。源頼義は當社に戰勝を祈り、凱旋の途次鹿島・三島・伊勢・宇佐八幡

ハタダ

畑田 香川縣綾歌郡にありし村。昭和四年本村及び千足村を廢しその地域を以て畑田村を建つ。ハタチ 畑地村 愛媛縣伊豫國北宇和郡の南部。岩松町の南に接し、西は豊後水道に近く、最も近き所は〇・五軒餘に海岸に出づ。稍西北より東南に長く南部は更に東方へ長く延び南境は東字和郡と界す。南境には東西に連る山嶺ありて中央に觀音岳(七八二米)聳ゆ。觀音岳より東北方に連る山地は東南部の北境をなし、南境山地との間に松田川發して東北流す。西半は南境の山嶺が西北方へ傾斜して南部・中部を埋め、西北部丘陵との間に小河北流して小低地を造る。河川は岩松町を流れて海に注ぐ。産物には米・繭多く麥の産もあり。西北部の低地に沿ひて岩松町より來る縣道西南に走り西境中央より海岸に出づ。村内に畑田瀨あり高さ二〇米、幅七米。

ハタノ

波多野村 奈良縣大和國山邊郡の東北部。名張川に跨り三重縣名張郡名張町の西北約三軒。西北は添上郡に接し東および東南は名張郡に隣る。全村一帯に丘陵起伏し、東南方より來る名張川は本村の東南部に入り、東北に村境を曲流して添上郡に出づ。圃の産多く米・麥の産もあり。西方の丹波市町・東北方

ハタノ

畑野 新潟縣佐渡國佐渡郡の中部。國中平野の南端に位す。津波町の南西約八軒。東北は新穂村に、西は金澤村・八幡村に、西南は前野村に隣接す。面積五・三四方町の大村。南東境に小佐渡山脈の分水嶺連り、小佐渡山脈の主峰天地山(六四六米)を始め小倉崎(四〇五米)・細塚山(六三六米)・飯出山など聳ゆ。山脈は南東には急傾斜をなすも、本村側の北西には傾斜緩く、山麓の洪積臺地に擴く。西北部は沖積地にして土地低平、國中平野の中心をなし、本村耕地の大部分はここに發達す。小佐渡山脈に發源する小倉川・長谷川はほぼ北西に並流し、西北部を西南に流る、國府川に注ぐ。中の國中米どころの國中平野の沃野に恵まれ、農業を專營とする者最も多き農村にて、新穂村と共に佐渡にても富裕なる農村として知らるるも本村は寧ろ新穂村を凌駕す。水田九七〇餘町歩・畑二〇〇町歩。米作最も盛にて産米高は二萬石以上に及び、その半ば以上は東京・新潟方面に出す。なほ副業に蠶工業全村に普く

ハタフ——ハタン

地名。和名抄に下道郡奉原郷あり、波多八良と訓す。その地今の吉備郡奉村に當る。

ハタフ 幡生 下岡の町。省線山陽本線及び山陽本線、社線山陽電氣鐵道の幡生驛(明治三十四年設置)を置く。

ハタヤ 畑八村 長野縣信濃國南佐久郡の西部。千曲川上流左岸、支流大石川との合流點を占む。白田町の南方約五村にして、西南は山脈を境に諏訪郡に隣接す。西南境に八ヶ嶽火山群の茶臼山(二三八三米)・楢枯山(二二九五米)聳え、東北にわたる裾野を展開す。大石川は東・南境を流れ東北境を北流する千曲川に合す。一帯に草原多く池の平牧場を初め、牛・馬の放牧盛なり。また森林も多く製炭業行はれ、東部の聚落は養蠶に主力を注ぎ、木炭・薪は村の主産物なり。河岸を佐久甲州街道貫通し、對岸の省線小幡驛(穂積村)へ一軒餘、榮村(約三軒)の便あり。本村は畑村・八郎村を合併し、畑八村と名づけしもの。

ハタヤ 畑屋村 秋田縣羽後國仙北郡の南部。大曲町の東方約六村。南は六郷町に接す。東境は海拔五六八米にして、西方に傾斜し、村の東半部は山地をなすも、西半部は横手盆地に属して平坦なり。米・野菜等を産す。道路は平野の中部を南北に通じ、自動車の便あり。西南方奥羽本線飯館驛(飯館村)へは約五村。

ハタヤ 畑山村 高知縣土佐國安藝郡の西部。井ノ口村を隔てて安藝町の北に位し、西より北は香美郡に隣接す。山村にして峻嶺重疊す。東境には山脈東北より西南に連り、北境には五位ヶ嶽(一八八五米)聳えて山脈東北より西南に延びて村境を限る。西境の中央より西南方へ連る山脈ありて次第に高さを減じ

て中央に轉り、西南部にも同方向の山地ありて、西南境に三社ヶ嶽(六七四米)あり、漸次南方へ下る。北部に於ける畑山川は迂曲しつゝ、南流し、西部に發して東南流する支流は東南部にて之に合し南方約六村にて土佐藩に注ぐ。米・藁・生繭・果實・蔬菜・花卉・三椏・麥・食用農産・木炭等の産あり。東南部には河谷に沿ひて無道通じ安藝町に連絡すれども他は交通不便なり。

ハタヤ 幡山村 愛知縣尾張國愛知郡の東北部。瀬戸市の南に接りし、東南は三河國西加茂郡に境す。猿投山の山脈北境及び東南境を走り、中部に東西に狭長なる盆地を形成す。矢田川は北隣瀬戸市の山地に發源して、この低地を西流す。低地面積は狭小なるも、水田よく拓けて米の産多し、傾斜地には養蠶よく拓けて養蠶業盛んに行はれ、繭の産多し。城内は鐵道通じざるも瀬戸市及び名古屋市へ夫々バスの便あり。この地は和名抄、山田郡山口郷の内なり。明治三十九年、山口村・幡野村を廢し新に本村を置く。本村の地は長久手村・日蓮村と共に長久手鎮山の鎮區をなす。同鎮山は本郡屈指の亞火山にして昭和十年には九三七四を噴出し、現に重要噴山なり。(八幡社)大字山口に鎮座。郷社。祭神、神功皇后・品陀和氣命・多紀理比賣命等五柱。もと山口神社と稱し、本國神名帳に「從三位山口天神」とあるものこれなりといふ。

四四八

例祭 九月十六日。
ハタラ 幡羅 埼玉縣武藏國大里郡の中部。深谷町の東隣にあり。全村平地にて農業行はれ、米・大豆・小麥・大根・西瓜・南瓜・胡瓜等を産し、養蠶行はれて繭の産多し。中山道は村の中央を西走し、省線高崎線また之に並行するも村内に疎なく、深谷町に深谷驛ありてバスの通す。此地は和名抄、幡羅郡幡羅郷の内なるべし。(幡山神社)大字原ノ郷に鎮座。祭神、伊弉諾美命。もと熊野社と稱せしも、實は延喜式内の小社幡山神社にこれなりといふ。古來郡の惣領守として崇敬せらる。例祭、十一月一日。(熊野神社)大字東方に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・速玉男命・事解男命等七柱。領主岡谷・秋元・松平氏の崇敬あり。別當を彌勒院と云へり。

ハタン 馬灘江 朝鮮平安南道を流る河。大同江支流。上支凡て三あり、何れも北大嶽山脈の西斜面に發源す。即ち文倉江は孟山郡の北流なる熱峰(一五九五米)に發して西南流し、東部江と孟山江とは同郡東南部・山中に發し共に北流して孟山邑北方にて合し、これは文倉江と鐵堂山(一〇九五米)の西北麓にて相合し、次いで西北流して徳川郡に入り、寧越・徳川の兩邑の中間に於て大同江に入る。流域約四〇軒。

ハチ 反治 上野國群馬縣の古地名。和名抄に佐位郡反治郷あり、その地今の佐波郡碓氷村の邊か。

ハチイツ 八乙面 朝鮮咸鏡北道會寧郡の北東部に位置し、郡邑會寧の東に開す。北・東・南の三面山地を以て圍繞し西地僅に開けて豆満江に臨む。即ち、北境には西儀峰・入道峯(六八〇米)・山城山、東境には鶴峯、南境には小豊山等聳え之等諸山に發源せる水は中央に集り八乙川となりて西流し會寧邑の北を流れて豆満江に合す。八乙川沿岸に稍小低地散在するも地味瘠薄、加ふるに灌溉の利乏しく農産物豊かならず。物産は大豆を第一とし、粟・馬鈴薯・蕎麥・稗・木材・石灰等なり。鐵道北鮮西部線は豆満江に沿ひ北上し、新會寧・金生の二驛(大正九年設置)あれども、その位置偏在せるため直接便に浴する事少なし。道路は二等道一路は會寧より西縁を北上して鍾城に達し、一は會寧より城内に入り北東に向ひ斜斷し沙乙嶺を經て行營に通ず。之等は改修良く行はれたるも坂路多く交通便ならず。聚落密度極めて疎なり。山城山南麓一帯は陸軍演習場を成し、樊武洞には陸軍演習所蔵舎あり。金生は對岸間島と商取引あり、附近に竹浦・弓心の兩炭礦、驛より半軒に古刹白泉寺あり。對岸には有名なる間島富士堂あり。

ハチイン 八院面 朝鮮平安北道寧邊郡の西部。郡邑寧邊の北西に隣接

す。東は清川江の支流九龍江によりて古城・寧邊の諸面と相隔て、北境には五峰山(五九三米)・香嶺山(七八二米)等聳ゆるも漸次南方に向ひ傾斜し、各所に小盆地を見、南部一帯は土地極めて低平にして主要農業地帯を成す。住民は専ら農・賃業に従ひ、婦人は機械に従事する者少なからず。物産は米・粟を主とし大豆・麥・棉花・明神・牛皮等とし、東部に三營砂金礦・宮殿礦山の礦區の各一部あり、砂金及び金・銀を出す。二等道路南北に縱貫して西南方博川、北方雲山に通じ、寧邊より泰川に流る三等道路東西に横斷して之と交叉し、何れもバスの便あり。聚落は中部及び南部に多く、南部の天陽洞は主邑をなす。

ハチオージ 八王子市 東京都の西部。東京市を距る三十餘村に位する三多摩の中心都市にして、機業の中心地。南多摩郡のほぼ中央に在りし、北は小宮町、東は七生村、西は元八王子村・浅川町、南は由井村・横山村に境す。東西四・七村、南北二・三村、面積七・三〇方村。人口約六萬。南には古く多摩の横山と歌はれし横山丘陵(多摩丘陵の一節)横ばり、北には川口丘陵、西には下長房丘陵・元八王子丘陵起伏す。此等の間東ロームより成る丘陵に圍まる、八王子盆地には、武相國境附近に發源する北浅川と南浅川とが、多摩御陵の位置する十ヶ里丘陵を挟みて東流し、その合流點

の南岸なる段丘上に八王子の聚落を決定す。而して市域は概し西南より東北に向つて漸次低くなり、標高は西端に於て一二六米、東部に於て約一〇米を示す。前記浅川の本支流は沿岸に扇狀沖積地をつくり、河成段丘の發達著しく、なほ多量の砂礫を運搬堆積して盆地及び侵蝕河床を埋むるにより水量は大ならず、かくて市の西北方には潤河式の河床多く存し、河水は潜行下流に向ふを以て、水田は多くは谷間に自然湧水を利用して發達し面積大ならず。氣候は東京市内に比して氣温較差や、大きく、氣温の年平均は一一・五度、一月二度、八月二四度、降水量一七六四兆にして、風は一―三月及び十月―十二月は北西風卓著し、五―九月は南東風多く、強風季にはローム層の爲に多量の黄塵を飛散す。産業は工業を主とし、商業・農業等これに次ぐ。市の生産總額は二千萬圓を超え、工業額はその九九%を占む。農業戸数は二七一戸を數へうち六割強は純小作をなし、耕地

面積約一四〇ヘクタール中、田と畑とは凡そ一對三の比にて、米・大豆・小麥・甘藷・馬鈴薯等を主産し、米は陸稻や、多し。市街の周邊は丘陵又は傾斜地に平地を交へ、排水よあしき砂質壤土より成るを以て、養蠶は古來盛に行はれ、之を主業となす者多く、本市は謂ゆる關東山麓養蠶地帯の中心をなす。市内の桑畑は面積約二七ヘクタールあり、蠶三千三百貫み出し、其他蠶繭・桑苗を産す。其他農家副業には苧絲・製茶・養蠶・花卉栽培などあり、蠶繭約二萬圓を出す。牧畜は殆ど見るべきものなし。工業は機械工業を第一とし産額一八二萬圓、之に次ぐものは食料品工業(一〇五萬圓)にして清酒・製氷・菓子等を主なるものとし、其他紡織機具等の機械器具工業(三六萬圓)・製材及木製品工業(一二萬圓)・瓦斯電氣工業(四萬圓)・鑄物(三萬圓)等行はる。紡績工業は即ち市の生命にして、沿革甚だ古きも、その漸次物興せるは慶長八年政權が江戸に移りし以來とし、明治維新後特に隆昌を來し、戦争毎に一大躍進を遂げ、附近に圃の豊産地を接せると、大消費地たる京濱地帯に近接せるとにより、八王子織物は品種の増加に、品質の向上に、豁然頭角を現はし、關東五大機業地の一となるに至り。もと純粋の家内工業に出發せる此地の機業は、漸次工業化し、製織・染色・整緯・整理・仲買等と益々分業化するに伴ひ、工場は

八王子市生産總額(昭和十一年)

農産物	九、七〇三圓
畜産物	一〇、〇三三圓
林産物	一、一三三圓
水産物	一、七一一圓
工業物	八、八八八、六八七圓
總額	一〇、〇三三、一八〇圓

ハチ——ハチオ

四四九

ハチオ——ハチオ

愈々市内に集中せられ、市街の北裏及び南裏西側に工場町を建設し、今日市民の生活にして直接間接に新業に關係を有せざるなく市の活氣は一に織物の商況に支配せらる。昭和十一年現在の市内織物商況は、絹織物及び絹交織物を合し五三八にして、手織機一臺に對し力織機五三〇二臺を數へ、職工數は男子九五〇、女子三三七八、計四三二八に達す。製品の大

紡織工業生産額内譯(昭和十一年)

Table with 2 columns: 種類 (Category) and 生産額 (Production Amount). Categories include 絹織物, 絹交織物, 手織機, etc. Total production amount is 1,833,000.

せり。新業者は八王子輸出織物工業組合(組合員六四人)・八王子織物同業組合等を組織し、共同經營・規格統一に力をつけ、その勢力範圍は市を中心として三多摩全部及び神奈川県北部、高座・津久井・愛甲の三郡に亘る所謂關東山麓織物地帯の大半を包含し、製品は東京・阪神を主とし、名古屋その他に移出せらる。商業また盛にして、商業戶數は全戸數の約三割に當る。古く北方約五軒の淵山の城下町に毎月四・八の日に市立ち、これは横山・八日市・八幡の三宿と共に八王子城下に移され、次で天正十八年には三宿と共に現在の八王子市に轉じ、毎月四・八の日に字横山及び字八日市に交互に開市して諸物貨の取引を行ひしが、當時より取引品の主たるものは絹織物にして、その移入地地的環境に支配

ハチカ

を施行し今日に至る。(富士森公園) 臺町南方の丘陵臺地にあり。大正十三年開設、面積四三三アル、運動場・射撃場・忠魂碑・大正殿等あり。大正殿は大正天皇の御喪に使用せし祭場殿を原形のまま移築せられたといふ。(明治天皇聖蹟) 寺町にあり。高さ約三米。本市に於て明治天皇の駐蹕し給ふこと前後二回に及び、その第一回は明治十三年六月十六日山梨・三重兩縣御遊幸の時、第二回は同十四年二月十八日にして御殿時附近御遊幸の時なり。兩日とも行在所たる各谷邸に御泊あり、大正十四年邸前に地に碑を立つ。(多賀神社) 元本郷町上屋敷邊に鎮座。神社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命。もと高幸大明神と號せしが、寛政年間多賀大明神に、明治に至り多賀神社とす。例祭、八月十五日。(八幡・八雲神社) 元横山町に鎮座。神社。祭神、春日別命・素戔鳴命。創立年代詳ならず。往古より兩社と稱す。足利將軍の崇敬ありし由を傳ふ。別當を大義寺と云へり。例祭、七月二十三日・九月十五日。(信松院) 臺町にあり。曹洞宗。武田山。正徳四年に仁科實質の寄進せし軍艦模型を以て著る。模型は大小二箇あり。大船は長さ九七釐、高さ二六釐、彫刻極と称せられ、鉄眼・波除および指合塔あり。小船は長さ八五釐、高さ二〇釐、偵察通報艦なるもの如く、同じく波除・鉄眼あり。何れも木材を用ふ、精巧を極む。信

ハチカ——ハチカ

松院の文書によれば、豊良秀吉が征役後使用せし軍艦の模型にして、文祿年間(大正)の作と推せらる。(大善寺) 大横町にあり。淨土宗。觀音山往生院。淨土宗十八檀林の一。永祿年中、武藏國龜山城主北條氏照、禮佛手秀を請じて之を開創し、寺跡を寄せその菩提所となす。明治二年勸願所の繪巻を懸ける。毎年十月十二日より三日間、大念佛十夜の供養には賑はふ。社前に櫻守神社の小祠あり。ハチカ 八喜村 熊本縣鹿沼郡玉名郡の東南部。伊倉町の東北及び北を圍み、西北部は高瀬町に接す。村内は概ね臺地の丘陵地にして東南部に高く約一三〇米を呈す。菊池川は西北境に沿ひて西南流し、其支流東部を掠め北境近くを西北に流れて本流に注ぐ。田地約一三〇ヘクタール、畑地約三九五ヘクタールを有する純農村にして米・蕎麥・甘藷を産し、特産物には西瓜・栗類あり。省線鹿見島本線中央を東西に横切り高瀬驛(彌宮村)は西北方約二軒、木葉驛(木葉村)は東方約一・五軒にあり。ハチカイ 八塊庄 臺南新竹州桃間郡の南端部に位置し、東は海山郡雲歌庄、西は中野郡下の中野街及び平鎮庄、南は大塚郡大塚街、北は桃間街と夫々境を接す。東南邊に丘陵性の臺地横れる外は土地極めて平坦にして、南境邊の一分流菟谷溪西邊を北流す。南境東西六軒餘、南北八軒餘、面積三二方軒餘。管内は殆

せられ、商圏は市を中心として大體中徑一〇軒の圓内に存し、なほ八丈の産地たる五日市、青梅嶺の産地たる青梅、川和嶺の産地たる川和等とも取引を行ひたり。明治以後も八日市・横山町に各一箇所の織物市場ありしが、大正初年に至りて止み、現在は織物は買廻商店に於いて毎週火曜・金曜に取引を行ひ、製品は四・九の日に改めて交易せらる。其他、常設市場には毎日開市する青物市場二、魚市場三、及び花卉市場あり。省線中央本線は東より來り市の南部を東西に通過し小佛驛道を経て甲府方面に通じ、八王子驛(明治二十二年設置)より東京驛へ約一時間二十分にて達す。同驛より南へ横濱線、北へ八高線の各線が岐ち、また東京新宿と相通する社線京王電氣線も地方的運輸に任じ、其他此處を起點として高尾山に至る武蔵中央電鐵及び京王線の多摩御陵前線の支線あり。道路は甲州街道市の中部を東西に貫き、自動車往復道く、なほ市を中心として西方上野原へ甲州街道、西北へ五日市往還、北方へ青梅往還、東北へ川崎街道、其他神奈川縣の川和・原町田方面に出づる各街道あり、上野下・久保澤・五日市・厚木・小倉・大久保・半原の各地にバスを通じ、交通極めて便利なり。市の主なる官公署は市役所・税務署・少年刑務所・區裁判所等に於て、其他、府立染織試験場・市立臺町病院・市立圖書館・商工會議所・府立第四

んど純農村を形成し、庄面積比較的狭少なるも、農耕地多く、平坦地には水田、臺地には茶園ひらけ、米・蕎麥・甘藷・粟・甘藷を主要農産物とす。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏・鴨・鵞等の畜畜・家禽類多く、一般家庭に於て副業的に善く飼育せらる。工業は大規模のものなく粗糲精米・製茶・陶器・煉瓦・製糖等の小工場を有するに過ぎず。交通上栗園に當り、バス線路西三、輕便軌道(手押電車)線路一を有す。管内はもと純て純農村に屬し、當初は平埔著茂ケタケナン部族の一なるシャイイ(善理)社の地にして、清の乾隆ころより主として粵人によりて開墾せられたり。八塊は現行制度施行の際、八塊層を改稱せしものにして、八軒家の意に出で、開拓當初僅かに八家の移住するありしのみなるに因りて名づけしものなり。乾隆の末年に南方大窪(もと大窪と稱す)方面の開かる、と共に、この地はその中路として漸く發達す。ハチガオ 八ヶ尾山 丹波篠山町の北東方約一軒。兵庫縣多紀郡大平村に時つ、標高六七八米。北方近く船井郡との境界東西に走る。ハチガタ 鉢形村 埼玉縣武蔵國大里郡の西南部。寄居町の東隣にして荒川の南岸にあり。面積六・三七方軒の小村なり。村の東半は約一五〇餘米の山地をな

し、北半は荒川流域の平地にして農業は、蕎麥・米を産す。縣道寄居町に通じ、社線東武鐵道東上線は北部を西走し、鉢形驛(大正十四年設置)を置く。この地は和名抄、男妾郡大山郡の内なるべし。永祿・天正の頃は小田原北條氏の一門、安房守北條、鉢形城に居り北武蔵及び秩父を領し、上州をも控制し、士民幅射して大邑たり。(鉢形城址) 指定史蹟。室町時代中期、關東管領山上杉氏が武蔵北部の要領として築き、重臣長尾氏をして居らしめし、文明五年長尾景春叛し、主家山内顯定と戦ひ、城は慶長兩氏の攻撃を経て、同十一年景春破れて城を退去し、永正九年景春また城を奪ひてこれに居る。その後一時廢城となりしも、永祿三年北條氏康の子北條秩父天神山城より鉢形古城を修葺して移る。天正十八年豊臣秀吉の小田原征伐の際、この城も秀吉の攻めする所となりて廢城し、以後廢城となる。昔面荒川の天險を擁し前面深澤川の深谷を控へ天險の要害を占む。大手・搦手・本丸・二ノ丸・三ノ丸及び諏訪曲輪には所々に礮臺を存し舊規見るべきものあり。關東に存する戰國時代の城址中、完全に残れるものの一なり。ハチカンチヨー 八官町 江戸時代開場所の一。比丘尼と稱する私堀の出でし所。いま東京市京橋區八官町。外濠に接し、北は山城町加賀町、南は丸屋町に隣る。俗に八官町御通とも云ふ。

ハチカ

ハチケ—ハチシ

製菓業「びく」といふ物也、すなはちあ
たけといふ園よりいづるなり、むかしは
大はんじやうにて門跡まへ、代地、いづ
み丁、八くわん丁などに出ばりして大き
にぜんせいをつくしたり」

ハチケンジャヤ 八軒茶屋

江戸時代岡場所の一。現今大阪市北區天
満の地名、八軒屋とは別所。浪花色八卦
—八軒茶屋、此所は饗答と品かわりてお
じやれの體なり、店には燈の天蓋鳥貝の
高もりを置いて前たれがけにて人をうな
づき、客は多く武家の奴才こらさを初と
して、近比多く入込み繁昌す。遊ばんと
思はばずつと這入て座につき、是をと思
ふやつをうなづいて、きせるか茶か乞へ
ば、はやれじやと合點して前垂はづし
間中の事に及ぶ也」

ハチケンヤ 八軒屋

大阪の地名。現
今天神橋南詰の東、東區京橋二丁目。天
滿橋の天神橋の中間の淀川河津に於て、
京都伏見通の川船の發着所。西鶴傳つ
れん、二、和朝の鹽津津や八間屋とい
ふ所に、家集えたる樂坊主、同じ心の友
二人住ける。心中天の湖島、下「南へ渡
る橋柱、敷も限らぬ家々を、いかに名づ
けて八軒家、誰と伏見の下り舟、着かぬ
中にと道急ぐ、この世を捨てて行く身に
は、隔くも忍びし天滿橋、淀と大和の二
川を、一つ流れの大川や」俳諧額明月
庵・中「お龜様が見えぬわ、そりや提灯
よ釣鐘よ、八へ過ちや八軒屋、河内よ掛

よ川口よと、足許へは氣もつかず、手分
なしてぞ進つ驅ける」

ハチコ— 八口浦

朝鮮全羅南道
務安郡にある灣。羅州郡島に屬する都草
島とその東方に分布する箕佐島その他の
島嶼に圍まれ、天然の良港地をなす。備
地は南北約二軒、東西三軒餘にして、大
小數多の水道これに通じ、出入頗る便な
り。灣の外は石首魚・鮫などの漁獲多
し。

ハチコ— 八高線

省線中央線の
一。八王子市より高崎市に直通す。東京
府八王子市の中央本線八王子驛より埼玉
縣を経て、群馬縣群馬郡倉賀野町の省線
高崎線倉賀野驛に至る九二軒。昭和九年
全通し、八王子驛と高崎驛間に直接運轉
をなし約三時間にて達す。八王子驛にて
省線横濱線・社線武蔵中央線、拜島驛
（東京府北多摩郡拜島村）にて社線青梅電
氣及び五日市線、東飯能驛（埼玉縣入
間郡加治村）にて社線武蔵野線、越生
驛（同郡越生町）にて社線東武鐵道、小川
町驛（比企郡小川町）にて社線秩父鐵道、
寄居驛（大里郡寄居町）にて社線秩父鐵道
及び東武鐵道、倉賀野驛にて社線岩倉線
便に連絡す。

ハチコク 八石山

越後山系彌彦火山
群南端の一峯。新潟縣刈羽郡中船村と
山根澤村との境上に跨り、標高五一七
米、高からざれども南北に長き障壁狀を
なして峙つ。北東に武石峠最高點（二

七九米）峙ち、東麓は北流する信濃川支
流澁澤川、西麓は同じく北流して日本海
に入る鑛石川に限らる。山麓火山岩より
成る。山中澤布懸りまた十二神を祀る祠
あり。この山昔大豆を植ふしに八石程取
獲ありしと云ふ。山名これより出づ。

ハチサキ 鉢崎

石川縣珠洲郡にあり
し村。明治四十一年三崎村と共に廢しそ
の區域を以て新に三崎村を設く。

ハチジュ— 八十里

福島縣南會津郡伊北村より
只見川支流叶津川を北西に進行して山麓
を越え、北西方信濃川支流五十嵐川流域
なる新潟縣南蒲原郡森町村に至る山越。
この山路は一里を六町と計算して八十里
に當る。最高點の北東麓に中ノ又山（一
〇七〇米）づき、南東麓に淺草岳（一五
八五米）・鬼面山（一四六五米）連る。伊北
村と新潟縣北魚沼郡入道村との境界に
て、南西降して平石川上源地に達する一
山徑を分岐す。この徑は更に川に沿ひ入
道村を西に貫く。また鬼面山の南方に
六十里越の鑛の山越あり。

ハチジュ— 八丈島

東京都八丈支廳の主島。伊豆
七島の最大島。御蔵島の南方八〇軒、東

京の南方四八〇軒の岸上に位し、面積六
七平方軒。島は西北に西山（八丈富士、
八五四米）の美しき複式コニーデ型火山
聳立し、寄生火山も多く點在し、東南に
は東山（三原山、七〇一米）の三重式コ
ーデ型火山ありて、既に著しく開析せる
火口原を有し、本島は兩火山の裾野が合
して形成されしものにて島形は中部やや
縱れて兩狀を呈す。海岸線は四二軒に及
ぶも海崖迫り、暗礁も少なからず、神港、
八重根、藍ヶ江、洞輪澤の四箇地あるも、
良港ならず、東京灣汽船等の定期船は一
軒餘の沖にて荷役す。昭和十年の平均氣
温一七・八度、最高温三二・三度、最低
温二・二度なり。年快晴日數六日、降雨
日數二一日、年降水量は三六〇七軒に
て日本内地の最多雨地なり。平均風速度
は六秒米、最大風速は二四・一秒米とす。

Table with 3 columns: 産物 (農産物), 産額 (千圓), 百分比. Rows include 農産, 畜産, 林産, 水産, 工業.

昭和十一年の八丈島の總生産額は一四〇
三千圓にて、水産はその三二%を占めて
最も多く、農産二二・九%、畜産二一・三
%これに次ぐ。柿・赤柿・椎・桐・梅・黒
松等の自然木、杉・扁柏・樟等の人造林

ハチジョ— 八條

埼玉縣武蔵國南埼玉郡の南部
古利根川と澁澤川とに挟まれたる小村に
て、東は古利根川を隔て、北葛飾郡と相
對し、西は澁澤川を隔てて北足立郡草加
町と隣す。全村低地にして水田多く、米
を主産し、他に葱・漬菜・麥を産す。縣
道草加町に通じ、バス往來し、同町の社
線東武鐵道草加驛に出づるに便なり。こ
の地は近世八條鎮と稱せし地にして、東
麓にこの名見ゆ。桓武平氏、村岡氏の一
族、この地に野與氏を稱す。

ハチジョ— 八丈石山

阿武隈山脈の一峯。福島縣相馬郡會房村
の南西嶺。西方に雙葉郡津島村との境界
線走る。標高五〇七米、山體片麻岩より
成る。北斜面を山徑東西に巻き、北西斜
面に金谷峠あり。東斜面より小高川發し
て東流す。

ハチスカ 蜂須賀

愛知縣海部郡にあ
りし村。明治三十九年本村外二村を廢し

ハチダ 蜂田

和泉國（大阪府）の古地
名。和名抄に大島郡蜂田郡ありと記す多
し。其地今の泉北郡八田村の邊か。

ハチタン 八灘面

朝鮮京畿道水原郡
の中央よりやや西南に位置し、那色水原
の西南約二〇軒にあり。東北境に建達山
（三三七米）の聳ゆる他は百米内外の丘陵
性臺地を成し、西部は沈降して南陽灣の
東支を成し頗る出入に富ありて、潮汐干
満の差大なるを以て船舶の出入も、潮留便
ならず。臺地を浸蝕せる谷頭には湧泉到
る處にありて灌漑の便よく耕地發達す。
農産物は大豆を第一とし米これに次ぎ、
小麥・粟・棉花・生牛等ありて、近時當
局の指導により蔬菜（殊に白菜）・果樹の
栽培も行はるるに至れり。道路は水原よ
り來る三等道路面の東部を通過し、發安
場に通ずる他は何れも等外路線にして交
通運輸共に便ならず。聚落は普遍的に分
布し、その密度極めて大にして、面事務
所を中部の舊場里に置く。

ハチド— 八道

朝鮮の八道、即
ち京畿・江原・咸鏡・平安・黃海・忠清・
慶尙・全羅の稱。明史・朝鮮傳「是時倭
已入王京、毀墳墓、却王子階臣、割府
庫、八道殘遺、且幕且渡、鴨綠江」

ハチノシリ 八之尻村

山梨縣甲斐
國四八代郡の西北部。市川大門町の西南
に隣る。面積一・九一方軒の小村。昭和
十年度の人口五四三人にして密度は二八

もよく生育するも、殆ど薪炭材にて水炭
は島の重要な移出品となり、樺は宅地の
防風林として利用すること多く、樟油
は婦女子の重要な副業生産品にて、樺の
枝・椎實・椎茸と共に移出さる。耕地は
田七三・八町、畑五八七・六町（昭和十
一年末）。田は島内消費米の半量を生産せ
ざるも、伊豆七島・小笠原島には全く珍
しきものにて、この島は小規模ながらも
水力発電所設けらるる程にて、水には比
較的恵まれしに原因す。畑は平地にては
は永久畑多きも、傾斜地にては概れ定期
の切替畑にて、耕作物は麥・粟・稗・甘
藷・里芋・八丈萩等を主とす。昔時暴風
の被害の甚しかりし時には薪炭・鹹草
類炊までも食せしといふも、享保八年始
めて甘藷移入され、更に文化八年新島よ
り島の風土に好適する赤甘藷移入されし
以來飢饉を免がるゝに至る。乳牛の飼育
も亦島に好適するものにて、八丈萩を主
要な飼料となし、煉乳工場あり。往時貢
納に専ら使用されし八丈萩は勿論家内工
業にて、その獨得なる染色が珍重されし
も、現在にてはその産業は微々たるもの
なり。洞遊魚類は少なからざるも、鰻魚の
養殖機は静岡・千葉兩縣より、文鰻魚
の漁期に千葉縣・大島より季節的に來島
し、いはゆる國地のものに利益を墾闢さ
れ勝ちなりしが、近年は養殖機も漸増
の傾向にあり、鰻魚・鰻魚・文鰻魚
の鮮魚は東京に移出され、岩磯多きこと

はトポアソ・ツツアサ・サイイ・海苔の
地附を豊富にし、島の東北端部の末吉・
三根の兩村はそれ等の採取が最も盛んな
り。家は天井低く床高き板屋にて、屋
根は著しく急勾配にして、四圍には原木
を積らし、宅地の外圍は石垣を以てし、
その上に柵を築く。八丈島は他の伊豆の
島と同様、往古より明治の初年に至るま
で一種の流刑植民地とも見られ、この島
には開ヶ原合戦の西軍の總帥、宇喜多秀
家來島せしを始めて明治四年まで流罪
の囚々送さる。その一人なる近藤東藏
の息宮藏の著書によれば、慶長十五年よ
り慶應二年までの二六六年間に總數一八
二三人に及び、その内男官女二人、大名
四人、陪臣六二人、女七三人、僧侶二二
一人、社人一〇人、百姓二八一人、無宿
三二四人、非人一人、小者六一人、山
伏六人、町人三一五人、穉多三人、外自
身來島し且つ去りし者三人とあり。ほか
難船のため漂著せしも少からず。津黒に
て地面を曳く程の長き壘を島田に結び、
唐棧前掛首領の二船艦をかけ、頭の水桶
を戴く女子の風俗は、現今にては殆ど見
られざるも、古語・習慣等保守され、言
葉の説の如きは九州南部の調子を強く残
す。現今行政上にては東京府に屬し、島
の主邑大賀郷には八丈支廳・洞輪所等あ
り、大賀郷・三根・樺立・中之郷・末吉
の五村に分る。
【八丈富士】 ↓西山（東京都府）

ハチシ—ハチノ

ハチノ

四人とす。鐵ヶ岳(二八〇米)の西南麓に位する山村にして、村内東より西への傾斜地を成す。...

ハチノ

八戸市 青森縣の東部にある都市。東は太平洋に面し、西北は三戸郡館村、南は是川村・大館村・階上村に隣接す。...

四七

備はるに及び、生産業も活況を呈するに至る。職業別戸数を見るも商業最も多く二五・三%を占め、水産業一八・七%、工業一五・四%これに次ぐ。...

(末年十和昭) 職別戸数

Table with 2 columns: 職業 (Occupation) and 戸数 (Number of households). Rows include 農業 (Agriculture), 水産業 (Aquaculture), 工業 (Industry), 商業 (Commerce), 交通業 (Transportation), 公務員 (Public employees), 無職者 (Unemployed), 計 (Total).

(年十和昭) 産物産額

Table with 2 columns: 産物 (Product) and 産額 (Production amount). Rows include 農産物 (Agricultural products), 水産物 (Aquaculture products), 工業産物 (Industrial products), 林産物 (Forestry products), 畜産物 (Livestock products), 計 (Total).

本市の産業は八戸港の地理的要素に基くもの多し。水産業は殊に顯著にして大型漁船の建造及び各種漁具の改善等に...

輸出品 (昭和十年)

Table with 2 columns: 品名 (Product name) and 数量 (Quantity). Rows include 品名 (Product name), 数量 (Quantity), 品名 (Product name), 数量 (Quantity).

(年十和昭) 物出移要主

Table with 2 columns: 品名 (Product name) and 数量 (Quantity). Rows include 品名 (Product name), 数量 (Quantity), 品名 (Product name), 数量 (Quantity).

(年十和昭) 物入移要主

Table with 2 columns: 品名 (Product name) and 数量 (Quantity). Rows include 品名 (Product name), 数量 (Quantity), 品名 (Product name), 数量 (Quantity).

(年十和昭) 物産工要主

Table with 2 columns: 産物 (Product) and 産額 (Production amount). Rows include 産物 (Product), 産額 (Production amount), 産物 (Product), 産額 (Production amount).

(生産額六千五百圓)・印刷の六工場(生産額七〇千圓)・化学工業の五工場(生産額一六五千圓)なり、紡績(生産額八千圓)・製紙(生産額四千圓)工業は僅に一工場のみ。併し前述せし如く本市の工業はセメント工業が第一にて、次で水産加工品、製材等なり。...

ハチノ

業は地味肥沃ならずとも西北部の沖積地に耕地廣く、田四二町歩、畑一八八四町歩あり。米は冷害等を蒙ることありて屢々減産を見る。畑作物に小麥(六七一九石)・大豆(一六〇八石)・大豆(四七五〇石)・稗(六八三〇石)・馬鈴薯・蔬菜等あり。交通は主要道路は主として舊八戸町を中心として發達す。...

今日に及ぶ。其間、隣村長者村を合し南に地方の首邑として経済・文化の中心地となる。明治二十七年に初めて省轄八戸郡と改稱し(いまの津軽に至るもの)、大正十四年八戸郡より久慈縣に改稱し、且つ東北地方開發の契機たる八戸港の修築は正八八年以來行はれ、今は陸上設備も殆ど完成す。南港的施設も昭和七年より着手し、同十年第二重要港灣に選定さる。同四年五月八戸町・小中野町・津町・館村が合併し市制を布く。...

の傍にありて小公園となり、建物と共に史蹟に指定され石燈臺あり。(種差海岸)指定名勝。内殿町種差にあり。舊島の邊より種差を中心として東南金濱に至る者八戸港に沿つて約一〇軒の太平洋に面せる海岸一帯は、傾斜丘陵地が海岸に迫る砂濱に主として安山岩及び角礫岩より成る大小各種の形状を呈せる奇岩怪石が處處に點在し、また海中に小岩島の横はるありて特色ある一種の雄大廣漠たる風光を現出す。...

四七

ハチノ——ハチホ

一岡の常水塔として知らる。(八戸港...)

ハチバマ

八濱町 岡山縣備前國見島郡の北部。見島半島東部の北岸に位し...

ハチブセ

鉢伏山 鉢伏山群の西端に位し...

ハチホ

八峰 八峰山 八峰山群の西北端...

ハチホ——ハチマ

述する外は何れも等外諸線にて交通... 八峰山 八峰山群の西北端...

ハチホ

八峰山 八峰山群の西北端に位し... 八峰山 八峰山群の西北端...

ハチホ

八峰山 八峰山群の西北端に位し... 八峰山 八峰山群の西北端...

ハチロ—ハツカ

米前後の帯を作る。注入河には東方より馬場目、三つの二川あり。水色は濁り、透明度一—二米。鹽分は船橋水道より遠流の及ぶ附近は多きも、大部分三%位にて、海水の十分一にも達せず。一月下旬より三月上旬に至る間結氷す。浮游生物は淡水及び汽水のものが混じり、藍藻・硅藻・輪藻類等多し。魚類としてはワカサギ・ゴリ・メナダ・ホラ・フナ・エビ・ウアロ・シラウオ等にて、やはり淡水及び汽水のものを混す。また水底に生ずるワカサギ等は沿岸農田の肥料として夏季に採取す。殊に冬の氷上漁業は漁具・漁法の獨特なるを以て知らる。湖底には、揚子江層の活層あり、西岸の南秋田郡湯戸村より湖中に入り、北東部に湖を越え山本郡森岳村に至る。この層層に沿ひ湖の沈澱のため湖底の砂が露出され、炭酸石灰の沈澱のため湖底の砂が露出され、之等を漁夫は湯坪と稱し常にカヌの上昇する目印となす。この層層は文化七年の男鹿大地震の時、鮎川断層(南秋田郡五里合村より本村に向ひ南北に男鹿半島の東部を貫く)と共に活動せしもの、地震の一箇月前より時々八郎湖の水色が變化し、魚の多く死せし事あるは此の断層の活動に基くものと思はる。なほ湖の周辺は景勝に富み、東岸の三倉倉は特に知らる。西方寒風山對面のスキー場と共に湖上はスケート場として賑ふ。

八輪 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村外一村を廢し、六和村の一部を以て八輪村を置く。ハツ 羽津村 三重縣伊勢郡三重郡の西北部に積丘陵ある外は低平なる平野にて四日市市の北部を東流する海蔵川が本村と四日市市との間に伊勢海に注ぐ。米・蠶等の農産の外水産・畜産・礦産・林産等あり。また四日市市に接する爲、綿織物工業盛なり。東部に伊勢街道南走し南部にてより分れて北走する街道あり。省線西本線東海岸を走り、北境近くは富田濱あり。中部には社線參宮急行電鐵伊勢線通過して鼓ヶ浦・羽津の二驛(共に昭和四年設置)あり。萬葉集・卷六に「おくれにし人をしめばく四流能崎木橋取りしてて往かむとぞ念ふ 丹比屋主」とある四流能崎は本村の羽津の濱を指せるもの。戰國の頃赤松氏の一族羽津氏この地に居り天正の初め滅ぶといふ。天正十二年羽津秀吉この地に陣し織田信雄と和議を結べり。淨恩寺は西本願寺末寺なり。住僧空海僧兵を奉るて織田信長と戦ひ敗死すといふ。(志氏神社)大字大宮西に鎮座。縣社。祭神、伊吹戸主神・住吉三神等十二柱。延喜の制國幣の小社に列す。領主羽津・濱田・赤松氏等

の崇敬あり。俗稱、高御前。明治元年三月、車駕東幸の時、奉幣使を遣はさる。例祭、十月十七日。(伊賀留我神社)宇勢に鎮座。縣社。祭神、天照大神神武天皇御魂神。一名、齋大明神。天武天皇白鳥年中軍を當地に駐め給ひしことあり、その時天照大神を鎮祭せられしに創まるといふ。延喜の制、國幣の小社に列す。例祭、十月十六日。ハツ 初島 靜岡縣熱海市に屬する島。熱海市の東南方約一〇軒の海上に浮び、長徑僅に一・二軒、面積約〇・三五方軒の小島にて、熱海カマクラ火山の東部の一斷片が陥没を免れ殘存せるものと稱せらる。地形は最高點漸く四七米を有する平坦なる卓状地をなし、之を餘取りて狭き海岸低地ありて南端のみ海崖をなす。住民は半農半漁の生活をなす。平坦地は全部耕地にてほぼ各戸平等に分割され、また漁業も共同經營多し、所謂社會主義的自治部落として名高し。聚落は北岸にあり四十二戸を算し、その戸数は相當古くより不變にて、これ以上戸数の増加は絶対に許されず。人口は約三七〇餘人。關東大地震の際土地約一米隆起し、また小規模の隆起が現はる。最近熱海に遊ぶ人の訪れる者頗る増加し一名所となる。ハツアンジ 發安場 朝鮮京城道水原郡の邑。嶺南の北端にて發安川の中流に跨り、水原半島の地頭部を占む。北方水原、東方島山、北西南端、

西南半島部、及び南方板成郡内に通ずる諸街道の要衝に當り、米の集散地をなす。ハツカ 羽東山 有馬温泉の北方約一三軒。兵庫縣有馬郡三輪町の北流にして神戸水道の源なる羽東川の右岸に峙つ。南麓には三輪町下部落ある故に一に香下山とも云ふ。全山石英斑岩より成る。富士型に乾岩として峙ち、山體樹木にて掩はる。新古今・一六「秋はつるばつかの山の淋しきに有明の月を誰とみる びつ 匡房」ハツカ 發荷峠 十和田湖の南岸、秋田縣鹿角郡大湯町と七通村との境界に最高點(六四七米)を蔵く峠。十和田湖これにかかると。峠には山毛櫨の大樹疎生す。之より北に俯瞰する十和田湖の湖景美は天下に名高く、眼下に中山・御倉の兩半島並び、湖を圍む山々の緩徐なる山稜は湖水美の壯大を一入引立たしめ、十和田湖の全景を仔細らずに見得る最良の地點なり。これより火山灰の堆積したる處を西北に下り、右に轉ずれば湖岸生出(ここに和井内湖あり)に至る。峠より約二軒、その間林間より湖面の眺め良し。この峠附近に於ける秋日の紅葉美はその名を知る。南方大湯よりこの峠を経て生出に至る間に自動車の便あり。ハツカイ 八海山 鶴後山系清水山塊の一峯。新潟縣南魚沼郡東村と城内村との境界に跨る。東方は北西流する水無川(信濃川に注ぐ魚野川の一支出)上源地を距

てて駒ヶ岳(二〇三米)と對峙し、南東麓に中ノ岳(二〇八五米)連り、駒ヶ岳と中ノ岳とは南北尾根をなす。木曾の御岳山と共に古より靈山として信仰登山行はれ、今も尙ほ白衣の行者の姿を見る。頂上に八湖あり、日の池・月の池・五龍の池等と名付けられ、八海大明神を祀る。山名これより出づと云ふ。山頂部には岩石露出、數峯屹立し、峻嶒なる箇所には嶺を分け、登攀の便とす。各峯には數十の神像安置せらる。最高峯か日本岳または不動岳と稱す。その後方の峯を大日岳と呼び、ここに奥の院鎮座す。この頂よりは展望廣闊にして東方眼前に駒ヶ岳・中ノ岳聳立し、西南方近くには上越の山山・遠くは妙高・火打等、並に北アルプスの最高峯鳳野に入り一帯千里なり。登山路三あり、西北麓水無川に沿ふ東村大倉口、西麓大崎村口、西南麓城内村口、これなり。六合日には曾て女人堂あり、明治維新まではこれ以上女人の登山を禁じたり。九合日は岩場の始る箇所にて一六五三・八米の三角點の東南部部に當る。ここに三機の龍堂ありて宿泊等の便を計る。九合日より大日岳まで鐵道を頼りて登攀す。登山口より登り六時間を要す。八海山より中ノ岳・駒ヶ岳への縱走を三岳めぐりと稱す。

ハツカイ 八開村 愛知縣尾張國海部郡の西北部。木曾川左岸に位して岐阜縣海津郡に對し、北は中島郡に界す。地形極めて平坦にして西境には南流する木曾川の大川あり。村内には數多の南下する小流を含む。米産多し多も産し、養蠶も行はる。中部を西北より東南に縣道横断しバス名古屋市に至る。木曾川には渡船の便あり。本村は明治三十九年開治村・八輪村を廢し、その區域に六和村大字鹽田とを合せて置きしもの。北條高時の二男、相模次郎時行の子、平太郎時高、本州賢江村に墾居し、その子平太郎時任、愛知郡横井村に住し横井氏を稱し、その子時永は本村の大字赤日に墾城し、子孫海部郡を領知せり。(宇多志神社)大字開治に鎮座。縣社。祭神、足尾命。創立年代詳ならず。もと白髮大明神・鶴多須大明神とも云へり。延喜の制、國幣の小社に列し、尾張國内神名帳に「從三位宇多須天神」と見えたり。例祭、八月十五日。(當間神社)大字森川に鎮座。縣社。祭神、豐岡比咩命。古來當所の産土神たり。例祭、七月二十一日。ハツカイ 拔海 北海道北見國宗谷郡稚内町の大字。宗谷本線の抜海驛(大正十三年設置)あり。

ハツカイチ 廿日市町 廣島縣安藝國佐伯郡の東南部。五日市町の西南に隣りて廣島灣西北岸に臨む。面積一方料の小村。南方海上には嚴島の北部を望む。沿岸沖積地を占むるため山と稱す。米の集散地をなす。主産業は商業にして、次で工業發達し、前者の五に對し後者は三の比なり。特に板材木・薪炭類・酒類の製造販賣多し。毎年廿日定期に市を開き米・薪炭の類を賣る。特産物に挽物による玩具類の製造あり。西北部に山陽道通過し之を挟みて市街地街村狀に發達す。省線山陽本線廿日市驛(明治三十年設置)は西北隣平良村にあり。廿日市は内務省指定港にて船舶の入港多し。和酒(二二五九千圓)・木材(一一〇八千圓)・礦油(一〇二千圓)等を移出し、礦油(二八二千圓)・甘藷切干(一〇二千圓)・石炭(七九千圓)・甘藷(五八千圓)等を移入す。もと石州津和野藩の舟手屋敷を置きし所にして海津なり。郡制の頃は郡役所を置く。(櫻尾城)承久中周防前司藤原親實の築く所といひ、相傳へて興廢の時、陶隆房に攻められ父子共に死し、幾もなくして亡ぶ。ハツカシ 羽東 山城國(京都府)の古地名。和名抄に乙訓郡羽東郡あり故都加之と訓す。その地今の乙訓郡羽東郡村・久我村の邊に當る。「羽東」攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄に有馬郡羽東郡あり故都加之と訓す。その地今の高平村邊なるべし。

ハツカリ 初狩村 山梨縣甲斐國北部留部郡の西南部。大月町の西方約四軒。南は南留部郡に接す。南北に山地を負ひ、梓川の一支中央を東西に貫流し峡谷をなす。村内山林に富み、谷沿の聚落は養蠶を主産業とす。蠶を主産物とし米・麥・桑等の農産物及び木材・薪炭等の副産物あり。省線中央本線及び一條の縣道谷沿に貫通し前者の初狩驛(明治四十三年設置)を置く。この地は古の波加利庄の地にて、建久四年源頼朝が富士登攀の折、第一に此地より着手せるを以て初狩村の名を生ぜしと傳ふ。道興の地を過ぐる時(今はとて置かれて歸るまに)おぼつかなしや初雁の里と詠はるは同國雜記に見ゆ。寛文十二年雲雨にて大水あり、民家の流失多かりきといふ。明治十三年明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際本村に行幸せらる。ハツキ 羽月村 鹿兒島縣薩摩國伊佐郡の西部。川内川上流近くの右岸に沿ひ東は大月町の西南に接す。西は出水郡に界し、西南は薩摩郡に隣る。西境には約四—五百米の山嶺南北に連り、之より東方へ幾多の肢脈延びて山岳重疊し、東部には低地開けて川邊川東境に沿ひ南流し東南境にて西折し村境を西に流る。米・蠶・麥等の農産多し、畜産・水産・林産も多けれど最も多額なるは工業なり。西方出水町より東南方郡城市へ至る縣道本村を貫き途中より大月町へ至る道路を分つ。省線宮之城線東南部を通過して羽月驛(昭和十二年設置)あり。この地は和名抄、荻刈郡羽野郡の地なるべし。大字下段に下段城址あり、牛屎氏一族羽月某の居城にして、のち島津忠昌の時に至り

ハツカ—ハツキ

ハツキー—ハツコ

婆利重時この地を領せりといへば羽月氏はこの時に亡びしもの如し。

ハツキョー

後橋邑 朝鮮全羅南道寶城郡の東端、順天邑の西南約一八軒に位し、東南は汝自灣に臨む。西部に尊帝山(七〇四米)を最高とする山地あり。

互るものは伯夷山(五八四米)を起し、南境に連るものは將軍峯・斗榜山等となりその中間に二三百米の支脈をなすものに麗江山・芙蓉山あり、この最後の者は東西に延び城内を南北兩部に分つ。東部には汝自灣の一支灣あり西北に深く彎入し、城内を灌漑する二河川を穿る。この灣は中央に一條の水路を残すの外、概れ干出し、僅に舊石里の泊津あり、外江の一部は干満せられ水田化を見つあり。

耕地は河川の沖積地によく發達し、殊に芙蓉山以北のものは梁安平野の南半に當るを以て地味肥沃、郡内の主要農産地帯をなす。農産は米を第一に獲多、大麥・陸地棉・桐等あり、沿海には製鹽業あり、また酒造・紡織その他の小工業行はる。商業甚だ活潑にして、後橋金融組合の如き郡下第一の堅實なる内容を有し、陸路四・九日に開く市場また取引額の多きこと道内を數なり。總督府鐵道慶西線は南部を東西に貫き邑内南部に後橋驛(昭和五年設置)あり順天へ三十數分、寶城へ四十數分にて達す。鐵道の北側に順天・長興間二等道路走り、これより東

安・高興・和順の諸邑及び海岸の眞石里に何れも三等道路を岐ち、交通頗る便なり。市街は芙蓉山の東麓、梁安平野の咽喉に位し、水陸交通の要衝に當り、物資の集散繁し。邑内に稅務署・地方法院出張所・郵便支店・東拓出張所・後橋電氣會社等あり。本邑は昭和四年順天郡のもとの東草面の一部を編入、同十二年六月邑制を施行す。

ハツキン

八禽島 安佐面(朝鮮) 楚山・碧霞の兩郡に跨る金銀山。登錄上礦區は三に分る。近年一號礦及び二號礦の採掘を行ひたるに、礦況頗る良好なるを以て大量生産の計畫を樹立し五千噸處理浮選設備を設け、電氣捲揚機・ローラー・空氣壓縮機を新設するなど日進ましき活況を呈するに至れり。日本礦業會社の經營にて昭和十年には金銀八七六兩(價額八萬五千餘圓)を出し、同年六月末の使役人員は四八七人とす。

ハツクタイ

山 臺灣、次高山脈の一端、臺中州東勢郡南境に聳え、標高三三九四米。西方約六軒にして八仙山の時。

ハツクラ

初倉村 靜岡縣遠江國檜原郡の東南部。大井川の右岸。北は大井川を隔てて志太郡島田町に對す。南境に二〇〇米臺の丘陵連なり、北境を大井川東南に瀆流し、中部河岸に迫り小開折臺地を横はる。この臺地と丘陵に挟まるる狭き

ハツケ

八卦山 臺灣臺中州彰化市の東邊に崛起す。往時は翠翠山または定軍山ともいはれ、高からずと雖も登臨一望すれば、西部平野を一眸の裡に收め、實に縣城の要害たりき。また景勝を以て聞え、臺灣府志に「翠翠山、廣漢平沙孤峰秀出」といひ、古來彰化八景の一として定案瀛洋の稱あり。現に臺灣十二勝の一に算へらる。清の雍正九年二月平埔番族

谷を作り湯日川源流す。平地は櫻れ東部に開かれ水田多し。丘陵・臺地は茶の栽培盛なり。米・茶を主産物とし、ほかに牧畜・林業・製鹽或は工業など行はる。縣道東西に貫き省轄東海道本線金谷驛へ約四軒、バスの便あり。播磨・波津倉とも書き、往古は初倉驛のありし所、中世は初倉庄と稱せし地。大字湯日を鎌塚と稱し、往時遠江より駿河に至るには此地より大井川を涉り島田に出でしが、後これを禁に専ら金谷より大井川を渡らしめき。(教訓神話) 大字坂本に鎮座。郡社。祭神、少彦名命。垂仁天皇廿六年の創祀と云ふも定かならず。仁壽三年十一月勅して當社を名神に預らしめ給ふ。貞觀二年正月正四位下に降る。江戸時代除地六石三斗を有す。明治七年五月に諏訪神社(祭神、健甕名方命・事代主命)以下四社を合祀す。例祭日、十月十五日。(大楠神社) 大字坂本に鎮座。村社。祭神、大己貴命。式内社。例祭、十一月十五日。

嶺上郡東部の船尾・永野の兩村に跨る嶺。嶺區十二萬餘坪、而して本式に事業に着手せるは昭和十年十月にて、同年の産額は金屬礦産七〇〇兩(價額一萬餘圓)とす。なほ嶺山名は船尾村大字上船尾にある字名に因む。

ハツコ

八甲田山 那須火山帯に屬する名高き活火山。青森縣の中央部、東津輕郡濱館・横内・荒川村轄地等の地域と、上北郡十和田村の諸村に横がる。一大火山群の總稱にして東方は三本水平原を隔て太平洋に、西方は津輕平野を挟んで日本海に臨み、北方は青森平野に續く。田茂岳(一三二四米)・赤倉岳(一五四八米)・井戸岳(一五五〇米)・大岳(一五八五米)・前岳(一二五二米)・高田大岳(一五五一米)・巒岳(一二四〇米)・破黄岳(一三六〇米)の八峯聳立し、また山上諸所に混濁の地多きため八甲田の山名出づと云ふ。此山の成因に二説あり。一は八峯を各々獨立したる火山の集合となす説。他は中央火口丘・外輪山・寄生火山より成る二重火山と、その附近に噴出せる獨立火山の總稱となす説なり。前者の説、多く採らる。北端に時つは前岳にして秀美なる圓錐形をなす。噴出作用は極めて徐々に行はれ、長時間に亘り熔岩・火山灰を堆積せしものにして山頂に火口を認めず。茂高岳は前岳の南方に位し、その東南に時つ赤倉岳との間に火口原を抱き、今は沼澤地をなせど、曾ては

ハツコ

噴氣孔ありした噴出せる破氣により安山岩變質して白色輝石状をなす。赤倉岳は中央火口丘と稱せるものにして、其東北面は燧石に依りて飛散し去り、錆色の岩石絶壁をなす。尙頂上の東面に小爆裂火口湖赤倉沼あり、四圍の風物面白し。井戸岳は赤倉岳の南腹に噴起し、山頂に圓筒狀の火口、南腹に爆裂火口を有す。火口内には高山植物生育す。井戸岳の南方に噴起せる成層火山は大岳にしてこの山群中の最高峯をなす。山頂は鈍圓形にして集塊熔岩にて掩はれ、山頂部のや、東偏に徑約一四〇米、深さ約五〇米の圓形火口を有す。火口の西壁は懸崖をなし集塊岩及び杏仁狀熔岩の好露出あり。山頂より西南に下りし所に湯瀝火口址あり、こゝに徑一〇米の小湖を湛ふ。鏡沼と稱しハユネサンセウカワ・アカガヘル等樓息す。又この山の西南腹に湯瀝附近にも破黄噴氣孔あり。直徑約五〇米に及ぶ二箇の圓形窪地發達し、そこに熱湯を湛へ大湯または地獄沼と呼べる。この附近は八甲田山中最後に活動せし所にして温泉諸處に湧出す。高田大岳は東方に位する成層火山にして八甲田第二の高峯なり。山頂部まで樹木を以て掩はれ、火口は破壊せられて北方に開く。小岳はこの西側にある熔岩丘にして、巒岳はその東北側に時つ。此山の植物景觀に就き特筆すべきは、九〇〇米以上一三〇〇米の間に生育するオホシラビソの森林なり。これは

俗稱トドマツト云ひ、北海道トドマツと區別し青森トドマツと稱せらる。其他、ナナカマド・ミヤマハンノキ・サウシカシ等の針葉樹林繁茂す。八甲田山近傍は數多く温泉湧出し、南麓に葛・狼食・谷地、西方に酸ヶ湯、北方に田代元湯・新湯等の諸温泉あり。また八甲田山の裾野一帯は好スロップをなし、雪質もよくスキーに適し、冬季はスキー場集り來る。各地・積雪温泉等はその根據地をなす。なほ夏季キャンプに適する箇所も尠からず。八甲田登山は通常八甲田大岳に登ること意味し、青森口と葛温泉口とあり。青森口は青森市より山頂まで約三三軒、途中酸ヶ湯まで二九軒、省營バスあり。酸ヶ湯より山頂まで約三軒、往復三時間を要す。山頂の眺望は雄大にして北方に津輕平野・青森市街を俯瞰し、青森灣を抱く下北・津輕の兩半島一眸に集り、東方は井戸岳その他の山々を望み、西方は岩木山の秀峯、南方は高田大岳を経て十和田湖外輪の山々を眺む。尙且大岳より井戸岳を経て赤倉岳までは容易に達し得れども、他の山々は猛烈なる敷のため登攀困難、また登山的興味を多しとせず。高田大岳は東南麓谷地温泉より多大の困難を以て登り得らる。葛温泉口は十和田湖道場山より山路に入り、五軒にて葛湯に至り、それより噴瀝沼を経て酸ヶ湯に至り、青森口と合す。尙ほ明治三十五年一月二十三日青森歩兵團隊の一

ハツコ

ハツコ

ハツコ

のマイカア(大甲)社、亂を北路になし、良民の之に死するもの多し。翌年六月順建陸路提督王那、兵を率ゐて之を征討し四箇月にして平らぐ。分都臺原道場といひ、山を定軍山と稱し、以て武功を表彰せり。乾隆六十年三月、陳周全の亂に、寧は火に燒かれ遺址を存するなし。嘉慶十七年彰化縣城を改建するや、翌年また山上に碑臺を築き周圍六十丈、雄崖五十六、内高一丈二尺、外高一丈五尺、八尺、基一丈五尺、上寛一丈とし、砲臺四座、水洞二、樓門一を設けり。八卦山といへる名は高慶中、彰化知縣胡應龍の、太極亭を縣署後に建てし時、易の太極生兩儀、四象生八卦の義に因みて名づくなりといふ。改築北白川宮御久親王殿下御征臺の際には山上に司令部を置かれ、その後御遺跡碑建立し、中郭臺唯一の遊覽地として重きをなす。

ハツコ 八公山 朝鮮慶尙北道の中南部、永川・軍威・達城の三郡に跨る山。標高一九二二米。南對面の津城郡公山内面に名利禪院寺・把漢寺あり、山内四季の風景に富む。大邱府より河華寺まで約二〇軒、自動車・馬車の便あり。

ハツコ

八溝山 朝鮮、英屬領境) 島・英屬領境) 發光路鎮山 朝鮮、

ハツコ

大藤二百二十名、青森より田代を経て三本木に出づる謂ゆる八甲田の雪中行軍中に吹雪に襲はれ、遂に十二名を喪して他は悉く凍死し、しかも最後まで軍旗を棄さざりしと云ふ。いま山麓田代元湯附近に遺難軍人の碑あり。

ハツコ

栢谷面 朝鮮忠清北道咸川郡の西端。鹹川面に北開す。東境に車嶺山脈に屬する玉女峰(四五六米)・武帝山(五七四米)・白石峰等、西北境には瑞雲山(五四七米)・南境には萬嶺山(六一二米)等聳立し、城内殆ど山地にして栢谷川の溪谷に沿ひ小低地の點綴を見る。住民は質朴にして主として農を營む。農産物の主なるものは大麥・小麥・米・大豆等あれど漸く自給自足の域にあり。其他、蠶・煙草・改良乾柿・蘿蔔・金・銀等あり。道路は東南端の面邑石鏡里を中心として扇骨狀に西北方に通じ、殊に西方笠場に通ずるものは、社鐵京南鐵道京畿線笠場驛に連絡し兼合自動車の便あり。聚落は各道路沿ひに分布す。

ハツコ

伐谷面 朝鮮忠清南道論山郡の東端部に位置し、郡邑論山の東方約一五軒にあり。東南境には大屯山脈の首峯大屯山(八七八米)嶺々たる山容をなして城内に迫り、西北境には天鏡山(三五二米)・成朴峰等連なり、低地極めて乏しく、ただ僅かに甲川の支谷伐谷川沿岸に耕地の散點するに過ぎず。住民は農業を主とし尙ほ採薪の業に従事す。農産物は

ハツコ 發光路鎮山 朝鮮、

ハツコ

ハツサ——ハツタ

粟・大豆を主とし、其他大麥・米等あり。また、柿・栗等の果物を産す。鐵道南本線は面の西北境近く通じ、運山(運山内)より城内に連絡す。道路は僻地に位置せる故を以て、改修未だ充分ならず、加ふるに、視峠及び船坂多く交通便ならず。聚落は伐谷川の溪谷に沿ひて發達分布す。

ハツサキ

鉢崎 新潟縣中頸城郡米山村の大字。信越本線の鉢崎驛(明治三十年設置)あり。

ハツサク

鉢坂 武蔵國(神奈川縣)の古地名。和名抄に都筑郡鉢坂郷にあり、別佐久と訓す。その地今の田奈村・中里村の邊に當る。

ハツシ

拔子 臺東線の一驛(大正三年設置)。臺花運港運搬區抜子にあり。

ハツシヨ

八獎溪・八掌溪 沓瀨臺南州の一河川。阿里山地の光岩山(一八七九米)の南麓に源を發し、嘉義市の南に至り、沓水溪を合せて西南流に轉じ、鹽水街の西を經、布袋庄の南にて澎湖水道に注ぐ。流路延長一〇〇軒、舟楫の便を缺くも、兩岸地帯は甘蔗の栽培盛なり。而して往時は現漢口と異り、布袋(もと布袋驛)附近を經て北折し、温港(即ち古の蚊港)附近より海に注ぎしこと、清の乾隆二十九年に成りし臺海所志(續修)に「八掌溪は西して冬港(即ち今の布袋港附近)の南に入り、青峰岡(府志

ハツシランリン

八芝蘭林 ↓士林

ハツセ

初聲村 神奈川縣相模國三浦郡の南部。三浦半島の南部を占め相模灣に臨む。西北は長井町、南は三崎町と隣す。大部分丘陵地にて中部のみ稍平地をなし、馬鈴薯・麥・甘藷等を産す。海岸は北部に小灣ありて砂濱をなし、南部は大部分磯濱をなし最南端は小瀬代灣に臨む。縣道は中部を經走して、長井町・三崎町に通じ、自動車の便良し。此地は和名抄、御浦郡御崎郷の内なり。大字和名は和名抄小太郎義盛の居所、三浦は三浦介義澄の子、十郎女澄の居所なりと云なり、共に三浦黨に屬す。

ハツセ

初瀬川 泊瀬にも作る。奈良縣磯城郡の川。上之郷村に發源、南流して初瀬町に至り更に奈良盆地に出でて西北に流路を變じ、三輪町の西をすゞ川西村にて大和川の上支佐保川に入る。

ハツセ

發盛嶺山 八八村

ハツセオケニ

初瀬小國・泊瀬小國

ハツセン

八仙山 臺灣臺中州東勢郷高南郡界の一高山。海拔二四〇一米。大甲溪と大肚溪との分水嶺に位し、八仙

ハツチヨ

八丁堀 東京都江東區の町名。慶長の頃、舟入場として京橋川の末、稻荷橋までの間を開鑿せし名なりしが、後世は北岸の町名となる。江戸時代には奉行所屬の奥力・同心の住宅ありき。好色二代男・二「兎角行れば見へぬによつて蟹もなかりしに、八丁堀の蟹屋の手代、三野にかかりて、それらの蟹、前中藩限に局ありまして」

ハツチヨ

八丁堀 江戸神田の地名。現今の今川橋附近、金々先生堂花夢「抑吾々は神田八町堀に年久敷住居致す和泉屋清三と申者の家來なり」藤澤毛資端「頼て江戸にきたり、神田八丁堀に新道の小僧家住居し、すこしの貯へあるに任せ、江戸前の魚の貴味に、豊島屋の鯛葉、明徳いくつとなく長家の手水桶に配り、終に有金を呑なくし」

ハツツーカー

八通關越 臺灣中央山脈橫斷道路の一。臺中州のマカパンより陳有閣溪の谷に沿ひ、東埔・樂々・對面・觀高を經て八通關山(二八四一米)の北鞍部を越えて老濃溪谷の八

ハツタ

官行伐木事業を以て知らる。同事業は大正三年實地調査を遂げ、翌年議會の協賛を以て着手せしものにして、作業區域は東西約一六軒、南北凡そ一二軒。その蓄積は扁柏・紅檜・榎・松等の針葉樹を主として一〇二四萬石と推算せられ、年々五萬石内外の伐採をなす。最初は純舊式の作業によりしが、山地軌道一・四哩に及ぶ東洋一の稱あるインクライン、土牛貯木場に至る運材軌道三〇哩等敷設せられ、土牛よりは臺中輕鐵會社經營の鐵道により臺中線豐原驛に接続す。

ハツタ

八津田村 福岡縣豐前國築上郡の西北部。推田町の西北に隣りて周防灘に面し、西北は京都郡に界す。全村地形低平にして田畑よく拓け米・麥・蕎麥を主産物とし特産物には加工品及び魚・コナノリの海産物あり。西部には日向街道及び省線日豊本線走りて後者の築城驛(昭和八年設置)を置く。此地は和名抄、築城郡鶴木郷の内にして、一に宇呂津・宇留津とも稱し、宇呂津城址あり、天正十四年、買來與次郎の居城せし頃、小正川・吉川・黒田氏などの三方より押寄せ激戦ありし處。江戸末期の儒者、小野原善吉(贈從五位)は本村の出身なり。

ハツタ

八田 八田鎮山 ↓平取村(北海道)

ハツタ

八田 名古屋市中區の町。關西本線の八田驛(昭和三年設置)を置く。

ハツタ

八田 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に河東郡八田郷あり、その地今の河鹿郡西八田村の邊に當る。

ハツタ

治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部。鈴鹿山脈の東斜面に位し東北郡は阿下喜町の南に接し西は滋賀縣愛知郡に接す。西斜面は鈴鹿山脈南北に連り西北境には藤原嶽、西南境には龍ヶ嶽(一〇〇米)聳ゆ。東半は伊勢平野西北部の平野開けて町屋川は東北部を東南に横切り、更に東境を南流し東南境にて村境を離る。西境に發する河川東流して南東部に出で東流して町屋川に合す。純農村にて農業・養蠶を生業とし米・麥・黍・粟・茶等の産物多し。外に林産・畜産・水産・礦産あり。また工業を出す。東部には阿下喜町より南走する經見街道あり。東部に社線三岐鐵道通過して伊勢治田驛(昭和六年設置)あり。また社線北勢電氣鐵道東北隅を採りて通す。開化天皇の御宇彦坐命四世の孫白壁王の後裔、近江國淺井郡より此地に移りて鹽田の轉訛なり。

ハツタウシ

初田牛 根室本線の一驛(大正九年設置)。北海道根室國根室郡和田村にあり。

ハツタク

八重嶼 ↓望安庄(臺灣澎湖)

ハツタリ

發足村 北海道後志國後志支庁岩内郡の北部。釧丹半島西南端岩内町の北方五軒の日本海岸に位す。北は古宇郡、東は小樽村、南は旭川川を以て前田村に接す。面積七四・三七平方軒。岩手峠(七九五米)・八内岳(九四四米)等北東に連り、村内東北は山地に占めらる、も西南に傾き、旭川流域に平野ありて耕地拓く、海岸線極めて短少にして漁業行はれず、礦産を以て主業となす。西北山中の茅沼炭礦は石炭及び硫化鐵礦の産多し。他に製麻工業あり。青森岩内線南部を通じ、幌貝驛(大正八年設置)を置く。本村は明治三十九年に幌貝村の中を加ふ。

ハツチャシナイ

初茶志内 宗谷線の一部名兩線の一驛(昭和十二年設置)。北海道上川郡名寄町にあり。

ハツチヨ

八丁・八町 關東山脈秩父山塊を乘越す交通路の一。兩神山(一七二四米)西北方の鞍部に最高點(一四九九米)を置く。東側路は埼玉縣秩父郡三田川村に、西側路は大瀧村に屬す。兩神山への登山はこの峠上より南東登して行ふ。

ハツチヨ

八町峠 御坂山塊を乘越す交通路の一。甲府市の南東方約二三軒、山梨縣南都留郡河口村と東八代郡黒駒村との境上に最高點を置く。南麓近く御坂峠最高點(一五二五米)つゞき、北東麓に鶴ヶ島屋(一

ハツタ——ハツト

三七五米)連る。峠上より南西方に河口湖を俯瞰す。

ハツチヨ

八丁堀 四國山脈の一峯。吉野川上流左岸に位し、高知縣長岡郡大杉村と本山町との境上に跨る。標高一〇八六米。北西方に白髮山(一四七〇米)聳立す。

ハツチヨ

八丁堀 東京都江東區の町名。慶長の頃、舟入場として京橋川の末、稻荷橋までの間を開鑿せし名なりしが、後世は北岸の町名となる。江戸時代には奉行所屬の奥力・同心の住宅ありき。好色二代男・二「兎角行れば見へぬによつて蟹もなかりしに、八丁堀の蟹屋の手代、三野にかかりて、それらの蟹、前中藩限に局ありまして」

ハツチヨ

八丁堀 江戸神田の地名。現今の今川橋附近、金々先生堂花夢「抑吾々は神田八町堀に年久敷住居致す和泉屋清三と申者の家來なり」藤澤毛資端「頼て江戸にきたり、神田八丁堀に新道の小僧家住居し、すこしの貯へあるに任せ、江戸前の魚の貴味に、豊島屋の鯛葉、明徳いくつとなく長家の手水桶に配り、終に有金を呑なくし」

ハツツーカー

八通關越 臺灣中央山脈橫斷道路の一。臺中州のマカパンより陳有閣溪の谷に沿ひ、東埔・樂々・對面・觀高を經て八通關山(二八四一米)の北鞍部を越えて老濃溪谷の八

通關に出で、更に秀姑巒を過ぎて大水窟山(三六四五米)の東南鞍部なる大水窟にて春葉山脈を越え、此處より東斜面を急降下してミヤサン・トマス等を通り、花蓮港の玉里に至る。延長一二〇軒、大正八・九年度の開鑿に係り、八通關より南すること約一〇軒、凡そ四時間にて新高山頂に達することを得。

ハツト

八塔 臺灣臺北州基隆郡七堵庄營歌石及びその附近を鐵道とす。中臺商事會社の經營にて、昭和十年には捲揚機を大型蒸気機となし運搬能力を増大す。而して同年石炭二八、〇九七萬(價額約十三萬圓)を出す。

ハツト

八塔 臺灣臺北州基隆郡七堵庄の大字。總督府鐵道縱貫線の一驛(明治三十年設置)にして宜蘭線の接続點。

ハツト

發度 武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に足立郡發度郷あり、その地今の北足立郡鳩ヶ谷町の邊なるべし。

ハツト

八東 因幡國(鳥取縣)の古地名。八東とは即ちもと八上郡の東部の意なるも建郡の期は明かならず。延喜式・和名抄に共に郡名を載せず。拾芥抄には八東に作るは謬なり。近世は八東郡に作り、明治二十九年に五り、廢して八頭郡に入る。

ハツト

鳥取縣因幡國八頭郡の中部。千代川支流の八東川左岸に沿ふ山村にて、

ハツタ

抄に河鹿郡八田郷あり、その地今の河鹿郡西八田村の邊に當る。

ハツタ

治田 三重縣伊勢國員辨郡の西部。鈴鹿山脈の東斜面に位し東北郡は阿下喜町の南に接し西は滋賀縣愛知郡に接す。西斜面は鈴鹿山脈南北に連り西北境には藤原嶽、西南境には龍ヶ嶽(一〇〇米)聳ゆ。東半は伊勢平野西北部の平野開けて町屋川は東北部を東南に横切り、更に東境を南流し東南境にて村境を離る。西境に發する河川東流して南東部に出で東流して町屋川に合す。純農村にて農業・養蠶を生業とし米・麥・黍・粟・茶等の産物多し。外に林産・畜産・水産・礦産あり。また工業を出す。東部には阿下喜町より南走する經見街道あり。東部に社線三岐鐵道通過して伊勢治田驛(昭和六年設置)あり。また社線北勢電氣鐵道東北隅を採りて通す。開化天皇の御宇彦坐命四世の孫白壁王の後裔、近江國淺井郡より此地に移りて鹽田の轉訛なり。

ハツタウシ

初田牛 根室本線の一驛(大正九年設置)。北海道根室國根室郡和田村にあり。

ハツタク

八重嶼 ↓望安庄(臺灣澎湖)

若櫻町の西に接す。面積二三・三四平方軒。中國山脈の兵庫縣界に變ゆる分水嶺に近き高峻なる地を占め南に高し。西南智頭町に通ふ鑛本峠は九七一米の高さを有す。北境を八東川西流し沿岸に平地ありて水田拓く。一支流中部を北流す。八東川は姑の産を以て知られ、溪流の美景また名高し。米・蕎麥の産多し、牛・馬・木材・木炭等これに次ぐ。國道若櫻街道に近くバスの便あり。もと八東村・小畑村の二村に分れしが大正五年合併して八東村とす。大字才代に郷民參事館あり。尊皇愛郷の精神教育資料を蒐集し、無料にて觀覽を得。

ハツトク

八徳面 朝鮮全羅北道淳昌郡の中部。淳昌面に西隣す。蘆嶺山脈に屬する金城山(五七三米)西境に風主の如く聳立し、之に従ふ諸山は環狀に圍繞し標式的盆地を形成す。盆地床は低平にして漕津江支流の鏡川これを灌溉し、地味肥え農業に適す。住民は實朴勤儉、民度一般に高し。農を主とし産物の主なるものは米・大麥・煙草・麻・大豆・苧麻等にして麻布の製織行はる。道路は淳昌より西南方の光州に至る二等道路東西端の一部を通過し、之より派生せる三等道路は面の略中部を南北に横斷して西北方の井州邑に通ずる外は何れも外線にして地方的のものに過ぎず。聚落は殆ど山麓線に沿ひて分布せるは他の諸盆地に見る現象と規を一にす。主邑九龍里は郡邑淳

ハットー

昌まで僅かに五軒、釜地の開門に位置し交通の要衝をなす。金城山の頂には石築周囲三軒餘の城址あり。

ハットリ 服部

【服部】鳥取縣岩美郡にありし村。昭和三年に福部村と改む。

【服部村】岡山縣備前國吉備郡の東南部。福部町の東に隣り、南は都窪郡に界す。全村地形平坦にして、一望の沃野開く。米・粟・麥の産あり。生柿を特産とす。備前市に連りて福部町及び岡山市へバスを通じ、北部には社線中國鐵道走りて福部驛(明治四十一年設置)あり。此地は和名抄、買夜郡服部郡にして韓人の一族ここに住し機織の業に従ひし處なり。庶神紀に「天皇御幸於吉備國兼田兼守宮、以織部縣賜紀兒媛」と載せし織部縣の地なり。大字長良の服部山上に城址あり、延元元年大江田光信の築所にしして、のち細川氏の有に歸し、その跡上野野行、ここに居りしも、文明三年光信四世の孫、備前康光これに代る。のち六世親光に至り、天正九年冠山城に移りしが同十年羽柴秀吉の陥るところとなり、のち宇喜多氏の將戸川秀安の居城となる。

【服部村】廣島縣備後國廣島郡の東部。福山市の西北約七軒に位置し、地形南北に細長く東は深安郡に界す。山脈周囲をかこみ中部に南方へ通ずる谷ありて河川南流し南境附近なる細水に注ぐ。河川に沿ひて狭長なる低地を見る。農業一般に行はれて穀菜發達し、林産も多く畜産も出たまた工産物もあり。倉庫福部驛戸手驛へは西南約一軒餘あり。此地は和名抄、品治郡服部郡の地なり。

【服部村】社 臺灣新竹州竹東郡にある舊社にて、マリアン諸島の李峻山より東南走る殺線高地の南方、標高約九四〇—一五七〇米の地帯に位マアダナル族のマリアン諸島に属する高砂族より成る村落。古來、マリアン諸島を見暴を逞うし、官憲に反抗すること屢々なり、因て明治四十四年、大正元年、大正二年の前後三回の大討伐を受け、大正三年歸順したるものなり。

【服部村】初音 臺灣東線の一驛(大正五年設置)。臺灣花蓮港廳吉野區吉野村にあり。

【服部村】八風峠 鈴鹿山脈を釋迦ヶ岳(一〇九二米)の北方鞍部に於て乘越す時、東面は三重縣三重郡朝上村に、西面は滋賀縣愛知郡東小椋村に属す。峠路は西方の愛知川の土流より東方の朝明川の上流地へと延び、昔は旅人の往來多かりしも、今は炭焼く人々のみの山徑となれり。

【服部村】八方岳 八方岳(熊本驛)の別稱。 初山村 長崎縣壹岐國壹岐郡壹岐島の南端、北部を除く外は壹岐海峡に臨む。西北部は武生水町に接す。全村山岳にて地形高峻なり。東南部には小

ハット

も稱せらる。標高一〇〇〇米乃至一〇〇〇米、山體は中生層より成る。東方は十津川、西方は日高川に限られ、北麓は上湯川東流して十津川に落ち、南側よりは日置川及び十津川下流音無川の多くの枝潭發源す。

ハットリ 波照間島

【波照間島】朝鮮咸鏡南道瑞川郡の東南端にありて、東南方は日本海に臨む。北部に雲住山(四二二米)の雙ゆる他著しきものなく、南部は南大川の沖積平野(瑞川平野)を成し、水利良く道中の主要農産地を成す。東部には銀湖あり。住民の多数は農業に従事し、其他、商・工・漁業に従事する者あり。農産物は大豆・粟・蜀黍・米・大麻等にして殊に大豆は瑞川大豆として良質を以て著れる。また麻布・綿等あり。水産物には明太魚・鮭等あり。總督府鐵道咸鏡本線は中部を東西に横斷し、略中央に瑞川驛(大正十三年設置)あり。道路は此地を起點とし咸鏡・利原への二等道路を、東方の汝海洋津と北方の甲山への三等道路の他、等外道路線放射狀に城内に通じ交通便なり。龍城里、内門里等の地帯を瑞川邑と通稱す。邑は瑞川平野の中心部にして人口約五・五千、うち内地人約三百。瑞川郡廳・咸鏡地方法院出張所・稅務署・警務署・穀物検査所・農業補習學校等あり。市場は大豆等の取引活潑なり。特産に双物・玉石

【波照間島】 波照間島(神奈川縣)の地名。和名抄に久良郡服部郡あり、波止太と訓ず。その地今の横濱市内なちんも詳かならず。

【波照間島】 臺灣花蓮港廳海部郡にある舊社。畢羅山の東南方ダマキリ溪左岸の山腹、標高約一四四〇米の高所に在り。約百二十年前、人口増加に依りクヤン社より四一八人を以て分離し來りて現在の社を形成せり。アマナル族のタロコ蕃に属する高砂族なり。

【波照間島】 沖縣八重山郡の一島。西表島の北方約二運にあり。周囲は四軒に充たず、部落は南海岸にあり。土地肥沃なるも、狭小なるを以て古來西表島に就して農作に従事す。

【波照間島】 羽島 茨城縣東茨城郡竹原村の大字。常磐線の羽島驛(明治二十八年設置)を置く。

【波照間島】 服部 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に今立郡服部郡あり、波止利と訓ず。刊本に勝部とあるは誤なり。その地今の今立郡服部村の邊に當る。

【波照間島】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡服部郡あり、波止利と訓ず。その地今の八名郡舟形村の邊に當る。

【波照間島】 伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に阿拜郡服部郡あり、その地今の阿山郡府中村・中瀬村・上野町の邊に當り、府中村の大と服部は其の遺稱なるべし。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の東南部。那珂川の東岸にて、東南は茨城縣那珂郡の一部と隣す。八溝山脈中の一部を占め町内に高島山(三三七米)・藥師岳(三八五米)・鷺子山(四〇三米)等あり。町の中部を西流して那珂川に注ぐ武茂川の流域のみ狭き平地ありて、米・麥・蕎麥を産す。また特産物としては葉煙草多し、武茂川に沿ひて縣道通じ、聚落

もこれに沿ひて發達す。春日自動車常野本線は茨城縣大子町より來り、この縣道を走り、南折して島山町方面に通ず。その他、西隣小川町には社線東野鐵道那須小川驛ありてバスを通ず。この地は和名抄、那須郡那須武郷の内にして、もと武茂村と稱せしが明治廿四年現稱に改む。町内には武茂城址あり、宇都宮景綱の三男常陸介泰泰、始めて此の附近を領し、ここに築城す。(唐御所御穴)指定史蹟。馬頭町和見と武茂村北山向との境界なる岩下山に存す。巖灰岩の丘陵上に設けられたるものにて、石室は玄室及び前室より成り、前室は其の一部を存するのみなるも、玄室は完全な入口は方形にて門扉を設けし輪郭の跡を存す。奥行九尺六寸九分、幅六尺六寸、高六尺一寸九分、天井には棟木を刺せり。本丘陵上に存する多数の横穴とその構造を異にし、最も精巧を極むるものなり。(健武山神社)健武に備座。郡社。祭神、日本武尊・金山彦命。景行天皇は日本武尊の功を嘉せられ諸國に武部なる御名代を置き給ひぬ。當社その遺址の一と傳ふ。延喜の制小社に列す。弘化元年、徳川齊昭の崇敬厚く附近十六箇村の地領守とし且つ別當寺大泉院を廢して社領七石餘を寄進し、社殿の造營・祭祀等すべて薄費を以て充つる事とし、例祭日には奉幣使を遣すを例とせり。例祭、四月三日。(鷺子山神社)大字矢又に鎮座。郡社。祭神、天日彥命。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の東南部。那珂川の東岸にて、東南は茨城縣那珂郡の一部と隣す。八溝山脈中の一部を占め町内に高島山(三三七米)・藥師岳(三八五米)・鷺子山(四〇三米)等あり。町の中部を西流して那珂川に注ぐ武茂川の流域のみ狭き平地ありて、米・麥・蕎麥を産す。また特産物としては葉煙草多し、武茂川に沿ひて縣道通じ、聚落

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

【波照間島】 馬頭町 栃木縣下野郡那須郡の南端に位置し、錦江を隔てて群山府に相對す。西北部には小丘陵起伏すれども、東南部の錦江沿岸は沖積低地廣く連り郡内屈指の米作地を成す。住民は農業を主とし婦女子は苧布の製織を爲す者多く、謂ゆる群山苧布の名は全群に有名なり。産物には米・大豆・苧布・生牛・鶏卵等あり。社線京南鐵道那須線は面の西方近く南北に通じ、近く舒川驛・長項及び長項橋驛ありて之等の諸驛と連絡し、南端の龍澤よりは錦江渡船により群山に連絡す。聚落は北部の丘陵地帯に多く分布す。

ハットー

昌まで僅かに五軒、釜地の開門に位置し交通の要衝をなす。金城山の頂には石築周囲三軒餘の城址あり。

ハットリ 服部

【服部】鳥取縣岩美郡にありし村。昭和三年に福部村と改む。

【服部村】岡山縣備前國吉備郡の東南部。福部町の東に隣り、南は都窪郡に界す。全村地形平坦にして、一望の沃野開く。米・粟・麥の産あり。生柿を特産とす。備前市に連りて福部町及び岡山市へバスを通じ、北部には社線中國鐵道走りて福部驛(明治四十一年設置)あり。此地は和名抄、買夜郡服部郡にして韓人の一族ここに住し機織の業に従ひし處なり。庶神紀に「天皇御幸於吉備國兼田兼守宮、以織部縣賜紀兒媛」と載せし織部縣の地なり。大字長良の服部山上に城址あり、延元元年大江田光信の築所にしして、のち細川氏の有に歸し、その跡上野野行、ここに居りしも、文明三年光信四世の孫、備前康光これに代る。のち六世親光に至り、天正九年冠山城に移りしが同十年羽柴秀吉の陥るところとなり、のち宇喜多氏の將戸川秀安の居城となる。

【服部村】廣島縣備後國廣島郡の東部。福山市の西北約七軒に位置し、地形南北に細長く東は深安郡に界す。山脈周囲をかこみ中部に南方へ通ずる谷ありて河川南流し南境附近なる細水に注ぐ。河川に沿ひて狭長なる低地を見る。農業一般に行はれて穀菜發達し、林産も多く畜産も出たまた工産物もあり。倉庫福部驛戸手驛へは西南約一軒餘あり。此地は和名抄、品治郡服部郡の地なり。

ハット

も稱せらる。標高一〇〇〇米乃至一〇〇〇米、山體は中生層より成る。東方は十津川、西方は日高川に限られ、北麓は上湯川東流して十津川に落ち、南側よりは日置川及び十津川下流音無川の多くの枝潭發源す。

ハットリ 波照間島

【波照間島】朝鮮咸鏡南道瑞川郡の東南端にありて、東南方は日本海に臨む。北部に雲住山(四二二米)の雙ゆる他著しきものなく、南部は南大川の沖積平野(瑞川平野)を成し、水利良く道中の主要農産地を成す。東部には銀湖あり。住民の多数は農業に従事し、其他、商・工・漁業に従事する者あり。農産物は大豆・粟・蜀黍・米・大麻等にして殊に大豆は瑞川大豆として良質を以て著れる。また麻布・綿等あり。水産物には明太魚・鮭等あり。總督府鐵道咸鏡本線は中部を東西に横斷し、略中央に瑞川驛(大正十三年設置)あり。道路は此地を起點とし咸鏡・利原への二等道路を、東方の汝海洋津と北方の甲山への三等道路の他、等外道路線放射狀に城内に通じ交通便なり。龍城里、内門里等の地帯を瑞川邑と通稱す。邑は瑞川平野の中心部にして人口約五・五千、うち内地人約三百。瑞川郡廳・咸鏡地方法院出張所・稅務署・警務署・穀物検査所・農業補習學校等あり。市場は大豆等の取引活潑なり。特産に双物・玉石

【波照間島】 波照間島(神奈川縣)の地名。和名抄に久良郡服部郡あり、波止太と訓ず。その地今の横濱市内なちんも詳かならず。

【波照間島】 臺灣花蓮港廳海部郡にある舊社。畢羅山の東南方ダマキリ溪左岸の山腹、標高約一四四〇米の高所に在り。約百二十年前、人口増加に依りクヤン社より四一八人を以て分離し來りて現在の社を形成せり。アマナル族のタロコ蕃に属する高砂族なり。

ハット

【波照間島】 波照間島(神奈川縣)の地名。和名抄に久良郡服部郡あり、波止太と訓ず。その地今の横濱市内なちんも詳かならず。

ハットリ 波照間島

【波照間島】朝鮮咸鏡南道瑞川郡の東南端にありて、東南方は日本海に臨む。北部に雲住山(四二二米)の雙ゆる他著しきものなく、南部は南大川の沖積平野(瑞川平野)を成し、水利良く道中の主要農産地を成す。東部には銀湖あり。住民の多数は農業に従事し、其他、商・工・漁業に従事する者あり。農産物は大豆・粟・蜀黍・米・大麻等にして殊に大豆は瑞川大豆として良質を以て著れる。また麻布・綿等あり。水産物には明太魚・鮭等あり。總督府鐵道咸鏡本線は中部を東西に横斷し、略中央に瑞川驛(大正十三年設置)あり。道路は此地を起點とし咸鏡・利原への二等道路を、東方の汝海洋津と北方の甲山への三等道路の他、等外道路線放射狀に城内に通じ交通便なり。龍城里、内門里等の地帯を瑞川邑と通稱す。邑は瑞川平野の中心部にして人口約五・五千、うち内地人約三百。瑞川郡廳・咸鏡地方法院出張所・稅務署・警務署・穀物検査所・農業補習學校等あり。市場は大豆等の取引活潑なり。特産に双物・玉石

【波照間島】 波照間島(神奈川縣)の地名。和名抄に久良郡服部郡あり、波止太と訓ず。その地今の横濱市内なちんも詳かならず。

【波照間島】 臺灣花蓮港廳海部郡にある舊社。畢羅山の東南方ダマキリ溪左岸の山腹、標高約一四四〇米の高所に在り。約百二十年前、人口増加に依りクヤン社より四一八人を以て分離し來りて現在の社を形成せり。アマナル族のタロコ蕃に属する高砂族なり。

服部氏の邑にして延喜式に「伊賀國真調...

【服部】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名...

【服部】 大和國(奈良縣)の古地名。和名...

【服部】 備前國(岡山縣)の古地名。和名...

飯道東西に通じ、静岡市よりバスの便あり...

【花岡】 秋田縣羽後國北秋田郡の北部...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

松阪市の西南に開る。南半は盆地状の低...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

【花岡】 花岡 花岡 花岡 花岡...

十二歳を以て及し山守山に導る。門人等...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

【花岡村】 山口縣周防國都鄙郡の南部...

ハナカ——ハナセ

を納めしと云へば、當社の創建或はそれ以前にありしと考へらる。式内小社。例祭、九月十五日。

ハナカワト 花川戸

東京の町名、いま浅草區花川戸町。北は山宿町、西は馬道に隣接し、東は隅田川に沿ひ、香妻橋の北に在り。歌舞伎十八番の助六によりて其名著はる。和合人・初中一馬の屋にこまるナ。馬道へいつたら有だらう。名計馬道でも、馬のたんと通る所では、ハナカ、イヤイヤ花川戸の通りにきつと有、千住街道だから。

ハナキ 華城

山口縣佐波郡にありし村。昭和十一年外敵置町村と共に防府市を建つ。

ハナサキ 花咲

【花咲半島】 北海道本島の東南部に突出する一半島。行政上は根室支庁根室郡。花咲郡に属す。東南側は太平洋に面し、西北側は根室灣に臨む。海抜六〇米以下の丘陵地にて、海岸には著しき崖崖はなく小海岸平野あり。半島東部にては温根沼等の潟湖あり、南方に落石岬の小半島が突出し、半島の先端は納沙布岬にて瑠璃海峽を隔てて水島列島と相對し、西北側には根室港、東南側には花咲港。齒舞港あり。納沙布岬には高さ二三米の納沙布燈臺あり、落石岬には我國最古の無線電局あり。花咲港は根室郡根室町の一港にて、花咲半島の北面にある根室港の浦面に當り、根室港が冬期結氷して船舶の入港不能の時その代用港となる。なほ本港附近に産する花咲蟹は有名なり。

ハナリノ 花園

【花園村】 埼玉縣武藏國大里郡の西部。寄居町の東方にて間に櫻澤村を挟み、荒川の北岸にあり。西境に鐘堂山(三三〇米)あり、他は大部分平地にて、米を産し、養蠶も盛にて蠶糸を産す。南部を横走する縣道は熊谷市より寄居町に通ずるものにてバスの便あり。社線秩父鐵道また之に沿ひ、村内に永田驛(大正二年設置)・小前田驛(明治三十四年設置)を置く。その他にも縣道よく發達す。此地は鉢形城主の勢盛なりし時、持田四郎左衛門の開きし地なりといふ。大字小前田はもと御前田に作り、鎌倉街道の地を経て上州に至りしといふ。いま中山道の別路となる。

ハナツ——ハナタ

ハナシキ 花敷

↓六合村(群馬縣) 廣島縣神石郡にありし村。明治三十年に外三村と共に合併して仙美村を建つ。

ハナズミ 荏濟

【花咲】 北海道根室國根室支庁管下十

【花咲】 北海道根室國根室支庁管下十

ハナセ 花脊

【花脊河】 京都府山城國愛宕郡の北部。南境は京都市上京區、北隔より隔ること東北へ約四軒。西北部及び西部は北桑田郡に界す。四周山地を繞らし北部に大懸山(七四七米)あり。大懸川は北方より流れ來りて西北部を南流し、中央にて南境に發し北流する支流を合せて西に流る。流域に稍廣闊なる谷間を以て隣村への道路となる。農産・林産あり。谷に沿ひて縣道は北方・西方及び南方へ走りバスの便ありて交通不便ならず。南隣鞍馬村との間に花脊峠あり。(峠定寺) 原地新田にあり。天台宗寺門派。大懸山と號す。久壽元年觀空西念、鳥羽法皇の御旨を奉じて創建す。平清盛政權を得るや山門を造營し唐羅漢像十六體を安置す。享保年間元快、後西上皇の加持を修して觀感あり、仍りて本寺を奉修せしめらる。寺域は大懸山の奥區奇峯岩壁の中にあり山水清淑地勢靈奇なり。堂宇中、本堂・供水所・仁王門等は國寶建造物たり。なほ十一面千手觀音坐像(木造)一軀・脇侍不動明王及び二童子立像(木造)三軀・河原沙門天立像一軀等も國寶なり。

ハナシ 葉梨村

【花田】 愛知縣瀧美郡にありし村。明治三十九年に本村及び豊橋町・豊岡村を廢して豊橋町を置き、豊橋町は同三十九年に市制を布く。

ハナタ 花田

【花田】 愛知縣瀧美郡にありし村。明治三十九年に本村及び豊橋町・豊岡村を廢して豊橋町を置き、豊橋町は同三十九年に市制を布く。

ハナタカ 鼻高

【鼻高嶺山】 群馬縣高崎市及び碓氷郡岩野谷村・八幡村に跨る岩山。鐵道約一十三萬坪あり、車道鼻高嶺に屬す。高崎炭礦會社の經營に係り昭和十年には三、九三〇畝(假約二萬七千畝)を出し、同年六月末の使役鐵夫は五〇人とす。

ハナダテ 花館村

【鼻高嶺山】 群馬縣高崎市及び碓氷郡岩野谷村・八幡村に跨る岩山。鐵道約一十三萬坪あり、車道鼻高嶺に屬す。高崎炭礦會社の經營に係り昭和十年には三、九三〇畝(假約二萬七千畝)を出し、同年六月末の使役鐵夫は五〇人とす。

ハナチ——ハナマ

村の中央部を東南より西北に通じ、自動車便あり。奥羽本線大曲驛(明治三十七年設置)を置き、生保内線これより分岐す。村内に馬政局農事試験場奥羽試験地あり。また明治十四年、明治天皇、山形・秋田・北海道行幸の際、此地に御小休あらせられしことあり。村内の花館山は中古奥羽の名産、安倍氏の居りし所にて、山に標高多かりしにより花館と稱せられしと。これが村名となりしならん。

ハナチガセ 花知ヶ山 白山火山脈に属する一峯。津山市の北約二二軒、四山縣吉田郡の上野原・奥津・香々美北の三村境上にあり、標高二四八米。南麓に泉山(二〇九米)連なり、西麓を吉井川南流す。

ハナツカ 花塚山 阿武隈山脈の一峯。福島市の南東約二〇軒、福島縣相馬郡飯曾村と伊達郡小柳村との境上にあり、標高九一九米。山麓片麻岩より成る。南麓に標高最高點(六八七米)あり。

ハナトリ 花鳥村 山形縣甲斐國東八代郡の中部。甲府市の東南約九軒。石和町の南約五軒。南境に輝細ヶ岳の連嶺を編み、その支脈東・西兩境を走り、夫等の山脚は何れも中央及び北方に傾斜す。北部は甲府盆地の東南縁を成して一部低平なるも、他は概ね山地を成す。低地には水田拓くも、廣大なる丘陵地には桑園よく拓け、養蠶業頗る盛んで、繭の産多し。交通は中央本線石和驛(石和町)へ

ハナチ——ハナマ

出づるのみ。この地は和名抄、八代郡八代郷の内なるべく、近世は小石和筋に属す。もと竹野原村と稱せしが、昭和六年現稱に改む。村内の花鳥塚は大永年中、穴山・南部二氏の合戦の時、南部方敗れ、討首の鼻を埋めたる所なりといふ。附近には古墳多し。(福光園寺)大字大野寺にあり。新義道曹智山派。大野山。聖徳太子の創建なりと傳へ、往古勸修山大野山と稱せしが、のち現稱に改む。舊寺領二十六石餘。(傍野寺)大字竹原にあり。日蓮宗。正住山と號し、初め眞言宗を奉ぜしが、寛永三年身延山二十五世日深上人の化導に依りて日蓮上人これに改宗す。境内に養天女堂あり、明治十八年の建立に係る。

ハナナシ 花無山 東野村(飯島郷)山部の西南部。上野町の西南約一軒半にあり、南は名買郡に接す。中部・西部は丘陵をなし東部に上野盆地に属する平野開け東境を長田川西北流す。米作を主とし養蠶も盛なれど多作は不振なり。上野町より西南方笠置町及び奈良市方面へ通ずる縣道東部を通過し自動車便あり。もと法花村・下庄村・大野木村の三村に分れしが、明治二十二年の町村制實施に當り、三箇村を合併して花之木村と名づく。大字法花はもと伊賀國分尼寺のありし處。

ハナハタ 花畑 東京府南足立郡にある。東部。東郷池の西南岸に位する南北に長き村なり。北は長瀬村、西は日下村・西郷村、東は東郷村に接す。村内の大部分は近隣に接續せる山地に蔽はれるも、東部に傾斜し、池畔に平野展げ、水田横はる。農業・養蠶業を以て主産業となし、米・繭の産多し。省線山陰本線東西に貫通し日下村所在の上井驛、東郷村の松崎驛へ近くバスの便あり。大字羽衣石は古くは種石にも作る。鹽谷氏の族、南條氏の故墟羽衣石城址あり、一に南條城ともいふ。南條宗勝、尼子氏に仕へ、子元續に至り天文九年十月、尼子氏の逐ふ所となる。のち毛利元就に因りて復讐するを得。天正六年、元續は羽衣石に敗れ、毛利氏之を知り、七年九月、吉川元春の子元長・廣家等來り攻む。元續退へ戦ひて敗れ、元長、城に逼る。元續援を秀吉に請ふ。秀吉兵を出して元春と對抗す、元春攻むること急にして元續出でて降る。のち秀吉、元春に告げて元續に此地を復さしむ。次で征韓の役に元續は従ひしも、秀吉の旨に違ひ字土に流さる。元續の子忠成、之を編み四萬石を食みしが、關ヶ原の役、西軍に屬し、爲めに領土を没收せらる。

ハナミズ 花水 神奈川縣中部にある川。源を大山の南麓に發し、上流を金目川といふ。桑野盆地に於て葛葉・谷津等の小流を入れて花水川となり、東南流して鈴川・玉

ハナチ——ハナマ

りし村。昭和七年に他町村と合し足立區を建つ。
ハナブサ 英村 山形縣甲斐國東八代郡の北部。笛吹川の一支金川左岸に沿ひ石和町の東南に接す。甲府盆地の東部を占め土地平坦肥沃にて水田・桑園開く。農業を主産業とし米・桑の産多し、養蠶業も盛なり。近時トマト苗・茄子苗等の生産に聲あり。舊中山道は村の西南部を貫通し、省線中央本線石和驛へ約二軒、甲府市へ約七軒、バスの便あり。此地は和名抄、山形縣井上郡の内なるべく、近世は大石和筋に属す。大字國衙は往古甲斐國府のありし地とす。

ハナブサ 花房村 熊本縣肥後國菊池郡の西部。菊池川の左岸に沿ひ、隈府町の南方約二軒。阿蘇山西麓の臺地を占め約五〇米の高度を有する平坦地なり。北部には菊池川西南流し、沿岸に低地ひらく。純農村にて米・麥・繭を出す。隈府町より西南方熊本市へ至る縣道中央を縱斷し、東部には隈府町より東南方大津町へ至る街道あり。社線菊池電氣鐵道西部を走り隈府町・熊本市を結ぶ。

ハナマガリ 鼻曲山 淺間火山群の一峯。淺間山の東方約一軒に當り、東側は群馬縣碓氷郡島湖村・坂本町に屬し、西側は群馬縣吾妻郡長野原町と長野縣北佐久郡輕井澤町に屬す。標高一六五四米、山體輝石安山岩より成る。北麓に淺間山、南麓に一ノ字山等連る。この山

川の水を合せ相模灘に注ぐ。流域約四八軒、上流桑野地方は標高の産地として名あり。同國野記「さくといえ散ると見ゆるや風流る花水川の浪と白玉」
「花水坂」 山形縣北阿蘇郡日野村より臺ヶ原に至る間の舊山路。甲州方面より富士見三景の一。

ハナムレ 花簇村 熊本縣肥後國玉名郡の東部。高瀬町の東北約三軒にあり、東は鹿本郡に接す。南境は約三〇〇米の山地登えて北に傾斜し、東・北・西の三方へ傾斜面をなす。西隅の山麓に細長き低地あり、北部にも約二五〇米程度の山地あり、中部は低地開けて菊池川支流西北流す。純農村にて米・麥・繭を産し、特産物には柿・茶あり。中部は鹿見島街道横斷し高瀬町へバスの往來あり。この地は和名抄、玉名郡江田郷の内。

ハナムレ 花車山 九重火山群の北東方。由布火山群との中間火山區に噴起せる火山にして、花車山(一七三米)と鍋山(一五〇米)・鏡山(一一八〇米)並びにこの兩者間に起れる小丘等より成る椋成火山を云ふ。大分縣直入郡阿蘇野村に時つ。東方は大分川支流阿蘇野川の上流地をなす。基底は第三紀層及び礫層。輝石安山岩とし、山體は花車山は輝石安山岩、鍋山・鏡山は角閃石安山岩、兩者間の小丘群は輝石安山岩熔岩より成る。

ハナヤマ 花山村 宮城縣陸前國栗原

ハナマ——ハナチ

口町と花巻町を合し新に花巻町を置く。本町は花巻温泉の出入口として榮え、今町内に大藏省預金部資金局仙臺支局出張所・花巻區裁判所・花巻警察署・花巻警察署・花巻税務署等あり。明治十四年、明治九年、奥羽鐵道開通の際及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際、本町に御泊あらせらる。(花巻城(鳥谷ヶ崎城))
花巻驛東方約一軒の丘陵の一角にあり。小学校のある所は道手門址なり。城壁の大半及び外濠が所々に残るを以て、その規模の雄大なることを知り得。即ち東西三五〇米、南北四〇〇米、東は北上川に臨み、南に豊澤川、北に通川を控へし要害の地なり。いま城址に小中大運動物、鳥谷ヶ崎神社等あり、釜石線は城址を貫通す。城はもと神貫氏の居りし處にして天正年間南部氏の領となり、利直はその子政直を對せり。その後城代を置きて知行せしめ明治維新に至る。(藩行院)大字里川口にあり。淨土宗。元禄年間、當町の清水左兵衛の開基に係ると傳ふ。本章阿彌陀如來(木造)は國寶なり。
【花巻】 湯本村(岩手縣神宮郡)
【花巻温泉電氣鐵道】 社線。岩手縣神宮郡花巻町の西花巻驛より省線東北本線・釜石線の花巻驛を経て、同郡湯本村の花巻温泉驛に至る八・四軒。大正十四年開通す。軌間〇・七六二米、動力は電氣。省線と連帶運輸をなす。

ハナミ 花見村 鳥取縣伯耆國東伯郡

ハナマ——ハナチ

ハナミ 花見村 鳥取縣伯耆國東伯郡

ハナマ——ハナチ

ハナチ——ハナマ

は矢筈・角落の二山と共に古の角落火山の外輪山をなすものなり。山頂に天狗を祀ると云ふ小祠あり。山は植林を以て掩はれ、東面は絶壁をなして鳥川の水源地に臨み、西方は淺間高原に連る。林中にイワナハの大いなる群落あり。南東麓に霧積温泉湧く。
ハナマキ 花巻
【花巻町】 岩手縣陸前國神宮郡の南部。黒澤尻町の北方約一〇軒。南は和賀郡に隣接す。盛岡縣唐平郡の南部に位し、土地概ね平坦にて北上川は東境を南流す。瀨川は東北部を東南に流れ、豊澤川は中部を東に流れ各北上川に合す。米・繭・馬を産し、和傘・玩具・眞鍮等の特産あり。陸羽街道は東部を南北に通じ、釜石街道は東方に、瀨細街道は西南方にこれより分岐す。北方石鳥谷、西方釜石温泉、東北方矢澤、西南方横川日へは各バスの便あり。省線東北本線花巻驛(明治二十三年設置)あり。これより東方に省線釜石線、西方に社線花巻温泉電氣を分岐し前者に鳥谷ヶ崎驛(大正十四年設置)を置く。後者に西花巻驛(大正十四年設置)を置く。人口密度は一方軒につき六九六九人なり。此地は舊奥州街道の花巻宿のありし所に於て、舊郡役所のありし所。町村制施行以前は花巻川口町・花巻町・根子村を合し一戸長役場の下に統べたりしが、明治二十二年各々分立し、大正十二年根子村は花巻川口町に編入し、昭和四年花巻川

郡の西部。一迫町の西北約一四軒。西北は秋田縣、西及び南は玉造郡に隣接す。面積一五九・四三方軒。奥羽山脈の東斜面に屬し、北方に栗駒山ありて北部はその山麓をなし、西境には山地連り東南方に傾斜し、全村概ね山地をなす。一迫川は西北境に發源し村の時中央部を東南に流れ沿岸に温泉湧出す。米・木炭・馬・繭等を産す。道路は川に沿ひて西北より東南に通ずるのみにて交通便ならず。人口密度は一方軒につき一九九人あり。村内に湯湯温泉・湯倉温泉・湯瀆温泉及び行者湯(高五二米、幅八米)・熊澤の湯(高一五米、幅三米)・合の澤湯(第一の湯、第二の湯、共に高さ一五米、幅四米)・赤如龍湯(高さ一五米、幅三米)・大池湯(高一五米、幅四米)・白糸湯(高四五米、幅六米)・作澤湯(高五五米、幅四米)等の湯あり。(湯湯温泉) 一迫川の右岸にあり。泉質、無色透明の食鹽泉。療養向。鎌倉時代に三浦義時が亡されし北條氏の裔、時村が奥州に落ちて始めて湯湯せりとの口碑あり。附近に前九年の役に安倍貞任の籠りしといふ花山城址あり。
【湯瀆温泉】 栗駒山の西南麓、海拔七〇〇米の高地にあり。泉質、食鹽泉。療養向。湯は上ノ湯・下ノ湯に分れ、明治九年開湯。(湯倉温泉) 一迫川の右岸にあり。泉質、芒硝含有食鹽泉。療養向。文政三年、里人、新渡、大助の二人が釣魚中發見せりと傳ふ。(御嶽神社) 村社。祭神、

ハナマ——ハナチ

ハナマ——ハナチ

ハナマ——ハナチ

天常立尊・國孫立尊。創建年代不詳。延喜式内社に載せらる。一に藤王権現と云ふ。御座地の故は清山石楠花紫茂し人呼んで花山とも稱す。境内に不動堂あり。本尊の三佛共に蓮座の作るところと云ふ。社寶中、銅像藤王権現立像(一尺一寸餘)は鎌倉時代の佳作にて國寶なり。

ハナワ 花輪・鼻和・花和

【花輪・花和・鼻和】陸奥國津輕郡の中世の私稱。鎌倉領なり。その境域不詳なれども、凡そいまの青森縣中津輕郡の地ならん。

【花輪村】岩手縣陸奥國下閉伊郡の東南部。宮古町の西南約六軒。北上山地の東斜面に屬し、西南境は海拔約一〇〇〇米にて、西境にはサンゴト山(六八八米)加呂森(九七〇米)、南境に大釜山(六一二米)、西北部に字根島山(五四二米)等ありて、何れも東北方に傾斜す。長澤川は西南境に發源して東北に流れ、北境を東流する閉伊川に合す。全村概ね山地をなすも東北部に稍平地拓く。米・藁・大豆・稗・麥・木炭・馬等を産す。東北方者嶺山田嶺宮古驛へは約六軒。西北方同嶺茂市驛へは約八軒。各バスの便あり。村内に根城地あり、一に中根城とも稱し、閉伊陸奥守頼基始めてこゝに居す。頼基は徳川八郎爲朝の三男なり。建久年中、幕府、頼基を以て閉伊の押領使となし本郡に封ず。閉伊の子孫これを世襲し、正平年中より南郷氏に屬せり。

【花輪線】省線東北線の一。岩手縣岩手郡巻町大字好摩の東北本線好摩驛より西北走して秋田縣に入り、鹿角郡花輪町を経て、北秋田郡大館町の奥羽本線大館驛に至る一〇六・九軒。毛馬内驛(鹿角郡錦木村)にて省管十和田本線自動車に、大館驛にて社線小坂鐵道に連絡す。

【花輪町】秋田縣陸奥國鹿角郡の中部。毛馬内町の南方約九軒。尾去澤村の東北に隣り、東南は岩手縣に接す。東南境に皮投機(一一二米)登え西方に傾斜し、西北部また山地をなす。米代川は町の中西部を北流し、その東岸は平地なり。米・木炭等を産し、また紫根菜の特産あり。鹿角街道は中部を南北に通じ自動車の便あり。省線花輪線陸奥中津輕驛(大正十二年設置)を置く。本町は本郡の中心都邑にして、舊郡役所のありし所。天正年間南部大膳の所りし花輪城址あり。(幸)稻荷神社)神社。祭神、豊受姫命・猿田彦命・天宇都女命。創建年代詳ならずも、文明二年に舊領主の社殿を營繕せられし事見えれば、何れ足利中期の創建なるべし。花輪郡の御領寺として郷民の崇敬厚し。例祭、陸奥七月十六日。

【花輪】群馬縣多野郡東村の大字。足尾線の花輪驛(大正元年設置)を置く。

ハニシ 土師

【土師】上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に群野郡土師郷あり、波留之と訓す。その地今の多野郡美九里村に當る。

ハニシ 土師

【土師】四國國(鳥取縣)の古地名。和名抄に知頭郡土師郷あり、その地今の八頭郡知頭町の邊に當る。

ハニシ 土師

【土師】和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に大島郡土師郷あり、その地今の東北郡東百舌鳥村・百舌鳥村の邊に當る。

【土師】和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に大島郡土師郷あり、その地今の東北郡東百舌鳥村・百舌鳥村の邊に當る。

ハニシ 土師

【土師】和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に大島郡土師郷あり、その地今の東北郡東百舌鳥村・百舌鳥村の邊に當る。

ハニタ 埴田

【埴田】下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に足利郡埴田郷あり、刊本に埴田とあるは埴田の誤にして、足利郡吾妻村の大字埴田はその遺稱なるべし。

【埴田】長門國(山口縣)の古地名。延喜式に長門國埴田郡馬三疋とあり。埴田は埴田の誤なるべく、いま萩市の小畑の舊名を埴田と稱せしと云へば、埴田は此邊に求むべきか。

ハニシ 埴野

【埴野】但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に出石郡埴野郷あり、波留之と訓す。その地今の出石郡合橋村・室埴村の邊に當る。

【埴見】伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に河村郡埴見郷あり、その地今の東伯耆花見村・西郷村の邊に當る。

ハニシ 埴屋

【埴屋】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に武射郡埴屋郷あり、その地今の山武郡埴屋村・日向村の邊に當る。

ハニシ 羽生

【羽生町】埼玉縣武藏國北埼玉郡の北部。利根川は北方約二軒の所を東流し、全町平地にて米・麥・蕎麥を産し、聚落は中央部に發達して工業行はれ、青銅・足袋及び運動用ボール・靴類・足袋底等のゴム製品の出産頗る多し。縣道四方に通じ、社線東武鐵道伊勢崎線は西部を北走し羽生驛(明治三十六年設置)を置く。同驛はま

た社線伊勢崎線の起點にて同線はこれより西走して熊谷市に通ず。この地は近世羽生領に屬し、町名は領名の遺稱なるべし。羽生城は木戸伊豆守忠勝が弘治二年に築き、姑く居住せしが、天正三年、成田下總守のために陥り、忠勝討死せしより成田氏の有となりしが、天正十八年、大久保相模守忠勝の居城となり、家人豊坂道可を城代となし守らしめしが、慶長十九年この地が幕領となりしより、城も破る。

ハニシ 羽生

【羽生村】福井縣越前國大野郡の西部。東は大野町と間に乾削村を挟み、西は足利郡上宇坂村に界す。村内概ね山地にして南境には草間岳(六五二米)・飯盛山(大岳、八八四米)あり、羽生川は西谷谷に發し、村の中央を西に流れ、其の流域に低地を造り足利川に注ぐ。地質は羽生川以北は殆ど火山岩より成り、以南の低地部は第三紀、岡山岳部は深邊岩に屬す。縣道美濃街道は大平足羽川の右岸に流びて東西に貫通しバスも通ず。産業は農業を主とし、柿・梨・栗・梅の果實も多く、養蠶・漆かきも盛にて特に羽生杵の稱ある養蠶は名物なり。村名は天文八年平泉寺の古文書に羽丹生と見ゆれば、式内社土輪の轉訛ならんと言ふ。美濃街道は俗に羽生街道と稱し、昔、列官美濃の北國落ちの時、これを通過し大字大宮の講堂に一泊し、朝倉義景も敗北の時、此處を通過せしと云ふ。敗北の名將に關係深き

ハニシ 羽生

て低平肥沃、且つ灌溉の便よろしきを以て水田・桑園よく拓け、米・藁・蕎麥の産多し。社線富士身延鐵道西部をほり南北に走り東花輪驛(昭和三年設置)を置き、また甲府市へバスを通じ、交通便なり。この地は中世、小井川庄と稱せられし地にして附近に信玄墓と稱する處あるは武田氏の築きしもの。

ハニシ 土師

【土師】上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に群野郡土師郷あり、波留之と訓す。その地今の多野郡美九里村に當る。

ハニシ 土師

【土師】和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に大島郡土師郷あり、その地今の東北郡東百舌鳥村・百舌鳥村の邊に當る。

ハニシ 土師

【土師】和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に大島郡土師郷あり、その地今の東北郡東百舌鳥村・百舌鳥村の邊に當る。

抄に賀茂郡城生郷あり、その地今の加茂郡富田村の邊に當る。

〔城生村〕大阪府河内國南河内郡の北部。古市町の西に接し、東北は藤井寺町に界す。南半は寒地をなし北半は低平なる平野をなす。西境に大和川の支流北流す。米・柿・葡萄の産並に畜産多く、外に工業・水産あり。中部には縣道東西に走る。古は此邊の山野を羽曳山または丹比野と云ひ、いま古墳多く、最も著はれしは仁賢天皇城生坂本陵(藤井寺村)にして、また城生岡上墓あり。城生坂は一に丹比坂ともいふ。堺方面より古市を経て大和に通ずる竹内街道ここに懸る。仁徳天皇の崩後、仲皇子飯を謀り、履中天皇を此地に逃げ給ふといふ。(城生岡上墓)用明天皇の皇子來日皇子の御墓、大字城生野にあり。中世、その所傳を失ひしが明治八年現所に御治定。(野中寺)古蹟眞言宗。俗稱中ノ太子。聖徳太子の開創と傳ふ。中世、龍巖し寛文年間再興す。寺寶中、金銅彌勒菩薩像・地藏菩薩像(水造)は共に國寶。

〔城生岩壁〕福岡縣直野郡中間町にあり。標高十三萬餘坪。昭和十年には石炭三、六八八噸を出す。

ハニユ一 馬入川 相模川(神奈川縣) ↓相模川(神奈川縣)

ハニユ二 羽生田 新潟縣南蒲原郡田上村の大字信越本線の羽生田驛(明治三十六年設置)あり。

羽川の西北丘上に領川城址あり。中央集権以前、利地按司の居城たりしものならん。その東南には羽地香所跡並びに國頭地方役所跡あり。屋敷地島には和蘭墓あり。弘化三年東洋回遊中の佛國職艦にて病没せしシロネオトラ・ピクトリエウス等二老將軍を葬りしもの。

ハネダ 羽田 東京市南田區の町。多摩川口の堆積長く東京灣に突出する所に於て、住民は、漁民と牛農牛流の民とに分たる。また砂利船業・埋立・干拓事業等に從事するもの多し。湖集する漁船の群は一種の壯觀にて、漁期に於ける魚市場附近の盛況は見るべきものあり。羽田漁師町の名によつて起る處はここにあり。天保年中、徳川幕府は海防のため、新たに砲臺を築き羽田奉行を置けり。羽田河は河口より淺瀬海へ出る、約一哩四分三にて、その南端に燈臺あり。この地はまた沙千狩とともに、穴守の稱荷にて名高し。穴守稱荷は商賣繁昌に効驗あるとて参詣人多く、門前は料亭・土産物店等賑比す。羽田町が世界的になりしは、國際エアポートとなりし以來とす。鐵の芝生に白く鮮かに置くコンクリート滑走路「トウキヤウ」の五字が空の滑羽田飛行場の所在を明かにす。二つの格納庫と滑道なる事務所と、中央氣象臺の空港出張所等が十六萬坪の一隅に見らる。この地にはまた競馬場あり。

ハネニシ 波根西 鳥根縣安濃郡にあ

ハネタ——ハハシ

ハヌン 社 臺灣臺北州羅東郡にある番社。宜蘭濁水溪とハヌン溪との合流點の南方約五百米、一稜線の突端、海拔約二七〇米の緩傾斜地に在り。社の南部一帯は天然生の闊葉樹繁茂し居るも北方山脚は廣大なる平地地にて地味肥沃なるを以て水田・畑地に利用されつゝあり。また近くに濁水分室あり、營林所經營の森林鐵道あり交通極めて便なり。羅東郡キヤン社・キヤン社とは狩獵地の紛争ありて始終不和なり。マイヤル族の漢頭番に屬する高砂族より成る部落。

ハネ 万年山 阿蘇火山脈の一峯。別府市の西約三五軒、大分縣玖珠郡玖珠町と南田村との境上に在り。標高一四〇〇米。標式的熔岩臺地に在り。馬場溪谷・阿蘇熔岩等の舊期の熔岩(含括榴石角閃石・黒雲母流紋安山岩)より成り、更に舊期の輝石安山岩を被覆す。山頂臺地は東西約四軒、幅二五〇米乃至三〇〇米にして、東角に一等三角點(一四〇〇米)を置く。草原狀をなし、キヤンキヤンの群落多く、宛も高原の如き觀を呈す。山頂より四圍の眺望美し、東角に立てば東方に野嶺・崩平山等の連山を望み、西角より西方日田・玖珠兩盆地の水郷の景観あり。また山中の岩場は面白く、夏ノキャンプにも適し、冬は積雪多く、スキー場となる。玖珠川は此山の東麓なる臺地を流れ、その上支の沿岸、山の南麓に寶泉寺・噴湯等の温泉湧出す。登山は久

ハネヒガシ 波根東村 鳥根縣石見安濃郡の北部。大田町の北四軒。西北は海に面す。東南境には二三百米の丘陵連りて其の山脚西北方へ傾斜し、北部にも百米内外の丘陵地あり、中部より西部に亘りて平地開け耕地よく發達す。沿岸は概ね岩嶺海岸を成すも、西南部に小灣入りて良漁港をなす。生業は牛農牛流にして米の産多く、丘陵地には桑園よく拓けて養蠶盛なり。また清酒の産多し。山陰本線東方より海岸線に沿ひて來り域内に波根驛(大正四年設置)を置く。この地はもと波根西村と共に和名抄安濃郡波根郷の地なり。

ハノ 羽野 大隅國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に波根郡羽野郷あり、その地今の伊佐郡羽野村の邊に在り。

ハノ 波濃 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に熊毛郡波濃郷あり、其地今の熊

大鏡豊後中村驛より寶泉寺温泉・相模間、十文字峠を経て行はれ、また同じく久大線惠良峠より栗野を経て進出得らる。

ハネ 羽根村 高知縣土佐國安藝郡の東南部。西南部は土佐灣に臨み、奈半利町の東に接し、吉良川村を隔てて東南方に室戸町あり。東北より西南に細長し。全村山地をなし東北より西南に連る二條の山脈が東西兩境を限り、西境北端に裝束峠ありて一〇八三米の高度を示す。東境中央に大隅山(七〇九米)あり。山地は次第に西南方へ高さを減じて海に終る。中部に一條の河川あり、村内の水を集めて西南流す。之を羽根川と云ふ。海岸は早瀬にて平地乏しく北部に羽根崎あり。米・蕎麥・夢の農産に次ぎ林産多く、工業・水産・畜産もあり。海岸に沿ひて國道走り繁盛多く之に沿ひて点在しバスを通ずるも概して交通不便なり。土佐日記、承平四年正月十一日の條に「いましはれといふ所につきぬ、わかきわらは、この所の名を聞きて、はれといふ所は島の羽のやうにやあるといふ……まことに名にきくと、こゝろはなれば飛ぶが如くに都へもかなべし」とあるを見れば羽根の名の古きを知るべし。本村出身の歴史的人物に島村省吾及び槍垣繁太郎あり、島村は球擲の志士、中山大和義典の際、之に加はり奮戦す。慶應元年、年三十二。槍垣は幕末の勤王家、元治元年清岡兄弟と野根山の事に加はり、奈半利河原に斬らる、

年十六。贈從五位。

ハネ 波根 山陰本線の一驛(大正四年設置)。鳥根縣安濃郡久手町にあり。

ハネ 波根 石見國(鳥根縣)の古地名。和名抄に安濃郡波根郷あり、その地今の安濃郡波根東村・久手町・朝山村の邊に在り。延喜式の波根驛馬五疋とあるも此地なり。

ハネ 羽 阿武隈山脈の一峯。福島縣安達郡戸澤村・旭村の二村境上に在り。一に麓山とも云ふ。標高八九七米、山體片麻岩より成る。

ハネザワ 羽根澤 山形縣 山形縣 山形縣

ハネジ 羽地村 沖繩縣琉球國國頭郡の東部。名護町の東に接す。西寄り僅少の低地を見る外は村内一般に山地を成す。海岸線は屈曲に乏しく、中央に小島奥島によりて島定納港を抱く。その東北に屬島我地島浮ぶ。島内は中央に臺地あるも何れも沿岸に向ひて傾斜し、沿岸は概ね低平なり。主生業は農にして米・甘蔗・甘蔗を出し、殊に甘蔗の産多し。また製糖業行はる、も未だ振はず。國道名護町より來り村内を東方に走り大字派河にて終るのみにて交通便ならず。大字伊佐川は古くより開けたる部落にして、古昔には伊指川と見ゆ。地内の金川部落はもと産銅鐵山のありしところ。字

五四人と増減し、昭和十年の一方軒密度は一八五七人の稠密度を示し、全國平均の一八一一人に比し遙に多く、本郡にても岸上村に次ぎ第二位なり。

ハハキ 伯伎 伯岐國 ↓伯岐國

ハハコ 娘手山 ↓娘手山

ハハジマ 母島 東京府小笠原群島の一列島。父島列島の南約六〇軒にあり。母島を主島とし、外に櫻島・小島島・中島島・丸島・二子島・平島・向島・姉島(ベニ島)・妹島(ケルベ島)・姪島などより成る。櫻島は母島の南端、南端に對し水倉カサヅの標高する所よりこの名あり、丸島・二子島・平島と孤島をなし向島列島を隔て向島に對す。之等の諸島は何れも小島にて樹木雜草を見るのみにて泉水なく、嘗て平島に歸化人の一族の居住せしことありしも現在はずべて無人島なり。姉島・妹島・姪島はほゞ東西に並び、之等の島も泉水甚だ乏しく、糖價の暴騰せし當時には若干開墾され住民もありしが、今は再び無人島となる。

ハハ 母島 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

ハハ 端場村 和歌山縣紀伊國伊都郡の中北部。高野山の北麓九度山町の東北約〇・五軒。紀ノ川の沖積氾濫原上に在り。面積〇・四六方軒の小村。土地低平地味肥沃にて全村すべて耕地となり米・蕎麥を産す。省線和歌山線は北部を東西に通じ、高野口驛(高野町)・橋本驛(橋本町)に近く交通便なり。人口は國勢調査によれば大正九年八七〇人、同十四年八四八人、昭和五年八六〇人、同十年八

面積は約五百ヘクタール、山頂近くまで耕地の及ぶ所あり、特に南部の海蝕臺地はよく開拓され甘蔗が唯一の現金物にて...

嶺となり大崩落・東崎嶇を分つ。南方は臺地状をなし南嶺には比較的平坦なる海蝕臺地を遺す。東海岸の大崩落・東崎嶇は海蝕臺地を高く居住に適せず、西の沖港も港内に幾多く且つ浅く大船を容るるに好適ならず、また西南風には汽船の碇泊に至難なり。沖港はもと西の港、コッフィン港、ニュー・ポート等と呼ばれ、...

り、耕地面積は母島沖村より少くも一七五町歩あり。耕地はすべて畑にて水田はなし。石門山は石灰岩の臺地にてカルスト地形の諸現象あり、特に本島唯一の原始林的景観を存するを以て著する。...

ハバヤマ 鶴山村 徳島縣阿波國美馬郡の中部東北側。貞光町の南に接し西は半田町に界する山勢。四國山脈の北斜面に属する山地東西兩境に南北に連りて村境を劃し、東南境には女内山(一〇七三米)聳ゆ。貞光川は南方より來りて中央...

ハハジマオキ 母島沖村 東京府小笠原支庁母島の南部。北は母島北村に接す。乳房山(四六〇米)・銀先山(二七二米)等の山岳あり、東端に東に延びて島...

ハハジマキタ 母島北村 東京府小笠原支庁母島の北部。南は母島沖村に接す。標高・石門山・庚申岳などの山岳連り、東海岸に石門崎・鼠牛角の岬突出中に東港を築き、西南岸に郷干瀬あり。...

ハハジマニ 祖母谷 愛本村(富山縣)南秋田郡の東北側。秋田市の東北に隣り東は北秋田郡土小阿仁村に接す。面積一〇二・二六方軒にして本郡第二の大村。東北境に鳥養(六〇一米)、東南境に馬場目(一〇三七米)、北境に藥師山(三九五米)ありて山勢は西北方に延び、馬場目川は東端山地に發源し、村の略中央部を西北に流れ八郎湯に注ぐ。...

ハハゴ 土生郷村 大阪府和泉國泉郡の東北側。岸和田市及び貝塚町の東に接す。南部は臺地をなし北部大半は大阪平野の一部にして地形平坦多し。津田川中部を西北流し南部に湖沼多し。...

ハフ 土生町 廣島縣徳島國調郡の南方海上にある因ノ島の西南部を占め、西南部に狭き瀬戸を距てて愛媛縣所屬の生名島・鶴島・龜島等横はりて前面を掩ひ、其後方に岩城島及び廣島縣所屬の生口島あり。山地周囲を圍み北より西南に傾き海岸に僅の平地を餘す。造船所(鋼鐵船及び木造和船)・鐵工所(大阪鐵工所因島工場等)等を有する工業地帯なり。...

ハフ 殖生 下總國(千葉縣)の古地名。高麗集に下總國殖生郡と見ゆるが最も古く、日本後記・延暦二十四年にも郡名見ゆ。延喜民部式には殖生に作り、拾芥抄も之を襲ふも殖生の誤なり。和名抄は波牟布と訓じ玉作・山方・麻在・酢取の四郡を置く。明治十三年上總國の殖生郡と區別するため下殖生郡と稱せしが、明治三十年印旛郡に入りて郡名を失ふ。...

ハフ 破風山 關東山脈秩父山塊の一峯。山梨縣東山梨郡三宮村と埼玉縣秩父郡大瀬村との境上に在り。二二一七・六米なる三角點の置かるる峯は通常西破風山と呼ばれ、この東方に拔擢する峯を東破風山と稱し、標高約二二九〇米を算す。東破風の南東稜は雁坂山(二二八九米)・雁坂峠(最高點二〇八二米)に續き、西破風の西稜は木賊山(二四六八米)・甲武信ヶ岳(約二四六〇米)に連る。...

ハフ 八分字村 熊本縣肥後國鹿託郡の西南側。白川の南岸に沿ひ東北の一隅は熊本市西南隅に接す。地形平坦にして北境に白川西流し約四軒西に至りて島原海岸に注ぐ。戸畝の割合に耕地少くも耕種農業を主として三七三戸は農業を...

の開墾にして南面して開口せる石室は奥行二米、高さ各二米半、貝化石を含有せる切石にして巧に築造さる。...

ハフ 殖生 下總國(千葉縣)の古地名。高麗集に下總國殖生郡と見ゆるが最も古く、日本後記・延暦二十四年にも郡名見ゆ。延喜民部式には殖生に作り、拾芥抄も之を襲ふも殖生の誤なり。和名抄は波牟布と訓じ玉作・山方・麻在・酢取の四郡を置く。明治十三年上總國の殖生郡と區別するため下殖生郡と稱せしが、明治三十年印旛郡に入りて郡名を失ふ。...

ハフ 破風山 關東山脈秩父山塊の一峯。山梨縣東山梨郡三宮村と埼玉縣秩父郡大瀬村との境上に在り。二二一七・六米なる三角點の置かるる峯は通常西破風山と呼ばれ、この東方に拔擢する峯を東破風山と稱し、標高約二二九〇米を算す。東破風の南東稜は雁坂山(二二八九米)・雁坂峠(最高點二〇八二米)に續き、西破風の西稜は木賊山(二四六八米)・甲武信ヶ岳(約二四六〇米)に連る。...

ハフ 八分字村 熊本縣肥後國鹿託郡の西南側。白川の南岸に沿ひ東北の一隅は熊本市西南隅に接す。地形平坦にして北境に白川西流し約四軒西に至りて島原海岸に注ぐ。戸畝の割合に耕地少くも耕種農業を主として三七三戸は農業を...

ハフミ—ハマ

管む。外に商業を管むもの三六戸、工業を行ふもの一〇戸、其他八〇戸あり。特産物には軟白炭・七島炭あり。熊本市及び東南方川尻町へ道路通じ自動車便あり。

ハフミ 法美郡 法美郡 波浮港村 大島波浮港村(東京府)

ハフリ 祝人 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に新田郡祝人郷あり、波布利と訓ず。その地今詳ならずも新田郡總打村の邊に當るか。

ハブソ 社 臺灣新竹州大溪郡にある番社。大嶺峯溪右岸に在り。番屋は三箇所に分れ、ハブソ駐在所より西南方一・三軒乃至四軒の間にあり、アイヤル族の大嶺峯山番に族する高砂族の部落。

ハブソ 馬嶺ヶ岳 中國山脈の一峯。徳山市の北東方約二四軒、山口縣玖珂郡廣瀬村と都農郡須金村との境上に跨る。標高九八五米、山麓凝灰岩より成る。北東方に水ノ尾山(九八三米)峰あり。

ハヘー 坂平面 朝鮮京畿道坡州郡東北端、臨津江の左岸に沿ひ、郡邑汝山の東北方約五軒。東南部は四百米前後の山地を成せども西北に向つて漸次低夷し、城内一般に丘陵地を成し、臨津江沿岸には平地横はる。米・大豆・大豆・他等の産あり。其他牧牛・養蠶・木炭製造行はる。鐵道京義線は面の西南方を通じ臨津江を挟んで古枝村市街地に横く。省長長崎本線この地を通過し肥前藩(昭和五年設置)あり。大正七年八本木村を濱町と改稱す。(松岡神社)大字仁田山に鎮座。郷社。祭神、日本武尊・伊弉諾美尊・素戔嗚尊。鎮主有馬氏の崇敬焉。

【濱町】熊本縣肥後國上益城郡の東南部。阿蘇火山の南麓に在り、御船町の東方約一三軒にある山村。東北部は阿蘇山南麓斜面にして北境にて五八八米の高さを有し、千瀬川南流して南隣白糸村に出づ。西部及び南部は約六〇〇米餘の山地起伏し、西南境には城山あり。農業を主とし商工業も行はる。主産物は米・蔬菜の外に清酒・茶・干柿などの特産物あり。熊本より宮崎縣に至る要路に當り、縣道中央を南北に走り、又東方へ向ふ縣道もあり。その交叉點に主邑發達す。古くは和名抄、益城郡宅部郷の内に在り、近世は矢部庄の首邑たり。もと濱町村と稱せしが明治四十五年濱町と改稱す。城内に岩尾城址あり。永元中、阿蘇大宮司惟次が築城に係ると傳へ、又その館を濱館と稱し已に濱館に在館し、城には甲斐大和守親宣を置きて城代とす。いま城跡に一祠殿を立て是を城山神社と稱す。(鹽井手の大標)指定天然記念物。大字下馬尾字平ノ迫の斷崖に密接して立つ。約五・六米の高さに於て二大柱に分岐す。分岐部の幹間約九米、樺の巨樹として有数のもの。〔妙見の大標〕指定天然記念物。大津面の汝山驛より三等道路を通じ、縱貫して城・高浪浦に達し、乗合自動車の便あり。豪落密度ば比較的疎にして、臨津江に臨む斗浦里を面せしむ。此處に市場・學校あり。

ハベルダオ 島 Habeldao 南洋群島中、パラオ諸島の一島。諸島の北端に在り、ボナヘ島に次ぐ大島にして東西一五軒、南北四五軒、面積三七〇方軒あり。南のコロル島と共にパラオ島と汎稱せらるるにより、此島はパラオ本島と通稱す。中央部の東に面しナマイ海、西にガスパン海を抱く外、海岸線は一般に平潤なり。海岸には東岸に樹膠、西岸には樹膠の外に遠く錫を産らし、諸島内は波極めて静かにて、カヌーの交通自在なり。島内にはカラタルエルの如き尖峰の諸處に異容を呈せしむるも、概して波狀臺地の起伏するのみ。地質は全島が輝石安山岩と其の集塊岩より成り、西部のガスパン岩及び南岸などに水成岩あり。地表はラテライト(紅土)を以て蔽はれ樹木茂らず、蕪涼の地を出現す。但し小瀧の流域のみは椰子繁茂し、下流は紅樹密生す。住民は主として農・漁に従ふ。農産に甘藷・サトウ・ココナツ等、其他果實に鳳梨・芭蕉・パイナップル等あり。漁獲物は鰹・鮪・鰯・高瀬魚・海魚等とす。また北部に錫産地、その他錫炭層・瑪瑙等賦存するも未だ開發に至らず、人口餘漸なるを以て移民行はれ、島内に三箇所の植民地選定せらる。即ちアイライ村(一三〇ヘクタール)、カルドラグ川流域(五七〇ヘクタール)、カリスカ川流域(三四〇ヘクタール)にして、約二百三十軒を收容する豫定、昭和十一年十月現在にて一四五戸の移住あり。本島の聚落は東岸のマルキョク、ガラルド、西岸のアルモノアイ、北岸のアムコロン等を主とし、邦人はマルキョクに多く居住す。マルキョク村にはマルキョク城址あり、石材を積みて城郭または營柵のものを築く。人口は昭和十二年四月現在四六六五人にして、密度は一方軒に付二・六人に過ぎず。而して邦人は一三五三人、島民はカナカ族三三三三人、チャモロ族七四人、外國人五人あり。之を前年と比較するに、昭和四年三三二一人、同八年三六八三人にして、島民の増加率は著しきものなり。内地人は昭和四年一三一人、同八年四〇二人、同十二年一三二一人と格段の増加を示せり。

ハホマイ 羽母舞 樺太眞岡郡蘭泊村の大字。西海岸側の羽母舞驛(大正十年設置)を置く。

ハホマイ 齒舞村 樺太(北海)海道根室支庁 下花咲郡(北海)海道根室支庁

ハホロ 羽幌 北海道天鹽國留萌支庁留萌郡の中部。日本海に面し前面に天賣・焼尻二島を望む。東は天鹽山脈分水嶺南に連なり空知支庁に界し、北は初山別村、南は皆前村に接す。面積四六三・三七方軒、東半部は山嶽地帯にして山林繁茂すれども地勢海岸に向ひて傾く。山中に發したる羽幌川・榮別川は何れも西流し海に注ぐ。沖積平原大に展げ耕地・聚落集る。羽幌川口に主邑羽幌町の市街地發達す。米・大豆・小豆・蕎麥・馬鈴薯等の農産多く、山地には牧畜行はれ、また鱈・鮭・鱒の漁獲あり。省線羽幌線の終點羽幌驛(昭和七年設置)所在地にして、留萌町にバス及び汽船を通ず。本町は大正七年町制を布く。町内に羽幌警察署・羽幌郵便所等あり。

【羽幌】省線留萌線の一。北海道天鹽國留萌郡留萌村の留萌本線留萌驛より日本海に沿ひ北上し、皆前郡羽幌町の羽幌驛に至る六〇・六軒。留萌驛にて社線留萌鐵道に連絡す。

ハマ 樺麻 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡樺麻郷あり、その地今の鹿島郡高松村・中野村の邊に當る。

ハマ 幡間 下總國(千葉県)の古地名。和名抄に匝理郡幡間郷あり、その地今詳ならずも匝理郡白濱村の邊に當る。

ハマ 濱 佐賀縣肥前國藤津郡の東部。多良岳の北麓を占めて有明海に面す。北約一軒に鹿島町あり。南半は山麓臺地にて湯ノ峰(一五三米)あり。北部には平野開く。臺地は臺間多く低地は水田をなす。北部に縣道走り其西部に市街地發達し小

字濱町字浦員にある瀧貝神社境内に標の五樹あり、一般に妙見の大標といふ。日通幹間約九・四米。四米の高さに於て二大枝に分る。

ハマアツケシ 濱厚岸 根室本線の貨物驛(大正六年設置)。北海道釧路國厚岸郡厚岸町にあり。

ハマアツケシ 濱厚岸 北海道釧路國厚岸郡厚岸町の大字。日高線の濱厚岸驛(大正二年設置)あり。

ハマアバシ 濱網走 網走本線の貨物驛(大正元年設置)。北海道北見國網走郡網走町にあり。

ハマオーツ 濱大津 省線東海道の貨物驛(明治十三年設置)にして社線江若鐵道の接續點。道實縣大津市港町にあり。

ハマオタル 濱小樽 函館本線の貨物驛(昭和七年設置)。北海道小樽市にあり。

ハマカズミ 濱加積村 富山縣越中府中新川郡の北部。滑川町の東北に接し、西北は富山灣に臨む。南部を早月川の一支流流れ、土地一般に平坦にして灌漑の便よく米の産額多し。其他農産の特産あり。國道・省線北陸本線西北部を貫通し後者に滑川驛(明治四十一年設置)を置く、之より社線富山電氣鐵道を分岐し濱加積驛(昭和十年設置)を置く。また縣道により上市町へバスの便もあり。交通至便なり。此地は中世、堀江庄に屬す。

【濱町】南部に僅に丘陵あれど、地形概して平坦、東北境は南方より流れ来る五十鈴川の河口をなす。西境にも東北流する河川ありて河口に位置する一色は左岸に位置する神社町の鎮地に對す。水田よく拓けて米産多く、鰯・鰺を出し、畜産・林産あり。海岸は水産業盛にして漁獲高多し。西方字治山田市街地と東方二見町とを結ぶ縣道中央を横斷し、省線參宮線及び山田・二見間の電車も通過し、交通至便なり。また海運の便もあり。神宮皇學館及び縣立字治山田商業學校あり。

ハマサカ 濱坂町 兵庫縣但馬國美作郡の北部。日本海に臨み島取市の東北約二〇軒に在り、東西に細長く、東は城崎郡に界す。西南境には約五〇〇米の山地ありて西南部は其北斜面をなし、丘陵北へ延びて鬼門岬西北岸に突出す。此山地の東部(中央西偏)に平野開け、濱坂川西に流し、その日本海に注ぐ處に濱坂港ありて市街地發達す。中部及び東部は山地をなし、東境に於て五〇〇米餘の高さを示し、山地北岸に迫り岩石海岸をなす。米・鰯の産多く蔬菜・花卉・食用農産・大豆・粟・小豆・果實等を出し、また双物・木製器・漆製品等の工業もあり。海岸は水産多くその製造物も多し。此地は古來みやす織針・釣針の製造地として知られ、今は省機針の針を製すれど家内工業にして年産二萬圓内外に過ぎず。西部には縣道走りまた省線山陰本線通過し

臨む。南部に僅に丘陵あれど、地形概して平坦、東北境は南方より流れ来る五十鈴川の河口をなす。西境にも東北流する河川ありて河口に位置する一色は左岸に位置する神社町の鎮地に對す。水田よく拓けて米産多く、鰯・鰺を出し、畜産・林産あり。海岸は水産業盛にして漁獲高多し。西方字治山田市街地と東方二見町とを結ぶ縣道中央を横斷し、省線參宮線及び山田・二見間の電車も通過し、交通至便なり。また海運の便もあり。神宮皇學館及び縣立字治山田商業學校あり。

ハマカワサキ 濱川崎 東海道の貨物驛(大正七年設置)。神奈川県川崎市流田にあり。

ハマクシロ 濱釧路 根室本線の貨物驛(明治三十四年設置)。北海道釧路市にあり。

ハマクチ 濱口村 秋田縣秋田郡山本郡の西南部。八郎濱西北の砂洲上にあり。南は日本海、東は八郎濱に面す。村形南北に長く、砂丘南北に連りてその西部日本海對面は砂濱をなせるも、東部には水田拓く。米・魚類を産し、漁業のため他に出稼をなすもの多し。道路村の東南部を東北方に通じ、東方奥羽本線森岳驛へはバスの便あり。

ハマクロサキ 濱黒崎村 富山縣越中府上新川郡の北部。富山市の東北方約七軒の海岸。東は常願寺川河口を隔てて西水邊町に對し、北は富山灣に面す。土地平坦にて海岸は砂濱をなし、夏季海水浴場となる。南は富山平野を負ひ水田拓け米を産す。賣薬の産は殊に多く地方へ行商に出づる者も多し。其他漁業も行はる。南部を省線北陸本線貫通し濱黒崎驛停留所あり。海岸を東西に走る縣道及び之より分岐し富山市に至るものあり、富山市へは自動車の便あり。この地は近世、長坂郷と稱す。

ハマゴ 濱郷村 三重縣伊勢國度會郡の東北部。五十鈴川河口を占め、西南部は字治山田市の北に接し伊勢海に

ハマ—ハマサ

て濱坂(明治四十四年設置)あり。海上
東方津島山港及び西方浦富港に至る航路
あり。この地は和名抄の二方郡大庭郡及
び二方郡の各一部に當るもの如し。も
と東濱村と云ひしが明治二十四年濱坂町
と改む。(但馬御火浦)指定名勝。本村
及び城崎郡餘部村に跨る。日本海の波濤
に浸蝕されたる集塊岩・凝灰岩・花崗岩其
他諸種の火成岩より成り、岩層の變化に
當める海岸なり。色彩の異りたる斷崖高
く連りて其最も雄大なるものを屏風岩と
す。數多の岩脈は帯の如くに基盤を貫
き、隨處に露はる。洞門・洞窟は此等の
岩脈もしくは斷層に沿うて生じ舟を入る
るもの少からず。釣鐘洞門・十字洞門は
その主要なるものとす。岩礁島嶼は點々
として波間に相懸じ、とらき安山岩の柱
狀節理を成せる大嶋と朝陽夕輝を腹背に
迎へて景致を添ふる北走巖岬の朝日洞門
とは奇勝中の尤なるものに屬す。(相應
東寺)天台宗。大興寺。西國三十三所の
一。天平九年行基の開創に係る。寺内に
三塔頭あり。本尊十一面觀音立像(木造)
一軀は國寶。

【濱田村】秋田縣羽後國河邊郡の西部。
秋田市の南方約六軒。西方は日本海に面
し、市は由利郡に接す。面積六・九四方
軒。村の中部に大森山(二四米)あり、
南北に亘りて丘陵をなし、西部は狭長な
る砂濱をなす。東北部は秋田平野の一部
をなして平坦なり。米を産す。酒田街道
は村の中部を南北に通じ、北方羽後本線
新居驛へ約一軒あり。
【濱田村】福島縣代田郡岩瀬郡の東南部。
須賀川町の東南に隣り、東は阿武隈川を
隔てて石川郡に接す。村の西南部は丘陵
性高地をなすも、東北部は平坦なり。阿
武隈川は東境を北流す。米・蕎麥・麥・粟
等を産す。石川街道は村の中西部を南
北に通じ、北方須賀川町、南方石川郡石
川町へはバスの便あり。此地は和名抄、
磐梯郡磐梯郷の内なり。(岩屋大佛と横
穴群)大字和名あり。阿武隈川の北時
に連なる丘陵の岩壁に多數の横穴古墳あ
り、後世更にこの岩壁・横穴を利用して
石窟を造り、十二尊の佛像が半肉彫にさ
れてあり、その最大なるは高さ約二・五
米、他は約一米、いづれも坐像なり。破
壊甚だしく面相などかなり磨滅し居る
も、鎌倉末期の作風を存し、この地方に

【濱田町】岩瀬郡石見郡岩瀬郡の中央西
部。西は日本海に面し、他の三方は石見
村に接す。城内には一〇〇米内外の丘陵
起伏し、沿岸また海崖を成す所多し。海
津線は屈曲に宮古濱田町・松原町・外
浦の驛あり。濱田河口には瀬戸ヶ島・
馬島・矢野島等の数島基布して其北を擁
し良漁港を成す。東方石見村地内より發
源し來れる濱田川は濱田町頭近くにて右
折し松原町に注ぐ。市街地はその沿岸に
形成せらる。濱田港は良港にして帆船時
代より賑ひ、今も指定港たるも、大正十
年山陰線開通以來賑ひ繁榮を奪はれ、商
港としては微々たるも、漁港としては頗
る隆盛なり。濱田魚市場は縣下第二の賣
上高を有し、近年の賣上高百二、三十萬
圓に及ぶ。然してまた鮮魚の濱田驛移出
は縣下にて、本炭・帆筒等に次ぎ第三位
なり。主として京都へ向けらる。工業と
しては魚類罐詰最も多く、濱田町全生産
額の三分の二を占め年産百萬圓に及ぶ。
帆筒器の産も近年著しく増加し、製絲・紡
織も亦見るべきもの多し。山陰本線及び

の經營に係り昭和十年には金・銀・銅三〇、
八六九種、酸化鐵礦一四、八四六種、二
酸化錳鐵礦二、二八一種を出し、同年六
月末の従業員夫四一一人。明治二十二年
町村制施行に當り、白濱・崎崎・濱崎の三
村を含む濱崎村と稱せしが、同二十九年
白濱を分離し白濱村を立つ。(玉泉寺)
大字崎崎にあり。曹洞宗。海上山。古く
は眞言宗の小庵なりしが、天正年間一僧
俊榮現宗に改む。安政三年七月末國使節
マクセル・ハリス當寺内に初めて領
事館を置き、翌年十一月廿三日まで此地
に居住す。境内にハリス本庭前の佛手柑
樹に牛を繋ぎてこれを屠殺し、食用に供
す。蓋し我國に於ける屠牛の嚆矢なりと
す。

【濱田町】相模國(神奈川縣)の古地名。延
喜兵部者式に相模國濱田郡馬十二定と
見ゆ。和名抄には高座郡に屬家あり、
これ恐らくは驛家の上に濱田の二字を脱
せるものならんか。驛址いま詳かならざ
れども、或は高座郡麻溝村の大字富麻の
邊か。

【濱田町】島根縣石見郡岩瀬郡の中央西
部。西は日本海に面し、他の三方は石見
村に接す。城内には一〇〇米内外の丘陵
起伏し、沿岸また海崖を成す所多し。海
津線は屈曲に宮古濱田町・松原町・外
浦の驛あり。濱田河口には瀬戸ヶ島・
馬島・矢野島等の数島基布して其北を擁
し良漁港を成す。東方石見村地内より發
源し來れる濱田川は濱田町頭近くにて右
折し松原町に注ぐ。市街地はその沿岸に
形成せらる。濱田港は良港にして帆船時
代より賑ひ、今も指定港たるも、大正十
年山陰線開通以來賑ひ繁榮を奪はれ、商
港としては微々たるも、漁港としては頗
る隆盛なり。濱田魚市場は縣下第二の賣
上高を有し、近年の賣上高百二、三十萬
圓に及ぶ。然してまた鮮魚の濱田驛移出
は縣下にて、本炭・帆筒等に次ぎ第三位
なり。主として京都へ向けらる。工業と
しては魚類罐詰最も多く、濱田町全生産
額の三分の二を占め年産百萬圓に及ぶ。
帆筒器の産も近年著しく増加し、製絲・紡
織も亦見るべきもの多し。山陰本線及び

【濱田町】相模國(神奈川縣)の古地名。延
喜兵部者式に相模國濱田郡馬十二定と
見ゆ。和名抄には高座郡に屬家あり、
これ恐らくは驛家の上に濱田の二字を脱
せるものならんか。驛址いま詳かならざ
れども、或は高座郡麻溝村の大字富麻の
邊か。

【濱田町】相模國(神奈川縣)の古地名。延
喜兵部者式に相模國濱田郡馬十二定と
見ゆ。和名抄には高座郡に屬家あり、
これ恐らくは驛家の上に濱田の二字を脱
せるものならんか。驛址いま詳かならざ
れども、或は高座郡麻溝村の大字富麻の
邊か。

【濱田町】島根縣石見郡岩瀬郡の中央西
部。西は日本海に面し、他の三方は石見
村に接す。城内には一〇〇米内外の丘陵
起伏し、沿岸また海崖を成す所多し。海
津線は屈曲に宮古濱田町・松原町・外
浦の驛あり。濱田河口には瀬戸ヶ島・
馬島・矢野島等の数島基布して其北を擁
し良漁港を成す。東方石見村地内より發
源し來れる濱田川は濱田町頭近くにて右
折し松原町に注ぐ。市街地はその沿岸に
形成せらる。濱田港は良港にして帆船時
代より賑ひ、今も指定港たるも、大正十
年山陰線開通以來賑ひ繁榮を奪はれ、商
港としては微々たるも、漁港としては頗
る隆盛なり。濱田魚市場は縣下第二の賣
上高を有し、近年の賣上高百二、三十萬
圓に及ぶ。然してまた鮮魚の濱田驛移出
は縣下にて、本炭・帆筒等に次ぎ第三位
なり。主として京都へ向けらる。工業と
しては魚類罐詰最も多く、濱田町全生産
額の三分の二を占め年産百萬圓に及ぶ。
帆筒器の産も近年著しく増加し、製絲・紡
織も亦見るべきもの多し。山陰本線及び

【濱田町】相模國(神奈川縣)の古地名。延
喜兵部者式に相模國濱田郡馬十二定と
見ゆ。和名抄には高座郡に屬家あり、
これ恐らくは驛家の上に濱田の二字を脱
せるものならんか。驛址いま詳かならざ
れども、或は高座郡麻溝村の大字富麻の
邊か。

【濱田町】島根縣石見郡岩瀬郡の中央西
部。西は日本海に面し、他の三方は石見
村に接す。城内には一〇〇米内外の丘陵
起伏し、沿岸また海崖を成す所多し。海
津線は屈曲に宮古濱田町・松原町・外
浦の驛あり。濱田河口には瀬戸ヶ島・
馬島・矢野島等の数島基布して其北を擁
し良漁港を成す。東方石見村地内より發
源し來れる濱田川は濱田町頭近くにて右
折し松原町に注ぐ。市街地はその沿岸に
形成せらる。濱田港は良港にして帆船時
代より賑ひ、今も指定港たるも、大正十
年山陰線開通以來賑ひ繁榮を奪はれ、商
港としては微々たるも、漁港としては頗
る隆盛なり。濱田魚市場は縣下第二の賣
上高を有し、近年の賣上高百二、三十萬
圓に及ぶ。然してまた鮮魚の濱田驛移出
は縣下にて、本炭・帆筒等に次ぎ第三位
なり。主として京都へ向けらる。工業と
しては魚類罐詰最も多く、濱田町全生産
額の三分の二を占め年産百萬圓に及ぶ。
帆筒器の産も近年著しく増加し、製絲・紡
織も亦見るべきもの多し。山陰本線及び

ハマタ

及び南は上北郡に接す。面積一三・七九方軒。西北より東に長く長さ約二四...

ハマタドツ

濱多度津 土讃線の一驛(明治二十二年設置)。香川縣仲多度郡...

ハマデラ

濱寺町 大阪府和泉郡泉北郡の北部。堺市の南に接し、大阪湾に臨む。

八咫

の活況を呈せり。省東海道本線は郡の南部を東西に貫通し、東海道また之と並...

ハマトンベツ

濱頓別 北海道北見國枝幸郡頓別村の大字。北見線の濱頓別驛(大正七年設置)あり。

ハマナ

濱名 静岡縣遠江國の南西部。縣内十三郡の一。濱名湖に臨み、南は遠江郡...

ハマノイチ

濱之市 下郷八町(鹿兒島縣)あり。

ハマノウラ

濱ノ浦村 長崎縣肥前國南松浦郡中通島の西部。東南部は有川町の西南に接し、東を除く三面海に囲ま...

ハマノベ

濱邊 福島縣信夫郡にありし村。明治三十一年福島町に編入され、同町は四十年市制を布く。

ハマハラ

濱原村 島根縣石見國邑智郡の東北部。江ノ川に跨り山本町の東北約二軒にあり。南境には山脈連りて中央...

八咫

街資料からず。月曜日を除く外毎日無料公開す。
ハマトンベツ 濱頓別 北海道北見國枝幸郡頓別村の大字。北見線の濱頓別驛(大正七年設置)あり。
ハマナ 濱名 静岡縣遠江國の南西部。縣内十三郡の一。濱名湖に臨み、南は遠江郡...

ハマナ

入口の今切は天龍川よりの漂砂によりて生ぜし砂嘴にして湖を海より隔つ。今切の部分以前は完全なる海と湖とを隔断し、そこに濱名川があり、新居町の西方より海に注ぎしが、明歴七年の大津波により今切の中央部が陥没して湖水の出口を生じ、濱名川は橋本入といふ入江となり、後にはそれさへ消失せり。その後も...

ハマナカ

濱中村 北海道釧路國厚岸郡の東部。釧路國支庁管下。南は太平洋に面し、西は厚岸町に隣接す。面積四四・九四方軒。海岸線の出入に富み、濱中・琵琶瀨の二灣を抱く。湯沸岬中央に突出して兩灣を割せり。西南海岸の新川・琵琶瀨川流域及び火散布沼・藻散布沼は廣大なる低湿地をなす。背後は概ね百米以下の臺地に占められ風運川の上支流の水源地をなす。聚落は海岸に多く水産物豊富な...

時代に濱名湖口に濱名橋が架り、白須賀町(濱名郡)の位置は現在とは異り今の大字元町の所にあり、之は寶永四年の大津波に消失の厄に遭ひ、汐見坂上に移轉せしもの。こゝを経て濱名橋を渡り往來す。立派なる濱名橋の架せられしは國成帝元慶八年のことにて長さ五六丈、幅一丈三尺、高きは一丈六尺と傳ふ。地勢平坦なる湖南の交通はその後益々頻繁となり、慶長五年に今切番所が置かれ、京都又は江戸への出入を管轄し、一面交通の取柄りとなす。江戸時代には東海道は今切の兩岸、東の舞坂、西の新居間の今切渡船により海上を渡る。この今切の語は婦人の忌諱なるを以て東海道を上下する諸侯婦人の往來は必ず今切を避け本坂峠を越す、これを影街道といふ。いま湖上の交通は舊津町(濱名郡)を起點とし三ヶ日町・氣賀町(引佐郡)に通ずる濱名湖遊覧汽船會社の二線路あり。
ハマナカ 濱中 北海道釧路國厚岸郡の東部。釧路國支庁管下。南は太平洋に面し、西は厚岸町に隣接す。面積四四・九四方軒。海岸線の出入に富み、濱中・琵琶瀨の二灣を抱く。湯沸岬中央に突出して兩灣を割せり。西南海岸の新川・琵琶瀨川流域及び火散布沼・藻散布沼は廣大なる低湿地をなす。背後は概ね百米以下の臺地に占められ風運川の上支流の水源地をなす。聚落は海岸に多く水産物豊富な...

産・工業・畜産もあり。北部を縣道横断し...

ハママス 濱益

【濱益郡】 北海道石狩支庁支庁下五...

ハママツ 濱松

【濱松市】 静岡県西南部、天龍川と濱...

びに對するものに濱州織機・鈴木式...

は濱名郡三方原村・濱志村、東は長上村...

とす。貨物の移動状況を見るに、その者...

絲等の近代工業は之につぐ。此地の織工...

Table with columns: 種別, 製造場数, 職工数 (男, 女, 計), 生産額. Rows include categories like 紡織工業, 金工工業, etc.

濱松市工業統計(昭和十一年)

なし。また学校町、兵衛町となり、三方...

は大正九年七二二五八人、同十四年九二...

てひとり繁華を誇るに至れり。江戸時代に入り参勤交代及び諸人士の往来にて街道は雑沓を極め、馬場町に本陣、芝罌町に臨本陣あり、殊に東海道と姫街道との交叉點にて且つ城下町なる爲、宿場町として大いに榮ゆ。元弘の頃は今川氏此地を領有し、永正年間三善氏曳馬城を築き永祿十二年徳川家康の居城となるに及び濱松城と改む。家康駿府に移りては常に徳川家重臣の居城地となり、約二百年間に城主を更ること十九代なりしが、弘化中、井上河内守入城して大に城産を勸奨するに及び、商工業盛に起り人口また著しく増加す。明治維新に及び濱松城は廢し、明治二年郡政役所を設けられて濱松市街取捨大庄屋の支配に屬し、大で堀江縣・濱松縣を経て、同九年静岡縣の管下に入り、同十二年町制施行せられて濱松町となり、全町を三十四の大字に分つ。かくて維新以後、濱松は政治的意義を失ひ、また東海道線の開通によりて交通上の價值をも減殺せしが、町の位置東京・大阪のほゞ中央に位し良好なる地理的環境を有するを以て、工業都市並にそれに伴ふ商業都市として勃興し、近來急激なる發達を遂げ、縣下に於て經濟的には静岡市を凌ぐに至れり。而して明治三十七年に濱名郡白島村の一部を、同四十四年に淺井村の一部を編入、同四十四年七月に市制を施行せり。ついで大正元年には宮原村の一部を、同五年には曳馬

村・天神町村の各一部を、同十年天神町村を、また昭和十一年二月に曳馬町・宮原村を順次編入して今日に至る。〔濱松城〕初め引馬城といふ。永正年間三善爲連が久野の家を以て築かしめしと云ひ、一説には、同年間に三河國伊豆郡城主大河内氏これを築くとも云ふ。のち天文年中より永祿八年まで飯尾兼連・兼能父子城主となり、次で飯尾家臣江間氏これを守る。同十一年十二月徳川家康これを奪得、元龜二年三河國崎より移りて此處を甲斐の武田氏に對する根據地となし、天正五年には古城より西北へ擴げて新城を經營し、同六年竣工するや、引馬の名を忌み城の所在地濱松莊の名を取りて濱松城と名づく。尙此時本多作左衛門重次郭を作りしが、尙に作左衛門として址遺れり。天正十四年家康は北條氏に當る必要上、駿河に移り同十八年家康の關東入國に入警り堀尾吉晴城主となり、次で其子忠氏これを繼ぐ。然るに慶長六年堀尾氏國々原役の功により松江に移封さるるや松平家康・忠頼が所領なり。同十四年忠頼が所領を収めらるるや、徳川頼宣の老臣水野重仲これに代り元和五年重仲の紀伊に移るや、高力忠房これに代る。爾後、寛永十五年松平乗壽(三萬五千石)、正保元年太田實宗(三萬五千石)、延寶六年青山宗俊、元龜十五年松平實俊、寶曆八年井上正綱、文化十四年水野忠邦等交替に封ぜられて城主たり。弘化二年井上正春六

萬石に封ぜられて入部、のち子孫相繼ぎて、明治維新に至り上總鶴舞に移封せられ、城廢す。〔縣原神社〕東伊豆町に鎮座。縣社。祭神、賀茂眞淵。天保年間、遠州の國學者等は眞淵の學徳を慕ひ、領主水野鶴守忠邦の賛意を得て當社を創建す。祭神眞淵は遠江國敷知郡伊場村同部新宮の禰宜の二男。元龜二年今の東伊場町に生る。二十七歳濱松の縣長梅谷甚三郎の養子となり享保十八年京に出で荷田東慶の門に入り國學を研め終にその學派を傳ふ。元文三年より同部の姓に復す。寛保三年江戸に下りて教授す。延享三年田安中納言宗武に招聘され、寶曆十年十一月致仕、明和六年十月三十日歿す。年七十三。江戸品川東海寺内、少林院に葬る。後世、國學四大人の一に數へらる。明治十七年に現社を稱す。例祭十月三十日。〔五社神社〕利町に鎮座。縣社。祭神、太玉命・武甕命外三神。相殿に應神天皇・徳川家康を祀る。創建年代不詳なるも、或は古代より此地に太玉命の神社ありて春日四社を併祀せりと云ひ、また久野佐渡守の末子鶴守は武甕眞淵の爲に神功を得んとて、春日大明神とすとも云ふ。往昔は城内二ノ丸に鎮座あり。永祿十一年徳川家康の濱松城に移るや當社を崇敬すること厚し。天正七年四月七日秀忠の城内に生る。や、御産靈神社と奉稱し五社神社と號す。翌八年七月に現社地

に遷座し舊社地に松を植ゑて五社松と稱す。慶長十五年秀忠は社領を百石に増し社殿を建造す。寛永十一年に家光あらためて神領三百石となし、以後徳川代々の將軍および國主の尊崇篤く、常に營繕を加へられ甚だ盛觀を呈せり。社殿(本殿・幣殿・拜殿)は家光の再建、寛永十八年の建築にて國寶に指定さる。例祭、四月七日。境内に賀茂眞淵の遺像に書にかゝる「光海靈神」の碑および明治維新の際、東征宮に從軍したる遠州報國隊の碑あり。〔秋葉神社〕三組町の鎮座。縣社。祭神、加具土神。例祭、十二月十五・十六日。〔淺間神社〕大字淺間に鎮座。縣社。祭神、木花佐久夜見賣命。もと大宮淺間社と云へり。天文四年再建。江戸時代に朱印領十石を有せり。例祭、九月十七日。〔加茂神社〕大字伊場に鎮座。縣社。祭神、鴨建角身命・別當命。文永十一年山城の賀茂社より勧請すといふ。江戸時代朱印領四十石を有す。例祭、九月九日。〔八幡宮〕八幡町に鎮座。縣社。祭神、玉依比賣命・品陀和氣命・息長足姫命。創立年代詳かならず。式内郡郡社に充つる殿あり。中世以降武門・武將の崇敬あり。江戸時代を通じて、朱印領五十石を有せり。境内は老樹蒼蒼頗る森嚴、一雲立の「楠」及び「馬蹄の玉の木」あり。雲立の楠は三方ヶ原の戦に敗れし家康その空洞内に潜みて難を免れしと傳ふ。八幡宮の東約二百米に濱松の名のよりて起りし

と傳ふる「馬蹄の松」の遺蹟あり。〔鶴江寺〕鶴江町にあり。古蹟眞言宗。甲江山。大寶三年平野長者頼主となりて僧行基之を開創すと傳ふ。時に後醍醐天皇崩旨を賜ふ。豊臣氏は寺領二百五十石を寄せ、江戸時代を通じて一山十五坊あり、いまは振はざるも、鶴江觀音と稱して著はれ、春秋二季の彼岸には數十萬の念佛者遠近より群集す。〔普濟寺〕廣澤町にあり。曹洞宗。廣澤山。正長元年引開城主吉良氏の開基、梅津義東を勧誘開山とす。永享年中七堂伽藍及び十三堂司を建立、今川氏黒印三百石を寄せ、東海曹洞日本第二本寺と稱せられし名刹。近世は朱印八十三石を有す。現に末寺子院五百有餘を統ぶ。〔西來院〕廣澤町にあり。曹洞宗。高松山と號し普濟寺末たり。正長元年月室蓮師の開創、中興を昂建和尚とす。舊朱印領百五十石、寺格小本寺たりき。境内に築山御前(關口刑部少輔氏廣の女にして、徳川家康の正室)及び松平康後の室あり。〔摩ヶ崖〕市の北部、名産町に屬する斷崖。高さ約三〇〇米、東西に向つて走る。元龜三年十二月、三方ヶ原の戦に甲軍勝つてここに露營せしが、一夜、徳川勢の夜襲に遇ひ、この斷崖より落ちて死するもの多かりしといふ。

〔濱松鐵道〕社線。静岡縣濱松市の東海道本線濱松驛に近き東田町驛より飛行場驛前驛を経て、引佐郡奥山村の奥山驛に

至る二五・八軒。熱間〇・七六二米、動力は蒸氣・ガソリン。省線と連帶運輸。ハママツチヨイ 濱松町 東 京市芝罌にある町。東海道本線の濱松町驛(明治四十二年設置)あり。ハママラ 濱村 省線山陽本線の一驛(明治四十年設置)。鳥取縣氣高郡正佐村にあり。ハマヨシダ 濱吉田 省線常磐線の一驛(明治三十年設置)。宮城縣亙理郡吉田村にあり。ハマワキ 濱脇 大分縣遠見郡にありし町。明治三十九年別府町と合併し別府市を新設す。ハムラ 羽村 ↓西名摩村(東京都)ハモチ 羽茂村 新潟縣佐渡國佐渡郡の南部。南は大石澤に臨み、小木町の東に接す。小佐渡山脈の西南端を占め、略中央を羽茂川東北より西南流し大石澤に入る。下流に小平野開く。山地は森林に富み平地には水田多し。農業を主産業とし米の産多く、次で林業・工業盛にして木材・薪炭・佐渡味噌の産あり。その他牧畜・漁業も行はる。羽茂川に沿ひ縣道貫通し、海岸沿ひに赤泊方面へ運るものもあり。海上に船便あり。此地は和名抄、羽茂郡水津郷の内なりと、一に菅生郷の内なりともいふ。羽茂城址あり、本間對馬守高貞の居城せし所。〔度津神社〕大字飯岡に鎮座。國幣小社。祭神、五十猛命。延喜の制小社に列しち富國一ノ宮

と稱す。承暦四年六月十日郡卜に神事を續せる條あるを以て社司に申敷を科す。文明二年六月洪水のため當村の八幡神社に合祀、のち舊地に社殿を造營して遷座す。これ現社地なり。土人は近世一ノ宮八幡宮と稱し、神宮寺千光院の所管たりき。なほ當祭神は父神、妻妻鳴尊の淨賣の御神功を贊り奉りて航海の事を司り給ふ。社名これに據る。社地は佐渡國一の景勝として知らる。附近に史蹟多し。例祭、四月二十三日。〔菅原神社〕大字羽茂本郷に鎮座。縣社。祭神、菅原眞直・天照大神・磐田別命等八柱。創建年代未詳。應永二十三年再建。別當を義興寺と云へり。例祭、六月十二日。ハヤ 芳養 省線紀勢西線の一驛(昭和七年設置)。和歌山縣西牟婁郡下芳養村にあり。ハヤ 早川 ↓早川(神奈川縣)ハヤウラ 早浦村 熊本縣肥後國天草郡天草下島の南部。牛深町の東北約三軒にありて西北部は下島の西方より灣入する浦内浦の東南部の灣澳に面す。村内山地多く東境に六郎次山(四〇五米)、西南境には高取山(三四一米)屹つ。西北部海岸に平野開く。農産・林産あり。牛深町より東北端本波町へ通ずる縣道本村中央を貫く。本村は龜浦村と組合村をなし、役場を本村に置く。〔六郎次山〕指定名勝。標高四〇五米の一高丘にして、上島の龍ヶ丘と同じく第三紀の硬質砂岩よ

蛇行して西岸より廣く、湯本に至れば早川の最大の支流なる須磨川を合せ、これより下流は河原や、開け、小田原町に近く南に石垣山附近の急崖を望み、田圃の間を流れて小田原町と早川村との境をなす相模川に注ぐ。

【早川村】 神奈川県相模国足柄下郡の東部。小田原町の南隣にて、早川下流の南岸にあり。東は相模湾に臨み、面積僅に六・八六方軒の小村。大部分は聖岳(八三・八米)の東北斜面を占め、東部の早川沿岸のみ稍々平地あり。農業は米、麦、甘藷等を産す。海岸は砂浜をなし南部は磯濱なり。縣道は小田原町より東に海沿いに沿ひて南走し、倉庫東海道本線また之に沿ひ、北部に早川驛(大正十一年設置)を置く。此地に有名な石橋山あり、附近は海水浴場として知らる。大字早川は富士箱根国立公園の内にす。(早川の美稱)指定天然記念物。石垣山の北側にあり、根元の周六米、幹は五本の太き枝に分れて高く伸び、樹皮は固有の黄赤色を呈して遠方より認むるを得。美稱樹は福島の一種にして秋季花を開き後結實す。關東地方には稀に存するもの。

【ハヤカワ】 速川村 宮山縣越中郡水見町の西部。水見町の西方約六軒。西は寶達山脈を境に石川縣能登國に接す。略中央を南より北へ上庄川貫流し多少の平地ある他、東部・西部共に二百米前後の丘陵起伏。農業を主生産とし米・麥等

を産し、養蠶・製炭を副業とす。南北・東西に走る縣道あり水見町へバス通じ、之より省線水見線の便あり。大字早川に延喜式内社射水郡速川神社あり、村名は之によりしものか。

ハヤキ

【早來】 北海道樺根國勇拂郡安平村の省線宗谷本線早來驛より起り東方、厚岸村の厚岸驛に至る八軒。軌間〇・七六二米、動力はガソリン・馬力。【早來】 北海道樺根國勇拂郡安平村の大字。宗谷本線早來驛(明治二十七年設置)を置き、これより早來軌道を分岐す。

ハヤグチ

【早口村】 秋田縣羽後國北秋田郡の北部。鷹巣町の東北約八軒。北は青森縣、西北は山本郡に隣接す。面積一六・一三五方軒の大村。地形南北に長く、約二六方軒あり。北境には長尾山(九四三米)、堂九郎坊(八五三米)、北部に烏帽子岳(一〇八六米)あり、南方に傾斜し、早口川は東北境に發源して村の西部を南流し、東方より薄海灣・味内川等を合し村の南部に於て米代川に合す。米代川は南部を西流す。全村概ね山地をなせる。河川の沿岸に稍々耕地あり。米・木炭、杉材等を産し、奥羽本線の早口驛(明治三十三年設置)は杉材の集散地をなし、例年二萬噸以上を擧ぐ。羽州街道は南部を東西に通じ、自動車の便あり。當村と山瀬村とに跨りて赤倉山あり。破黄山にして重要鉱山に屬す(赤倉山産銅)。この

地に明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際に御野立あらせらる。【ハヤサキ】 早崎 肥前國(長崎縣)の古地名。延喜兵部省式に肥前國早崎牛牧とあり、いま南高來郡の口之津町の地名に早崎あり、牧は恐らくは此地なるべし。

ハヤサキ

【早崎海峡】 瀬田瀬戸ともいふ。長崎縣の島原半島と熊本縣の天草島との間にある海峡。西方に天草灘、東方に島原灘を控へ、この間約四軒にて潮流極めて急なり。兩岸には口之津・鬼池等の諸港あり。

ハヤシ

【林村】 茨城縣常陸國新治郡の西北部。碓氷町の東に隣る。東西境に龍神山(二一〇米)ありて、其の尾根東北境を連らし村内概ね百内外の丘陵地を成すも西部を無瀬川南流し、その流域に低平なる沃野ありて耕地開け田畑よく拓く。主生産は農にして米・小麥の産多し。縣道村の中部を東西に走り、碓氷町及び東南方石岡町にバスの便あり、交通不便ならず。この地は和名抄、茨城縣拜郷の地なるべし。大字根小屋に片野城址あり。勤王の歌人佐久良東城(順徳四位)は本村の人とす。

ハヤシ

【拜郷】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に茨城縣拜郷あり、その地今の新治郡林村・榑野の邊に當る。【拜郷】 林村(宮山縣)【拜郷】 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に中島郡拜郷あり、その地今の中島郡萩原町の邊に當る。【拜郷】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に丹波郡拜郷あり、その地今の丹波郡吉津村・岩瀬町・府中村の邊に當る。【拜郷】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡拜郷あり、その地今の福知山市に當る。

ハヤシ

【丹波國(京都府)の古地名。和名抄に何鹿郡拜郷あり、その地今の何鹿郡口上林村・中上林村・奥上林村の邊に當る。【拜郷】 阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に阿波郡拜郷あり、波也之と訓す。その地今の阿波郡林町・伊澤村の邊なるべし。

ハヤシ

【讚岐國(香川縣)の古地名。和名抄に山田郡拜郷あり、波也之と訓す。その地今の木田郡林村の邊に當る。【拜郷】 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に小田郡拜郷あり、波也之と訓す。その地は今の小田郡矢掛町の邊に當る。

厚木町に近く交通不便ならず。この地は和名抄、愛甲郡船田郷の内なるべし。いま三田村・及川村・斐田村・下川村・細澤村と組合村をなし役場を三田村に置く。【林村】 富山縣越中郡西礪波郡の東部。礪波町の南方約五軒。南より東へかけては東礪波郡に界し、出町の北に接す。礪波平野の中部を占め瀧川の便よく土地豊饒なり。米を主産とし養蠶・柿の副産物あり。省線中越線出町驛(最も近く、出町・礪波町間の縣道にバスの便あり。此地は若林村と共に和名抄、礪波郡拜郷の地に於て、近世は若林郡と稱せし地なり。(林神社)大字林に鎮座。神社。祭神、道臣命。創建年代不詳なるも、延喜式内社とす。古くより朝廷の崇敬厚く中世に神佛混淆の跡は社を置きて頗る盛大を極めし、のち雄神川(今の射水川)の氾濫に流失し遂に舊觀を復すに至らずして止む。例祭、十月三十一日。

ハヤシ

【石川縣】 石川縣石川郡の中部。金澤市の南約七軒。松任町の東南約五軒。東南境に倉ヶ岳(五六六米)登え、その山西北方へ傾斜し、村の東半は丘陵を成すも西半は金澤平野の一部を占めて地低平肥沃なり。主生産は農にして米を多産し、他に副業的に養蠶業行はる。社藏金澤電氣軌道村の中部をほぼ南北に走り會各・道法寺の二驛(共に大正四年設置)を置く。また松任町・金澤市に縣道通す。この地は和名抄、富田村と共に和名抄、石川

ハヤシ

【青森縣】 青森縣南津軽郡田村の大字。五節嶽の林崎驛(昭和十年設置)を置く。【林崎村】 兵庫縣播磨國明石郡の南部。明石市の西に隣り播磨灘に臨む。全村地形低平にて瀧川用地沼多し。海岸は東南より西北に殆ど直線状に連りて砂浜をなし、東南方明石海峡を隔てて淡路島北部を望む。水産業發達して水産物多く、又その製産物も多し。農産物には米・蕎麥・麥・大豆・食用農産物等あり。外に瀧川・木製品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を東南より西北に走り後者の明石驛(東方約一・五軒)に近く、また社藏山陽鐵道、海岸近くを通過して藤江驛(大正二二年設置)あり。播磨風土記に、赤石郡林崎と云ふは此地なるべし。和名抄に明石郡葛江郷とあり、大字藤江の名存す。萬葉集には藤江浦と見え、卷三に「あたらへの藤江の浦に鹽釣る白水原とか見らむ雲行く吾を」とあり、漁鹽の盛なりしを想ふべし。大字藤江に城址あり明石の古城と稱す。天正の初めは三木氏の有なりしが三木氏滅亡後は羽柴秀吉の兵これを守り、池田輝政藩を領せし時は家老を置く。元和年間小笠原氏新たに明石に城を築くに及び城廢す。(林神社)大字林に鎮座。祭神、小笠原神・彦火・出見命外三神。成務天皇八年八月の創建と傳ふ。延喜の制に式内小社に列し古來當村

郡拜郷(波也之と訓す)の地なり。長門本平家物語に壽永二年四月の條に加賀國の林六郎光明なるもの名見え、東鑑、承久の亂の所にも加賀國住人林次郎なるものあり、此地の人か。【林町】 徳島縣阿波國阿波郡の西南部。吉野川の北岸に沿ひ、西は美馬郡江原町に接し、南は麻植郡川田町に界す。北半は讃岐山脈南麓の山地にして北境にて約五〇〇米の高度を有し、南半は平坦なる平野にして南境に吉野川東流す。農業を主とし圃の産物も多く、米これに次ぎ多し出ず。撫美街道南部を東西に走りてバスを通じ、省線徳島線川田驛は南約一軒なり。昭和三年町制施行。宇津津の岩津神社の前に古代文字の石碑あり。(林町の石柱)指定天然記念物。石柱の發達は和泉砂岩より成る讃岐山脈の南麓に沿うて伸びる舊洪積層の丘陵地の所々に見らるるも特に本村の部分に著し。これは讃岐山脈の山腹より来る硬き和泉砂岩の石塊または礫層がその下の軟質土を覆ひ、これを缺く部分が雨水のため強く浸蝕される結果生じしものにて、甚だしく壁立せる尖塔或は屏風状を呈す。最も奇麗なるは波瀾状にて、廣き階谷に沿うて一〇米、幅三〇米、この間無數に石柱亂立しその最も高きものは一二米に及ぶ。なほ附近に燈籠・益ヶ敷等の未發達のものその数約三〇を算す。【林村】 香川縣讚岐國木田郡の西北部。

高松市の東南方約四軒。西は香川郡に境す。地は高松平野の一部を占め、全村低平にして灌漑の便よく耕地よく拓く。主生産は農にして米の産多し、消費地高松市を近く控ふるを以て二毛作・三毛作に依る蔬菜・花卉の栽培甚だ盛なり。城内を鐵道通過せざるも高松市に近く交通不便ならず。この地は和名抄、山田郡拜郷の地なり。【林】 中原村(熊本縣球磨郡)【林】 山形國(山形縣)の古地名。和名抄に山形郡林戸郷あり、波也之と訓す。その地今の東八代郡内ならんも詳かならず。【拜郷】 上野國(群馬縣)の古地名。延喜左馬寮式に見ゆる上野國九牧の一。その地明らかならざるも、恐らくは吾妻郡長野原町の邊にして、大字林は古地名の遺稱の轉か。【拜郷】 山城國(京都府)の古地名。和名抄に久世郡拜郷あり、その地今の久世郡佐山村の邊に當る。大字林はその遺稱なるべし。【拜郷】 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に志紀郡拜郷あり、その地今の南河内郡道明寺村の邊に當る。【拜郷】 出雲國(島根縣)の古地名。和名抄に意宇郡拜郷あり、その地今の八束郡玉湯村に當り、大字林は其の遺稱。【拜郷】 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名

ハヤシ——ハヤシ

の産土神として崇敬厚し。例祭、十月十日。

ハヤシダ 林田

〔林田〕 兵庫縣武庫郡にありし村。明治二十九年神戸市に編入す。

〔林田村〕 兵庫縣播磨國揖保郡の東北郡新宮町の東に接し、姫路市の西北方約七軒にして、北は兵庫郡に界す。東部及び西部は五〇〇米たらずの山地をなし中部に林田川南流し廣潤なる平野開く。米、小麥、粟、蕎麥、花弁、食用農産・繭・蠶卵・果實等の外に醬油の産額多く、木製・漆製品・紙・木製品・瓦等の工業品も多し。姫路南北に縦貫し姫路市へバスを通じ、省線姫新線本館驛へ南方約一軒を距つ。此地は和名抄、揖保郡林田郡の地なり。延喜式内社祝詞神社あり。中世は林田荘につくる。近世、津部氏一萬石の陣屋のありし處、陣屋址は大字上橋にあり、津部政長は大坂の役に功あり、元和三年此地に封ぜられ千孫相承けて明治維新に至る。また本村出身の歴史的人物に幕末の勤王家長次郎あり、池田屋の殉難者にして贈正五位、その子忠兵衛も池田屋會合の同志に武器を供給せるの故を以て捕へられ獄中に死す、贈從五位。(祝詞神社) 大字上橋に鎮座。祭神、高麗神・水波比賣神。景行天皇御宇の創建と傳ふ。延喜式内社たり。建久三年に社殿再建す。もと貴船神社と稱せしを明治七年現社に復原す。之は宣治七年林田

庄が今の官幣大社賀茂別雷神社の社領たりし頃、京都貴船神社の分霊を勧請し一時貴船神社と改稱せしものにして、當社本来の祭神は水波比賣神なるべし。例祭十月九日。(八幡神社) 大字八幡に鎮座。祭神、足仲彦命・息長足姫命。品陀和氣命・五十猛命。寛平五年五月の創建と傳ふ。延元二年二月社殿再建の事あり。例祭、十月八日。(林田の鴨池) 上橋の山麓にあり、俗に西池と稱し、大小五箇所あり。水面約四四六アール、毎年十月より翌年三月まで数千の鴨水面に集す。禁獵地なり。(林田の梅林) 鴨池の東北約五五〇米、津部氏の舊城址にあり。梅樹數百株を算す。

〔林田村〕 香川縣讃岐國綾歌郡の北部。綾川を隔てて坂出町の東に接し北は海に面す。東部に最高六六米の小丘陵あり。外は地形極めて平坦にて、西境には綾川西北流して海に入る。全村田畑よく發達し全戸の六割は農家にて米・麥・蔬菜・除虫菊等の産物あり。水産に従事する者は三割にして、海岸には鹽田よく發達して製鹽を主とした。鯛・鱈・魚・鳥・蝦等の産あり。工業を行ふものは六分にして製薬に従ふ。其他の四分は商業・産業なり。坂出町へバスを通ず。此地は和名抄、阿野郡林田郡の地なり。中世は讃岐在野大夫(又は彌大夫)の居りし所といふ。保元元年讃岐上皇讃岐に御着登の當初、國司未だ御所を造るに及ばざり

したため一時この地の長命寺(今は無し)に御座らせらる。御座り三箇年にして松山に移らせ給ふ。上皇の御製に「こゝもまたあらぬ雲井となりけり空行月のすむに任せて」とあり、大字中川に御座りの址あり、雲井御所址と稱へ、天保六年高松藩主松平頼起の建立せる記念碑を遺す。

〔林田〕 臺灣花蓮港廳鳳林支廳の村。臺灣の林田驛(大正四年設置)を置く。

ハヤシナカ 林中村 石川縣加賀國石川郡の西部。松任町の南方約二軒。加賀平野の中部を占め土地平坦肥沃にして水田開く。米を主産物とす。南北に数條の縣道走り、西方國道へ之等を連絡する縣道あり。松任町・鶴見町間にバス通ず。この地は和名抄、石川郡中村郡の内にして、近世は中村郡と稱せし地。

ハヤシ 林野町 岡山縣美作國英田郡の西南部。吉井川支流吉野川と梶川との合流點に位し、西は川を隔てて勝田郡に接し、西北一軒餘に勝田町あり。北部及び南部は山地をなし、北境及び南境に地形高く、東北より流下し来る吉野川は中央を西に貫きて西境に出で、東北より南下し西境に沿ひて流るる梶川と合して村境を南流す。西部河岸にやや低地を見る。米・蕎麥を産し、酒類・生絲の特産あり。縣道中央を東西に貫き吉野新橋美作江見驛(東北北方約六軒)及び勝田驛(西北方約四軒)、更に津山市へ

水道を成し、兩川に沿ひて小田原の山路通ず。北麓を閉伊川東流し、これに沿ひて宮古街道走り。北對面よりは閉伊川一支由山川源流して北流す。山頂部は岩石のみにて、相當大なる面積を有す。ここに早池峰神社本宮・若宮の二社鎮座す。この山頂は亞高山帯の上部に過ぎざるも、山麓森林帯の一部は純然たる高山植物のお花畑をなし、その種類は特有なるもの多く、ミヤマアザミ・ヤマアザミ・オダマキ・ナンブイモナゲ・ナハチナ・ススキ・ササ・ナンブトラノヲ等生育す。また一三〇〇米附近よりはオホシラビソに混じて笹畑を見るも奇なり。山頂よりは眺望雄大なり。登山は西方東北本嶽石鳥谷驛より大迫町まで十二軒、自動車の便あり。これより岳川に沿ひ、南西麓の岳まで一八軒、ここに縣社早池峰神社鎮座す。岳より山頂まで九軒、うち約六軒の岳川河畔河原の坊までは峻険なる登りにて山毛榉林美しく、また岳川の溪谷も美しい。河原の坊より北登して山頂。山頂部の岩場・岩壁にはロククワライメンがに好適なるものあり。また岳川を廻りつめ小田原最高點より北登しても山頂に得らる。なほ北麓門馬村より登山可能にして、即ち盛岡市より東方に分岐する山田嶽松原驛より四軒にして門馬に至り、更

に溪谷に沿ひ青森とど松の密林をなす急坂を登ること二軒、次第に林も盡き、更に

ハヤシハラ 林原 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に練野郡林原郷あり。八也之波良と訓す。その地今の多野郡藤岡町の邊に當る。

ハヤシマ 早島町 岡山縣備中國都窪郡の南部。倉敷市北部の東方一軒餘に位し、吉備町の西南に隣り、東は妹尾町に東南は茶屋町に界す。北部に一〇〇米以下の丘陵ある外は低平なる平野をなし土地肥沃なり。米・麥・蕎麥の農産物の外に金巾・花菱・疊・酒類等を産し、生絲の特産あり。市街地は東部に山を背ひて東北より西南に長く並び、之を貫きて縣道走りて妹尾町及び倉敷市へ通じ、南方茶屋町に至る道路もあり。倉敷島本嶽東南部を通過し早島驛(明治四十三年設置)あり。

ハヤツキカズミ 早月加積村 岡山縣備中國新川郡の北部。早月川左岸に沿ひ、東北は下新川郡津町に接し、西北は富山郡に面す。早月川の扇状地を占め、地勢東南より緩傾斜し富山平野の一部をなす。農業を主産業とし、米の産額多く、工業品の副産あり。倉敷北陸本線及び北陸道西北部を貫通し、滑川町へバスの便あり。その他上市へ至る縣道あり。自動車の往復頻繁なり。また社線富山電線の便あり。中村驛(昭和十年設置)を置く。この地はもと堀江庄の内なり。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際、この地に御小休あらせらる。

ハヤト 早戸 西方村(福島縣) (華人國) また唱更にも作り、華人の本據の地を稱せしもの。續紀文武天皇の大寶二年十月の條に「唱更國司等言。云々」とある唱更の註に「今廣摩國也」と見ゆ。されば華人國は今日の廣摩・大隅の地方を稱せしものならん。

〔華人町〕 鹿児島縣大隅國給良郡の南部。鹿児島港の北岸に臨み、國分町の西に接す。西は加治木町に界す。西部及び西北部一帯は丘陵處々に起伏し、東部は廣き平野をなし東境近くに新川南流して海に注ぐ。海岸は東半及び西隅は砂濱をなし

ハヤチネ 早池峰山 北上山脈の最高峯にして、岩手縣第二の高山たり。盛岡市の南東方凡そ三三軒に當り、北面は岩手縣下閉伊郡門馬村、南面は岩手縣内川日村に屬す。標高一九一三米。西方に中岳・鐘頭山・毛森等連り、東方に劍ヶ峯・高嶺山等續く。主として斑岩より構成せられ、周圍の一〇〇〇米内外の陸起平原より一段高く、殘丘として形成せられたるものなり。南東斜面よりは東方へ薬師川、南西斜面よりは西方へ岳川流出し、小田原最高點(一二二四米)はこの分

ハヤチ 早田原村 廣島縣安藝國賀茂郡の南海岸。東北は三津町に、西

ハヤス——ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

ハヤト

中央に丘陵地帯。米・麥の産多く、園も出
し外に畜産・水産・林産あり、工業類も多
し。また特産としての煙草・洋灰等はよ
く知らる。海岸に沿ひ、道東西に通じて
西南方面島市と東南方面城市とへバス
往來し、東部には北走する道路もあり。
省線日豊本線は本村を東西に貫き、年人
(明治三十四年設置)・國分線(昭和四年設
置)あり。年人線より省線肥後線分れ、
東部を北走す。古くは和名抄、豊原郡
豊國郡の内に属せしものか。もと西國分
村と稱せしを、昭和四年年人町と改稱す。
大字濱之市は往時より海驛として聞え、
大隅古國府の津頭たり。文藝年中島津義
久ここに築城して富隈といふ。その地は
今の大字住吉にして松林の間に僅にその
遺址を留む。大字内山田は一に宮内とも
いへり。續紀天元元年の條に大隅年人佐
須岐君夜麻等久々賣とあり。この夜麻等
は蓋し地名を負へるものなるべく、山田
はその轉訛ならん。而して内とは正宮の
境内の義とす。大字内に奈牙木社(敷社)
あり。此地は神代紀に姪子三歳を齎るも
猶ほ立たざるを以て、天磐種神船に載せ
て順風により放棄するところ、その天磐
種船の漂着せし地なりといふ。もと今よ
り東百米ばかりのところに叢林ありて、こ
れを敷社と稱せしが、この逢水田と成り
しを以て水産を遂げ、寛延三年今の地に遷
すといふ。古今集「願事なきのみ聞けん
社こそ是に敷の社と成らむ 置敷」開花

集「打絶て枯めと聞し木本のいかて敷の
社と成らむ 藤原元輔」(鹿見島神社)
官幣大社。祭神、天津日高彦彦命、出見
命。社傳に神武天皇の創建にして、尊の
都せられし地なりといふ。延喜の制名神
大社に列し、富國一ノ宮たり。建久八年の
開田儀に據れば、神領大隅薩摩の地二千五
百餘町あり。中世別當を菅原山雲、山雲
彌勒院と號して天台宗に屬し、僧性空の
開基と傳ふ。島津氏物興の後、特に源
家の兵神として大いに崇敬し、鹿見島神
社の名は世に忘れられ、専ら大隅國一ノ
宮として大隅八幡宮と稱せり。刀一口、
太刀一口(銘、相州住秋廣)は國寶。例祭、
八月十五日。(年人線)指定史蹟。年人
驛の西南約三〇〇米、鐵道線踏道の東側の
田圃中にあり。現状は略々方形を呈する
封土上に三基の石燈籠塔及び四天王石
造置かる。多重塔は中央のもの最も大に
して二層を存するも、現存部高さ約三米
にして破損し居れり。一基は礎石のみ存
し、一基は二層にて高さ約二・五米を有
し、また四天王像は二層に封土の上に建
ち、二層は封土の裾に存す。和銅元年熊
襲の死靈を慰めんがために、に五重塔
三基及び四天王石像を建設して供養を行
ひ、更に元正天皇聖武四年年人の叛亂あ
り、朝廷にこれを平定するや、また年人の
死靈をこゝに併せ祀り、放生會を行ひし
といひ、もと菩提寺の塚と稱し、鹿見島
神社の神宮またはこれを鹿見塚と命ぜし

が何時しか現稱となる。他地方に類例の
乏しき一種の供養塚なり。
ハヤドリー 早通 新潟縣中蒲
原郡にありし村。大正十四年に龜田町に
入る。

ハヤトモ 早瀬瀬戸・速瀬瀬戸
↓國門海城
ハヤノ 速野村 滋賀縣近江國野洲郡
の西部。野洲川河口を占め、本村にて野
洲川の三角洲は湖上に突出して、對岸滋賀
郡栗田町と共に琵琶湖の東北部大半と狹
き西南部とを分つ海峽狀の地をなし、西
北部及び西部は湖水に圍まる。地形低平
にて西南部に瀧地あり。野洲川は中央を
西北流して湖に注ぐ。農業・漁業を主要
とし、産物に米、淡水魚(鯉・鱈・鱖・は)あ
り。省線東海道本線守山驛(東南約四軒)
及び野洲驛(東南約四軒)へ共にバスの
便あり。また舟運の便よし。(福林寺)
大字木濱にあり。天台宗。大藏山。最澄
の開創に係り、桓武天皇勅して七堂伽藍
を造營せし勅願寺と定め給ふと。十一
面觀音立像(木造)一軀(藤原末期作)に
國寶。

ハヤヒ 速日峯 九州山脈の一峯。延
岡市の西方約一八軒。宮崎縣東臼杵郡北
方村と北郷村との境界に跨る。標高八六
八米、山麓秩父古生層より成る。山麓に
より二子山の別名あり。北麓を五ヶ瀬川
南東流す。

ハヤヒト 早日渡 省線日ノ影線の一

た白鳳十年に第三皇子國國に下向ありて
此地に居歴、天長八年に隣社と境を争ひ
竟に火を放ちて相戦ふ。建武年間火災
に罹り、永祿三年國守社殿を修造す。例
祭、四月十七日。

ハヤマ 葉山
「葉山町」神奈川縣相模國三浦郡の西部。
三浦半島の西岸にて、相模灣に臨む。東
は横須賀市、北は逗子町と隣す。大部分
丘陵地にて、海岸の北部及び南部の下山
川下流のみ狭き平地ありて、聚落もこの
部分に發達す。産物は農産を主とし、麥・
甘藷・大豆等あり。縣道は逗子町より來
り海岸沿に南走し、又これより分れ東走
して横須賀市に通ずるものあり。省線横
須賀線逗子驛よりバスの便あり。此地は
鎌倉・逗子に次ぐ避暑地帯として知ら
る。逗子より南走する自動車道路は海岸
山腹の僅な平地を求むるも、西側の地域
には名士の別荘地帯。藤戸川の流入す
る附近はやや平地開け、ここに堀ノ内・
藤戸の別荘地帯發達す。前面は海水浴場
にて名島・別島の小島嶼浮び、芝崎の突
出を距ててその南方に一色の別荘地域あ
り。ここは南方に長者ヶ崎の突出あり、
灣内には山下川注入して多少の砂濱發達
す。葉山御用邸はその中央部に位し附近
に秩父宮・高松宮・北白川宮の各御別邸を
始めとし貴族の別邸地帯に設けらる。
逗子町より葉山御用邸に達する自動車道
路は逗子停車場より別に設けられ、途中

に東伏見宮の御別邸あり。この地は和名
抄、鎌倉郡濱澤郡の内なり。大正十四年
町制を布く。大字長柄は鎌倉種五郎景政
三世の孫、長江太郎義景の住せし所。大
字山口は三浦義澄に山口次郎有綱あり、
此地に在名を稱せしものか。大字一色の
海岸に佐賀岡なる丘陵あり、一に三ヶ岡
に作る。東麓、美和元年六月、源賴朝、
納涼の爲め來りしに上總權助廣常來りて
伺候せしこと見ゆ。

ハヤミ 速水村 滋賀縣近江國淺井郡
の西部。姉川の一支高時川に沿ひ、長濱
町(坂田郡)の北方約五軒、北は伊香郡に
接す。近江平野の東北部を占めて土地平
坦、高時川東部を南流し漕漕の便よし。
米作・養蠶を主産業とし、漕漕工の副業盛
なり。其他、別荘・ビロード織・瓦焼・
蠟燭・竹細工等の工業も行はる。中部を
時南北に北國縣街道通し、東西へ數條
の縣道を分岐す。省線北陸本線虎姫驛に
最も近く、長濱町へはバスの便あり。此
地は和名抄、淺井郡速水郡(波也美と訓
ず)の地に於て、中世は六角氏の將速見
氏の居りし處。明治天皇北陸御巡幸の御
明治十一年十月十一日、速水小學校に御
駐蹕あらせらる。

ハヤミ 速見
「速見郡」大分縣十二郡の一。豊後國の
東北部、別府市の北に接し、別府灣の西
より北を圍みて北部は國東半島南部に互
る。西南部は土地高峻にして火山群立し
城ヶ岳(一六八米)、由布岳(一五八四
米)、福万山・鶴見岳・ガラン岳等の火山群
を擁し、この邊り温泉諸所に湧出して、熱湯と
瓦斯とを噴出する謂ゆる地獄式湧出をな
すもの多く、特に鶴見岳東麓の別府市附

近の如きは湧出地城嶺と、湯量豊富な
ると、温泉の種類多きとに於て世界屈指
の温泉地なり。北中も一帯に山地をなし
國東半島西南部に八坂川あり東流して
別府灣に注ぎ、流域及び海岸に平野ある
外は郡内低地に乏し。海岸は東北部に大
崎鼻・鶴見鼻・加賀鼻・権現鼻等突出せる
以外に單調なる線を示す。農産・水産・林
産あり。特産には七島蘭より製する鹽表
あり。郡内は別府海岸に位する豊岡町・
日出町・杵築町・立石町の四町外十一ヶ村
を含み、人口密度は平均一六一人にて最
も多きは杵築町の五二五人なり。日向街
道西北方より來りて北部と東南に走り別
府灣岸に出でて南走す、西南部には大分
市と日田盆地方面とを結ぶ縣道通達す。
省線日豊本線は日向街道に沿ひ南走して
別府市に入り、東北部杵築驛にて社線國
東鐵道に連絡し、西南部には省線久大本
線通達す。書紀景行紀十二年紀に、筑紫
の熊襲叛くや、天皇これを親征し給はん
とて磯田國速見邑に幸し土蜘蛛を誅し給
ふとい見ゆ。この邑が國郡制定の時、郡と
なり速見郡となりしなるべし。續紀寶龜
三年十月に郡名初めて見ゆ。和名抄は波
夜美と註し朝見・八坂・由布・大神・山香の
五郡を管す。明治三十二年四月、大分郡
との間に境界に多少の變更あり、また大
正十三年に別府市が本郡より獨立し、以
て今日に至る。

「速見邑」 ↓速見郡

ハヤマ

ハヤマ

ハヤマ

ハヤマ

ハヤマ

ハヤマ

ハヤメ 駿馬町 福岡県筑後国三池郡の南部。大牟田市の東に接し、南は熊本縣五木郡に界す。東北は約一五〇米程度の丘陵をなし、中部は臺地にして西南部は平野をなす。諏訪川は東方より流れ來りて南部を西北流し大牟田市に出づ。低地は米を産す。また三池炭田の一部を占め七浦炭坑・宮の原炭坑は其中最も重要な地帯を占む。炭坑は道ありて西北部の七浦炭坑より東は東隣玉川村の勝立炭坑に、北西は大牟田市の宮浦炭坑を経て鹿兒島本線と連絡し、また大牟田港に通じ、南西は熊本縣玉名郡荒尾町なる萬田炭坑を経て大牟田市の三池港に至る。大牟田市へバスの便あり。昭和十三年四月町制を布く。この地は和名抄、三毛郡米生郡の内なるべし。

ハユ—破邑 山形縣酒田市の東部。羽床村 香川縣讚岐國讚岐郡の中部。坂出町の東南境より南約四軒にあり。南北に稍細長し。南部には讚岐山脈の一峯大高見峰(五〇四米)聳え、其北麓は中部に横がりて臺地状をなす。北境には最高二五五米の山あり。兩山地間は平野をなし其東部に綾川西南方より來り、南境に東北折して瀧宮村に入る。農産に米・麥・粟等あり。北部には縣道東西に走り、其南に社線等平電氣鐵道通過して羽床(昭和二年設置)あり。和名抄に阿野郡羽床(讚岐川)と云ふは本村及び

羽床上村・瀧宮村に當るといふ。中世に香西氏の族この地に羽床氏を稱す。ハユカミ 羽床上村 香川縣讚岐國讚岐郡の中部。坂出町の東南六軒餘にありて、綾川の左岸に沿ふ。西南部は讚岐山脈北麓の山地をなし、西南境に大高見峰(五〇四米)聳ゆ。東北は平野開けて、北境に沿ひ綾川西北流し西北隅より村境を離れて北折す。農業を主産業とし米・麥等を出し、栗の特産あり。社線等平電氣鐵道羽床上(北方約一軒半)へバスの便あり。この地は和名抄、阿野郡羽床郡に屬せし地なり。

ハヨ—馬養島 新浦(朝鮮) 巴ヨウ—社 臺灣高雄州恒春郡にある舊社。港口溪の支流キヤロ溪左岸、舊稱ナツヲス山南面中腹に位し、鐵橋斜にして土地肥え農耕に適す。原社たる射鹿里社より約二百年前に分離し來り現在の社を形成せり。マイツツ族の恒春下藩に屬する高砂族より成る。ハラ 波良 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に阿蘇郡波良郡あり、今の阿蘇郡南小國村・小國町の邊に當り、延喜兵部省式に肥後國波良馬牧とあるも此地なり。〔波良〕肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に託麻郡波良郡あり、その地今の熊本市の一部なるべし。

ハラ 幡羅 安佐郡口田村の邊なるべし。〔幡羅(郡)〕武藏國(埼玉縣)の古地名。また原郡にも作る。禮日本後紀、承和元年に武藏國幡羅郡名見え、和名抄に原と註し、上桑・下桑・廣澤・在原・幡羅・那珂、霜見の七郡及び餘戸一を管す。近世に至り郡號を復し、文字によりてハヤマと訓ず。明治三十年廢して大里郡に入る。〔幡羅〕武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に幡羅郡幡羅郡あり、その地今の大里郡幡羅村・深谷町の邊に當る。〔幡羅〕遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に佐野郡幡羅郡あり、その地今の小笠郡原谷村・原田村・原泉村の邊に當る。〔幡羅〕阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に那賀郡幡羅郡あり、波良と訓す。その地今の平島村・羽ノ浦町の邊に當る。〔幡羅〕讚岐國(香川縣)の古地名。和名抄に三木郡幡羅郡あり、波良と訓す。その地今の木田郡平津村に當り大字原はその遺稱とす。

ハラ 原 宮城縣宮城郡にありし町。ハラノマチと呼べり。昭和三年に仙臺市に編入さる。〔原〕群馬縣上野國吾妻郡の東部。中之條町の西南隅にて、徳名山の北斜面の一部を占む。南境は袴ヶ谷(一四四八米)にて、それより北方に傾斜し、山裾

を吾妻川東北に流る。川の北側は西北境にある樂師樓(九七四米)の斜面をなす。川沿ひに農業行はれて米・麥を産す。長野街道は吾妻川に沿ひて西走し、梨落もこれに沿ひて發達す。省營自動車吾妻線は群馬郡の津川町より中之條町を経て來り、この街道を西走す。此地は和名抄、吾妻郡大田郡の内なるべし。〔原〕原の大樽(指定天然記念物。地上約六米にして六六支幹に分る。日風幹圍約一四米、樹勢旺盛、樹の互樹として代表的なり。〔岩櫃城〕字平澤にあり。今その址のみを存す。傳へいふ、建久六年以來、藤原秀郷の後裔なる吾妻氏この地に住し、貞和年中には下河邊氏數代に亘りてこの城に據りしが、永祿の頃香藤憲廣の居城たりき。その四年以來香藤田幸隆等、武田信玄の援けを得て屢々この城に憲廣を襲ひしが、或ひは長尾憲景が憲廣を助けしこともあり、善導寺の住僧の計ひにて兵を引きしこともありき。同六年に至り憲廣遂に支へ得ずして原田幸隆に奪はれ、翌七年に上杉謙信の援を得てこれを恢復せり。天正三年、再び原田氏の有に歸して、海野幸光、城代としてこれを守り、同九年昌幸これに居る。天正十年武田勝頼が織田信長に攻められし時に、昌幸は勝頼を吾妻の地へ迎へんとし、勝頼またその意ありしが周囲の爲に阻まれ、遂に没落の患運に陥る。當時本城は堅要を以て名高かりしを以て、昌幸の勝頼を迎へ

また大田川には舟運ありて交通便なり。もと東原・西原の二村に分れしが、大正九年合併して原村と名づく。〔原村〕廣島縣安藝國佐伯郡の東部。廣島市の約六軒西方に位す。村形は中央部隆形に曲りて東部は北へ及び、西部は西北方へ少し延ぶ。全村山地丘陵にして低地乏し、主産業は農業にて米・麥及び木材を主産物とす。香線山陽本線廿日市駅は東南二軒半にして自動車の便あり。〔原(村)〕福岡縣糸島郡にありし村。昭和八年磯井川村と共に福岡市に編入す。ハラ 祇川 三重縣にある柳田川の分枝。飯南郡清代村にて本流と分れ多氣郡との境を東北流し、約七軒にて郡境を離れて更に東北流し三軒餘にて伊勢灣に注ぐ。もと柳田川の本流こを流れしが、永保二年に大洪水ありて今の如く轉流し、こに一分水を殘せりといふ。祇川の名は勅使及び例幣使參向の朝、大神宮司の卜部こにて修葺せしより起るといふ。

んとせしは恐らく本城ならん。斯くの如く、本城は四方群雄の關係せし城にて、これを得ると否とは、その勢力の消長に重要な關係を有せり。〔原村〕山梨縣甲斐國南巨摩郡の東部。富士川右岸に沿ひ、身延町の北方約六軒。中央に烏森山(六四五米)聳え、地勢丘陵をなす。聚落は東部の河岸に沿ふ街村。養蠶・農業を主産業とし、米・麥・粟・養蠶業を出し、一部は商業を主産業とす。富士川に沿ひ縣道走り、社線富士身延鐵道下山波高島驛へ約四軒、舟楫の便あり。本村はもと八日市場村と稱せしが、昭和八年に伊沼村・飯宮村と合併して原村と改稱す。大字飯宮は武田信玄の臣に飯宮兵部少輔茂昌なるもの居りし所。〔原村〕長野縣信濃國諏訪郡の東部。八ヶ嶽の主峰赤嶽の西斜面、東原一帯を占む。東部の火山餘地帯は森林・草原多きも、西部山麓地帯は略東西に根根と澤とが放射狀に走り、澤には小流ありて階段的水田と桑園開拓せらる。農業・養蠶業を主産業とし、米・粟の産多し。其他には製糸業・林業・牧畜業等行はれ、土地高燥にして寒冷なれば冬季寒天製造にも適し、天然水も産す。西部諸部落を結ぶ縣道あり、鐵道は省線中央本線青柳驛に最も近く、同驛及び茅野驛へ何れもバスの便あり。〔原町〕靜岡縣駿河國駿東郡の西南海岸。東西に細長く、南方は駿河灣に臨み、西

は富士郡に接す。駿河海岸平野の一部にて、土地既して低温にして梨・桃等の果樹園盛なり。此地に米産多し、粟・麥等も多少産す。次に製紙業盛にして駿河牛紙を出し、牧畜・水産業これに次ぐ。町は東海道に沿ふ横式的街村として發達し、海岸に沿ひ東西に省線東海道本線も貫通し原町(明治三十三年設置)を置く。尙ほ鈴川・沼津間のバスも通じ交通便にして本郡の特色なり。この地は和名抄、駿河郡駿河郡の内なるべく、東海道五十三次の原宿のありし所。住時この地に住せし渡邊某なるもの、富士山麓に三椏を發見して、之より紙を製するを得しにより、近隣の農民に勧め、天保頃には郡内にその培養著しく普及し、駿河牛紙の名また高かりしといふ。明治天皇、明治元年東京行幸の際、同年に京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、同十一年北陸東海御巡幸の際等に此地に御小休あらせらる。〔松蔭寺〕臨濟宗妙心寺派。鶴林山。白隱禪師の舊蹟として著名。弘安年間、天祥西堂の開創に係る。〔原(村)〕廣島縣三郡にありし村。大正六年に十日市町と改む。〔原村〕廣島縣安藝國賀茂郡の中央西部。西條町の西方約四軒。西北は安藝郡に境す。西北境に水ヶ丸山(六六一米)ありて其の山頂東方へ傾斜し、村の西半は山地にして森林多きも、東半は一般に低平にて耕地よく拓く。東北部に湖沼あり。主

生業は農にして米の産多し、また養蠶業行はれて蠶を出す。縣道は村の中部をほぼ南北に走り、北隣の川上村地内の山陽本線八本松驛へバスの便あり。また村内に陸軍常設演習場あり。また源三位頼政の妻高瀨を祀る小倉神社あり、頼政は宇治に敗死するや、その遺子は母の高瀨に伴はれ西國に走りて難を安藝賀茂に避け幾くもなく病を得て御宇村香蓮道に入りて死す、其浦は割髪して尼となり西妙と號し、本村小倉山に隱れ、元久元年八月二十七日入寂すといふ。〔原村〕廣島縣安藝國山縣郡の中央東端。八重町の西北に隣り、西南方約八軒には加計町あり。北部より西部にかけて及び南部より東部にかけての一帯は八一九百米餘の山地をなし、その間に東北より西南に連る細長き盆地ありて、中央西南隅の坊々谷附近の低き時により二部に分たる。北部及び南部には之につゞきて東南方へ稍々低地延ぶ。農産額は最も多く工業・林産これに次ぎ、外に畜産あり。西部を縣道は西北より東南に横斷すれど山村の爲め交通便ならず。〔原村〕廣島縣安藝國安佐郡の南部。廣島市の北に隣り、西は祇園町に接す。太田川は東部を南流し、太田川の橋成する沖積地にして、土地肥沃にして全村殆ど耕地となり、米・麥を産し、養蠶も盛にて、また生糸を製す。西境に近く祇園町を縣道南下し、村内街道は之より低出し

ハラゴ—祇郷村 福岡縣豊前國京郡の東南部。行橋町の南方約二軒にあり。東は津津村を隔てて周防灘に近し。西部及び東南部に稍々臺地・丘陵あれど一般に地形低平にて行橋平野の一部を占め、祇川は中央を北方へ貫流す。米・麥・粟の産あり、東南方推田町より西方香春町へ出る縣道中央を横斷し、省線日豊本線新田原驛へは東方約一軒、省

鏡田川線豊津線へは西方約一軒を距つ。この地は和名抄、仲津郡仲津郷の内なるべく、大字草場に國府地あり、また字佐奉幣の勅使は此處に宿るを例とせりと。大字國作は豊國造の住みし所なりと國志に見ゆ。

ハライズミ

原泉村 靜岡縣遠江國小笠郡の北端。掛川町の北約十軒、東は樽原郡、西北は周智郡に境す。北境に大日山、東北境に白光山(八三二米)聳え、其等の山岳西南に延びて諸處に四五百米の山岳を峰起し、村城の大部分は深山を成す。原野谷川の一支村の中部に發源して西南流し、その沿岸に谷狀の低地を見るのみ。水田は概ねこの谷地或は斜面に階壇式に拓かる。主産業は農にして米を出し、茶の産少ならず。また地形上林産相當見べきものあり。交通は掛川町に縣道通じバスの便あるのみ。この地は和名抄、佐野郡幡羅郷の内なるべし。大字炭焼は古より炭産ありて炭を年貢とせし故に炭焼の名ありと。

ハライチ

原市 群馬縣上野國碓氷郡の南部。東は安中町、西は松井田町に隣る。全城低き山地をなし南境を碓氷川、北境を九十九川東流す。川沿ひに農産行はれて、米を産し、養蠶も行はる。中山道は中央を西走し、繁落これに沿ひて發達す。安中町・松井田町へはバスを通じ、また南隣郡村に省營信託本館碓氷支店と置き

て縣道を通ず。此地は和名抄、碓氷郡野後郷の内なるべく、當町より安中町に至る間の松並木は指定天然記念物たり。【原市町】埼玉縣武蔵國北足立郡の東部。綾瀬川の西岸にて、東は川を隔て、南埼玉郡の一部と隣す。全町平地にて東部には水田、他は畑地多く米・麥・蕎麥を産し和酒の製造行はる。縣道は西部を南走して大宮町に通じバスの便あり。また西北隅上尾町に通じ同町の省線高崎線上尾驛に連絡す。其他、東走する縣道は東北隅南埼玉郡蓮田町に通じ、同町に省線東北本線蓮田驛あり。繁落はこれ等縣道の集合點に發達す。本町は大正二年五井村と共に廢せられ、其區域を以て新設されしもの。明治天皇、明治十一年北陸東海御巡幸の際、ここに御小休あらせらる。

ハライチバ

原市場村 埼玉縣武蔵國入間郡の西部。飯能町の西隣にて名栗川に沿ふ。全村山地にて西境は約五五〇米、北境は約三〇〇米、南境は約二六〇米にて三方より村内に傾斜し、村の南部はその場合に名栗川は谷をつくりて東流す。山地一帯森林ありて林産多し。川沿の狭き平地には農産行はれて米・麥を産し、養蠶盛にて繭・生絹の産少ならず。また農閑を利用して紙漉業とするもの古來多し。縣道は川沿ひに飯能町に通じバスの便あり。繁落は、高麗郡上總郡の内なるべく、正保の頃とては紅土村

と稱せりといふ。【ハラオ諸島】南洋群島の最西部に位置する群島。西カロリン群島の西方に東北一西南に一列の緩き弧をつくる諸島にしてパルダオ島・コロル島等より成るハラオ島を盟主となし、その西南端に遠く離散するトコベイ・ソソル・メロの各島と、近きベリニュー島・アソガワル島等を含み、全體を以てハラオ支那を稱す。支那管内の島嶼數一〇九、その面積四七八平方軒。パルダオ島(ハラオ本島と稱す)は最大にして、三七〇方軒あり。その南なるコロル島に南洋廳及びハラオ支那置かる。近海は水深く、周圍は珊瑚礁より成り、ハラオ本島北方よりベリニュー島に至る間は橋をなし、その中にハラオ島・ローララ島・カカ島・マラカ島・アラカ島・サン島・ウル島・パルダオ島・マカラ島・ベリニュー島の諸島嶼散在す。地質はハラオ島はその基底は輝石安山岩とその集塊岩より成り、局部的に水成岩・隆起珊瑚礁石灰岩がその上に發達し、南方の各島は全く石灰岩の低平地より成り、ベリニュー島・アソガワル島は僅に水上一〇米内外の平坦なる島上に厚くアノ機賦存しその産地として廣く知らる。諸島には清泉少く、マラカ島・コロル島には水量や豊富なる清泉あり。全城熱帯圈内にある洋島なるを以て純然たる海洋性

にて約計二二萬圓を示す。アソガワル港は移出は糖類の二二萬圓のみ、移入は米その他の食料品・石灰等を合せ二三萬圓あり、外國貿易は制限を附せられ若干の米を輸入するのみなり。商業は殆ど邦人の獨占にして、ハラオの雜貨販賣業を主とし、其他コブラの仲買をなす者多し。金融機關として銀行・實業等の出現未だなく、一に産業組合により、ハラオにハラオ信用組合あり。交通は支那所在地に自動車道路あるのみにて未改修のところ多く、特殊のものにアソガワル島嶼探検用の官設軌道一八軒餘あり。海上は前記ハラオ・アソガワル兩港以外はカヌーの往來あるのみ。ハラオ港はコロル島と波止場間の珊瑚礁島を開闢して船員二〇名のハラオ新水道を通じ、小樽を利用して埠頭を新設し、なほ昭和十一年以降總工費二六七萬餘圓を以て修築中にして、竣工の時は六千噸級船舶三隻の接岸荷役可能となるべし。ハラオ港よりベリニュー島のメナド港及びフィリッピン群島ミンダナオ島のダバオ港に連絡する定期航路を始め日本郵船の西廻り航路及び諸島間の航路等あり、横濱・神戸へ六日乃至十日間に達す。なほサイパン・ハラオ間に不定期航空路ひらけ、其他、内地及び諸島間の通信に無線電信を利用し、ハラオには電話もや普及せり。人口は昭和十二年四月一日現在一六、一二六人にて、その大部分はハラオ本島、

(三萬四千圓)及び若干の味噌・醬油の他糖甲細工・椰子細工・製菓製品・椰子糖等の手製品製造も島民の家事工業として營まる。林業にては椰子樹・紅樹多しコブラの年産額五萬二千圓ありて重要移出品をなし、其他、木炭(一萬五千圓)を輸出す。水産は鱈・鮪・高瀬貝等多く、邦人の従業者約八百に達す。近年に至りて南洋漁業の發達著しく、特にハラオを根據地としてアラアラ海及び濠洲北西近海に出漁する白鯧貝漁業は創始數年を出でざる昭和十一年に於て出漁船數八十餘隻、漁獲高三千噸、三百萬圓に達せんとし、極めて有望視さる。なほ黒鯧貝を母介とする眞珠養殖業も行はれ、帯鋼白色の特殊眞珠を産し、近年は白鯧貝を母介とする眞珠養殖業をなす者あり。昭和十年に於ける漁獲高の合計は七四九、〇五三圓にして、(五四萬圓)を第一に鮪(六萬圓)、鱈(五萬圓)、高瀬貝(七萬圓)、鮪・鱈および眞珠・海鼠・飛魚・正覺坊などあり。水産製造高は一、〇四四、〇二二圓にして南洋群島中の中ばを占め、特に南洋群島(總額)は九七萬圓を出し内地各市場に移出され、其他鮪(七萬圓)・海鼠あり。鱈は産額に於て諸島産業の首位を占む。アソガワル・ベリニュー・トコベイの三島は燒鹽地として知らる。一九〇三年頃獨逸學術探検隊の發見にて、當時アソガワル島の蓄積量三百萬噸と稱せられたり。一九〇九年來獨逸鐵礦株式會社により採

掘せられしが、其後變遷あり、昭和十一年南洋鐵礦株式會社の經營に移り、現に盛に採行せられ、實に南洋群島の一大寶庫をなす。同島の燒鹽は褐色細狀鹽と白色結晶狀鹽とより成り、後者は前者より質量に於て優り、移出精鹽は兩者を配合乾燥せるものにて、標準成分は全硫酸三九・八%、酸化鐵零・二%、年産六七萬噸にして、現在の埋藏量は精鹽として尙ほ百五十萬噸以上と推定せらる。又ベリニュー島の燒鹽(埋藏量十五萬噸)は南洋興業會社により昭和九年以來採掘せられ、其他トコベイ島(埋藏量十二萬噸)も開發の緒に就きつつあり、尙ソソル・ブル島にも多少の燒鹽を賦存す。また諸島に發達するラテライト(紅土)中に多量のガーキサイト及び鐵礦含有せらるる外、諸島嶼・橋梁層・瑪瑙・耐火性粘土及び大理石を賦存す。産業施設としてハラオ島に熱帯産業研究所・物産陳列所等あり。貿易はハラオ・アソガワルの二港により行はる。ハラオ港は開港場にして、昭和十年中の輸移出額一、五〇二、三三三圓、輸入額二、六三四、九八三圓、合計四、一三七、三六六圓に達す。移出は殆んど日本内地向けにして、糖類(一〇〇萬圓)、コブラ(一一萬圓)、高瀬貝(七萬圓)、燒鹽(四萬圓)等を主とし約一四六萬圓、輸出は三九、三九五圓あり。移入は約二四一萬圓にして米・酒類・糖菓その他日用品を主とし、輸入は米・コブラ等

コロール島に居住す。而して邦人は九五三〇人、島民はチャマロ族二一八人、カナ族六二六〇、外國人は一八人を算す。大正九年 六六一 昭和五年 八〇〇 同十年 三三六 同十二年 二二六 大正九年以降の累年人口は上表の如くにして、特にコロール島の内地人の増加率著し。人口密度は一方軒當り平均三三・七人なるもコロール島は六九五・八人、アソガワル島は一七五・二人にして、南洋群島中最も稠密なる部分に屬す。島民はその種等ヤップよりも大にして、マア族・マレイ族の混血多きによるものならんと云ふ。男女とも半裸體の者多し、近時文明人との接觸により急速に進歩の狀見らる。住宅もヤップ式大屋のタイプ多く、各戸襖戸床を用ひ、窓・戸は僅ばり建築様式や進歩せり。その食料はヤマ芋・バナナ・マン果・各種果實・魚貝・豚・鶏等にして、米は極めて愛好せらる。往時は饑饉なる民なりしも、今は極めて裕裕にして浮華の風盛なり。但し手工は群島中一二の優秀なる評あり。一般に文身を好み、特にハラオに於ては女子の文身盛なり。ヤップ島民の悉くが舊教に屬するに反し、本島民は無宗教の狀態にあり。貨幣はヤップのそより形小に、大抵三角形にて、幅五分、長さ三寸位、赤・黄等の寶石または瀬戸物類・硝子等

を材料とし、通貨と云はんより寧ろ財産表示の具たり。曾長は元來公選にて、コロムにアイバル、マルキョウにアリ...

なす。農業を主業とし之に従事するもの三二七月にして副業として養蠶・養鶏・養工(製紙・製糖)等行はれ副業を行ふも...

買き、省線御殿場線御殿場へ約四軒ハスの傾あり。ハラジユク 原宿 山手線の一駅明治三十九年設置。東京市渋谷区三丁目...

を限す。また地形上林産少なからず。村内は僅に村道通ずるのみなるも、森町に出づれば四方にハスの傾あり。この地は...

ハラノマチ 原町 福島県磐城郡相馬郡の東南部の町。奥島町の南方約七軒にして、東方一帯は太平洋に面す。面積八・〇四方軒。地形東西に長く、全町概ね平坦にして新田川は北部を東流し、太平洋に注ぐ。米・蕎麦・生絲・馬を産し、製絲紡績等の工場ありて新業盛なり。また...

は雲雀ヶ岡登場に向ひ、神宮は牛鼻山上より落下するや猛烈なる争奪戦行はれ、旗を取りし者は牛鼻山上七曲を駆け上り本陣裏手にて野馬旗行はれ、白衣を着けたる健兒數十人が赤手にて野馬を捕獲する行事あり。(原町別院) 南新田にあり。寛政大谷派。明治十一年の創建に係る。初め宗廟説教場と稱せしが、のち仙臺別院の支院となり、次で浅草別院の支院となり、同三十五年獨立して原町別院を公稱す。(原ノ町送信所) 町内標井にあり。中央に主塔あり、鐵筋コンクリート造、高さ二〇〇米、周圍に數多の副柱を設け、空中線はこの主塔と副柱の間に...

ハラノヤ 原谷村 磐城郡江國小笠郡の西部。掛川町の西約五軒。村形南北に狭長にて、西北部及び東南部は何れも百米内外の丘陵地を成すも、中部は低平肥沃、且つ原野谷川西部を南流して灌漑に便し、耕地よく拓く。主産業は農にして米を主産し、また丘陵地には茶樹多く栽培せられ茶の産多し。掛川町より西北方周智郡森町へ通ずる縣道は村の中部を東南より西北へ走りハスの傾あり。此地は...

ハラミチ 原道村 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の東部。北葛飾郡栗橋町の西北方約五軒。利根川の西南岸に沿ふ。地は關東平野の一部を占むるを以て低平肥沃にして耕地ひろく拓く。主産業は農にして米を多産し、また養蠶業盛んにて繭の産多し。利根川沿岸には堤防築かれ、その上を縣道は西北より東南に走り、栗橋町(東北本線栗橋驛あり)に通ず。

振はず。天正年間織田信長の興るに及び羽柴秀吉を此國に討じて西征の軍の根據地たらしむ。義村の曾孫則房、歎を秀吉に通じ、姫路の小寺氏もこれに従ふ。ただこの時、三木の則房は之に抗して下らざりしを以て、秀吉は兵を以て別所阿波に移して姫路に治し、天正十年信長の死後秀吉は豊臣秀長にこの國を與へしが、天正十三年木下家定を以てこれに代ふ。關ヶ原役後徳川氏は池田輝政を此國に討じ、五十二萬石を與ふ。のち備前及び淡路をも加賜す。元和三年輝政の孫光政の時、幕府はこれを因幡の島取に移封し、本多忠政を姫路十五萬石に、小笠原忠貞を明石十萬石に封ず。姫路はその後屢々領主を替へ、寛延年間酒井忠忠以來代々相ついで此處に居り、明石も亦屢々領主を替へ、天和二年松平忠明が八萬石を領して以來子孫相傳へて明治維新に至り、其他國內の諸藩に龍野(島坂氏五萬千餘石)、小野(一柳氏一萬石)、山崎(本多氏一萬石)、三日月(森氏一萬五千石)、安志(小笠原氏一萬石)、三草(丹羽氏一萬石)ありて八藩併立せり。このほか明治元年六月に至り鳥取藩の支藩を福本(一萬五千餘石)に置きしも、明治三年十一月これを廢して本藩に合す。明治四年七月一般府置縣の際には前記の諸藩はいづれも縣と稱せしが、同年十一月悉くこれを廢して郡縣を設け置き、播磨國

一國を管し、間もなくこれを備前縣と改稱す。明治九年八月に至り備前縣を廢してこれを兵庫縣に合す。明治二十二年四月姫路市併東郡の中より獨立し、同二十九年四月には備前・備西の二郡を併せて備前郡を復活し、揖保・揖西二郡を併せて神崎郡として以て今日の十三郡となり、大正八年十一月、明石市の明石郡より獨立するに及んで今日の二市十三郡となる。【播磨平野】兵庫縣西南部の平野。播磨國の南半部を占むる三角狀の海岸平野にて、中國地方の山陽式景観を多分に備へし地域なり。東南は織掛山(二三五米)、鉢伏山などの山地を境にして播磨津に、東北は丹波山地に、北部は播磨高原に、西は石塔山(四二二米)、船坂の東麓に、西より岡山縣東部に隣接し、南は播磨灘に臨む。平野は加古川、市川、揖保川、千種川等の氾濫原及びアヤマリによりて形成されし地域にして、西北に進むに従ひ漸次高度を増し、東及び南に低下し東半部は坦々たる沃野をなす。而して平野は更に地形上、東部・中部・西部の三播磨平野に區分するを得。即ち東部播磨平野は最も廣大且つ低平にて、主として加古川流域に屬し、東は明石より西は手枕松にて名高き印南郡曾根村に至る海岸線を底邊とし、加古川八幡村國包(加古、三木兩河の合流點)を頂點とする三角形の沖積平野

にて、加古川は平野の西縁を南流す。この平野の一大特色とも言ふべきは灌漑用の人工池沼の多きことにて、殊に天満の大池を中心として數百の池塘が分布し、岡山・香川等の諸平野とその景観を一にす。中部播磨平野は次いで廣き面積を有し、この地域は嘗て花崗岩質の島嶼の無散に散布せる多島の小灣入地域たりしを市川・揖保川等の上流より搬出せる土砂によりて多島がメメントされて生ぜし多丘式平野にて、人工による灌漑用池の少なきことは前者と絶を異にす。西部播磨平野は主として千種川の流域及び下流の海岸沖積平野に限られ、面積も頗る狭小なり。平野の物産としては夙に良質の播州米を以て著はれ、酒造用・飼料として阪神地方に移出されその聲價高し、また近年は阪神地方に近く且つ地形・氣候・水利に恵まれるを以て工業も發達しつつあり。東部には明石市、中部には姫路市、西部には赤穂町が發達し、それぞれ中心地をなす。【播磨新宮】姫津線の一驛(昭和七年設置)。兵庫縣揖保郡新宮町にあり。【播磨高岡】姫津線の一驛(昭和五年設置)。兵庫縣播磨郡高岡町にあり。【播磨久保】姫津線の一驛(昭和十年設置)。兵庫縣佐用郡久保村にあり。【播磨富士】笠形山(兵庫縣)の別名。【播磨灘】播磨灘といふ。兵庫縣播磨平野南方の灘。東は淡路島、西は小豆島、

南は徳島・香川兩縣の一部により限られし一大隔没地帯にて、東部にては明石、東南部にては鳴門の兩海峡、西部にては備前瀬戸東部及び備前・前島の兩水道により各外水に連ず。東西約七〇軒、南北約六〇軒の紡錘形の海面をなし、北岸に近く家島を主島とする男鹿島・西島・坊勢島・松島を含む島群島が東北より西南の方向に排列する外は殆ど島影を見ず、西部の水島・安島の諸島の瀬戸内式多島海とは趣を異にす。水深は概ね浅く、小豆島の東方一五軒餘の四〇餘米を最深とし、平均三〇米内外の平坦海底なり。ただ明石海峡及び鳴門海峡附近は、潮流の浸蝕により地溝狀に著しく深度を増し、明石海峡の南方にては最深部の兩側に鹿瀬・宇津瀬等の淺地あり。海底堆積物は泥土及び砂土が大部分を占む。海産物には鯛・鱈・太刀魚・鰻等があり、殊に明石沖の明石鯛は最も有名なり。沿岸には備前・赤穂等の古來有名なる製鹽地あり。引田・小豆島等の醬油産地あり。鬼一法眼三略巻・二鶴(鶴)て其方に西の宮、兵庫につづく須磨明石、かの石山の紫や硯に照らす月は一つ、影は二つ、三つが一つのものを空、我も源氏に由縁ある、その名つづまし同じ名の、愛に清水、播磨灘に日當に迫る里の名は、女の身に似も好き、姫路の町へと、行く水の流れと人の行來は、定めなき世といひながら、暫し心を播磨灘」

ハリミチ

針道村 福島縣岩代國安達郡の東北。川俣町(伊達郡)の南方約七軒。北は伊達郡に接す。阿武隈山脈の西斜面に屬し、東北境に口太山(八四三米)、東境に白猪ノ森(七一四米)あり、全村概ね山地をなし、阿武隈川の一支流西部を南流す。米・蕎麥・木炭を産す。道路は村の中央部を東西に通じ、西方二本松町へはバスの便あり。大字來々作に村社設け神社あり、健甕名方を奉祀す。

ハリモチ

針持 鹿島縣伊佐郡太良村の大字。省線宮之城線の針持驛(昭和十二年設置)あり。

ハリワラ

針原村 富山縣越中府上野川郡の北部。富山市の東北約四軒。東は常願寺川下流を境に中新川郡に接し北は濱島村を隔てて富山灣に近し。富山平野のほぼ中部にて土地平低にして豊饒、水田多し。米を主産物とし特産物として薬品あり。東南部を國道、西北部を縣道走り、富山・水橋間自動車線の往來頻繁なり。省線北陸本線濱島崎・東岩瀬兩驛に近し。この地は近世、針原郷と稱せり。明治十一年に明治天皇、北陸・東海御巡幸の際、この地に御立あらせらる。

ハルエ

春江村 福井縣越前國坂井郡の中南部。福井市の北約五軒。東は丸岡町との間に高根村を挟み、南は吉田郡森田町・河合村に界す。土地低平、越前平野の中部に位し、九頭龍川は西部を北流し灌漑の便よく、田島良く開け米・大豆、

ハルオカ

春岡村 埼玉縣武蔵國北足立郡の東部。大宮町の東北約五軒。原市町の東南にある小村にて、北境より東境にかけて緩川流る。全村平地にて米・麥・蕎麥を産す。社線鐵道は南部を横めて東走するも村内に驛なく、南隣七里村にて七里驛あり村道を通ず。本村は明治二十九年、九ヶ崎・深作・小深作・宮ヶ谷塔の四箇村を合して置けるもの。

ハルカ

春香山 札幌市の西方に當り。北海道後志支庁釧路市と札幌支庁豊平町との境上に跨る山。標高九〇七米。南東方奥手稻山(九四九米)の南哨峯をなし、針葉樹・闊葉樹の混生林にて掩はれ北側に大なるスキーゲレンデあり、多くのスキーヤー集ひ来る。山頂部に北海のイムス社の建設にかかる銀嶺荘あり、奥手稻山の山の家へは六軒。

ハルキ

春木 大阪府和泉國泉南郡の北端。岸和田市の北に接して大阪灣に臨み、北部は泉北郡に界す。地勢平坦にて春木川等による灌漑よろしきを得て耕地よく拓く。海は概ね淺淺にして夏季海水浴に適す。米・麥・蕎麥農産物・牛乳・畜産等を産す。古來漁撈地として名高く、漁獲高多し。また工業地として發展し、綿織物・絹糸・製糖等の産出多し。西部に和歌山街道通じ東部には小栗街走りてバス各地に向、社線南海電車中部を走りて春木驛(大正三年設置)あり。また東部を社線阪

ハルキ

春來村 兵庫縣美作郡津村と温泉町との境上に最高點(約四〇〇米)を設け時。山陰道これに當り、南東降すれば美作郡津村町に至り、西北降すれば温泉町字春來を経て同町字湯村に達す。

ハルコ

春木 愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年本村外一村を廢し東郷村を置く。

ハルサト

春里村 岐阜縣美濃國可兒郡の西部。木曾川の一支可兒川の左岸に沿ひ、南は愛知縣尾張國丹羽郡に接す。北に今波・太田兩町、東北に廣見町あり。南に三〇〇米前後の丘陵を負ひ北へ傾斜し、可兒川流域には平野開け耕地あり。農業・養蠶を主産とし、米・麥・蕎麥を産す。犬山街道は北部を、多治見街道より犬山町に至る縣道は南部を何れも東西に貫通す。この地は和名抄、可兒郡矢集郷の内なるべし。天武紀に「十三年、美濃矢集連、賜姓同宿禰」とあれば、此は其物部矢集連の舊名たりしものなるべし。(號授神社) 大字宮原に鎮座。郷社。祭

神、鏡田彦神。口碑によれば、もと村内宮の前と稱する地に鎮座ありし本社を、天正の頃、可兒秀行なるもの室原の城主となるに及び、これを現地に遷座す。例祭、四月九日。

ハルタ 治田村

滋賀縣近江國栗太郡の北部。草津町の東に接す。東南半は臺地をなし、其東南部に小丘陵あり。西北半は平坦なる地形をなす。米産多く、麥・粟・糠肥用作物及び桑・茶等を産し、外に水産物・林産物等あり。西北部には中山道及び省線東海道本線通過し村地近くの草津町内に草津驛あり。草津驛より省線草津線分れ北部を東走す。中部には草津町より名古屋市へ向ふ縣道横断するあり。街道は共にバスが往來頻し。もとば釣里といふ。長享二年將軍足利義尚近江の六角高頼を討ち、十月この地の安養寺に陣す。尋いで同所眞法館に移りしが、同所狹隘なるを以て別に陣所を修築す。日々陣中に講學詠歌を事とした酒色に耽溺し、延徳元年三月二十六日終に此地に薨す。「小槻大社」大字下戸山に鎮座。祭神、大己貴命。古くは小槻・小文に作る。創建年代詳ならず。延喜の制に式内小社に列す。神位從四位下。延慶二年十一月社殿炎上、其後に青地河内守重頼これを造營し、次に同氏の祈願所となる。天和四年二月九日本多羅敏守康慶より墨印を寄す。例祭、五月五日。「伊砂々神社」大字津川に鎮座。村

社。祭神、寒川比古命・寒川比賣命・勢長媛命。相模國國幣中社寒川神社より勧請せしものか。社殿中、本殿は應仁二年の建築にて圓寶。例祭、五月十三日。「五百井神社」大字下戸山に鎮座。村社。祭神、水俣神。式内社。舊稱、康井神社。例祭、五月八日。「安養寺」大字安養寺にあり。眞宗大谷派。養老年中長辨律師の舊跡にて、天平年間初めて伽藍を興すと傳ふ。當時佛堂運送して一山の結構頗る莊嚴なりしと云ふ。齋院如來坐像(木造、鎌倉期の作)一軀は圓寶。「淨光寺」大字下戸山にあり。眞宗佛光寺派。寺傳に依れば開基は貞明なりと。阿彌陀如來立像(木造、室町末期作)一軀は圓寶。「蓮臺寺」大字下戸山にあり。天台宗。淨光山。桓武天皇御宇、眞澄、伊勢參詣の途程を感ぜ、これを創建すと。本尊藥師如來及び兩脇土像(木造、弘仁朝作)三軀は圓寶。

ハルチカ 春近村 岐阜縣美濃國山縣郡の東南部。武儀川の右岸。岐阜市の東北方約六軒の地。長良・津保・武儀三河の合流點に開けたる氾濫原にあり、四周丘陵に圍まれたる盆地の一部をなす。土地平坦にて農業に適し、米を主産とす。ほか外に養蠶・養兔等の副業盛なり。關町(武儀郡)高岡町間の縣道北部を東西に走りバスが便あり。この地に中世、美濃源氏並に土岐家に世傳氏を名乗るもの多く、南北朝の頃、吉野方に屬し忠節を盡せる世傳持頼なるものあり。「慈恩寺」大字海口にあり。淨土宗西山派。玉保山。建久六年源三位頼政追福のため山縣藏人・源國盛等の開創に係り、天台座主慈源を開山とす。當時、子院十箇院を有す。縣下名刹の一。國寶、千手觀音像(木造)一軀。

ハルトリ 春採(湖・炭礦) 鐵路市ハルナ 榛名 關野は西方約二軒にて自動車道の便あり。本村は舊吉地村・和仁村を合して成れるもの。天正年間、和仁の郷士和仁氏、豊臣家に降り、佐々成政の麾下に屬せしめられしが、和仁親實兄弟これに服せずして亂を作し、のち亡ぶ。

ハルトリ 春採(湖・炭礦) 鐵路市ハルナ 榛名 「榛名山」 那須火山帯淺間火山群の消火山。群馬縣群馬郡・吾妻郡に跨る。古來妙義山・赤城山と共に上毛の三山と稱せらる。東は利根川を隔てて赤城火山に對し、北は吾妻川によりて十二ヶ岳と分たれ、南は碓氷川を以て關東西部山地に接す。下部新第三紀層を基底とし外輪山及び中央火口丘より成る二重火山。外輪山は輝石安山岩の集塊熔岩・碎屑物等の成層せる標式的數頭圓錐火山にて、山頂部は楕圓形の舊火口(東西直徑約三・五軒、南北直徑約二・五軒)を取圍む外輪壁をなす。外輪壁の西縁をなす塔狀微(一四四八米)は最高峰にして、南方に開く一場製火口によりて外輪壁南縁より分立す。外輪壁の東部は一部分缺裂し中央火口の噴出物により覆はる。外輪山の東外口には相馬山(一四二一米)・二ツ嶽(一三三二米)・淺間山(水澤山一四四四米)の三寄生火山あり。相馬山は角閃輝石英安山岩の熔岩丘にて、その北東側と南西側とは爆裂火口によりて破砕され急峻なる岩壁をなし、北東側の爆裂火口は馬蹄形を

ハルタケ 春竹 熊本縣鹿野郡の村なりしが、大正十年熊本市内に編入。いま町名にその名存して豊後本線の春竹驛を置き、ここより社線熊本鐵道起る。

ハルタチ 春立 北海道日高國靜内郡靜内町の大字。日高線の春立驛(昭和八年設置)あり。

ハルツミ 春富 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか六村を廢し其日寺村を置く。

ハルツミ 春富 「春富村」 熊本縣鹿野郡玉名郡の北部。南國町の東に接し、北は八女郡に隣り、西北は山門郡に界す。東・北・西の三面山地を繞り、東北境は三八五米を示し、西南隅に二城山ありて三一九米を標す。中央には北境に發する河川南流し東南約四軒にて碓氷川に合す。米・粟・麥の農産物及・木材・木炭の林産物あり。特産物には葡萄・蜜柑あり。社線九州肥後鐵道南

ハルツミ 春富 「春富村」 熊本縣鹿野郡玉名郡の北部。南國町の東に接し、北は八女郡に隣り、西北は山門郡に界す。東・北・西の三面山地を繞り、東北境は三八五米を示し、西南隅に二城山ありて三一九米を標す。中央には北境に發する河川南流し東南約四軒にて碓氷川に合す。米・粟・麥の農産物及・木材・木炭の林産物あり。特産物には葡萄・蜜柑あり。社線九州肥後鐵道南

ハルツミ 春富 「春富村」 熊本縣鹿野郡玉名郡の北部。南國町の東に接し、北は八女郡に隣り、西北は山門郡に界す。東・北・西の三面山地を繞り、東北境は三八五米を示し、西南隅に二城山ありて三一九米を標す。中央には北境に發する河川南流し東南約四軒にて碓氷川に合す。米・粟・麥の農産物及・木材・木炭の林産物あり。特産物には葡萄・蜜柑あり。社線九州肥後鐵道南

なして北東に開く。二ツ嶽はこの中に噴出せる角閃石輝石安山岩の熔岩流及び碎屑物より成る數頭圓錐形火山體にて山頂に火口跡を有す。山頂部は男岳・女岳・孫岳の三峯に分れ、伊香保方面よりは男・女岳のみ見ゆるを以て二ツ嶽の名あり。伊香保温泉はこの北東麓に湧出す。また二ツ嶽の東麓浮石層の上に水蒸氣噴出。二ツ嶽の東麓に淺間山あり、東に開く馬蹄形の火口内に噴出せる輝石安山岩の熔岩丘なり。中央火口丘(富士山・榛名山といふ)は外輪山御火口内中央よりやや東に偏し、角閃石輝石安山岩の熔岩流及び碎屑物より成る數頭圓錐丘、頂上に東に開く馬蹄形の火口を有す。中央火口丘の西側、外輪壁との間に火口原湖榛名湖あり。登山は伊香保方面より榛名山鞍部のヤセオネ峠迄約二軒、ケーブルカーの便あり。ヤセオネ峠より榛名湖まで約三軒、自動車道。湖畔より天神峠を下り榛名神社に至るは約二軒にして、榛名神社より自動車にて高崎市に下るを普通道のコースとなす。近時伊香保温泉等よりの遊覽登山者の外、スキー・スケート・キャンプ等に集る者多し。榛名スキー場は第一・第二・第三スキー場より成り、第一スキー場は相馬山北麓の裾野一帯にして廣大なるスロープを形成し、ゲレンデにはヒュッテあり、雪質は乾粉狀にて滑走に好適す。第二スキー場は榛名山東麓の裾野にしてスロープに變化あり、白樺・

「榛名山」 群馬縣群馬郡玉名町にある湖。榛名山のカルデラの中に入り、昔は伊香保湖といはれる。海拔一〇八四米に位置し、面積一・四九方軒。岸より急に深きも、中央部は平坦にして最深部は一・二・二米なり。昔は緑色の清澄なる水を湛へしが、最近數年來は甚しく富栄養化して水色緑色、透明度は一・二米に過ぎず。これは藻類の水の華のためなり。水温は夏季表面二〇度以上。底は一〇度。冬結水下の底水は四度なり。十二月より四月まで結氷して好スケート場となる。底質は黒色にて珪藻の殻を含み、深所には動物棲息せず。淺所にはChironomus、Anatopyniaが現はる。魚類としては鱈多し。水位は人工的に調節され、發電及び灌漑に利用さる。注入する川はなきも砂瀝に數多の湧水があり、野營の際の飲料水となる。湖への交通路としては表口は榛名神社を經て來るものにて自動車を通じ、裏口の伊香保温泉よりはケーブルカーあり、カルデア内にも自動車を通ず。湖畔は其湖の名所にて、クワウもカルデア内に多し。東京より日歸りに遊覽することを得。

ハルノ 春野 「春野」 群馬縣(兵庫縣)の古地名。延喜兵部會式に但馬國春野縣馬五疋とありその地未詳なるも、和名抄に見ゆる春野郷の地か。春野は城野の轉なるべしといふ。即ち郷にて縣を發したるものなり。その地、日出石郡宮崎村の邊か。「春野」 日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に諸縣郡春野郷あり、その地今詳かならざるも西諸縣郡高原町の邊か。

ハルムコタン 春牟古丹島 北海道千島列島中の一。北千島の一島にて温帯古丹島の西南春牟古丹海峡を距てて一一軒に横たはり、根室支庁占守郡に屬す。西北、東南に長く一二軒、幅約七軒。中央には春牟古丹岳(二二三米)の二重式コニエ型休眠火山聳え、外輪山の東側は破砕され、噴出物は此處より流下して温石角附近の低地を形成し、北側には北臺山(七一三米)・四八九米峯の側火山あり。西北端は丘陵をなし、その西に西臨沼あり、その東岸はやや凹入して春牟古丹湖地となる。

ハルマチ 原町 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルミチ 治道村 奈良縣大和國添上郡の西南部。櫻本町の西に接し、南は山邊郡に隣る。奈良盆地の中心を占め地形平坦にして西境を佐保川南流し、北境に沿ひて直線狀に西流する河川は西北隅に

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

ハルマチ 原町 「原町」 香取縣栗原郡の一軒(明治三十七年設置)。關東縣房州郡仲原村にあり。

【津澤村】 埼玉縣武蔵國大里郡の西部。深谷町の西方約五軒にて、西より北は見玉郡の一部と隣る。南境に山崎山(一一七米)あるも、他は殆ど平地にて農業行はれ米・麥を産し、養蠶行はれて蠶を多産す。縣道は深谷町及び見玉郡本庄町に連なり。東隣岡部村に岡部驛を置く。此地は和名抄、津澤郡津澤郷の地なるべし。七宮系間及び東鑑に津澤氏の人々見ゆるは此地に在るを稱せしものか。

【ハンシアツ】 番仔花 ↓沙山庄(臺灣)ハンシデン 番子田 臺灣總督府鐵道

【ハンシヤ】 番社庄 臺灣台南州新營郡の東南部。急水溪(淡水溪)を隔てて北は白河庄に、西は後壁庄・新營街に、南は急水溪を隔てて柳營庄に隣接し、郡北・西・南の三面は右の兩溪流に開かれ、東は中央山脈を控へて嘉義郡大埔庄に相對し、又東南は曾文郡六甲庄・新化郡玉井庄に相接す。郡東部は山勢重疊起伏して平野少けれど、西部は地勢平坦にして耕地廣く展開す。産業の主なるものは農業(百萬圓)・工業(四五萬圓)・林産(一〇萬圓)・畜産(二一萬圓)等とす。また大字牛肉庵には石油礦を有し、日本石油株式會社の手によりてカーボンアラファク製せらる。未だ原油の噴出を見ず、商業に於

ては見るべきものなく、本庄管内はその地勢上よりして交通便ならざるも手押軌道縱横に發達するを以て、管内物資の搬出入に大なる不便を感ずる事少なし。本庄一帯の地はもと平埔蕃羅ツア族のトオロオツ社(現大字)の所在地にして、大字藩社の地はその一中心地をなし、康熙末年渡臺せし粵人の足跡當地方に及びし際、粵人は此地を呼びて咄囉囉(倒囉囉)と稱し、一肆街を形成して咄囉囉街をなせしが、後改めて番社街となれり。我が領臺後大正九年地方制度改正に際し咄囉囉西堡中の一街四庄(現大字)・咄囉囉東下堡中の三庄(現大字)・咄囉囉東頂堡中の四庄(現大字)の地を合して番社庄を建て、台南州新營郡の管下に置けり。

【ハンシヨ】 斑城 朝鮮總督府鐵道慶全南道蔚州郡一斑城面にあり。慶尙南道蔚州郡一斑城面にあり。

【ハンシヨ】 萬城 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(明治四十四年設置)。平安南道安州郡(明治四十四年設置)の東部。山形市の南約二軒に當り、北側は山形縣南村山郡東村に、南側は宮城縣刈田郡七ヶ宿村に屬す。標高一三三三米。國王岳の南西段に噴起せる火山にして、其麓は花崗岩をなし、山麓は變形

【ハンセー】 凡西面 朝鮮慶尙南道蔚州郡の北部に位置し、郡邑蔚山に西隣す。西境に國界峰(六〇二米)、南境に文殊山(六〇〇米)等聳え、殊に北半部は山岳重疊し、平地極めて乏しく、南部は太田江東に貫流し沿岸稍廣き平地横たはり漣の便と相俟ちて耕地の發達を見る。主要産物は米・大豆・棉花・生牛等にして、大豆は重要移出品をなす。道路は蔚山・彦陽間の三等道路、面の南部を横斷し、また釜山への二等道路東南部に通過し、何れもバスを運ずるも、北部は不便なり。粟落は殆んど南部に集中す。

【ハンセー】 萬世村 山形縣羽前國南陽郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置賜郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)、東境には平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東東南よ

【ハンシヨ】 斑城 朝鮮總督府鐵道慶全南道蔚州郡一斑城面にあり。慶尙南道蔚州郡一斑城面にあり。

【ハンシヨ】 萬城 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(明治四十四年設置)。平安南道安州郡(明治四十四年設置)の東部。山形市の南約二軒に當り、北側は山形縣南村山郡東村に、南側は宮城縣刈田郡七ヶ宿村に屬す。標高一三三三米。國王岳の南西段に噴起せる火山にして、其麓は花崗岩をなし、山麓は變形

【ハンセー】 凡西面 朝鮮慶尙南道蔚州郡の北部に位置し、郡邑蔚山に西隣す。西境に國界峰(六〇二米)、南境に文殊山(六〇〇米)等聳え、殊に北半部は山岳重疊し、平地極めて乏しく、南部は太田江東に貫流し沿岸稍廣き平地横たはり漣の便と相俟ちて耕地の發達を見る。主要産物は米・大豆・棉花・生牛等にして、大豆は重要移出品をなす。道路は蔚山・彦陽間の三等道路、面の南部を横斷し、また釜山への二等道路東南部に通過し、何れもバスを運ずるも、北部は不便なり。粟落は殆んど南部に集中す。

【ハンセー】 萬世村 山形縣羽前國南陽郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置賜郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)、東境には平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東東南よ

【ハンセー】 萬世村 山形縣羽前國南陽郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置賜郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)、東境には平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東東南よ

【ハンセー】 萬世村 山形縣羽前國南陽郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置賜郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)、東境には平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東東南よ

【ハンセー】 萬世村 山形縣羽前國南陽郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置賜郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)、東境には平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東東南よ

【ハンセー】 萬世村 山形縣羽前國南陽郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置賜郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)、東境には平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東東南よ

【ハンセー】 萬世村 山形縣羽前國南陽郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置賜郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)、東境には平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東東南よ

【ハンセー】 萬世村 山形縣羽前國南陽郡の東部。米澤市の東に隣り、東は福島縣、北は東置賜郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東北境に駒ヶ岳(一〇六一米)、東境には平山(一一一七米)あり、西方に傾斜し、天平川は東部に發源し北部を西北に流れ、羽黒川は南部を西流す。西部は米澤盆地の一部をなして稍平坦なり。米・麥を産し、また松茸の産出多し。萬世大路は村の中央部を東東南よ

及び渠を産す。道路網は西南境の雲山里を軸として西骨状に通じ、東北方に向ふものは多く掛橋川岸に盡き宮里浦・新後里、其他の流域地により對岸仁仙・仙掌等の諸面と連絡し、唐津・河川には各三等道路を通じ交通比較的便なり。粟落は東部低地に多く、新後里は河港にして本面及びその西方への門戸をなす。

【ハンゾーガネ 牛蔵金村】は、新潟縣後國古志郡の中部。長岡市の東南方約八軒の山村。刈谷田川の一支新尾川を源流す。西北境に七〇〇米餘の山脈連亘し新尾川東北に流る。粟落はこの谷に散在し、農産・林業に従事す。薪・米・木炭を主産とす。新尾町・長岡市へ風道通じ、長岡市へはバスの便あり。本村は新尾各の一部にて、中世は高波庄に屬す。戊辰の役には新尾方面に瓦解せる官兵は本村の山中に據り賊軍と激戦せり。

【ハンタ 牛田】 福島縣岩代國伊達郡の北部。桑折町の北、藤田町の西南に隣り、西北端は宮城縣に境す。西北部に牛田山(八六三米)あり、東南方に傾斜し、東部は福島盆地に屬して平坦なり。米・蕎麥を産す。道路は東部を西南より東北に通じ、藤田町及び桑折町へはバスの便あり。東北本線通じ、大字牛田に桑折驛(明治二十年設置)あり。牛田は一に飯田に作り、村内に牛田山あるを以て知らる。明治天皇、明治九年皇明御遊覽の時、この地

に牛田山を御覽になり御賞賜あらせらる。(牛田山)牛田村と小坂村に跨る重要嶺山。嶺區九十萬餘坪。嶺頂は金銀銅鉛を産す。牛田山の東麓を占め地勢は西に隆起す。地質は第三紀層にて石英粗面岩・真珠岩等より成り、嶺床は主に石英粗面岩中に存する裂隙充填物にして、嶺石は主として含金輝石類なるが稀に磁鉄石・自然銀を混へ、また多少の方鉛礦・閃亜鉛礦・黄銅礦・黄鐵礦を伴す。昭和十年には金銀嶺三、七八六噸(價額十七萬餘圓)を出し、同年六月末の使役礦夫八四人とす。本嶺山の發見は大同年間なりと傳ふるも、古代に於ける盛時は慶長・寛治の間なりといふ。明治七年五代支那の手に歸し、爾來運銷として五代氏の經營に屬す。

【牛田市】 愛知縣尾張國の港市。知多半島の東北部に位し、東は知多灣の北部なる衣ヶ浦灣を距て三河國碧海郡高濱・新川・大濱の諸町と相對し、他の三面は知多郡に圍まれ、北は東浦村・阿久比村、西は三和村・常滑町・西浦町、南は武豊町に接す。東西九・七軒、南北八・二軒、面積四〇・八四万軒。地形上特記すべき山陵なく、西部及び北部を主として波瀾狀の起伏ゆるやかに據るのみ。西南部に於て標高八二米を示すも多くは五〇米以下にて、地質は礫れ砂岩・頁岩・泥灰岩・砂岩・粘土層の第三紀成層より成る。中部に阿久比川、南部に神戶川あり、何れも西

北・東南の方向に流れて衣ヶ浦灣に注ぎ流域に沖積原ひらげ地味肥沃、加ふるに東に七本木池(周圍一・八軒)・上池・横川池、西に宮池(周圍一・三軒)・西ヶ池(一・五軒)・牛田池・長成池、その他大小多量の池沼潭池ありて灌漑に便し、田畑よく拓く。海岸線は延長一〇軒に近く、軍用にして新田長く速り、北に龜崎港、南に牛田港あり、特に後者は海底深く互船の繋留に便なり。産業は工業を主とし農業・畜産業・水産業これに次ぐ。市の生産總額は七三九七萬圓(昭和十二年、以下準之)、うち工業物は七一六七萬圓にして總額の九七%弱に當る。牛田は古來知多木綿を以て稱せらるる晒木綿の集散地として著し、その主産地は牛田・武豊たり。その産物は慶長以前にありと云はるも、實用的評價の特に高まれるは近年の事に屬し、個人經營の工場到る處にあり、これ職工の賃銀安く、また水質の好適なるが爲にて、その如地・崖などに敷き掛け成は懸けつられて天日に晒すさまは壯觀なり。近年に至りては東洋紡績工場設けられて綿布の大量生産ある外舊來の新業者も漸次近代的企业化を圖りつつあり、かくて市の纖維工業は生産高四六六〇萬圓を超え、うち綿糸・綾加布は晒然他を抜き共に千萬圓以上を出し金市・晒木綿も五百萬圓を突破す。右に次ぎて食料品工業盛んで、大日本麥酒會社・牛田工場のカブトビト、は年産三三四

積名として明治天皇牛田大本營址を始め、縣社神前神社・常樂寺及び阿久比川の東雲樓など其他、風俗・高根・成岩の三公團あり。(沿革)本市は和名抄、智多郡英比郡の内。龜崎は神前神社あり、神前の轉訛とす。江戸時代に入り、牛田・岩滑・乙川・龜崎・有馬・成岩は皆尾張藩に屬し、のち乙川は成瀬氏の支配下となる。明治二年、版籍奉還に際し、牛田・岩滑・有馬・成岩は名古屋藩に、龜崎・乙川は大山藩に編入せられし、明治四年廢藩置縣に際して管轄故の如く、ただ大山藩は名古屋藩に併合せられ、次で額田縣に入り、同五年牛田等と共に愛知縣の管轄となる。明治九年牛田・岩滑を併せて牛田村となり、其後變遷あり、明治二十二年町村制施行に當り牛田町・龜崎町・乙川村・有馬村・成岩村の二町三村となり、翌二十三年成岩村は町制を施行し、同三十九年龜崎町・乙川村・有馬村を廢して龜崎町を置き、かくて牛田・龜崎・成岩の三町として存続せしが、昭和十二年十月、三町を廢し牛田市に一括せらる。(明治天皇牛田大本營及舊址)指定史蹟。宇原宿・北條にあり。明治二十三年陸海軍聯合特別大演習を尾三の野に舉行せらるるや、明治天皇には三月三十日武豊より御汽車にて著御、同日牛田大本營に成らせられ、小桑宮次郎宅に御泊あらせらる。(明治天皇「宿御野」所)指定史蹟。宇原宿にあり。明治二十三年三月三十一日大演習

二五軒に達し、舊來の清酒・酢・醬油・味噌等は何れも五〇萬圓以上の産額を示し中盤・萬三の各社は規模大なるを以て知られ、特に牛田酢は古來有名なり。市附近に養蠶地を控ゆるを以て養蠶飼料の製造は特に盛にて一六五六萬圓を出し、其牛田市主要生産物(十萬圓以上)

綿	二、三三〇	清	一、〇〇〇
組	七、五九〇	酢	三、三三〇
金	六、九七〇	木製品	三、七七〇
綾	一、〇〇一	機械器具類	三、三三〇
晒	五、〇八〇	大豆油	三、三三〇
晒	二、八七〇	菜種油	一、三三〇
其他綿織物	一、八	花	一、〇〇〇
絹織物	五、五	其他油類	三、三三〇
養蠶飼料	一、六四〇	漬	一、八七〇
豆	一、七六〇	米	一、八七〇
麥	一、七六〇	菜	一、三三〇
醬油・酒	六、七	鮮魚介	一、三三〇
味噌	五、五	卵	一、三三〇
小麥粉	五、五	牛	一、三三〇
味	二、二	乳	一、〇〇〇

他製粉・植物油製油もやや盛に、前記の外、絹織物・豆粕・木製品・機械器具類・漬物類・農用機械器具等著しはれ、特殊のものとして、麥芽・水飴・岩石細工・帽子・竹製品・漆製品・線香等あり。農産物は總額約一五〇萬圓を數へ、米(二萬八千石)・麥(五千石)・粟(小麥)・粟・甘藷・馬鈴薯及び各種の蔬菜・果實等あり、養蠶も農家副業として行はれ成瀬川大川あり。市

産物は總額五九萬圓にして、養蠶に、第二期二萬圓を出し、其他、牛乳・生乳・牛乳肉等を産す。漁業は龜崎・乙川・成岩等沿海一帯に行はれ、養蠶・製蠶を合し二二萬圓餘の産額あり。交通は各線武豊線(明治十九年設置)・乙川(昭和八年設置)・牛田(明治十八年設置)・東成岩(昭和八年設置)の四線あり、社線知多鐵道は香線の西方を同じく南北に走り、牛田口(昭和六年設置)・農學校前(昭和七年設置)・知多牛田・成岩(共に昭和六年設置)・南成岩(昭和八年設置)の各驛を設け北は名古屋、南は武豊方面に通ず。道路は牛田を中心に名古屋・常滑・師崎・大野等に通ずるものみ始め、十四線の鐵道を通じ、何れも改修よく行はれ運輸交通に便なり。また海上は牛田・龜崎の二港いづれも開港武豊港の一部を成し内務省指定港なり。龜崎は泥砂多くして巨船を繋ぐに便ならざるも、牛田港は修築工事成りて面目を一新し、知多半島の物資集積の主要地として港頭には常に帆船林立す。今少しく牛田港の沿革を敘せんに、本港は帆船時代の良港として風に海運業に發展の端を發し、安政の頃より海運業者は競うて酒造業をも勃興せしめ横濱開港以來約二十年間は東海第一の海上商團を掌握せり。當時阿久比川の分支なる堀川の沿岸には酒蔵を並べ、大股町より水管にて良質の水を引き、毎冬酒造期には殷盛を極め

したが、其後戦時時代に入り酒造業衰へ、従つてまた酒造業も衰退し、酒蔵は醬油蔵・酢蔵となり、然し蓄積せられたる財力を驅つて酢・麥酒・醬油・醤油・豆粕・再製等の現代工業を勃興せしめ、商業また盛となり、三河灣沿岸を商團とし、原料の移入港として復活するに至る。昭和九年に於ける牛田港の貿易概況を見るに移出は三六萬八千噸、一一八〇萬圓にて石炭・飼料・肥料・醤油・大豆・屑糖及び屑糖・味噌・醬油・食鹽などあり、移入は棉花(六二三萬圓)を第一に石炭・豆粕・大小豆・雜穀・飼料・種子・魚粉・屑糖及屑糖・蠶油など計四八萬三千噸、二九九萬圓にして、逐年増加を見る。また龜崎港は移出六萬五千噸、一三八萬圓にて石炭・和酒・肥料を主とし、移入は大豆・鮮魚・石炭等を合し八萬四千噸、一四三萬圓を超ゆ。市街は、龜崎・乙川・牛田・成岩と東北より西南に亘り沖積地上に發達す。而して牛田と成岩とは相連なりて大集團をなし商工業旺んにして市の輻輳をなし龜崎は東北沿海に位し漁業の中心をなし背後の丘陵は住宅・別荘地を形成し、乙川の一部は龜崎に連り藩政時代御用製鹽の地にしていま機業地となる。市の官公署の主なるものは市役所・區裁判所・税務署・武豊税關支署等に於て、其他、縣立の中學校・農學校・高等女學校等及び商工會・農所・知多新聞社・牛田新聞社・中盤銀行並に愛知・名古屋兩銀行の支店等あり。史

蹟名として明治天皇牛田大本營址を始め、縣社神前神社・常樂寺及び阿久比川の東雲樓など其他、風俗・高根・成岩の三公團あり。(沿革)本市は和名抄、智多郡英比郡の内。龜崎は神前神社あり、神前の轉訛とす。江戸時代に入り、牛田・岩滑・乙川・龜崎・有馬・成岩は皆尾張藩に屬し、のち乙川は成瀬氏の支配下となる。明治二年、版籍奉還に際し、牛田・岩滑・有馬・成岩は名古屋藩に、龜崎・乙川は大山藩に編入せられし、明治四年廢藩置縣に際して管轄故の如く、ただ大山藩は名古屋藩に併合せられ、次で額田縣に入り、同五年牛田等と共に愛知縣の管轄となる。明治九年牛田・岩滑を併せて牛田村となり、其後變遷あり、明治二十二年町村制施行に當り牛田町・龜崎町・乙川村・有馬村・成岩村の二町三村となり、翌二十三年成岩村は町制を施行し、同三十九年龜崎町・乙川村・有馬村を廢して龜崎町を置き、かくて牛田・龜崎・成岩の三町として存続せしが、昭和十二年十月、三町を廢し牛田市に一括せらる。(明治天皇牛田大本營及舊址)指定史蹟。宇原宿・北條にあり。明治二十三年陸海軍聯合特別大演習を尾三の野に舉行せらるるや、明治天皇には三月三十日武豊より御汽車にて著御、同日牛田大本營に成らせられ、小桑宮次郎宅に御泊あらせらる。(明治天皇「宿御野」所)指定史蹟。宇原宿にあり。明治二十三年三月三十一日大演習

に際し此の丘陵に成らせられ、雨中斷続鐵道はさる。地は大正二年藤宮公園として市民散策の地となし、聖蹟に註釋碑を建つ。(明治天皇乙川御野立所)指定史蹟。字乙川、もと白山社境内にあり。明治二十三年大演習に際し、三月三十一日此地に成らせられ、御統鐵道はさる。(神前神社)龜崎に鎮座。縣社。祭神、神使祭命。神明または神時天神社とも稱す。舊記に元和八年神明社を勧請すといふ。境内よりの月見の景は龜崎の月として人口に膾炙す。例祭、十月二十三日。(成石神社)字成石に鎮座。郷社。祭神、天穗日尊・大己貴命・少産名尊。奉唱園内神名額に「從二位成石天神」と見ゆるもの之なり。境内に古木蒼蒼として遠に衣ヶ浦灣に臨み、景勝の地を占む。例祭、十月十七日。(常樂寺)淨土宗西山派。天龍山。文明十六年空觀覺これを開創す。徳川家康福原合戦の碑、難を當山に遷けしが、家康と當寺との關係は當時の住職八世空觀願と俗傳ありし爲め特に深きものありしといふ。爾後徳川家の崇敬厚く、尾州藩の保護特別なりき。近世寺領六十三石餘を有す。いま末寺二十一箇寺、法類寺院六十有餘を有し寺運頗る隆盛にして、世人稱して知多本山といふ。本堂阿彌陀如来立像(木造)は國寶なり。【牛田村】兵衛縣藩國攝津郡の西南部。攝津川の西岸に沿ひ龍野町の僅か南にあ

り。東北より西南に稍々細長し。西南部の村境に低き丘陵東北より西南へ連る以外は平野にして、東北境に沿ひ保保川南流す。米・小麦・粟・大豆・蕎麥・花卉・鶏卵・食用農産・果實・繭等及び木製品・繭製品等を産す。油の産額夥し。東部に龍野町と南方を東西に走る山陽道とを結ぶ縣道通じ者線山陽本線龍野駅は南方約一軒たらずにあり。大字片島に長福寺觀音あり、行基の弟子、澄光上人の開基といふ。

【中田町】 徳島縣阿波國美馬郡の中央北部。吉野川中流の南岸に沿ひ真光町の西に接す。東西兩部に山地降り、中央の畝谷谷を南部に發して北流する河川は北境を東流する吉野川に合す。山地の吉野川斜面は断層を以て終り河段丘陵發達し、その北部に僅に低地開く。多・米を出し關の産額多し。北部には伊豫街道及び香線徳島本線東西に走り、前者にバス通じ、後者に阿波中田驛(大正三年設置)あり。この地の漆器は元禄年間開始にかかり三好郡山城各産の漆を用ひて日用の食器等を製し、その堅牢にして實用向なると藩主徳川氏に保護奨励と相俟つて榮え明治に入りても盛大に行はれしが現時は衰微の勢なり。大正五年町制を布く。

【飯田村】 大分縣豊後國玖珠郡の南部。九重火山群の北部を占め、東部より東部一帯は直入郡に接し、東北は遠見郡に隣り、西南は熊本縣阿蘇郡に界す。面積一〇・七方軒餘の大村。西南半は九重火山の各峯群を以て地域にして九重山・久住山・三保山(以上一七〇〇米以上)・黒岩山・藤原山・一日山・播磨山・泉山等ありて全境に北へ傾斜し、その西部に玖珠川發して北流し、その河段に湯坪・河原・大森・筋湯等の温泉あり。東北半は扇平山(二八八八米)一帯の山地にて東境に發する玖珠川支流は扇平山麓を西北流し西境にて玖珠川に合す。農産・林産・畜産あれど高原地帯には荒地多し。交通不便なり。この地はもと飯田郷と稱せしにして、村名はその遺稱なるべし。弘安開田帳に「飯田郷七十町、領家、本庄城興寺、新庄一乗寺」とあり、大字野上は中世は本郷領の一黨、野上兵の居りし

ハンタ

所。本村と直入郡野村とに跨りて九重山麓山あり、鎮區七萬六千坪、鎮種は硫黄にて準重鎮山なり。而して昭和十年に約四三三(約三萬餘畝)を出せり。(寒ノ地獄) 泉質、單純硫酸寒泉。療養向。この鎮泉は湯に見る寒泉にて盛夏も冷肌に迫るを覺ゆ。入浴者は浴後腹に温を取る。即ち水番療法と高原療法の二つを兼ねるを得。〔筋湯温泉〕 泉質、食鹽泉。療養向。飯田高原の奥にある温泉にして、寒ノ地獄とは黒岩山の中に挟み、四軒を隔つ。海拔一〇〇米の處にあり、盛夏にても冷氣を覺ゆ。なほ飯田高原の中に釜ノ口・舟湯湯・星生・大森地獄・寶泉寺川底等の温泉あり。

【磐梯山】 福島縣耶麻郡、猪苗代郡の北方にある火山。會津山とも云ひ、古くは安比津瀨・會津根の名にて呼ばる。基底は花崗岩・新第三系等より成る。山體は主として輝石安山岩の熔岩流・集塊岩・碎屑物等より成る。巔部は成層火山なり。頂上部には大磐梯山(一八一九米)・赤城山(一四二七米)・柳ヶ峯(一六三六米)・湯折山等の諸峯を火口壁とする。大磐梯山はこの火口の西壁を成し、火山中の其高峯にて断崖を以て沼ノ平の舊火口底に臨み、ここに熔岩及び碎屑物互層の野露出を示す。大磐梯山の北東部と高き殆ど伯仲せる小磐梯山あり、柳ヶ峯と共に沼ノ平火口の北壁をなせし。明治二十一年七月十五日の大爆發によりて破壊さる。この爆發以前にも、有史時代に於て爆發は噴火は大同元年にもあり、噴出物による堰止湖猪苗代湖を形成せしもの如し。明治二十一年の爆發は沼ノ平火口の北壁に起り、火山體の北側を破壊しここに北方に開く馬形形噴火口を形成せり。この結果小磐梯山は大部分破壊され、柳ヶ峯及び湯折山の山側に高

ハンタ

は噴煙あり。東部に下街街道河に沿ひて北上し、者線郡山線所町驛(東北約二軒)へバスの便あり。西境には河内國へ出づる水越峠あり。この地は和名抄の葛上郡大坂郷及び高宮郷の地なり。高宮の名は探天皇の都邑なりしより起りしものなるべし。大字森脇に葛城一言主神社鎮座す。大字多田に式内多田神社あり大神氏の祖大田々根子命を祀る。大字名柄に式内長柄神社あり。また書紀雄略天皇の九年九月の條に、天皇朝建に行幸し長柄社に於て大山位以下を集め騎射を行はせられ給ふと見え、長柄社に大字名柄の邊に當るか。謂(朝事)はもと汎稱にして吐田郡村邊一帯を指せるものとす。〔葛城高丘宮〕 探天皇の皇居。天皇の元年、都を葛城に移し高丘宮と稱せられ、三十三年にして廢す。いまの大字森脇の附近に當るといふ。〔葛城一言主命神社〕 大字森脇に鎮座。祭神、事代主神・功武尊。創建年代不詳。もと葛城山頂に鎮座せり。延文五年神位正一位を授けらる。延喜の制、名神大社に列し、正暦五年四月、中臣氏人を遣はして幣帛を奉り疫疾放火の事を祈らしむ。例祭、八月五日。

約五〇〇米の絶壁が新湯火口底に面して作らる。崩壊せる舊山體の岩層は泥流となり一時間約七七軒の速度にて北方に流下し約七〇方軒の地域を埋め、檜原川・長瀬川等の谷川を堰止め檜原湖・小野川湖・香妻(秋元)湖、その他大小幾多の湖沼を生じ、鳥勢梯の景勝地を形成す。この湖沼は水蒸氣爆發にて初生物質を堆出せず、概し山體を構成せる輝石安山岩の岩層を飛散せしめしに過ぎず。山頂部よりの展望は雄偉壯麗にして、南方脚下に猪苗代湖の銀盆を俯瞰し、遙に郡須岳の噴煙を眺め、西方より北西方にかけて會津盆地の彼方に飯豊山等、越後山脈の連嶺を見渡し、北方は近く天神の大嶺の如き小磐梯山の雄嶺火口を下瞰し、明鏡の如き檜原湖の彼岸に香妻火山群の山々を指し、東方は長瀬川谷を隔てて安達太良山と對峙す。登山口は次の三あり。一、猪苗代口。東口。最も便利なるものにて、者線勢西線猪苗代驛より頂上まで約十軒、驛より北、猪苗代町を経て土津神社まで約三軒、この間自動車を通ず。之より坂路となり馬返し一合目(天の庭)を過ぎ濰木帯の中を登れば、土津神社より約四軒にて赤城山に達す。ここは二合目と稱せられ、西方に大磐梯山を仰ぐ。三合目より沼ノ平の火口壁を登れば天狗岩を経て弘法清水の湧く四合目に着し、胸突坂を攀れば五合目なる大磐梯頂上に達す。赤城山より約三軒。ここに磐梯

明神の小石祠あり。三、香島口。西口。磐梯西線湯島驛より北方神立(遺)泉を経て山頂まで約一〇軒。三、川上温泉口北口。磐梯西線川上驛より北方に分岐する耶麻道線會津驛ノ口驛より長瀬川を廻り、川上温泉より足下に檜原湖三湖を下しつづつ西登して頂上す。萬葉・一四一安比豆圃の園をさ迷ひ逢はばは徳ひにせもと結ばはされ。奥の細道「左に會津根高く、右に岩城相馬三春の庄、常陸下野の地をさかひて山つらなる」

二萬三千人率て、摺上原の南に陣し、將軍大いに此地に服ふ。著名兵大いに努めし。終に利あらず。義廣逃れて常陸に走りて、著名兵亡ぶに至る。此役に義廣の臣金上盛備・佐河種常・同常雄の三人止りて此地に戦死す。嘉永三年十二月、保科氏その忠を賞し、三氏の爲に三中之神を建設せり。(磐梯温泉) 泉質、硫酸。温度一〇〇度。登山の足溜地。海拔一三〇〇米。磐梯山の北山麓、破製火口の底部にあり。(惠日寺址) 惠日寺は眞言宗に屬し、俗に會津大寺と稱せり。大同年中、鎮一の創建に係りその示寂の地と傳へらる。舊境内に徳一廟墓及び平將門の女如慶尼の墓存す。惠日寺尺は法隆寺尺と共に名高し。

【磐梯山】 福島縣耶麻郡、猪苗代郡の北方にある火山。會津山とも云ひ、古くは安比津瀨・會津根の名にて呼ばる。基底は花崗岩・新第三系等より成る。山體は主として輝石安山岩の熔岩流・集塊岩・碎屑物等より成る。巔部は成層火山なり。頂上部には大磐梯山(一八一九米)・赤城山(一四二七米)・柳ヶ峯(一六三六米)・湯折山等の諸峯を火口壁とする。大磐梯山はこの火口の西壁を成し、火山中の其高峯にて断崖を以て沼ノ平の舊火口底に臨み、ここに熔岩及び碎屑物互層の野露出を示す。大磐梯山の北東部と高き殆ど伯仲せる小磐梯山あり、柳ヶ峯と共に沼ノ平火口の北壁をなせし。明治二十一年七月十五日の大爆發によりて破壊さる。この爆發以前にも、有史時代に於て爆發は噴火は大同元年にもあり、噴出物による堰止湖猪苗代湖を形成せしもの如し。明治二十一年の爆發は沼ノ平火口の北壁に起り、火山體の北側を破壊しここに北方に開く馬形形噴火口を形成せり。この結果小磐梯山は大部分破壊され、柳ヶ峯及び湯折山の山側に高

【磐梯山】 福島縣耶麻郡、猪苗代郡の北方にある火山。會津山とも云ひ、古くは安比津瀨・會津根の名にて呼ばる。基底は花崗岩・新第三系等より成る。山體は主として輝石安山岩の熔岩流・集塊岩・碎屑物等より成る。巔部は成層火山なり。頂上部には大磐梯山(一八一九米)・赤城山(一四二七米)・柳ヶ峯(一六三六米)・湯折山等の諸峯を火口壁とする。大磐梯山はこの火口の西壁を成し、火山中の其高峯にて断崖を以て沼ノ平の舊火口底に臨み、ここに熔岩及び碎屑物互層の野露出を示す。大磐梯山の北東部と高き殆ど伯仲せる小磐梯山あり、柳ヶ峯と共に沼ノ平火口の北壁をなせし。明治二十一年七月十五日の大爆發によりて破壊さる。この爆發以前にも、有史時代に於て爆發は噴火は大同元年にもあり、噴出物による堰止湖猪苗代湖を形成せしもの如し。明治二十一年の爆發は沼ノ平火口の北壁に起り、火山體の北側を破壊しここに北方に開く馬形形噴火口を形成せり。この結果小磐梯山は大部分破壊され、柳ヶ峯及び湯折山の山側に高

約五〇〇米の絶壁が新湯火口底に面して作らる。崩壊せる舊山體の岩層は泥流となり一時間約七七軒の速度にて北方に流下し約七〇方軒の地域を埋め、檜原川・長瀬川等の谷川を堰止め檜原湖・小野川湖・香妻(秋元)湖、その他大小幾多の湖沼を生じ、鳥勢梯の景勝地を形成す。この湖沼は水蒸氣爆發にて初生物質を堆出せず、概し山體を構成せる輝石安山岩の岩層を飛散せしめしに過ぎず。山頂部よりの展望は雄偉壯麗にして、南方脚下に猪苗代湖の銀盆を俯瞰し、遙に郡須岳の噴煙を眺め、西方より北西方にかけて會津盆地の彼方に飯豊山等、越後山脈の連嶺を見渡し、北方は近く天神の大嶺の如き小磐梯山の雄嶺火口を下瞰し、明鏡の如き檜原湖の彼岸に香妻火山群の山々を指し、東方は長瀬川谷を隔てて安達太良山と對峙す。登山口は次の三あり。一、猪苗代口。東口。最も便利なるものにて、者線勢西線猪苗代驛より頂上まで約十軒、驛より北、猪苗代町を経て土津神社まで約三軒、この間自動車を通ず。之より坂路となり馬返し一合目(天の庭)を過ぎ濰木帯の中を登れば、土津神社より約四軒にて赤城山に達す。ここは二合目と稱せられ、西方に大磐梯山を仰ぐ。三合目より沼ノ平の火口壁を登れば天狗岩を経て弘法清水の湧く四合目に着し、胸突坂を攀れば五合目なる大磐梯頂上に達す。赤城山より約三軒。ここに磐梯

明神の小石祠あり。三、香島口。西口。磐梯西線湯島驛より北方神立(遺)泉を経て山頂まで約一〇軒。三、川上温泉口北口。磐梯西線川上驛より北方に分岐する耶麻道線會津驛ノ口驛より長瀬川を廻り、川上温泉より足下に檜原湖三湖を下しつづつ西登して頂上す。萬葉・一四一安比豆圃の園をさ迷ひ逢はばは徳ひにせもと結ばはされ。奥の細道「左に會津根高く、右に岩城相馬三春の庄、常陸下野の地をさかひて山つらなる」

【磐梯山】 福島縣耶麻郡、猪苗代郡の北方にある火山。會津山とも云ひ、古くは安比津瀨・會津根の名にて呼ばる。基底は花崗岩・新第三系等より成る。山體は主として輝石安山岩の熔岩流・集塊岩・碎屑物等より成る。巔部は成層火山なり。頂上部には大磐梯山(一八一九米)・赤城山(一四二七米)・柳ヶ峯(一六三六米)・湯折山等の諸峯を火口壁とする。大磐梯山はこの火口の西壁を成し、火山中の其高峯にて断崖を以て沼ノ平の舊火口底に臨み、ここに熔岩及び碎屑物互層の野露出を示す。大磐梯山の北東部と高き殆ど伯仲せる小磐梯山あり、柳ヶ峯と共に沼ノ平火口の北壁をなせし。明治二十一年七月十五日の大爆發によりて破壊さる。この爆發以前にも、有史時代に於て爆發は噴火は大同元年にもあり、噴出物による堰止湖猪苗代湖を形成せしもの如し。明治二十一年の爆發は沼ノ平火口の北壁に起り、火山體の北側を破壊しここに北方に開く馬形形噴火口を形成せり。この結果小磐梯山は大部分破壊され、柳ヶ峯及び湯折山の山側に高

【磐梯山】 福島縣耶麻郡、猪苗代郡の北方にある火山。會津山とも云ひ、古くは安比津瀨・會津根の名にて呼ばる。基底は花崗岩・新第三系等より成る。山體は主として輝石安山岩の熔岩流・集塊岩・碎屑物等より成る。巔部は成層火山なり。頂上部には大磐梯山(一八一九米)・赤城山(一四二七米)・柳ヶ峯(一六三六米)・湯折山等の諸峯を火口壁とする。大磐梯山はこの火口の西壁を成し、火山中の其高峯にて断崖を以て沼ノ平の舊火口底に臨み、ここに熔岩及び碎屑物互層の野露出を示す。大磐梯山の北東部と高き殆ど伯仲せる小磐梯山あり、柳ヶ峯と共に沼ノ平火口の北壁をなせし。明治二十一年七月十五日の大爆發によりて破壊さる。この爆發以前にも、有史時代に於て爆發は噴火は大同元年にもあり、噴出物による堰止湖猪苗代湖を形成せしもの如し。明治二十一年の爆發は沼ノ平火口の北壁に起り、火山體の北側を破壊しここに北方に開く馬形形噴火口を形成せり。この結果小磐梯山は大部分破壊され、柳ヶ峯及び湯折山の山側に高

【磐梯山】 福島縣耶麻郡、猪苗代郡の北方にある火山。會津山とも云ひ、古くは安比津瀨・會津根の名にて呼ばる。基底は花崗岩・新第三系等より成る。山體は主として輝石安山岩の熔岩流・集塊岩・碎屑物等より成る。巔部は成層火山なり。頂上部には大磐梯山(一八一九米)・赤城山(一四二七米)・柳ヶ峯(一六三六米)・湯折山等の諸峯を火口壁とする。大磐梯山はこの火口の西壁を成し、火山中の其高峯にて断崖を以て沼ノ平の舊火口底に臨み、ここに熔岩及び碎屑物互層の野露出を示す。大磐梯山の北東部と高き殆ど伯仲せる小磐梯山あり、柳ヶ峯と共に沼ノ平火口の北壁をなせし。明治二十一年七月十五日の大爆發によりて破壊さる。この爆發以前にも、有史時代に於て爆發は噴火は大同元年にもあり、噴出物による堰止湖猪苗代湖を形成せしもの如し。明治二十一年の爆發は沼ノ平火口の北壁に起り、火山體の北側を破壊しここに北方に開く馬形形噴火口を形成せり。この結果小磐梯山は大部分破壊され、柳ヶ峯及び湯折山の山側に高

概して山地を成し、南部には晚達山(二八五米)屹立すれども、南境には南江の低地横ばり、西部は大阿江平野の一部を成し、漣の便よく地球肥沃にして重要な農業地帯を成し、粟・大豆・小麦・小豆・米等を産す。産物多く、大成炭礦ありて良質の無煙炭を出し、また晚達山はセメント原料たる石灰石及び赤粘土を豊富に産し、藤原里に小野田セメント工場あり、その生産高はセメント二五三七〇〇噸、五三三萬圓(昭和十年)に達し、なほ石灰工場四箇所あり、此等製品の大部分は管内は勿論、内地・滿洲國・臺灣・支那等に販路を有す。總督府鐵道平塚支線は南江に沿って來り、藤原里(大正七年設置)を終點とす。同路より管内の江東・三登及び中和郡原(ハスの傾あり。粟落は西部に多く分布し、藤原里は工場都邑にして主として小野田セメント会社の従業員多く居住す。東部の貨泉里は面邑にして市場あり、その商圏は三登面・元福面をも含み市日には人出多く、取引活況を呈す。(大成炭礦)朝鮮無煙炭株式会社の經營にして、昭和十年中の産額は無煙炭三九二〇四噸(二十七萬圓)、同年六月末現在使役人員五九三三人。

ハンター

その他、繭・桑・茶・香糖等を産す。縣道村の中部をほぼ南北に走り、水口町(社線江鐵道水口驛あり)及び三雲村(省線草津線三雲驛あり)へ夫々ハスの傾あり。往古大伴氏この地に住せしより大伴村と云ひ、のち伴谷村と改む。中世は伴氏と稱する豪族あり、源義家の東征に従つて功ありしといふ。(智禪院)大字伴中山にあり。天台宗。一に宮寺と稱す。創建年次不詳。一時中絶せしも、慶長七年本郡宮町村の飯塚村教仙房轉住して再興す。いま延暦寺中總持坊末たり。本尊木造地藏菩薩半跏像一軀は國寶。ハンタノシヨ 八田莊村 是は、大阪府和泉國泉北郡の北部。岸和田市の南方約二・五軒に在り、南は福泉町に接し西北は風町に昇す。西方約三軒にて濱寺町海岸に出づ。地形平坦にして西部に石津川西北流す。農産・畜産・礦産・水産・林産等あれども、繭糸・織物等の工業最も多し。社線阪和電鐵風車は西約一軒。この地は和名抄、大鳥郡藤田郡の地にして行基の誕生地として名高し。(家原寺)大字家原寺にあり。古義眞言宗。一乘山清涼院。當宗高野末。行基菩薩誕生の故址として著聞す。父は史牟、母は藤田藤原姫、百濟王の後裔なりといふ。天智天皇七年誕生、十五歳にして藥師寺に投じ法相を究め唯識を修す。唐高宗元年故宅を捨て、本寺を創す。行基説するや觀式天皇勅して本寺の堂宇を改修して其の新觀

所に列す。寺寶の行基菩薩行狀繪傳三幅(絹本着色)は國寶。ハンタン 萬丹庄 臺灣高雄州東港郡下の一庄。東は竹田庄・潮州庄と、西は下淡水溪を隔てて鳳山郡大寮庄と、北は屏東市と、南は新園庄と接す。地勢は低平、下淡水溪一帯の平野を形成す。領臺前は大部分鳳山縣港西下里に屬し、平地蕃ヤカタノ部族上・下淡水社の故地なりき。清康熙頃より何・陳・王三姓の者により開墾開始され雍正九年縣丞を設けられし頃には既に小市街を形成せり。鳳山への要路に當り古來物資の集散地として繁榮せり。領臺後、臺南・鳳山・阿緞等に屬屬せしが、大正九年十月地方制度改正と共に東港郡萬丹庄設置せられ以て今日に及べり。産業は農業を主とし米(作付面積一、二期共三千五百甲)日二十萬圓、甘蔗六萬四千圓、甘蔗二十五萬圓、其他、大豆・胡麻・果實等を出し、畜産は牛二十萬圓、豚三萬圓、家禽一萬五千圓等あり。ハンタン 播丹鐵道 社線。播丹より丹波に通ず。兵庫縣加古郡高砂町宮本の高砂浦驛より省線山陽本線加古川驛(同高川川)を経て北に氷川郡五下村の省線福知山線谷川驛に連絡す。五六、四軒と、加東郡河合村の栗生驛より加西郡北條町の北條驛に至る一三・七軒、及び多可郡東春村の野村驛より同郡中野の假治屋驛まで一三・一軒、即ち南郡上庄村國包の假神驛より東郡三木町福井の三木

ハンチョー

江戶時代一番町より六番町まであり、總稱して番町といふ。主に旗屋敷あり、その戸數を知らしめためた地勢道路を履味にせりと云ひ傳へられ「一番町生れの番町知らず」の俗語さへあり。いま麩町區一番町上・二番町・三番町・土手三番町・五番町、上中下、の六番町に分れ大正震災後更に整理せらる、宮城の西北に在り、南は龜町通に隣接す。ハンディー 飯道山 飯道寺山とも云ふ。滋賀縣甲賀郡北極・三雲・雲井の三

村境上に跨る。標高六六四米。北西方に阿里山(六九三米)並び立つ。東麓より北麓に野洲川上流横田川源流し、これに沿って草津線通じ、南西麓を大戸川西流す。山中杉杉茂り幽境をなす。山頂に飯道神社あり、東麓北極村宇三大寺に飯道寺あり。古く飯道と云ひしは此山なるべし。飯田信長、松永久秀を攻めし時この山の増加勢せしかば、その功により三百石を與へ、近年まで寺領たりき。

ハンター

【飯道山】 朝鮮咸鏡北道の南部、小長白山脈の中の一峰。鏡城郡東南と吉州郡鴨社面とに跨り、標高二二〇五米。南面に南大川、北面には漁郎川上支發源す。【萬塔山】 朝鮮咸鏡南道東部の山。摩天嶺山脈支脈中に在り、豊山郡天南面と端川郡の南斗日・水下二面に跨り、標高二〇〇三米。

ハンター

【坂東】 現在の關東地方の別稱。關東地方は東南二面は海、西境は關東山塊・三國山脈、北境は阿武隈山地及び那須火山帯等によりて圍繞せられ完全なる一地理區を構成し、古來西境山地を出づるには継永峠・足柄峠等最もよく利用せられし代表的の坂路なりしため、坂東とはこれ等の坂の東なる地域の意にて、山東と稱せしと同義なり。即ち相模・武蔵・安房・上總・下總(以上東海道)・土野・下野(以上東山道)の八國の稱なり。

ハンター

【坂東(郡)】 阿波國(徳島縣)にありし郡名。中世坂野郡を東西二郡に分ちし時の稱。一にイタノヒサカといふ。寛文年中、舊に復す。※坂野郡 【飯東町】 徳島郡阿波國坂野郡の中部。吉野川の北岸に沿ひ、西は飯西町に接し北は北瀬村を隔てて瀬戸内海なり。北部は霞岐山脈東端の山地にして地形高峻なり。西北境に大原山登り。南部は廣き徳島平野の一部をなす平坦地にて、その中央に市街地あり。吉野川は南境に沿ひて東流す。南部は漣の便よく耕地發達し純農村なり。植栽原・中筋坂東に米・麥・蕎麥、津志・川崎・三俣は米・麥・野菜を出し、坂東の市街附近が商業地にして大原比古神社・靈山寺の門前町ありて料理店・宿屋(但し春季のみにして、常は蕎麥・農業を營む)多し。近時山地を開き果樹を植栽初めたる所もあり。南部に津美街道東西に走りてバスを通じたま高徳木線走りて飯東驛(大正十二年設置)あり。飯東は中世の郡名にして、此地蓋しその首邑なるより飯東と呼びしものならん。

ハンター

大正四年町制を布く。(大原比古神社) 坂東に鎮座。國幣中社。祭神、大原比古神。一に大原大明神と云ふ。創建年代詳かならざるも、古語拾遺に「令天日雲神千津津見神、穀禾種植之、以作白和幣、是木綿也」とあり。なほ當國忌部氏の奉祀なるべけれど蓋し古社なるべし。元慶七年十一月從四位上に陞り延喜の制に名神大社に列し、(靈山寺) 宮たり。例祭、十一月一日。【雲山寺】 大字坂東にあり。古義眞言宗。竺和山と號し金剛峯寺末にして四國八十八所第一番札所たり。明治二十八年山階宮亮親王より四國第一番靈場の扁額を賜ふ。詠歌「靈山の釋迦の御前を巡り來てよろづの御も消え失せにけり」(光勝寺) 大字坂原にあり。臨濟宗妙心寺派。一に安國菩提寺または寂原寺と稱す。曆應三年細川和氏の創建に係り夢窓疎石を請じて開山とす。爾來和氏の菩提所に寺領三十六石を受くといふ。【梅樂寺】 僧にあり。古義眞言宗。日照山。同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第二番札所たり。空海の草創に係ると傳ふ。本尊阿彌陀如來坐像(木造)一軀は國寶。詠歌「梅樂の彌陀の淨土に往きたくば南無阿彌陀佛口ぐせにせよ」

ハンニャ

峻ならず地球肥沃にして耕地よく發達す。住民は農を主とし傍ら製穀業に従事せる者少なからず。産物は米・大豆を主とし、粟・棉花・竹細工等あり。道路網能く發達すれども餘線道路なく、管内及び隣接諸面と連絡せるに過ぎず。葉落は南部に多く、海濱には定期に開く市場あり。

ハンニャ

【般若坂】 富山縣越中郡東礪波郡の東北部。庄川の右岸。中田町の南方約四軒。東半部に一〇〇米前後の丘陵あり、西部河岸は平坦肥沃にして水田拓かる。農業を主産業とし米を主産とす。南北に村内を貫通する縣道及び之に交錯し西方出町に至るものあり、井波・中田兩町ハス通す。此地は和名抄、礪波郡大野郡の内なるべく、中世は般若野庄に屬す。※般若野村(富山縣)〔藥師寺〕 大字安川にあり。臨濟宗圓覺寺派。般若山と號す。正平十四年、智山城主神保氏の創建に係り、開山に京都建仁寺より桂若佛照を請ず。往時は寺門盛大を極めしといふも今は振はず。

ハンニャ

【般若坂】 奈良市の北部、般若寺の南を運りて山城に通ずる坂道。平城京の北なる奈良坂と號稱して奈良坂・般若坂と稱せり。治承四年平重衡が此處より南部に攻入る。平城京廢れて後は何時とはなく般若坂を奈良坂と稱するに至り、以て今日に至る。

ハンニャ